非合法時代の日本共産党中央機関紙

複刻版

赤旗

☆一九二八・二・一—一九三二・一〇・五☆

第一巻

三一書房刊

非合法時代の日本共産党中央機関紙

『赤旗』

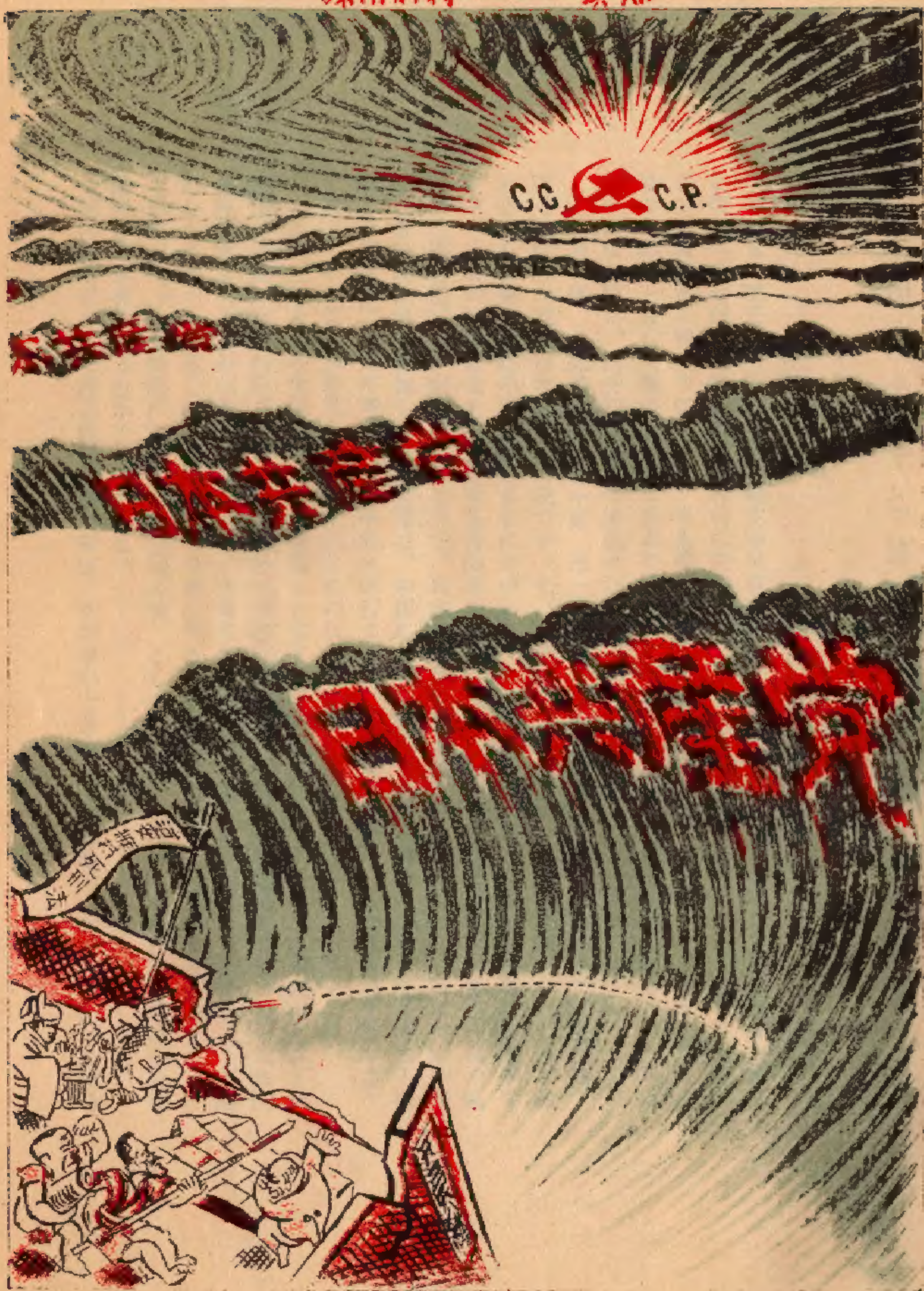
第一巻

(第1号＝1928. 2.1～
第55号＝1931.10.5)

日本共産党中央機関紙
アカハタ本局編

三一書房刊

赤旗第三四号特別附録



果して絶えたか!? この怒濤! 日本共産党は大衆化してゐる!!（『第四次日本共産党事件』記事解禁に際して）

刊行のことば

一九五四年三月一日、日本共産党中央機関紙『アカハタ』は、平和と民主主義、民族の独立を切実にのぞむ国民のいかりと闘いに支持されて、ふたたび日刊をかちとった。この日を記念して、戦前から戦時中にかけて、半封建的な天皇制の残忍なテロルにも屈せず、平和と民主主義のために一貫して闘いつづけた日本共産党が、中央機関紙として地下で発行をつづけた『赤旗』の復刻版を、四分冊にわけて出版する。

『赤旗』は、一九二八年二月一日、第一回普通選挙の実施をまえに、創刊された。それは、第一次世界大戦後の大恐慌の前夜であった。わが国では二七年いらい金融恐慌がひろがり、鈴木商店の破産、銀行の取つけさわぎにつづいて、中小企業の破たんと、資本の合理化政策がすすみ、生活の権利をまもろうとする労働者の闘争（野田大争議、東京市電ストなど）や農漁民の騒擾（秋田、高知など）が発展しはじめて、日本の帝国主義者をおびえさせていた。田中反動内閣は、吉田茂なども参加した東方会議で、中国にたいする強盗的侵略戦争の準備に専念すると同時に、労働者、農民の革命的な闘争にたいしてさんとくな弾圧を加え、この闘争の先頭に立って闘っていた日本共産党を破かいするために狂ほんしていた。

一九二二年七月の党創立いらい、断固として党綱領に天皇制の廃止をかかげ、民主主義とわが国民の豊かな生活をめざして闘っていた共産党は、書記長渡辺政之輔を先頭に、党を大衆的基礎に置き、『この「赤旗」を通じて、大衆のまえに公然とあらわれ、プロレタリアートの厳格なヘゲモニーのもとに、全勤労民衆のあらゆる革命的闘争を指導し、組織する任務をもっとも忠実、もっとも果敢に遂行せん』（創刊の辞）として、『赤旗』の発行を断行し、破滅的な侵略戦争の危機にたちむかったのである。

創刊の辞をかいた渡辺政之輔書記長は、その年の十月に台湾の基隆で、官憲と闘い、虐殺さ

れた。『赤旗』を守り、育てた党内外の革命的な闘士たちが、あるいはたおされ、あるいは捕えられた。『赤旗』もまた、あるいは印刷所を破かいされ、あるいは発送直前におそわれて、欠号となったこともあり、党全体が大弾圧をうけて、一時発行がとだえたこともある。たとえば一九三〇年六月十五日付の第三十三号は、ほとんど全部を敵の手に奪われて、第三十四号の再刊まで（日付は一月二十五日になっているが、二月十五日のあやまり）党は、中央機関紙なしに闘わなければならなかった。また第四分冊の第百八十七号以後は、東京地方版と、関西地方版が発行され、後者が中央委員会の指導のもとに、ふたたび中央機関紙『赤旗』となった。

戦後、日本共産党が合法政党として活動をはじめると同時に、アカハタ編集局は、党史資料委員会と共に、『赤旗』を完全に揃えるため、全党の同志と読者の協力を訴えた。それいらい、今日までに、大部分が集められたが、なお敵の手に奪われて還らないものもある。だが、現在では、これ以上をのぞむことができないので、欠けている部分は、『赤旗』にのこされた傷あととして、このままで出版することにした。なお、ここには中央機関紙として発行されたものだけを収め、地方版は何れも除いてあるが、中央機関紙『赤旗』の号外などは、集められた限り、全部収めてある。

この『赤旗』の歴史は、そのまま、わが日本の労働者階級と国民大衆の不屈のたたかいの歴史であり、こんにちの日本国民のたたかいと国民の綱領——新綱領は、このながいたたかいの経験の土台のうえになりたっているのである。われわれは、日本の革命運動の現在と将来をただしくつかむために、ぜひとも、過去の歴史をただしくつかむ必要がある。この『赤旗』復刻版は、そのための血のにじんだ、貴い資料であることを確信する。

一九五四年五月

アカハタ本局

第一巻目次

口絵

第43号　特別附録

はしがき……………………1

第 1 号 (1928. 2. 1) 写……………………5

第 2 号 (1928. 2.15) 写……………………8

第 3 号 (1928. 3. 1) 写……………………13

第 4 号 (1928. 3.15) 写……………………20

第 5 号 (1928. 3.22) 写……………………27

第 6 号～第 26 号……………………欠

第 27 号 (1929. 3.20)……………………32～37

第 28 号～第 33 号……………………欠

第 34 号 (1931. 2.25)……………………38～44

第 35 号 (1931. 3. 1)……………………欠

三・一五記念特輯号 (1931. 3.10)……………………45～53

第 36 号 (1931. 3.17)……………………54～64

第 37 号 (1931. 3.25)……………………65～77

第 38 号 (1931. 4. 8)……………………78～86

第 39 号 (1931. 4.22)……………………87～96

第 40 号 (1931. 4.27)……………………97～103

第 41 号……………………欠

第 42 号 (1931. 5.17)……………………104～118

第 43 号 (1931. 5.31)……………………119～134

第 44 号 (1931. 6.15)……………………135～148

第 45 号 (1931. 7. 6)……………………149～161

第 46 号 (1931. 7.15)……………………162～177

第 47 号 (1931. 7.29)……………………178～186

第 48 号 (1931. 8. 5)……………………187～195

第 49 号 (1931. 8.12)……………………196～205

第 50 号 (1931. 8.22)……………………206～216

第 51 号 (1931. 8.30)……………………217～226

第 52 号 (1931. 9. 6)……………………227～237

第 53 号 (1931. 9.15)……………………238～247

第 54 号 (1931. 9.21)……………………248～257

第 55 号 (1931.10. 5)……………………258～267

『赤　旗』　全四巻　総目次

第一巻

はしがき……1
第 1 号（1928. 2. 1）写……5
第 2 号（1928. 2.15）写……8
第 3 号（1928. 3. 1）写……13
第 4 号（1928. 3.15）写……20
第 5 号（1928. 3.22）写……27
第 6 号～第 26 号……欠
第 27 号（1929. 3.20）……32～37
第 28 号～第 33 号……欠
第 34 号（1931. 2.25）……38～44
第 35 号（1931. 3. 1）……欠
三・一五記念特輯号（1931. 3.10）…45～53
第 36 号（1931. 3.17）……54～64
第 37 号（1931. 3.25）……65～77
第 38 号（1931. 4. 8）……78～86
第 39 号（1931. 4.22）……87～96
第 40 号（1931. 4.27）……97～103
第 41 号……欠
第 42 号（1931. 5.17）……104～118
第 43 号（1931. 5.31）……119～134
第 44 号（1931. 6.15）……135～148
第 45 号（1931. 7. 6）……149～161
第 46 号（1931. 7.15）……162～177
第 47 号（1931. 7.29）……178～186
第 48 号（1931. 8. 5）……187～195
第 49 号（1931. 8.12）……196～205
第 50 号（1931. 8.22）……206～216
第 51 号（1931. 8.30）……217～226
第 52 号（1931. 9. 6）……227～237
第 53 号（1931. 9.15）……238～247
第 54 号（1931. 9.21）……248～257
第 55 号（1931.10. 5）……258～267

第二巻

はしがき……1
第 56 号（1931.10.20）……5～16
第 57 号（1931.10.26）……17～26
第 58 号（1931.11. 1）……27～43
第 59 号（1931.11.16）……44～58
第 60 号（1931.12.13）……59～75
第 61 号（1931.12.23）……76～92
第 62 号（1932. 1.21）……93～103
第 63 号（1932. 3. 2）……104～113
第 64 号（1932. 3. 8）……114～124
第 65 号（1932. 3.15）……125～136
第 66 号（1932. 3.22）……137～142
第 67 号……欠
第 68 号（1932. 4. 1）……143～149
第 69 号（1932. 4. 8）……150～155
第 70 号（1932. 4.13）……156～161
第 71 号（1932. 4.18）……162～167
第 72 号（1932. 4.23）……168～175
第 73 号（1932. 4.28）印刷中押収さる…欠
第 74 号（1932. 5.16）……176～183
第 75 号（1932. 5.20）……184～191
第 76 号（1932. 5.30）……192～199
特別号（1932. 6. 1）……200～203
第 77 号（1932. 6. 5）……204～211
第 78 号（1932. 6.15）……212～219
第 79 号（1932. 6.20）……220～223
第 80 号（1932. 6.25）……224～229
第 81 号（1932. 7. 1）……230～235
特別号（1932. 7. 2）……236～239

第三巻

はしがき……1
第 82 号（1932. 7. 5）……5～10
第 83 号（1932. 7.10）……11～14
第 84 号（1932. 7.15）……15～20
第 85 号（1932. 7.20）……21～24
第 86 号（1932. 7.25）……25～28
第 87 号（1932. 7.30）……29～32
第 88 号（1932. 8. 5）……33～38
第 89 号（1932. 8.10）……39～42
第 90 号（1932. 8.15）……43～46
第 91 号（1932. 8.20）……47～50
第 92 号（1932. 8.25）……51～54
特別号（1932. 8.29）……55～56
第 93 号（1932. 8.30）……57～69
第 94 号（1932. 9. 5）……63～66
第 95 号（1932. 9.10）……67～68
第 96 号（1932. 9.15）……69～72
第 97 号（1932. 9.20）……73～74
特別号（1932. 9.22）……75～76
第 98 号～第 99 号……欠
第100号（1932.10. 5）……77～84
第101号（1932.10.10）……85～90
第102号（1932.10.30）……91～98
第103号（1932.11. 5）……99～102
第104号（1932.11.10）……103～108
第105号（1932.11.15）……109～114
第106号（1932.11.20）……115～118
第107号（1932.11.25）……119～122
第108号（1932.11.30）……123～128
号　外（1932.12. 4）……129～130
第109号（1932.12. 5）……131～134
第110号（1932.12.15）……135～136
第111号……欠
第112号（1932.12.30）……137～142
第113号（1933. 1.10）……143～146
第114号（1933. 1.20）……147～150
第115号（1933. 1.25）……151～154
第116号（1933. 1.30）……155～158
第117号（1933. 2. 5）……159～164
第118号（1933. 2.10）……165～168
第119号（1933. 2.15）……169～174
第120号（1933. 2.20）……175～178
第121号（1933. 2.25）……179～182
第122号（1933. 2.28）……183～184
第123号（1933. 3. 5）……185～188
第124号（1933. 3.10）……189～192
第125号（1933.　　）……193～194
第126号（1933. 3.15）……195～198
第127号（1933. 3.20）……199～202
第128号（1933. 3.25）……203～206
第129号（1933. 3.30）……207～210
第130号（1933. 4. 6）……211～214
第131号（1933. 4.11）……215～218
第132号（1933. 4.15）……219～220
第133号（1933. 4.26）……221～224
第134号（1933. 5. 1）……225～226
第135号（1933. 5.11）……227～230
第136号（1933. 5.16）……231～232
第137号（1933. 5.21）……233～234
第138号（1933. 5.26）……235～236
第139号（1933. 6. 1）……237～240

第四巻

はしがき……1
第140号（1933. 6. 6）……5～8
第141号（1933. 6.11）……9～12
第142号（1933. 6.16）……13～14
第143号（1933. 6.21）……15～18
第144号（1933. 6.26）……19～22
第145号（1933. 7. 1）……23～26
第146号（1933. 7. 6）……27～30
第147号（1933. 7.11）……31～34
第148号（1933. 7.16）……35～38
特別号（1933. 7.20）……39～40
第149号（1933. 7.21）……41～44
第150号（1933. 7.26）……45～48
第151号……欠
第152号（1933. 8. 6）……49～52
第153号（1933. 8.11）……53～56
第154号（1933. 8.16）……57～60
第155号（1933. 8.21）……61～66
第156号（1933. 8.26）……67～70
第157号（1933. 9. 6）……71～72
第158号（1933. 9.11）……73～76
第159号（1933. 9.16）……77～80
第160号（1933. 9.26）……81～84
第161号（1933.10.10）……85～88
号　外（1933.10.17）……89～90
第162号（1933. 11.7）……91～94
第163号（1933.11.23）……95～98
第164号（1933.12. 4）……99～102
第165号（1933.12.11）……103～106
号　外（1933.12.24）……107～110
第166号（1934. 1.10）……111～114
第167号（1934. 1.17）……115～118
第168号～第171号……欠
第172号（1934. 3. 1）……119～122
第173号（1934. 3. 8）……123～126
第174号（1934. 3.22）……127～130
第175号（1934. 3.29）……131～134
第176号（1934. 4.23）……135～138
第177号（1934. 5. 5）……139～142
第178号（1934. 5.14）……143～148
第179号（1934. 5.29）……149～154
第180号（1934. 6.20）……155～158
第181号（1934.10. 3）……159～162
第182号（1934.10.23）……163～166
第183号（1934.12. 4）……167～170
第184号（1934.12.21）……171～174
第185号（1935. 1.15）……175～178
第186号（1935. 2. 3）……179～184
第187号（1935. 2.20）……185～190

日本共産党再建準備委員会
機関紙第1号（1936. 8. 1）……191～198

赤旗号外（1932.1.30～1933.6.16）……199
号　外（1932. 1.30）……200～201
号　外（1932. 2. 4）……202
号　外（1932. 2. 5）……203
号　外（1932. 2. 6）……204～205
号　外（1932. 2. 8）……206～207
号　外（1932. 2.13）……208～209
号　外（1932. 2.14）……210
号　外（1932. 2.19）……211
号　外（1932. 2.26）……212
号　外（1932. 2.26）……213
号　外（1932. 2.28）……214～215
号　外（1932. 3.11）……216
号　外（1932. 3.16）……217
号　外（1932. 3.24）……218
号　外（1932. 7.　）……219～220
号　外（1932. 9.　）……221～222
号　外（1932.10. 1）……223
号　外（1932.10.11）……224
号　外（1932.10.15）……223
号　外（1932.10.23）……225
号　外（1932.10.25）……226
号　外（1932.10.25）……227
号　外（1932.10.26）……228
号　外（1932.10.28）……229
号　外（1932.10.29）……230
号　外（1932.10.30）……231
号　外（1932.10.30）……232～233
号　外（1932.11. 4）……234
号　外（1932.11. 5）……235
号　外（1932.11.14）……236
号　外（1932.12.　）……237
号　外（1932.12. 5）……238
号　外（1932.12.24）……226
号　外（1933. 6.16）……239
赤旗参考年表……241～248

一九二八・二・一　第一号

赤旗

月二回発行

日本共産党
中央機関紙

☆創刊の辞
☆二月十日に全国に労働者貧農の大示威運動を組織せよ！
☆各工場に大集会を開いてプロレタリアートの威力を集結せよ！
☆党の戦略上における日本プロレタリアートの地位
☆総選挙に対する日本共産党の態度
☆編集後記

創刊の辞

全国の革命的労働者貧農諸君！

日本共産党の中央機関紙「赤旗」が、ここに生れた。決死の覚悟を以てブルジョアと闘争する革命的前衛なくして、労働者貧農の真の階級的勝利はあり得ない。

日本プロレタリアートの最も優秀な、最も戦闘的な前衛分子の革命的隊伍たる日本共産党は、過去七年にわたり、常にあらゆる闘争の先頭に立つてきたが、今日はじめて、この「赤旗」を通じて大衆の前に公然現われ、プロレタリアートの厳格なヘゲモニーの下に、全勤労民衆のあらゆる革命的闘争を指導し組織する任務を最も忠実、最も勇敢に遂行せんとするものである。

日本共産党は、この「赤旗」を手にする、あらゆる革命的労働者貧農諸君を通じて、最も広汎なる大衆に向つて、吾党が、革命的政領を告げる。あらゆる工場、あらゆる農村において闘争する諸君は、ブルジョア及び地主を徹底的に打ち倒す政治的基準を学びとるであろう。

わが「赤旗」は、諸君自身の機関紙である。諸君のあらゆる革命的闘争は、最も敏速に最も尖鋭にこの機関紙に反映させねばならぬ。わが「赤旗」はプロレタリア階級軍隊の進撃の先頭になびく軍旗である。

本紙は、ブルジョア及び地主の反動政治の下において、非合法新聞として秘密に印刷され、配布される。だが、最も忠実に階級闘争の戦場に働く諸君に対して必ずや何らかの方法にて、何人かが連絡し、諸君の見解を自由に、革命運動の中心機関紙たるこの「赤旗」に発表せしむるであろう。

労働者貧農大衆の政治的な大衆的奮起は、第一回普通総選挙を契機として益々高まつてきた。ブルジョア及び地主の反動政策も益々激烈となりつつある。いかなる迫害をも恐れず、いかなる一身の利害をも顧みざる革命的前衛の隊伍たる共産党、世界革命の一枝隊として世界プロレタリアートの勝利を目する共産党の活動と指導とは益々必要である。共産党員と革命的労働者貧農、広汎な大衆の間は益々密接に結びつけられねばならぬ。これによつてのみ全勤労民衆の勝利が確実となるのだ。

全国の革命的労働者貧農諸君！

わが「赤旗」は諸君を通じて大衆の間に、吾党の革命的政策を伝播し、また、諸君を通じて大衆の要求を吸収する組織者である。諸君は、この階級的任務を最も忠実に果せ！

プロレタリアの革命は不可避であり必然である。その遂行者は前衛に指導される労働者及び貧農である。

わが「赤旗」は、日本プロレタリア革命に偉大な貢献をなすことを期す。

ブルジョア独裁国家を破壊してプロレタリア独裁国家を建設せよ！

第三インタナショナル万歳！

日本共産党万歳！

日本革命的労働者貧農万歳！

日本プロレタリア革命万歳！

二月十一日に全国に労働者貧農の大示威運動を組織せよ！

資本家地主の総動員に労働者貧農の総動員をもつて答えよ！

日本のプロレタリアートが過去において常にプロレタリア総動員の示威運動を敢行しきたつた二月十一日、この記念すべき日に敵の階級たるブルジョアおよび地主は、今年逆に彼ら自身の大示威運動をやろうと計画している。それは建国祭の示威運動だ。

プロレタリアおよび貧農の多数のおくれた層を青年団、在郷軍人等の中に吸収している彼らは、封建的伝統を利用し、おくれた層の階級意識をマヒさせ、それらを動員し、今度の建国祭をして次の階級的意識を持たせようとしているのだ。

第一は総選挙戦におけるプロレタリアートおよび貧農の政治的擡頭の弾圧、第二は帝国主義戦争の準備だ。彼らは、大衆をつねに貧農化せしめることだけに満足せず、更に大衆を戦場に追いやつて大虐殺を敢行しようというのだ。

ブルジョアのこの勢揃いに対して、プロレタリアートの党たる共産党ならびに革命的労働者貧農の大衆は何をもつてこれに答えるか？　言うまでもなく、自分らの力の総合された示威運動をもつてこれに答えるのだ。遅れた部分の大衆にたいしては行動をもつて働きかける外はない。吾々の運動は、ブルジョアおよび地主の勢揃いに動員される大衆を吾々の味方に引き入れるように運動されねばならない。

更に総選挙戦におけるプロレタリアートおよび貧農の威力は、決して投票の多数によつて決定しない。決定的に重要なことは大衆の全体的行動およびその力の成長である。プロレタリアートおよび貧農はこの機会に自己の力を集中し、全体的行動を通して、とくにブルジョアおよび地主の勢揃いに対抗し、自己自身の力を発揚して敵を圧迫せねばならない。

生活を保証せよ。

土地を与えよ。

封建的専制勢力および封建的政治機構を撤廃せよ。

民主的議会を作れ。

プロレタリア大衆を戦場に追いやる虐殺戦争に反対す。

労働者農民の国ソヴェト共和国の防衛。

支那革命の擁護。

等の合言葉の下に、大衆を街頭に導き、ブルジョアおよび地主を逆に弾圧する大示威運動に組織する絶対機会こそ、二月十一日なのだ！

一、共産党員は各細胞において広大なる左翼、革命的プロレタリア、貧農を動員してこの示威運動組織のイニシアチーヴをとれ。

二、細胞は独自の活動によつて、この示威運動を直接大衆の欲

求とすべきである。

三、特に資本家地主の支配機関の中にいる大衆へのプロパガンダが必要である。在郷軍人会および青年団、処女会および青年訓練所、ボーイスカウトに、そして彼らの前にプロレタリア貧農の組織する示威運動の意義をプロパガンダせよ。

四、共産党員および革命的プロレタリア貧農の大衆はあらゆる合法的大衆団体の中に於て、労働組合、農民組合の支部において、大衆党——労農、日労、社民、日農の各支部において、更に組合の地方連合会、大衆党の地方聯合会等において活動し、イニシアチーヴをとり、広大なる大衆の要求とせよ。

五、各合法団体の下級機関は、上級機関を動かしてマゴマゴしている右翼および日和見主義幹部を動かして大衆党、労働組合、農民組合を大衆的に参加せしめよ。

六、労農党および日労党の中央部が試みている示威運動の計画をして具体的ならしめるようにせよ。

七、屋外大衆大会合を開け。

八、それを示威運動にせよ。

九、党員および革命的労働者は、特別に示威運動の組織を計画せねばならぬ。

各工場に大集会を開いて
プロレタリアートの威力を集結せよ!!

ブルジョアジーの露骨なる選挙妨害を粉砕するために工場全従業員大会を続々開け！

プロレタリアートと貧農の革命的同盟はプロレタリアートの下に実現される。プロレタリア＝ヘゲモニーは単に理論と実践ではない、行動であり闘争である。プロレタリアの行動および組織の充実、闘争の激化が事実上プロレタリア＝ヘゲモニーを確立することである。プロレタリアの総選挙戦における任務は、投票のカキ集めであつてはならぬ。大衆行動の綜合的力の集中とその具体的展開である。

ブルジョアジーは投票日を二十日と定めた。これは何を意味するか？ プロレタリアの投票をすこしでも妨害せんとする計画であることは明瞭だ。だがかかるブルジョアジーの露骨な妨害があればあるほど、それはプロレタリアートを憤激せしめ、闘争に動員せしめることになるのだ。日本共産党および広大なる革命的労働者貧農の大衆は、この契機を即時に捉え、ブルジョアジーに対する大衆的抗議運動を精力的に展開しなければならぬ。

敵が権力を利用して法律のかげにかくれて暴力的な投票妨害をするに対して、プロレタリアートはまた自らの力によつてそれと暴力的に抗争すべきである。各工場においては党員および革命的労働者のイニシアチーヴの下に大抗議運動を展開せよ！

ブルジョアジーの暴力的投票妨害の事実を精力的なプロパガンダによつて曝露するならば、絶えずブルジョアジーの暴虐のシモトに苦しんでいるプロレタリアの各種の全体的要求を激発せずには置かない。

そこで党員および革命的労働者は

㈠、投票日を公休にして日当を出せ、

㈡、各工場および産業の具体的要求、

㈢、専制的国家機関の廃止と民主的議会の設置、

等の要求の下に職場大会、工場大会を開け、そして敵の暴力的な妨害に対して投票当日における半日間のストライキおよび大衆的投票を敢行せよ。

そしてプロレタリアートの威力を示せ！

党の戦略上における
日本プロレタリアートの地位

——総選挙を如何に学ぶべきか——

山田哲次

日本今日の支配者は全人口の七％を占める大ブルジョアと、同じく七％を占める地主との同盟である。これに対して被支配者たるプロレタリアートは二六％、貧農は二八％を占めており、中間層たる中農ならびに中小ブルジョアは急激なる分解作用を強要されつつある。

ブルジョアは地主の権力の政治的表現たる封建的国家機構の中において今日完全に反動化してしまつた。即ち地主は枢密院、貴族院にその政治的勢力を持つているが、ブルジョアジーは衆議院においてその政治的勢力を掌握しているのみならず、これらの封建的勢力をかなりの程度にブルジョア化し、ブルジョアジーと地主とのブロックの間においてブルジョア勢力の増大を来しつつある。モナーキーは漸次ブルジョア化しつつある。

今日における政権の運用は、ブルジョアの二大政党、政友会、民政党の手中にある。今日の政権を直接に握つているものは政友会であるが、これは反動的軍閥の巨頭大将田中を総裁としている。特に反動的政党である。政友、民政の二大党は政権争奪を中心として、今日彼ら同志の激烈なる闘争をやつている。議会の多数党は民政党であるが、政友会は政権維持のために多数党を取らんとして議会を解散したのである。

ブルジョアは今日それ自身の被圧迫プロレタリアの擡頭を目前に控えて而も争つている。ブルジョアジーに直接対峙しているのはプロレタリアートの党、共産党である。共産党は日本プロレタリアートの先頭部隊であつて、最も尖鋭化された部分である。この部隊は労農、日労、社民、日農の四党および地方政党の分裂的な組織の下にある大衆党を指導して、大衆の政治的エネルギーを統合してブルジョアに対峙しているのである。

プロレタリア貧農の大衆の政治的自覚は極めて低い。従つて大衆党は各々分立の状態の下に選挙戦に乗り出したのである。

選挙協定は事実上において地盤協定という範囲においては破れている。そして共産党はまた充分にこれを統制する力がないことを認めなければならぬ。例えば東京五区の問題の如き。大衆党はダラク幹部の指導の下に対立抗争の事実をいまだ改めないのである。しかしながら貧農の極度の生活上の破滅、プロレタリアートの失業生活不安、一般労働大衆の生活上の脅威、極端なる暴圧政治は大衆の現実闘争において大衆の切実なる協同闘争の具体的な展開を見ているのである。

この政治的諸関係、力の相互関係はどんな変化を導きつつあるか？

まず共産党はその戦略に規定せる封建的、専制国家機関の撤廃、モナキーの廃止、資本家と地主との政治的同盟の破壊、ブルジョア・デモクラシーの完成——それは日本の客観的諸條件の下においては労働者、貧農の革命的、民主主義的独裁によつて遂行される——即ちブルジョア地主の政府に代つてプロレタリア、貧農の政府を樹立することが当面の任務であることを労農大衆に強く訴え、大衆をこの闘争に動員しなければならぬ。

従つて今日共産党は当面のスローガンとしてプロレタリア、貧農の一般勤労大衆に「政治権力の民主主義化」「天皇の政府に代つて働くもの、民衆の政府を樹立せよ」の中心スローガンを与えるのである。「天皇に結びついたブルジョアの政府に賛成か」「それを倒して働くものの民衆の政府に賛成か」これが今日の総選挙におけるプロレタリアートの合言葉である。このことはブルジョアを指導者とする地主、ブルジョアジーのブロックとの決死的闘争を激化せしめてゆくに至る。そして政権争奪を中心として対立抗争しつつあるブルの二大政党をして、プロレタリアートに関する今日以上に組織的な協同戦線を結ばしめるに至るであろう。

プロレタリアートは経験を通じて大衆党の分裂の不利を体験するであろうし、急速に政治的自覚を促進するに至るであろう。そのことは必然に大衆党の合同への大衆的欲求とならざるを得ない。大衆は総選挙において遺憾なくダラク幹部の正体を見るであろう。例えば階級的立場を旗印とする日労が、須貝および網島、福田等をかついだ事実を見せつけられているであろうし、又当人の小ブル・デモクラットたる性質を明らかにするであろう。

同時にブルジョアジーの懐柔政策と、それによる遅れた大衆の獲得、直接の右翼幹部の買収とその指導下の大衆の瞞着、これは或る程度の成功を見るであろう。彼らはますます天皇の名において、国家的伝統を利用してプロレタリア、貧農を欺瞞するであろうし、利用するであろう。だが彼らの本質上の利権、政権争奪の争いは帝国主義時代における金融ブルジョアジーの諸勢力間の闘争において依然続けるであろうし、その間に存在するプロレタリア政党の戦術と大衆動員は政界をますます不安定に導く。解散につぐ解散が不可避的な状勢となる。大衆党の対立が漸次大衆党の合同——合同せる大衆党大衆と右翼ダラク幹部の対立を生むにいたるであろう。この過程は急速に進展するであろうが、然しジグザグな道程である。そしてもつとも共産党の具体的戦術の如何にかかわつている。

そこで共産党の今日の総選挙戦における当面の任務ならびに戦術は、

㈠、選挙戦と大衆の現実闘争を結びつけて、それを通じて大衆の政治意識を昂揚せしめること。

㈡、選挙戦を通じこれを現実闘争と結びつけて大衆党の合同および労働組合その他の大衆団体を合同せしめること。

㈢、大衆とダラク幹部との対立を現実の事実によつて激成すること、そして大衆を共産党の側へ引つけること。

㈣、未組織プロレタリア、貧農の組織を拡大すること。

㈤、議会を再び解散せしめ政局を混乱せしむるために、全然の無協定の下において、ブル政党の対立を利用し、政友会に絶対多数を取らせないこと。

総選挙に対する
日本共産党の態度

篠原精一郎

一

今日日本の政治的権力を握つているものはブルジョアと地主との同盟である。歴史的にいえばブルジョア議会なるものはブルジョアジーが封建的勢力即ち地主階級と闘争する強力な武器であつて、その限りにおいて進歩的な役目を果したものなのであるが、今日においては議会の本質は全く反動的なものとなつている。第一に国際的に見て帝国主義の段階に入つた今日、議会は彼らの虚偽、欺瞞、暴行ならびに無神経的饒舌の機関と化した。第二に日本においてはなお未だ封建的地主勢力、その政治的表現たる君主が残存しているにも拘らず、ブルジョアジーはこれと戦うことを止めて、かえつて緊密にこれと同盟を結び、自己の覇権の下に今日の反動的帝国主義的支配権力を形成している。彼らは議会の背後においてほしいままにその政権の独裁的運用を行つている。ここでも議会は彼らの搾取と抑圧との階級性を労働者ならびに農民大衆の眼から隠蔽するためのくだらないオシャベリ倶楽部であり、労働者農民をブルジョア民主主義に対する幻想的期待のとりことする有害なブルジョア的施設である。

二

旧選挙法による最後の日本帝国議会すなわち第五十四議会はついに解散された。そこでいまや新選挙法による議会の召集のための総選挙が戦われているのである。

この新選挙法は年齢、性別、居住等にかんして狭隘な制限を課せられたもので、断じて普通選挙の名に値するものではない。しかし兎も角これによつて多くの労働者農民大衆が議会に参加することとなつた。

日本共産主義者は議会ならびに総選挙に対して無関心でいていいであろうか？ 勿論否である。我々は之に対して明瞭なる一定の積極的な態度を決定することを要求される。しからば如何なる態度をとるべきであるか？

日本共産主義者は積極的に議会ならびに選挙の闘争に参加せねばならぬ。勿論我々はプロレタリアートの大衆的な政治闘争を組織することによつて、ブルジョア政権を奪取することを我々の目的とする。

大衆的闘争は武力的内乱にまで発展すべき必然性を有するものであり、ブルジョア政権の執行機関（軍隊、警察等）に対するプロレタリア階級の直接的な肉迫戦である。ブルジョア政権は今日までに議会にあるのではなくつて、議会の背後にあるのであるから、議会に対して突撃し、議会を占領するということは無意味である。況んやかかる空虚な議会から何等か労働者農民に関する実質的な改良の履行を期待する社会民主主義者の幻想とは、徹底的に戦わねばならぬ。日本共産主義者はプロレタリアートの大衆闘争の強力なる展開の補充支点としてブルジョア議会の合法性を最も有効に利用するために、議会を利用する。即ち我々は議会を破棄するために議会に入り込み、議会の内部から大衆的闘争による一切のブルジョア国家機関の破棄、プロレタリアートによる政権の奪取の道を助けるのである。議会闘争はあくまでも、内乱にまで発展する大衆的政治闘争に従属するものでなければならぬ。

更らに他面の考察が必要である。すなわち日本の労働者農民大衆は今日はじめてブルジョア議会に参加するのであつて、彼等は多かれ少かれ議会ならびに普通選挙に対する民主主義的幻影の所有者である。彼らのかかる幻想を彼らの深刻なる政治的経験を通じて徹底的に打破することなしには、如何なる決定的闘争の開始も不可能であり、労働者農民の政府のスローガン、進んではプロレタリア独裁のスローガンを大衆の現実的要求と結合することは不可能となるであろう。故に我々は労働者農民の現実の利益の代表者としても、また議会闘争に率先して参加し、共産主義の見地にたち我々のバックによつて議会主義に対する大衆の幻影を打破し、大衆を社会民主主義の指導下から共産党の旗の下に戦いとらねばならぬ。

三

日本プロレタリアートの自然発生的闘争の昂揚と農村における貧農の革命的蹶起とにも拘ず、その階級的組織道程のおくれていること、労働者ならびに農民大衆が深き政治的無関心のままに放生されていることは、日本共産党の従来の微力と照応するものである。今日ブルジョアジーならびに地主の二大政党た

る政友会、民政党は都市労働者の後進分子と農村における中農はもとより貧農大衆との広汎なる支持の上にたっており、（昨秋の府県会選挙戦の結果を回想せよ）かかる支持こそは今日のブルジョア地主の政権を安定せしめている階級的力の関係である。故に我々は革命的議会主義の戦術によって労働者ならびに貧農の大衆を我々の手に獲得し、中農ならびに都市小ブルジョアを中立麻痺せしめることに努力せねばならぬ。従ってまた我々はブルジョア諸党に対する労農大衆の闘争を無条件かつ全般的に支持せねばならぬ。我々は大衆党を最大限に闘争せしめることによって、広汎なる無党派大衆（実はブルジョア政党の影響下にあるもの）を大衆党に集結せしめると共に、支配階級と闘いつつある大衆党を我々と大衆との結合の力強き媒介たらしめ得るであろう。しかし我々の指導なくしては大衆党の力強き闘争は不可能であるであろう。わが党自体の候補者が立てらるべきである。また我々は大衆党の対ブルジョア党闘争を強化するために共同闘争の展開、選挙協定の実現に鋭意努力し、大衆党合同の道を万難を排して切り開かねばならぬ。

四

以上の見地に立ち日本共産党は現下の国会選挙戦に対して次の態度をもって臨むものである。

一、我党独自の候補者を立てて闘う。
二、ブルジョア諸党と徹底的無慈悲的に闘う。
三、ブルジョア党にたいする労農大衆党の闘争はこれを無条件的に支持し、同時に大衆党間の選挙協定の実現のために闘う。しかしながら大衆党の社会民主主義的乃至日和見主義的幹部にたいする自由なる批判の権利は断じてゆずるべきでない。
四、選挙闘争を大衆の日常闘争と最も強力に結合する。
五、一切の大衆団体（労働組合、農民組合、青年同盟、婦人同盟等々）を動員する。
六、党の一部分のみならず、全党員の積極的活動によって闘う。
七、政策。
君主制の撤廃、
労農の民主的議会の獲得、
男女十八歳以上の選挙権被選挙権獲得、
言論、出版、集会、結社の自由、
一切の反労働者法の撤廃、
団結権、罷業権、示威運動の自由、
失業手当法の獲得、
大土地所有の没収、
所得税、相続税、資本利子税にたいする極度の累進賦課、
帝国主義戦争反対、
ソヴェトロシアの防衛、
植民地の完全なる独立、
八、中心スローガンには次の如くである。
天皇と結びついた資本家と地主の議会を破壊、
労農の民主的議会をつくれ!!
労働者に職と仕事を与えよ!!
大土地を没収せよ!!
労農大衆は日本共産党の旗の下に戦え!!

編集後記

一、長く待たれた中央機関紙がここに発刊されるに至ったことは全党員の喜びである。これを直ちに指導的なものにするのは全党員の義務だ。党活動の貴重な経験が今後ますますこの機関紙上に反映されて、名実ともに日本共産党中央機関紙として恥しからぬものになるよう希望してやまない。
二、今日の政治情勢の下においては、本誌は非合法的たらざるを得ない。機関紙は吾々の武器だ。吾々はあらゆる注意を払って、この武器を敵に渡さぬようにしなければならぬ。この点に関しては文書配布組織の完成がまず第一に必要だ。全党員諸君のこの方向における努力を望む。
三、本誌の発行部数は極めて少ない。従ってこの一部一部を最大限に利用して手から手へこれを渡し、革命的労働者ならびに農村にもれなく読ませ、彼らを吾党の旗の下に結成せしめなければならぬ。
四、本誌は当分月二回、一日、十五日発行とする。

一九二八・二・一五　第二号
赤旗
月二回発行
日本共産党
中央機関紙

一、総選挙以後の闘争を如何に指導すべきか
一、党のスローガンについて
一、大衆党合同運動における党員及び革命的労働者農民の任務
一、（婦人欄）革命的婦人同志に与う
一、編集後記

総選挙以後（二十日以後）の闘争を如何に指導すべきか?

(一)再び議会解散を導くべき可能なる条件

三月中旬開催される総選挙後の臨時議会において再び議会の解散を実現しないであろうが、今日の当選予想によると政友会は絶対多数を獲得しえられない事は明白な事実である。

すなわちブルジョア新聞の予想によると
政友会＝二百十位、　民政＝百九十位、
実同＝八位、　新正（革新）＝二十五位、
無産党＝五（無産党の観測によるとこれよりはるかに多い）
の分野を予想している。問題は中立議員の去就にあるが、しかし民政党はこの際一挙に政府に肉迫せざれば、自党の蚕食をまぬがれないことを自から知っている。それは絶対多数を獲得するに成功を示さなかった政友会としては再び解散を断行し得ない事を予想出来る。再びの解散によって尚よく今日の成績より

多くを獲得出来ないであろうことを知っているからである。しかしながら民政党としても解散を望むものでは断じてない。彼らは共にブルジョア党である。だから中立議員および革新、実同の奪い合いの成功の程度および政権の譲り合いについて何等かの妥協がみらるるならば、再び解散によって政界を動揺せしめ、それに乗じてプロレタリア農民の政治的擡頭のスキを与えることのない様にするに違いないのである。

しかしながら政友会が絶対多数を獲得出来ない限り中立議員の去就が明確にならざる限り政界の不安は依然存在する。加うるに今度は無産階級の代議士が数名乃至十数名議席をとるのだ。勿論今日の予想ではこの無産階級の代議士の全部がプロレタリアの階級的忠誠を実証される人のみではない。結局においては労働者と農民の利益を裏切るところの改良主義者、社会民主主義者が多いであろう。しかしながらプロレタリアートは之等の改良主義的代議士の言質を捉えてその実行を彼らに強要し、労農政党の代議士の一団を左翼代議士を通じて統成し、ブルジョア政党にその相互の対立を利用しつつ当らせねばならぬ。もし然りとすれば、来るべき臨時議会においても解散の機運を激成しうるものといわねばならぬ。

(二)プロレタリアの大衆的日常闘争の急激なる展開

北海道においては函館ドック、小樽、札幌等において総選挙と結びついて労働者大衆の日常現実要求に基く激烈なる闘争が展開されている。これを口火として全国の労働者大衆と農民の大衆は今や全国各所において日常闘争の活溌なる展開をはじめた。プロレタリア農民大衆の日常闘争は急調に爆弾の火の様に拡大しつつある。そして今日の闘争の中心スローガンは、大部分投票日の公休と、日給の支払であり、それに賃銀、時間の問題が結びつけられているのである。

しかしながら労働者大衆の基本的要求は賃金と時間の要求であり、今日においては失業についての生活の保証が決定的なものとなっている。従って一度口火を切ったストライキは北海道、否随所で見られるように漸次プロレタリアートの基本的要求に転化しつつある。一度勃発した闘争は急速に沈静するものでない。

総選挙と結びついて勃発した日常闘争は総選挙が余すところ五日の期間だが、しかしこれにはおかまいなくドンドン進展するのだ。否進展さすべきだ。我々はこの日常闘争を総選挙の期闘だけのものと考えては断じて不可である。

一度口火を切った労働者農民の闘争の先頭に立って共産党員および革命的労働者はこの大衆の不満と反抗の大波を益々発展せしめなければならぬ。

かかるストライキおよび工代、職場大会の激濤を敏速に組織し、統一し、そこに発現する大衆の痛烈なる要求を党のスローガンと政策に結びつけることが焦眉の急務である。

かかる見通しの下に総選挙後における我党の中心スローガンは次の如く変更されて大衆に投げ与えなければならぬ。

☆地主と資本家の政府を倒し労農の革命的民主的政府をつくれ!!

☆プロレタリア独裁万歳!

(三)社会民主主義者と徹底的に戦え!!

社会民主主義者共が今度の総選挙において労農大衆の間に平和的議会主義の毒素を注入し、大衆の不満と反抗とを議会主義の幻影の中に消散せしめ、事実上ブルジョアの指導下に労農大衆を動員することによって積極的乃至消極的に大衆の現実的闘争の発展を阻止し、防衛しつつあることは、極めて当然とはいえ隠れなき事実である。そして労農大衆が我党の宣伝煽動を通じて、又彼ら自身の経験を通して、漠然とではあるが彼らの裏切的行為を知るに至っていることも事実だ。

当選したいばっかりに労農党の政策を承認した赤松克麿を見よ。福田狂二と網島正興を押し立てた日労党幹部の正体を見よ。大衆の面前で原敬を讃美せる麻生久の正体を見よ。彼らが如何に無節操であり、豹変者であるかを、我々は大衆に見せつけねばならぬ。

福本主義の誤謬をワメキたてて能事終れりとし、社会民主主義者の罪悪を攻撃せず反って彼らの罪悪を促進せしめる結果を導きだし、加うるに日労党の幹部を煽動して所謂福本主義排除の「単一絶対条件」に固執せしめ、かくて大衆党の合同を妨害しつつある「労農」一派の今日の立場を見よ。彼らは今日遂に左翼の陣営より脱落して、社会民主主義者と協力し、その一左翼を結成しつつあるではないか。

これら一連の改良主義者と徹底的に戦ってこそ、共産党は真に大衆の全利益を余すところなく擁護し主張し得らるるのである。澎湃たる議会主義の波と徹底的に戦うことこそ、現下の情勢において我党に課せられたる重要任務の一つなのだ!

わが党の進路を妨げんとする社会民主主義の一切の妨害を大衆闘争の激濤によって粉砕せよ!

大衆闘争の協同的展開によって社会民主主義幹部指導下の大衆を共産党の旗の下に結束せよ!

(四)臨時議会における闘争の集中点

労農大衆の激烈なる現実闘争の発展、政局の極度の不安定、ブルジョアジーに協力し労働者階級を絞め殺さんとする社会民主主義者の一団、労農の利益を代表せんとする左翼または左翼的代議士の一派、これらの諸派の対立交渉——かかる政局の渦巻の中に新議会は三月中旬開催される。

しからば我々はかかる臨時議会において我々の闘争をいかに集中すべきであるか。

我々は大衆的闘争の展開によって我党の旗の下に動員した労農大衆を指導し、まず真先に政府の不信任案を地主と資本家の政府に向って叩きつけなければならぬ。そして極力その任務を回避しブル政党と野合せんとする社会民主主義者を労農大衆の大衆的弾圧で、強要せしめることである。更に臨時議会には七百万という莫大な大典予算の協賛問題がある。

今や労働者の大衆は飢えている。農民の大衆は饑死の状態にある。しかるに支配階級は「彼らの天皇」の即位を飾るためにかかる民衆の窮乏をヨソにして、七百万という莫大なる搾取を敢えてやろうというのだ! この支配階級の暴挙は、まさに言語に絶したものというべきだ。

労働者農民の大衆は大典予算に断じて賛成はしない。そんな金がある位なら労働者農民のために使え!

否、それどころか現実に労働者は生活賃銀、失業手当を要求し、農民は天皇その他の大地主の土地没収を要求しているのだ!

労働者農民の大衆は、かくの如く全労働者および農民の利益を奪い、弾圧をほしいままにせんとする大典予算の絶対反対を自己の階級の利益を守るといって議会に送られたる代議士に強要せねばならぬ。

現実的大衆闘争の激濤を議会に集中せよ!

社会民主主義者と徹底的に闘え!

地主と資本家の政府を倒し、労農の革命的民主政府を樹立せよ!

党のスローガンについて

㈠工場における日常当面のスローガンと党のスローガンの結びつけについて

党の当面の政策として十三項目のスローガンを持っている。

しかしながら労働階級前衛の集団、日本共産党は、労働者および農民大衆の要求なればどんな小さな要求でもただちにそれを党の政策のもとに結合せしめるために敏速にそれを捉えて、その要求貫徹の最先頭に立って闘うものである。

党は労働階級のある一部の利益を代表するものではない。階級全体の利益を代表して闘うものである。しかしながら党が真に階級全体の利益を代表し、階級の軍隊であるためには、労農大衆のあらゆる問題に参加し、その闘争の先頭に立っていなければならないのである。

そしてその闘争を通じて大衆を個々の当面の利益から全階級の利益にまで引き上げ、これを我党の旗の下に結成させて行かなければならぬ。

そこで党は個々の工場および農村において、その労働者および農民の具体的要求を引き出してスローガンとする。ある特定の工場においてもし労働者が賃銀二割の値上げを切実に要求しているならば、その工場細胞は直ちにその要求を代表して起ち闘争を激発するために工場細胞の署名のあるアジテーションのビラを出さなければならぬ。しかしながら工場細胞の活動は前にも述べた如く、決してその要求の貫徹によって終るものであってはならぬ。工場細胞の全活動は大衆の当面の要求と闘争を全階級の利益とそのための闘争に結びつけ、それにまで引き上げるという精神においてなされなければならぬ。

しかしながらその方法が具体的な種々なる条件を無視した機械的なものであってはならぬ。例えば今日の党のスローガン十三項目と中心スローガンとを、場所をかまわず、また現実闘争と結びつけることなしに、無暗やたらに振り廻す如きは絶対に不可である。必ず党のスローガンは、大衆の現実闘争と結びついていなくては駄目だ。

㈡労働組合農民組合及び労農大衆政党のスローガンと党のスローガンとの結びつけについて

今日労働階級の要求は、その所属組合、所属労農政党の如何を問わず

㈠失業手当法の即時制定

㈡健康保険法の改正

㈢悪法令の改変

という如き、最も初歩的な要求の限りにおいては一切統一される。すなわちこれらの要求の限りにおいては、彼らは今日直ちに一つの統一された力として資本家階級と闘争し得る条件が完全に備わっているのだ。勿論これらのスローガンは大衆の当面の切実なる要求である。しかしながら一方また我党が今日大衆に示す「八時間労働日」「資本家全額負担の失業保険」「反労働者農民法令の撤廃」も、これまた大衆の切実なる当面の要求を全的に代表しているものであって、共に大衆の当面のスローガンであるが、しかし大衆的組織としての労働組合がその統一のために前者の最も初歩的なスローガンを持つときに、我党はまず前述せる党の当面のスローガンを出して前者との比較を示し、現実の闘争を通して大衆に党のスローガンを理解せしめ、党のスローガンを真実に大衆のスローガンたらしめなければならぬ。

更に今日農民の当面の切実なる要求は耕作権の確立である。しかし耕作権の確立という意味は、種々解釈され得る。しかし我党のスローガンは「天皇、寺領、大地主の土地の無償没収」である。これも先に述べたが如き方法によって、これを農民大衆のスローガンたらしめなければならぬ。

労働者農民大衆の政治的根本要求は何か？ 今日各大衆党の代表している政治的要求は、一言にしていえば政治的自由の獲得ということである。政治的自由の獲得ということをもって総括的に具体的にいい表わせば何か？ 「労働者農民の政府の樹立」である。すなわちブルジョアジーの支配形体、議会の最高発展段階、すなわちブルジョア革命の完成である。この点において「労農」一派とは根本的に相異する。彼らは今日ブルジョア主権という戦略を立てている。従って彼らにはブルジョア革命は問題ではなく、ひとえにプロレタリア独裁の即時実現のみが問題であるのだ！

「耕作権の確立」という意味が極めて曖昧である如く、この「労働者農民の政府を樹立せよ」というスローガンの意味も極めて曖昧である。まず第一に、労働者農民の大衆党が議会の多数党となって政権にありついても「労働者農民の政府」といえないことはないであろう。しかしながら耕作権の確立が公然と広く大衆の間に問題となっているように、このスローガンも公然と大衆のものたらしめなければならぬ。このスローガンは合法的なスローガンである。言葉自身は日本今日の政治事情の下においても決して非合法なるものではない。何故なれば議会の多数党を獲得すれば立憲君主政体の日本においては、当然に労働者農民政府が成立するのだから。

しかしながら耕作権の確立を単なる耕作権の確立として終らせ、労働者農民の政府をこれまた単なる労働者農民の政府として終らせるものは、社会民主主義者である。我々は「耕作権の確立」の意味を土地の無償没収として示し、理解せしめると同様に後者の意味をもつ「労働者農民の民主的革命政府の樹立」又は「労農の民主的独裁」として大衆に示さなければならぬ。

今後「労働者農民の政府」のスローガンは広く使われるであろう。社会民主主義者によって流布されるかもしれない。そこで我々はこのスローガンの意味をプロレタリア独裁のスローガンと結びつけて充分に大衆に徹底せしめなければならぬ。

この点については「中心スローガンに就いての注意」を見よ！

しかし誰によって使用されるにしても、このスローガンが大衆の間に広く流布され、また大衆党の公然のスローガンとすることは実に結構なことである。我々はそうするために努力しなければならぬ。

スローガンを正しき革命的展望の下に次の様にして大衆に与えなければならぬ。

㈠地主と資本家の政府を倒し、労農の革命的民主的政府を樹立せよ！

㈡プロレタリア独裁！

㈢「労働者農民の政府」のスローガンと「プロレタリア独裁のスローガンについて（戦略上において）

中心スローガンと党の戦略上の問題について一言つけ加える必要がある。

「労農」の諸君は戦略とは「一つの階級の手にある国家権力が将来諸階級と対立する他の階級＝無産階級をも含む＝の手に移るまでの全期間にわたり、即ち一の革命段階の全期間にわたり、プロレタリアートが㈠その階級闘争の主要目的となし㈡主要努力の方向となし㈢主副の予備隊となし㈣且つ勢力配備の綱目とすべきものを規定し且つこれを実践的に実施する一般戦略である」という公式を振り廻し「日本今日の政権は完全

なるブルジョア政権である」という仮定事実の上に立って、その仮定の事実の上に戦略の公式をあてはめようとしている。この理論こそ、実に危険な極左理論である「急激なる没落」という仮定のもとに同志レーニンの公式をあてはめる理論と少しも相違していないのである。

コミンテルン執行委員会が明確に規定したる如く、日本今日の政権は完全なるブルジョア政権であり得ない。地主と資本家のブロック政権である。だから党の戦略は政治テーゼに規定せる如くであるのだ（政治テーゼ参照）。

極左翼の規定に従えば彼らが明らかにいっている様に、革命の目的は資本主義の撤廃である。そのことは当然プロレタリア独裁の樹立を直接かつ即時に実現せんとするものである。従って彼らには大土地の無償没収は何等問題とならず、即時の土地の無償国有であるのだ。それが彼らの戦略によって決定される当然の当面の政策である。ところが彼らはそういう戦略を規定していながら、今度の選挙協定において「政策協定」を提議した。その提唱する政策の中にどこに「土地の無償国有」があるのだ。「プロレタリア独裁の樹立」がどこにあるのだ？ 少しもないではないか。彼らこそ口の先や筆の上の革命家に過ぎないのだ。左翼の言辞を弄する裏切者であるのだ。

一足とびに「プロレタリア独裁の樹立」を実現化せんとする彼らには「労働者農民の政府」は問題とならない。彼らはこれに絶対に反対するはずである。彼らの戦略規定からは決して「労働者農民の政府」のスローガンは出てこない。だが、彼らの戦略は紙と筆との戦略だから、実際には彼らは社会民主主義者と共に「労働者農民の政府」のスローガンに賛成し、資本家に奉仕するであろう。

日本今日の政治事情の下において歴史過程の要望は、ファシズム政権「本質においてブルジョア政権」の確立がかなり濃厚である。然し国際的階級闘争の種々なる経験を多分に吸収している日本の支配階級は革命期の傾向をそらすために、社会民主主義者に「労働者農民の政府」を意識的に作らせるであろうという予想もある。然し我々の今日の予測においては、社会民主主義者の「労働者農民の政府」よりも「ファシズム政府」の可能性がより多いと思われる。

そこで我々は広く大衆の間に「労働者農民の政府」＝政治的自由の獲得は結局においてこの政府の樹立を意味する。即ちこれはブルジョア議会の最高発達段階である＝のスローガンを与えると同時に、このスローガンの意味＝即ち我々の労働者農民の革命的民主的政府、又は、労働者農民の民主的独裁という意味において、およびこの政府の樹立は労働者農民の武装蜂起、内乱によらずして実現されないということ＝を精力的に宣伝すべきである。そしてこのスローガンと、プロレタリア独裁というスローガンとを結びつけて組織的に宣伝することが絶対に必要である。

労働者農民の政府―我々の意味する民主的独裁―及びプロレタリア独裁の実現に向う展望については「中心スローガンの注意について」をよく参照されたい。

（後記）

この論文は忽卒の間にかかれたものであり且つ紙面に限りがあるので勢い不充分たらざるを得なかった。全党員は先に発表した「中心スローガンについての注意」と党の戦略規定とを参照し、補足して広くこれを大衆に宣伝しなければならぬ。かかる問題をリーフレット又はパンフレットにして広く大衆に読ませる如き試みもなさるべきだ。

大衆党合同運動における党員及び革命的労働者農民の任務

㈠我々の誤謬と社会民主主義者の分裂政策

日本の共産党は過去七年の歴史をもつ。然しながら従来永くセクト的組織を持続していたがために、今日の大衆党との関係において次の如き混同があった。

第一、大衆をしてそれ自身の本来の歴史的任務、役割を十分に発揮せしめず、反対に一つの政党としての任務をもたせた。特に労農党に対してはこの党を共産党そのものであるかの如き外観を呈せしめたのである。

第二に、従って大衆党の間に根本的な指導精神があるものとして、この指導精神の如何を問題としての対立抗争を導き出したのである。

たしかに従来の日本共産党の根本的政策は誤謬であった。しかしながら党員諸君注意せよ！ 以上の混同と大衆党の分裂対立は、我党の政治的誤謬のみが持ち来らしたる結果では断じてない。たしかに我党には誤謬があった。失敗があった。然し最も重要な点は資本家に買収されてその一翼となった社会民主主義者の分裂政策とそれに追従する日和見主義者の攻勢である。

日本共産党は自からに政治的誤謬があったが故に、彼らの攻勢に対して充分なる戦闘が出来ず、結果において大衆党の分裂を導き出したということにおいて、たしかに失敗であったが、然し分裂を目的としての資本家に奉仕する行為としての分裂では断じてないのだ。この点は極めて重要である。

もし我々が我々の失敗と誤謬のみを認めるならば、そして今日労農党が他の政党と対立しているその理由は、我々の誤謬にのみあったと認めるだけならば、それは自己精算の態度であり、更らにそれは我々に今精算のみを強要する「労農」派＝すなわち左翼社会民主主義に無条件的に追随する結果となるのである。

我々は過去の政治的誤謬を充分に知らなければならぬが、同時に資本家の攻勢、その手先である社会民主主義者の罪悪を摘発しなければならぬ。断じて彼らにスキを与えてはならぬ。共産党は分裂政策であるという口実を断じて彼らに与えてはならぬのである。

㈡大衆党本来の任務と今日の労農党の役割

大衆党の任務はなんであるか―それは、党のテーゼに示せる如く労働者農民の現実に当面する政治的利益を獲得する労働者農民の広大なる政治的ブロックである。そこでこのブロックは当然にプロレタリアの党、すなわちレーニニズムの理論に武装した一定の政綱の下に鉄の如き規律によって結合し、そして第三インタナショナルの一支部として組織されるところのプロレタリア唯一の党共産党ではない。単なる集団ではない。少なくともブロックの結成はゆるやかなものであっても、一つの統制を当然にもつものであり、その組織の内部において支配的な地位を握るものが、この統制を握るのである。

だから社会民主主義者をその組織構成の中に多くもっている社会党は事実上社会民主主義者の支配するところとなり、その党の指導的方向は社会民主主義の方向である。日労党はどうか？ これも社会民主主義者の一分派を頭部にもっている。そして階級的理論はないが戦闘的な労働者のグループがそれと結合しているものである。そこでこの党は今日においては、左翼社会民主主義者の指導的方向をもっているのだ。そして彼ら社民および日労の幹部たち社会民主主義者の一団は、口には大衆党合同を唱えていても果してそれを実現化しない――彼らは共産主義者および左翼的労働者農民を放逐して大衆党を自己の指導

下におくことによつて、大衆党の合同をやろうと計画しているのである。この彼らの攻勢と彼らの側の大衆獲得の政策を共産党員及び革命的労働者農民は不断に注意しておかねばならぬ。

日本共産党は今日その政綱および政策を大衆の前に公然発表した。その政策に基づいて任務を開始し労働階級の前衛を党に組織すると同時に、又労働組合、農民組合及び大衆党等の大衆団体を橋梁として広大なる大衆に接触しはじめたのである。しかしながらこの活動は従来永くセクト的伝統を負わされて来た日本共産党の今日の具体的事情においては容易なものではないということが現実である。「党は独自的活動を初めた」——ただそれだけでたやすく今日の大衆党の任務が整理されるものと考えたならば、大きな誤りを生ずるものである。

現実の可能性と困難性とを充分に看取することがプロレタリアート政治家の最も必要な点である。我々はあらゆる困難を排し如何なる障害を突破しても闘うものである。困難があればあるほど、障害があればあるほど、我々の党は鍛えあげられるものであるのだ。しかしながらそれはただ観念的であつてはならぬ。現実的のものでなければならぬ。

そこで今日の具体的な諸条件の下においては、日本共産党は労働農民党を重要視しなければならぬ。その意味は

(一)、労農党には最も多くの左翼的労働者及び農民が集合しているということ。

(二)、公然の勢力としての社会民主主義者が、今日彼らの側に大衆を引きつける計画を具体的に遂行して来ていること（日労と日農の合同、および日労と民憲との合同計画、社民と民政との合同計画等の事実をみればよくわかるのである。そして彼らは先ず右翼の合同を促進し、労農党を圧迫し、その内部における分裂政策を画策して来るのだ）

それでかかるときに於て、もし共産党の活動の展開と関連せずに大衆党本来の任務ということを労農党に強調して漫然たる合同の意気を促進するならば、大なる危険であるといわなければならぬのである。

我々は今日労農党がもつた左翼的エネルギーを最大限に発揮せしめなければならぬ。大衆党には原則上指導精神がないという、只それだけの言葉にとらわれて労農党がもつている左翼的エネルギーを最大限に発揮せしめず、労農党の左翼分子をして社会民主主義者との敢然たる誤りを冒すこととなるのである。

ただここにも注意すべきはかくの如きことは共産党の任務と切り離して出来るものでないことである。共産党は日労、社民の大衆の中にも食いこんでフラクションを形成しなければならぬが、特に労農党の中の任務を更に明確にして、その左翼的エネルギーを倍加せしめ、社会民主主義者に対する絶大なる反対勢力を同党の大衆の中に築きあげることが重要である。

(三)大衆党合同運動と我々の根本的任務

以上の具体的諸条件を我々は充分に知つて、我々の原則的活動を最大限度に拡大せねばならぬ。党の独自的活動を展開せしめなければならぬ。この独自的活動の展開が工場、農村の中において、労働者、農民大衆の闘争に動員される原動力である。大衆が闘争に動員されるならば、そこに労働組合の組織ができ、大衆的政治的ブロック（大衆党）が結成される。それでその前衛は我党に吸収される。そしてその党員は労働組合、農民組合及び大衆党の右翼及び中央派、左翼の各傾向をもつた団体の中においてコンミュニスト、フラクションを組織する。

又労働組合、農民組合の組織されているところにおいては、党の独自的任務が推進力となつて、労働組合及び農民組合を更らに大衆党を動員せしめることにより、党はより一層の広大なる労働者農民大衆に、これらの組織を通じて接触することができるのである。

もし労働組合、農民組合及び大衆党内にコンミュニスト、フラクションが組織されているならば、以上の道程が一層順調に組織され発展する。

大衆党合同運動における我党員革命的労働者農民の根本的任務は、独自的基本活動、その活動を通じての基本組織の充実である。更らにその基本活動と組織を通じ日労、社民の大衆を動員して、その中に党のフラクションの組織を作りあげることである。

第二に、労農党のもつ左翼的エネルギーを充分に発揮せしめることである。

第三に、社会民主主義者の分裂政策に断乎として闘うことである。

第四に、そして大衆党合同の基準を「労働者農民の政府」のスローガンの上におき、その基準の下において、これが合同実現に努めなければならぬ。

（婦人欄）

革命的婦人同志に与う

山　下　は　る

今の世の中では私たち婦人は何等の政治的自由を持つていないのです。そして婦人はいつも家庭の奴隷として、お台所の仕事と子供の世話で世の中のことは少しも知らずに朝から晩まで働いています。しかし私たち婦人は家庭の奴隷のその上に尚更ら一層の搾取と誅辱を加えられています。労働婦人は工場において安い賃銀で永い間働かされ、おまけに夜るよなかでも働いて毎日資本家に搾られているのではありませんか！

農村婦人は夏の暑い日に汗みどろになつて田畑で働いて、地主に搾られているんではありませんか？

資本家と地主の兇暴なる搾取のもとに極度に苦しめられる生活のために、労働婦人は日給をあげろ、働く時間を短かくしろ、女工を保護せよ等の要求をかかげて、農村婦人は小作料の値下げ、立入禁止反対、耕作権の確立等の要求をかかげて、資本家や地主に対して男女と共に戦つているのではありませんか？

労働婦人農村婦人諸姉よ！

しかし私たちはいつまでも資本家や地主に対する闘争のみでは、決して生活はよくならないことを知らなければならない。それは資本家や地主の金もうけのために、労働者や小作人をどうして搾つたらよいかということのみ考えている資本家や地主の政策があるからだ。私たち婦人も政治的に目ざめて資本家や地主と同時に政府に戦わなければならない。

今度議会が解散されて二十五歳以上の男子には選挙権が与えられ、いよいよ普通選挙による私たち労働者や農民の代表者を議会に送ることが出来るのだ。

しかし私たち婦人には男子と同じ選挙権は与えられていないのだ。代表を選ぶ権利は与えられていないのだ。だが私たち婦人も私たち労働者農民の代表者を議会に送るために演壇に立つて応援することのホンノ少しばかりの自由がある。この自由をもつて今全国の婦人は各立候補地で闘つているのではないか？婦人参政権の獲得！　婦人の政党加入の自由、この婦人の政治的自由かく得要求運動のために、今度の選挙運動において、労働者婦人、農村婦人は演壇にたつて強く叫ばなければならぬと思います。

まず私たちは工場内で、農村で私たちが毎日痛切に苦しんでいる問題について、それをとりのぞくための日常の闘争に男子と一しよに参加しなければなりません。そして一切の罪悪者たる「地主と資本家の政府を倒し、労働者農民の政府をつくれ！」という我党のスローガンの下に、労働者農民の婦人を動員せねばならぬと思うのであります。

編輯後記

☆巻頭論文は総選挙後の闘争に関する我党の中心方向を示した極めて重要なものである。

熟読して実行へ！

☆創刊号で希望したにも拘わらず、党員諸君からの寄稿乃至投書は少ない。ただ婦人の一同志が真先に進んで寄稿されたことは喜ぶべきことだ。諸君の努力をのぞむ。

☆創刊号には実価をつけることを忘れたが、本紙は絶対にただではない。党員は自から進んで紙代を支払うと同時に、出来る限り党員外のものからも紙代を徴収して、一日も早く「我らの新聞」を日刊とせよ。（完）

一九二八・三・一　第三号

赤旗

月二回発行

日本共産党
中央機関紙

一、ブルジョア政府倒壊の全国的大衆的示威運動を組織せよ！
一、労農の革命的民主的独裁の旗印の下に一切の労農政党合同せよ!!
一、総選挙の批判と議会行動の原則
一、再び捕縛された朝鮮共産党員に対する大衆的釈放運動をおこせ
一、労働者はどうして武装するか。労働者自衛団の任務と組織
一、労農一派に対する我党の態度を声明す
一、編集後記

ブルジョア政府倒壊の全国的大衆的示威運動を組織せよ！

未曽有の暴圧、選挙大干渉が労働者農民を奮起せしめている。香川をはじめ各地方において大衆的示威運動が計画され挙行されている。

北海道においては総選挙中に開始されたストライキが今日なお猛烈に闘われている。

各地方においても日常経済闘争と結びついて田中反動政府を倒せ！の大衆的行動が到るところに展開されている。

然るに田中反動政府は頑強に内閣の椅子から離れようとはしない。飽くまでも多数党なりと豪語して政権にかじりついている。

民政党はどうか。これまた政権に恋々としてヅウヅウしくも政府をつくるつもりである。

然るに一般民衆は彼らの根性をハッキリ見た。そして田中政府を倒壊すると同時に、民政党の政府にも反対であるとの要求を提出しているではないか？　否民衆は自からの真に要求するものが、労働者農民の民主的政府であるということを明確に宣言しつつある。

革命的労働者農民の前衛大衆は、この機会に大衆行動を活潑に捲き起さなければならぬ。

日本当面の経済的利益のために引き起されたストライキは、この政治闘争と結びつけられ、労働の革命的民主的政府樹立の方向に指導されなければならぬ。

我々の手によつて我々の行動によつて、政友会の反動内閣を叩きつぶせ!!

そして天皇と結びついているブルジョア議会を解散せしめよ!!

民政党は三月六日政府倒壊の国民大会を開く計画をたてている。

そして労働者農民の大衆を踏み台にして、政友会政府を倒壊せんとしつつある。

我々は民政党によつて政友会政府の倒壊を希んでは断じていかぬ。

我々自からの手によつて、自からの行動によつて、労農大衆の大衆闘争によつて政府を打ち倒すのだ！

革命的労働者農民諸君!!

我々が大衆行動を組織しないならば、その用意がないならば、結局民政党の政治家に我々の大衆を引き渡してしまうことになるのである。我々の大衆行動の計画の下に、社民、日労、労農その他の党員大衆を動員し、協同の闘争と行動の下に大示威運動を組織せよ。

革命的労働者農民の前衛大衆諸君!!

我々は今度選出されたる無産派八名の代議士を我々の大衆行動の先頭に立たせて大示威運動を実行せよ!!

無産派の代議士は議会のキレイな椅子に腰をかけさせるために選出したのではないのだ。大衆行動の先頭に立たせ、プロレタリア農民の大衆行動闘争に役立たせるために選出したのではないか？

八名の代議士を街頭に引き出して、大衆的示威運動を全国いたるところにおいて実行せよ!!　工場に、農村に、

ブルジョア政府を倒せ！
議会を解散せよ？
労働者農民の民主的独裁を樹立せよ！
赤の旗をひるがえせ！
ブルジョア政府を倒せ!!
労働者農民の民主的独裁（労働者農民の政府）
万　歳!!

労農の革命的民主的独裁の旗印の下に一切の労農政党合同せよ!!

(一)

日本共産党はこれまで七年の永きに亘つて完全な地下的存在

を続けて来た、そして又党は文字通り宗派的組織であつた。
しかしながら昨年末党の拡大中央委員会は党の政綱、当面の政策及び組織原則を確立し、それを広大なる被抑圧大衆の面前に公表し、党は従来の宗派主義を一掃し、大衆的共産党として又コミンテルンの一支部として再組織に着手した。
そして今日においては既に再組織の基礎は確立され、宗派的組織の殻を打ち破つて、大衆的革命党としての第一歩を完全に踏み出した。
従つて従来陥つた共産党と大衆との遊離は、漸次明確になりつつある。
今後我党の独自活動の発展は、益々このことを大衆の闘争の前に明確にして行くであろう。
日本共産党は労働階級の唯一の党である。
我党はその政綱に示すが如く、労働者階級の徹底的解放に向つて、プロレタリア独裁の樹立に向つて邁進する。
今日の日本の客観的条件は、ハッキリと労働者農民の革命はプロレタリア独裁にまで急速に転化する展望を持つている。
だが我党は当面直ちに帝国主義を打ち倒して、一気にプロレタリア独裁を樹立せんとするものではない。
我党は当面の主要闘争目標を、君主制の撤廃、議会の解散、労働者農民の民主的独裁に置いている　もしこれに対して戦略と戦術とを混同した議論だと批評するなら、当人が何事をも知らないことを証明するのみだ
そして日本共産党はこの労働者農民の民主的独裁！なる中心スローガンの下において、否これと結びつけて、八時間労働、大土地の没収、植民地の完全なる解放等の労働者農民植民地被圧迫民衆の当面の要求として、しかも革命的なものを政策として提出しているのである。
だから日本共産党は、当面の一主要闘争の目標を帝国主義の覆滅におき、ひとえにプロレタリア独裁のみを問題としながら、しかも当面の政策を
(一) 徹底的議会の獲得、
(二) 言論、集会、結社の徹底的自由と弾圧諸法令の撤廃、
(三) 有産階級には高率累進税、無産階級には租税の廃止、
(四) 八時間労働と最低賃銀制の確立、
(五) 失業救済法の制定、
(六) 立入禁止立毛差押の絶対反対、
等においている。「労農」一派の大衆欺瞞の裏切りのダルーゲとは全然別なものである

(二)

日本共産党は今日における日本の客観的諸条件を、革命的マルクス主義、レーニン主義の理論によつて規定し、正しき革命の展望の下に作製したる綱領、政策の下に結集した前衛の集団である。
従つて全党員は党の政綱の下に統制され、鉄の如き規律が党を支配し、絶対に分派を許さない。この点が今日の無産政党、即ち大衆党とは本質的に相違するのである。
大衆党には階級綱領がない　けだし無いことが当然だ、なぜなら、大衆党は労働者農民、小ブルジョア、植民地被圧迫民衆の当面の要求代表者たる被抑圧大衆の政治ブロックであり、従つてこの党には当面の行動綱領があるのみであるからだ。
だからこれらの労農政党にあつては、その中に無産党の指導が打ち建てられて初めてそれらの党内におけるプロレタリアートのヘゲモニーが確立されるのだ。そしてこれは労農政党が革命の一つの力となるためには絶対に必要な条件だ
もし共産党の介在指導なくして社会民主主義者に指導されるならば、この党はいかなる現実的要求の純然たる政治的ブロックタに終つてしまい、ブルジョアジーの踏台になつてしまうのである
大衆党の指導精神を云々して今日大衆党の合同を拒否している奴は誰だ、我々はかつては左翼自身か、右翼大衆すらもか、その誤謬を犯したことを隠蔽するものではない。然しながら左翼はただちにその誤謬を訂正し、今は無条件合同を極力熱心に提議しているではないか！　そして今や当時と完全に異つた現象が現われている
見よ！　右翼の誤謬を清算せよと清算せよといつている連中がその度を乗り越して、福本主義の清算排除を絶対唯一条件として、かえつて大衆党合同を妨害しているではないか！
福本主義の清算は労農党と合同してからでも充分に出来るではないか！
口に合同を唱えながら、事毎に清算を条件として合同を拒否していることは、一体どうしたのだ！　結局合同を妨害する政策以外の何ものでもないのではないか！
誤謬は、今度はそれを攻撃している連中によつて取つて代えられてしまつた。
そうだ、彼らこそ今日においては分裂主義者である。「労農」のグループ、日労の幹部がそれだ。
社民党の幹部は、モット大胆に共産党の排撃を条件としているのだ。福本主義のお株を奪つたのは彼ら自身だ！

(三)

共産党の排撃だ、福本主義の清算だとさわぎ廻つている連中をそつちのけにして、各党の労農大衆はドンドン部分的に地方的に、合同の準備としての協同行動を展開しているではないか！
宮城、富山、静岡、青森、函館、札幌、秋田、栃木、神奈川において、その実例が示されているではないか、
そして大衆は叫んでいる　土地を与えよ！パンと仕事を与えよ！自由を与えよ！と、そして漸次それは「労働者農民の民主的独裁」という力強き叫びとなりつつあるではないか。
何故に各労農政党の幹部は、この大衆の痛切なる叫びを、大勢力に集中し結合して、ブルジョアジーと地主に突き貫きしめないのだ！　何故に福本主義の清算と共産党排撃に浮身をやつして、大衆の合同の機運を妨害しているのだ！
何故にォソォソ四畳半式外交を以つて、幹部間の取引である党とある党との秘密合同計画なぞをやつているのだ！
そんなことをやつているうちに、大衆はドンドン下の方から合同を実現して行きつつあるではないか！
そして幹部にアイソをつかしているではないか！
労働者農民の政府（労働者農民の民主的独裁という意味において）の樹立！
この大旗の下に全労農政党は団結合同せよ!!
大衆の協同闘争の基礎によつて合同を実現化せよ！
幹部の四畳半式外交政策に信頼するな！
かかるモダン政策は、ブルジョアジーの政策であつて、断じて労働者農民の政策ではない　大衆はかかる幹部の陰謀取引きに信頼しているから、いつでも裏切られるのである。
大衆の協同闘争の展開によつて、断乎としてかかる陰謀を葬り去れ！
大衆の口から大衆自からが労働者農民の民主的独裁（労働者農民の政府）の大旗を翳させ！
この大旗の旗風によつて「労農」一派の解党派グループと社会民主主義者と日和見主義者をなぎたおせ！
そして彼らを踏み越えて地主とブルジョアのブロック政権に肉迫せよ！
敵の牙城へ猛進せよ！
日常闘争における各党の党員大衆の協同行動は各党の合同を実現する唯一の基礎である。

そこに合同の鍵があるのだ！
「日常闘争における各党の協同行動」このスローガンが、そこで大衆党合同の条件である　労働者農民の大衆諸君！
ただちに協同行動を展開せよ！
然しながら合同の美名に眩惑されて、社会民主主義者と解党派の日和見主義を容赦することを忘れてはならない。大衆党の合同は、社会民主主義者の黄色い旗の下になさるべきでない。
労働者農民の民主的独裁（労働者農民の政府）という革命の旗、赤旗の下においてなされて、限り無意義である。否もし、黄色い旗の下になされるならば、労働者農民の解放は永遠にこないのだ！
労働者農民の民主的独裁！　労働者農民の革命的民主政府樹立！の旗の下に各労農政党の党員大衆は合同せよ！
日本共産党は有産社会民主主義者や解党派一の裏切り者共の凡ゆる妨害をケトバして、この合同の先頭に立つて邁進することを誓うのである。
労農政党合同万歳!!
労働者農民の革命的独裁万歳！
日本共産党万歳

総選挙の批判と議会行動の原則

(一)

総選挙の総決算は、二十二日の午後にいたつて明白になつた。
次の如き政府の分布である。

政友	二一九、	民政	二一七、
実同	四、	革新	四、
中立	一五、	社民	四、
労農	二、	日農	一、
民権	一、		

である。共にブルジョア党である政友と民政の僅か二票の相違であるということは最も注目すべきことである。
それはブルジョアジーがこの総選挙において全然失敗したことを証明しているものである。ブルジョアジーは自己階級の利益を代表する二つの政治分派に依つていながら、政友と民政の二大政党がそれぞれ多数を得ている
そして本年の一月この二つの政治分派は殆んど同じ位の勢力干渉に拘泥した。
だが一方の政治分派、政府党である政友会は少し少数であつたが為めに、議会を通過するについて不自然であつた　それで議会を解散したのである。
ブルジョアジーの二大政党は各々の政策を所謂国民に示し、どちらのブルジョア分派が国民に支持されるかを試してみた。
然るにどうだ、所謂国民は総選挙の結果を以つて何んと答えたか？
政友でも民政党でもどちらでもよいではないか、両方共に同じ穴のムジナではないかと答えたではないか。即ち総選挙の結果は政友、民政略々同数となり、政友と民政とが本質的には少しの差別のないことを証明したのである
然し今度は解散前と少し変つて政友が二名多くなつたが絶対多数とはならず政友会は内閣を投げだすか、それとも今一度議会を解散するか、どちらかをせねばならなくなつているではないか
然　彼等のどちらも他のブルジョア多数派たる我々こそ国民に支持されているものであると背馳な気焔をあげているのだ。
もしどちらかが国民に支持されているものだとするならば、どちらかが議会を左右するだけの議席を獲得するはずではないか、そのために解散をやつたはずではないか。
然るにどちらも議会を左右することの出来るだけの議員数を得なかつたという事は、イカンなく彼等は総選挙に失敗してしまつたのであるという事を物語つている
政友も民政も同じ穴のムジナだ、どちらでも同じだ、これが国民の答えであつたのだ。

(二)

ブルジョアジーの所謂国民ならざる労農大衆がブルジョアジーが失敗した総選挙に結論をつけた。
労農大衆は今度総選挙において、その一部分しか投票に参加出来なかつた
第一、十八歳以上の男女の選挙権被選挙権がないこと。
第二、投票の制限、および圧迫と妨害等は労農大衆の選挙参加を著しく妨げた。だがその一部分でも労農大衆は、正しく総選挙の結論をつけたか？
その得票数四十五万票は何を物語つているか。「政友会にし[illegible]
装い、[illegible]
党である　だからかかる[illegible]は絶[illegible]我々に[illegible]
々の利益を正しく代表する政党とその政府。なければならぬ
一言にしていえばブルジョアの利益を代表するブルジョアの政府な反対だ。我々は労働者農民の政府を樹立するのだ」と答えたのである。
だから見給え！　ブルジョアが見事失敗し、票数は多く取つたが何にもならぬ　どつちにしても議会を左右することが出来ず、結局わずかの票数しかとらないけれど労農大衆が総選挙の結論をつけて、議会のキャスチング・ボートを握つてしまつたのだ。

(三)

社民、日労、労農の三つの政治分派は、その幹部の腕は各々異つている
安部や鈴木は労農大衆を裏切つて、資本家階級と地主に忠勤をヌキンでようとしている
だが各党の一般大衆は、決して彼等の分派ではない。全体の要求を闘せずして一致している　即ち労働者農民の民主的独裁を猛烈に要求しているのだ　農民は土地、労働者はパンと仕事、植民地民衆は帝国主義の隷属よりの解放を要求しているのだ。
だが[illegible]よ！　労働者農民のその要求が明白に労働者農民の民主的独裁の要求を意識的に追求しているだろうか？否である。
今日の労農大衆は依然として明日なる政治的意識に到達していない　そこで四十五万票の中で大別して二つの傾向に分[illegible]る
その中の少数は明白に労働者農民の民主的独裁でなければダメだ、
それでなければ、土地は保証されない、食と仕事も保証されない、植民地も解放されない、政治自由は保証されないという明確なる意識を有するものである。労働階級及び農民の代議士が出れば、少しは何んとかなんだろうという考えにあるものである。
そしてかかる考えにあるものは、独り労働者農民のみならず、小ブルジョアにかなり多くあつたであろう。
更にまだ国民の思想にとらわれ、全然自己階級の意識に自覚しない労働者農民もある。
それらの投票は政友、民政およびその他のブルジョアに投票

られたのであろう。

そこで四十五万票のうち、どれだけが明白に階級的であったか？ということは、共産党が公然と立候補することが出来なかった今日、明白なことは分らない。

然し、左翼的労働者の候補者に投ぜられたる票数は全部たしかなものであるといえる。そしてその票数は何程であったか？今その計算が出来ないが、すぐ明白になることである。

そこで今度ウマク当選した安部、鈴木、西尾、亀井、浅原は大体において、労働階級の代議士が出れば労働者農民の生活が明るくなるだろうと漠然と考えていたものの票数をかき集めたものであると見られる。勿論彼等の得票数の中にも、革命的労働者の立候補の無いところで、ブルジョア政党よりはいくらかマシだ、仕方がない、彼等に入れてやろうという考えで投票したものもかなり多くあるということを看過することは出来ないのである。

(四)

無産党の党員多数が総選挙に臨む前に選挙協定会議を開いた。

だがこの協定会議は地盤協定のみで終っている。しかしその協定さえ事実上破れてしまった。そこでブルジョア新聞は筆を揃えて地盤協定さえ上手に行えば無産党は十八、九名の代議士を出せたものを、と盛んにイヤミをいっている。

だが数は多くても安部や鈴木や網島や和田や片山や須貝等がウヨウヨ出たところで、それがどんな効力があるのだ。

肝心な点は、階級的立場を正しく代表する真の無産党代議士を出すことではないか。

そこで選挙協定は地盤協定ではなく、「労働者農民の政府」（労働者農民の民主的独裁という意味における「労働者農民の政府」）というスローガンにおいてなさるべきであった。

「労働者農民の政府」に賛成か、反対か、で選挙協定をやるべきであった。

そして社会民主主義者の立候補は極力妨害し、もし彼等が立候補したる場合には猛烈に彼等の裏切りをバクロすべきであったのだ。

日本共産党は選挙協定の時に明白にこの態度を声明しなかったが、闘争の進展において党の全活動はこの政策を採用せしめ、その後党中央委員会は声明書に、特に、協力と社会民主主義者との闘争を敢行したのである。

そこで日本共産党は今度の総選挙においてとった部分的な誤謬を、党の闘争の進展の上において充分に知ることが出来た。そしてかかる誤謬は闘争を通じて、党の成長によって克服されて行くものである。

然しながら日本共産党の誤謬は社会民主主義者をモウケさせた。彼等は労農大衆を踏台としてマンマと当選してしまったという結果を生んだ。

(五)

社会民主主義者は今後如何なる行動をとるであろうか？ 根本的にいうならば、ブルジョアジーと協力して労農大衆の革命的闘争を弱めるために努力するに相違ない。かつてもそうであるが、今後は一層明白に共産党反対とその撲滅というスローガンを建国会と協同一致で掲げるであろう。

彼等は「労働者農民の民主的独裁」（労働者農民の政府）ということの全労農大衆の要求を議会内行動に制限し、議会の多数党を獲得してそれから労働者農民の政府をつくるのだといってゴマ化そうとするのであろう。

君主制の撤廃、議会の解散、治安維持法の撤廃、八時間労働、資本家全額負担の失業保険、土地の没収、戦争反対、植民地独立、支那革命不干渉、言論、集会、結社、出版の自由、累進所得税等の要求を掲出せず、そういうことは理想的なぞといって白ばくれるのであろう。

彼等は先日の鈴木内相の議会否認の声明に対する反対声明の中にも明白にいっている如く、「現内閣は補弼の責任を完了することが出来ない政府であるから倒壊されねばならぬ」なぞと、自分等が政府を作ったり補弼の責任を完うするつもりでいるのだ。

何たる哉、鈴木文治は大阪朝日の立会大演説会に天皇の歌をよんで感泣し、安部もしばしば天皇に随喜渇仰している。

かくの如くして彼らは労働者農民が今日痛切に要求している「労働者農民の政府の樹立」その革命的行動を、天皇の名において、日本国家の名の下に、ブルジョアジーと協力して、弾圧をするに相違ないのである。

(六)

議会政治はブルジョアジーが労働階級および農民一般民衆を支配する政治形態である。

国家参政という美名の下に、欺瞞のデモクラシーによって全勤労大衆を支配する巧妙なる制度である。

而も日本の議会は、天皇と結びついている議会である。

天皇によって召集され、解散される議会である。

今日の労農大衆の切実なる要求は、先ずこの専制的政治制度天皇、枢密院、貴族院を倒壊し、労働者農民の民主的独裁を樹立するということにある。

そしてかかる要求は、議会内のみにおいて実現され得ないことは明白である。かかる要求を実現し、貫徹せしめるには、議会外の大衆行動、内乱によらずしては行い得ない。そこで議会内における無産派代議士は、この大衆行動を議会の内から援ける任務を持つものである。議会内行動は、常に議会外大衆行動に従属し、その発展に役立つものでなければならない。

だから真の無産派代議士は、議会の内から大衆に議会の何のであるかを具体的に行動をもって明白に知らすべきである。議員の特権を利用して君主制のからくり、議会のからくりを大衆にバクロすることである。

だから今度開かるべき議会に於て特に注目してみるべきものは、無産派代議士が大典予算に対して協賛するや、否やである。

安部と鈴木は明白に天皇に随喜しているのであるから、賛成投票をするに相違ない。

もし賛成投票したら、彼等は立派に事実の上において無産階級を裏切った奴等であるから、無産階級は断乎とした行動を彼等に加えなければならぬ。

他の代議士はどうか？ もっとも注意して、全大衆は監視せねばならぬのである。

そして全労農大衆は、彼等に強要せよ、断じて大典予算に賛成するな、と。

労働者農民が飢と寒さにこごえているとき、なんでその上の搾取が許されるか！

(七)

議会外における大衆行動は、現田中内閣の弾劾に向って進撃しつつある。

無産党代議士は、その先頭に立って弾劾に猛進せねばならぬ。

だから政友会の政府の倒壊のみではない。民政党の政府に対しても、はいうまでもなく必要である。

鈴木と安部は政友会内閣には反対するであろうが、民政党内閣がもし少しでも、それはほんのハナクソほどでも、社会政策的施政を打出すならば、それを口実にして寝返えらぬとはいえない。

政友会は悪るい。民政党は悪るい。然し民政党は進歩的である。社会改良的施設を約束した。それであるから我々はこの党の政府を支持しなければならぬ。というかも知れぬ。

全労農大衆は充分に注意せねばならぬ。

無産代議士の議会内行動の基準は右に述べた通りである。そしてこの原則に基づいて労農、日労、社民、民権の各代議士は議会内に於いて協同行動を採らねばならぬ。

安部と鈴木、亀井の徒輩は事毎に裏切りをやるためにその協同行動を破るであろう。

全労農大衆は大衆の強圧を、彼等に協同行動を破らせないように強要せねばならぬ。

(八)

今日の政界の事情の下に於いては、階級対立は益々ハッキリして行くであろう。

何んとなれば、こうハッキリしてしまったブルジョア政党の対立の状態の下においては、少しのもの秘密取引が労農大衆の目にハッキリと見える。もし彼等が秘密に政権の取引きをやっても、又は種々なる奸策、例えば今日同志者のやっている見苦な忠勤ぶり等によって反対党を切り崩しても、又は買収しても、民衆にハッキリ金の力とブルジョアデモクラッシーの欺瞞とを知らしめてしまう。

又彼等は意識的におくれた大衆の目をゴマ化さんがために、天皇の名において、又は日本国家の名によって、無産階級の最も尖鋭の部分、その先端に向って即ち我共産党に向って、協同一致の大攻撃を展開して来るであろう。その傾向は既に現われている。

然しそういうことは、結局において労農大衆の目を、本当に階級的に開かせるという結果をもたらせるのみである。更にブルジョアの二大政党の対立がこうハッキリしてしまった以上は、日本において専制的政治勢力、即ち天皇、枢密院、貴族院が非常に大きな力を持っているという事を、全民衆に知らせてしまう。

そこで、どっちに廻ったところで、階級対立の気運は益々尖鋭に議会に表われてくる。

(九)

だから我々は、この階級対立を益々明白ならしめてゆくことに闘争の中心点を置くべきである。寸毫といえ共、容赦なくブルジョア党の秘密取引をバクロして大衆の面前にさらけ出すことである。

即ち労働者農民大衆の当面の要求にして、しかも革命的要求を遠慮、会釈なく議会に提出することである。

君主制の撤廃、

議会の解散、

十八歳以上の男女の普通選挙、

治安維持法及びその他の弾圧法令の撤廃、言論、集会、結社、出版の自由、

八時間労働制、

失業保険、

土地の没収、

累進課税、

植民地独立、

戦争反対、

支那革命不干渉、

等の要求を提出せねばならぬ。

社会民主主義者は、この政策は結構である。然し理想であるといってきまっている。

然し以上は、今日の労働者農民及び被抑圧民衆にとって何んの理想であるものか、現実痛切なる要求ではないか。理想の要求でなく、現実の要求である。大衆党のスローガンとなっているものである。

君主制の撤廃は、今日の法律の下においては公然と掲げることは出来ないから、掲げないのであるに過ぎない。

だから公然と掲げていないからといって、大衆の要求でないとは断じていえないのだ。

土地の没収、植民地独立は、これまた治安維持法の下において掲げることが出来ないから、変形的な形で、即ち耕作権の確立、又は植民地に於ける差別撤廃という要求で出されているのである。少しも理想の要求ではないのである。

全労農大衆は社会民主主義者に強要して、彼等に以上の如き闘争を余儀なくせしめて行かねばならぬ。彼らがもしそれを肯じないならば、裏切者として烙印を押してしまうのだ。

(十)

今度革新党は少数になってしまったので、無産党に協力して交渉団体を作る交渉を持ち込んで来たと聞いた。

交渉団体が何んだ！ 議員は一人でも行動は出来る。決してブルジョアジーと妥協して融合してはならぬ。

政府の労働争議に付いて、民政党から無産党に妥協するという話しもある。然して民政党は[illegible]。労働者農民の立場から[illegible]提出せよ！ 民政党と協同一致の行動はどんな利益があるのだ。

民政党はブルジョアジーの党ではないか。

どんな少しなものでもよい、敵の闘争を利用することは重要である。然しながらその利用は、労働者農民の立場においてなされるものでなければならぬ。

だから民政党としても、又その他のブルジョア党にしても、彼等からの妥協は、[illegible]全部バクロしろ！ そして労働者農民の立場の問題にして、或る事情の下に於いては、協同戦線をはることも必要である。

だが断じて忘れてならないことは、議会内行動は議会外大衆行動に従属するということである。もしブルジョアとほんの一時的の協同戦線を張る場合は、彼等の全行動を大衆にバクロし、労働者農民の利益の立場に立ってなさるべきである。

再び捕縛された朝鮮共産党員に対する大衆的釈放運動をおこせ!!

朝鮮革命運動の先頭に起った朝鮮共産党員百〇一名が獄につながれること既に一年有余、その間野獣に等しき拷問をかけられ、治安維持法によって苛酷な宣告を下されたことは、わが革命的労働者農民諸君が憤慨を以って目撃したところである。

日本帝国主義者は去る　日に至って、突如として再度の共産党員捕縛を断行し、…余名の同志を目掛けて捕縛した。

これ朝鮮の…民の合法的大衆運動を禁圧せんとする陰険政略のつかまる目的に出ている。

日本帝国主義は植民地に於いて、憲法を施行せず、専制政治を以って政治すと公言している。

朝鮮には、わが国の法律が形式的に保証しているが如き貧弱な自由すらもない。一切の自由がない。

有るのは鉄の如き弾圧ばかりだ。

革命家にとって牢獄も絞首台も覚悟の前である。しかし吾々は一人と雖も敵の牢獄に同志を入れてならないのだ。

共産党は、どの国の共産党もすべて兄弟である。

労働階級の運命を自分の運命とし、世界革命のために一身を投げ出すのが共産党員である。

殊に朝鮮共産党員と日本共産党員とは、切っても切れぬ縁がある

日本帝国主義は、吾々の共同の敵である。

この共同の敵を倒さなければ、朝鮮の労農大衆の解放は実現することが出来ない。

吾々日本共産党は、朝鮮が完全に日本帝国主義の鉄鎖を放れ、自由独立の国家を形成するためにあらゆる努力を惜しまない。

だが共産主義者は各民族の独立国家の形成と共に、各民族の自由なる堅固なる連盟の形成を目標とする。

日本のプロレタリア国家は、朝鮮のプロレタリア国家と堅く握手して世界革命に貢献せねばならぬ隣邦的事情の下にある

共産党員は、一切の被圧迫民衆の革命力を充分に発展させる指導者だ。

共産党の決死的行動がなければ、ブルジョアジー及び地主を打ち倒すことは出来ない。

一人と雖も、共産党員を敵の手に渡してはならない。共産党員が敵の手にとらえられた場合、大衆はいつでも大衆行動によってその釈放を要求し、大衆の威力を以って之を救い出さねばならない。

リープクネヒトの捕えられた時、ドイツの各都市の労働者は大示威運動を以ってその釈放を要求した

問題は一人二人の指導者ではない。

全日本民衆の輝やける指導部隊たる共産党を守ることにある。

朝鮮の民衆はすでに[illegible]名の共産党員の釈放を要求し、その拷問に抗議する幾十回の運動をやった。

老人も、少年も、女子も、釈放運動の隊列に加わった。朝鮮の警察政府の下においても、彼等はそれを遂行してのけたのだ。

日本の労働者、農民諸君!!

今や新たに一千名の共産党員が捕えられた

朝鮮民衆に打ちおろされる鞭は、吾等自身にふりかかる鞭である

日本帝国主義こそ日鮮労働者大衆の共同の敵である

敵手の鎖から指導者を、吾等が救い出すことは吾等自身の任務でもある。

朝鮮民衆の大衆的釈放運動を、吾等自身の大衆的釈放運動と合併せしめねばならぬ

朝鮮の指導者及び朝鮮民衆の釈放運動を見殺しにすることは、諸君の絶大の恥辱である。

朝鮮共産党員釈放の大衆的運動をおこせ!!

ブルジョア政府に向って即時釈放を要求せよ!!

工場に於て、農村において、大衆集会において語り合い、手をとって運動を起せ!!

野蛮極まる治安維持法の撤廃を政府に迫れ!!

無産政党の新代議士をして議会に於てこの釈放を要求せしめ、これを承知せざる代議士に、日鮮労働大衆の共同の敵たる烙印を捺せ!!

労働者はどうして武装するか

—労働者自衛団の任務と組織—

或る大工場の争議で労働者は、せいぜい仕事場のハンマーをとって、会社側の暴力団に対抗した。

或る鉱山の大争議では、坑夫は日本刀とピストルとをもって、警官隊を倒した。また或る労働者は大切な秘密の書類を持っているところをスパイに捕ったが、すきを見すまして、かくし持った細かい紙片をスパイの顔にガンとくらわせてうちたおし、マンマと使命を果した。[illegible]事務所に押し込んだ反動団体の四百名を相手に[illegible]痛い目にあわせて、撃退してしまった。こんな話しはザラにある。

争議の場合はもちろん、チョットした集会でも労働者がほんとうに自分を守ろうと思えば、何かの武器で身をかためるのは当然だ。武装した暴力団や警官隊に対抗する時は無論のこと、私服のスパイや仲間の裏切者などに対しても、イザという場合には武力を以てしなくてはならぬ。

なぜならヤツ等に密告されたり、つかまったりすれば、必ずミカタがひどい目にあうにきまっている。そして監獄にぶちこまれたり、首にされたりするからだ。

だから労働者は日常闘争の中から、イヤでもオウでも自から武装する必要を悟り、又何んとかして武装する方法を学ぶのだ。

こういう風に労働者はストライキや集会や示威運動で、自分の手に武器を持って暴力団や警官隊に対抗することに訓練を積まなかったら、階級闘争の決勝戦たる革命において労働者側の勝利を得ることが出来ない

革命では労働者が武装蜂起してブルジョアの軍隊や反革命軍をたたきつぶさねばならぬのである。

どこのどんな革命でも、武力と武力との衝突によらずして勝敗のカタが付いたためしはない。

もちろん個人的な蛮勇は慎しまねばならない。又ストライキや示威運動の場合になんでもカンでも武力衝突をやるわけに行くものでもない。

然し労働者の側で武器をもって守るか、否かで勝敗が分るとか、大切な機密が保てるとかいう場合には、死力をつくして武力抵抗をしなければならぬ。

それでも労働者側がまけることはある。（イヤ労働者は、しばしばそういう敗北を経験して、その度毎に強くなるのだ）

然しそういう大切な時に少しも暴力に武力で対抗しようとせず、そうなれたら不利とあきらめてオメオメと囚われの身となったり、敵に陣地を渡したりするようでは、そんな平和主義、無抵抗主義では、労働者はいつまでも革命に勝つことはできはしないのだ

そこで労働者は日常不断の闘争で、武力的訓練と組織とを学ぶ必要がある。

しかもストライキや集会のその場その場だけではなしに、フダンにその用意と訓練とをつづけていなければならぬ。そうでないと、イザという場合にも充分威力を発揮できない。

殊に今日では警察や反動団体が、イツ何時労働者の集会や事務所をおそうか、わからない状態ではないか。

組合の大会などでは必ず警備隊を設ける

ストライキでは大抵の場合、警備隊の外に、争議団の中でも勇敢な連中によって何等かの武装をした突撃隊、決死隊が組織される。

だがこういうやつをフダンからつくって系統的に、計画的に労働者の武力的防衛を訓練し、組織することが、今日では絶対の緊急事である。これが労働者自衛団というものだ。

労働者自衛団は、決して少数の共産主義者や労働者だけが防衛するものでもなく、又共産主義者だけで組織するものでもない

それは資本家の官憲又はその御用反動団体、つまり支配階級の暴力に対して全労働者が防衛する、全労働者の暴力の

組織である

然しストライキの場合に、全争議団が警備隊になれないように、自衛団も労働者全部で組織するわけには行かぬ。やはり一定の学習と組織にする必要があろう。

そうかといって労働者自衛団は精鋭分子だけで組織したり、一般の労働者に秘密であったりしてはならぬ。

自衛団は工場単位に組織する

そしてその工場の全労働者が、それを組織したようにしなければならぬ。

勿論こういう組織は、先ず最も勇敢な労働者が中心とならなければできない

そして又どこの工場でも、最初から公然と自衛団の発会式など揚げられるものではない。

然し必ずこれはその工場のかなり広い範囲の労働者を団員として、且つ公然たる組織にしなければならぬ

何等の武器もない、何等の軍事的訓練もない労働者自衛団というものは、自衛団ではない。自衛団という以上は、たとえ棒切れにしろ、ハンマーにしろ、労働者の肉体以外に何かの武器をある程度まで具えなければダメである。そしてあらゆる手段を講じてなるべく優秀な武器を手に入れるように心がける必要がある

自衛団はヒマさえあれば、工場の内部や近所の山林、原野などで、武器の練習や、攻防演習などをやるべきだ

工場運動部は自衛団の手に奪取せねばならぬ

工場主が労働者の闘争をそらすためにやっているスポーツの如きは、工場委員会及び工場自衛団の手に取り、自衛団の軍事的訓練と結合させる必要がある

そうすることは、一方赤色スポーツを建設するためだけでなく、他方自衛団の日常活動を活発にする。

かくして労働者をカフェー遊びや、活動写真や、ブルジョア・スポーツから解放することが出来るのである。

同一地域の各工場の自衛団はただちに団結して、一定の常備部隊を設け、不断にその地方の資本家団、反動団体及び官憲に対抗する必要がある。

そしてまた争議の場合の動員は勿論、平時においても時々各工場の全自衛団が集合して、軍事的演習、競技又は示威集会を開くべきだ。

かくの如き労働者自衛団は、自分たちの集会やストライキの場合に直ちにその部署について働くは勿論、他工場のストライキの労働者防衛に参加し、また農民暴動等に際しては、労働者特有のよく訓練され、組織された暴力をもって農民を援助せねばならぬ。

労働者集会、組合大会、労農政党大会等にも、工場自衛団が出動して、警備の任に当らねばならぬ。

こういう仕事が充分に出来るような自衛団は、決して一朝一夕に出来るものではない。

又徒らに組織の形だけをつくって多少の武器などをあつめても、肝心の大衆の[illegible]がなければ何んの役にも立たない。労働者の大きな闘争を通じてのみ、自衛団は建設されるのである

そして革命期における赤衛軍の基本的部隊がこの中から出発するのである。

共産党の工場細胞は、工場の自衛団の中核となって、その組織と訓練とのために多大の努力をせねばならぬ義務がある

『労農』一派に対する我党の態度を声明す

雑誌『労農』のグループの諸君は自から共産主義者なりと信じているであろう。だが共産主義者たる不可欠の条件は何か。

それは彼等のグループの一人荒畑氏が、共産党事件の公判の時に声明したるが如く共産主義者たるものは党に属することであり、不断に組織的活動をなすことである。

共産主義者たるものは雑誌や書斎にとじこもることでなく、大衆の闘争の先頭に立って生死の闘争を敢行する労働階級唯一の党、日本共産党の組織の一人となることである。

共産党に所属せざる共産主義者はあり得ないのだ。

だが彼等は「日」の立場を弁明するであろう

日本共産党はセクトである、何人かの私有物である　その政策も根本的に誤っていると、又、だから我々は党に入ろうとする熱心な努力を持っているにも拘わらず、事実入れないと。

もしそうなりとすれば、これこそ根本的に誤った考えである。

何故ならば、もし日本共産党がセクトであり、何人かの私有物なりとすれば、その根本的な誤りを正して、真に日本共産党を労働階級の党に鍛えあげることこそ、輝かしい真にマジメなる共産主義者の任務ではないか。

又それにしても入党するすべがない、云々というのも全くの間違いだ。

日本共産党は今日非合法的組織をよぎなくせしめられている。だから共産党に入るには、自から進んで入ろうとしても、決して日本共産党の申込みどころはどこにも掲げてはいないのだ。もし諸君が入党したいならば、日本共産党政策に従い、その政策を実際の行動を以って正しく実現して行けばよいのではないか

そうすれば如何なる過程を経てか、諸君は必ず日本共産党の宣伝者、組織者となるであろう。

況んや日本共産党は、今日大衆の眼前にその政綱と政策とを示している。今日においては、決して従来のセクト的存在ではないのである　又党は決して個人のものではない。労働者階級のものである

だから党生活をなしているものは或る場合、即ち党の決定が自己の意見と違った場合には、その党の決定に従い、自己の意見と行動とは違った意見と行動をなす場合があり得る。

何よりも党の決定が大切である。

共産党も、それを組織する前衛分子の政治的経験の未熟なるがために、種々誤った政策をとらないとも限らない。然しながら党生活はその発展に応じて、党の行動、闘争の進展によって、必ず誤った意見、政策を正しくするであろう。

そうやあってこそ、党は個人の私有物でなく、労働階級の党であるということが出来るのである。

然しもしかりに、意見としては正しい少数者がその意見が容れられないからといって、党より出て、党に敵対行動をとるならば、それこそ共産主義者としての革命的誤謬である

党の決定されたる政策である以上、例え誤っていたとしても、それを身をもって、行動を以って実現するということ、それこそ行動的共産主義者の態度ではないか。

即ち党生活が基本なのである。

党生活を通じないでは、どんな立派な意見も無意義である。

否、立派な意見は、党生活を通じないならば出てこないのだ。

党生活の無い人達はこの根本的な要点を失ってしまう。そして知らず知らずのうちに、自分は共産主義者を自任していても、結局反革命の徒になってしまうのである。注意せねばなら

ぬ。

「労農」グループは、彼等も一つの組織任務をやつているものと信じているだろう。すなわち雑誌の組織任務を。しかし共産主義者が組織任務をするということは、雑誌を出すことではない。共産党の組織をつくることだ。共産党の組織に入ることである

共産党は、雑誌の発行者団ではなくて、労働階級の政治結社である。大衆的な組織である。

民主的集権主義の原則に基いて、工場細胞を基礎として組織されるものである。

雑誌の発行と政策提唱は、共産党ではないのだ。彼らはこの基本的な共産主義者の組織活動については殆んど言及してはおらぬ。彼らの意見は雑誌の行と行との間にチラチラ散在するのみだ。だがそれをまとめてみるとこうだ。

「共産党は今日非合法の組織しか持つていない、そしてこれはいきはい秘密組織である。かかる組織を今日日本につくることは全然の誤りである」と。又

「労農の大衆党はブルジョア革命遂行の、即ち労働者農民の民主的独裁を樹立するまでの間、大衆を指導する政党である。そして共産党はそれから後の闘争を指導する政党である。だから共産党は、今日全然の地下的組織でよい。労働者農民の民主的独裁が樹立されてから表面に浮びあがるものである」と。

「従つて共産党の戦略は、帝国主義の倒壊に主要目標を置くのであつて、然し今日直ちに共産党が浮び出して、大衆的組織をもつてそれをやるのではない。大衆党にブルジョア革命をやらして、その後からその結果を指導するために、今日戦略を提出しておくのである。だから今日先ず共産党を伏せておいて、大衆党に全力を注ぎ、大衆党に当面の政策を戦いとらしむるのである」と

それのみでない、彼等は一かどの革命家気取りで戦略や戦術を云々しているが、一体その戦略と戦術は結局名先生のオシャベリにすぎない。

彼等の理論は以上示せる如くだ

この理論は結局するに一体何んであるか？ 典型的な日和見主義、解党派の理論である。

彼らは、自分らこそコミンテルンによつて正解されたものと信じている。

だがコミンテルンは行動によつて共産党を組織しないものを、又行動を以つて共産党に入らない奴らを認めるであろうか？ 否断じて否である

コミンテルンは、たとえ政策行動に誤つていても、行動を以つて党の組織をつくつているものに対してのみ、その誤りを指摘し、再組織の方針を与えるのだ。何もしていない奴らに対しては断じて眼をくれない。そんな奴等は断乎として排撃する。

日本共産党は共産主義の外貌を装い、我党の再組織を妨害している「労農」グループに対しては、断乎として排撃する。

労働者階級の最悪の敵、ブルジョアの手先たる社会民主主義者とひとしく、彼等解党派、日和見主義者に対しては、敢然と戦うものである

一般大衆ならびに我党員の中にも、「労農」のグループが我党の一つの分派であると考えているものもないとは限らない。しかし我党内には一つのホンのわずかの分派すら存在していない

彼らは明らかに我党と別物であるということを、ここに声明する

我々は福本イズムの克服と同時に、山川、荒畑の七々輩、個人的、私党主義、解党主義を、我党の行動を通じて党の発展の為めにおいて断乎として排撃する

そして党を大衆的な党とし、労働階級唯一の党として完成することを、ここに全大衆に誓約する。

日本共産党中央執行委員会

編集後記

△わがプロレタリアートの最初の国会選挙戦も終え、今やブルジョアー大党は政権争奪に狂奔し、無産党乃至その代議士は首を陣笠に整えつつある

この無端不安定なる政局のただ中に、わが党の旗は赤く、高く、進んで行く、

△新政局に対して党は、いかに戦うべきか、無産合同運動、労働組合に対する態度、労働者武装、朝鮮の同志捕縛の問題——狭い紙面ではハリサケルばかりだ。

△本紙も、今でどうやら「赤旗」の名にハヅカシクないものになれたようだ

闘争の発展は、本紙の発展だ

「赤旗」の下にすべての闘争を糾合せよ！ （終）

一九二八・三・一五 第四号

赤旗

月二回発行

日本共産党中央機関紙

△無産党議員団の設立と左翼大衆の任務
△労働農民党拡大中央委員会の任務
△婦人同盟の組織に就て
△武装蜂起への訓練と準備とを急ぐことによつてパリ・コンミュンを記念せよ！
△赤旗の旗影
三人の兄弟を殺された香川農民のために奮起せよ！
木崎村島屋の争議激発を極む、大衆的行動を以て地主を叩きつぶせ！
悪地主を叩き殺せと青年地主宅を襲撃す
前衛指導の下に札幌の大工場全部動揺
札幌帝国製麻八百名の争議！
会社の抑圧に反抗して札幌製粉動揺す！
札幌市電従業員の不平高まる
△編集後記

無産党議員団の設立と左翼大衆の任務

(一)

本紙前号に於て、大衆党の議会外活動の絶対重要性を主張した。而して大衆党としての農民労働党創立過程に於て、又創立以来、大衆党は行動的党であるか、議会のための党であるかの問題は、また左翼の争いの中心点であつたのである。

大衆党は、本来労働者農民の階級闘争に於ける自然発生的な闘争組織の集積されたものとして生れた。現実闘争で悪戦苦闘している労働組合、農民組合の結合体として生れたのである。

即ち労農大衆の経済的日常闘争を政治的に戦う組織として生れた大衆の結合体である。然るに政治的闘争には一つの方向がある。

(イ)は議会中心の社会民主主義的方向、即ち議会に代議士を送つて社会改良を積み重ねあうと云う政策である。それは議会に対する幻想を労農大衆に持たせ、その幻想によつて大衆の自然発生的な激烈なる行動をマヒさせてしまおうとするブルジョア政策である。之に対し、

(ロ)は、議会内行動は合法的な意義しか持たない。主要な行動は自然発生的な大衆の経済的直接行動である。

その経済的直接行動を政治的な直接行動に高めること、即ち暴動、一揆、反乱に導くことが、プロレタリアートと農民とを解放する正しき道である。

議会内行動は、この議会外大衆行動を支持し発展せしめる役割を果すのみである。したがつてそれは議会外大衆行動に発展せねばならぬ、と主張する。そして後者こそが正しきプロレタリアの政治行動である。

(二)

日本の今日の議会は封建的残存と結合したる、反動的な役割をしか持たない議会である

労農大衆の要求はこの議会からはホンの爪のあかほども獲得出来ない。もし議会が何らかの社会改良的施政をしたとするならばそれは労農大衆の議会外行動の発展を恐れ、それを失効せしめるためである

したがつてかかる場合議会に於て我々の要求が貫徹されたのではなく議会外行動によつて議会を圧迫したからそれが出来たのであると云う事を我々は銘記せねばならぬ。

議会に労農大衆の代議士を送られなかつた時代に於ては大衆行動はいやが応でも議会外行動に赴く以外に方法がなかつた。

労農大衆の反抗が日々に高潮に達して来ている今日に於ていつまでも議会を閉鎖しているならば、大衆の直接的行動は勢い暴動に赴かざるを得ないのだ。

だからブルジョアジーは彼等の支配政策からしても、労農大衆に対して議会への道を開いたのだ。

だがそのためには、卑劣にも彼等は、議会を労農大衆に開いても自分等の地位に差支えない状態にして置いてからそれをやつた

第一、議会を衆議院上ブルジョアジーのものにしてしまつたこと、

第二、子飼の手分社会民主主義者を労働組合の幹部、及びインテリゲンチャの手から買収して作つたこと、

第三、大衆行動を弾圧する悪法を先ず共産党組織弾圧を中心にして作つた、

即ち、共産党——プロレタリアート農民被抑圧階級の大衆行動の先頭に立つプロレタリアの軍隊に対して、その組織を公然と作れない様にする所の治安維持法を制定したこと

つまりブルジョアジーは議会を自分のものにし、完全に自分が支配できる様にし、労農大衆の直接的政治的行動を弾圧することの出来る目安をし、又大衆行動を議会によつてマヒせしめる様に自分等の家来社会民主主義者を作つて置いて、そして議会を労農大衆の前に開いたのだ 彼等は用意周到だ。

普通選挙は労農大衆の要求だ、そしてこの要求の貫徹のために労農大衆は議会を目当して戦つた。この大衆の威力におそれてブルジョアジーは、普通選挙案を制定せねばならなくなつた。そこで彼等は議会を充分に自分等が利用出来る様にした上で普選案を制定したのだ。そこで普選案も彼等のギマン政策なのだ。

もし大衆が血みどろの決戦で普選を獲得したのであるならば、今日の如き制限付きのものでもなかつたろうし、又共産党が公然と名乗りを上げて議会を叩きこわすために議会に乗り込める状態を獲得したろう。

治安維持法なぞは作らせなかつたろう 社会民主主義者の策動の余地もなくしてしまつたろう だが日本のプロレタリアートは以上の激烈なる闘争により、尊い血を以つてかち得たものではなかつた。

だから日本に於ては大衆行動の出来ないような、その程度の公然の活動が出来ないような状態に置かれている。彼等自身が未だ議会の幻想に支配されているのだ。そして社会民主主義者に横行バッコされる余地を持つているのだ

(三)

大衆党は大衆の無産闘争によつて結合せる労農の政治的ブロックである。このブロックの最も根本的な存在の理由と役割は、無産闘争に参加し、大衆の行動によつて労農大衆の要求を戦いとると云う所にある。

もし大衆党が議会にたよることとなり、無産闘争を捨て去るならば、それは社会民主主義者の政党となつてしまう。議会に代議士を送れなかつた時に於ては、労農、日労、社民の各党は勢い大衆党の役割を果たしていた。勿論以上の政党の中、真実に大衆党としての役割を果していたものは、第一に労農党である。又は労農党の党員大衆、社会民衆党の党員大衆である。

日労、社民の幹部はこぞつて現実闘争に対してサボタージュした。彼等はストライキをもしめ殺した。況んや蒋介石に対して謝辞すらも与えたではないか。支那の兄弟に対し、朝鮮台湾の兄弟の言語に絶した迫害に対して、彼等は何をやつたか？

社民党の幹部は意識的に計画的に大衆の行動を押え付け、議会の幻想を伝播していた

もし大衆党が議会行動を第一に置き、議会外行動を従属せしめると云う原則を放棄するならば、一旦から大衆党は大衆党でなくして、社会民主党になつてしまう。今は議会に八名の代議士を出した各党は、急速にその各々の行くべき方向に向いつつある

即ち社会民主主義者は社会民衆党を先ず第一に変態し、進んで日労党の左翼社会民主主義者と協力し、更に一歩を踏出して大胆にも各党の議会内行動の議員団を作ることを提唱した

事毎に消極的な態度を持つていた彼等は、今は却つて大胆になつた 議会に無産派の代議士が出た、我等の時代へ、これというのが彼等の真意である

大衆党をめぐる左翼の過去三年の苦闘は、大衆党を議会党とせんとする社会民主主義者にこれを奪取されないための、これを真の大衆行動党として発展せしめるための血と涙の闘争ではなかつたか、そして今日代議士を議会に送るに当つて、その代

議士に一パイくわされ、議会行動第一主義に改宗するならば、どこに左翼の苦闘の意義があるのだ！

左翼として最も輝かしい活動を発展して来た労農党の党員諸君、日労党の党員諸君、諸君は議会に代議士を送りたいばっかしに右翼と闘争して来たのか、否、断じて否である。それならば諸君！ 一月九日協調会館に開かれた各党協議会に於けるあの声明は何たることだ!!

(四)

声明はこう書いている――

『無産党議員団及び無産党議会対策合同委員会は本日目出度生立した。前途光輝ある使命を有する我等無産階級の政治戦線は、茲に生れた。我等は今後協同一致階級的利益のために勇往邁進せんことを誓う』

議員のブロックが出来たことが、何が目出たいのだ!!

『政治戦線は茲に成った』とよくこうヌウヌウしい事が云えたものだ。

労農党は先きに声明書を発表して、議会内行動は議会外行動に従属されなければならぬと主張した。そして此の会議に於ても以上の精神の下に労農党の代表者は社会民主主義者と戦ったのであろう。

だが結果たものは、一体何であるか!! 過去に於ける大衆の直接的闘争の輝かしい、功績を抹殺し、議会行動の花々しい幻想を声明するようなことになったではないか!!

『政治的戦線は茲に成った』何が政治戦線だ!! 大衆党の合同はどうなったのだ。一番肝心な大衆党合同をそっちのけにして、議会内に於ける議員だけがブロックを作ったからと云って、それが何で目出たいのだ!!

かかる会議を従来の慣習で幹部のみにまかして置くから、いつも一般党員はツミ合にされるのだ。

一体今度の会議に出席した連中の顔ぶれを見給え！ 第一に阿部だ、第二に鈴文だ 第三に加藤、片山、藤井、荷原だ。僅かに細迫、藤波、秋葉、相谷、山本の諸氏のみが左翼として忠実なる人達であるだけではないか。大体何で、労働者農民の全体的利益に関することを、インテリゲンチャと社会民主主義者にまかして置いたのか!!

全労働者農民は、この声明書の精神に断乎として反対せねばならぬ。然らずんば全労農大衆は社会民主主義者のツミ合になってしまうのだ！

議員のブロックは第二だ。大衆党合同が第一だ。労農大衆の全体的利益をよりよく数に示すために、議員団のブロックを作らしめざるを得なくするものは、大衆の強要であるのだ。

社会民主主義者に利用され一掃れた議員団のブロックは全然意味がない。我々は断然と社会民主主義者の行動を制約せねばならぬ。

社会民主主義も日労の幹部も議員団のブロックに賛成したのであるから、大衆党の無条件合同に賛成しないことはないであろう。もし、議員団のブロックには賛成する。然し大衆党合同には反対だ、少くとも補本主義の精算という条件を入れない限り反対だと云うならば、それこそ彼等の正体が何であるかをハッキリ大衆に示すことになるのだ。

即ち彼等は議会内では協同しよう、然し議会外では分離しよう、議会内行動で大衆をゴマカスことには賛成だ、だが議会外行動によって大衆が革命的行動に訓練する力強い議員組織を作ることには反対だという、彼等の正直なる所を表示しているのだ。

労農党は喜んで議員団のブロックを作ることに賛成した。しかも条件をつけずに。然しそれは労農党の本意ではない。労農党は一歩を進めて、しやにむ無条件合同の即時実現を社民日労に強要さす！ そこにこそ労農党の真意があるのだ。

又それが社民、日労の社会民主主義的幹部の困惑する所だ、そこに大衆の利益があるのだ そして大衆党合同を真に労農大衆のものとして実現し得ることになり、議会主義の幻想の下に協同ブロックを作らせることに成功した社民、日労の幹部のバケの皮をヒンムイて、彼等を叩きのめすことが出来るのである。

議員団のブロックにも何等条件をつけずスタスタ組んだ。日労、社民の幹部は、議員の本来たる党の合同に付いて何等条件をつける理由を見出すことが出来ないはずだ。然し彼等はそれを見出そうとするであろう。そのカラクリをバクロせよ！

大衆党の合同を
即時実現化せよ！

労働農民党
拡大中央委員会の任務

来る十七日労農党拡大中央委員会は東京に於て開催される。左翼的大衆行動党たる労農党の拡大中央委員会は初めて重大なる意義を持っている。無産党へ八名の代議士が出されたこと、議会の幻想が具体的な事実として現われてきたこと、社会民主主義者の進出、大衆党合同の機運が促進されていること、プロレタリア前衛日本共産党が出現したこと等の諸事実は、この拡大中央委員会に於て、如何なる議案が討議されるか今日[illegible]ない。然し第一、総選挙の批評、第二、合同問題、第三、議会内外の闘争に関する議案等が中心点をなすであろうことは明白である。

総選挙に於ける批判に付いて

第一問題となるのは、選挙協定会議に於ける無産政党協定の問題である。

選挙協定問題に付いては、日本共産党それ自身としても誤謬を犯した。それは本紙前号に詳細に述べたところである。

左翼大衆党としての労農党は、選挙協定会議に於て適確と自重の態度のみをとり、左翼労農大衆の欲求を正しく代表しなかった。社会民主主義者を批判することを忘れ、却て彼等に有利な地盤を与え彼等に利用されたという点が重要である。これは充分に批判され討議されねばならぬ。

今日労農党の内部に於て次ぎの如き主張をなすものがある『労農党は大衆党である。従って大衆党は党として社会民主主義者を批評することは誤りである。』と。これ程の馬鹿々しい主張はない。労農党は大衆党である。そのことは正しい。だがこの党には然も左翼的な労農大衆を包擁しており、その幹部も全体として左翼である。従って左翼大衆が結集された組織体である。

だから労農党幹部が党を代表して、党として社会民主主義者を排撃し、大衆を彼等に奪われないようにすることは、然も大切なことであり、同時に幹部がかかる行動をなすことは左翼として党員大衆の意志を正しく代表したと云うことになるのだ。

もし党として社会民主主義者を批判したいということになれば、党は左翼としての任務を破棄することになる。

選挙協定会議に於ては、積極的に社会民主主義者の欺瞞をやるべきであったのだ。

社会民主主義者が労働者農民の代表として議会に送られるならば、労働者農民に対するブルジョア地主の支配を強化せしめることになるのである。

細胞的な無産党という名に迷い込んでしまって、又は無条件合同という主張を機械的に考えてしまって、社会民主主義者に対する攻撃と批判を放棄するならば、左翼は左翼でなくなってしまう。従って労農党は党として社会民主主義者を批評し攻撃して悪いと云う連中は、それはとりもなおさず社会民主主義者の廻し者であって、左翼党たる労農党をカクランせんとする連中である

党として社会民主主義者を批評しては悪い、それは間違いであるという主張は、もう、労農党の中にも社会民主主義者はいるのだから、そんな口ハバったい主張は出来るものではない、ということなら一理はある。

即ち現にそれを主張している連中が、社会民主主義者の手先であるからだ。

も労農党はさきにも述べた如く、全体としては左翼大衆の結集体であるとしても、その中には「労農」一派もいる。社会民主主義者も少しはいる。そして、彼等は左翼の指導に対してその統制を乱している。然しそれは今日に於てはやむを得ないことであって、労農党が共産党でない限り、彼等をも包擁しなければならぬのである。然しそうかといって彼等の横行カッポを許してよいのかと云えば、否である。

断じて彼等に勝手な行動をとらせてはならぬ。だが然し除名や乃至機械的な方法によって彼等を政治するのでなく、大衆の行動で退治してしまうのでなければならぬ。だがソンナ有象無象を包みながらも、労農党の主要構成要素は左翼大衆である。この点が日労党や、社民党と相異する所である。大衆党という名の下に以上の相異点を見失ってしまってはならぬ。

第5区の加藤と秋和君の対立問題に、労農党内の「労農」一派は声明書を出して盛んに党の指導統制を乱した。その「労農」一派なるものは、労働者と農民ではないのだ。文士だ。所謂無産階級派を名乗るオクツァシ達である。最も卑劣な小ブルジョアである そんなモノか盲動した所で労農大衆に影響はないであろうが、然し少くとも彼等をして断乎として労働者農民の指導に服させることが必要である。少しでも彼等に盲動の機会を与えるという事は、左翼党としての労農党の任務に多少のゆるみがあるからではなかろうか。又少くとも無産階級の利益を代表していると自称する「労農」一派が労農党の内部カクランをやるという事は、断じて許すべからざることである。『共産党のビラがまかれたために労農党は選挙に失敗した』という様な意味のことを云っている党員があると聞いた。これ程まちがった考えはない、労農党は議会党ではないだろう。大衆の行動党であろう 大衆行動を有利に発展せしめるために議会のイスをもつことは必要であるが、然し議会を目的の党ではない、当選第一主義ではない筈ではないか、そこで総選挙の失敗成功は真に代議士を多く出せたか否かにかかっているのでは断じてない筈だ、総選挙の期間に、どれだけの大衆党員が出来たか、どれだけ我々左翼の政策と目的が大衆の間にしみ込んだか、どれだけ強くブルジョアと地主とにブッかって行ったか、どれだけ多く大衆を政治的に覚醒せしめたか等が、労農党としては、少なくとも行動的大衆党としては主要なる問題ではないか、そして共産党が従来全部地下に姿を沈没しているのが、突如出現して、大衆の要求を明確なるスローガンに表わし大衆に示したことは、労農大衆の闘争を一層明確にし、新しい対立を一層明白にしたのではないか！ 勿論党の若いということのために、充分に党の生活を全大衆に正しく反映せしめ得られなかった技術上の失敗はあったが、共産党の出現によって、労農大衆の間に急速に階級意識を明瞭ならしめたではないか、だから共産党の出現によって労農党は選挙に失敗したのではなく、それによって却って左翼党は行動を明瞭に、得、大衆の左翼的傾向を急速に高める方向へ向わせることが出来たのではないか、共産党が出現したから労農党は失敗したと主張する連中は、二つの方向をもって結局は社会民主主義者となり終るであろう。

第一の方向は議会主義の方向、当選第一主義の方向であり、第二の方向は共産党排撃の方向である

もし労働階級が共産党を排撃し、共産党を作らない方がよいと云うならば、それは結局ブルジョアの前に、武装することを放棄することになり、敵の軍門に降伏することを意味するのだ。

総選挙中に発生した議会中心主義の幻想に付いて、正しき批判が必要である。然らずしては労農党は、大衆的行動党たるの任務を解消し、議会主義の社会民主主義者の陣営に移行してしまう危険がある。

合同問題に付いて

第一に重要な点は前述したる如く、日労、社民、労農を大衆党と一口にきめてしまって、各々の持つ意義を充分に知らなかったこと、見なかったことである。

そして無条件合同と云うことを機械的に考えて、ひたすら適当の態度を持したことである。

第二に大衆の現実的闘争の協同を主要な合同問題のテコとせず、上からの取引に依然として終始していることである。

第三に、大衆党は勢い党の内部に日和見主義者も社会民主主義者も含まざるを得ないという大衆党の特殊性がある。成程大衆党の内部には以上の如き種々の政治的分子を含まざるを得ない。だが、それだからこそ大衆党であるのだと考えたら、根本的な誤謬である

大衆党は、文字通りの大衆の結合体だ、一定の目的、政策、意見の一致で集合するものではない、そこで然も重要なことは大衆的行動だ。

日常闘争の大衆行動をやる点である。党内に生じた日和見主義者がいるならば、彼等は大衆の直接行動には極力サボタージュをやる。そして議会を専門にするように大衆党を指導しようとする。之に反し左翼は大衆の行動に結びついている。少しもそれとはなれていない。

そして真に行動党として大衆党を発展せしめようとする。大衆党の内部に於ては、この両者の闘争があるのである。

大衆党の意義は、議会の闘争ではなく大衆の現実闘争にある。現実闘争（経済的及び政治的の）に結びついているからこそ、大衆党たるの意義があるのだ、現実的な行動によって解決しようとして、又得る所に、大衆党の意義はある。

決して共産主義者も社会民主主義者も日和見主義者も此に包含されているから大衆党であるのではない。之等諸々の分派を現に大衆党が包擁するということは、大衆党が現実闘争の党であるからこそ、以て来ることなのである。

そしてこの現実闘争を、左翼は勇敢に戦いぬくからこそ、大衆党を行動党として指導し得るのであり、その行動によって社会民主主義者や日和見主義者を大衆から引きさくことが出来るのである。

だから合同問題に於ける無条件合同ということは、ミソもクソも一しょになれという事を断じて意味しない。出来るだけ社会民主主義者の勢力を弱くし左翼を強くするという方向からなされるものでなければ意義をなさない。それは理論だけの問題でなく、大衆の現実闘争の協同行動が第一に要求されることである。日労幹部及び「労農」一派の単一条件ということは、大衆党合同に於ては結局大衆党を社会民主主義者が引きずることをイミするのである。

断じてかかる主張に依拠し、又は妥協すべきではない。そこで今日に於ては『単一条件』は労農大衆の間にその誤りであることが明日になった。日労幹部もいつまでもこの条件を固守することが出来なくなって来た。

そこで彼等は今は労農党の内部をカクランし、場合によって

は労農党を分裂せしめようと策動している。そして労農党はウッカリすると彼等の術中に陥らないとも限らない危険がある。彼等も立場は社会民主主義ではあるが、然し鈴木、赤松、の如く、正真正銘の札つきではなくて、左翼的外観を示しているから、労農大衆の左翼といえども、彼らに引きつけられる危険があるのだ。

「労農」の北浦は、労農の二月号に、日本農民組合は先ず福本主義を清算せよと云っている 即ち日本農民組合の中から福本主義者を除名さすという意見を提出している

これほど危険な、そして裏切的な主張はない。主義としての清算をショウヨウするということは、政治的に具体的には除名をショウヨウすることになり、それは事実上大衆団体の分裂を促進する議論である

日本農民組合の大会に於て、組合員大衆はこの分裂主張の議論を受け入れるようなことはないであろうが、もし少しでもこの議論を受け入れたら大変である。

即ち組合員かこの北浦の議論をうけ入れて大会が動揺し、その結果万が一分裂とか除名とかいう様な現象が現われたら、「労農」一派は何をするつもりだ。

然し今日に於ける「労農」一派は立派な裏切者なのだから、彼等としては分裂策動が本望であろう 彼等は、農民組合を分裂せしめた！ 万歳！ 労農党を分裂せしめた！ 万歳！ と叫ぶであろう。

合同問題に付いては、以上の点を充分討論し、今後の方針を確立する必要がある。

議会内外の行動に付いて

これは種々なる問題がある 先ず第一、議会内行動と議会外行動と、どちらに重点を置くか、ということが一番重要である。

労農党は左翼の行動党として光輝ある歴史を持って来た 従っていうまでもなく、議会外行動が即ち大衆の現実闘争が、その発展と大衆行動による政治的解決がこの党の生命とするところであり、従って議会内行動はこの議会外大衆行動に従属するものであるという従来の精神によって貫かれるであろうか、その党内に巣くう「労農」一派の左翼社会民主主義者か、ガヤガヤ反対して、議会内行動が重要であるというか如き傾向を持つようになったら、それは左翼党としての、大衆行動党としての任務役割の放棄であると云う事を党員大衆は銘記しなければならぬ

以上の結論として労農党拡大中央委員会の任務を指摘すれば、

第一、大衆の行動党たることの任務を確立すること

第二、社会民主主義者と闘い、彼等の大衆の間に浸入することに対して敢然と闘うこと、議会の幻想を打ち破ること

第三、大衆党の合同を促進すること、行動的大衆党としての行動を以て──議会主義によってではないということを忘れてはならぬ

婦人同盟の組織に就て

日本共産党はプロレタリアの党である 然しながらプロレタリア前衛の断結日本共産党はプロレタリアの目的、プロレタリア独裁を樹立するがためには、ブルジョアと地主のブロックに対する全民衆の一切の反抗を代表し、その先頭に立って闘うものである。だから党は今日婦人の反抗とその闘争を無視せるものではない だが、婦人の反抗と闘争とは如何なるものか、云うまでもなく婦人の諸被圧迫を意味するのだ 男子よりの婦人のレイゾク的地位の解放ではないのだ、だから婦人の敵は男子でなく、ブルジョアと地主のブロックである

従って婦人の闘争は階級的な闘争であるべきである 婦人も男子も共に階級的な同一戦線に立つということが、根本的に重要である 従って日本共産党は婦人も党の組織に動員する 日本共産党は男子のみの党ではない。階級の組織である、その政党である

然らば日本共産党は婦人の闘争組織について如何なる政策を持つか？

第一、に婦人大衆を大衆団体に動員する所の任務 即ち工場にかける労働組合の組織には党の現実闘争を通じて婦人を動員する、農村に於て農民組合に同じく闘争を通じて婦人を動員する 消費組合 家庭の問題その他の一般の家庭婦人の直接なる要求に基いて 男子と同じ闘争、組織に動員する

第二、そしてその闘争と組織とを通じて、婦人を政治的に訓練する、婦人のみならず、すべて大衆はこの現実闘争によってでなければ政治的に階級的に訓練されるものではない。

第三、この闘争により政治的に訓練された婦人は党員たり得る。即ち党の組織に加入する、そして真にプロレタリア階級的な闘争を教育する。

だから共産党は終始一貫婦人のみの組織を作らない、否婦人のみの組織を作ることに断乎として反対する。

然るに昨年我が党は婦人のみの団体、婦人同盟の組織をつくることのイニシアチヴをとった、この政策は誤謬である だが この誤謬はもっと根本的な誤謬に根ざしていた。

第一、組合主義対政治闘争と全無産階級政治闘争の理論。

第二、共産党と大衆党との任務の混同の理論にあった。

この理論からすれば労働組合の闘争は組合主義的である、で、それは全無産階級的政治闘争ではない、従って婦人の政治自由獲得のための闘争は労働組合に於ては出来ない それは全無産階級的政治闘争を行い得る主体、即ち労働農民党によってでなければ不可能である。然し労農党への加入は法律上許されていない。だから婦人は全無産階級的政治闘争の一翼として婦人の政治結社──婦人同盟を作らなければならぬと云う事になったのである

だが今日、以上の理論は根本的に誤謬であることが明らかになった。そして共産党と大衆党の任務は明白となる 現に共産党へ婦人は加入せねばならぬということが明らかになった

そして又労働組合、農民組合その他の日常現実闘争のための男子と同じ組織に動員されることは法律上既に自由を獲得している そして婦人はそういう現実的闘争組織の中に於いて政治的な訓練を受ける

日常経済的闘争に動員されない、そしてこの闘争に於て訓練されないではプロレタリアの政治的自覚は生れて来るものではないのである。

だから婦人は先ず第一番に男子と共に同じ闘争組織の中に動員されることが重要である。婦人のみの団体、構成も、結局労働組合に組織されている婦人、農民組合に組織されている婦人のみが集る。

それに小ブルジョア婦人の誰かが動員されるに相違ないのである だがここに動員された小ブルジョア婦人は最初はマジメに運動に参加するのであるが、彼等がイニシアチヴをとる上は、本来の小ブルジョアの本領を発揮し、婦人団体を自己のものとして支配しようとする。そして今日婦人同盟の組織は、存立の意義を失っているにも拘らず、尚る九日に全国大会を開こうとしている

然し乍らかかる現象の出現は、我党の根本的な誤謬に基く必

然的な産物であり、党としての重大なる責任である。

党は今日以上の誤謬を整理して、婦人同盟に対して此の如き根本的な組織改造を主張するものである。

今日婦人は政治的自由がない、参政権に於て結社に加入する権利に於て、そこで婦人の政治自由獲得の同盟をつくる。然しそれは婦人のみの問題でなく階級的の問題であるから男子と共に理解される。即ち対支非干渉の如く、議会解散請願運動の如く大衆的な組織とする。そしてそこには現在婦人同盟に組織されている労働組合、農民組合、その他の婦人も参加し、この闘争に依って婦人の政治的自覚を高めて行くという組織にすべきである。

武装蜂起への訓練と準備とを急ぐことによってパリー・コンミューンを記念せよ！

来るべき帝国主義戦争の危機に対しては階級闘争の展開と内乱の準備とを以って答える

五十七年前の今月十八日、フランスの首府パリの労働者は一切の権力を自分達の手にとって、世界最初のプロレタリア独裁を打ち立てた。これがパリ・コンミューンだ。コンミューンは今日のロシアに於けるソヴェトと全く同じものだ。コンミューンはわずか七十日間もちこたえただけで兇暴な反動のために圧殺されてしまったが、その経験は労働階級にとって永久に生きている。

パリの労働者は最後の一人まで武器をとって反革命者と勇敢に戦い、数万人の貴い血を流してコンミューンを死守して倒れたのだ。

此の革命の失敗と犠牲とは、決してムダではなかった。それは従来のプロレタリア革命運動の最初の土台になった。一八七一年のフランスに於ける敗北は、一九一七年十一月のロシア革命の勝利を準備したのだ。

◇

コンミューンが成ったのは、ロシアのソヴェトが権力をとった時と同じように、ブルジョア共が始めた掠奪戦争が公然の階級戦争即ち内乱に変った時だ。コンミューンの出来た初の年にフランスの国王とブルジョアとがプロシアと戦争をオッパジメて散々自分の国の兵隊を殺した揚句、戦争はマケになって、プロシア軍はドンドンフランスに侵入し首府パリが危くなった。

そこでパリ市民は蜂起して共和制を布告し、国防政府というものをつくったが、こうなって来ると、パリを守るためには何といっても労働者を武装させる外はない。ところが『武装したパリは武装した革命』で、パリの労働者が自分で組織した力によってプロシア侵入軍を打ち破れば、同時にフランスの資本家の権力が打ち破られることになる。

平生国家のためとか、国民のためとか云って労働者を喰っていたブルジョア達は、少しもチュウチョする事なく、国民の利益をすてて、階級の利益をとった。彼等にとってはパリ労働者が権利を得る位なら、フランスがプロシアに降伏する方がよかった。

プロシアに降伏したところで、ブルジョアは何とか妥協できるし、それからユルユルと労働者を搾ることもできるが、それに反して労働者が権力をとったら最後はそれこそ、ブルジョアは根こそぎヤッツケられてしまうからだ。

彼等は早速降伏の陰謀を進め、国民議会をパリからボルドウに移し、最後には政府も、プロシア軍に攻囲されているパリを見捨ててヴェルサイユに移った。

かくしてフランスのブルジョアはプロシアと休戦して、パリの労働者に挑戦したのだ。これに憤激した労働者は自らパリを守り、自ら一切の政治を管理するために、国防軍その他から委員を選出してコンミューンを組織した。これは明らかに一つの政府であり、一つの権力である。そこでヴェルサイユに移ったブルジョアの政府とパリ労働者政府──この二つの政府が対峙するに至った。

◇

コンミューンは最初、労働者と小ブルジョアと共和主義ブルジョアの一部とを含んだ雑然たる組織であったが、然し最後までふみとどまって、断乎としてコンミューンを守ったのは労働者だけであった。

コンミューンは又、最初からハッキリした社会主義の政綱を以て建設されたのではないが、それでもわずか七十日の短い期間に、常備軍を廃止して全民衆を武装させ、宗教を国家の権力から引きはなし、政府役人の俸給は大臣でも何でも、普通の労働者の賃銀と同じ程度に抑め、パン屋の夜業禁止、労働者の賃銀引き下げ禁止等を断行し、又工場主が放棄した工場を労働者の共同管理に移すという工合に、立派にプロレタリア独裁の力を発揮した。

然しこれだけのことが出来たのは、ブルジョアの国家機構をスッカリぶちこわして、全然新しいコンミューンという労働の委員会組織をつくってこれに立法行政一切の権力を収めたことと、労働者を武装させたことによるのだ。

ロシア革命ではそれがソヴェト制度、赤軍組織という、もっと発展した型をとった。そしてこれこそが、プロレタリア独裁というものの具体的な型である。

これを作らずして、あり合せのブルジョア議会、軍隊警察などに頼っていたのでは、決して労働者の天下をつくることが出来るものではないのだ。

だからマルクス及びエンゲルスはこのコンミューンによって、『プロレタリア独裁』でなければ社会主義革命は、遂行できないということをハッキリ学んだのであり、レーニンとボリシェヴィキ党とは、これを忠実に実現して革命の勝利を得たのである。

◇

然しコンミューンはまだロシア革命のようにシッカリした政策と鉄の規律とをもった労働者政党（共産党）によって指導されていなかった。

それから特に地方の農民に対する政策が全然欠けていた。何よりも平穏無事をのぞむ農民は、労働者のコンミューンを助けるために血を流すのはバカげたことと考えていたのである。

マルセーユ、リヨン、サンチチアンヌなどパリ以外の労働者都市にも引きつづいてコンミューンが起ったが、皆思い思いにやったので、パリとの結合は殆んど全くなかった。

だからパリ・コンミューンが、パリ市中の社会主義建設に営々となっている間に、ブルジョア共は全国の農民をダマシ込み、プロシアのビスマルクから十万人のフランス兵捕虜を払い戻してもらい、軍隊を立て直してパリに押しよせた。

五月二十一日から一週間の『血の週間』が始まった。ヴェルサイユの反動軍は約三万の勇敢な労働者女子供までを射殺したり焼き殺したり、あらゆる暴虐の限りをつくし、四万五千人をホリョにして、後にその大部分を殺してしまった。

この反革命の指揮者のチェールというやつは、パリ労働者の流血の中に立って、『これで社会主義はカタヅいたー』と云っ

た。

然しパリ・コンミューンと社会主義とは永久に生きている。否、今日ではロシア革命と国際共産党とによって全世界にひろがつて生長している！

普仏戦争よりもまた欧洲戦争よりも、もつともつと大きな世界戦争の危機が今迫つている。帝国主義戦争の危機に対して、階級闘争の展開と内乱の準備とを以つて答えろ！

すべての労働者及び貧農は労働階級の政党であり前衛軍隊である共産党の旗の下に糾合せよ！

武装蜂起とプロレタリア独裁とのために訓練と準備とを急げ！ 来るべき社会主義革命に於てコンミューン戦士の犠牲をアダにするな！

労働者及び農民の革命的同盟万歳！

プロレタリア革命前進！

赤旗の反影

三人の兄弟を殺された
香川農民のために奮起せよ！

全国労農大衆の信望を持ち、労働者農民の政府を作れ！と叫んで勇敢に戦つている大山郁夫氏の当選を妨害し、間接に全国労農大衆の政治的進出を弾圧せんために、田中反動政府は、この全開期に於ける最も戦闘的な農民の組織されたる香川の農民を徹底的に弾圧し、検束、拘留、拷問はまだしも、遂にあまりにも乱暴なる彼等の取調べと責苦とにより、三名の農民を憤死せしめた。否、彼等が惨殺したのだ。

諸君！ 彼の伏石事件、土器事件に最も勇敢に闘つた香川の戦闘的農民は、今やこの狂暴なる地主資本家政府の暴虐に決死的になつて闘争している。彼等は、

『三人の兄弟を惨殺した田中内閣を倒せ！
農民を苦しめる大地主の土地を没収せよ！
天皇と結びついたブルジョア議会を倒せ！
労働者農民の政府をつくれ！
労農独裁政治万歳！』

を叫んでいる。

大衆的反抗運動は、今や全国的にまき起されんとする倒閣運動の中心として香川に火の手をあげんとしている。

革命的労働者農民諸君！

この暴虐はただに香川の農民にのみ下されたものではない。これは明らかに全国労農大衆の革命的陣頭に下された血の犠牲だ。

諸君は直ちに三人の農民を惨殺したブルジョア政府の暴虐に対して大衆的な反抗運動を起せ！

三人の兄弟を惨殺した
田中反動政策を倒せ！
天皇と結びついた
ブルジョア議会を解散せよ！
労農の革命的民主政府をつくれ！

（日本共産党関東地方機関紙『情報局』号外より）

木崎村島屋の争議激発を掴む
大衆的行動を以て
地主を叩きつぶせ‼

大正五年以来、小作料減免を中心として、木崎村島屋で争議が起り、失木地主は二四も差押えをやり、米を小作の家からカツギ出したり、地主はあらん限りの力で小作をヘコマそうとかかつた。

そのため十九人もの脱落者を見たのであるが、後の三十七人は益々堅固に団結して戦つているので、地主も金につまり、裁判をつづけることが出来なくなつている。

地主は暴力団をやとつて、うでづくでも田を奪つてみせると揚言し、小作は死んでも田をはなすものかとイキ盛んで雪どけと共に一大衝突はまぬがれぬ状態にある。

戦闘的貧農は、大衆を動員して木暮地主を叩きつぶせ！

死んでも田をわたすな！

資本家地主の政府をブッ倒して大地主から土地をとり上げろ！

労働者農民の革命的政府をつくれ‼

悪地主を叩き殺せと
青年地主宅を襲撃す

新潟県中蒲原郡栄本村上郷里の悪地主田中佐五郎は、わずか、一割の減免要求にも拘らず、之に応ぜず、土地返還の訴訟すらおこし、他の地主は皆解決しているのに、こ奴だけは今なお頑張つているというインゴウな奴であるが、小作人に恨まれ、家をシュウゲキされて、戸障子は石を投げられ、メチャクチャにされた。

警察はこの時とばかり地主の手先となつて、中郷屋の青年七名（十七八歳の者もある）を引つぱつて、ブッタリ、ケッタリ、耳下に出血させて、白状せんと編笠かぶせて新潟に送るとか、いつまでも留置場にとめるとかオドシつけて、無理矢理に白状させている。

地主の家がシュウゲキされるのは当然だ！

青年に非はないのだ！

脅迫拷問する警察を糾弾せよ！

地主を追つぱらい叩きつぶしても引張らぬ労働者農民の革命的政府をつくれ‼

（日本共産党信越地方機関紙『赤色信越』第七〇号より）

前衛指導の下に
札幌の大工場全部動揺！
帝国製麻が最先きに起つ！

我党札幌の工場細胞は、全道の工場細胞に率先して『工場新聞』を発行し、既に各工場新聞とも第四号、第五号と回を重ねて居り、その闘争は益々具体的に工場内の労働者の不平と我党のスローガンとを結びつけて、闘争の先頭に立つて日常闘争の激発指導に努めている。

その結果或る所の工場に労働の闘争機運がみなぎり、各工場とも大動揺を来した。

帝国製麻の労働者先ず火蓋を切り、続いて札幌鋼、キャンデー、タイムス等が起たんとして居り、市電、鉄道省苗穂工場、ビール等も動揺しはじめた。かくて数日の後には札幌全市の大工場が悉く争議に入る状勢である。

『工場新聞』の威力を見よ！

『上からの煽動』の効果を見よ！

『闘争の実際、勝利の実際』は模範的煽動者！

全道の各工場新聞は、札幌の全工場が動揺していることを全労働者に報告しろ！

札幌帝国製麻八百名の争議！

各職場代表者会議を開いて要求を統一
日給の値上！ 請負制度の廃止！
一切の手当、賞与の本給繰入れ！
八時間労働の即時実施！

札幌の帝国製麻争議は、日給をなくして、請負仕事で労働者を極かぎり働かせる搾取なしぼり方をしている。而も最近ぐんぐん請負労賃を値下げして来たので、労働者の不平は高まつて来た。

我党の前衛は直ちにこの問題を捉えて煽動した結果『三号職場』『原料職場』の労働者がケッ起し、要求提出に決し、『製粉職場』も賛成して来た。

前衛は直ちに『各職場代表者会議を開いて要求を統一せよ！』のスローガンと共に、一切の反抗を次の要求に統一して闘争すべしと提唱した。

一、日給の値上、請負制度の廃止！
二、一切の手当賞与の本給繰入れ！
三、八時間労働制の即時実施！

この要求を支持した各職場の代表者は三月六日代表委員会を開催し、いよいよ全職場、統一的要求を掲げて争議を起すことになつた。――（六日札幌製麻工場細胞通信）

会社の抑圧に反抗して札幌製粉動揺す！

『親睦会』の自主化！
一般社員にする役員選挙
監察部の即時廃止！

最近会社が工場内にある『親睦会』に『監察部』なるものを設けて、手ごわい労働者を率先馘首する機関とした。元来この『親睦会』は、一昨年九月の争議によつて労働者が血みどろの戦いにより獲得した労働者の工場内に於ける家族である。

然るに会社は裏切労働者を買収して、この『親睦会』をスッカリ組長級で固め、会社の御用機関にしてしまつた。そしてこの裏切り組長共を勝手に賃銀や時間を決めて、益々労働条件を引き下げている。

更に今度は、監察部を設けて不平労働者を探り出し、馘首しようとはじめたのだ。

全職工は、『親睦会などつぶして終え！』とさわぎ出したが、前衛はこれを指導して、次の要求の下に戦うことを提唱した。

1、親睦会の自主化！
2、役員の一般投票による選挙！
3、監事の公開、会社の干渉絶対反対！
4、賃金の値上！
5、八時間労働制の即時実施！

この前衛の提唱を支持した各職場の戦闘的労働者は、直ちに各職場に於て煽動をはじめ、近く各職場代表委員会を開き、更に全従業員大会を開いて表記の要求を決定し、会社につきつけるべく、そのため各職場は怠業状態である。――（六日製粉工場細胞通信）

札幌市電従業員の不平高まる

身元保証金制度の撤廃！
十六台のボロ電車を廃車にしろ！
賃銀を二割値上げせよ！
八時間労働制即時実施！

会社経営から市経営に移つても、少しも従業員の待遇はよくならない、益々悪くなる一方である。

そして二月末の給料から従業員に断りなしに、身元保証金として五円を天引し、更に三月も天引することがわかつた。札幌市電工場細胞がアジテーションした結果、各グラムに『保証金制度撤廃』の要求決り、更に前衛の提唱した

(1) 十六台のボロ電車を廃車にしろ！
(2) 賃銀を二割値上しろ！
(3) 一交替毎に四十分の休憩！
(4) 八時間労働制の即時実施！

を支持して各グラム共にこの話しで持ちきつている。どうしても近く一そう動揺るべき状勢にある。――（六日札幌市電工場細胞通信）

＝以上日本共産党北海道地方機関紙『北海労働者』第八号より＝

編集後記

我が中央機関紙『赤旗』も、今号を以つてはや五号を重ねるに至つた。

労農大衆が政治的自由獲得のために、議会に八人の代議士を送り、労働者と農民の政府を作れ！と絶叫している現在の政局に於て、共産主義者は何をなすべきか？

彼の代議士の行動をいかにして共産主義のための闘争に従属せしむべきか？ 発表論文は之に対する行動原則を示すものである。

近く開催されるべき労農党拡大中央委員会及び婦人同盟大会に対する我党の態度も夫々の論文によつて明白にされている。

今号には各地方に於ける闘争を、各地方機関紙から採録した。かくて本紙は各地の闘争を限なく反映して真に中央機関紙たるの質を変えんとしている。今後も毎号この欄を設けるつもりである。

各地の同志諸君！ 奮起せよ！ 諸君の闘争は益々本紙を見栄あらしめるであろう！

一九二八・三・二二 第五号
赤旗 月二回発行
日本共産党
中央機関紙

☆労働組合の戦線統一によって
一大後衛部隊を組織せよ!
☆共産党検挙は全労働大衆に対する弾圧だ!
社会民主主義に抗して戦線統一を実現せよ!!
☆農民の合同は左翼農民進出の一歩だ
闘争の為の合同へ!
左翼勢力の拡大へ!
先ず起って共産党検挙に戦え!!
☆編集後記

労働組合の戦線統一によって一大後衛部隊を組織せよ!

去る十五日早朝全国廿一の検事局は大活動を開始して全国に亘って、労働組合、農民組合、労農党の各支部迄に、本部は数度の泥靴に蹂りんされ七百数十名の労働者農民の活動分子は検挙された。

支配階級は新聞記事を差し止め一切の暴行をインペイしている。だが、彼等の目的は労働階級の前衛日本共産党の弾圧にあることが明瞭である。共産党は労働階級の唯一の党である。

共産党に対する弾圧は、だから労働階級全体に対する弾圧である。と同時に、吾労働階級は最も近接せる同盟軍として農民を握ってゐる。故に労働階級の党である共産党は、同時に『土地解放』と云う農民の最大限の要求の為にも闘う。共産党に対する弾圧は又農民全体に対する弾圧をも意味する。

之故に共産党に対する弾圧に向って真先に立って闘うものは労働階級であると共に、農民も亦その同盟軍として協同に闘わねばならぬ。単に弾圧に対する闘いのみでなく労働階級は一切の闘争の先頭に立って闘わねばならぬ。

労働階級の指導権は、単なる理屈ではなく、又労働者と農民の中間にある一個の権力の奪い合いではない。

労働階級が、その歴史的使命として一切の闘争の指導権を握らねばならぬ立場にあることを言うのだ。だから若し、労働階級が、闘争の指導を放棄するならば、(それは出来ないことだ)労働階級が永久に奴隷地獄に押し込められるのみならず、農民も亦地主の農奴的搾取から解放され得ない。

現在の日本では労働者丈の解放があり得ないと共に、農民丈の解放と云うことも不可能である。共産党が一切の闘争の先頭に立つことは、即ち、この歴史的使命が命ずる労働階級の指導権を、最も実践的に活かして行くことである。

共産党は、労働階級の前衛である。前衛は激烈な闘争の経験を経るごとに強固となり、老練となるだろう。

だが、戦争は前衛のみでは出来ない、前衛の背後に広大な労働軍隊が編成されていなければならない。広大な労働軍隊、それは先ず労働組合である。

労働組合が広大に且つ統一的に組織されていねばならぬことは、労働階級の指導権を実際に活かして行く上に絶対必要である。

前衛の闘争を最も強力ならしめる為に絶対必要である。今や農民組合の合同は、実現し、労農政党の合同も近づきつつある。農民の合同に際し、労働階級の指導権が具体的な問題となり、農民自身はその に苦しんでいる。之れは確かに一つの危険な徴候である。此時、又一方からは政府の弾圧が一挙に降りかかって来た。左翼労働者、左翼農民を一挙に葬り、共産党の主張した通り実現した農民組合の合同が労働組合にまで及ぶことを喰い止めんとしている。

此の危機を打ち破らねばならぬ。組織されたる労働者即ち労働組合が一致して当面せる共産党弾圧に反抗し、闘争の先頭に立って、労働階級の指導権を真実になさねばならぬ。政府の弾圧に退却して、農民の合同に取り残されるな。共産党の弾圧に対して労働者大衆は真先にケッキせよ。そして諸君の前衛共産党を守れ!

左翼社会民主主義者の指導下にあるものも、中央派社会民主主義者の指導下にあるものも、左翼の指導下にあるものも、労働大衆としては同じ利害を持つものだ。

社会民主主義幹部が如何に妨害しても、労働大衆は決然ケッキして自己階級の前衛を敵の手から奪い返さねばならぬ。そしてこの闘争に於て協同行動を展開せよ!

検挙者の釈放の為の検挙に対する抗議を起せ! 前衛の組織を弾圧する治安維持法の撤廃の大衆運動を起せ!

あらゆる工場に於て、此の運動の火蓋を切れ! 先ず職場大会、従業員大会を開け!

工場代表者会議を開け!

如何なる迫害にも屈するな!
勝利は我々のものだ!

検挙者の即時釈放!
治安維持法の撤廃!
労働者農民の革命的民主的独裁!
——労働者農民の政府——

(終り)

共産党検挙は——
全労働大衆に対する弾圧だ!
社会民主主義に抗して戦線統一を実現せよ!!

本紙前号に述べた如く、大衆党の合同問題は、第一新たに左翼社会民主主義の陣営を堅めた「労農」グループの主張、福本主義の清算と味噌も糞も一緒にする所の無条件合同論、即ち彼等は右翼も左翼も一緒になれと云う意味での無条件合同論である。

ただし福本主義を清算せよと云うのだ。ツマリ極めて体裁のよい、最も利功な社会民主主義政策である。一方に味噌も糞も一緒になれと云うかと思えば、同時に福本主義を清算せよと云うのだから。

第二、日労党幹部の主張、福本主義排除の単一絶対条件、即ち福本主義を切除しなければ合同しないと云う主張である。

第三、社民党幹部の共産党排撃の主張、以上示せる如く三者ともに結局は何とか理屈をつけても大衆党内から左翼を除こうとして、右翼の大合同をやると云う主張である。

即ち右翼の側に立っての合同でなければやらないと云うのである。即ち彼等の主張は大衆党の行動的党としての大同団結に就いてはその意味での合同には種々と難くせをつけるが、大衆党を行動の党から一擲して議会党、社会民主主義党にするためには極めて積極的である。

だから、彼等は議会や行動に於ては寧ろ積極的に進出して合同を組織したではないか。そして議員団ブロックを作ったではないか。そこで彼等の意図は明白である。第一、大衆党の議会内行動の統一勢力を構成する事に反対する。少くとも左翼を排除しない限りは、議会内行動を統一することには無条件で賛成する。そこで第二大衆党を行動の党から、転させて議会党、社会民主主義党とする。

そして労農大衆に対するブルジョア支配に協力しようとするのである。

だが大衆は彼等の意図通りには動かない。少くとも、日本共産党と広大なる左翼大衆とが存在する限りにおいて、彼等の意図は成功しない。否却って大衆は共産党の政策に従い、大衆党の無条件合同と飽くまでも此党をして労農大衆の日常行動の行動党としての意義を発揮せん為に社会民主主義者の裏切行動に対して、キタンなき批評をあびせかけている。そこで社会民主主義者は漸次退却をせざるを得ない状態になって来た。

第一に日労党幹部は絶対準・条件をあくまで固持すると云う態度を変えなければならなくなって来たこと、その代り第二、労農グループを使って労農党内部から、大衆党は党として社会民主主義者を排撃することは誤謬である。少くともかかる行動を労農党にとらしめたる中央部は辞職すべきであると云うが如き主張を立てて来た。だが、日本共産党を真先に立ててその旗の下に結合せる左翼大衆は彼等の陰謀を叩き伏せて、勢いよく進んで行った。そして労農党の拡大中央委員会は、農民組合の合同懇談会に於いては大衆は、労農グループのセッ角の議言に耳をかさず、日労幹部の云う事をも聞かず、一挙に福本主義の清算や又は宗派主義の排除という条件の無条件合同を一蹴して、我党政策の無条件合同の実を挙げるという所まで進んで来た。恐れをなしたものは、日労、社民の幹部と労農グループばかりではない。

資本家地主の政府である。第一、右翼党の民政党は特別議会に於て、此の事実と、此の事実を生んだ所の日本共産党の種々なる文書を持って貴族院と協力して、政府の不始末を攻撃せんとして用意を備え初めた。

政府に於ても、民政党の攻撃をまつまでもなく、一刻もゆるがせ出来ないものとして断固として、我が共産党に向って弾圧の魔手を被せようとしていたのだ。

そこで彼等にとって、もっともよい時期は労農党拡大中央委員会と、農民組合の合同懇談会とである。

このモメントをつかまえて我が党に弾圧を作すことによって左翼の進出を押えつけ、退却を余儀なくなって来ている社会民主主義者を攻勢に転ぜしめようとしたのである。

十五日朝突如として、全国廿一の検事局は活動を開始した。一切の新聞記事を差し止めて、日本全国に亘って、労農党、農民組合、労働組合評議会の支部及分会、地方評議会各本部等を襲撃した。そして全国で七百数十名の大検挙をやり、労農党本部、評議会本部、無産者新聞本社の如きは数十名の警官によって占領された。さながら戒厳令下の如き風景を展開したのだ。

彼等はあらゆる暴行をかくして、盛んに彼等による共産党事件をデッチ上げようと狂奔している。

だが、日本共産党は、検挙弾圧にもかかわらず依然として党の文書を発行し、大衆に検挙の抗議、検挙者の釈放の大衆行動を巻き起す為のプロパガンダとアヂテーションを少しも休めていない。

日本共産党は健在である。今日に於ける日本共産党は断じて検挙によって崩壊するものではない。共産党は、益々深刻に且つ大胆に、益々勇敢に大衆行動の先頭に立って赤旗を高く掲げて進む。

資本家地主の支配階級の奴等が此の度の検挙をやった目的は第一、前にも云った如く日本共産党を叩きつぶそうとする意図の下になされている。だがこの計画は成功するものでは断じてない。

彼等にとっては共産党は暴悪の徒なのだから、共産党のある限り労農大衆は必ず共産党の政策に導かれるに相違ない。そして彼等の手先、社会民主主義者の最大なる努力にもかかわらず大衆は益々革命的になるに相違ないのであるから、そして大衆の行動によって彼等は根こそぎ退治されはしないかという不安を抱くから、何はおいても先ず共産党を叩きつぶさない限り彼等は枕を高くして眠れない。だが、彼等が何程暴行迫害検挙、投獄、殺りやくのあらゆる手段を採ったところで、共産党は叩きつぶせるものではないのだ。労働階級を皆殺しにしない限り共産党を殺すことは出来ないのだ。

共産党は労働階級の党である。労働階級があることは必ず共産党がある。だから共産党はつぶせない、でも少くともその勢力を削減して、その代り社会民主主義者の勢力を増大しようとする意図である。それは或る程度までは成功する。

共産党は決して根こそぎやられるものではないのだが、共産党員及左翼労働者農民の検挙及投獄で一般的には共産党の勢力を弱めることが全然不可能ではない。為に今度の検挙の目的は先ず第一にこの点に置かれていたことは明瞭である。だから見たまえ、彼等は労農党拡大中央委員会及農民組合の合同懇談会と云うモメントをつかまえたではないか。そして大々的に暴力を振って左翼大衆の大検挙をやったではないか。そして左翼を除いて社会民主主義者に大衆を支配することの出来る状勢を与えたではないか。社民の幹部、日労の幹部、労農グループの先生達はさぞ喜んでいることであろう。

福本主義の排撃も上手に成功しない。それを条件としての合同も成功しない。最後に労農党を破壊乃至分裂せしめようとしたことも成功しない。否かえって左翼大衆に逆われて来た彼等にとっては、彼等の親方が即ち、彼等の主人資本家地主が暴力をもって左翼の活動分子を牢獄に入れてくれた。さぞ有り難いことであろう。彼等は昨年の暮から何度となく、彼等の新聞に雑誌に、共産党をつかまえてくれ、そうでないと俺達は自由に働けないからというあげくに盛んに共産党のことを曝露し、政府に要求して来たではないか。

そして今こそ、その目的は達せられたであろう。彼等は万才を叫んでいるであろう。

労働者農民の諸君!!

共産党は資本家地主の政府にとっては、これこそ最悪の徒なのだ。従ってそれだけ党は労農大衆の真実の味方である。労農大衆の正しき要求を最も勇敢に代表しているのである。共産党は決して、私党的グループではない。セクト的存在ではない。

労働階級の大衆的党である。日本共産党は如何なる政策をもっているか。如何なる行動をやろうとしているか、すべてそれは大衆の為に公然としている。決して政策を、インペイしてはいない。そして党の政策を認め、組織の一員となって活動する者は凡て党員になるのだ。断じて私党ではないのである。党はこの度の検挙にそう過したといえども、決して崩壊するものではない。否益々拡大して行く、それは党の行動を以って大衆に明かになってゆくことであろう。

今度の検挙の目的は前述せる通り、とうてい出来ない所の共産党の撲滅という事よりも、先ず第一に左翼の戦闘的活動分子を共産党の名に於いて検挙し投獄して、共産党の大衆的勢力を減殺する為に彼等の目的はあるのだ。

だから逮捕された凡ての闘士は大衆団体内の活動分子戦闘分子である。そして正しく労農大衆の日々の要求を代表して勇敢に着実に行動を以ってそれを行いつつある有力なる闘士である。だから、かかる有力なる闘士を逮捕されたと云う事は労農大衆にとっては、頭をはねられたと同じことである。手足をもぎとられたと同じことである。支配階級の常套手段は先ず労働者農民大衆の最も先端たる日本共産党を叩きつぶし次いで左翼大衆を叩きつぶし、そして大衆を自由に支配しようとするのだ。

凡て先端から弾圧する。ストライキの場合に於ても、小作争

線に於ても一番さきに犠牲され投獄されるものはストライキ団、小作争議団の前衛である。そしてその闘士が引き抜かれることによつて争議は惨敗するという例を見るのである。

無産階級の一切の運動はその例の通りである。従つて日本共産党の検挙事件は何人が何といおうとも、それは結局労農大衆への弾圧である。この検挙に喜ぶものは支配階級とその手先社会民主主義者である。彼等は日本共産党を弾圧して自己の大衆支配を確保しようと考えているのだから。だが、その事は何を意味するか。云うまでもない労働階級、農民大衆の一層の貧困と一層の追害を意味するのだ。

だから諸君、共産党に対する態度はこれ凡て支配階級のいう事である。共産党の検挙に協力し検挙によつて万才を叫ぶものは凡てこれ労農大衆の敵である。

労働者農民大衆諸君!!

諸君は何はさて置き諸君の真実なる幹部を敵の手から奪い返せ。奪いとる為には大衆的行動をもつてせよ。

もし敵の手から奪いとる運動を何だかんだと云つてサボタージュする奴等は一切支配階級の協力者であつて我々労働大衆の敵であるのだ。

我々は断固としてかかる裏切者を排除して、大衆の協力行動をもつて敵に突進してゆかねばならぬ。

農民組合は一切の障害を突破して合同を実現しようとしている。だが、社会民主主義者は此度の検挙と左翼弾圧を絶好の機会にして、これを右翼社会民主主義者の指導下に置かんとしている。

労働農民党も一時延期した拡大中央委員会を二十五、六日に開催しようとしている。そしてこの党の内部の『労農』グループも盛んに活動して光輝ある大衆行動党としての歴史をケガそうとしている全労農大衆は、決然として彼等社会民主主義者と戦え、そして大衆党及大衆団体を社会民主主義者に引き渡すな。検束されている。幹部の釈放運動を断固としてやれ、その闘争のために協同行動を行え、この協同行動から大衆党の合同を実現せよ、此の度の大検挙で、組織のない労農大衆は如何に惨であつたかを犠牲から立証した。

七百数十名の幹部を僅か一時間の中に引き抜かれたと云うことは何たる惨事であるか、而かも彼等支配階級の走狗は権力とサーベルと屁理屈によつて労働者農民大衆の党、組合本部を占領し、あらゆる暴行をやつたのではないか。

労働階級及農民大衆は言論や出版にのみ頼つていては一生うだつは上らないのだ。

例え大きな犠牲があろうとも暴力に対しては、労農大衆の大衆的暴力をもつて当る以外に道はない。犠牲を回避しようとすればする程労農大衆の解放はおそくなつてしまう。弾圧こそ革命の動因である。

労働者農民の大衆的[illegible]!!

我々はいつまでも支配階級の暴行を耐え忍んではいられない。彼等の暴力に対して、我々は自ら守らねばならぬ。工場は、農村に、検挙者の釈放運動の大衆的行動を巻き起し、そして敵が暴力で弾圧に来たら此方も大衆的暴力で向えよ。

農民の合同は左翼農民進出の一歩だ

闘争の為の合同へ！　左翼勢力の拡大へ！

先ず起つて共産党検挙に戦え!!

農民組合の全国的合同が殆んど実現した。日労党幹部が唱えていた宗派主義、右翼主義の排除という絶対単一条件は、只彼等の観念上の問題に止まり、事実上には何ら問題となり得なかつた。

「労農」グループの諸君がワメイテいた『福本主義の清算』『日本農民組合の諸君—何人にか？』は、狂犬が月に吠える程にも一般の興味を引かなかつた。あたりまえだ！　此合同に特に持ち来たらした唯一の条件は地主の攻撃々退、農民自身の闘争の発展、資本家地主政府の暴圧が戦線統一を絶対必要たらしめ農民大衆の胸にその必要をヒシヒシ感ぜしめたからである。彼等お上品な紳士諸君が戦線から遠く退き書斎の陰から『オイ農民諸君！　そつちへ行つては危険だ、こちらへ曲つてはイカン』などと叫ぶ。ヤヤコシイ理屈に、農民は耳を藉す暇をもつていないのだ。農民組合の全国的合同はほとんど実現した、といつても、紙の上でみればもともと一つであつたのだ。別れて又元のさやに納まつたに過ぎない。然り！　紙の上では明らかに『元のさや』にである。

だが、同時にそれは割れた茶碗がつなぎ合されたのとはワケが違う、もともと全日本農民組合も、全日本農民組合同盟も自ら進んで分離し対立したのだ。

ただひとり左翼の日本農民組合のみが分裂に反対し、分裂に抗争し来たつたのだ。

成程、組合同盟はさておき全日組合の方は、口では、然り口のみでは、従来から分裂に反対であつたらしい。今彼等が発表した声明書でも、明言している『農民戦線の統一へ進むことを組合結成の当初より計画し来つた我々は統一主義の精神に血盟したものであつて、断じて中間派の利己主義ではなかつた』と。

日本農民から分裂して組合結成することが、即ち折角統一されている戦線を一旦分裂せしめることが、農民戦線の統一へ進むことであり、統一主義の精神に血盟した行動であるかどうかは、神より外に知ることが出来まい。

之が世に言う『口だけの統一論者』『中間派的日和見主義者』というものである。

然も同時に日本農民組合が厳密にいうならばその活動的指導分子が又常に分裂に反対し、統一のために闘争し来たつた——これは事実だ——とは云うものの、彼等の当時の主張を見れば、明かに誤りがあつたことは否定出来ない。その誤りの根源は云うまでもなく、当時の共産党が持つていた謬誤、即ち『分離結合論』の影響であるし、彼等の誤りは同時に共産党の政策の誤りであつた。がそれにも拘わらず、吾々が『ひとり日本農民組合の闘は実践上に就いて全農に抗争し、統一の為に闘つた』と云い得るのは、その後の具体的闘争に於ける日農の行動である。

農民の共同闘争の先頭に立つたのは、日農ではないか。地方的闘争の協同のイニシアチブを常に握つていたのは日農ではないか。

農民組合の全国的合同は殆んど実施した。

然しそれは以上の如き対立を経ての統一であつた。割れた茶碗の継ぎ合せではない実践上の分裂主義者の敗北である。

農民大衆の為に、そもそも何人が事実分裂主義者であつたかを明白にしたであろう。

そして吾々は之を益々明かにして行かねばならぬ。今日殆んど、成立した合同が所謂中間派日和見主義者の勝利であると云えることは、左翼の自己冒涜もはなはだしい。

左翼が又、此合同を円満ならしめんためにのみ心を奪われて、ひたすら遠慮さえすればよいと考えているならば、闘争のための統一が降伏者の統一となるであろう。右翼や中間派の日和見主義者の統一は、その統一の一場が総て地主、資本家の政府にまでつながるであろうことを忘れてはならぬ。

此度の合同実現は、左翼農民進出の広大な集合を展開したものであると共に、今や此合同実現を一頂点として左翼農民が重要な一頂点に立つていることを忘れてはならぬ。十五日早朝全国の左翼労農諸団体を襲つた大検挙は、最も明瞭にその事実を教えている。

此の大検挙は所謂共産党狩りであるが、その機会を農民組合合同協議会と労農党拡大中央委員会を前にして行われた事実を明視せよ。若し、此等の合同が事実上、右翼や中間派の得利ならば、そしてその力で政党合同が出来るならば、政府は、何を好んで此の機会に検挙しようぞ。

斯る検挙は悪人を作ることよりも、先ず第一に、左翼に対する逆宣伝、恐怖宣伝に目的を置いているのだ。農民組合は合同しかけた！

共産党は最近無条件合同をやかましく叫んでいる！　此合同は終に共産党の成功となる。左翼農民の勝利になる。今だ、共産党を叩き潰せ！

左翼農民を抑えつけろ！　これが政府の本音だ。若し今、左翼農民が、うつかり政府の左翼恐怖宣伝に乗ぜられて、合同の実権を右翼や中間派首領に握らせるならば勝利の凱歌を告げる者は誰ぞ！　ただ資本家地主のみ。

左翼農民は今や正に弾圧、検挙の刃を受け、右に、右翼中間派首領の奸策を抑えている。身を退けば自殺に等しい。進んで彼等に抗せよ。右翼、中間派をも率いて弾圧検挙に反抗して戦え。若し彼等右翼、中間派がそれを拒むならば、彼等は直接間接に政府の弾圧検挙を援けるのと同じだ。農民組合全国的合同の緊喉に降りかかつた弾圧は、左翼農民にとつて、ひいては農民全体にとつて大きな試錬の双である。

此弾圧を押し除けて進んでこそ、此農民戦線の統一は、真に闘争のための統一となるであろう。

編集後記

支配階級の暴圧は全国に亘つて我々同志を或は投獄し、或は拘留し、拷問、暴行の限りをなしている。我が『赤旗』も亦彼等の魔手によつて第五号の定期的発行を阻害せられた。

然し我々は彼等の如何なる暴圧にも抗して『赤旗』を擁護し、その定期的発行を維持し、もつともつと完成したものにして行くであろう。

現在の如き彼等の死者狂いの暴圧下にあつて、『赤旗』第五号が堂々と発行せられることは支配階級の心胆を寒からしむるとともに全国の同志の力強き熱烈なる支持を得るであろうことを確信する。

赤旗

日本共産党中央機関紙
定価 金五銭

若干の「非合法主義」的偏向について警告す。

[illegible]

無産階級の革命的議会利用を封殺する小選挙区制に反対す。

[illegible]

同志山本宣治白色テロルの兇刃に倒る！

[illegible]

小選挙区制反対！
大選挙区比例代表制の実施！
十八才以上の男女に選挙権被選挙権を与へよ！
居住制限を撤廃せよ！

[illegible]

「赤旗」研究会によつて工場細胞を確立するといふやり方はまちがつてゐる

[illegible]

党文書を秘密にし、党のスローガン・政策を自覚すること、そして党を大衆に理解させること、そして大衆の信頼を工場に集め、工場が大衆と深い接触面を持つことなどが必要である。かうした方法によって始めて党は工場に大衆的な根を張ることが出来るのだと。

大体右の様な意見を述べて注意した。「赤旗」研究会などで工場の情勢を話しあうとするのは、総く小党派の影響いか災へ陥らない。具体的な行動を通じて最も現体の訓練などで出来ない。だから、かういふ方法で党員獲得をやる時には、口先だけの勇敢さ、理屈ばかり並べる者、小ブルジョア化した労働者ばかりが党に入り易くて、党が小ブルジョア化する危険がある。

議会解散のスローガン其他について

東京　××工場細胞

一、「帝国主義戦争を準備し、労・農を弾圧する議会を解散せよ！」といふスローガンに対し我々は反対だ。その理由

(1) 戦争を準備し、労・農を弾圧する主体は議会ではない。にも拘らずこのスローガンは議会がそれをやってゐるかの如き誤った思想を与へる。此時まで予算を可決し治安法案を承認するまで、議会が天皇にかはつてやってゐるんだやないかといふ主張は、小ブル的議会中心主義だと思ふ。

(2) スローガンはもつと短かく呼び易いものにすべきだ。今は「反動議会を解散せよ！」で結構だと思ふ。

二、天皇制度の暴露をもつと具体的にやるべきだ。天皇の名に於いて裁判がやられる云々の様な暴露「天皇は神聖にすぎない」といふ抗議に対して見通し労農民の具体的な抗議を与へない。総督府・元老・貴族院等の暴露を明瞭にする。特に貴族院に対してはプチブル的期待を持つ「現在、貴族院に対して……

三、パンフレット第四號に「ブルジョア革命を徹底的に遂行する」といふスローガンがある。「こんな表現は工場の大衆には分らないかもしれないといふ意見もある。それは意味がわかる様に言ひかへるべきだ。実際こんな表現をすることはない。

四、工場新聞、「赤旗」読者拡大の具体的方法をドシドシ伝へて貰いたい。工場が党の名でビラ等をドシドシ出していくものと思ふが如何。

右に対する党中央編輯部の回答

第一　「帝国主義戦争を準備し、労働者農民を弾圧する議会を解散せよ！」といふスローガンがブルジョア的議会主義だといふ意見は根本的に間違つてゐる。天皇・枢密院・政府・議会―これらはすべて資本家地主の階級的支配機関としての一体系をなすもので、そのどれかを攻撃すれば他が責任がないといふので出来ない。皆共通の目的を持って一つの階級の支配をやってゐる。それで議会が資本主義の発展によって、かつ政治的経済的諸勢力の妥協の機関の組合せが財閥金融の経済権力と……日本には天皇制度がある。それで何が欠落か。

これは人民を弾圧する主体であるから、天皇制度が、天皇制度によって「主体」といふものを求めるなら、それは資本家と地主との政府（政権）と言はねばならぬ。

帝国議会は明らかに、資本家地主の階級的利益のために、彼等の利益のため、戦争を準備し、大衆を弾圧するために使用する一つの有力な機関である。我々は、この事実を最も露骨に大衆に暴露して見せねばならない。我々は帝国議会を前にして、それに対する大衆の反抗を組織し、議会を解散させるといふスローガンを掲げて、絶対必要な戦ひを戦はねばならぬ。

第二、天皇制度の具体的暴露、枢密院、元老、貴族院、参謀本部等の廃止の入口だ。…ヤシにつけては貴族院だ。我々はまだまだ大衆の前に具体的に暴露せねばならぬ。

たとへ天皇の財産に対する大衆の不満がなくても、前にも言つたやうな大衆に対してそれは間違つてゐる。天皇が圧倒的な力を持つ地主の代表者であるが今日では日本資本家・地主の代表者の中心の政治機関である。それは天皇・地主と共に労働者農民の敵であることをはつきり言はねばならぬ。

第三、パンフレット第四號の「ブルジョア民主主義革命を徹底的に遂行する」は難しいとの意見だが、大衆に分る言葉で説明して呉れ。「ブルジョア民主主義革命」は難かしい……当面の党のスローガンとしては、その内容は、直接の要求にもとづいて、諸君が大衆に分るやうに説明して貰ひたい。同時に必要に応じてスローガンを持つて、大衆の信頼を得ることが必要である。

帝国主義戦争反対とか、議会解散とか、天皇を倒せとかいふスローガンは、ブルジョア・地主の政府の代りに労働者農民の政府を打建てることを要求する具体的スローガンとしてゐる。（…）

「議会を解散せよ！」とは資本家地主の議会を解散するといふことだ。「「進化議会」は何を意味するか。反動議会ではない。資本家地主的議会である。

プロレタリアート独裁の下にこそ真実の勤労大衆の自由がある。

第四、工場細胞は党の細胞として、活動の具体的方法と経験を交換し、互に学び合ふことが出来る。それらは細胞の中心的な仕事である。各細胞はその地方及び中央機関にドシドシ報告し、指導を求めて貰ひたい。

工場細胞が党の名でビラ等を出すことは大いに必要である。ビラを出すことはドシドシやつてよい。党の名でビラを出すことは絶対に必要だ。大衆の要求……時期の問題が一定の地方機関の指導を仰がねばならない。各細胞は上級機関の指令を待つまでもなく、その工場の職場問題に対してドシドシビラを出せ。

> **日本共産党当面のスローガン**
>
> 一、帝国主義戦争反対
> 二、支那から手を引け
> 三、ソヴエート同盟の擁護
> 四、植民地の解放
> 五、議会解散
> 六、君主制の廃止
> 七、男女十八才以上の普通選挙権
> 八、言論、出版、集会、結社の自由
> 九、七時間労働制
> 十、失業保険
> 十一、労働者抑圧法の廃止
> 十二、皇室、社寺、大地主の土地没収
> 十三、累進的所得税の確立
> 十四、労働者農民の政府
>
> プロレタリア独裁万才！

する党のビラを出さなければならない。そして又それを自分の工場だけでなく、他の工場にも配布しなければならない。どんな細胞でもビラを出す前に、ビラを出すことに多少でも書き添へた場合に、ビラは同志が一つ書き上げ、その後で責任者を決め、これを印刷者に配布する。そして「赤旗」によつて、やり方がうまくなればなるほど、ビラの情勢が結局党の成長を意味し、資本家を驚かすことになる。（「赤旗」についても同じ）

かういふことは、どうしても我々は工場に細胞を作ることによつて初めて出来るのだ。かういふことで出来ない者は、何処の工場にも多くの細胞が出来てゐる。何処の工場にも入り込んで行かねばならない。それは党員の仕事であり、その仕事は総ての労働者の仕事でなければならぬ。

次に細胞は自分の工場の大衆のために、その工場内の日常問題に対する組織のビラを出さねばならぬ。それは規則正しく発行されねばならぬ。工場新聞が工場細胞と直接に結びつけられ、工場新聞は不断に系統的に発行されねばならぬ。工場新聞の重要さは何処においても大きい。工場の労働者のなすべき責任である。この結果、工場に細胞のやうな多くの組織が生まれる。工場の労働者のなすべき一つ一つの闘争に対して、党の細胞が多くの指導をしなければならないことは明らかである。……（工場新聞）と結んで「工場新聞」といふ名を入れたりする必要がある。

「労働者農民の自衛隊」を党のスローガンに加へること。

××細胞準備会

現在我党のかかげてゐる十五の当面のスローガンは完全なスローガンにちがひないが、それの実現のために闘ふに際し、労働者農民の武装が是非必要だと思ふ。プロレタリア革命の遂行とプロレタリア独裁……の確立を目指して、党の闘ひは、プロレタリア独裁のために労働者農民の武装を強化しなければならない。

右に対する編輯部の答。

「労働者農民の自衛隊」の重要であることはいくら繰り返しても足りない程だ。然し、これは党の行動綱領の意味を持つたもので、当面のスローガンとして加へなければならない程ではない。今日プロレタリアの武装を要求するのは、ここではまだ時期が早過ぎる。

「自衛隊」は自分の「自衛隊」を作り、それを通じてプロレタリアートの武装を用意するのであり、自衛隊は労働者農民の武装の訓練になるであらう。それと同時に、自衛隊は労働者農民の武装のための一の訓練機関であると同時に組織することが必要である。自衛隊は党の一つの……ソヴエート組織への準備として「自衛隊」を党の当面のスローガンに加へることは、誤つてゐると思ふ。

ついでに「プロレタリアの武装」といふスローガンは、いつでも掲げておいてよいといふものではない。党は、このスローガンを何時でも掲げるわけではない。我々はそれを、真に革命的な情勢が近づいてきた時、プロレタリア革命の前夜に掲げるべきである。

編輯部より

1、「赤旗」の読者が反動警察の「赤旗」に対して「赤旗」が郵送されて居るといふことを知つて読者を一層多く集めるやうに……

2、五月一日に際して「赤旗」は特別号を出す。

3、今日までの党の組織活動、特に細胞の組織活動の経験について、その他のことを書いて送ること。

4、党員諸君は個人的な意見や投書を寄せて貰ひたい。

5、各細胞の組織活動に関する経験を知らせてほしい。党は……

6、党中央印刷所基金を全党員は募って……

「赤旗」復製について

「赤旗」をそのまま複製することを許さず、但し、それが一般に必要な場合には中央部の許可を得て、大衆に配布することは大いに奨励す。

「赤旗」パンフレット

1、当面の党組織活動の大綱。
2、第五十六帝国議会と日本共産党のスローガン。
3、革命的労働組合運動と党及び其等の任務。
4、祖国の擁護への道。
5、ブルジョア議会と労働者農民の政府。
6、日本共産党当面の組織要綱、特に細胞の組織及活動に関する決議（特別限定版）

党中央印刷所確立基金二千圓募集！

1、「赤旗」を始め党中央文書の印刷は、現在謄写版によつてなされてゐる。然し謄写版では数千部の大衆的な日本共産党の大衆的印刷物が作れない。党の機関紙を工場大衆のために配布するためには、党が真に大衆の要求に応じ得ることを意味する。

2、党の中央印刷所の確立は、まさに党の急務である。これは今日の党の中央印刷所を要求する。……

3、従つて党中央部は、中央印刷所確立の為に全工場、農村の細胞に対して党員より割り当てる資金二千円を募集すべきことを党員諸君に訴へる。

同志諸君！全工場、農村の細胞は党中央印刷所の確立を助けよ！

工場及農村の大衆の間に党を宣伝せよ！

中央活字印刷所の確立万歳！

工場新聞の役割について

(一)、何故工場細胞の組織が遅れて居るのか。

我党が一九二八年三月十五日に大検挙を受け、且つその後も再三再四の検挙、絶へざる迫害を受けて居り、しかもその組織を維持し発展せしめて来たのは何によるのであるか？ 勿論、それは正しい政策、規律ある組織、統一ある行動の賜物であるが、然しもしそれが規則正しく全党員及び党外の革命的大衆者に知られ、彼等の意見を反映させ、その活動を指令する我が中央機関紙「赤旗」を発行してゐなかつたならば、中央を今日のやうに維持できなかつたにちがいない。現に昨年八月から、一時「赤旗」が休刊と言ふ非常時には党の組織事業も進展せず、しかも党組織及活動の秘密性が党外大衆団体の中に解消する危険が現はれもした。所が十二月になつて「赤旗」が再刊されるや「合法政党」主義に対する徹底的斗争と相まつて、党の組織を急速な発展の途に上り、秘密性を回復した。今日では何びとも、党の非合法的組織は非合法的機関紙なくしては発展し得ないといふことを理解してゐる。

所が、こゝに注意すべきは、我党が党員数に於いて未だ遙に不足しをるにも拘らず、工場細胞の確立しておる点は極めて僅かであることだ。その僅かの工場細胞も細胞らしい活動をしてゐるものは殆どで少数である事だ。その原因は何であるか？ 一言で言へば細胞の力だけに待つたり党員グループとして、小さく固まつてゐるばかりで、工場大衆の切実な要求を革命的に代表して戦つてゐないからだ。それでは工場の全労働大衆を代表して斗争ふこと、即ち共産党の細胞らしく働くために最も重要な武器は何か？ 外でもない。それは工場新聞である。この工場新聞を発行してゐないことが工場細胞の組織及び活動の発展しない重要な原因である。

(二)、工場新聞と工場細胞の組織

工場新聞は工場細胞の組織にとつて欠くべからざる武器である。工場新聞は工場労働大衆を資本家の搾取と支配に対して、斗争せしめる工場細胞の煽動機関紙である。工場細胞は細胞としての活動をよくしては確立し発展し得ない。その活動は、第一に細胞員及び細胞全体が党の方針の下に、その工場の全労働者の為めの斗争の先頭に立つて戦ふことである。第二にその工場の労働大衆の利益のために工場細胞は如何なる方針、政策、組織を以つて戦ふかといふことを工場の全労働者に知らせ、彼等の革命的自発性を反映させ、彼等の斗争を組織する先の役目を果す工場新聞を発行することである。

工場新聞を発行すると、工場細胞の組織及活動にどんな良いことがあるか？

第一に、工場細胞の集会が規則正しく開かれ、細胞員の連絡が活発になれば、細胞の統一、規律が大いに強められる事になる。何故なら工場新聞に取り扱ふべき記事について討議し、又それを書くし、又集めた記事について批判しなければならないからだ。又工場新聞の読者の意見及び批評などについて討議しなければならないからである。

第二に、工場細胞と工場全大衆との結合が密接になる。細胞は工場新聞を通じて常に工場大衆の利益を代表し、資本家の攻撃、搾取の事実をすばやく、またそれと斗争する最も有力な方法を示すからである。工場新聞の読者の数、それに対する意見者の意見又は「反対」、それに依つてはまた細胞へ(反党)の意見の具体化の程度等によつて、工場細胞がどれだけ大衆の支持を受けてゐるかを知ることが出来る。そしてまたそれによつてまた、細胞は大衆との結合を密接にする為の戦術を立てることが出来るのである。即ち、工場新聞は細胞と大衆との結合のバロメーターになるのである。

第三に、工場新聞の発行は、工場細胞と他の党外大衆団体との区別を明瞭にし、党の独立性を確保する。

第四に、工場新聞の発行及配布は、又スパイと社会民主々義者に対する斗争に大衆を引き込み訓練する。

第五に、工場新聞は、党の大衆的機関紙「赤旗」の手の届かない広大な大衆を引き寄せ、それが仲介となり、斗争による訓練をして、新党員にするやうになる。工場大衆の中から次々に革命的分子が養成され、工場新聞の読者があり「赤旗」の読者が出て来るといふやうになるのであるから、かうして細胞が増大する。

いふまでもなく、工場細胞は何んでも工場新聞を発行しさへすれば、それで一躍して細胞らしくなるといふわけのものではない。第一に細胞は全細胞員をして大衆の利益のために、合法的にも非合法的にも、政治斗争にも経済斗争にも、また工場委員会に活動させねばならぬ。その上に細胞は、工場委員会、組合の集会、其他あらゆる機関に細胞員を送つて細胞の意見、政策を反映させなければならぬ。かくして工場細胞は如何に敵すり寄らない時でも、常に細胞員であることを、（一人でも）工場大衆の前にグラグラしてゐなくとも、工場大衆の信頼を集めなければならない。細胞は工場新聞といふ一つの武器の発行所となってしまつてはならない。そして工場新聞も大衆と密接に結びつけたものになることが出来ない。第二に工場新聞の編集員及び配布者は充分意識的に確実なものにしなければならない。それでなかつたら新聞の工場新聞も残念ながらくしまうのみならず、大衆をして党への信頼を失はしめる精神に反撥せしめることになる。また官憲や工場主に発覚されるのをも挙げる結果になるだろう。

(四)、工場新聞の編輯方針。

工場新聞は工場細胞の機関紙である。それでは一体機関紙とは何であるか？ 或る組織体の機関紙といふのは、その構成員が思ふ存分に自分の意見を発表し合ひ、そして特定に対する批判をふ、個人攻撃が何の様に行はれてもよいといふ考へがあるが、これはとんでもない間違ひだ。

工場細胞の機関紙といふのは、組織してある細胞といふ組織体が、働きかける総ての工場大衆を等々自身の利益のためにはどうするかについて、何をなすべきかを明かにし、判断させるための手段であり、斗ひの指導をさせる細胞といふ組織体の方針を発表するのである。そこで新聞は細胞の機関紙であるが、細胞のための新聞へ「細胞新聞」ではなく、工場大衆のための新聞へ「工場新聞」である。もしそうでなかつたら細胞の機関紙たり得ないのである。

そこで工場新聞は工場の労働者の討議及行動を指導するのみではなく、全工場大衆に理解され、支持されるものでなければならぬ。それでは工場の経済的事情、編輯態度、編輯者等（少くとも大多数）の意見に依つて、その工場の具体的情況に即して、不満、斗争への要求を一歩々々確実に進めてこそ、そして工場大衆の気分を訓練し、大衆の日常的要求を要求として、彼等の日常斗争に参加させる。かうして大衆の関心をひきつけへすれば、それは自然のものであらう。

(イ) 当面の中心的事件とそれに直接関係するその工場大衆の利益に関係する事件、問題、及び事件に対する大衆の利益を代表する

も要求の提示　その実現のための斗争方法。

(ロ)、その工場の大衆が直接利害関係を有する日常の工場の要件　問題等々。

(ハ)、全国的の全労働者の経済的並に政治的諸問題（大争議、失業、弾圧、暴虐政策、実施）それに対する大衆的斗争——工代表者会、示威運動等。

(ニ)、工場内に於ける其の党外大衆組織——工場委員会、労働組合、青年・婦人組織、労働者俱楽部、スポーツ団、職場委員会等——の組織及活動に関する諸問題。

(ホ)、工場新聞は大衆の意見の集りの重要な機関であるから、記事の取扱方が大切である。第一に、簡単明瞭、平易でなくてはいけない。第二にその時々の工場大衆の状態にピッタリ合致しなければならない。ヒステリめいた浮いた革命的文句は絶対に禁物である。第三に、細胞員だけでなく一般大衆の革命的自発性を発揮させるために、彼等の不平や意見やをもらした手紙とか投書とかいふものを掲載することが必要である。

最近各地の工場細胞から出た工場新聞を見ると、全工場大衆へ向って「戦斗的労働者」へ呼びかけたり、自分の実情をいで大衆に「暴露しろ」と要求したり、細胞が宣伝煽動の綱を張るばかりに、工場新聞紙上で大衆に「宣伝煽動の網を張れ」といつたりしてゐるのがある。こんなものは工場細胞を使つて党を自ら弱める、むだなものだ。

(四)、工場新聞の発行、配布

昔から既に「見ようと欲し言ひ難きほど見る者言はない」といふことがある。工場新聞を発行しやうと試みるならば、工場の有る限りは何でしても発行出来ないことはない。大衆の集会、最初から完全な組織も持ち、何の心配もなくてもさうとすれば、何時までたっても出来ないのである。例へば最初は複写紙でもよい。現に三、一五事件前に某工場で複写紙に複写して発行し、次いで謄写刷に発展した。ただ労働者が読みよいやうに、なるべくハッキリした字で書くこと、なるべくカナ文字を使用することが大切である。

また最初から多くの部数を発行することはいけない。三、一五事件以前に党のビラやリーフを顧慮せずデパートでまいたり、離れ離れ差異なく工場の入口で出勤する労働者に手渡ししたりした細胞があつた。これは党がもつともつと大衆化して或る程度の合法性を獲得した時でなくては、冒険である危険である。そこまで到達するには工場と農村とに全力を集中して、「活行的」に我党の文書が一枚も敵の手に渡らぬやう配布方法を研究し、細心の注意を払って選択しなければならぬ。工場新聞も同様である。最初は先づ少数にし、発行数を少なくともよい。配布する細胞の選択が多く得てさへおれば、第一号を発行する時には初め、第五号を発行する時には五十部位は互ひに持になるだらう。

最後に注意。工場新聞は工場細胞の機関紙であるが、そのことを紙上に暴露するのはいけない。今日の如く党の勢力がまだ弱く、特に弾圧の激しい非合法党にあつては、どの工場に党細胞があるといふことを敵に知らせるだけでも非常な危険であり、もし不幸にして敵の検挙を受けた時全工場の労働者を襲撃することになるのである。又単に「工場新聞」と署名することも同様である。これ等は敵に攻撃の手がかりを与へることになる。各工場によつて、それぞれ適宜な名前を付して発せばそれでよい。

勿論、敵に対する防禦の第一の最良の戦術は、工場新聞が何処の工場で、どこの工場でも大衆的に発行されるやうに我々が活動することだ。然し我々は当分の間危険を免れてはならない。

(五)

かういふ風にして工場新聞が編輯・発行、配布されるやうになつて、最初にいつたやうに工場細胞その他の組織、行動、規律、統一が鍛へられるであろう。又赤旗組

会合を具体的な工場細胞の会合をも全工場従業員を支持し、[illegible]て、工場大衆[illegible]工場細胞を[illegible]等大衆が[illegible]だ。

我党はすべての細胞からなる非合法「秘密的なる活動」を[illegible]大衆化して[illegible]の下に[illegible]守り、運営を[illegible]を増し且つ[illegible]紙を大衆[illegible]になるのである。

—(了)—

赤旗

第　号

国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

『赤旗』再刊に際して

『赤旗』第三十三号（一九三〇年六月十五日発行）がその殆んど全部を敵の手に没収されて以来我々は中央機関紙なしに仕事を続けて来た。この事は我々の活動全体を可成りに困難ならしめた。党の中央機関紙は只に宣伝者煽動者であるばかりでなく実に組織者なのである。敵の進撃が如何程激しくあらうとも中央機関紙を発行し得なかつたことは我々の大きな誤謬であつた。たとへ一頁のものであらうと我々は断乎として出さねばならなかつた。

国際的情勢は新しい帝国主義戦争の切迫を物語つてゐる。英米仏日伊等の帝国主義国間に於ける戦争準備は『軍縮会議』の名の下に公然と行はれてゐる。『軍縮会議』――実は軍拡会議――の連続、新しい巡洋艦の建造、太平洋に於ける製造〔illegible〕の展開等は来るべき戦争の直接の準備である。各帝国主義列強は来るべき戦争に関し思想的に各国人民を新戦争に備へてゐる。だが帝国主義強国の矛盾拡大にも拘らず彼等は一致して〔illegible〕に対する〔illegible〕を組織することをしてゐる。〔illegible〕同盟の運動であり、今日フランス帝国主義〔illegible〕するソヴエート同盟に対する挑戦である。ソヴエート同盟〔illegible〕は〔illegible〕国際プロレタリアートの重要任務〔illegible〕である。

日本の支配階級は、他国及び植民地の帝国主義者共と同様に、〔illegible〕階級及び〔illegible〕に対する弾圧政策をとつてゐる。〔illegible〕党、警察の〔illegible〕力的増加〔illegible〕最も有力な手段である。〔illegible〕全民衆党、全国大衆党、〔illegible〕下僚を掲め、〔illegible〕党を利用して労働階級の〔illegible〕支配階級のかくの如き〔illegible〕政策に〔illegible〕。

一、全党員は日常経済斗争の先頭に立て!!

二、大衆斗争を通じて解党派一味を粉砕せよ!!

三、右翼的極左的偏向に対する決定的斗争に依り党の政治的組織的統一を確保せよ!!

四、党大衆化万才!!

五、プロレタリア独裁万才!!

六、日本共産党万才!!

七、コミンテルン万才!!

〔illegible〕小作人の土地を〔illegible〕のだ。〔illegible〕日本では〔illegible〕労働階級は〔illegible〕革命を指導する〔illegible〕。

日本共産党の組織を拡大強化する重大なる時〔illegible〕日本共産党は労働階級の〔illegible〕に獲得するにはそれは当面如何にしてならぬ。

（一）党に依る大衆的経済斗争の組織化、指導、それの政治的斗争への発展

（二）（三）社会民主々義者に対する徹底的斗争

（四）〔illegible〕

（五）〔illegible〕

〔illegible〕

★全党員は政治的組織的指導者『赤旗』を守れ!!

★全工場全職場へ『赤旗』を持ち込め!!

★労働階級の大衆的行動に依つて『赤旗』を守れ!!

★日本共産党中央機関紙『赤旗』再刊万才!!

第五十九議会は労働者貧農小作人に何を与へたか?

一月十二日附、日本共産党中央委員会の檄は、日本の支配階級は経済恐慌に依つて〔illegible〕小さき〔illegible〕戦争――〔illegible〕と、〔illegible〕ソヴエート同盟攻撃〔illegible〕

〔illegible〕

なのだ!! 日本では欠食児童、小学校教員の給料不払が続々と起してゐる時、ソヴエート同盟では[illegible]最近三年間（一九三〇年十一月調）に四億九千四百万ルーブル[illegible]に二億九千四百万[illegible]優先的に[illegible]労働者農民の子弟が[illegible]このだ!! 日本では労働者の賃銀低下が行はれてゐる時、ソヴエート同盟では全労働者の四十五%以上が七時間労働制の下に働いてゐる!! 日本では一日十時間以上の[illegible]だ!! ソヴエート同盟では賃銀が[illegible]増加して[illegible]

[illegible]事は、労働者農民の[illegible]プロレタリア独裁の下に於て[illegible]ソヴエート同盟全体の[illegible]日本共産党の[illegible]

雑誌『労農』一派は最近『無産大衆党』を中心として動き出した。（[illegible]）

[illegible]

『労農』一派、解党派の反動的進出を粉砕せよ!!

[illegible]

工場で農村で大衆的経済斗争を組織せよ!!

下からの革命的統一戦線に依つて左右社会民主々義者、解党派を粉砕せよ!!

斗争に依る労働者農民の革命的同盟万才!!

一切の資本家地主政府を倒せ!!

労働者農民のソヴエート政府万才!!

プロレタリア独裁万才!!

日本共産党万才!!

雑誌『労農』は上からの共同戦線を主張することに依つて、プロフインテルン、コミンテルンの下からの共同戦線に反対し[illegible]

[illegible]

面の文字青年が書きさうな力きの原稿料で元気付いた『改造』に発表して[illegible]

工場細胞を確立せよ!!

共産党の活動は工場が基礎である。仕事をしてゐる場所を単位として党組織を作らねばならぬ。従来この[illegible]は未だに多くの人々に依つて[illegible]理解されてゐない。

工場細胞は当該工場に於ける労働者大衆の組織者であらねばならぬ。[illegible]

[illegible]工場細胞は工場内外のあらゆる[illegible]

[illegible]

問題に対する党の政策を大衆に[illegible]

[illegible]

元、共産党内にあつた解党派一派も、『労農』派と[illegible]

[illegible]

労働者階級の勝利の為に!!

プロフインテルン第五回大会の決定を実行せよ!!

工場細胞を確立せよ!

プロフインテルン第五回大会[illegible]

[illegible]

それから一定の具体的諸論を出すこと

(ニ)更等の場合注意すべきは、経済斗争の持つ政治的性質の認識、経済斗争の準備、組織、指導が今日労働者階級の多数を共産党側にかくとくする為の重要問題であることを充分に理解しなければならぬといふことだ。

(ホ)各組合の代表者は、絶えず五回大会の決議をその組合の実状にあてはめて大衆化に努力すること。

(ヘ)更に党細胞はこの決議大衆化を職場に於て大衆自身の自己批判を組織することが我々の仕事である。

革命的労働組合の国際大会の決定が全く正しいことを積極的に支持し、それの実行の先頭に立つことは各党員の義務である。工場の中や職場の中でこの決議文を生かさねばならぬ。この仕事でサボするものは日和見主義者である。

プロフインテルン第五回大会の決定を工場の中で、職場の中で実行せよ!!

大衆的経済斗争を組織せよ!!

プロフインテルン大会決議の大衆化へ!!

工場に於ける大衆動員に就て

一、大衆動員の意義

我党は来らんとするプロレタリアート、貧農の武装斗争の準備期の意義を持つ現在、そのスローガンを広汎大衆に提出し、それ等を大衆的に動員して集団的行動に習熟せしめねばならぬ。

そして党はこの大衆動員を通じて『大衆戦術』の合法的・非合法的戦術』を習得し、党組織の活動に依る大衆の動員力の程度を知る。

大衆動員は我々の影響下にある労働大衆のみでなく、社会ファシストの影響下にある労働大衆及び未組織大衆を一定のスローガン、要求の下に動員し、統帥を獲得し、訓練する共同戦線戦術の一通用の意義を持つ。

我々の大衆動員は、社会民衆党より新労農党の、反右社会ファシスト幹部共に対する容赦なき決死的斗争を行ふ。大衆動員の先導の意義を持つ大衆動員の基礎は、労働者が直接生産にある工場——そして農村——である。

帝国主義戦争反対、共産党事件公判反対、暴圧反対等の政治的諸問題は工場に於ける労働大衆の斗争と結合され、大衆の声、行動として現はれた時、始めて大衆的行動の威力を見ることが出来る。

二、工場内に於ける大衆動員の組織と方法形態

大衆動員には党が全口的に一定の期間を定めて行ふものと、その時々の情勢に応じて、地域的に、突発的に[illegible]取上げて行ふものとがある。

全口的カンパ——例へば赤色デー、[illegible]に当つて——例へばレーニン記念日等——ロシア革命記念日等——先づそのカンパーニアの持つ政治的意義をそれぞれの職場に明確にされねばならぬ。

この政治的意義は、現在に於ける口際的、経済的政治的情勢と結びつけられ、口内の政治的経済的情勢、[illegible]の上になるモメント(契機)に立つて行はれる。カンパーニアは決して、その場式の思付的なものであつてはならない。この特殊の意義を持つその当時の我々の政治、組織的活動と正しく結合されねばならぬ。

[illegible]は、一部会的に行はれるカンパーニア——帝口主義戦争の見通しに、反ソヴェトのカンパーニア、ロシアの内乱干渉反対[illegible]大カンパーニアに対する口際的[illegible]例へば[illegible]のカンパーニアの反対[illegible]集中させることが大衆的[illegible]である。

だが、何れのカンパーニアの遂行に当つても、その斗争の基本的出発点は、工場農村——時には[illegible]工場——の組織の活動と、その[illegible]

工場の大衆の動員であり、そのカンパーニア遂行の大衆組織化は工場内から見た地域的な党の現実によつて[illegible]

[illegible]

り、場合によつては、我々の方の闘争一工場に於て[illegible]ない場合があつても、これを遂行すべきである。

まづ党員は[illegible]に集して、各工場の代表者会議を開き、工場の現状及び[illegible]、カンパーニアの意義を説明する。工代会議に於て斗争日程が決定され、各工場に持ち帰つて、その工場の従業員大会、工場委員会の決定事項が[illegible]。

会議等に選ばれた代表者は、それぞれの工場に帰つて従業員大会、工代会議等の決定に従つて、例へば——全口的地域的斗争の——カンパーニアを遂行する。

斗争同盟の如き——工場内に於けるカンパーニアの動員組織——従業員大会等の開催に対して、現在の情勢の下では赤色自衛団の組織が必要である。

然し大会はカンパーニア——動員組織で一時的のものであるが、赤色自衛団の組織は一時的なカンパーニアの大衆的な動員組織でなく、斗争大衆の常設的な労働組織であることを明確にせねばならぬ。

(ロ)斗争の形態

工場から街頭に進出する工場内デモンストレーションである。

デモの中では、従業員大会等の積極的行はれる。従業員大会、斗争の成果、要求の[illegible]。

タ食時等に行ふことは、自然に職場の大衆の気分を[illegible]。

おかへの物質的[illegible]

このやうに全口的な政治的要求の[illegible]の武装蜂起を除く斗争的政治的計画の上に立つた精密な計画に基づく——警視[illegible]

[illegible]強制の彈圧、或は職場の命令通りの遂行を以て、すなはちの一部分として遂行されねばならぬ。

その工場の所有の情勢に応じては、ストライキ、一時休業、工場内の斗争を起さしめるものが、街頭へのデモを行ふことを中心として計画されねばならぬ。

既成の如き『赤旗』新聞、一般の組合の宣伝物『労働者新聞』、社会民主々義的新聞は悉く利用されねばならぬ。

(ハ)煽動

工場内のカンパーニアの煽動に就いてビラ、ブロの発行『赤旗』『工場新聞』で持つて特に分りやすく職の結合して動員しなければならぬ。

他の各種の遂行は従業員大会等の場合に、一ヶ工場内に日本共産党の動員の党員を通して党の政策とスローガンとを結び合させ、各工場の同志等を結合させねばならぬ。

場合、その工場の自衛団を最も重視すべきであつて、万一の場合全力を以て防衛させねばならぬ。

中で煽動者は、張り出したスローガンが通り行進中は、大衆に投げ入れることが必要である。

(ニ)大衆組織——特に赤色組合分会——とその任務

工場内の動員の基本的組織は、その場合に於て、党の細胞であり、その指導下に、組合分会

会等はその職々の状態を考慮して、カンパーニア——例へば組合中央委員会に於ける組合大会のカンパーニア参加の決定、全協総会の声明、決定等——に対する支持を行ひ、カンパーニアに依る大衆動員の組織の中心とする。

同時に全協分会の大衆動員、分会と同党カンパニアの支持を中心とする。

共産青年同盟の任務

『日本の労働青年の搾取は恐るべき程の範囲に達してゐる』。現在日本の経済危機と資本家階級の攻撃は青年労働者、農民、植民地の勤労青年の上に最も重く、青年労働者に対する態度[illegible]青年運動の大衆化、非常な困難がある。

[illegible]

日常の文化的活動、又はスポーツの経済的要求と斗争に[illegible]

[illegible]

編輯後記

昨年七、一五事件に先つて、我が『赤旗』はその第五十三号を発刊した。然し、我が党中央部が七、一五によつて再び破壊せられたため、其大部分が敵の手に没収され、我が党員諸君の手に配布されずに

しまつた。

我々は支配階級及びその御用人共の飽くなき弾圧妨害に抗して我々の党組織を再建し、こゝに再び『赤旗』第三十四号を再刊することになつた。

本号は猛烈な官憲の追求の中にありながら発行を急いだため、当面緊急な諸問題を載せ得なかつたが、次号より工場通信、闘争及び日常的諸問題に対する党中央部の統一ある正しい見解を□発表する。全党員諸君は我々の『赤旗』を中心に、工場内に於て討論を捲き起し、諸君の日常実際活動に基づく意見を寄つて我が『赤旗』に投書せよ。

我が『赤旗』の再現に対し、官憲は尤暴な追求弾圧を始めるであらう。我々のこれに対抗する途は、全工場、全職場に我が党組織を強化拡大するための積極的斗争以外にない。我等の追求弾圧から我が『赤旗』を防衛することは全党員、革命的労働者の光栄ある義務である。

『赤旗』の指導方針を直ちに日常の行動に移せ!!

『赤旗』の配布拡張のための実際的斗争を起せ!!

定價金五錢

日本共産党中央機関紙

赤旗

三・一五記念特輯號

三・一五を大衆的政治的デモで記念せよ!

工場・鉱山・農場から腕をくんで街頭へ!

三・一五第四年を迎へて

一、

吾々は三・一五事件の第四周年を迎へた。一九二九年の三月十五日は台湾で[illegible]として最後をとげた同志渡政と、[illegible]治安維持法が議会を通過した其日、ブルジョア反動の凶刃に仆れた同志山宣を葬る労農葬が敢行[illegible]大衆行動を以て血の三・一五を記念した。[illegible]紀念された。

一九三〇年には新しい戦略的規定に[illegible]てコミンテルンの指令に従って吾々は[illegible]三・一五を紀念した。天皇制の資本家地主国家も吾々と同様に三・一五を紀念した。三・一五を紀念するために[illegible]三・一五—四・一六、七・一五—を作り出した。

吾々はこゝに三・一五第四年を迎へた。帝国主義ブルジョアジー政府も彼等の三・一五を迎へるための紀念事業—白色テロル—の準備に血まなこになつてゐる。

同志よ!準備はよいか?!

二、

一九二七年七月のコミンテルンの日本問題に関するテーゼは日本共産党大衆化のための基石であった。一九二八年二月の総選挙戦に際して我が党は公然その姿を大衆の前に現はした。我党独自の斗争を展開した。労働者貧農大衆はそこに自己の真実の階級的代表者を見出して喊声を挙げた。資本家地主は悲鳴を挙げた。ブルジョア国家は驚愕した。三・一五は支配階級の死物狂ひの逆襲であった。

戦況は吾々にとつて決して有利でなかつたことを大膽に承認しなければならぬ。吾々は承認し得る。吾々は二月の総選挙戦に出陣する時既に[illegible]戦線と再攻撃の準備を計畫して[illegible]。それは充分強力でなかつたことが実証された。[illegible]大打撃を受けた。無産者新聞は[illegible]に従つて直ちに号外を発行し事件を報道すると共に[illegible]大衆[illegible]共産党事件[illegible]吾[illegible]煽動した。敵の進撃を[illegible]で敵を撃退せよと煽動した。[illegible]味方の再進撃か開始された。とはそれはブルジョアジーを撃退することが出来なかつたばかりでなく、進撃を阻止することすらなし得なかつた。政府は四月十日評議会・無産青年同盟・労農党の所謂三団体を解散した。資本家地主政府は極密に周到に戦略を立てた。二段に構へたことはそれを示してゐる。彼等はプロレタリアートの再攻撃を予定した。彼等はそれを恐れた。と同時にプロレタリアートの内にある彼等ブルジョアジーの手先き共がどれだけの役割をはたすかを[illegible]のだ。だが万事はブルジョアジーの都合に運んだ。

[illegible]社会民主々義者は社会民衆党・総[illegible]の名に於て公然と「共産党排撃」[illegible]分子の弾圧は穏健な無産政[illegible]的組合の発展のために実に望ましきことである」と政府の虐殺行為を当然とした。彼等は「共産党狩りがむしろおそきに失した」と云って政府を非難した。[illegible]社会民主[illegible]荒畑・山川・猪俣等は雑誌「労農」[illegible]して合法行動を始め公然と日本共産党の旗を[illegible]。

した。日本共産党を中心にした[illegible]右から左までの社会民主々義者共は、プロレタリアートの戦列が極度に混乱させられ、破壊させられてゐる時に、プロレタリアートが他の如何なる時期よりも最も熱烈に『戦線の統一』を要求した時に『戦線の撹乱』を実践した。ブルジョアジーに対する彼等の御奉公は満点であった。資本家地主階級とその政府は躍上って喜んだ。彼等はかくて四月十日の第二段攻撃を成功的に断行し得たのであった。

三、

レーニンは一九〇五年の革命の経験を徹底的に批判した。そこから汲み取り得る限りのものをくみ取った。ボルシェヴィキは一九〇五年の革命がなかつたならば一九一七年の革命の成功はあり得なかつたらうと大膽に云ふ。云ふことが出来るのだ。経験から学びとつたからだ。吾々は余りにも経験を批判してそこから学びとることが少なすぎる。吾々は実際的経験が少ないばかりでなく吾々自身の経験から学ぶことが少なすぎる。多くの犠牲を以て購はれた過去の経験から学びとることが[illegible]。これは吾々の最大の誤謬である。吾々は[illegible]を学ぶべきである。

三・一五から[illegible]何であるか。

党が[illegible]若かった[illegible]組織力に[illegible]事はやはり最大の誤謬のなかったことにはならぬ。工場細胞を組織せよ!工場細胞を拡大強化せよ!工場細胞と党中央部との緊密なる結合!これが三・一五事件の教訓である。

だが三・一五に際して数千人の同志の組織中から[illegible]者が[illegible]された。それは中央並に地方の決定的な過誤が組織方針を誤り、組織技術を無視した点である。例へば党員名簿を作製して置い[illegible]

NO.2 赤旗 1931・3・10

たばかりでなくそれをムザムザと敵の手に渡したことである。組織原則上記録すべからざる諸事項を記述して置いたばかりでなくそれを易々として敵の手に渡してしまったことである。

このことはコミンテルンによって最も峻烈に非難された。にも拘らず同一の誤謬が四・一六に於ても繰り返し冒されてゐる。

それは日本共産党の過去に於ける一大汚辱である!

吾々はかゝる過去の誤謬を実践的に清算することを誓ふ。

同志スターリンは鉄といふ口際的同志をタゝき込んだ。吾々は組織科学の力を以てすれば記述しても止めなくとも立派にやりめくることが出来る。

同志を敵の手に渡すもの、党を敵の手に売るものは裏切者として厳罰さるべきであらう。吾々は味方に対して絶対に親愛なるが故に、敵に対しては絶対に峻厳であることを、こゝに宣言する。

同志よ! 鉄の規律なくして共産党はあり得ない。と同時に、組織科学なくして共産党は存在し得ない。

労働者の「イニシアチーヴ(創意)」を発揮せよ。組織を経験から學びとれ!

四、

ブルジョアジーは階級的本能からして、本能的に問題の中心を抑むことを知ってゐる。彼等は特殊の一環を巧みに抑む。日本共産党の大検挙がそれだ。殺人法による日本共産党の追及がそれだ。日本共産党を破壊することはてプロレタリアートを奴隷の鉄鎖につなぎとめ貧農大衆をコウ縛することである。彼等はこの点を正当に評価してゐる。

三・一五事件、四・一六事件等の日本共産党大検挙は常に労働運動農民運動の沈滞・衰頽をもたらした。

にも拘らずブルジョアジーは決して勝ったのではない。彼等は窮局に於て歴史の歯車に轢き殺かれる階級だ。それは歴史的必然だ!

三・一五事件に際して「ブルジョア新聞は日本共産党の「妖怪」の存在をデカデカと宣伝してくれた。吾々の政策を公然と発表してくれた。この時以来日本共産党はブルジョア新聞紙に毎日——多くは特ダネものとして——公然その「妖怪」の活躍を示してゐる。此の時以来日本共産党は津々浦々に至るまで人口に膾炙するに至った。

金融ブルジョアジーのヘゲモニーの下に立つ資本家地主は世界稀なる巨大な口家機関——軍隊・官僚・警察・監獄等——を独占してゐる。一切の富を、一切の文化機関を動員することが出来る。そして吾々は奴隷的労働と大衆的失業と大衆的飢餓とを強制されてゐる。にも拘らず墓は吾々のためにではなく彼等のために掘られつゝある。

ソヴエート同盟ではプロレタリアートの独裁の下に社会主義的建設が素晴しい勢で進展してゐる。隣邦支那では革命が輝いてゐる。日本の労働者貧農大衆は

経験によって学びつゝある。彼等の間に於て左右社会民主々義者が解党派の君主々義者を新たに加へて、ブルジョアジーの公認と援助の下に死物狂ひの策動を試みつゝある。にも拘らず彼等が労働者貧農大衆の間にあってブルジョアジーの一切の新聞と口を揃へて日本共産党のデマをふりまいてゐる。コミンテルン・プロフィンテルンでなければ駄目だ!と云ふ叫びが労働者貧農大衆の間に拡まりつゝある。彼等は日本共産党を支持し、日本共産党に加盟することを欲してゐる。

資本家地主政府は労働者貧農大衆を日本共産党から引離し得なかったばかりでなく、却って彼等を日本共産党の赤旗の下に結集せしめつゝある。政府は日本共産党を粉砕し得なかったばかりでなく、却って日本共産党をボルシェビキ化しつゝある。

日本共産党のボルシェビキ化の客体的条件は十二分に成熟してゐる。

五、

吾々は「三・一五事件の第四年を迎へた。プロレタリアートが抗議の口際に蹶起した。吾々は三・一五を如何にして紀念すべきであらうか。それは外ではない。吾々は過去の経験を徹底的に批判して最後の一滴まで学ばなければならない。獄内の数千の同志の熱烈なる犠牲を実践に示すのだ。工場の同志と日本共産党をボルシェビキ化するのだ!

組織者は工場細胞を組織せよ。工場細胞を拡大強化せよ。日本共産党の組織の手がのびて来るまで小さくなってジッと待ってゐるのは絶対に誤りだ。労働者は革命的イニシアチヴを働かせて進んで自分の工場内に、又近隣の工場に工場細胞を組織せよ。そして全工場労働者の中にあって全工場労働者の利益を最も忠実に最も勇敢に代表して斗へ! 全工場の労働者とガッシリと腕をくんで進め! そして農村のプロレタリアート及び半プロレタリアートは貧農と腕をさしのべよ。労働者と貧農の強固な戦斗的同盟を結成せよ。そして農業革命を伴ふプロレタリア革命を遂行して金融ブルジョアジーのヘゲモニー下の天皇制の資本家地主政府を打倒し、警察・監獄を破壊し吾々の勇敢なる同志を奪還せよ! 労働者と農民のソヴエート政府、プロレタリアートの独裁を打ちたてよ!

★鉄の規律を実現せよ!

★経験を批判して學べ!

★労働者の革命的イニシアチーブを発揮せよ!

★工場細胞を組織せよ!

★日本共産党をボルシェビキ化せよ!

★プロレタリアートの独裁万歳!

NO.3 赤旗 1931・3・10

三・一五を大衆的政治的デモで紀念せよ!

工場 鉱山 農村から腕をくんで街頭へ!

ブルジョア共は彼等の紀念日には祝典を挙げて酒を飲み享楽の限りをつくすのだ。

プロレタリアートは如何にして自分の紀念日を紀念するか。

斗争によってだ。

闘ひか然らずんば死かだ。

プロレタリアートと半プロレタリアートが階級意識に目覚めた時、労働者と貧農がシッカリと腕をくみ合った時、ロシヤ革命やフランス革命の時の様に牢獄を破壊して政治犯人を奪還することは朝メシ前だ。

一度結集せられた大衆の革命的威力を以てすれば、一と握り程の資本家地主権力を打ち倒すことは易々たるものだ。

結局は力の問題だ。団結せよ!

凡ての工場鉱山・船舶等は事実に於て労働者が動かしてゐるのだ。ブルジョア共は指一本ふれてはゐない。彼等は少しも生産に参加してゐないのだ。凡ての農場は農民が耕してゐるのだ。地主共は完全に寄生してゐるのだ。

兵士や水兵はみんな軍服をつけた労働者農民なのだ。

只鉄の鎖につなぎとめられ、大砲と毒ガスと飛行機で一と握り程の資本家地主と其の手先き共に抑へつけられてゐるだけだ。

鉄の鎖を断ち切れ!

血の三月十五日は数日後に迫った。

三月十五日にはデモだ!

今日こそ、失業と飢餓の資本家地主政府に俺達の威力を示してやるのだ。ブルジョア口家に俺達の武器を示してやるのだ。

労働者は職場を捨てろ!

鉱夫は坑内から躍り出よ!

勤労農民は耕地を離れよ!

全工場全鉱山全農場の兄妹よ、ガッチリと腕をくめ!

一人残らずそれぞれの働き場から直ちに街頭へくり出せ!

三・一五を大衆的政治的デモでたゝかへ!!

☆大衆的馘首・賃下げ・時間延長・労働強度増進絶対反対!

☆口家全額負担による失業保険の即時実施!

☆軍事費を失業者の生活保証にあてろ!

☆七時間労働、一週五日制。賃銀を全般的に値上げしろ!

☆土地を勤労農民へ!

☆革命的煽動宣伝組織並に活動の自由!

☆治安維持法その他労働者農民を弾圧する一切の法律・規則・命令の廃止!

☆政治犯人を即時釈放しろ!

☆救援運動の大衆化万歳!

☆ソヴエート同盟の擁護!

☆右から左までの社会民主々義を粉砕せよ!

☆失業と飢餓の資本家地主政府を倒せ!

☆労働者と農民のソヴエート政府を樹立せよ!

三・一五の大衆的政治的デモンストレーション万歳!!

三・一五紀念日に際して 同志セン・片山 同志 山懸 に送る挨拶状

我が党の輝ける組織者の一人であった同志渡政を虐殺した白色テロルは、渡政を育て上げた同志山懸に対しても反動の刃を擬した。我党の最も輝けるアジテーターであり、最も優れたる組織者の一人である同志山懸をその家族から引裂して亡命させた。日本のプロレタリアートから引裂して追ひ出した。米口に於ける同志セン・片山を、革命的組織運動の故に死刑を以て追及しつゝあるのは当然だ。白色テロルの日本口家が一層陰険な白色テロルで追及しつゝあるのは必然だ。

一人の民族性を愛し民族文化を忠ふる革命家の化身である同志達にとってどんなに日本のプロレタリアートから隔離されてゐることはつらいことであらう。

同志片山!

同志山懸!

雨につけ、風につけ吾々は同志達の健康を案じてる。一つのストライキに際しても一つのデモに際しても日本のプロレタリアートはきまって同志達の在りし日を想起する。「同志山懸来る!」の飛報に二千の芝浦の兄弟は沸き立ったではなかったか! 同志山懸の僅か五分間の大衆的演説に全民衆は革命的エネルギ

ーを発揮して交番を警察を官邸を焼打ちしたではなかったか！同志達は今何処に如何して居るであらうか?! 吾々はそれを知らない。

だが、總選挙戦に対し、組合の大會に対し、何処からどうしてかは吾々は云ひ得ないが、必ず同志達は論文を、檄を、指令を送って来る。そして日本の労働者農民大衆の前にそれが公表されるとき、それは嵐の如き拍手と全口を震撼する喊声とに迎へられる。それは一言一句ソシヤクせられて実践に移される。

否、總選挙戦や大会の時ばかりではないのだ。日々刻々の運動に対して同志達は――コミンテルン、プロフィンテルンの決議を遵奉しつつ――日本共産党、日本プロレタリアートを指導しつつあるのだ。

同志達は確かに日本のプロレタリアートから万里の波濤をもつて隔離されてゐる。だが同志達はガッチリと日本プロレタリアートと腕をくんでゐる！日本に於ける階級斗争の真只中にゐるのだ！

同志山懸の指導は最近益々明白となり、益々公然、労働者農民大衆と結びつきつつある。

左右の社会民主々義者は天皇制の資本家地主政府の警視廳と口を合せて盛に同志山懸に関するデマを飛ばしてゐる。だが同志よ！年々歳々日本の労働者と農民は奴等にだまされる程幼稚ではない。同志達の革命的行動は、同志達を日本のプロレタリアートとピッタリ結び付けてゐる。日本共産党をスパイだとデマる奴等が同志をスパイだとデマるのに何の不思議があらう。

日本共産党が労働者貧農勤労被搾取民衆の擁護者であり、彼等の利益の断乎たる推進力である限り、労働者貧農勤労被搾取民衆と植民地民族の搾取者であり虐殺者であるところの日本の資本家地主階級にとっては、コミンテルン、プロフィンテルンは「過激派」であり、日本共産党は「売国奴」であり、同志山懸は「スパイ」であり、又同志片山は「卑怯者」であるであらう。

同志山懸！

同志片山！

同志達は富豪と口を揃へた社会民主々義者共のふりまきつつあるデマを、資本家地主階級の同志達に対する憎悪極りなき憎悪の表示として甘受するであらう。そして反対に労働者貧農の燃ゆるが如き階級的信頼の表現として欣んで受取るであらう。

同志達よ、健在なれ！――これが日本のプロレタリアートの心からなる叫びである。そして益々頻繁に、益々緊密に吾々を指導してくれ――これが日本共産党の切なる希望である。

コミンテルン、プロフィンテルンの指導を忠実に而も具体的に示してくれる同志達なくして日本共産党のボルシェビキ化はあり得ないであらうし、日本に於けるプロレタリアートの勝利は不可能であるであらう

荒狂ふ白色テロルの嵐に抗しつつ、コムミュニストの血盟の握手を送る

一九三一年三月十五日

コミンテルン日本支部日本共産党中央委員會

三・一五紀念日に際して 獄中の同志諸君に送る挨拶状

上野の動物園に捕はれてゐる獅子には春すら[illegible]東風が[illegible]御馳走が檻へ入れられる。櫻の花を送って来る。

だが同志達の牢獄は真暗だ。二尺四方のケチ汚い鉄の窓の天井にクッついてゐるだけだ。同志達の牢獄は冷い。厚い赤レンガに取囲まれた三畳の部屋へ投げ込まれる三度の食物は豚だって食へないシロモノだ。それにも拘らず鉄の鎖につながれてゐる同志達の元気はどうだ。実にすばらしい。同志達は共産党員として英雄的血汐に燃えてゐる。同志達は革命家として牢獄の中に階級斗争を持ち込んだばかりではない。同志達はあらゆる機会を利用して吾々を激励した。あらゆる非合法手段を創設して吾々を指導した。高壁を試[illegible]

強い革命家のイニシアチブ！[illegible]前には遂に無力であった。だが、鉄窓の下に縛りつけられておる日本・朝鮮・台湾・支那の同志諸君！

吾々は世界プロレタリアートの名に於て同志達に血盟の挨拶を送る。吾々の挨拶は、だが、勿論単なる言葉の挨拶に止まるすべではない。

恨みの三・一五。同志渡政。

小宮を始め数へ切れない多数の同志達の血に彩られた三月十五日、吾々は全工場・全鉱山・全農村から街頭へくり出す。そして同志達の貴い鮮血が色あざやかに染めなした真紅の赤旗を高くかかげて全口津々浦々に一大デモを敢行する。吾々は確信する、プロレタリアートと貧農の革命的行動による挨拶こそが、革命的実践による決意の表明こそが

同志達に対する最上の挨拶であることを。全世界のプロレタリヤートの声は必ず同志達の牢獄をゆり動かさずにはおかないであらう。全世界の労働者と農民がガッチリと腕をくんで同志達の牢獄を打ち破るであらう。

台湾牢獄に閉ぢこめられてゐる支那同志達、朝鮮、日本の兄弟諸君！同志達の払った尊き犠牲は決して徒労ではなかった。同志達の流した血汐は決して日本の革命運動に於ける劃期的発展を示す道標である。プロレタリアートは兄弟姉妹の貴重な経験から最後の一滴に至るまで汲み取りつつある。吾々は同志達の偉業を発展せしめ、[illegible]

兄弟よ！心安かれ。諸君の運動は吾々が誓って引受けた。諸君の家族はプロレタリアートの名誉にかけて引受ける。同志達の当面の任務は同志自身の健康を保持することだ！元気を百倍させることだ！それは又同志達の責務でもあるのだ。そして日本のプロレタリアートと貧農が世界プロレタリアートと被圧迫民族の援助の下に、同志達の覚悟を実現――婦人同志と少年同志――を先頭にして、同志達を大衆的に迎へに行く日を待ってゐてくれ。

天皇制の資本家地主政府は、益々強暴に断末魔の白色テロルを横行せしめてゐる。それにも拘らず、否それ故に、プロレタリアートと貧農は益々大衆的に革命化しつつある。鉄は火によってきたへられる。

一九三一年は確かに世界危機の飛躍的尖鋭化の年だ。中央委員会台の高塔の尖端には赤旗がひるがへってゐる。党だ!!赤渦だ!!

吾々の同志達に対する最大の責務は諸君が身命を捧げて築き上げた日本共産党を防衛し、拡大し、強化することだ。吾々の当面の任務は日本共産党のボルシェビキ化だ!!

同志よ！安心してくれ。吾々は数万、十数万のプロレタリアートを、日本共産党の旗の下に獲得し、数百万、数千万の労働者農民を日本共産党の赤旗の下に引寄せないではおかないぞ!! 吾々は如何なる弾圧にもビクともしない強固な不抜の日本共産党を築き上げないではおかぬ。そして吾々は労働者と農民のソヴェート政府を樹立しないではおかぬ。

日本共産党は白色テロルの資本家地主政府に対する全労働者農民、被圧迫民族の革命的蜂起を訴へ、同志達の導きギセイに対する大衆の革命的復讐をこゝに誓ふ。

一九三一年三月一五日

コミンテルン日本支部日本共産党中央委員會

赤色救援會の任務に就て

× × ×

コミンテルン第六回世界大会の決議には次の如く書かれてある。

口際赤色救援会は一つの党外に立つ組織であり、一方に於て、革命的斗争のすべての犠牲者に対する支援をなし、他方に於て、その成員を政党的所属の区別なく組織し、それ故に、統一戦術を遂行する最も重要なる活動場面の一つである。

それ故、共産党は、他のいづれの党よりも、口際赤色救援会の活動に利害関係を持つものであり、自己の活動によってそれを支持しなければならぬ。その支持は口際赤色救援会のあらゆる斗争、特に告発及び政治的亡命者の擁護救援のための斗争に参加したり、自己の定期刊行物に口際赤色救援会の特別欄を設けたりする事等によってなされる。

プロフィンテルン第四回大會の決議は次の如く強調してゐる。

超党派的大衆団体である口際赤色救援会は今迄[illegible]活動を遂行して来た。[illegible]ブルジョア的階級司法に対し、白色テロル、ファッシズムに対する多くの大衆的斗争に於て、そして又それ等による犠牲者に対する広汎な救援運動を通じて、[illegible]白色テロル、司法ファッシズムに及びる斗争に於ける統一戦線の組織であることを実証し、その上政党的所属の区別なく、百万の広汎なプロレタリアートの信頼を獲得した。

× × ×

我党がコミンテルン

の指令に基いて日本に救援会を組織したのは一九二八年三月六日であった。救援会の組織について忠実にコミンテルンの方針が実践されつつあつた。日本に於ける救援会は野田争議に対する救援を手始めにして生れたのであつた。だが、右翼社会民主々義者の意識的サボタージュと積極的分裂行動のために救援会大衆化の運動は甚しく困難な状態に陥った。

かゝる困難な情勢の下に救援会が追ひ込まれた時に三・一五事件が突発した。続いて所謂三団体の解散が行はれた。右翼の暗躍は混乱させられ破壊させられた。救援会は共産党員を救援する救援会になってしまったばかりでなく、労働者農民大衆を主たる構成要素とする「超党派的大衆団体」たることをはばまれてしまった。

・コミンテルン指導

NO.6　赤旗　1931・3・10

り返し赤色救援会組織に関する詳細な指導を送った。『無産者新聞』は党の指令に従って日本に於ける救援会運動を批判し、コミンテルンの指導を具体化することを宣傳煽動した。細

運動に対して、犠牲者とその家族に対して、激励・慰問・救援・弁護・病人の差入・弁護を行ひ、治安維持法その他一切の労働者農民を弾圧する一切の法律の撤廃、政治犯人の即時釈放要求の戦を大衆行動で組織して戦って居る。捕へられた前衛とその家族にばかりでなく、ゼネスト、メーデーの労働者に、秋田の農民に、台湾の高砂族に、支那の同志に、朝鮮の同志に、国際的に犠牲者の上に日常斗争のへの救援会を基礎とする組織は工場班を基礎とするに至った。これ等の救援会の労力さゝげてゐる方は今日、例へば東京地方に数十の工場班が確立されてゐる。これを見ても明かであることは、日本の赤色救援会は政治的にも組織的にも進展しつゝあるのだ。

際的に赤色救援会日本支部の名にそふ様に一歩々々進められつゝある。日本支部は国際赤色救援会に誇り得る程に国際的進展したか？否！吾々はそれを得るであらうか？然り！遺憾ながら吾々は未だ強力な救援会を獲得して居ないことを大膽に承認すべきであらう。

×　×　×

では日本の救援会は如何なる方向に向って努力すべきであるか。

革命的斗争のすべての犠牲者及びその家族の救援の方向に於て日本の救援会は尚ほ足りない。自らも認めるであらう。『手不足だ』『金がない』といふ叫びを吾々はよく耳にする。だが手が足りないと云ふ事は組織が足りないと云ふ事を理解しないからである。金が足りないと云ふよりはむしろ実行する方法と計画とそれを理解しない事が足りないのである場合が多い。

党の工場細胞が、例へば五人であるとする。至選によって一人がキャプテンを引受ける。一人は党の文書の配布その他のプロアジの仕事を受ける。一人は全協の工場分会の組織の任務を担当する。そして最後の一人が（細胞の責任者へば）工場班へ仕事を持って遂行する。モップルの工場班の責任者である。党細胞の一人がモップルの工場班の責任者となるが、その工場班の仕事はその細胞一人の責任ではない。全細胞が、モップルの推進力とならねばならぬ。細胞は党の任務を引受けた工場に於てモップルの運動を推進する力とならなければならぬ。

時に特殊の事情のある工場では、細胞よりも先に工場班を組織する場合がある。プロレタリアートの組織のない二つの工場の場合に於ては、組織せねばならぬ。何よりもまづ工場細胞を組織することを忘れてはならぬ。工場細胞は党の基本的組織である。それ故に前者に於てプロレタリアートの運動の基本的組織である。

工場細胞を組織せよ！工場細胞の指導の下にモップル工場班を拡大強化せよ！

『国際赤色救援会』……統一戦線の組織である。その上に政党的、百万の区別なく広汎なプロレタリアートの信頼を獲得し、日本支部はこれに拘らず、重要な任務を殆ど全く実行して居ない。

★検挙拷問拘留虐殺絶対反対！
★資本家地主階級裁判絶対反対！
★裁判を公開しろ！　★白色テロルを撃破せよ！
★革命的煽動宣傳組織並に活動の自由！
★治安維持法その他労働者農民を弾圧する一切の法律・道府県令廃止！
★政治犯人を即時釈放しろ！
★犠牲者とその家族を救へ！
★救援会を統一戦線の一組織とせよ！
★工場細胞を基礎としてモップルの工場班を拡大強化せよ！
★労働者農民は大挙して日本赤色救援会に入れ！
★国際赤色救援会万歳！
★三・一五のデモに参加せよ！

践してゐない。救援会を統一戦線の最も重要なる一つとして活動する場面の一つとして活動を行ふことは国際赤色救援会日本支部の最大の急務の一つである。

×　×　×

党は三・一五を記念するために、三月十五日を大衆的デモで斗ふことを決定した。党は並に全協のモップルの組織を通じて全国の工場、鉱山、農場の労働者農民を大衆的デモに動員し組織しなければならない。

犠牲者並に犠牲者の家族の日常の救援とを全部デモに動員することは我がモップルの特殊の任務である。我がモップルはモップルとして組織力を巧みに斗争と結合しなければならぬ。三・一五デモに又結合しなければならぬ。モップルの各組織はこのために集会を開き、討論を重ね、経験を集め、計画を以って失業と飢餓と虐殺の資本家地主政府の暴虐をあばかねばならぬ。

モップルの同志よ！進め！

NO.7　赤旗　1931・3・10

『労農』一派は何を欲するか？

幾度か内紛を巻き起した雑誌『労農』に立てこもる一派は最近頻りに策動してゐる。彼等の積極的な進出は何を物語るか？それは第一に、プロレタリアートの党の影響が益々深く大きく大衆の間に拡まっておることを意味する。労働者大衆はもはや社会民衆党ではゴマかされなくなった。そして全国大衆党、新労農党でも安心して居られない。そこでモッと革命的な言葉を並べるに上手な一派が資本家地主に必要となった。この要求を満す為に登場したのが――『労農』一派なのではないが――とあっては初めてである。だから彼等の任務は、何をおいてもまづ先に労働大衆の日本共産党に対する信頼を打ちこわすことである。第二に、彼等の進出は、彼等との決定的斗争を宣言せるコミンテルン・プロフィンテルン及び日本共産党の政策の全く正しいことを証明してゐる。若し、彼等との斗争をやらなかったならば、吾々は救い得ない改良主義の泥沼にはまり込んで居たであらう。第三に、それは我国に於ける階級斗争が激化しつゝあることを意味する。ブルジョア地主政府は、労働者大衆の、今日ではまだ多くは自然発生的であるところの、大衆的進出の底を流れる偉大なる力を自覚してゐる。だから、労働者を最後に、そのことを知らせない様に、死物狂ひで努力してゐる。『労農』が『我がプロレタリアートの及ぼす影響は頗る打撃を経度のものに過ぎなかったし、今日でもさうだと云ふ工合に言ふのは、ブルジョアジーに与へる安心ではなくして、労働者大衆に対する欺瞞の言葉である。

吾々は『労農』のハッタリも進出の社会的根拠を以上の如く認識する。そして、彼等がブルジョアジーに依って命ぜられた職責を忠実に実行しつゝあるのを明白に知る。彼等の理論は馬鹿らしくてお話にならぬものではあるが、一応簡単に批判する。

第一、彼等に依れば、日本のプロレタリアートはまだ弱くて、ブルジョアジーとの決定的斗争なんかやれっこないと云ふのだ。日本資本主義は中々強固なものだ。革命なんて夢見て居る様なものだ。革命が来るまで黙って寝て居よう、そして革命が起ったら大急ぎで顔でも洗って出かけようといふのが彼等の考へだ。プロレタリアートは斗争に於て自己の真の敵を知るのだ。ブルジョアジーと妥協する為にプロレタリアートは団結するのではなくて、何者と斗争する為に組織を作るのだ。然るに『労農』一派によると、何でもいゝから組織が大きければそれでよいとあふのだ。ウソもミソも一緒になれ！これが彼等のスローガンである。

吾々は云ふ。日本資本主義は世界資本主義体系の中でも最も弱い環の一つである。今日の経済危機は必然的に政治的危機をハランでゐる。社会主義革命にとっての客観的条件は備はっておる。併し乍ら、直接革命的状勢をもたらすとは限らない。それはプロレタリアートの革命的組織力と戦略戦術の正しさの如何に依存する。故にプロレタリアートはその革命的組織力を準備しなければならない。日本のプロレタリアートは、ロシアのプロレタリアートが経た様な一九〇五年・一九一七年二月革命の如き経験を持ってはゐない。ドイツ・プロレタリアートの持った所の一九一八年・二三年の如き経験を持ってはゐない。だが、そのことは日本のプロレタリアートが必ず斯くの如き経験を経なければならぬと云ふ事を意味せず、又、その中にないと云ふことを意味するものでもない。最近の情勢は特に、『日本のプロレタリアート大衆の間には偉大なる革命的エネルギーが包蔵されてゐる』（プロフィンテルンの決議）ことを示してゐる。彼等の依ると、吾々がかうした考へをすると、今日の情勢にあたかも直接の革命的危機に当面してゐるかの如く誤認してゐると云ふのである。デマゴーグと言はずして何をもってデマと言はんやだ。

第二、斯くの如く、彼等『労農』一派は日本プロレタリアートの力を信じない。ブルジョアジーの強さだけが彼等の目前にある。従って、彼等のそこから出す結論は当然『日本ではまだ共産党を作るのには早すぎる』となる。それを巧みに述べる為に『単一無産政党で沢山だ』と云ふ。今の日本共産党は左翼主義者の集りだとか、『言ふに足らぬコミンテルンの連中の集りだ』と云ふのだ。そんな弱小な観念的な集りだから、それでゐて今日存在する日本共産党の政策が間違ってゐるから悪いと云ふのであって、日本に共産党を作ることは悪くない。否、今日直ちに作らねばならぬといふ主張から作ることに自ら少し政治的自由が貰へたら作ってもいゝと云ふのらしい。許されるまで待て――これが彼等の本音だ。

日本共産党は、資本主義制度を廃し、プロレタリア独裁樹立を当面の目標としてゐる。それがどうして資本家地主政府に依って許可される日が望まれやう？彼等は要するに日本では共産党はいらぬ、錦旗の下に進めといふのだ。

吾々は云ふ。共産党のみがプロレタリアートを指導してブルジョア地主と決定的に斗争し得る政党である。そして今日の日本では、コミンテルンの日本支部である日本共産党がそれを行はねばならぬ。だが、日本共産党はまだ弱い――政治的にも、組織的にもだ。それは今日『労農』に巣喰ってゐる一群の合法主義者の力があづかる所大いに

あったのだ。(マサカ偽りだとは言ひまい)。然し乍ら、我党は日本プロレタリアートの集合的力と、コミンテルンの直接の指導の下に必ず強固になるし且つならねばならぬといふ確信を持って進んでゐる。

第三。彼等は、日本の社会民主々義者の裏切的行動の事実を全然見ないか、或は極端に過少評価する。(むしろ彼等自身がその仲間だからと云って仕舞へばそれまでだ。)そのことを押しかくす為に右翼がいゝ理屈を見付けてゐる。『赤旗』が右翼が致命的に不利な立場に——と先づ同情してゐる——置かれてゐる点は、日本の帝国主義ブルジョアジーが早くも没落期の段階に巻き込まれたゝめに右翼勢力を成長せしめる政治的・経済的な基礎を有しない点である』(『労農』二月号中沢篤)といふのがそれだ。そして又、労働者大衆が積極的に階級斗争に進出して来るので、日本の右翼をして、欧米の今日の如き社会ファッショ化した社会民主々義の如き、明白な改良主義への特質を明日の問題としてゐる』(同上)と云ふ。"日本の右翼の裏切的行為となんかまだ生やさしいものだ、だからん余りグズグズ言ふな"、と彼等は叫んでゐる。だが、支那革命を絞殺しつゝある蒋介石と握手し、ベルリンの革命的労働者を銃殺せるツエルギーベルに親睦を送り、『国際的裏切者』アルベール・トーマと接吻し、第二インタナショナルと完全に抱擁せる日本の社会民主々義者が果して『日本の社会ファシストたることを明日の問題としてゐる』と言ひ得るか?又、日本で、最も革命的に活動してゐた幾多の労働者を工場から警察・監獄へと送った社会民主々義者の行為が果して社会ファシストとしての明白な表れでないといふのか?又日本共産党に対する公然たる斗争の声明は?

日本の革命的労働者は『労農』の斯くの如き見えすいた欺瞞にはもう乗らないのだ。『労農』が如何に革命的言辞を弄ばうとも、又、日本共産党や全国協議会に対し極左主義者の罵言を投げかけやうとも、労働者大衆は何人が真に自分の旗印を掲げてゐるかを益々明白に知って来てゐる。『労農』が勇敢に御主人の一大事とばかり飛び出して来ても、日本のプロレタリアートは共産党の組織の拡大強化することによって断乎として邁進するのだ。

『労農』は組織々々とイヤに組織を振り廻してゐるが、共産党の組織の必要に就いては一言も云はぬのみか、今日ある日本共産党をブチこわす為めの組織をかためよと叫んでゐる。"これが彼等の本意であり、ブルジョアジーの要求である。吾々は日本の革命的プロレタリアートと共に、彼等に対する決定的斗争を続けて行かねばならぬ。

[附記] 茲では共産党に対する『労農』一派の見解の一部だけを批判したにすぎない。革命運動に於ける党の役割・共産党と労働組合、政治と経済の相互関係等々に就いて述べねばならなかったが、紙面の都合上後日にゆづる。

工場細胞を作れ!

此のスローガンはズット前から出されて居たし、且つ今も出てゐる、そして将来に於ても出し続けられるであらう。何故?それは労働階級にとって工場は戦塞だからである。工場が生産のノド首だからだ。共産党は労働階級の前衛の政治的結社である。それは労働階級の利益を代表して斗争する革命的組織である。だから工場に基礎を置かねばならぬ。この位なことは何人も知ってゐる。けれども、何故細胞が作られないのか?否それは正確に言へば、何故作って来なかったのか?問題は茲にある。

我々は此の問題に答へる前にいま一度繰り返して云はう『共産党は労働階級の前衛の政治的結社である』と。だから労働者自らが作らねばならぬ、少くとも労働者自身に依って拡大強化——政治的にも組織的にも——されねばならぬのだ。然るに今日でも尚ほ、共産党といふものは労働者の生存とはかけ離れた、どこか遠い所にあるものだといふ馬鹿々々しい考へ方をしてゐる人が労働者の間にすら可成りに多い。こんな間違ったベラボーなことは無い。共産党は労働階級がその歴史的使命——資本主義制度を倒し、社会主義社会を建設し、共産主義社会を実現し得る階級であるといふ歴史的使命を遂行する事業を指導する党である。だからその綱領を、即ち党は何を目標としてゐるかを、決して労働階級の前にかくしては居ない。又、この目的遂行の為に今日如何なることをなすかをもかくしはしない。従って、公然とその政策を発表する。で、共産党がどの問題に対して、どんな政策を持ってゐるかは全く明白である。

そこで共産党の綱領政策に賛成の労働者はドシドシとそれを実行すればよいのだ。少しもチユウチョすることなく、言葉通り遠慮なく実行すればよい。ことに、他の何もまだ知らない労働者に教へてやるのだ。併し乍ら党の政策を正しく実行する為には党に入らなければならない。何故かって、さうすることによって党の持ってゐるいゝ点・悪い点をお互に批判し合ひ、討論し合って、悪い点を修正し、よい点を益々高めて行かねばならないから。今日の日本の様に、共産党の組織並びに活動が全く非合法に追ひ込められてゐる所では特に最も厳格な規律が必要である。プロレタリアートは集団的に活動する。又、集団的に統一された意志と行動のみが、より大きな効果を挙げるといふことをよく知ってゐる。それはストライキや労働争議に於てもさうだ。況んや非合法下にある党組織に於ては尚更のことだ。だからこ

の規律は党の活動にとって是非必要である。党の利益の前には個人の利益は捨てねばならぬ。

それでは労働者党員は(他の党員も同じく)自分の意志を何等かの形に於て述べることが出来ないのか?と云ふに、全くさうではない。党員は誰でも自分の意見を述べる完全な自由を持ってゐる。党は何人の(勿論党員中の)意見をも聞く。だが、一旦党の機関で決定されたる以上、たとへ自分がその決定に反対であらうとも、上層機関で否決又は修正されない以上、その決定に基付いて活動しなければならぬ。各党員は党の一切の活動に対して同じ様に責任を負ふのである。故に党内にはプロレタリアートとしての、そして客観的条件に依って制限されてはゐるが、デモクラシーが必要であるし、且つ存在してゐるのである。同志レーニンは常に云った。『鉄の如き規律はプロレタリア的デモクラシーあってのみ真に強固であり得る』と。このプロレタリアデモクラシーといふことは、支配階級に介ってまで何でもいゝから、ジャンジャン公然と意見を斗はせてよいと云ふのではない。党内の問題として充分に討論することが必要なのであって、党内の問題を党外に持ち出して策動する様なことはプロレタリアデモクラシーの原則に反するのだ。

もう一つ必要なことは、以上の原則が集中的組織でなければならぬ。即ち、中央集権的組織でなければならぬ。すべての活動は一つの参謀本部に依って統一的に活動されねばならぬのだ。

以上の如く共産党はプロレタリアデモクラシー的中央集権主義の原則の上に立って作られて居り、鉄の如き規律を持ってゐる。そして此の組織の一番下の単位が工場細胞なのだ。だから工場細胞は党の土台である。だからそれをシッカリと築き上げねばならぬ。

それでは細胞は誰が作るのか?それは労働者自身だ。労働者を除いて誰が工場細胞を作り得るか!?現に存在してゐる細胞との連絡・党の上層機関との連絡を待ってゐるばかりでは駄目だ。党の方針が分ってゐたらそれに従ってドシドシ実行に移らねばならぬ。

或る労働者達は云ふ。『今の日本共産党内にはスパイがゐてあぶない』と。だが此のスパイを誰が征服するのだ?党の組織が工場内に強固な基礎を持ってゐるならば、スパイに対する斗争は容易なのだ。如何に注意深く作られた組織でも絶対に安全を期するといふことは困難なのだ。不断に斗争を活溌にやって行き、組織を拡大して行くことだけが、とのスパイから受ける全体の損害を最少限度に喰ひ止めることを可能ならしめるのだ。我々はすでに千名に垂んとする共産党員を牢獄に奪はれてゐるが、労働者は死んでも党の秘密を守り、党全体を守ると云ふ決心の下に、ドシドシ党へ入りつゝある。

我々は今や三・一五事件の第四週年に当り、獄中にある同志の残して行った事業を益々発展させねばならぬことを誓はねばならぬ。工場の中で、労働組合で、農民組合の中で勇敢に働いてゐた人々の殆どすべてが共産党員であったことは、共産党員こそが最も忠実にプロレタリアートの利益を代表して斗争し得ることを証明するもの以外の何ものでもない。

労働者は共産党へ入れ!・工場細胞は労働者自身が作るんだ。このスローガンの下に我々は三・一五事件を記念しなければならない。

『赤旗』を中心にして活動を展開せよ

『赤旗』は宣伝煽動の役割と共に、集合的組織者の役割を重ねるものである。『赤旗』はそれぞれの問題に関する党の政策・戦術を発表する。故に党員はそれに従って活動しなければならぬ。『赤旗』には最も生き生きとした工場内・船舶内・坑内・車庫・村落内等々の生活が反映されねばならぬ。それなしでは『赤旗』は只に組織者としての役割を果し得ないのみならず、正しい宣伝煽動者の役割をも果し得ないのだ。

『赤旗』を中心に活動を展開し、且つその成果を『赤旗』に反映せしめよ!それは『赤旗』をして組織者としての役割を充分に果させるであらう。

二・三の質問に対して答へる

(一) パンフレット『工場細胞に就いて』が工場や地区で盛に討論されてゐるが、これに対する批判・不充分の指摘を遠慮なく送られたい。このパンフレットは工場細胞を政治的に扱った点に於て四・一六直後の細胞に関する文献とそのおもむきを異にしてゐる。だが附記に断ってある様に、この中に書いてあることで必要なことの凡べてが正確に表現してあるのではなく、基本的なことだけを書いたものである。それは工場内生活・斗争の経験に依ってもっともっと内容を充実させねばならぬものである。同志諸君は積極的に具体的斗争の上に立って充分な批判をし、それを出来るだけ急速に上の機関に送って欲しい。

(二) 『赤旗』第三四号第四頁の『大衆動員に就いて』なる論文の第一項末行より第六・七行による『共産党事件公判反対』なるスローガンは、原稿の不明瞭に基づく誤りで、『共産党事件暗黒裁判反対』とあるべきである。右訂正す。

(三) 『大衆行動で「赤旗」を守れ!』といふことの意味が分らないと云ふ人があるが、簡単に答へたい。此の表現の仕方が余り正確でないので、さうした疑問が出るのだらうが、その意味は『赤旗』を中心として活動を活溌に展開し、党及び革命的労働組合の側に労働者大衆を獲得せよ、さうすることに依って『赤旗』——党——に対する大衆の信頼を高めよ、そのことが『赤旗』を本当に守ることになるのだ。だからさうしなければ反対派とあるのだ。労働者大衆を我々の側により多く獲得し、敵に対する強い防ぎとなることが真に『赤旗』を守ることになるのだ。

(四) この外にもまだ色々あるが、それは次号に廻す。

定價 金五銭

NO.1　赤旗　1931.3.17

赤旗

第36号
国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

ソヴエート同盟通商代表 同志アニケーフ暗殺未遂事件に就ての檄

支配階級の陰謀と斗へ！

全国の労働者農民諸君！！

ソヴエート同盟通商代表、同志アニケーフは反動主ギ者[illegible]の為に一九三一年三月十六日狙撃された。これに対して警視廳を通じて日本政府の発表は[illegible]の私怨よりとした。併し乍ら、これは決して個人の単なる私怨ではない。

ソヴエート同盟通商代表に対するかくの如きテロリスト的行為は日本の資本家地主政府が、全世界プロレタリアートの、そして日本プロレタリアートの[illegible]

[illegible]

一、全党員は日常経済斗争の先頭に立て!!

二、大衆斗争を通じて解党派一味を粉砕せよ!!

三、右翼的極左的偏向に対する決定的斗争に依り党の政治的組織的統一を確保せよ!!

四、党大衆化万才!!

五、プロレタリア独裁万才!!

六、日本共産党万才!!

七、コミンテルン万才!!

[illegible]

[illegible]

NO.2　赤旗　1931.3.17

[illegible]

工場で、職場で天皇制資本家地主政府の反ソヴエート同盟の陰謀をバクロせよ！

反動団体を撲滅せよ！！

労働者自衛団を作れ！！

ソヴエート同盟の社会主義建設を職場の中で

普及せよ！

労働者の強固な組織に依って在日本ソヴエート同盟の同志を守れ！

同志アニケーフの暗殺未遂者を死刑にせよ！！

プロレタリアートの祖国ソヴエート同盟万才！！

プロレタリア独裁万才！！

三月十七日　日本共産党

大衆的活動方法への転換に依って極左宗派主義の最後的清算へ！

極左宗派主義に対する斗争は[illegible]

先[illegible]

[illegible]

NO.3 赤旗 1931.3.17

或

[illegible]

更

[illegible]

か

[illegible]

そ

[illegible]

大衆的活動方法に転換せよ！
大衆的日常斗争を通じて党を拡大強化せよ！
極左宗派主ぎの最後的清算へ！

我

[illegible]

動

[illegible]

NO.4 赤旗 1931.3.17

パリ・コンミユン（その一）

一、

[illegible]

二、

[illegible]

NO.5　赤旗　1931.3.

の口家の本質をインペイしてゐる。口家は特に天皇制の日本口家は、超階級的存在である。決してブルジヨアジーの利益のみを擁護する機関でなくて、ブルジヨアジーと同様にプロレタリアートの利益をも擁護する料図で公明神聖な存在であると宣伝する。

だが、利害の全く正反対する階級の利益を同時にヨウゴすることは絶対に不可能である。一方でもストライキを斗つた労働者や農民は体験的にこのことを知つてゐる。天皇の官憲と天皇の軍隊がドチラの階級の味方であるかといふことをハツキリと学びとつてゐるのだ！

天皇制の日本口家は最もタチの悪い資本家地主支配の機関である。日本の労働階級は[illegible]

[illegible]

モツプルデーをモツプル倍加運動で斗へ！

三月十八日！今日はモツプルデーだ！

所属政党の枠を越えて広汎な口際プロレタリアートが強き革命的階級連帯性を発揮すべき日だ！口際赤色救援会即ちモツプルが革命的階級[illegible]

[illegible]

に達した。この「統計」中には日本、オーストラリヤ、南阿聯邦、印度等々は加入されてゐない。[illegible]

[illegible]

得るのではない。吾々は切に党員及び全協組合員諸君がモツプルデーを期してモツプル運動の急速なる進展のために積極的に働きかけることを要請する。

モツプルデーをモツプル倍加運動で斗へ！

工場細胞はモツプルの責任者を定めなければならぬ。モツプルの責任を引受けた同志はその工場に広汎なモツプルの工場班を組織すべきである。

モツプルには社民党の党員であ[illegible]

[illegible]

NO.6　赤旗　1931.3.17

(1)プロフインテルンの全支部は階級的労働組合の組合員が赤色救援会に個人的に加盟する様勧めること。

(2)労働組合の代表者を赤色救援会の中央及び地方機関に送る事により、労働組合と赤色救援会の密接な生き〱とした聯絡を保つ。

(3)あらゆる口[illegible]

(4)[illegible]

(5)[illegible]

(6)[illegible]

[illegible]赤色救援会の救援金募集を労働組合の各組織に持込むことに[illegible]

四・一〇記念日を大衆団体の倍加運動で斗へ！

一九二八年四月十日資本家地主政府は光輝ある労働組合評議会、無産青年同盟、労農党の所謂左翼の三団体を解散した。

四・一〇！それは労働者農民が被等自身の組織を奪はれた日だ！

天皇制の資本家地主政府は三月十五日日本共産党に対する大弾圧を機として戦斗的プロレタリアートを全口に渡つて殆んど全部ブタ箱へブチ込んでしまつた。その数は実に数千人に達した。かくの如き未曾有の暴圧に対して吾々は勿論抗議斗争を組織した。抗議斗争は口際的に展開せられた。だが、数千人に達する戦斗的分子を奪はれた吾々の陣営は極度に破壊され、混乱させられてゐた。吾々の抗議斗争の組織は決して充分強力なものとはなり得なかつた。四・一〇！それは日本共産党の一時的破壊状態と従つて吾々の斗争の不充分の時にヤラレたのだ。

だが帝口主ギブルジヨアジーをして三・一五に続いて四・一〇の暴圧に成功せしめたものは、左右の社会民主々ギ者であつた。荒畑、山川、イノマタ等は雑誌労農を創刊して大衆的に分裂行動を開始して日本共産党に挑戦を挑した。赤松、松岡、西尾等は社民党、総同盟の名に於て、公然共産党の排撃、左右団体の破壊を宣言した。労働者農民の陣営に戦線の統一と力の結集を要求したその時に於てだ!!

四・一〇！それは右から左までの社会民主々ギ者の公然たる階級的裏切活動の結果なのだ！

四・一〇日所謂三団体が解散させられて以来の吾々の陣営はドウであつたか、吾々の労働者に体験した事は何であつたか。

(1)共産党を破壊された労働運動は舵を破壊された船の如きものだ。

職場に[illegible]破壊されざるを得ぬ。

(2)共産党と労働大衆とを結合する「[illegible]」であり、「社会主ギの学校」である労働組合の絶対に必要なることの体験であつた!! 左翼大衆団体の再建と拡大強化の不可避なることの体験であつた!!

天皇制の帝口主ギ口日本では、今発展に白色テロルは荒れ狂ふてゐる。三・一五、四・一六を筆始め列職人弾圧で吾々は千を[illegible]任として数へなければならない。多数の革命家を牢獄の中にすはれてゐる。その中には朝鮮、台湾、支那の同志もゐる。

特別にドウモウにして残虐な日本の白色テロルに対して日口際プロレタリアートが斗争の開始してゐるか。吾々は中口を侵犯と[illegible]してゐる。吾々は、口民党の野蛮な白色テロルに対して最も勇敢に斗はなければならない。朝鮮、台湾に於けるモツプル運動は吾々の責ムである。日本の救援会の任ムは実に重い。比重は断々加はりつゝある。

党員並に全協組合員諸君！

三月十八日モツプルデーを期してモツプル倍加運動を猛然に展開せよ！

モツプルの活動は公然と大衆行動に展開さるべきである。大衆行動の威力でモツプル活動の合法性を斗い取れ。大衆行動の威力で吾々の前衛を牢獄から奪還せよ！白色テロルを粉砕せよ！一人の同志を奪はれたら百人の同志が起つて彼と其家族を防衛せよ！

口際赤色救援会万才！

四・一〇記念日を期して大衆団体の倍加運動を展開せよ！

倍加運動といつても二倍にすれば充分だといふのではない。十倍にでも百倍にでも吾々の全力を傾注して大衆組織を倍加するのだ。

赤色労働組合、プロフィンテルン日本支部たる全協を始め、無産青年同盟、その他の大衆組織は四・一〇を期して具体的に倍加運動、拡大強化の斗争を展開すべきである。

全党員、全協組合員、全同盟員、全労働者、全労働青年婦人諸君！

うらみの四・一〇を忘れるな！大衆組織の倍加運動で記念せよ！

全工場、全鉱山、全農場に於て、大衆団体の拡大強化のための斗争を展開せよ。

だが、組合とか同盟とかを細め細めにだけで労働者には何の利益もなく何のかゝはりもしない組合や同盟であるとしたら労働者労働青年婦人は決して進んで加入しはしないであらう。大衆はエスリに会つたか強制献金でしさせられた位にしか思はないであらう。それでは駄目だ。

労働者、労働青年婦人の利益の為にたち斗ふ機関であり、彼等の生活と緊密に結びついた組織でなければ駄目だ。大衆にとつてなくてならぬ組織たらしめなければ駄目だ！

敗戦の四・一〇を勝利の四・一〇に転化せよ！

四・一〇記念日を大衆団体の倍加運動で斗へ！

全協の拡大強化万才！

日本共産党のボルシエビキ化万才！

NO7（一）　赤旗　1931.3.17

三・一五三週年記念日に際して全口の労働者農民に檄す！

一九三一年三月十五日

日本・朝鮮・台湾・支那の共産党事件犠牲者一同

この檄文は少ニ無産者新聞紙上に発表されたものである。拷問、暴行、投獄等の試煉に堪へ幾星霜の獄生活、数百回の白色テロルにもヒルムことなく、反対に益々革命的熱情に燃えてゐる先輩同志達のこの檄文は実に吾々自身をはくかと思はれ、吾々の心臓をエグラないでは止まない。我が赤旗は、こゝにこれを転載して同志等に贈る。

全口の労働者農民諸君！

プロレタリアートのヘゲモニーの下に吾々はガッチリと隊を組む。そして大衆行動の威力で先輩同志を奪還することを誓はうではないか。

日本共産党中央委員会は口際プロレタリアートの名に於て獄内外の共産党事件の全ギセイ者諸君に堅き堅きコンミニストの握手と尊敬とを贈る。

全口の労働者農民諸君！

こゝに、三・一五以来三年の歳月がたった。この三年の間労働者農民の生活は、恐慌の度と、搾取の度と、暴力的弾圧の度とが益々加はって来た。労働者農民の上に賃下げ、時間延長、工場閉鎖、馘首、失業と半失業とが荒れ狂って、その生活を窮乏のどん底に押しへ、資本家の攻撃に抵抗する労働者のストライキ、賃下、失業反対の斗争は、白色テロル化した政府の弾圧に遭はれ、貧農小作への地主に対する小作料減額、立入禁止、小作地取上反対の斗争は、所に数千の死的強圧に直面し、全口に警察は数千の労働者農民のストライキ、小作争議を行ってゐる。而も今作業が繋行されてゐるオ五十数人の試金は何をやってゐる労働者農民か。唯の一つでも労働者農民か。

のための政策を問題としたのだったか否、彼等が唯一の労働者立法ようをつき労働組合法案も、最後に政府と資本家との共力によって意図されたストライキ及び労働組合弾圧法たる正体を公然と宣言した。社民、大衆及び労農の諸党の指導者、これ等一連の社会民主々ギ者共は政府援出のこの組合法に反対して見るが、彼等は何時もやるやうに、口先だけで反対し、資本家の手先共と協力して、労働者農民を欺き、ブルジョアの労働者の利益を売り渡す。彼等は労働者農民の斗争を抑へ、ストライキを裏切り、労働者農民の思想を利益を仲裁によって得るやうにした。口先ではこの組合法に反対して来たが、全口の労働者農民の斗争を裏切ったかも知れない。労働組合法は、ストライキ及び組合の一度の利害も同じストライキ及び組合法をも通過させた。彼等は資本家地主の手先に過ぎない。その結果は、この組合法に賛成したのだ！

かくして、資本家地主と社会民主々ギ者共は、資本家地主の唯一の民衆の労働者農民に与へた試金によって、労働者農民の失業と窮乏の上に、その死に瀕したのである。この労農大衆の四〇％は収穫事実上支配階級の手から生活の道を奪はれ、即ち資本家地主は、その深刻化する危機を解決するために労働者農民の反抗を圧迫する口内労働者農民の革命化を恐れてゐる。

技術的に必要な原料及び市場の獲得のため植民地、民族抑圧、外口市場の獲得であり、ソヴエート同盟、世界労働者農民の祖口に対する攻撃のための帝口主ギ戦争の準備である。日本帝口主ギはこの帝口主ギ戦争のために口際的一層の深刻化を今や世界的に激化し、ブルジョアジーは内部の矛盾を掩ひ、一切の労働者農民を動員して社会民主々ギ者の活動を得て、労働者農民の革命運動に極度の弾圧を加へ、帝口主ギ戦争の犠牲となすことに努めてゐる。

労働者農民諸君！

かくの如き資本家地主の社会民主々ギ者を先頭とする労働者農民の自己の解放の道を得るためには、労働者農民は生活からの解放をブルジョアジーの道具を打倒して、労働者農民の政府を樹立するより外に道はない。そしてこれが解放の道は、共産党の指導の下に、労働者農民のソヴエート政府の樹立、プロレタリアートの独裁のために労働者農民の斗争と統一と組織のために立って斗ふ事だ。資本家地主の下に、この凡ゆる労働者農民の斗争を革命化するとともに、一切の事件を知り、やがては一つの方向と結びつけ、労働者農民の組織を

NO7（二）　赤旗　1931.3.17

彼等は益衝しなければならぬ労働者農民の資本家地主に対する一切の斗争は階級斗争だ。そしてこれこそ労働者農民の党的に立って斗ふ労働者農民の大衆的政治組織こそは吾共産党だ。吾等の政治斗争を動員して党に結びつけ一切の口家権力と斗ふ労働者農民の大衆ストライキ、小作争議的闘争の一切を党が指導し、共産党の公然たる出現と共に一つの新しい発展的段階に入った。

全口の労働者農民諸君！

一方、四・一六事件の公判が開かれようとし、資本家地主の政府は、吾等被告の公判を斗争の恐怖し、公判を拘置、被告の裁判、吾等被告の斗争力を恐怖して暗黒の裁判に拘束を図ってゐる。被告、弁護人及び労働者農民の傍聴を禁止して、公判の秘密を図り、労働者農民大衆の前に我等の斗争を公開することを恐れてゐる。彼等は労働者農民の斗争を前にして、公判を非公開のうちに行ひ、その六・一事件、四・一六事件の判決を以て、地方の一般の分離公判、被告の判決を、暗黒のうちに公判を行ひ、労働者農民の前に明らかにすることを恐れてゐる。

するに、ファシスト的弾圧と、ブルジョアジーの階級のファシスト的準備、ソヴエート同盟に対する帝口主ギ戦争の準備と、一切の社会民主々ギ者の労働者農民に対する欺瞞的裏切の下に、中間階級の斗争は益々先鋭化し、ブルジョアジーの一切の斗争の中心は、労働者農民の革命的闘争を破壊し、労働者農民に対する攻撃を強め、資本家の社会民主々ギ者の党内部に潜入し、党の組織を破壊せんとしてゐる。

労働者農民諸君！

かくの如き資本家地主の暴圧は、革命の前衛たる共産党の弾圧と、その組織の破壊と、労働者農民の組織の破壊に向けられてゐる。資本家地主の先頭に立つ社会民主々ギ者は、益々労働者農民を欺き、吾々の組織の中に潜入し、党の斗争を破壊してゐる。現在の労働者農民の斗争は、吾々の斗争を全口の労働者農民と共に、世界の一切の労働者農民の斗争と結びつけ、プロレタリアートの階級斗争と、暴圧に対して、全口の労働者農民と共に、暗黒の斗争と暴圧に対し、全口の労働者農民諸君と共に、資本家地主の暗黒の

主の支判に対して全口的統一的公開支判を要求して斗ひ、資本家地主の政府打倒、労働者農民のソヴエート政府樹立、プロレタリアート独裁のために斗ふ。我等は世界革命の口際的指導部

コミンテルンの指導の下に、帝口主ギ戦争、日本帝口主ギの労農ソヴエート政府に対する白十字軍の結成、植民地民族に対する抑圧と斗ふものだ。

白色テロルを粉砕せよ！

全口的統一裁判を開け！

裁判を絶対公開せよ！

資本家地主の支判と斗へ！

階級的政治犯人を即時釈放せよ！

治安維持法その他の労働者農民を弾圧する道府県令を廃止せよ！

革命的宣伝煽動及び組織の自由！

党のボルシエヴィーキ化万才！

解党派を粉砕せよ！

資本家地主の政府を倒せ！

労働者農民のソヴエート政府の樹立！

プロレタリアート独裁万才！

朝鮮台湾等の植民地の独立！

帝口主ギ戦争反対！

支那革命の擁護！

ソヴエート同盟の擁護！

日本共産党万才！

コミンテルン万才！

NO.8　赤旗　1931.3.17

同志××の『議会解散のスローガンについて』に就て（一）

[illegible]

NO.9　赤旗　1931.3.17

工場新聞についての質問に答へる

[illegible]

（次号に続く）

[illegible]

NO.10　赤旗　1931.3.17

出来るだけ広汎な大衆に親しみ易く作られねばならぬ。色々異つた工場の、内容の余りよくないものを沢山出すよりも、内容の充実した、統一されたものを一つ出すことが正しいのであり、効果的である。

第三、工場新聞の名称と署名はどうするか？

工場新聞の名称は、その工場の労働者にとつて親しみ易い名称がいゝ。例へば大鉄工場では『グレーン』とか『ハンマー』とかいふ労働者の気持にピッタリと来る名称を選ぶべきだ。[illegible]

[illegible]

日本共産党の大衆化によつて『赤旗』を守れ！

[illegible]

組合の中央機関紙を工場内に持ち込むことの可能性を作り、吾党及び赤色組合の組織を大衆的ならしめるであらう。

附記

此の問題に関しては各地方から、それぞれの経験をドシドシ送つて欲しい。如何にして大衆的に活動すべきか？の問題を中心問題として常に討議されたい。[illegible]

『赤旗』を断じて敵に渡すな！

NO.1　赤旗　1931.3.25

赤旗

第　号

国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

国際プロレタリアートの共同斗争の日　メーデー

一、

一八八九年七月パリーで開かれた第二インタナショナルの第一回大会で、五月一日を第二インタナショナルの国際的祭日と宣言した。[illegible]

[illegible]

あるところの赤色メーデーを除くことは出来なかつた。[illegible]「赤色メーデーは依然として、革命の軍勢の前衛としての役割を演じてゐる。メーデーはブルジョアジー及びその権力機構に向けられてゐるばかりでなく、次第にブルジョアジーの代弁者となり下りつゝある改良主ギ的社会民主々ギに対して向けられてゐる。赤色メーデーは、プロレタリアートとブルジョアジーとの間の勢力関係並びに革命的プロレタリア大衆と組織せる改良主ギとの間の勢力関係を表示してゐる」

一、全党員は日常経済斗争の先頭に立て!!
二、大衆斗争を通じて解党派一味を粉砕せよ!!
三、右翼的極左的偏向に対する決定的斗争に依り党の政治的組織的統一を確保せよ!!
四、党大衆化万才!!
五、プロレタリア独裁万才!!
六、日本共産党万才!!
七、コミンテルン万才!!

二、

日本に於ける最近のメーデーは如何に斗はれたか？

帝国主ギ政府の命令通りに行はれてゐる。社会民主々ギのダラ幹の影響下に行はれてゐる。社会民主々ギの裏切幹部は合法性利用を口実にして彼等の御主人帝国主ギブルジョアジーの命令通りにメーデーを平和なお祭り騒ぎに終らせてゐる。[illegible]

三、

今年のメーデーは、では、如何に斗はるべきであるか?!

一九三一年のメーデーは未曾有に[illegible]

NO.2　赤旗　1931.3.25

中で斗はれる。"世界恐慌の一環としての日本の恐慌は日本に於ける特殊事情のために一入激烈である。"日本は最も弱き環の一つである。"金融資本のヘゲモニーの下にある資本家地主政府は、日本の特殊[illegible]恐慌を切りぬけるために、血マナコになつてゐる。"彼等は一切のギセイを労働者貧農勤労被搾取民衆に転嫁せんとして[illegible]三菱川崎造船所[illegible]大衆的馘首、浦賀[illegible]知識労働者は悪化しつゝある。[illegible]へ!・逆襲へ!・[illegible]農業労働者の貧困は更に一層[illegible]出口を見出しつゝある。[illegible]今年のメーデー[illegible]の任ムは何か?![illegible]社会民主々ギ者の影響下に[illegible]労働者[illegible]革命的プロレタリアートの[illegible]口際プロレタリアートの共同斗争[illegible]

て詳述する紙面を持たないが故に、日本のプロレタリアートが今年のメーデーで是非共かゝげて斗はねばならぬ要求並にスローガンを最後にかゝげるだけに止める。

吾々はメーデーの準備のための斗争、メーデーの斗争を通じて、吾党並に全協を拡大強化しなければならぬ。かくすることによつて始めて吾々は「革命の軍勢」の閲兵としてのメーデーの役割をはたすことが出来るのである。

党員全協組合員並に革命的労働者貧農諸君!

過去に於ける吾々の斗争は文字通り決死的の斗争であつた。[illegible]

[illegible]吾党の政策を強力に宣伝せよ。吾党の政策こそが労働者貧農の利益を最も忠実に代表するものだといふことを経験的に了知せしめよ。吾党こそが労働者貧農の利益を最後まで斗ひ抜くものだといふことを体験的に学びとらしめよ。日常斗争を精力的に展開せよ。そして労働者失業労働者貧農大衆を広汎にメーデーの口際プロレタリアートの連帯的政治斗争に結合し動員せよ。下からの共同戦線戦術によつて社会民主々ギ者の裏切りを粉砕して革命的要求のケイヨウと革命的労働者のメーデー参加とを斗ひ取れ。[illegible]これは[illegible]党員並に革命的労働者諸君の任ムである。

日本のメーデーか今年もブルジヨアジーの代理人社会民主々ギ者の指導の下に行はれ、[illegible]

党員全協組合員並に革命的労働者諸君!

[illegible]

メーデーを休日にして日給全額をよこせ!

あるなら、そして赤色メーデーが本質について十分宣伝扇動してゐるなら、下からの共同戦線戦術の成功が可能であり、日本に於て赤色メーデーのみの大々的遂行が可能であるのである。[illegible]を掲げて精悍に斗ふ我が赤色メーデーの準備はスバラしく優勢である筈である。

党員全協組合員並に革命的労働者貧農諸君!

吾々は一切の斗争をメーデーのための斗争に結合することを要求する。赤色メーデーに如何程の労働者勤労農民を動員し得るかによつて、又赤色メーデーをどの程度まで強大に斗ひ得るかによつて吾々は吾々の斗争力を知ることが出来る。メーデーは吾々のこの努力を示す一つのバロメーターである。吾々はメーデーのための斗争を通じて日本共産党全協の組織を拡大強化することが出来るし、又是非共拡大強化しなければならぬ。

党員全協の組合員革命的労働者貧農諸君!

斗ひは近づいた!・蹶起せよ!・奮闘努力せよ!

メーデーを帝口主ギと社会民主々ギの甘き結びのお祝ひ行列に終らせるな!・合法主ギ平和主ギ宣伝のお祭り騒ぎに堕らせるな!・反対に天皇主ギ、軍口主ギ・帝口主ギ・社会民主々ギに対する口際プロレタリアートの共同斗争たらしめよ!・そしてメーデーを本来の性質に帰らしめよ!

NO.3　赤旗　1931.3.25

七時間労働制!
一週五日労働制!
有害な産業部門は六時間労働制!
夜業の廃止!
時間外労働の禁止!
小児労働の禁止!
婦人労働者の保護!
十八才未満の青年の六時間労働制!
民族、性、年令による差別反対、同一労働に対する同一賃銀!
労働者を不具にする労働強度絶対反対!
大衆的馘首、半失業、賃下げ反対!
賃銀値上げ!
失業絶対反対!
口庫全額負担の失業保険の即時実施!
失業保険の実施されるまで失業手当を即時現金でよこせ!
軍事化警察化等の労働者農民の弾圧化で失業者の生活を保証しろ!
工場細胞を組織せよ!
革命的工場委員会職場代表委員会を作れ!
工場職場を基礎とする下からの革命的統一戦線万才!
労働組合運動の陣営から改良主ギ幹部を放逐せよ!
大地主、天皇、寺社の土地の没収!
土地を勤労農民へ!
大土地所有の全生産物(農産物林栽その他の財産)の没収!
肥料その他農家購入工業生産品の独占価格に対する斗争、勤労被搾取農民の債務の棒引!
高利貸に対する斗争!
貧農の租税免除!
労働者農民の子弟の教育七の口家全額負担!
農業労働者の組織!
農民委員会の組織!
革命的煽動宣伝組織及び活動の自由!
治安維持法、労働組合法案、争議調停法案、小作法案その他労働者農民を弾圧する一切の法律道府県令の廃止!
政治犯人の即時釈放!
軍口主ギを仆せ!
ファシズムを仆せ!
白色テロルを仆せ!
労働者農民の赤色自衛団を作れ!
資本家地主の奴僕一切の社会民主々ギ政党を仆せ!
天皇制資本家地主権力の手先解党派を撲滅せよ!
世界プロレタリアートの祖口ソヴエート同盟を守れ!
ソヴエート同盟に於ける社会主ギ建設の輝かしき成功万才!

支那印度の革命運動を守れ!
朝鮮台湾等植民地の完全なる独立!
帝口主ギ戦争反対!
失業と飢餓の天皇制資本家地主政府を仆せ!
労働者農民のソヴエート政府万才!
プロレタリアートの独裁万才!
ソヴエート同盟、朝鮮、台湾、支那、フイリッピン等の革命的労働組合と手を握れ!
太平洋労働組合会議万才!
日本労働組合全口協議会(全協)の拡大強化万才!
日本共産青年同盟万才!
日本共産党大衆化万才!
口際プロレタリアートの革命的指導部コミンテルン万才!
革命的口際労働組合運動の指導部プロフインテルン万才!
共産青年インタナショナル万才!
口際プロレタリアートの共同斗争の日メーデー万才!
万口の労働者団結万才!

四・一六を期して

党をボルシエビキ化せよ!

四・一六三年を迎へた!

前々号を三・一五の特別号として発行した吾々は引き続いて四・一六を迎へた。

三・一五、四・二〇、四・一六、二・一五、七・一五、等々と吾々はうらみの記念日を沢山持つてゐる。

それは吾々の敗北の記念日であるかも知れない、だが、それは吾々の偉大な攻撃に対する一段の準備であつたにすぎない。吾々は一時的には敗北した。が、捲土重来!最局の勝利は吾々のものである!日本のプロレタリアートは同志の屍を越

れて赤旗を進めつゝある。日本では反動的殺人法が吾々を待つてゐる。残虐な白色テロルが横行してゐる。だが、それは独り日本ばかりではない。最近五ケ年に四十万人近くの労働者農民が惨殺されてゐる。フインランドでは一九一八年から一九二七年に至る九ケ年の間に実に十万人の同志が虐殺され死刑に処せられ、二万余の者が暴行負傷させられ、[illegible]十一万五千人が拘留され、七万[illegible]追放された。[illegible]夫々一万六千人、三千七万人、十四万人、一万五千人七千人を出してゐる。一九二七[illegible]年の一年間に、二万二千七百八十一人の同志が逮捕拘禁され、三万二千七百七十五人の革命的加

NO.5　赤旗　1931.3.25

[illegible]

NO.4　赤旗　1931.3.25

[illegible]

失業者同盟の組織に 就業労働者は積極的に働け！

日本共産党のボルシエビキ化万才！
コミンテルン万才！

[illegible]

労働者のイニシアチーブを奪取せよ！・党の経験を批判せよ！・工場細胞を組織せよ！・日本共産党を拡大強化せよ！・そして広汎に大衆行動を組織して階級的政治犯人を奪還せよ！ 治安維持法、白色テロルを粉砕せよ！・革命的救援組織の自由を斗ひとれ！

NO.6　赤旗　1931.3.25

れて行くべきである。資本主ギ社会の下では失業者の増大は必然的である。その失業者達は彼等が怠惰なためでも、働く能力がないためでもない。働く場所がないのだ。試に、失業者の生活は国家が保証すべきである。吾々はプロレタリアート全体の名に於てかく要求する。失業救済の欺瞞がないといふ位ゴマカシ論はない。吾々は、軍事ヒ、警察ヒ等、労働者階級を弾圧する為に使はれる費用を失業者とその家族の生活保証に充てろ！』と。

各工場内の就業労働者と緊密にれんらくをとつて失業者同盟を作れ！

各職業紹介所を中心にして失業者の組織をかためろ！

失業問題は労働階級全体の問題である！

新労農党解消派の活動は何処に向ふべきか？

▼誤謬の理論的克服より実践的克服へ▲

日プロレタリアートの党は唯一つあるのみといふことを旗印として起つた新労農党内の解消派運動は、その規模如何にかゝはらず吾々はこの解消派運動が起つた当時、それは日本共産党の組織にはいることに依つて完全に正しい方向を辿ることを主張した。解消派が解消派そのものとして存続するとき、それは甚だ不徹底極まるものである。何故といふに、新労農党から除名されたといふことで止まつたのでは日プロレタリアートの党は唯一つあるといふことを正しく理解したことにならぬからである。共産主ギの理論を振り返すことが共産主ギ者としての資格を作ることにはならない。真に共産主ギ者と呼ばれ得るのは共産党の組織にはいるもののみだ。口先だけで共産主ギを云々して共産党の組織にはいらないものはまだまだ真の共産主ギ者ではない。全国に散在する解消派に属する人々は、現在でもまだ、多くは日本共産党に加入してゐない。これには色々の原因もあるだらうが、それらの人々に対する吾々の方からの積極的な働きかけが少なかつたことは疑もなく大きな原因であり。解消派運動に参加した一人々のすべてが共産党員となり得ると考へるの誤謬に反対したと同様に、彼等の下に一時的にでも走つた労働者農民大衆の中の優秀分子をとらへることを怠り、消極的態度をとることも正しくない。人々に対して、吾々は彼等の理論的誤謬を指摘するだけに止まつてゐるならば、それは実践的に、組織上に路を見出し得ない。『社会民主々ギ者として、遂には右翼に』解消派運動のために積極的に働いた労働者諸君は、日本共産党の政策に従ひ、この実践過程こそ、職場内で直ちに活動しなければならぬ。同時に工場の中で労働者大衆を獲得し、工場細胞を作ること、日本共産党の政策を宣伝し、そして最も正しい方法でそれを行ふことである。

斗争を通じて誤謬の清算へ！

直ちに党の工場細胞設立に着手せよ！

戦協（全農戦斗化協議会）は如何にすべきか

戦協が全農を戦斗化する斗争に於ては、過去の功績を多とする。実に於ては決して吾々は全農の組合員諸君に於ては、「戦協の同志達が全農内の最も戦斗的な分子であつた」。

戦協は最近会議を開いて戦協の過去の斗争を自己批判した。それは可成り熾烈な自己批判であつた。吾々は戦協の指導的同志の階級的意識を十分認め

NO.7　赤旗　1931.3.25

ことが出来る。会議は数日に渉る激論の結果、戦協将来の斗争方針の大綱を決定した。この大綱は全部が正しいものとは云ひ得ない。

[1]大綱は全農を左翼農民組合と認める。これは絶対に正しい。今日の全農は赤色農民組合とは云ひ得ない。全農は赤色農民組合インタナショナル（クレスチンテルン）の日本支部ではない。全農内には社会民主々ギ幹部も喰つてゐる。全農組合員中にも、かゝる幹部の正体を見ぬき得ないで、奴等にダマされてゐる者が今日尚ほ多く居ることを忘れてはならぬ。

[2]大綱は全農を組合全体として赤色農民組合たらしめることは出来ないであらう。それ故に戦協を全農内で拡大強化して全農内に左翼農民組合を結成すべきであるといつてゐる。これは正しくない。

赤松、片山等の右翼社会民主々ギ者は全農に対抗すべく、社会民主々ギをヒヨリミ的に結成して日本農民組合を結成したのであらう。そこでは富農が中心勢力たるであらうことは自明である。

全農の中心勢力は何であるか。それは明かに貧農である。全農組合員の恐らく八〇％は貧農、農業労働者で占めてゐるようである。戦協の会議の多数であると云はれてゐる貧農が、全農内で圧倒的多数であることを正当に評価し、正当に認識してゐるか。だから、この正当な認識をスツカリ直ちに忘却されてしまつてゐる。貧農は半プロレタリアである。吾々は貧農が如何なる役割を果たすべき必然性を負ふてゐるかを忘れてはならぬ。

貧農の組合であらうと全農を規定する民協会たるであらうと全農を貧農から引き離すことは誤りだ。彼等は富農に引き渡し、社会民主々ギ者に売り渡すことを意味する。それは小農、中農下層をプロレタリアートのヘゲモニーの下に引きよせることを要求するコミンテルンの方針に反する。プロレタリアートと半プロレタリアートの一つである農民同盟がロハだ。戦協の同志たちはそれを当面の中心任務の一つとして掲げてゐることは一応は抽象的理論としては知りすぎるほど知りぬいてゐる筈だ。この戦協の同志達の目を蔽ふたものは過去のセクト主ギだ！

戦協の蔽を破れ！

貧農の組合たらしめる方針を正しく赤色農民組合たらしめる方針をはなれ、全農を分裂させ、貧農の組合たる日本農民組合に対立させることに同意して居るではないか。反対に社会民主々ギ者や富農の影響下にある貧農、小農、中農下層を吾々の側に引き寄せなければならぬではないか。地方的農民組合や未組織のまゝにのこされてゐる貧農、小農、中農下層を赤色の大衆

農民組合にはならぬではない。カクトクしなければならぬ。そのための戦術的条件は熟してゐる。吾々は全農の組合員をして、全農の階級的な役割を正しく認識せしめ、その誤謬を正当に評価すべきである。全農の中央委員会の絶対多数は左翼支持者である。この全農の統一を保持すべきことは当然であり、全農の組合として左翼農民組合を成立させることで、全農の有利な条件の一つとなるであらう。

戦協の会議は中央委員会を正当に評価しきれなかつたといふことを正しく認識しなかつた。吾々は全農の本質的な問題に関しては、実に戦協の斗争の正しい方針を吾々の同志達は必ずしも出来なかつた。このことは、この同志達が多く打ち込んで来た斗争の中で、先頭を切つてゐる。戦協の同志達は非難すべきであるが、青年同志達は多くの熱烈な戦士であることを認めねばならぬ。

だが、青年同志達は理論的に自ら思ひ込んでしまふ。セクト的な観念的傾向に陥り、社会民主々ギ者を撃ち破つてゆくことが出来ない。

はもし熟練者であり、カンパニヤ的であることはかうして出来る。吾々は決定的に誤謬を認める。この大衆の要求を正しく評価しなければ戦協の政治的実践は大衆から浮き上つてしまふ。戦協の心臓は大衆の支持にある。

戦協は如何にすべきか？

戦協は斗争を全農の組合員に拡大しなければならぬ。そのためには戦協を全農内の左翼的組合員の大衆的組織たらしめねばならぬ。

貧農の組合たる全農を赤色農民組合たらしめるためには、全農内に根を下ろして、小農、中農下層を赤色農民組合に獲得すべきである。貧農の組合として全農の中に赤色農民組合を組織すべきである。プロレタリアートのヘゲモニーの下に労農同盟を結成するために全斗争を集中すべきである。これが全農の当面の任務である。

全農内の全農を分裂させる方針を撤回し、社会民主々ギ者の全農を内部から崩壊させる富農の側に押しやる危険のある行動は止めなければならぬ。

NO.9　赤旗　1931.3.25

『眞正左翼』(?)を以つて誇つてゐる我が愛すべき(?!)『労農』は、そんなことに、どこを風が吹くといふ調子に、この点は、『刷新』派と全く一致する。

第四、以上の如き誤謬は今日の階級斗争の現実を冷静に批判する者か、或は又、意識的にブルジョアジーに奉仕せんとする者のみが犯し得るものだ。ブルジョアジーの経済機構の深刻化は、プロレタリアートを支配階級との斗争に必然的に導き、労働者階級に対する如何なる譲歩も不可能にする。支配階級の攻撃に対して労働者大衆の団結、統一は必然的であるが、それは幹部と幹部との統一ではなく、労働者大衆の下からの統一でなければならぬ。資本に対する斗争の為の統一こそ労働者大衆の為の統一である。支配階級は大衆の斗争の為の統一を極度に恐れる。故に、彼等はこの統一を、幹部と幹部との統一へと歪めるのだ。それ故に不都合な労働者大衆の要求を、彼等は幹部と幹部との統一へ留めて置かうと試みてゐるのである。全口労働組合会議準備会は決定書中に、全協及び全口労働組合会議準備会を結成し、この斗争の為の統一戦線といふ旗印を高く掲げてゐるからだと言つても過言ではない。

然らば我々は、全口組合会議の成立に反対すべきか。否、我々は、全口組合会議が階級斗争を基礎とするものでなければならぬ。この組織は資本に対する斗争労働者大衆の利益を守る為の斗争組織として成立させねばならぬと主張するものである。

★『労農』一派の欺瞞的組合統一論をバクロせよ!

★職場を、工場を基礎とする大衆と大衆との下からの戦斗的統一戦線の為に積極的に活動を展開せよ!

★階級斗争を基礎とする労働組合の統一万才!

苦言一束

××生

(一)『第二無産者新聞』の『無産青年』はもつと地方からの通信を載せるべきだ。沢山の報告があり乍ら、それを握りつぶしてゐることは絶対によくない。両者ともつと分り易く文章を書かねばならぬ。余りに六カしい。カンパ(?)の、地方からの、大衆の要求は熱心に聞かねばならぬ。それは下からの大衆の声だ。それあつてこそ真に革命的労働者の指導を得る。

(二)民衆自身の斗争の経験はなるべく懇しく、言葉の上丈けでなく書かせる方がいい。『第二無産者新聞』の暴圧を蹴つて社会民主主義の新聞だ、とか言つた所で分らない。何だかサッパリ分らない。ご指導はしかく抗して来た、我々の方法を以て、我々は断然と、そこで新しい手段を講じた、何がこういふ

結果になつた。だから我々は是の点はかくの如く改めるべきだ、といふ具合に書いたら一つの斗争の経験が日本全口へ同志によつて普及されるであらう。我々は以上二つの『第二無産者新聞』『東京市電労働』の批判は何故かつたか。『新聞』の報導に殆んど全部ブルジョア新聞の批判をせなかつたか。我々はこゝに参考とさるべき意見が書かれたものがあると言ふ理由から長過ぎる記事は読者に不便であるが、政治的に技術上のものを没書にすべきでない。必要な事は、無産青年は青年労働者の革命家の態度を以つて書かれた記事を(三)しい溌剌さをのせるべきだ。青年らしい溌剌さを以て書かれた記事をのせるべきだ。

(四)如何に斗争が組織されてゐるか、又如何に斗争を組織すべきかを書くのだ。しかし、その方法を書き現はすことが大切だ。以上の如きことを書き、同じ内容であつても工場内生活がもつと書かれねばならぬ。例へば、工場内の赤色文化団体の活動とか、又はこゝに報導するが如き記事。あの工場の労働者の参考になる記事、健全なる青年の為の諸項目、産業青年の斗争、大衆を煽動する記事が、宣伝煽動の方法を主張する、実践的な問題を書くべきだ。ことにセクト主義は大衆の中から排除されねばならぬ。即ち実際に大衆的な斗争をするにはどうしたら良いかといふ事を書くべきだ。

NO.8　赤旗　1931.3.25

『労働組合会議準備会の成立とその方向』を評す

(『労農』三月号　荒畑寒村)

荒畑寒村の此の論文は他の一切の『労農』の論文と同様に左翼労働組合無用乃至排撃の為に書かれてある。堂々十頁に及ぶ大論文であり乍ら、そこには革命的労働組合運動の口際指導部プロフィンテルンの政策は少しも述べられてゐないのみか、それに反対することのみがある。

先づ第一に、荒畑は那和六生は二月上旬、全口労働組合会議準備会の成立について、労働組合の参加による政治的意義を主張し、全口の労働者大衆がその成立を支持すると述べてゐる。全協の斗争的組織的問題も亦政治的問題であり、革命的労働組合運動の方針に於て正しい政治的見地なしに、この組織問題は正しく解決され得ないのである。然るに荒畑は、組合会議準備会のその政治的方面を無視し、組織問題を重要な部分と考へながらも、それは全く政治的に正しい組織方面と切り離された組織問題であるといふのだ。主義的組織と言ふのは、如何なる目的を有し、如何なる組織形態が不充分なのか、それは正しい組織の目的を達し得ないといふのである。

組織形態はそれぞれの団体又はその合同体の政治的立場の具体的表現とも言はれるべきものであるから、目的が資本との斗争でなく、労資協調であり、『資本家に奉仕する労働組合』の準備会は全協と違ふ。曰く『組合員にして全協に加盟するものは除名処分に付する』と明記してゐる!(どこの組合も、それを明記してゐる!)かうした場合、労働者大衆が資本家に服従する斗争組織を得ることが出来るか。荒畑はこれを、プロレタリアートの斗争を指導し得る組織形態と言ひ、労働者大衆を代表するものだと言つてゐる。それは過去の労働組合の方面のみ見て、その責任はこの組合運動の評議会の誤謬に帰すべきことだといふ。荒畑は山川と共に、労働組合に何を言ふか、全協に対して全協を正しく斗争に進めて、そしてこの組織を評議会の全協と、労働者大衆の主旨と共に、全体の誤謬を我々は協議会の論文の総てに、評議会の誤謬として語るのである。

会の犯した誤謬を我々全体の誤謬として公然と承認し、それを克服する為に協力して斗争する。然るに彼等は『非常時』にあつては、只高見の見物式に、悪罵をあびせかけ、労働大衆の信頼を傷付けさせんが為に利用する。如何にも亦彼等の反動的役割が躍如としてゐる。

『プロレタリアートの政治的意識は『それ自身のための階級』への成熟……に俟つものであつて、この斗争がプロレタリアートの一定の段階に達した時、その政治的意見の相違に依れる左右両派の決裂は、吾々が史上既にヨーロッパの社会運動に於て見た所である。』然し、日本のプロレタリアートが成熟した時に、それ自身の階級的政治に入つた理論の注入が、機械的に、外部から意識を急激に与へることが、プロレタリアートの分裂と、組織を生ずるのは、それ自身が成熟することを意味するのではない。どんな存在は意識されるのであるか。共産党の存在は労働者階級の利害を守るのか、それは党の前衛組織であるか。我々はプロレタリアートの階級的な力でもある有力な存在である。自身の為の階級に成熟してゐないから、外部から注入されると政治的理論の根本的誤謬は正に共産党の独裁といふ。

自的活動と大衆団体との相互関係に就いての見解に於て、政治と経済との関係に就いて、意識の誤謬を重視して斗争の中に鍛錬されて行く所に、その指導に至るまでの誤謬である。荒畑の如き理論は革命的理論と実践に於て分けられ、行動は革命の実践的理論を持つてゐるといふ事が。即ち理論的に豊富な実践を持つことを立証しなければならない。理論は、実践への理論でなければならぬ。

主張は、第三に、荒畑は、全口の組合の全国的組合の指導者と、海員組合とが組合会議を持つ、総同盟、全労、等の幹部が、資本家と協力して各団体に於て改良主義的な行動を持つ、全口的労働者の為の改良主義と、反対の階級的な闘争に依つてなされる。又資本家の為に政府に言はる様に、斗争に依つて是れ等の改良主義者の行動を組織するものであると言ふ。

NO.10 赤旗 1931.3.25

…だ」と言ってはゐるけれ共、そして、その限りに於て間違はないけれ共、それ丈では物足りない。日本の労働階級全体が如何に政治的に社会的に無権利であるかといふこと、警察、憲兵が口民全体のものではなくブルジョア地主の武装的力であること、それが労働者階級と全く対立してゐるものであるから、それと斗争することなしにはブルジョアと斗争出来ないのであることを労働者大衆にハッキリと分らせることが必要なのだ。我々は単に「暴圧」だとか、「弾圧」「白色テロル」等々の言葉を叫ぶ丈けでなしに、工場内の労働者に向って、そこの工場から警察へ連れて行かれた労働者が、警察でどんなにヒドイ目に合はされてゐるかを公然と労働者大衆の前で語るべきだ。警察や、憲兵が何ものであるか、事実で知らせるのだ。警察で拷問されるのは当然だと思ってそれに対して何等の憤激をも起さないことは、警察が労働者大衆に向って行ふ暴力行為に対する政治的無関心を示すものだ。こんな態度は絶対に止めねばならぬ。労働者は自己の権利を主張すべきだといふことを労働者大衆に分らせないでどうして白色テロルに対する充分な斗争が出来るか？、警察や憲兵に対しては大衆的、徹底的に斗争しなければ駄目なんだといふ考を広く大衆の中へ持ち込まねばならぬ。

ストライキが警察の調停で解決へ「無理ヤリ」された場合でも、単に「売られた」と書かすに、何故売られたことになるの…

かを親切に教へるといふ態度が必要なのだ。

(五)「赤旗」に対する注文、希望等々は出来る丈け急速に、そして沢山送るべきだと思ふ。それなしには、党生活を生き生きと反映出来ないことは勿論だ。我々の討論は討論の為の討論ではなしに、より良く活動する為の討論でなければならぬ。その意味で、同志諸君、大いに奮闘しやう。

同志××の『議会解散』に就て（二）

吾々は第五十九議会閉会に際して全口の革命的労働者並びに貧農小作人に檄を発した。その檄の中で議会解散のスローガンは誤りである。我が日本共産党は今日この解散スローガンを撤回する。議会の武装化ではなしに、日本口家のブルジョア口家機関の破壊でなければならぬ！ブルジョア地主の独裁に代へ、プロレタリア独裁、資本家地主政府の打倒、労働者農民の政府樹立のスローガンを主張した。[partly illegible]

同志××は、「議会を仆せ」のスローガンをか、揚げることは絶対に誤りである。それは社会民主主義と五十歩百歩であるばかりでなく、社会民主主義を援助するものだと非難してゐる。又他の場所では、それは「何等かの形に於ける議会主義である」とも云ってゐる。

同志××は云ふ。「議会解散のスローガンは誤りだ。議会を仆せはどうか。[partly illegible] 綱領の中では十分宣伝しなければならぬ。だが今日のスローガンとしては絶対に誤りだ」といふ。

「若しも議会を仆せをスローガンとして採用するならば、それは戦略と戦術を混同してゐることになる。」戦略的スローガンは絶対に譲ってはならぬ。[partly illegible] 戦術的スローガンと戦略的スローガンを混同するものである。[partly illegible]

吾々は先づ同志××に聞く。同志は議会解散のスローガンを誤りだと主張するが、それは議会を仆せのスローガンと同じではないか。[partly illegible] 第五十九議会の開かれてゐる時に、如何なる情勢が許されてゐるか。[partly illegible]

だが、革命の性質を吾々が来るべき日本の革命的プロレタリア革命の範囲で規定してゐる時、このスローガンはブルジョア民主主義の範囲で規定されねばならぬ。[partly illegible] 婦人、男女の選挙権の要求は、十八才以上の男女に選挙権を与へよ。[partly illegible]

NO.11 赤旗 1931.3.25

…を打ち破る為にそれを結集をボルシエビキ政府は宣した。併し、一九一八年始め開かれた議会はその反動性の故に即時解散されたのである。ボルシエビキは選挙の際議会の正体を大衆の間に分らせる為に必死的に努力した。[illegible]

…事実上には法律的にも一つの新しい議会主義の幻想を振り撒いて、それに対立するソヴエート制度の為に大衆的政治斗争を組織すべく日常の要求を基礎とする大衆的政治斗争…

争を煽動することがどうして誤りであるか？ 議会をもブルジョア口家機関の破壊、それに代はるにソヴエート制度の樹立の必要を説明しつゝ、[illegible]

吾々は「大衆的政治的進出に依って」ブルジョア議会を倒せ！」といふスローガンを宣伝した。それ故に吾々は選挙及び議会をボイコットすることを要求するものであると解釈する者があるならそれはデマゴーグである。

同志××は書いてゐる。「選挙及び議会利用のボイコットは武装斗争及び権力奪取への直接移行する前提が現存する時にのみ許される。[illegible]」

同志××の最大の政治的誤謬の一つは、同志××が「近代的議会獲得」を要求し、「近代的…」

議会獲得の斗争を現はすスローガンを要求してゐる点である。同志××は吾々にとって何等かの形に於ける議会主義であると言ってゐる。[illegible] 今この言葉を却って同志××に返上しなければならないことを悲しむ。

同志は「近代的議会獲得の斗争はあくまでもプロレタリア革命の[illegible]」[illegible]

吾々の要求すべきものは、労働者農民のソヴエートである。近代的議会ではないのだ。共産主義者は断じて香具師であってはならぬ。ウソと知り乍らウソを云っては要求する者は香具師だ。ウソの要求を掲げてはいけない。正しいスローガンを掲げなければならぬ。だが決してそれを押しつけることはしないで、大衆が経験を通じて受け入れるやうに大衆を導くべきであり、ソヴエート同盟が厳然と存在し…

NO.12　赤旗　1931.3.25

凪日昇天の勢で発展しつゝある今日、吾々は明白に吾々の要求するものはソヴエートであること、近代的議会ではないことを明示すべきである。大衆をしてブルジョア議会に対する幻想を捨て除かせることが絶対に必要である。大衆は経験によつて「のみ学びとる。それ故に吾々は「選挙及び議会のボイコット並びに議会からの脱退」を主張しないばかりでなく、吾々はそれに積極的に参加したい、又参加する。だが、吾々は「近代的議会」をし遂行してはならぬ「近代的議会擁護」のための千重のスローガンをかゝげてはならぬ。それは絶対に誤りである。」

吾々は常に労働者農民のソヴエート！を宣伝するであらう。だが、吾々は大衆に無理に押しつけるやうなことは決してしない。吾々は親切に、そして辛抱強く大衆に宣伝しつゝ、彼等が彼等自身の経験を通じてこゝまで来るやうに大衆の中で大衆のために働かなければならぬ。

○

大衆の意向を尊重し、大衆を経験的に学び進ましめることは、大衆政治家のである。この考を忘却するものは政治家ではない。だが、この点を忘れて円墜しては同志が陥入る危険なオトシ穴である。このオトシ穴は社会民主々義から解党派の君主×々義に通ずる道である！同志×X.の熟考を要請して止まぬ。諸君と共に党員並びに労働者諸君に希望する。この問題に就いて各細胞で十分討論して意見を報告して来るやうに！如何なる具体的な問題を含んでゐるのだから。

（完）

労働婦人代表者会議開催に就いて

××紡績工場細胞　×子

> この投書に就いての意見をドシドシ送れ。大衆的討論に依りてよりよき組織の確立へ。
> —赤旗編輯局—

階級斗争の基礎に建つ下からの統一戦線樹立と、労働階級の重要素たる広汎なる工場婦人並びに失業婦人一般の勤労婦人一農村婦人、労働者の妻をも含む一の未組織大衆を我々の側に組織的に獲得する為の労働婦人代表者会議の開催は今日絶対的に必要である。

我々は未組織工場婦人及び準プロレタリア的な凡ゆる婦人大衆を我々の最も積極的な味方とする為にこれ等の婦人の日常斗争を組織し、斗争に動員し、工場を基礎とせる政治的経済的斗争に総合統一しなければならない。

何故なら、我々の力、労働者階級の組織的力の基礎は工場であり、職場である。だから労働婦人代表者会議の基礎は工場、職場でなければならない。

又は一地方、一地区に同一産業の工場にストライキがボツ発してゐる場合には、その地方の各産業の婦人代表者会議は産業別代表者会議、の会議はストライキの共同斗争の為に特に重要な役割を持つ。では如何にして代表者会議を組織するか。

（一）代表者を工場の婦人労働者の中から直接に選挙するには、我々は婦人委員会又は自主的な工場委員会を持たねば出来ない。

（二）未だ、其の様な所では準備方法として、

（イ）職場、持場を異にする婦人労働者の中からサークルを作る。

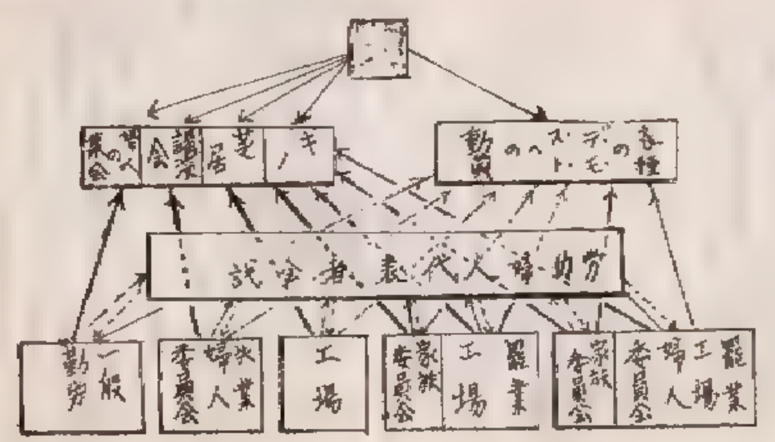
（ロ）一つのサークルから代表を選んで一工場のサークルを作る仕事が発展したら、つの工場中のサークルを結び付け、代表者会議を作ること。

（三）婦人代表者会議の組織が一工場から選ばれた代表者で成立つてゐる時に、そこに一般大衆からの代表者の参加を挙げなければならない。

（四）工場内及び工場外に白熱的斗争や紛争の起つた際には必ず労働大衆の統一機関、ストライキ委員会、対策委員会、応援斗争（共同斗争）委員会が作られねばならないし、之等の機関に婦人代表者が参加しなければならない。又、其の地方の工場や、失業者の組織から一産業の婦人代表者会議を組織しなければならない。

（五）更に大きい市区、都市、地方に於て労働者会議も亦組織されねばならない。婦人労働者会議も組織されねばならない。

階級斗争に於ける、我々の力は工場の中にあるのだ。工場内の大衆を組織することと、工場内の婦人委員会を作ることは、婦人代表者会議組織に於て、我々が全力をあげてなさねばならぬ緊急な任務である。



NO.13　赤旗　1931.3.25

党費と紙代を完納せよ

レーニンは云つた。「吾々が世界を獲得し、世界ソヴエート同盟を樹立したら、パリーの目貫通りに黄金で共同便所を建てるであらう。それが黄金の最もふさわしい最も教訓的な使用法である」と。だが、それまでは CCCP へ（ソヴエート同盟）でも吾々は黄金を大切にしなければならぬ。吾々は今帝国主義ブルジョアジーのあらゆる迫害と退廃との下に非常に困難な斗争を続けてゐるのである。労働者の賃銀は益々低下するであらう。それは労働者の再生産のためにも不十分であるであらう。

同志諸君！金—資本—が支配者—人間だ。「人間は機械だ」。これが資本主義社会の物相だ。今日吾々は金なくしては何事も十分にはなし得ないであらう。全く金の世の中だ。吾々は同志諸君に要求する。党費は必ず定期的に完納しなければならぬ。党費は収入の百分の一、百円の収入のある同志は一円納めるのだ。失業者は其の半額だ。紙代は定価が記載されてある。

吾々が党費並びに紙代の完納を要求するのは勿論党活動の財政的基礎を確立するためである。だが単にそれ丈の意義を認めてゐるのか？そうではない。党費を完納することは党員の義務である。党費は自分が党員であることによつて党員としての意識と、その部署、職責を自覚する方面の意義を尊重してゐるのだ。「武士は食はねど高楊枝」といふ武士の封建時代の計算を知ることを恥とした。かくの如き思想が日本の武士の魂とし、物質に勝つ精神力に於けるとして、物質を軽視してゐるのである。だが、吾々は物質に恬淡であること—これが労働者のモットーでもある事をハッキリ見出す。吾々は工場の内で生活しつゝある。労働者の生活は近代的なイデオロギーを持つてゐる。数百年の伝統が一朝にして得るものではない。吾々はいふ武装、それを大衆の前に認容する。吾々は決してキチョウメンであつたとは云へない。党費、組合費、紙代等に対しても、中央部ではその点で会計が正確でなかつた。この点も吾々の大きな誤謬の一つである。

吾々は過去の誤謬を大胆に認める。吾々は誓つて過去の誤謬を訂正し得るが故に誤謬を認め得るのである。これこそ吾々がボルシエビキーとしての一戦野であり、鉄の規律を鍛え上げる一分野であるのだ。

党員諸君！労働者諸君！党費、紙代を完納せよ！党の会計を分明にせよ！諸君は率先して組合費、紙代、会費の計算を正確にせよ！

吾々は最近の十一月分十二月分の会計報告を入手した。それによると十一月分よりも十二月分の方が成績がよい。紙代の納入が断然多くなつてゐる。これは誠に望ましい傾向である。だが、財政部の報告によると紙代はほんの一部分しか納入されてゐない。特に労働者の紙代支払率が甚しく悪い。恐らくそれは集金及び本社への送達の組織の上に欠陥があるからであらう。それならそれで労働者はその組織を進んで改正すべきである。労働者の負担は相当に重い。ブルジョアと共に大きく財布は何時もカラッケツだ。すみずみの職場からリアル党費、組合費、紙代、その他党費は相当の高にかさむであらう。だが、ついて行く程の金を出してこそ、斗争心にも元気があるのだ。階級に対する憎悪を高める様な金を出してこそ吾々の運動がそれ丈真剣になるのだ。

一九三〇年三月には失業者が五百円の解雇手当の全額を共産党事件の犠牲者救援のために寄附した革命的行動を吾々は銘記してある。

財政に関するボルシエビキ的意識を獲得せよ！
党費紙代等を完納せよ！
党の財政を監視せよ！
鉄の規律を確保せよ！
日本共産党のボルシエビキ化万才！

日本共産党中央機関紙『赤旗』の拡大強化万才！

『赤旗』を断じて敵の手に渡すな！

★ Пролетарии всех стран соединяйтесь!
万国の労働者団結せよ！

NO.1　赤旗　1931・4・8

赤旗

第38号

国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

国際的斗争日
メーデー動員を準備せよ！

我々は前号に於てメーデーの意義を明かにした。

一、全党員は日常経済斗争の先頭に立て!!
二、大衆斗争を通じて解党派一味を粉砕せよ!!
三、右翼的極左的偏向に対する決定的斗争に依り党の政治的組織的統一を確保せよ!!
四、党大衆化万歳!!
五、プロレタリア独裁万歳!!
六、日本共産党万歳!!
七、コミンテルン万歳!!

斗争スローガンの決定は吾々の斗争方向を示す。しかし、それがメーデー準備の全てではない。吾々は集団的にその具体的準備について討議し決定しなければならぬ。

第一に注意すべきは、メーデー斗争はメーデーの日にのみ制限されないし、又制限してはならぬといふことである。メーデーのスローガンは日常斗争と切りはなされたものではなく、日常斗争のスローガンを、この国際的歴史的カム

第二に、

第三に、

第四に、以上のことから、

★ Пролетарии всех стран соединяйтесь!
万国の労働者団結せよ！

NO.2　赤旗　1931・4・8





第五

(イ)

(ロ)

NO.3　赤旗　1931-4-5.

(ハ)日常斗争が続けられてゐる工場ところでは、メーデー当日、[illegible]

(ニ)全口協議会加盟組合は恐らくは、公然と示威運動に参加させられないであらう。従つ[illegible]

[illegible]

(ホ)[illegible]

(へ)[illegible]

(ト)最後に自衛団に就て。各大部隊に(例へば工場[illegible])必ず特別警備隊とも名付けるものを作るべきである。尤も是を××工場自衛団と名付けても差支はないが、警備隊とした方が労働者大衆に親しみ易い場合には、必ずしも自衛団の名称にこだはる必要はない。何故ならば、こゝで重要なことは、実践的に活動し得る部隊を作るにあるのだからである。

更にメーデー後には、以上の如き組織の中、全体的の組織は工場世話役−、警備隊は工場自衛団に再組織すべく努力しなければならぬ：

かくの如き実践的斗争こそが党及び共産青年同盟、全口協議会の権威を高め、その組織の拡大強化を齎らすであらう。

[illegible]て、当該工場又は地方の政策を考慮して具体的に決定すべきである。[illegible]では部隊的組織が最大限に利用されねばならぬ。更に[illegible]スポーツ等の特別組織のある所では、それを一つの特別部隊として先頭に立たせるやうにすべきである。失業労働者と就業労働者との結合は此處では大部隊の一部分として結合さるべきであらう。

★メーデーをして真に口際的斗争たらしめよ！

★日常斗争の組織を通じてメーデー示威運動を準備せよ！

★メーデー斗争を通じて党、青年同盟、全口協議会の拡大強化へ！

附記　各細胞はこの論文を参考にして具体的対策を樹てよ。

NO.4　赤旗　1931-4-8

全口協議会の活動方針を工場の中で生かせ！

[illegible]

[illegible]

上った共産主義者なんかは何処にもないのだ。そこで党的訓練を経てこそ、吾々共産主義者となり得るのだ。積極的な労働者を党へ入れねばならぬ。ビクビクしてはならぬ。

プロフインテルンの決議を工場の内で生かせ！

一切の活動を工場へ移せ！
斗争を通じて組織の拡大強化へ！
革命的労働組合の大衆化へ！

共産党員は協力して革命的労働者運動に於ける重要部門たる革命的労働組合の拡大強化を致すべく、工場内、職場内で積極的に活動しなければならぬ。

全農才四回大会の意義

全農才四回大会は口農官憲と社会民主々義者との完全な協同戦線によって未曾有のテロルの裡に終った。本大会は何をなすべきであったか。本大会は少くとも次の事を決定すべきであった。

1. 明確な革命的方針の決定
2. 未組織の組織――全農の拡大強化――農民組合の合同――
3. 農民委員会の組織
4. 農業労働者の組織
5. 共同戦線党論・社会民主々義者のバクロと粉砕――労働者と農民の戦斗的同盟

大会は、では何をなしたか。大会は明確な革命的方針を決定するに至らなかった。だが大会は行動綱領を決定した。この行動綱領は決して充分なものとは云へないとしても、大体に[illegible]

[illegible]

大会は農民委員会の組織について遂に討論する機会を持たなかった。

大会は農業労働者の組織について十分な討論を戦せ明確な決定を与へるに至らなかった。

更に大会は社会民主々義者をあばき出し得なかった。[illegible]

全農

[illegible]

彼

[illegible]

だ

[illegible]

全

全農大会に対する官憲の[illegible]

右から左までの社会民主々ギを粉砕せよ！！
一切の無産政党――合法維炊党――を撃破せよ！
全農の拡大強化並びに革命化万才！
日本共産党大衆化万才！

我

[illegible]

無新の国際的政治的誤謬に就て

[illegible]

おわが甚しく不充分である。これこそ政治的に未熟であり、国際主ギに不徹底であることの表明である。

吾世界帝国主ギの一環として東洋における反動の主柱としての日本帝国主ギ、国際帝国主ギ的危機に加へるにその特殊の内的危機を以てしては、日本帝国主ギが、帝国主ギ戦争、特にソヴエート同盟に対する攻撃戦争を大衆に準備し、積極的に活動しつゝあることは吾々が常に具体的に説明したところである。

同志ヴエ!ニーケーブ狙撃事件はこの具体的の積極的一歩前進である。戦争への具体的一歩前進である。政治的にもつと重要なことは、ハツキリ言ふべきである。

吾々はこれをどう取扱ふべきか。来る今度の事件は「同志アニーケーブは」未だ識らずの裏で日本帝国主ギの組織的計画の下に日本帝国主ギが如何に戦争を準備しつゝあるかを示す。事件はソヴエート同盟攻撃戦争の思想的な一歩前進である。帝国主ギは大衆に準備しつゝ、特にソヴエート同盟攻撃戦争を大衆に煽動しつゝ、あらゆる反動団体を通じて計画的に準備しつゝある。犯人佐藤は護国会の役員である。……に関する事件の後はソヴエート同盟の……動の二者を着々引上げて居る。……日比谷署長……人佐藤をソヴエート同盟の手に……

……事件の真相がバクロされる。特に帝国主ギ的新聞の……事件の真相はそれをバクロさせない。……ソヴエート同盟はプロレタリアートの祖国である。……ソヴエート同盟は社会主ギ建設の発展、帝国主ギ世界の……挑戦にもかゝはらず平和政策を護つて来た。……

日本政府と吾々労農大衆は日本とソヴエート同盟との善隣関係を維持することを希望する。……政府当局が……労働大衆の……

……日本労農大衆は……日本との正常関係を発展強化せしめんと希望するソヴエート……

政府は日本資本家の……行はれた……

……ソヴエート同盟の……プロレタリアートの……正しいあり方……日本帝国主ギ……

……明白に示すべきであつた。

無新は更に労働者農民は何をなすべきかを明示すべきであつた。斗争と組織を指導すべきであつた。

……無新は……自覚的に……ソヴエート同盟を守れ……

……吾々の無新が今度の事件に一歩も踏み込みさへもしなかつたことは……プロレタリアートの……全プロレタリアートである。

改良主義幹部の召集する
メーデー準備の集会に積極的に参加せよ!

吾々は甚しく当り工場、鉱山、事務所、大工場、官庁、仕事場、農場の労働者、失業労働者、農民諸君が、即刻夫々の働き場の中に無新への労働者通信員団を組織して無新との生きた結合を確立することを要求する。

労働者失業労働者農民諸君!日本共産党の一大衆的政治新聞をプロレタリアートの大衆的政治新聞にせよ!党員はこの斗争の先頭に立て!

ここに掲げたのは××化学工場細胞から送つて来た上申書の一部である。赤旗の原稿として書かれたものではないが、ここに掲載する。××化学工場細胞の決定は正しい。
日常生起する個々の問題について各細胞、各党員、各読者がこの例に習つてドシドシ書いて送るよう要求する。それなくしては党並に赤旗の大衆化はあり得ないであらう。この表題は赤旗の編輯者が附したものである。

××化学工場細胞

俺達は全国同盟に属してゐるのだが、全国同盟の事会的反対派では今盛んにメーデーの準備をやつてゐる。俺達の地区の準備活動を一寸報告する。俺達の地区では事会的反対派の地区の準備が組織され、俺達の細胞はまだ小さいといふことを断つておく。

俺達の地区では……メーデー準備のためにこの集会が開かれたのだ。……この不景気に罰金をとるといふ集会に……。

この地区の全組合員はいかなくても大多数の組合員がとまて出席することは確かだ。この会合には全国同盟から改良主ギ幹部が出席して、長々と訓示を与へるだらう。……政府の……を押しつけるのだ。……

俺達の細胞では赤旗の示した方針に従つて既にメーデー斗争の準備を斗つてゐる。それについて報告するのが、この上申の目的で全国同盟××地区の決定した。

……メーデー準備の集会で……

……全組合員の……改良主ギ……

幹部のお祭りメーデーと党の正しいメーデー……

……



★ Пролетарии всех стран соединяйтесь !
万国の労働者団結せよ！

NO.1　赤旗　1931-4.22

赤旗

第39号

國際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

国際情勢と日本帝國主義の役割

一、資本主ギ世界は其の一般的危機の上に捲き起された経済恐慌の深化の中にある。そこの経済恐慌は大ア世界資本主ギの危機を甚しく尖鋭化しつゝある。それは「永久繁栄」を誇った北米合衆国も、ルジョアジーの一切の科学と巨額の費用とを傾倒せしめた彼等の景気研究機関、並びにこれと協力せしめ一切の日和見主義者の予言を裏切って、今や恐慌の最中にある。それに続いて、イギリス、ドイツ、イタリー、日本、フランス等々の資本主ギ諸国も激化しつゝある経済恐慌の渦中にある。資本主ギ諸国の工業生産は減少しつゝあり、全ての資本主ギ国の工業は実に六〇％に及んでゐる。

資本主ギの合理化と経済恐慌の渦中に、労働者は日毎に増大し、ソヴエート同盟を除く全世界に三千万に達し……

……植民地に対する、より強力な搾取と掠奪を敢行しつゝある。

かくて帝国主ギ国内に於ける階級的矛盾は尖鋭化し、戦争の危機は日程に上されんとしてゐる。帝国主ギ諸国と植民地半植民地との矛盾も増大し、植民地に於ける反帝国主ギ運動は熾烈になって来てゐる。

一九三〇年……

一、全党員は日常経済斗争の先頭に立て!!
二、大衆斗争を通じて解党派一味を粉砕せよ!!
三、右翼的極左的偏向に対する政治的決定的斗争に依り党の組織的統一を確保せよ!!
四、党大衆化万才!!
五、プロレタリア独裁万才!!
六、日本共産党万才!!
七、コミンテルン万才!!

二、……

三、……

（同上）。

……

★ Пролетрии всех стран соединяйтесь !
万国の労働者団結せよ！

NO.9　赤旗　1931-4.8

正誤表

★第三十五号

……

★三・一五記念特輯号

第七頁第一段終りより第十行「であらう」を削る。
第八頁第一段第二行「ふまい」を「ふまい」に訂正す。
第八頁第一段終りより第五行「第二インターナショナル」不明瞭につき明記する。

★第三十六号

……

★第三十七号

……

NO.2　赤旗　1931.4.22

に対する帝国主ギ諸国の反革命的戦争の危険は今や全く現実の問題となって居る。

[illegible]

★合法主義を打破せよ!

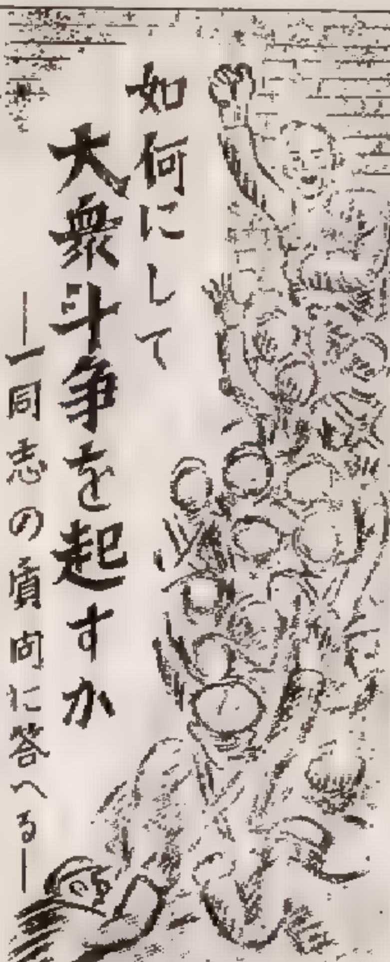
[illegible]

NO.3　赤旗　1931.4.22

[illegible]

合法主ギとの斗争を大衆的実践へ!!

[illegible]



如何にして大衆斗争を起すか
—同志の質問に答へる—

質問

[illegible]

★ Пролетарии всех стран соединяйтесь!
万国の労働者団結せよ!

NO.4　赤旗　1931-4.22

ふことから先づ合法的新聞を読ませ、それから非合法的なものを見せたりするといふ様なやり方で、せつかく確立された中心が暴露されたり、一人二人と検挙されたりして折角の組織がつぶれる。そこから探し出して一人や二人の分子を確保するといふことは困難な仕事である。勿論党文書の配布は実に重大な仕事である。然しそれと並んで吾々の主要な任務は組織の確立である。党の斗争で充分な組織が可能であり確立するのは、党の政策の下に労働大衆の斗争へ動員することに依り広汎な斗争を指導することによつてのみ可能である。又、その政策は常に工場内の情勢と合致しなければならない。煽動の人々に宣伝して特定の人々に多くの思想を与へるといふ様なやり方では、職場から孤立した一つの思想の宣伝に過ぎない。多数の大衆を斗争に移らせなければならない。党は大衆の前に公然と向つて党の見地を明白にし、党の政策を示し、それを通じて急速に大衆を組織的に、文字通り大衆的にすることを意味するのである。所が従来のやり方では極少数の人々でその政策を知り、そしてその党の政策をどうやつて大衆の生活にピッタリと結びつけ、又どうやつたら実行出来るかを充分に理解し得なかつたために、工場内の党

頭連は一ケの直位グループといふ小型を持つてゐたのである。勿論全部が全部さうであつたとは云ふのではない。多くはさうであつたと言ひ得るであらう。それでは一体どうやつたらいゝか。問題の要点は正にこゝにある。

斗争を如何にして起すか?

吾々共産主義者の任務であつて、起つて来る事件を待つてゐるのではない。問題は如何に煽動し大衆を斗争へ動員すべく煽動するかにある。吾々は煽動の方に就て同志野村の『裏二動小党』のやり方を持つてゐる。同志野村太郎著『日本労働組合運動』(七七―七九頁)中の『煽動』と何をせよ』の同論文中から若干引用しよう。

「……労働者が斗争に起ち上る為の煽動は、次の……

(一)他の工場の労働者がどんな条件で働いてゐるか。(二)……労働者の要求を如何にして……(三)獲得し得た……と。その実例は一つ二つではない。何故なれば労働者は一つ一つの……と。(四)それは特別に……(五)……

と言ふ実例を知らせる……工場の斗争に……資本家に要求して労働者は斗争するのである。……」

のでない。それは丁度養蜂の中のウヂ虫にお前はそんな臭い所に居らずに出て来い、その臭い所の命令らぬのかと云ふより、上等の香水を一本ブリかけて見ろ、すぐこのウヂ虫は自身が臭いといふことを、この香水のにほひに誘して初めて知り出す。そして、もつとよい香のあることを知り、それを欲するやうになると。同様も大衆は実例と対照とによつて……ことを煽動の中心において、ゐた。(七九―八〇頁)

同志野村は同じ論文の中で、吾々の同志達が自分のやり方の悪いのを棚に上げて、目標工場の労働者が無自覚だとか、数々と政策がチッチして仕事がウマク行かない、と理由にしてゐることを指摘してゐる。同志野村は煽動も斗争もかなり知られてゐる実例……

それでは今日、どんな問題を吾々は工場新聞で扱つたらいゝのか。吾々は工場の中で斗争を……

体はまわかなくてはない。が、それだけでは工場で斗争は起きない。どこの工場でも斗争は起きない……同志野村は言つてゐる……工場大会を開いて……斗争が起り、労働者の中に……

……資本主義制度の中で、実例として取り上げてゐる……工場の中で……吾々は……

……であらうか。更に実例を取らう。

同志山本懇

★ Пролетарии всех стран соединяйтесь!
万国の労働者団結せよ!

NO.5　赤旗　1931-4.22

職が工場に働いてゐる限りに於て常にブルジョア新聞を中心にして労働者を集めた。同志山本と評して『新聞読み』と言つた人もあつたが、事実は吾々の会で知つてゐる如く、同志山本はよく煽動者であり、且つ組織者であつた。吾々は只ブルジョア新聞に依つてすら多くの煽動をなし得ることを知つた。『労働者新聞』の所には『無産者新聞』『第二無産者新聞』『労働組合』の外『紙』も、各新聞は吾々は全日本的紙を知つてゐるのだ。ブル新聞に出る大衆の事件、状態を含めて――吾々にとつては大衆の事件、状態を知る事が大切である。そこに労働者の斗争の……を生かして得る地位に立つ吾々は、斗争の経験から、労働者の事実を利用し斗争をたかめて行く。各地方の工場、各産業の斗争事件を如何に我々のものにするかを考へなければならぬ。

種々の事件が起つた。武工場ではストライキが起つた。労働者の多くは斗争を引き廻り、資本家又は支配人達の手先に売つたりして、資本家の門前まで押しかけ、要求を貫徹しなかつた。警官が動員された。ガンバつたが、女や子供や老人を殴り、ワイワイ泣き騒いだ――それが横つた! 又巡査が横つたりしたのだ!

と叫びつゝ、その場からストライキ破りを……大衆的活動の戦術的指導者として……少数の労働者が……

（中段）

……吾々は……労働者の斗争……工場委員会……組合……共産党……

けれどもさうなれば共産党の悪口は善く言はれる……労働者は自由に空気を一杯吸へなければならぬ……

「……全部が……公然と歌ひ、共産党……」

吾々は……労働者を組合に……

人々は大衆的に組合に入らなければならない……

同志野村は言つてゐる……(八十八頁)……

大衆の意向を……吾々は常に労働者大衆の現在の方向を……大衆の傾向を……

附記

同志諸君、諸君は「赤旗」を工場細胞に活動して送る事務がある。それは全部……

……

論されてゐる……同志は……

★ Пролетарии всех стран соединяйтесь！
万国の労仂者団結せよ！

NO.6　赤旗　1931-4.22

労仂者通信員団を組織せよ！



○意見、ニユース、体験の小コク、感想、通信、マンガ、小説等をドシく送れ。赤旗編輯局の机上をそれ等の原稿でウヅめろ。と吾々は号毎の赤旗で工場、鉱山、農村の労仂者會員諸君に訴へてゐる。にも拘らず今日までのところでは甚だ成績がよくない。こんな事では工場、鉱山、農村等と生き生きとした結合は不可能だ。こんなことでは赤旗を殺してしまふ。こんなことでは工場、鉱山の労仂者とピツタリ結付いた煽動宣伝者に組織の役割をはたさせることは不可能だ。それはかりではない。窮局に於ては日本共産党を大衆から浮き上らせてしまふだらう。

○赤旗には日本共産党中央機関紙として政治的並に組織的根本方針が反映されなければならぬ。労仂者がわかり易い平易な言葉で書かれてゐなければならぬが、労仂大衆が數多く讀まうかならぬ。その上今日では赤旗は大である。

毎月二回発行される予定である。だから半月といふ長い期間には重要な政治的並に組織的問題が次々と山積する。従って六ケ敷い論文が多くなる。××印刷工場細胞の一同志が云つてゐるやうに吾々は赤旗を活版にしたいのだ。と同時に日刊にしたいものだ。更に赤旗を今日の赤旗に見るやうな理論文章より新聞らしいものにしたい。そして、ウンと親しみ易い新聞にすることが出来る。吾々は赤旗日刊を目指して努力しようではないか！

○だが、赤旗を日刊にし親しみ易いものにすることは出来ないか。否。それはどうすればよいのか。この問題に関して工場の同志達は工場細胞で通信員を組織して赤旗を要求すべきではないか。労仂者の中にアヂテーターとしての任務を持つ一人一人の同志を。

すかことを切望する。吾々は赤旗を出来るだけ平易な言葉で書くことに努力する。だがそれだけでは充分でない。又さうするためには次のことが今日絶対に必要だ。それは何か。

○それは工場、鉱山、車船、大経営仕事場、農村から生き生きした意見、ニユース、読者の声等々をヒンパンに赤旗へ送って来ることだ!! これが絶対に必要だ。

○絶対に必要だといふことは同志達は充分知つてゐる筈だ。では、どうして送って来ないのか。組織が足らないのだ。組織が不充分だからだ。

吾々は同志達に労仂者通信員団を即刻組織することを要求する。

工場細胞は赤旗の配布を受ける時に前に書いたやうな原稿を多少にかゝはらず——多い程いゝのだぞ!!——毎回必ず赤旗の責任者に渡せ。党の工場細胞はそれ等の原稿の内容については予め討論しておけ。だからといつて間違つてゐたり、まづかつたりすると体裁などに考へて、シリ込みしたり不活発になるものは完全にブルジヨアだ!! プロレタリアじやない。

○工場細胞は即刻、赤旗への労仂者通信員責任者を決定せよ。工場細胞員がどんなに少人数の工場細胞でも労仂者通信員は必ず作られねばならぬ。

この同志は当該工場内に更に労新、無新、レーニン青年、無青、戦旗等々への労仂者通信員又は労仂者通信員団を作れ。直ちに実行せよ!!

通信の洪水を降らせろ!!

★協仂の不足を改めろ！

○評読会が初めて組織された当時俺達は一にも評読会二にも評読会でなかつたか。猫もシヤクシも評読会の仕事に従事して、吾々の持場をオツポリ出しはしなかつたか。水平社の同志は水平社の仕事をオツポリ出して評読会へ!! 学生も評読会へ！

○無産者新聞が創刊され無産者新聞の読者会がカケ声勇ましく煽動されると、吾れも吾れもと無新の読者会の組織者に早変りをしはしなかつたか。

○労農党が結成されて労農党の活動が華かに見えた時には労農党でなければ夜も日もあけぬ有様ではなかつたか。

現在日本共産党が公然とその姿を現はしたら吾々は日本共産党の能率ず!!。吾々は日本共産党の大衆化運動に全労仂者が参加することを非難するのではない。反対だ。だが日本共産党さへあれば組合も同盟もクソクラヘ！

★ Пролетарии всех стран соединяйтесь！
万国の労仂者団結せよ！

NO.7　赤旗　1931-4.22

といふのは間違ひだ。夫々の任務をナゲ捨て、夫々の受持ちをホツタラかして、凡ての労仂者が日本共産党の組織者にならうとすることは間違ひだ。夫々の持場で自分の任務を成功的にやり遂げて行くことが、それが日本共産党を大衆化することなんだ。それがホントの党の重要な組織者だ。それが吾々の過去の斗争の了史を厳密に自己批判すると前述の誤謬をハツキリ指摘することが出来る。

では現在吾々は過去の誤謬をスツカリ清算しきつてゐるか。否だ。

吾々はこゝで強調する。吾々の過去の誤謬を大衆的に厳密に自己批判せよ！そして実践的に誤謬を清算せよ！ ★可急事凸もいれば誤謬凸もいるのだ！

だが、こゝで最も強調しなければならないことは「協力せよ！」といふことだ。

お互に工場労仂者の組織に従事してゐる同志達の協力の実状を観ても協力の精神に欠けてゐる。互に力を合せ、互に助け合って工場の労仂者大衆を組織しなければならない。こゝにこそ真の共産党の重要な労仂者の組織がある。互に助け合ひ、戦旗等の組織に従事してゐる同志達は互に相手の仕事の重要さを認め合って、党の組織へ、他の同志を組織するために協力し合はねばならない。吾々はこれを大衆化するために要求する。それを今日吾々は根本的にオトシ入れようとしてゐる!! 吾々は極左的に非合法主義に追はれてゐる。

動員余儀なくされてゐる。吾々は正に弘験を高めたがゆゑに党の運動を進めようとしてゐる。吾々の社会民主々義の裏切者やスパイの弾圧が党の運動を進めるやうに組織しなければならない。全般の組織者は多くの場合に全般を行くまい。だが党の組織者は勿論そうだらう。パイの組織者が何もかも一切を手に収めようとしてゐる。だから組織者が一切の仕事をかまひこむことはよくないのである。党は会の民主々義と組織の重要さを認めるに於て、党はこれをお互ひに組織し、相手の仕事を尊重し、互に協力しなければならぬ。決して相手の活動を妨害しないといふことだ。

更に例へば無新、無青、戦旗の読者会が既に組織されて居る場合は党の組織者はそれを利用すべきである。相手の組織を軽視し、相手の組織活動を援助しなければならぬ——といふのだ。

ことだ。かくてこそ赤色労仂組合が持つ任務が党と労仂者大衆とを結付けるベルトとしての任務を成功的に遂行され得るのだ。だが此場合に工場分会を以て工場細胞に代へては間違ひだ。

る。此戦旗の読者会を以て党の工場細胞の代行せよと云ふのではない。それは間違ひだ。戦旗の読者会を作つてゐる大工場の党員が全部党員たる資格があると考へ、党員として斗争する意志と希望を持つてゐる場合には全労仂者は勿論党員に採用される。それは工場細胞を組織すればよい。工場細胞であつて初めて工場の読者会で直ちに戦旗の読者会に全部党員が任命される。この場合工場細胞は戦旗の読者会を持ち、成功的に遂行させなければならぬ。党は工場の大衆を大衆的な工場細胞の大衆化し得るのだ。全般の工場分会のある大工場へ党組織の手が延びきれた場合は勿論全般の組織を利用すべきだ。此事はいふまでもない。

★党が全協や共青の組織者を無新、無青、戦旗等の読者組織を無視してはいけない。細胞は全協、共青、無新、無青、戦旗の組織を積極的に援助しなければならない。工場の工場細胞の組織者は党の戦旗、その他プル等の責任者を決め、その活動を批判し、指導し、発展せしめなければいけない。

島口根性を清算せよ！
夫々の任務を成功的に遂行せよ！
互に協仂せよ！
工場細胞を組織せよ！

同志××の『赤色テロル』と『革命的プロレタリアの当面の任務』を読みて

同志××は党きに『戦公解放のスローガンに就て』を書いたその同一の同志である。

同志××は過去の或る時期に於て吾党が冒した極左的誤謬を指摘する。だが、同志××が吾党最近の政治的並に組織的根本方針を正当に理解してゐる事即ち吾党の当面担当すべき事件は何である

環、それを知ることによつて環の全体を捌し得る特殊の一環が何であるかを正当に理解してゐる事こそ、同志××の政治家としての才能を示すものである。

『吾々の任務は革命の準備である。多数者の獲得である。』同志は書いてゐる。レーニンの表現によれば、組織であり準備である。今日本に於ての多数者の獲得と云つたが

NO.8 赤旗 1931-4.22

党及び組合の大衆化である。これがまづ第一になされねばならぬことだ」。同志は其の表現の不正確にも拘らず、こゝで正しい事を言つてゐる。吾々の方針を言ひ現んでゐる。

○

同志××のこの論文は甚だ優れてゐるものを含んでゐるにも拘らず多くの論文に於けると同様な先きの同志の論文の眼目に於て誤つてゐる。この論文は赤色テロルの問題を主題としてこの論文を同志は書いてゐる。そして同志は結論してゐる。「吾々の方針は現在『赤色テロル』を原則として否定することであるか」（——ケン責任者）この結論は正しくない。

同志××は党の過去に於ける一時的極左的偏向を厳しく批判してゐるが、同志は具体的に於て極左的偏向に対立して正しく批判してゐない。[illegible] 同志は赤色テロルを吾々の方針として否定することは正しくないと主張してゐる。[illegible]

[illegible] レーニンはかつて帝国主義の依備に於ては小さなストライキ、[illegible] 日常斗争に対しても帝国主義ブルジョアジーは直々ロコツに白色テロルを [illegible]

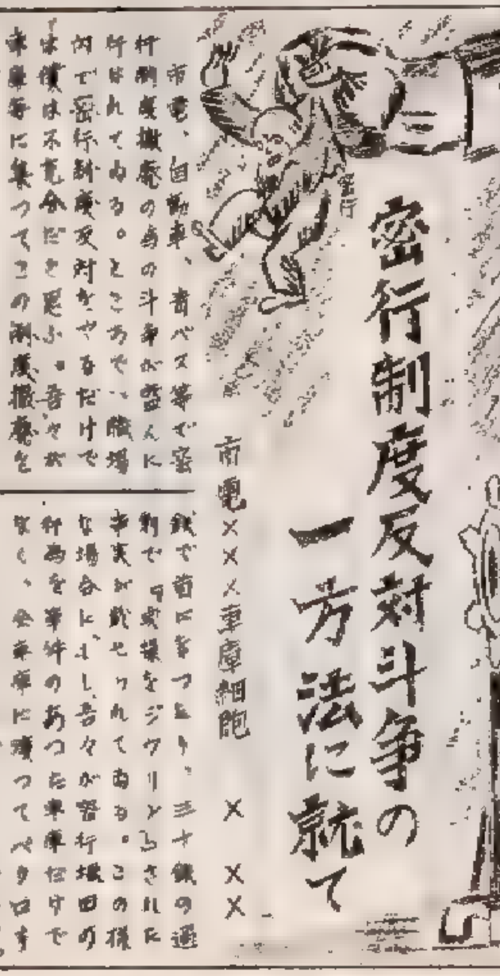
力を発動させ、白色テロルを強行させる。斗争は甚しく尖鋭化し、強力化せざるを得ない」と。吾々が日本に於ける最近のストライキ其他の事業を想起する時、レーニンのこの斗争の意義を吾々はハッキリ理解することが出来る。労働者並に階級斗争の指導者は [illegible] 組合支部のニユースも [illegible] 赤色テロルの必要だが [illegible] 全部的に承認するのではない。赤色テロル万能を是認するのではない。吾々のとるべき斗争は組織的斗争である。デモンストレーション、ストライキ、政治的大衆罷業、武装蜂起、内乱、革命等の組織的斗争であるべき筈だ。テロルを以て斗争の主要なる、且つ根本的手段であると [illegible] レーニン [illegible]

例へば、ストライキが多くの [illegible] 場の組合 [illegible] 支部は一時的にかその地方の組合 [illegible] 員や組合員が [illegible] 害や白色テロルに対して赤色 [illegible]

自衛団を組織し、赤色テロルを断行して労働者階級の大衆的決起を発揮したために、——多くの場合、多かれ少かれそのために党員や戦斗的組合員を吾々は数に於て失はれるのが常であつたに拘らずその為に——屡々組合の工場分会や支部をカイ滅から救つたばかりでなく、党や組合を一層拡大強化した。

吾々が赤色テロルを全部的に拒否するならそれは大きな誤りである。「吾々の方針は現在『赤色テロル』を原則として否定する事」ではなくて、「テロルを以て斗争の主要なる且つ根本的なる手段であると考へる極左的偏向と斗ふ事である。大衆的組織的斗争を強調することである。」[illegible]（レーニン——傍点は筆者の附したるもの）

密行制度反対斗争の一方法に就て



市電×××車庫細胞 ×××

市電、自動車、乗合等で密行制度撤廃の為の斗争が盛んに行はれてゐる。ところでこの職場内で密行制度反対をやるだけでは [illegible] 吾々の [illegible] この制度撤廃を叫び、そのために斗争する [illegible] 正しい方向だ。[illegible] 五十四号に [illegible]

鉄で前にあつた、三十銭の [illegible] この様な場合に、もし吾々が密行 [illegible] 家の前に [illegible] 彼の家の [illegible] 知れない [illegible] 一人のために [illegible]

NO.9 赤旗 1931-4.22

赤旗の批判に就て

吾人の労働者が苦しめられてゐるのだから、様々な方法で、彼がその土地に居たたまれなくすることは斗争の一方法として悪くないと思ふ。そして、スパイがこれへ引越して行つたらそこでその時に同じ様に彼をバクロするのだ。台所から逃げ出すといふ戦法はこちらから [illegible] 可成りに有効だ。[illegible] ストライキの裏切者、[illegible] スパイに対してもさうだ。[illegible]

批判——各頁の欄外にスローガンを入れたのは新しい試みであるが、そのスローガンの中には同頁の内容にそぐはないものが可成りある。

批判の批判——この批判は正しい。赤旗編輯局から赤旗印刷局に向つて欄外へ万国の労働者団結せよ！のスローガンを入れることを日本語、支那語等で入れることを要求した。然し日本語以外の万国の労働者団結せよ！

二、三の細胞からの赤旗に対する批判とこれに対する指導的一同志の批判とを受取つた。吾々はその内から大衆的討議に附する必要のあるものを二、三に掲げた。全細胞員、全読者に切望する。ドシドシ斗争の報告、批判を送れ。[illegible] 工場の生きた報告を書くして赤旗は政治的に組織的方針を具体的に [illegible] 工場の現実の斗争から浮き上らせないやうにすることは全党員の最大の責務だ。

——赤旗編輯局——

例は非常に面白いと思ふ。同じ工場に働いてゐ作ら労働者を警察の手に渡す様な奴らはどこの工場にも切らない様に労働者大衆にその裏切的行動を知らせなければならない。[illegible] そうじやないか同志諸君？ [illegible] 同志諸君、かういふ方法を実際にやつて見ようじやないか？ [illegible]

の文句が間に合はなかつたので印刷局の同志がイニシアチーブを発揮して欄外内容に適応したスローガンを採んで書いたが必ずしも適当なスローガンが採はれたとは云へなかつた。が、印刷局のイニシアチーブが欄外スローガンを一歩前進せしめたことは確かだ。今後は編輯局で撰ぶことにした。

批判——農業労働者と農民委員会と全農との三者の関係が明白でない。——これは次号あたりでハッキリさせて欲しい。

批判の批判——同志は、[illegible] 組織的関係を指摘してゐる。[illegible] 中央委員会で明白に決定され、[illegible] 全農の党フラクションに与へられてゐる。[illegible]

批判——スローガン [illegible] 全農民組合の合同 [illegible]

批判の批判——全農民組合の合同 [illegible]

[illegible] 改良主義社会民主主義 [illegible] 「全農民組合の合同」[illegible] 吾々の [illegible] 全農民組合 [illegible] 幹部 [illegible] 指導 [illegible] 批判から始めるが、この [illegible]

表現によると全農は右翼改良主ギ的幹部以上に指導されてゐて、これを現實以上に強くひかせてゐる。吾々はこゝで今日の全農は断じて決して赤色農民組合ではないこと。全農の指導者の内には当時可成りに多くの改良主ギ者——右翼改良主ギ者と左翼改良主ギ者の区別はこゝでは意味をなさぬ——が策喰つてゐる現実を見忘れてはならぬといふことを第一に注意しなければならぬ。第二には、全農以外になほ沢山の地方的農民組合があること、それらの農民組合が全農と同じ程度に右翼的農民組合であるといふことの出来ぬものもあるといふ実を見忘れてはならぬことを注意しなければならぬ。例へば新潟の水原郷農民組合（組合員八〇〇——一〇〇〇）の如きはそれである。

日本に於ける農民組合の主たる構成要素は貧農小作人である。この要素が重要であればこそハツキリ見なければならぬ。山、赤松その他の組織した日本農民組合ですら、その多数者は貧農小作人である。吾々はこの事実を具体的に把握した。帝国主ギの現階級的に口陰除した農民組合、吾々は「全農の協同大衆化」——全農民組合の合同と赤色化——だから、スローガンを掲げた主たる根拠は、全く全農の組合員大衆の意向を最大限に尊重するためであつた。全農はスローガンを掲げた合同のスローガン全農民組合の合同のスローガンを掲げてゐる。吾々はそれを高く高く掲げ、それを支持したのだ。しかも拘らず赤松、片山等の社

全民主々ギ者が意識的計画的に組織した日本農民組合に対しても決して、その農民組合を決して見落してはならない。それ故にこそ吾々は「全農の合同」と「全農民組合の協同の大衆化」——を支持しつゝ、も敢て「全農の協同」のスローガンを掲げた、——全農民組合の合同といふ型のスローガンを提出したのである。吾々は、「全農の太衆化」——を要求したかで全農民組合のその赤色化」を要求したか——

のであるが、吾々はハツキリ云ふことが出来る。吾々は勤労農民組合の要求を支持しつゝ、赤色農民組合の特殊と、あるものだと、その様式化を全部しつゝ、あるものだといふことを。だが、これは吾々の農民戦線の全部ではない。

吾々の「全農の太衆化」——全農民組合の合同と革命化」のスローガンは不充分では全くない。農民組合の合同と革命化」のスローガンは問題として優れてゐる。吾々はこの政治的社会にこの問題につ

急告！

永野、流野、村尾、門屋、藤井、木入、河合、南、菊田等の解党派の君主々ギ者共が、日本共産党労働者派中央委員会と銘打つて「政治テーゼ草案」なるものを発表した。吾々は次号で彼等の君主々ギ的階級的裏切行為を余す所なく明白にして見せるであらう。吾々は同志達に「又か！」と叫ぶであらうが、吾々は敢て同志達へこのことを急告しておく。

次号を待て!!

四月十二日　赤旗編輯局

労働者諸君が過去の経験を十二分に批判して学びとることを要求する。労働者の革命的イニシアチーブを発揮せよ！口陰的経験を学べ！

批判——それは労働者の任ムは何か。それは労働者が革命的イニシアチーブを発揮して、自分の工場内に工場細胞を組織することである。工場細胞を拡大強化することである。決して共産党の組織者に出喰すまで拱手傍観的態度で待つてゐてはならぬ。

いて大衆的討論が捲き起されるように、そしてドシ〳〵意見を述べて来るように希望するのだ。かくしてこそ、党のボルシエビキ化が現実に可能となるのだ。

批判——「口陰失業反対デー」の批判——デモの技術については

批判の批判——この批判は全く正しい。党中央委員会に於て批判された是非批判の技術的問題について、次々に批判が発表されるよう全く具体的な要求に関して吾々はこの

と書いてゐるが、これは一体どういふことか。

批判の批判——「口陰」の批判は

★

この一つの問題を提起したい。農村に於ける階級構成について、例へば農業労働者、貧農、中農、富農（半地主）大地主の如き現実を日本ではトウするのかといふ問題だ。

問題は一般的規定や公式的規定を要求してゐるのではない。生々しい日本農村に於ける階級構成の正確な具体的規定だ。これに対する意見を日本農村の現実具体的階級関係の報告等をドシ〳〵送ることを要請する。質問でもよい。

——編輯局——

赤旗

第40号

国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

検事局・内務省・文部省等と手を握つてゐる 解党派の新たなる進出を粉砕せよ！（一）

吾々は最近解党派の天皇主ギ者共が日本共産党労働者派中央執行委員会の名で発表した「政治テーゼの草案に当り全日本の革命的労働者諸君に檄す」と「日本共産党政治テーゼ（草案）」といふ二つの怪大なスリモノを手にした。

吾々は彼等の正体を彼等自身をしてバクロさせるために、彼等の破廉恥を出来るだけ正確詳細に同志達に示したいために、こゝに彼等の長い引用をしなければならない。この点に関して同志の寛恕を乞ふ。怒りを忍んで我慢して読んで呉れ。

「日本に於けるプロレタリア革命の遂行とそれを促す革命への前提は今吾々の前に促進！この最后の段階に迫つてゐる。日本に於ける戦争と革命の時期は成熟しつゝある。しかも見よ！革命的主観的条件は、大衆の革命の前衛に退化しつゝあるではないか！革命の前衛たる日本共産党は、四・一六まで斗ひ取つた工場的基礎をすら殆ど失ひつくして了つた。インテリ、インテリ大衆、「マルクスガール」、「スパイ」等々が党内を横行し、純真なプロレタリア分子は、革命的飛躍を前にしながら足踏みを余儀なくされてゐる。即ち、党内の不純分子は、経験ある指導者の不在に乗じ、党の非合法的方針を濫用し、誤つた戦略、戦術と組織方針を盲目的に強制し、彼等の誤謬——天皇主ギ者共は、プロレタリアートの直言を以て天皇の下に除名すべし——これを反革命と読むべし——日本プロレタリア前衛がコミンテルン日本支部と潜称するまでに至つた。

然り！今日ほど日本のプロレタリア前衛が、任ムを果さないことはない。吾々は日本のプロレタリア前衛が、工場の中から、農村から、兵営から、勇敢に起ち上つて、労農大衆の前面に、日本共産党の旗を高く掲げねばならぬのだ。しかし党内の力に、この重大な時期に際して、党内の

目次（解党派批判号）

一、検事局・内務省・文部省等と手を握つてゐる解党派の新たなる進出を粉砕せよ！（一）……一頁
一、大衆斗争の組織へ！——に依つて反革命分子の清算へ！……三頁
一、即時農村プロレタリアートの組合を作れ！……六頁
一、正誤表……七頁
附録　解党派を粉砕せよ！……別冊

不純分子共は何をしてゐるか！「一切の責任を支配階級の弾圧に帰して、「検挙のあつた党の勢いのも無理はない」と、すまし込んでゐる。彼らの仕事と言へば、頭の中で党を漫画化したり、「上から」フエリーでレーニンを論じたりすること以外に何物もない。彼らには、彼らの組織的上に正しい戦略的並に組織的誤謬を徹底的に正すことを基礎として日本共産党を再建する力も意志も全然ないのだ」。「彼らは誤つた一切の責めを党員に押しつけて、革命を無限の戦闘の武器——を党員の鋼方に押しやつてゐるのだ。しかも二言目にはコンミンターンだ。

つて彼等程コミンターンを冒涜し、プロレタリアートの旗を押し立てて、コミンターンの旗を押し下げたものがあつたか！又、この清算に於て彼ら程反革命的言辞を弄したものがあつたか！党の一切は日和見主ギ的な、又は社会ファシストの綱領で被はれ、指導方針を一切の党主ギ者共の犯罪に依つてアトに知らさないために、革命的プロレタリアートを汚しておるではないか！

党の誤謬を新たに最上に組織し、党の指導部を是正し、日本共産党の旗の下に、プロレタリア大衆を日本共産党の旗の下に結合することは吾々プロレタリア前衛の任務であらねばならぬ。吾々は、今、このために、日本共産党労働者派を結成する。

日本に於ける革命的伝統を保持し発展させ得るものは、コミンターン主ギの基礎に従ひ、マルクス・レーニン主義に立つて、職場の中から、プロレタリアートの戦線から起ち上つた吾々労働者の中から、そのみだ！吾々はコミンターンの禅かしい名を利用して自己の不当な理論を正当化しつゝある党内へ、十余名の子分の利害の為に斗ふことを誓ふ。

吾々本共産党ブツシの為めに斗ふことを誓ふ「宣言」を読むべし——如何に吾々は歴史的な革命的伝統を保持するかといふことを実践によつて、吾々の正しい努力と新しい力で、コミンテルンは解党派をも新へ吾々の最大任務として、正しい指導方針を広く日本プロレタリアートの前に宣言するであらう。——」

なんてイケヅウヅウしい!!——」

「吾々は決して日本共産党内の少数派でもなく、反幹部派でもない。吾々こそが—労働者派こそが、党の本流であるのだ。日本共産党は云ふまでもなく労働者の党だ。そこで労働者派と云ふこと自体があまり意味のない一つのナンセンスだ。」—その通り！

然し、プロレタリア党の中で養つたインテリ、スパイ等々が、マルクスガール、スパイ等々が現在吾が党の幹部の顔に振舞つてゐる現在、この言葉は一つの重要な意ギを持つた言葉だ。—然り！天皇主ギ者の鍵を持つた一派、共産党とはあらゆる意ギで一切の関係を断つ—吾々は[illegible]

日本共産党の組織的数暴的一掃を断行して党内不純分子を一掃せよ！

日本共産党再建、強化万才！

打倒日本帝国主ギ！

国際的革命戦争に進れる(?)！

コミンターン万才！

世界革命万才！

日本共産党労働者派
中央執行委員会

二

戦線依見テマとマノハの陰謀だ。余りにも大人げないデマは取り上げない。

以上は檄のほんの一部にしかすぎないが、この引用文を通して—全く読んで来た同志は—解党派の天皇主ギ者の顔を見たであらう。彼等は一切の党主ギ者を粉砕せよ！」と叫んでゐる！彼等は彼等自身を粉砕せよ！そして一言半句もの裏切行為について一言半句も述べてゐない。[illegible]

これが「純真なプロレタリア要素」(??)の吾党の全内容(??)に対する「解党主ギ者を除名」した吾々は「同志諸君!!」か、彼等の意味に於て「解党主ギ者」なのだ。吾々はむしろ共犯者とそれを光栄とする。プロレタリアートの裏切者は如何なる手段で除名することをこゝに宣言する。

三

彼等のこの檄に従へば、彼等は日本共産党労働者派を結成した一人々々が党内に潜伏するマルクスガール、インテリ、スパイであると言ふ。吾々はその「インテリ」で、スパイ」であるのか？ 吾々は天皇主義者である彼等が…[illegible]

実際、彼等のスパイ的行動こそ党内を撹乱し[illegible]…彼等のデマを暴露したのは吾々だ。彼等は吾々に対して「解党派」の名を押しつけて[illegible]

日本共産党を正しい基礎の上に再建するために—吾々は一切の誤謬とデマと斗争し、正しい指導方針を革命的プロレタリアートに知らさねばならぬ。[illegible]

吾々は、事実は何よりも雄弁に物語る。[illegible] 天皇制の下で、労働者農民の政治的自由を獲得しようとする[illegible]

次に、では、彼等の組織方針は果して正しいか。彼等は日本共産党労働者派を結成した。それは彼等の云ふ如く決して日本共産党内の少数派でもなく、反幹部派でもない。然り！コミンテルンから決定的にタタキ出された天皇主ギ者共の策動に過ぎないのだ。だから組織方針を云々すること自体が絶対に許すべからざることは云ふまでもないことだ。

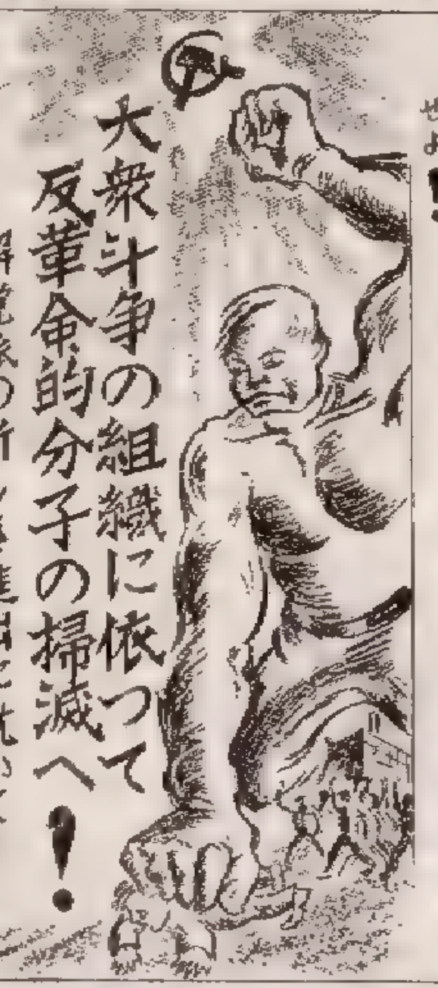
四

この檄は彼等の悪質さからして、ザと日附が附けられてゐるが、労働者派一派は一ケ月以前の三月二十日附の「赤旗」の日附を盗用し、同時に発表した労働者派の機関紙の創刊号が三月十七日発行であることから見てもわかる。これもその頃に発表されたことは隠れもない事実である。

一九三一年一月二十二日に国際共産党日本支部日本共産党中央委員会の名で発表された全国の革命的労働者諸君に檄す—なるものはブルジョア民主主ギ的俗物の作品だ。吾々はこの日本の国の広い範囲で把握することのプロレタリア革命の問題提示を正しい意味で戦略を揭げつゝあるのだ。それ以来一貫して正しい方針に従つて猛烈に斗争を進めて来ておることは同志達の熱知する事実である。吾々のブルジョア新聞を見たってわかる。

● ではないか！同志達はこゝで現在の策動の時の彼等のやり口を想起すべきだらう。全般が実践的に正しい自己批判を行つて堅実な前進を始めた第一ケ月目にして、アジダダダく騒ぎ回つた分派行動を開始したあの全般の発展を阻止しようとした内務省や検事局の手は何時もこれだ！その命令の下に立ち切つた解党派のやり口は何時もこれだ！

今、日本共産党が正しい戦略を掲げ、正しい組織方針を採用して、急激に党の大衆化を進めてゐるのに日本共産党労働者派（解党派）を粉砕せよ！



大衆斗争の組織に依って反革命的分子の掃滅へ！
—解党派の新しき進出に就いて—

日本の革命的労働組合運動は非常に困難な当面している。第五回プロフィンテルン大会で採用された日本問題に関する決議はこの意識を脱出せんがために必要な多くの方策を教へてゐる。日本の労働組合運動のために分裂してゐることの下からの共同戦線の[illegible]

プルジョアがつた資本家地主政府とグルになつてゐる解党派は、今度は相国の場合よりも更に一ケ月治も二ケ月後に「日本共産党労働者派」と名乗つて「プロレタリアート」戦線の攪乱をスパイ的活動をもつて出たのだ。天皇制の資本家地主支配を永久化し、「日本」を無限の検方に押しやるために一切の誤謬とデマとを吹き飛ばしてゐるのだ。吾々が利用したところをも一項読んで見よ！

日本共産党労働者派（解党派）の策動を実践的斗争で粉砕この実践的—政治的全意義は実にこゝにある!!

基礎の上に、更に「階級斗争の労働組合の下に立つ統一」といふスローガンの下に日本の革命的労働組合がその自己の仕事を遂行するテルン決議を採用することを[illegible]勝ち取らねばならぬ。[illegible]

併し精力的活動をなすことによつてこの事は仕遂げられねばならぬ。且つ仕遂げられるであらう。

日本労働組合全国協議会は過去に犯した誤謬を清算すべきである。労働組合全国協議会は革命的労働者の自己批判として過去の全ての誤謬を[illegible]キリスト教的敵情を承認することではない。正当に承認する為めにその政策を具体的に、誤謬を率直に克服し、そこに真の革命的な実践を樹立すること、そここそ全国協議会の正しい自己批判である。

全国協議会は過去に犯した誤謬をよく自己批判してゐるか—[illegible] を見る人々によつて...[illegible]

吾々の前にある誤謬を清算して、新しい斗争方針の下に組織を立てゝ工場に[illegible]

吾々は全国の熱心なる同志の協力を求めてゐる。日本の労働者の斗争に向つて活動する旧刷新同盟の誤謬の認め方がある。こゝにもう一つ[illegible]

導者の態度がそれだ。プロフイ
ンテルン第五回大会へ刷新同盟
からの代表として出席し野崎は
プロフインテルンの決定を全幅
的に承認し…

[illegible]

[illegible]

即時農村プロレタリアートの組合を作れ！

一

吾々は赤旗第三五号—三月一日発行—の「全農第四回大会に際して全農の同志に与ふ」の中で農業労働者の組織を主張した。そして全農の党フラクションに対して農村プロレタリアートの独立の組織を作ることは吾党当面の根本任務の一つであることを述べ農村プロレタリアートの組織方針並に農村プロレタリアートのこの独立の組織と全農との関係について委員会や全農との関係について詳細に指令した。

と同時に他方全農自身現下その必要を痛感してゐたのや、全農第四回大会で「農業労働者組織案」の一つとして「農業労働者」の中央委員会から提出する件を決定してゐた。吾党の主張とこの実践的要求は全農に於て完全に合致してゐる。

これに対して大衆党派労農党特に解党派の稲村一派は農業労働者の組織に反対して居る。吾々は理論的代表者、解党派の三月十七日発行の「日本経済研究」創刊号に発表した「問題の見込」—日附がワザと付けない—

二

「解党派の主張」農業労働者の独立の組織は「日本では問題とならない」、「日本経済研究七大農業」は本邦農業に於ける生産関係は「可成りブルジョア的関係」となり、「日本の農業は小ブルジョア的」と主張する。かうした見解の混乱から、主張の基礎の理論的混乱は吾々をして、コミンテルン第二回大会の「農業問題に関するテーゼ」は書いてある。「ー、第一に、彼の農業の生計を農業経営プロレタリアート……

ロレタリアートの中にも見出すことが出来る。政治テーゼ草案は吾党に全農と他方社会民主々義者、天皇主義者の同じ組織の中で全農の同志に対する組織の問題を提出してゐる。それとも吾党の見解は左翼に来るか、それとも解党派の天皇主義者が正しいか。水野、浅野、河合、藤井、南、菊田等の「労働者派」と「共産主義者」の態度とを決定しなければならない。



一九二九年六月七日附けでコミンテルン執行委員会が日本共産党に与へた書簡の中には日本よりも遅れて資本主義的発展の中に居る支那の中国共産党に書かれてある。「実際に農民大衆の組織問題を解決するところの任務は、一方では農村プロレタリアートの独立せる組織を必要とすると同時に、革命的農民委員会を組織し……

と叫ぶのではない。吾々が如何に具体的であるか、農民大衆の中に立つて政治的であるか、全農しかも争議の過程から実践的要求として農業労働者の組織を日程に上せてゐることが最も明白に証明してゐる。

全農中央委員会は同議案の提出理由の中で次のように云つてゐる。

及びそれと結び付いた工業に於ける賃労働によつて得てゐる賃労働者（季節労働者、日雇賃労働者、出稼ぎ労働者、農村の職人等々）を含む農業労働者、林業労働者、漁業労働者を農村人口の他の層から分離して独立に組織することが（政治的、争議的、労働組合的、協同組合的組織、消費組合、教育組合等々）……それは万国の共産党の根本的任務である」と。

て農民大衆—第一には貧農—の要求斗争の下層民衆とし、以て地主、高利貸、豪商、富農等に反対することを要求する」と。こう指摘する。日本では何処にも「農業労働者」はゐないといふのか。「天皇主義者」の「若手口」だけはいけないといふのだらう。

三

だから吾々は戦闘的に「農村プロレタリアートの組合を作れ！」

「農業労働者の農民運動に対する当面の重要性について今改めて述べる必要はない。労働者農民の統合帯として農業労働者組織の問題は、我全農に於いてこれ迄幾度も提起された。

元来、農業労働者は全国で四十万——これはイノマタの計算である。稲村は百万と云つてゐる。だが決してそんな少数ではない——と数へられてゐるが、これらの労働者も、資本主義的農場——例へば北海道、大阪、東京附近の果樹園、牧場等に働く資本主義的農業労働者と、賃労働によつて生活してゐる季節的労働者等に出る常傭労働者的要素——並に農業を兼ねた農業労働者とある。彼れも都市労働者よりも長時間と安い賃銀とを以つて極端な搾取を受け、而も最近の農業恐慌によつて全く半失業状態に追込まれ、その不平不満は極度に高まつてゐる。

即ち、その組織の可能性の時期は成熟してゐる。それに就て三重県に於ては、森林労働者の争議があつたが、之れに対して全農は組合として指導したが、又高知でも労働者の争議があつたが、これも又全農は指導した。又北海道では数百の組織があると云はれてゐるが、まだ全農は何等の働きかけをしてゐない。

吾々は、農場の如きは、全農は彼等と対立する如き、農業労働者の賃銀値下げ、時間の延長

……ると共に決戦したりしたことすらあつた。吾々は今後、各方面の関係を改め、反帝斗争、土地を農民へ、備金延期斗争、税金斗争等の賃銀問題、時間短縮等に協力しつゝ組織をはかられなければならない。

実行方法

一、総本部に先づ農業労働者組織準備委員会を持ち、各県聯でもこれに準じて持つこと。

二、労働組合——他の個所では明日に革命的労働組合と書いてある——と協力して（労働組合のない所では）争議の状態を調査し、その上で協力的に組織活動を行ふこと。

吾党は全農中央委員会のこの提案を支持する。党員労働者の組織に積極的に参加し……

四

と同時に吾々は単に農業労働者の独立の組織をつくるばかりでなく農村に住んでゐる全てのプロレタリアートの独自の組織を持つことを提案しなければならぬ。例へば次の如きである。

農村に住んでゐる工場労働者（製糸、肥料、乳業、交通、土木等）、季節労働者（漁業、林業、農業等）は

……産業別の線に沿つて全協に組織する。

農業労働者——（試験所、大農場労働者、果樹園、藤田農場の一部耕作労働者（一日傭、日傭労働者、資本主義的農耕作者、養蚕場等）、藤田農場、その他）、農業労働者等、日傭、メントリ、土工

これらは全体として近代的大小作人（林業）、地主、小作……に属し、これら組合は全農の下に農業労働者との組合に組織すべきである。

二、八

全農から労働者組合……以上述べた如く、事情が許すならば、これらの組合の組織は一般的具体的に、労働組合的に組織されなければならない……つまり組織すべき事であるのだ。

五

「時局理論」には、プロレタリア農業労働者の独立組織を主張し、プロレタリアートの政治的なプロレタリアの教育の道を与へるか、それは現実を明かにする。それは現実にプロレタリアートの利益を犠牲にして小作人、富農、地主の利益を代表するものだ。小作人の一人一人大小作人—小作人（中農）を一括して貧農（中農）の部類に入れてゐる。一人一人を与へようとするのだ。「……」（七六頁—八一頁）

このことは、「日本」の小ブルジョア的見地から組織を結成せんとする天皇主義者の反革命的本質を八ッキリ示すものである。

即時農村プロレタリアートの組合を作れ！

「日本共産党労働者派中央執行委員会」を粉砕せよ！

日本共産党大衆化万才！

正誤表

第三十八号

第六頁　第八頁

第八頁に「無産者新聞」又は「無新」とあるところを「第二無産者新聞」又は「第二無新」に訂正す。

第六頁—第八頁

「日本共産党の一機関」とあるところを「日本共産党の一機関紙」に訂正す。

赤旗
第42号
國際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

二、日本資本主義の現勢と革命の展望

カ　くの如き口際情勢の下に於ける日本資本主義の現勢は如何?日本資本主義は他の帝口主義列強より遅れて発達したが、その速度は異常に急激であつた。それは所謂自由主義時代を経過することなく帝口主ギの段階にはいつた。併し乍ら、この急速な発展は、それ自身の中に、解決し得ざる矛盾の急速な増大を伴つてゐた。今や日本資本主義はその一般的危機の上に起つた深刻な経済恐慌の中にある。それは如何なる見地よりするも資本主ギ発展の上向線を辿るものと云ふことは出来ない。何故なら資本主ギ発展の上下向線問題は、或短期間に於ける工業生産額の増大といふ見地から決定されるものではなくて、資本主ギ全体として観察されねばならぬ。都市と農村、生産力と生産関係の観点から論ぜられねばならぬからである。

エ業に於ける生産制限は一九三一年に至つても、只に撤廃されぬのみか、ムシロ反対に拡大されてゐる。労働者の大衆的馘首は今や数工業より工業へ、その主流を移しつゝあり、街頭には二百万を超ゆる失業者が充満してゐる。生産制限は五十%以上に及ぶ部門をすら有する。他方農業恐慌はその生産物価の急激な下落に表はれてゐる。例へば一九三〇年六月米以外数種穀の下落は一九二九年に比し実に二四%に及んでゐる。而して、米の生産高は世界大戦中既に停滞を示し、その後は、ムシロ後退の傾向を示してゐる。

南部ロシアの大震災に際し
全日本の労働者農民並に勤労大衆諸君に檄す!

全日本の同志諸君!

吾々は最近極めて不幸な報導を聞かねばならなかつた。去る四月二十九日喜びに溢れてメーデーを待ちつゝあつたソヴエート同盟南部アルメニア地方に突如大震災が襲来した。アルメニアは黒海と裏海の間に横たはつてゐる。ナキチエワン市を中心として、シシアンスキー地方も大惨害を蒙り、五百三十六名の死者と数千の負傷者を出してゐる。又ケリユシンスの地方では家を失つたもの二万人、シンゲルマンゲタトヴ・カモドルの諸村は全滅、オペニスキー地方では全住民が家を失ひ、更に豪雨や寒気が襲来してゐるので悲惨を極めてゐる。その他の地方でも数ケ村が全滅した。

罹災地の兄弟は寒気と病気に苦しんでゐる。八年以前の関東大震災にソヴエート同盟の兄弟は工場、職場、農村から集めた食料衣服その他の物資を満載せるレーニン号を——それは資本家地主政府のために吾々の手には渡されず追ひ返へされたが——芝浦港に寄港せしめた。

吾々は心からの見舞と救援を寄す義務がある。全世界の労働者は先を競ふて見舞に馳せ参じてゐる。

我が日本共産党は日本プロレタリアートの名に於て、即時数十万の罹災者同胞の見舞と義捐金募集を開始することを提唱する。

工場、農村から大衆的に応ぜよ!たとひ一銭でも二銭でもよいのだ。

吾等の援助は日本のあらゆる労働者農民及び革命的労働組合、大衆団体、新聞雑誌に依つて支持され、必ず実現されるであらうことを期待する。

全口の同志諸君!

日本共産党は第二無産者新聞社、ソヴエート大使館(東京麻布区)、その他無産者等々全ての革命的団体を通じて義捐金贈物の手紙をソヴエート同盟の兄弟に送れ!

この行動を通じて、ソヴエート同盟の兄弟と固い同盟を実現せよ!

我が日本共産党は如何なる困難をも要頭し、責任を以つてソヴエート同盟の兄弟へ諸君からの義捐金、手紙等を手渡すであらう。

一九三一・五・一

口際共産党日本支部　日本共産党中央委員会

目次

日本資本主ギの現勢と革命の展望 …… 一頁
南部ロシアの大震災に際しての檄 …… 一頁
日本共産党の任務 …… 四頁
警視庁内務省文部省等と手を握つてゐる解党派の新なる進出を粉砕せよ!(四) …… 六頁
前衛会解散選挙を如何に斗ふべきか(一) …… 七頁
党員採用に現はれた極左的偏向セクト主ギを清算せよ! …… 八頁
鉄の火花 …… 一〇頁
訂正 …… 一四頁
特別附録
附録(別冊)解党派を粉砕せよ(四)

一　八六八年の明治革命は、口内に於ける新興資本主ギ的勢力の増大と、[illegible]商品の浸[illegible]といふ――外口資本主ギの衝撃――とに依つて齎らされた。[illegible]外口資本主ギの植民地と[illegible]、自らを資本主ギ口と[illegible]。[illegible]非常に発達した[illegible]としてドイツの如く、上から[illegible]ブルジヨア民主ギ革命[illegible]。[illegible]土地私有権の確立[illegible]封建的[illegible]地主[illegible]。[illegible]天皇制[illegible]

[illegible]であつたにもせよ、東洋に於ける最初のブルジヨア革命であつたこと、隣邦にはツアールのロシア、封建的朝鮮を列してゐたこと、先進資本主ギ列強の注意が東洋に向けられてゐなかつたこと等は、全て日本資本主ギの発展を急速ならしめた好条件であつた。更に、日清、日露の戦争に依つて、日本は台湾、南満州鉄道、関東州、樺太の南部を得、一九一一年には朝鮮を併合し、且つ、第一次世界大戦では青島、南洋[illegible]、満蒙[illegible]、シベリア[illegible]。[illegible]は、資本口内の労働者と植民地半植民地の民衆の鮮血を吸つて急速に成長し得た。



日本は今や高度に発達せる帝口主ギ口である。生産の集中一つだけをとつて見ても、日本では五百人以上使用する工場に働く労働者の工場労働者総数に対する割合は三四・九%であり、若し百人以上使用する工場の割合をとると五八%に及ぶのである。[illegible]工業、鉱業等の実権は、三井、三菱、安田、住友等の四、五の金融資本の手中に握られてゐる。この集中化は正にドイツのそれを凌駕するものである。[illegible]

[illegible]情勢の下では、全ての問題は日本帝口主ギの見地から見られねばならぬ。(レーニン)

[illegible]封建的地主的[illegible]

[illegible]日本資本主ギ[illegible]。

当面の日本資本主ギは[illegible]



三、日本共産党の任務

[illegible]

[illegible]

[illegible]

検事局 内務省 文部省 [illegible] 等と手を握つてゐる解党派の新たなる進出を粉砕せよ！(二)

[illegible]

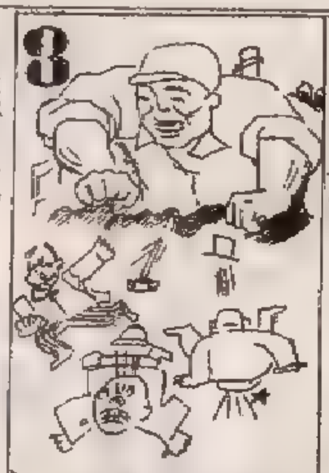
明治維新政府

[illegible]

「工場へ！」

附記

[illegible]



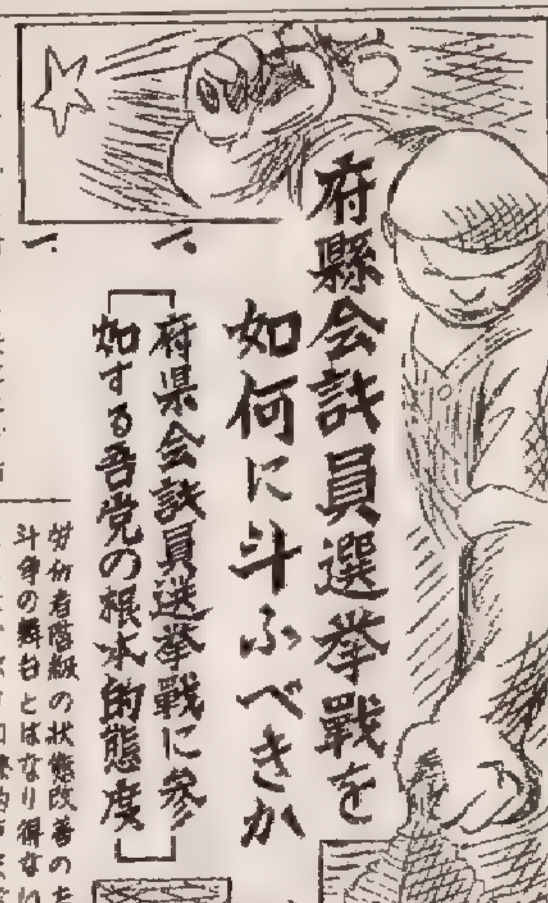
[illegible]

…を収穫する物納形態としての地代——これは明かに[illegible]

[illegible]

政権の所在

[illegible]



府県会議員選挙戦を如何に斗ふべきか

「府県会議員選挙戦に参加する吾党の根本的態度」(一)

一、

議会主ギに対する共産主ギ者の関係は不変ではない。又何等かの"綱領"の教ギによるものでもない。"それは議会主ギそのものゝ、状勢の変化によつて決定されるのだ。

嘗ては、"議会主ギは急進しつゝある資本主ギの進展として[illegible]ブルジョア的に進歩的な活動を行つて来た。その限りに於て共産主ギ者はこれに適応した限度に於て議会利用の戦術を遂行した。

だが"帝国主ギの時代"に入つた現在では、"議会は、共産主ギ者にとつて如何なる場合にも、前時代の一定の時期に於て事実であつたように、改良のための、

[illegible]

労働者階級の状態改善のための斗争の舞台とはなり得ない。"[illegible]

[illegible]

——を破壊すること〕だ。労働者農民のソヴエートを樹立することだ。

[illegible]に売り渡すものである。これは日本共産党をスパイして敵に引き渡し、プロレタリアートの戦線を攪乱し、ブルジョアジーの支配を永久化せんとしつゝある解党派の実践と一致する。

解党派の紳士連が何と言はうが、白と云ふが云ふまいが、金融資本のヘゲモニーの下にある天皇制の資本家地主政府こそが一九三一年の日本に現存する政府であるのだ!!

[illegible]

二、

[illegible]

三、

[illegible]

附記

[illegible]

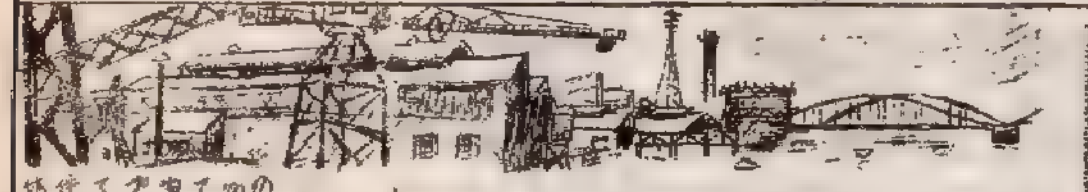
凡ての同志が必ず選挙の選挙斗争の経験を即刻書いて赤旗編輯局へ送れ!!
特に
(1)スローガン
(2)選挙斗争の組織形態
(3)選挙斗争と大衆行動との結合方法

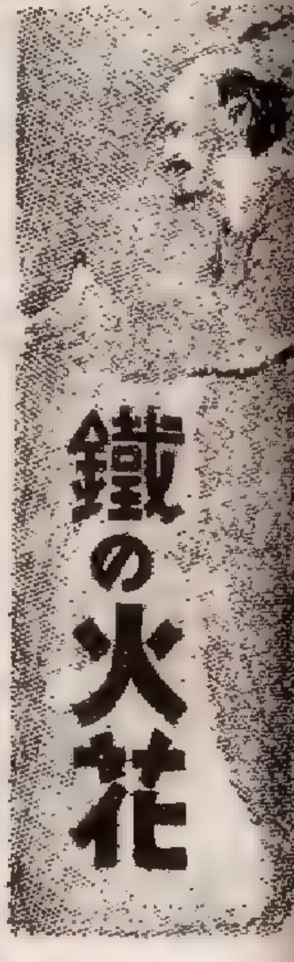
党員採用に現はれた極左的偏向

「セクト主義を清算せよ!」

——党員を一万人にふやせ!——

[illegible]





鐵の火花

吾々は毎号同志達に斗争組織の報告、感想、意見、質問、要求等々をドシく赤旗編輯局へ送るようK要求した。[illegible]

今号は更に読者の頁「鉄の火花」を創設して同志達の意見や質問や感想を沢山かゝげて全同志のこれK対する批判や質問等K[illegible]

[illegible]

同志諸君!
経験、意見、質問、マンガ、小説等をドシく送れ!
読者の頁「鉄の火花」に参加せよ!

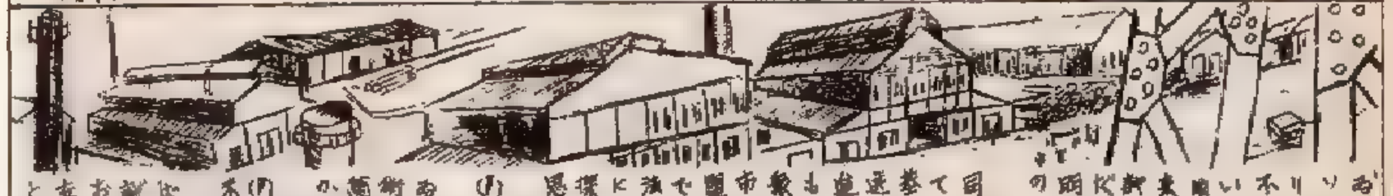
[illegible]

[illegible]



[illegible]

▲メーデー斗争のシメククリ、を急るな!
▲組織だ!組織だ!もう一度組織するんだ!
▲組織に於ける極左的偏向セクト主ギを清算せよ!
▲工場細胞を組織せよ!
▲党員を二万人にふやせ!
▲日本共産党大衆化万才!



ある……労働者と農民のソヴエート政府、プロレタリア独裁！——それでは不当であらう。斯様論ではないか、イ・私の意見から知れ[illegible]

(1) 三・一五第四年を迎へて特輯号

(7) 第三十六号

[illegible]

第三十六号に就て

[illegible]

以上

第三十七号について

[illegible]

Δ同志××の「新会解散」について

[illegible]



[illegible]

第三十八号に就て

[illegible]

一、第三十八号　国際的斗争日、メーデー

[illegible]

СОЕДИНЯЙТЕСЬ!

すなメーデーは日本革命的Kは改良主義組合員の行ふべきでねる未成行的K合致すべきで……社会民主主義者らのブルジヨア化は益々K……資本家の社会ファシスト党攻撃K……社会ファシストの集会せずとも合致するとは正しくない。社会ファシストの指導下の大衆は、吾々の獲得すべき労働者であるが、彼等を獲得することは、党の指導の下にあつてのみ可能である。……今日の情勢下Kあつて、この文句は……

——党の基本的な……革命的労働組合の……合法主義的傾向を打破し……「非合法」……

[illegible]

二、三十九号

日本帝国主義と国際労働組合の論文Kては、銀行団の反動と支配……共産党のファシズム……日本プロレタリアートの同盟の一つ……

[illegible]

○

新労農党解消派の活動は何処に向ふべきか？を読んで

××紡績工場細胞 ×子

この論文は非常によい。唯……最后の十一行ではッきりと具体的K方向を示してゐる。この方向は……解消派の同志は白テロルの手に……党の組織の手によつて……同志達や……党に入つた……党の組織の……

労働者は必ず党の下に……工場の中K党の組織をつくらう。……

[illegible]

○

工場新聞に就ての質問に答へるに就て

三十六号所載の大野君の論文は、正しいと思ふ。……工場新聞の発刊……

[illegible]

……工場新聞……労働組合……工場細胞の指導下K……

[illegible]

……工場内では、「モスプル」の工場新聞をもつて、反帝同盟……工場新聞は……

[illegible]

……工場新聞を出すのは……細胞の……全力を集中すべきである……

[illegible]

……工場新聞……組合……

[illegible]

……活動に就て述べ、その最も……非合法労働組合……工場新聞……労働組合……

[illegible]

（引用者）

正 訂

★第四号（五月一日号）「プロレタリアートの組合を作れ！」の中の不明確な点を訂正する。

全ての農村プロレタリアートは日本労働組合全国協議会（全協）K組織すべきである。原則として全協の産業別組合は……

★第四一号第一段……

★赤旗を断じて敵の手に渡すな！

赤旗第四三号特別附録

→7月7日!←

3·15★4·16の裁判を公開せよ!



3·15 4·16 東京地方犠牲者 191名 84名

★ Пролетарии всех стран, соединяйтесь!
万国の労働者団結せよ!

赤旗
第43号
国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

四、日本共産党の當面の重要戦術

(1) 労働組合運動について

党 [illegible]

労 [illegible]

経 [illegible]

労 [illegible]

[illegible]

目次

一、日本共産党の当面の重要戦術 …… 一頁
一、検事局、内務省、文部省等と手を握つてゐる解党派の新たなる進出を粉砕せよ!(一) …… 五頁
一、官吏減俸問題に際して …… 七頁
一、全鉄道、逓信従業員職員のゼネラルストライキへ! …… 八頁
一、ストライキ斗争に於ける右翼日和見主義を打破せよ! …… 九頁
一、農民革命的反対派の任務 …… 一一頁
一、鉄の火花 …… 一二頁
一、特別附録

[illegible]



[illegible]

(2) 農民運動について

[illegible]

[illegible]

社会ファシズムとの斗争
—階級斗争を基礎とする下からの統一戦線—

[illegible]



[illegible]



(4) 青年運動に就て

検事局 内務省 文部省 等と手を握つてゐる解党派の新たなる進出を粉砕せよ!〔三〕

プロレタリアートの一般戦略

一、

二、

三、



四、

[illegible]



[illegible]

官吏減俸問題に際して

─資本主ギ日本の官吏と社会主ギソヴエート同盟の「官吏」─



一、

官吏は一般的に云へば、ブルジョア国家の重要な一部分だ。[illegible]

二、

[illegible]

三

[illegible]

四、

[illegible]

[illegible]

五、

吾々は帝国主ギ日本の現状に対して、ソヴエート同盟の現状を鋭く対立せしめなければならぬ。[illegible]



全鉄道、通信従業員職員のゼネラルストライキへ！

帝国主ギブルジョアジーを仆せ！
天皇制の資本家地主政府を仆せ！
労働者と農民のソヴエート政府を樹立せよ！
プロレタリアートの独才万才！

一、

日本帝国主ギブルジョアジー[illegible]

[illegible]

二、

[illegible]

三、

[illegible]

四、

[illegible]

全鉄道、通信従業員職員のゼネラルストライキへ!!これのみ[illegible]

労働者、小学校教員、下層官吏の減俸絶対反対！
馘首絶対反対！
賃銀俸給の値上げ！
労働者独自の組織を作れ！
七時間労働制一週五日制！
従業員会、職合従業員会を再選挙して革命的労働者を委員に送れ！
全鉄道、通信従業員職員のゼネラルストライキ万才！
失業と飢餓の天皇制資本家地主政府を仆せ！
労働者と農民のソヴエート政府を樹立せよ！

（一九三一年五月二十二日）

「ストライキ斗争に於ける」右翼日和見主ギを打破せよ！

[illegible]

今やストライキは再び大衆的性質を帯びて来た。
従来現在のストライキ運動の特徴は、ストライキ戦術の行詰りを特に明かに示してある点にある。

[illegible]

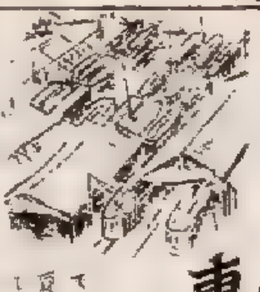
指導に転換すべきことを要求してある。

[illegible]



[illegible]

[illegible]



東交革命的反対派の任務

ストライキの独自的指導のために斗へ！
右翼日和見主ギと斗へ！

[illegible]

革命的世話役団を作れ！
下からの統一戦術で革命的反対派を多数派にせよ！

花火の鐵

組織は秘密に。行動は公然と。

日本××工場細胞 ××生

「食料労働者」才十八号は自己批判をやつてゐる。その才一は、「組織は秘密に。行動は公然と。」といふのだ。而も「食料労働者」の編輯の同志は「組織は秘密に」の下に(へそれも力関係だ)といふ全く正しい態度を加へてゐる。全くその通りだ!

党員、全協組合員その他革命的労働者が過去に陥つた最大の誤謬は、合法と非合法のレーニン主義的統一の失敗だ。「組織は秘密に、行動は公然と」にうまく成功してゐないことだ。この点は[illegible]。以前、即ち日本共産党が始めて大衆化した時代から、繰り返し吾々が指摘したにも拘らず、以来今日に至るまで尚うまくやつてゐない。「食料労働者」の批判はかう書いてゐる。「今までは合法と非合法の使ひ分けをハッキリ呑み込んでゐなかつた。

組織(組合か、党、革命的反対派)を皆にわからないやうな秘密にして来た余り行動までジャンノ、アジプロを工場内でやつても「あれはいけない」と、近よつちや[illegible]いけないとニラマれたり、仲間にニラマれたり、[illegible]されるから、それに[illegible]行動につれてやつてゆくタイプ、少しづゝやり方を変へてやつて来たといふ様なやり方で今もやつてゐるのだらうか。こうした方法は全部間違つたといふのではない。同時に工場内でなければならない(?)が、大衆的な方法、ビラや大衆的にやることまだプロピラも職場内へ入れてある。けれどもいつ何時とまつて[illegible]居られない。合法と非合法の大衆行動を強化させなければならない。大衆の力を注意しなくて研究しそれを組織化し大胆に大衆的にアジプロを大胆にやらう。」

◇ 合法と非合法

「食料労働者」の第三号に書いてゐる。「吾々の自己批判の力の如く、現在のやり方は初めて[illegible]―しその時に非合法にしなければいけないのか?―であるが、色々な公然たる合法活動をやること、非合法組織を作り。大切だ。

(活動、野球、ピクニック、テニス、芝居、ピンポン)のサークル―これは絶対に必要だ。大衆の大組織の中で労働者が全体的一切の集会集まりを沢山やらう。

力関係だ)サークルは秘密に(それも大衆斗争の組織の最大なるものの一つは、それの不正当な[illegible]、まの不満を訴へるべき所だ。なく、大衆的アジプロを大胆にやることが必要だ。それには十分な注意と必要な充分な警戒をせねばならぬ。

不平不満を統一して斗ふことだ。とにかく労働者の利益――大衆の先頭に立つて大衆の先頭に立たねばならない。

先きの大衆の先頭に立つて斗ふことだ。日本労働者は大衆組織を組織して斗ふことだ。

全協組合員、党員、革命的労働者は公然と大衆の利益擁護の為めに大衆の先頭に立つて大胆に手をとれ!

◇

同志諸君!以上のべたやうに、公然大胆に斗争を展開するためには、どうしても秘密の組織が絶対に必要だ。工場内の細胞、組織の中の一切の問題を決定し、正しい政策を討論し、斗争方針を決定し、闘争を展開する指導部が必要だ。これらを組織して来なければ非合法活動と合法活動が統一されない。

工場細胞は工場の中心組織だ。秘密組織が絶対に必要だ。ンとしての全協の組織をもつと工場に、工場細胞を更に強化することが必要だ。組織を秘密にすることは大衆に対して秘密にすることでなくて、党の秘密が大衆から遊離することだ。

秘密の組織だから、非合法組織にいつても合法斗争と非合法斗争の統一的展開なしにはならない。それは不熱心も増しては不十分である。

合法非合法のレーニン主義的結合に成功せよ!

工場労働者大衆の中へ!工場労働者大衆の信頼をかちとれ!

工場労働者大衆を引き上げよ!
即時工場細胞を組織せよ

合法非合法のレーニン主義的結合万才!

「革命的婦人運動を猛烈に展開せよ!」

××紡績工場細胞 ×子

一、全協は労働婦人大衆の組織をもつと積極的に斗へ!

才五回プロフィンテルン大会は、日本資本主義生産に於ける婦人労働者の政治的経済的重要性を強調し、全協に対してその重要な任務の一つとして労働婦人大衆の全協への組織化を義務づけてゐる。

二百五十万を越えやうとする大衆的産業婦人労働者は、永久的に未組織であるべきか？工場に於ける婦人の搾取をさせておくべきか？

「亂暴に搾取されつゝある」状況な婦人大衆はその生活を脅かされつゝある。資本家の奴隷的生活を強制され、更に中国、満洲の侵略さへもたらしてゐる。とこから文化的には、大山、ファシスト共、暴力団、警察、裁判所、軍隊が、これらの婦人に対して国家権力の暴力によって政治的な要求と叫びを以てしても、その死の状態への斗争と勢力を抑圧して居るのだ。

斗争的婦人大衆の婦人大衆は、勤労者貧民の国ソヴェートを阻止する事は出来ない。

ソ同盟の偉大なる社会主義建設の発展、並に労働指導の生活水準の高まりと、ソヴェート婦人の生活の向上、特に婦人大衆の生活と共産主義の下に於ける、婦人労働者の[illegible]婦人大衆をして「あの国」の資本と最後の斗争を激しく要求させる。全日本工業、農村に於ては[illegible]、ストライキに世界的恐慌は全く新しい斗争の婦人大衆の自覚に於ても婦人の参加があり、デルジヤ、アジア、新聞に於ても婦人大衆の斗争の[illegible]。

だが、こんな状態に於て、こゝの斗争の指導部の婦人大衆の組織化が未だ日本では立ち後れてゐる。それは我々の斗争を全協がどうしてゐるか、婦人を自然発生的な斗争に放任してゐるからではないか。それは斗争を組織的に指導する事を怠つてゐるのである。才五回プロフィンテルン大会は決定した大会の決議に於て婦人の問題を提起してゐる。全協の同志諸君は婦人労働者の組織の問題にもつと注意深くならなければならないのである。

はないか。全協には婦人部があつて、そして、何等の活動もしてゐない。一体これを知らない者があるだらうか？活動らしい活動を我々の婦人部はやつて居るのか？全協婦人部の活動について、我々は未だに才五回プロフィンテルン大会決定の中の重要な全協婦人部の拡大強化の指導方針を具体的に実行してゐるのか？口先だけでは何もならない！具体的な婦人労働者の斗争をやつて行かねばならない。一つの仕事も出来ないでは仕様がないではないか。

ゆかず大衆の斗争を引き起こし得るだらうか。(これからもつと婦人全体に熱心であることを婦人問題に全協が)

日本の婦人労働者は大衆の要求を持ち婦人の組織化して、労働婦人の過少評価や不注意であることは、全協婦人部の活動の欠如は、婦人大衆の不満と組織化の[illegible]、婦人の意識の低い事を理由にして悲観的になつてゐる。その才一は全協は全体の決意を実行にうつさなければならない。

才五回プロフィンテルン大会に於て婦人労働者の組織化の方針を決定した事は明瞭な斗争方針を見て貫かねばならぬ。

二、同志諸君、全口工場に働く兄妹諸君!

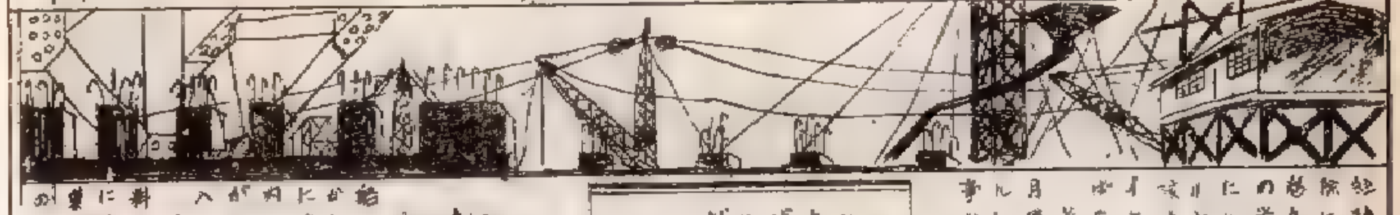
吾々は、才五回大会の決定に基づき、直ちに工場に於て積極的に実行に取りかゝらねばならない。いたづらに公式を並べて居ただけではなく、日常の行動の中の具体的な問題、職場の仲間にはどうしてやつて見るか、我々は皆が出来る事を探り出す事だ。

「何よりも先づ婦人労働者の要求に於てこそ兄妹の様な仲間へ入つて、日常問題を共に闘ふ事を考へなくてはならない。

それは吾々の問題と賃金問題、労働時間、寄宿舎問題等に基づいて工場内での大衆的な不平不満の問題を見つけ、その中から斗争を組織してゆく事だ。兄妹達の不平不満を全て要求として掲げ、それの運動は婦人労働者の手によつて大衆的に斗はれるべきだ。こゝでストライキの準備に必要な斗争を組織する事が必要である。

工場に兄妹達の仲間に、女工の要求を書き、工場のスパイを入れてやらう。女工達は工場の兄妹のなかでやさしく話してやらう。それは決してむづかしい事ではない。

これは相談だが、我々は革命的労働婦人運動に於ての大衆的な斗ひに来なければならない。



組織を待たないで我々は実際に、工場、内に斗争を巻き起すことだ。外国諸国の労働者婦人達の斗争経験によつて見て学び訓練されねばならない。我々の学校は、工場であり、ストライキであり、デモでなければならない。

それから、一九三一年三月発行のインタナショナルに、日本婦人運動の記事が二つばかりある。我々すべての事は斗争によ

工場婦人にとつて大変有益な記事であるから、兄姉諸君が各自の斗争の間で読み且つ研究することをおすゝめして置く。

全国の工場の兄姉諸君！我々はプロフインテルンの[illegible]決定、頭の中や机の上で組み立てるのでなくて工場の中で機械の前で実行せねばならない。[illegible]事でなくて何かすることだ。

つて学べ！

同志Ｍ子の投稿文は非常に有益である。工場の中で働いてゐるこの同志が如何にプロフインテルンの決議に忠実たらんとしてゐるか、多くの同志達の学ばねばならぬ点である。全国協議会が新婦人組織に関しては何もやつてゐないと云ふ批判だが、それに就いては編輯部は全協で働いてゐる同志の説明を書くことになつてゐる。
細胞の活動書で赤旗レに向つてレポせよ！
編輯部

船内委員会を組織せよ！

社外船　Ｍ丸　生

本船は刷新会指導の下に船内委員会を組織した。所が去年二割食料を下した上に、又一割（会社と船長の内留で）悪化して居た事実が吾々自身の活動によつてバクロされたのだ。

直ちに船内大会を開き食料悪化絶対反対の決議と共に斗争方針を決定し、交渉委員を船長及司厨長へ、本船食料の責任者）に派遣抗議をした。

所、機関長曰く「実は会社から食料低下の通知に接した時下級船員にはナイショでやつてくれと言つて来たのだから論旨も今の不景気の時はシンボーしてくれ」といふ。だが吾々はあく迄ガンバツタのだ。そして会社に食料切下反対で相当トメロと要求した。そしたら機関長はそれでは士官の食料から[illegible]二度目の[illegible]の食料低下だけはメ合せるから会社の方とはどうか言はないでくれ。会社の方に知れると[illegible]の首が飛んでしまうから、と言つては涙を流して居た。だが吾々はこの様でダマサレなかつた。吾々自身の手で[illegible]事務長の顔が悪かつたのでトウく事務の二キミ合となり、斗争が一時コンテンとなりかけて来た。と同時に吾々は事務の大衆のトラギをやり、一時このまゝにして一航海後に大斗争を開始することを約し直ちにその準備にとりくと着手した。

しかし海上労働者諸君！吾々は決して負けはしない。それは、海員組合がダラ幹の四重奏の取引きのためにかち取つたのでなく戦斗的刷新会の指導の下に斗つたのだ。即ち自分自身の力で斗つたのだから、ハツキリと自分達がおかしたゴマカシを清算する事を見出し、ダラ幹の取引で組織が破壊されたのではなく、より良く強固な組織へと結束し、刷新会の指導の下に断然斗争へ進むのだ。
俺達が黙つてゐたら、賃金は引下げ、食料も引き下げる、内ショでコソコソ俺達の利益を剥奪してゆくのだ。

諸君！俺達はすぐ船内大会、船内労働者会を持ち更に、船内委員会を結成して刷新会の指導の下に悪ラツなる資本家に対して断然戦はなければならぬ。
船内委員会を結成しろ！
刷新会の旗の下に！

私の誤謬を聞いて下さい！

トシエ（投）

私の工場は全部で職場が十又に分けられてゐる。その内の一部分の機械作業で煙草を造つてゐる。毎日毎日仕事をしながら誰と話したら[illegible]考へて居た。ところが親分の職場の友達とは[illegible]しかも[illegible]積極的に近づかうとはしなかつた。[illegible]何かの話の糸口を見付けて話し出したが、[illegible]それとなく話すだけで[illegible]までどうしても話しニクく良いメンバーを見出せなかつた。

それで他の職場に私と平常仲の良い話の合ふ人の居る[illegible]工場だといふところに[illegible]出かけていつたけのことを私の知つて居る限りのことを話しつゝも長い期間を経て話し[illegible]意識したり「資本主義搾取のからくりを[illegible]その人をだんくく教育して



行つた。其の友達はよく解[illegible]早速自分の週りの人達十人程に[illegible]が、[illegible]そんな大それたことは[illegible]職場で失敗に終り、批判され、社会主義者だと評判され誰にも[illegible]すべての人々が[illegible]黙つた。[illegible]今一つの職場中に二人か三人を獲得するために、私が他の職場中にわかつて行つて[illegible]工場内でしまつたら発覚して[illegible]せつかくの信頼も消えず、今ハツキリ間違つた方だといふことがわかつた。

一）個人的な日和見的アジカロは環境的であること。しかも理論的に続き状と様しとそればかりに力を入れるのは骨が折れて効力がない。

（二）どんなに苦しくともなぜ自分の職場を先づソヤり固めるために喰ひ下らなかつたか。

（三）みんなの性質を知りつゝなぜ男の分会員と工場内で会つたか。

（四）私達は職場で話しも不平をモツト素へて積極的に事を中心にやらなければ駄目だ。

汁はうとしてゐる職場でもりく無経験な兄姉達に二度と私の失敗をジやら様に注意してくれ。ジやあ元気で仕事をしよう。

同志トシエのこの自己批判は完全に正しい。こうした失敗は同志トシエばかりでなく多くの同志が陥入る失敗だ。同志トシエの自己批判の中の第四が最も重要な批判だ。工場でも内に於ける労働者の一切の不平不満を中心にアジプロすればかりでなく、勇敢に斗争するのだ。[illegible]一人でも斗争するのでなく、出来る丈多くの労働者を広汎な組織に組織して大衆的に斗争するのだ。これは最上の組織方法なんだ。とまれ組織の仕事は一番大事な仕事だ。[illegible]同志達が組織運動の経験を集めて広汎な組織者になろうと努力しつゝあることがありくとうかがはれて心強い。
組織者としての訓練をつめ！
大衆斗争を（一揆的にでなく）巻き起せ！
工場細胞を組織せよ！

赤旗編輯部

〇

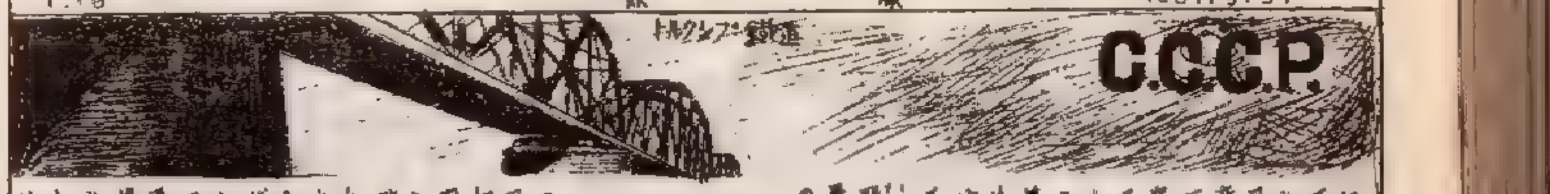
解党派の策動、殊に最近の新聞紙上に発表して居る文字通りの「解党派の[illegible]」[illegible]

解党派と内務省・検事局

×××××生！

文部省葬との関係といふことにつき。

[illegible]



にも拘らず中党全に一致してゐることだ。殊にデル新聞と解党派とのデマが完全に同じであると云ふことに注意する心要がある。我々が一般的にかゝる事實から推定し得る所は確かにこのデマゴバニアを統一し指導してゐるものがあると云ふことだ。左右の社会民主々義者、解党派、デル新聞等は此の統制の業によつてあやつられてゐるのだ。そしてこの「大衆學生スパイ」のデマがこの統制者（……明かに検事局、内務省）が最も有効として採用したものなのだ。

○

註文。その一。

紙上に於て戦略についての詳細なテーゼを発表してくれ。われわれ日本共産党の一切の活動がそれに基いて展開されるところのプロレタリアートの戦略を、十分正確に、我々が承知しておかなくてはならぬことは此の上なく大切な任務である。今日尚社会民主々義者共が依然其の影響下に大衆をとらへてゐる理論的要具の一つは猶未だ解党派一味の立戦略である。吾々が党の立場に於ける科學的なプロレタリア的戦略の正しい把握によつてこれを撃滅することは、我々の缺く可からざる

○

メーデーの檄、

他方農村に於ても寄生地主的土地所有制なるが故に招致されたる農業恐慌は益々農民の生活を極度に貧窮ならしめてゐる」と云ふて、あるがこれはおかしい。現在の農業危機は寄生地主的土地所有制即ち封建的経済組織の残存の為ではない。少くともそれが主要な根本原因であるとは思はない。この檄に書かれてあることは我が党の政治的見解であるからもつとよく説明するだけの必要さがある。

××生

斗争である。党はこれまで実践的理論的分野において我等の戦略への斗いを展開して来た。しかし、それでも、未だ何か不十分であると思ふ。党の影響下に斗かつゝある大衆の闘争において、党の戦略の理解と把握は著しく不十分であると思へる。それ故に、党の戦略についての精密な規定をまとまつた形で是非近く発表して呉れ。私自身の問題望では、次の諸点をも解決するとして解決して（解決してならば徹底して）当時の党の戦略三・一五、四・一六当時の党の戦略と今日の党の戦略の違。（このことの正確な理解

読者の頁「鉄の火花」に参加せよ

「四〇号」に就いて

××工場細胞　××生

「即時農村プロレタリアートの組合を作れ」の（才一段、才八行）つ名東、農業労働者は全ロで四百万——これ等はイノザタの部署である。村は百万と云つてゐるだが決してそんな少数ではない——と積せうがあるし

右によれば、繭積と繭村の計算の結果が六十万もある。而して我々は、この二人の計算よりも、もつと多いと云ふ。これ等農業労働者が各々幾人と云ふ規定の仕方が各々異るが、我々の側の数と規定と、明らかにして欲しい。

○

鮮が、議会制機のスローガンであると思ふ）—それに対し鉄の数機関を理解する所に）の、規定。「議会は政権の所在の党」、（例へば、赤旗」第二号の分析評価（一例を、等の労働を、総務院は内閣、貴族院はマルクスが「寄月十八日」において言つてゐる封建制度の崩壊に伴つて発生した寄生体、「巨大なる官僚的軍事的組織」、広大にして且

巧妙な口数機関として暴露さるべきであるか否か。前者ならば、社会党、農民党は対立的存在物ではなくブルジヨア的国家機関の一つとして規定されある。」

注文。その二。

赤旗紙上に党の綱領を掲げて呉れ。當約された制で紙面を余りとらないならば毎号でも掲げるべきだと思ふが、如何。

工場細胞を組織せよ！
日本共産党の拡大強化によって「赤旗」を守れ！
「赤旗」を断じて敵の手に渡すな！

赤旗
第44号
國際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

次目

政治テーゼ（草案）つゞき……一頁
政治テーゼ（草案）発表に当り革命的労働者諸君に檄す！……三頁
一九三一年度メーデーの教訓……五頁
新帝国主義戦争の危機と斗へ！……八頁
失業者闘争組織に関する一つの混乱について……九頁
ビラ、檄等の書方について……九頁
機関紙の仕方に就いての注意……一〇頁
鉄の火花
特別附録……一三頁

四、日本共産党の當面の重要戦術（続）

(5) 婦人運動について

資本主義の発達は生産に於ける労働婦人の地位を益々重要なものたらしめてゐる。特に資本主義的産業合理化の進むは熟練労働者に代へるに不熟練労働者を、成人に代ふるに青幼年を、男子に代ふるに婦人を以てしてゐる。労働婦人は、第一に労働階級の構成部分として搾取され、更に、その上に、歴史的形成された諸条件（封建的家族制度等）に依つて重圧を双肩に受けさせられてゐる。労働婦人をこの重圧から解放し得るものは、プロレタリアートの資本に対する勝利以外にはない。それと同時に、プロレタリアートの勝利は、生産に於て益々重要な地位を占めつゝあるこの労働婦人を広汎に階級斗争へ組織することなくしては不可能である。

日本の資本主義的生産に於ける労働婦人、主に農業経済に於ける農民婦人の階級斗争への進出は最近特に顕著になつて来た。吾党はこの労働婦人層を自己の組織内に獲得する為に最も積極的に斗争する。労働婦人の組織を強化することはブルジヨアジーに奉仕することを意味すると云ふ「第五回プロフィンテルン大会で採用された日本問題に関する決例の言葉は吾党の労働婦人対策の場合にも適用されるのである。

吾党は労働婦人を男子労働者と同一の労働組合へ、同等の権利を以て加入させ、吾々の側に獲得する為に斗争する。それと同時に、婦人の持つ特殊的地位を正当に評価して彼等を特別の委員会（工場内の大衆的婦人委員会婦人代表者会議等）に組織する為に斗争する。労働婦人もまた、労働者であるとして、婦人の特殊性を無視したり、又は婦人の特殊性のみを強調して労働階級の重要な構成部分としての彼等の地位を忘却したりすることは何れも大なる誤りである。

労働婦人の中から積極的活動分子を要求する事は特に今日重要である。

所謂「婦人参政権獲得」運動に対して吾党はこのブルジヨア的運動の反動的性質を不絶バクロしなければならぬ。「……毛十共産主義者は婦人の共有を行ふとして居るではないかと、全ブルジヨアジーは吾々に向つて合唱的に絶叫する。

ブルジヨアは自分の妻を単なる生産器具と考へてゐる。（共産主義者の目的とすることは、さう云ふ単なる生産器具としての婦人の位置を廃絶しやうとする事に存するのだ……（共産主義者は婦人共有を創設する必要はない。それは殆くの昔あり存続して居るではないか……現今の生産関係を廃絶すれば、その関係から生じた婦人共有制即ち、公私の売淫制度が消滅するのであるから）（マルクス・エンゲルス「共産党宣言」）

資本制度の内部に於ける旧来の家族制度の分解は如何に恐ろしく厭はしいものであらうとも、大工業なるものは、それが家庭の範囲内にある社会的に組織された生産行程の内部に於て、婦人や、青年男女、幼童等に割り当てる極めて重大な役割を以て、家族及両女関係の、ヨリ高級な一形態の、依つて立つべき新たなる経済的基礎を造り出すのである。……男女両性より成る年令の個々の人々を以てする結合、労働総員の組織は、労働者をば生産行程の為に存在せしめて、生産行程をば労働者の為に存在せしむることなき、自然的に暴戻なる資本制形態の下に於ては、頽敗と、奴隷制度との害悪の源泉たるとは云へ、適当なる事情の下に於てあるとき、それはむしろ、人間味ある発達の源泉とならねばならないことも明白な事実である。」（マルクス「資本論」）

吾党は婦人運動一般に就ては如くの如き原理の上に立つ。科学的社会主義の祖、マルクスの言葉は、偉大なる革命の指導者レーニンに学ばれた赤リシエビキ党に依つて指導され実現されてゐる社会主義ソヴエート同盟で生きてゐる。吾党はこの原則の上に立つて婦人を組織する為に全ての敵と徹底的に斗争する。

(6) 失業者運動について

失業者の存在は資本主義制度の必然的産物である。今日の失業者は既に[illegible]失業者である。最近[illegible]根本的失業者と云つて差支ない。日本に於ても今や失業者は[illegible]を超えてゐる。而してその上に日一日と増大しつゝある。今日失業者を認識し、資本に対する斗争へ動員する事は、大きな政治的意義を有する。

失業者の組織に就て、二、[illegible]失業者の要求、[illegible]軍事費を失業者の[illegible]失業保険の即時実施等々の具体的要求を掲げて、失業者を特別の問題、又は組合の一部門、又は別組織として[illegible]要求を[illegible]、同時に、失業[illegible]問題の解決は[illegible]主義[illegible]である事、(それはソヴエート同盟に於ける実践によつて証明されてゐる)を示さなければならぬ。失業者運動に於て最も重要なことは、失業労働者と就業労働者との緊密な共同戦線の組織である。何故ならば失業者の増大は就業労働者の生活水準の低下を意味するからである。従業者の要求の擁護と失業労働者の生活条件悪化に反対する[illegible]。失業労働者は[illegible]全体の問題[illegible]今日の就業労働者[illegible]

明日は失業者となるであらうからである。（ロザフスキー）

党は、失業者組織の困難性をなくし、其の組織を[illegible]日和見主義的見解に対して、又我等の組織を全く失敗しておる社会ファシスト共に対しても断乎たる斗争を行はねばならぬ。

(7) 国際問題について

吾党の最も不完全なものゝ一つは国際プロレタリアートの重要問題を、その一部分としての日本プロレタリアートの政治問題として普遍化し得ないことである。失業反対国際デー、メーデー等に於て然かゝる方面に於ける不完全性が意識され始めてゐると云ふ事は、まだ遠く完全ではない。特にソヴエート同盟に於ける社会主義建設の偉大なる成功の持つ国際的意義、革命的意義及び支那革命、朝鮮、台湾の革命民族解放運動の有する意義と重要性が、工場での職場での日本労働者大衆の実生活と結びついて普遍化されてゐないことを意識しなければならぬ。党は、その中央機関紙及びそれ自身の出版物並にその影響下にある全ての出版物に依つて始めてこの領域に於ける[illegible]に関つて発展する。

共産党の最大の国際問題は第二の帝国主義戦争に反対する斗争を組織することであり、且この斗争はソヴエート同盟擁護、支那革命、朝鮮[illegible]の革命運動に対する積極的支持並にソヴエート同盟とプロレタリアートの[illegible]と結合されねばならぬ。

ソヴエート同盟はプロレタリアートの祖国であり、この既得権の最も堅固な保塁であり、そしてその国際的解放の主要[illegible]である。それ故に、国際プロレタリアートはソヴエート同盟に於ける社会主義建設を助けて成功せしめ、そして資本主義列強の攻撃に対してあらゆる手段を用ひてプロレタリアートの祖国を擁護すべき義務を有してゐる。

世界情勢は今やプロレタリア革命を日程に上せた。そして吾々の政治のあらゆる事件は不可避的に一個の中心点に、即ち万国の進歩的労働者のあらゆるソヴエート運動と植民地及被圧迫民衆のあらゆる民族解放運動とを集中的に[illegible]の周囲に集めねばならぬところのロシア・ソヴエート共和国に対する世界ブルジョアジーの斗争に集中される。（レーニン）

ソヴエート同盟に対する帝国主義諸国の攻撃及びソヴエート同盟に対する戦争の場合に於ては、それに対する国際プロレタリアートの戦術ソヴエート同盟との結合なるスローガンに於て帝国主義政府を倒す為の斗争でなくてはならぬ。（コミンテルン綱領）

新しい帝国主義戦争の切迫せる事実を否定するものはないが、少なくともそれを意識の上だけで承認しつゝ、実際的に労働者大衆をばそれに反対させるべく準備しないものも最も典型的な右翼日和見主義者である。

★ ★ ★

二つの偏向に対する斗争（結語）

党は現在の[illegible]上の任務を[illegible]的に遂行せんが為には、党内に於けるあらゆる偏向、特に日和見主義的偏向と断乎たる斗争を行はなければならない。

共産党内に於ける偏向は、党が集中マルクス主義を以て武装し、鉄の規律を有する政治的統一体たる[illegible]ならない。党は常にその活動の成果に対する批判を行はなければならない。ボルシェヴィキ的自己批判を徹底的に行はなければならぬ。マルクス・レーニン主義の歪曲を許し、そしてそれ等の偏向に対して斗争しなかつたならば——極左宗派主義であらうと、又右翼日和見主義であらうと——彼等の党は吾党が自己の活動に於て日本プロレタリアートの階級的指導者たることは出来ぬ。

吾々は四・一六事件以来多くの指導者を失つた。そして、日常斗争の経験を通して党は極左宗派主義的偏向を除去し、党と労働者大衆との結合を見るべき結果があつた。革命的言辞に隠れたる日和見主義的小ブルジョア的実践であつた。今や吾々は国際的指導部たるコミンテルンの指導の下に、この誤謬を克服して[illegible]一歩を進めて[illegible]、それと同時に吾々が党内の一

御——それは多くの一部分であるが——右見的傾向が表はれてゐる。（大衆的斗争組織に対する消極的態度等）

吾日本共産党がこの二つの傾向に対する斗争を決定的に、徹底的に行ふ時、かれ等は最大の大衆的ボルシェヴィキ党となり得、国際プロレタリアートの一部分としての日本プロレタリアートの歴史的任務を遂行し得るであらう。（完）

政治テーゼ（草案）発表に当り 革命的労働者諸君に檄す！

全国の革命的労働者諸君！

失業と飢餓、搾取と圧制、人間による人間の搾取を根絶して共産主義社会を建設する為に、諸君は先づ今日のブルジョア社会を倒してプロレタリア独裁を樹立しなければならぬ。だが、それは決死の斗争なくしては不可能である。この階級斗争を最後まで戦ひ抜いて勝利を得る為には諸君は正しい戦略、戦術と、鉄の如き規律を有する、プロレタリアートの前衛部隊である）精鋭な軍隊——共産党を組織しなければならぬ。日（一九二八年発表、日本共産党の機）共産党はプロレタリア自身に依つて組織されその組織的活動の進展に於て拡大強化されねばならぬ。

全国の革命的労働者諸君！

一九二七年、コミンテルンで採用された「日本問題に関するテーゼ」は吾党の、それまでに有してゐた解党主義——山川主義と福本主義——的偏向を暴くにとつて、又吾党の大衆化にとつて偉大な指導的意義であつたことは忘れてはならぬ。共産主義者の原則を忘れたプロレタリアートの政党に義務付けられてゐるプロレタリアデモクラシーの実行を怠れたブルジョア的指導者共は或は自ら党より脱退し、或は党より除名された。吾党の活動が、この七月テーゼによつて活気付けられたことは我日本共産党史上に最として残されねばならぬ。

併し乍ら諸君、それにも拘らずこの所謂七月テーゼは基本的要素を遅れるべき性質をも含んでゐた。日本資本主義の現状に対する評価の誤謬はその基礎である。一九二八年のコミンテルン第六回大会、二九年の第十回プレナムの諸決定は、七月テーゼの変更改正を要求した。そのことについては、吾党内に於ても、国際的指導部に於ても早くより要求されてゐた。吾々はテーゼ全体の変更をなし得なかつたが個々の戦術に於て実質的にこの七月テーゼに含まれてゐる誤謬の訂正に向つてゐた。一九三〇年二月の総選挙に対するコミンテルンの指令は明白にその具体的表現であつた。

吾々は最早やテーゼ全体の訂正を要求した。だが打つゞく弾圧・重要なる指導者の大衆的逮捕と吾党員に対する文献諸紙の遊撤とは、遂に吾々をして今日に至るまで新らしいテーゼを確立すべく遅らしめた。最近日本に於ける階級斗争の急激は、この事を危機に解決すべく迫つてゐた。吾党は日常斗争に対する個々の戦術に於て、早くより吾々が主張する新しい政治テーゼの方針に沿ふて行き刺撃を始めたのであつた。正しい戦略、戦術は共産主義的実践と結合してのみ生々として来るもの。未曽有の弾圧と迫害て云ふ困難性は吾々の前を去らないのみか益々その狂暴さ、野蛮さを増してゐる。


皇口の口威あまねく，失業者２００万突破！ ハテナ？

吾々は日本共産党の革命的伝統と、日本プロレタリアートの中に包蔵されてゐる偉大な革命的エネルギーと、権威あるコミンテルンの指導とに激まされて、職面されつゝ、革命的態度に於て、この新しい政治テーゼ作製に着手した。こゝに発表されるものは吾党指導部の集合的労作であり吾党が今日行ひつゝある全活動の基準をなすものである。

革命的労働者諸君！

諸君は最近「日本共産党労働者派」中央委員会」といふ署名入りの「政治テーゼ」を見るであらう。それは吾党の右翼者、極右社会ファシストとして吾党より除名された一連の解党主義者共によつて——検事局、大州作、警視庁、内務省等々との緊密な提携の下に——つくられたものである。彼等は「国会と検事局に向つて天皇主義者たることを誓つた」のは一つの戦術的カケヒキであると主張する。だが事実は、彼等がプロレタリア大衆を欺瞞する以外の何ものでもないのだ。昨日の天皇主義者が、今日は「我こそコミンテルンの本流なり」と主張する位厳晴的なものはなく、これ彼プロレタリアートの前衛組織部隊たる共産党——プロレタリアート全体——を凌辱するものはない。旗幟を掲げる「共産党」！——そしてそれは精鋭斗争の力カチニア以外の何ものでもない。要は彼等は諸君に向つて叫ぶ「今の日本共産党及び全欲はスパイ、へナへナ文士のさばつてゐる

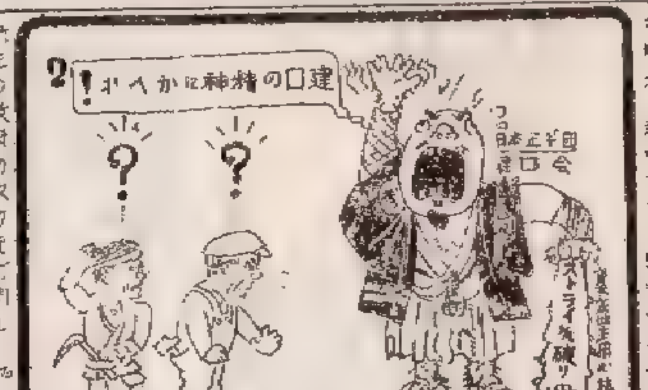
からせんな党には入るなと。吾党の影響が、今日全口津々浦々に皆を獲りつ、ある事実は吾労働者大衆の決定的支持を受けてゐる事、戦争のこの事実は革命的プロレタリアートに対する弾圧、裏切的絶叫に外ならない。吾々は最近年更に多くの犠牲を払した。それは吾々が統一的組織全体として負ふべき責任である。（勿論、党外にある吾部党派の紳士諸君にこの責任を負へとはいはぬ）吾が吾々は日本の革命的プロレタリアートの真の政党としてコミンテルンの日本支部としての陣地を一歩たりとも退かなかつた。破壊された組織は、工場から職場からの新しい革命的労働者の集合的力と献身的努力とに依つて再建されて来てゐる。一切の社会ファシスト共は我々"極左の子山"の悪名を吾党に向つて投げかけた。実は政府の"非共産党的"ルムン口違きに洗ひ争ふさきに懐すると共にブルジョア政府を非難したり、或は又進んで工場の中から革命的労働者を追放し支配階級に売り渡した。かくて彼等は公然と支配階級の代償としての役割を果してゐるのに。

同志諸君！！悪質斗争のア史、実践的重党は、如何に理想的な非合法組織であつても——例へばツァール治下に於けるボリシェビキ党——スパイ、プロヴオケーターの潜入を絶対に不可能ならしむることは出来ない。問題は如何に巧妙にそれと斗争するかである。吾党が行ひつゝある大衆的活動を破への意識するが特徴だ、この地域に於ける斗争を成功させうる条件である。実践を通じての戦線——プロレタリアートに対する職業的斗争を拒否して革命的組織そのものを破く、プロヴオケーターに専ら主張する。革命的組織内に潜入するスパイを壊せんと試みる解党派の理論と行動は天皇主義者にこそ共鳴されるかも知れぬが、マルクス＝レーニン主ギとは何等の共通点をも有しない反動的なものである。

革命的労働者諸君！！

吾等の斗争を徹底的に遂行せんとする全ての革命的労働者諸君は党に加入しなければならぬ。日本共産党の組織内に働くものゝみが真の共産主ギ者である。ロ党に無条件で献身しマルクス＝レーニン主ギを以て全身を武装しなければならぬ。如何なる迫害の下に於ても党の党員の義務は党の細胞を党内に於て守り、斗争に於て党の細胞を党内に於て究め正しい政策を取り得る者は党員である。併し乍ら、一旦党の決定を決定された党の規律は絶対である。全党員はそれに絶対的に従つて常に一人の如く行動しなければならぬ。（前掲続参照）

同志諸君！！諸君はこのすばらしき鍛へられた正しい任務に応へ、革命的労働者として自己の働き場所で活動を始めろ！！全ての労働組合内で働け！！職場の内で働け！！そして同志を組織せよ！！そうすれば諸君は



ぬ。

吾日本共産党の統一的組織の一構成分子として活動し得るやうにするであらう。

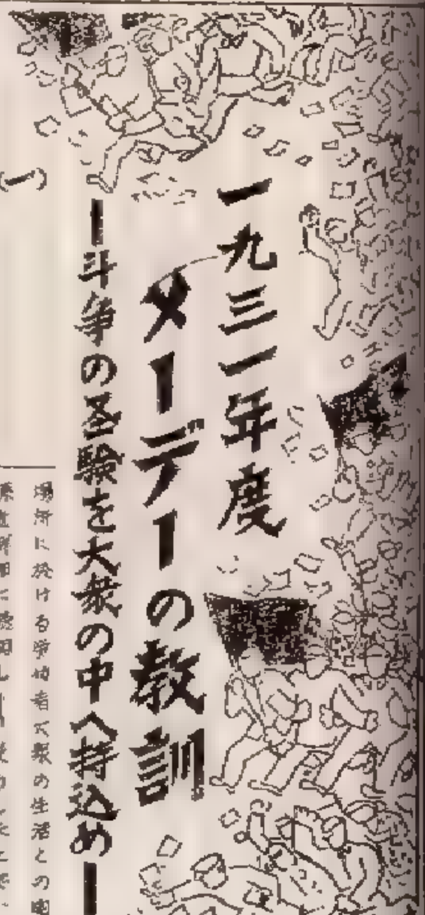
全口の革命的労働者諸君！

日本に於ける主対的危機の深刻化、農業恐慌の激化、失業者群の異常なる増大、新帝口主ギ戦争の切迫、吾々は吾口の政治的危機の前提条件をみる。レーニンの所謂"革命の客観的条件"は日本に於て急激に熟してゐる。革命の主観的条件の日本共産党の拡大強化は日本プロレタリアートの緊急重要なる任務である。治安維持法による革命的労働者に最も大なる対する組織的迫害と追害にも屈せず、日本共産党は厳然として存在し大衆斗争の先頭に立つて斗つてゐる。革命的労働者諸君！！党に加盟せよ！！この迫害と困難の下にこそ正に最も強靭な最も強固な党の一の前衛——共産党に組織されて斗はせねばならぬことを！

同志諸君！！諸君こそブルジョアせんとする政府の権力を打倒し プロレタリア独裁を樹立する部隊となるのだ。

天皇制を倒せ！
失業と飢餓の資本家地主政府を仆せ！
日本帝口主ギを仆せ！
プロレタリア独才！
日本の革命的プロレタリア万才！
日本共産党万才！
共産主ギインタナショナル万才！

コミンテルン日本支部
日本共産党中央委員会



一九三一年度メーデーの教訓
——斗争の経験を大衆の中へ持込め——

（一）

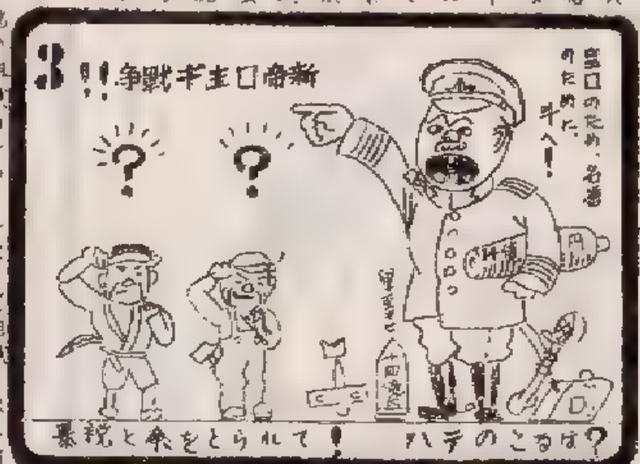
一九三〇年のメーデーに際し、吾々は武装デモといふ方針をとつた。それは実に大きな冒険主義的誤謬であつた。労働者大衆の現実的要求を無視して取り上げて、そのことゝメーデーの口際的意ギとを緊密な結びつけによつて大衆を非合法の武装運動へ動員するといふことの代りに、少数の革命的労働者の大衆の意識とは全くかけ離れたところの冒険的行動によつて、武装によつて大衆を獲得した。——とした。吾々はこの誤れる方針の結果、有能の斗士を多数に失ひ、大きな失敗を招いた。革命的危機に於て、献身的に活動した党の同志達の行為は英雄的であつた。だがそれは大衆運動と結合してゐなかつた。そこに根本的誤謬があつた。

一九三一年のメーデーは、戦争の前、夜極左的誤謬克服のために斗はれねばならなかつた。大衆に対する命令ではなく、日常的に職場で日常活動によつてメーデーを斗争日として持つ口際的意ギを分らせそれを今日工場その他の働き場所に於ける労働者大衆の生活との関係を鮮明に認識し——そうした上で、吾々の方針が採用された。五月一日を唯一の戦術へ動員するといふ方針が採用された。五月一日を唯一日でなく、アジ的な日本として見るのでなく一九三一年の具体的な要求に即した斗争日としてこ、を部分的大衆的政治的示威の日と規定した。斗争は全く正しかつた。一つの指令、一つの決定が正しかつたばかりではない。吾々の実践によつて常に、それが正しくあらねばならぬ。その批判は党及び全口協議会の中央部に依つてなさるべきではなく、全党員大衆によつて行はれねばならぬ。（前に書いた）吾々は過去に於て斗争の為命令を出し準備的活動を行ふが、その結果についてあまり多くを語らなかつた。これは大きな間違ひである。党活動の全ては常に鋭き自己批判が加へられねばならぬ。党はそれによつて自らの組織を全体として強固にして行くのである。）

（二）

工場細胞及び各大衆団体内の党フラクションは組織的デモンストレーションの組織の為に精力的に活動した。党は全口労働者大衆——それに悪一斉に労働者大衆を——に説明するためから全体的に働いた。吾々は既に新しき大衆団体の中で活動したことを以て党は全口協議会に或は大衆団体と共に今度のメーデーを何とやらなかつた様だ。吾々は全国協議会とその仕事のすべての準備を全く誤りである。党と大衆団体との関係、大衆団体と大衆との関係は、この様な二——或は凝問——を有する人々の様に見るべきでは如何に実現するかは大衆の影響力を有つてゐるかに観察されねばならぬ。吾々は自己の力を過大評価して被はず、それを通じて主要な小部隊を出してもいけない。党の組織の一つの革命が如何に活動したかを見よく知らねばならぬ。それは数十数万の組織はならぬ。それは数十数万の労働者大衆の前に立つて最前線のビラ撒布といふやうな一部分のみではなく、党員の実践的活動に対する正当の評価であらねばならぬ。

吾党は全口協議会がメーデーに際して持つた準備的活動に於ける不充分さは



第一に大衆に対する働きかけが不充分であつた。地所の工場よりも先づ自分の工場からといふ見解は現在全口協議会の各組織が正しい。だが全部の計画を立て、活動を各自統一し、仕事の分担は徐々に十分行はなかつた。結果は予想以上のものとなつて現れをあたへの地区によつて効果を来したのはいゝが、…それでは今日この各地区に於て一つの統一的な方向で予定通り仕事が行はれたか？といふにさうでなかつた。メーデー当日——それは一日の斗争を労働者全体と共に一日の大衆斗争と共同して——共通的斗争が各産業別、各地区に於て行はれる様にしなければならぬ。しかし、仕事を分け合つて活動すべきである。吾々は又工場の深く党組織を出す事が出来る様な働きを活動すべきである。然しここに主力を注ぐべきであつた。それは真の意味での軍隊の割当が党本来の仕事である。吾々が大工場への働きかけの新しい補強がなかつた事は全く合理化された仕事の合理化を行つてゐたのではなからうか。

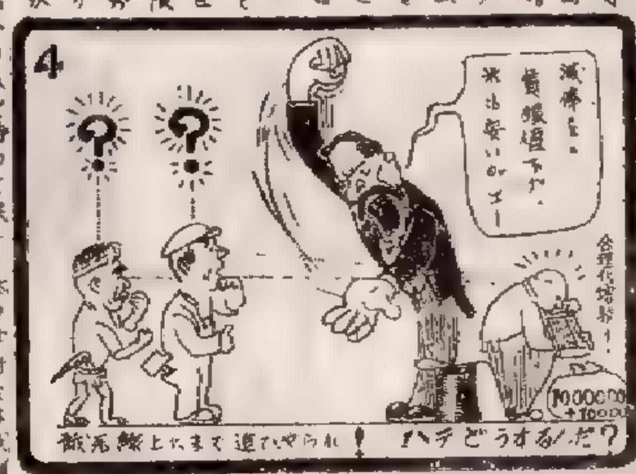
第二、党内にも、それから全口協議

会加盟組合の一部にもメーデーに関する当局の方針に対する若干の無理解があつた。それは例へば日本化学労働組合本部共同戦に「メーデーに[illegible]御へ進め!!」と書かれたことに現はれてゐる。吾々は百合の工場では全協産業の政議に依つて全員を街頭へ出す様にせよ、そしてもし隣の工場が動いてあたりそこへ大衆的に押しに行つてその大衆をデモに巻き込む様にせよ、而して街頭へ出た大衆は基本的には反民主々義者の指導下に行はれる示威行進に合流せよ。その際に注意すべきは反民主々義組合員大衆と、吾々の組織せる示威運動に参加せる大衆との敵対的感情を起させてはならぬといふことだ。合致した点にどうするか。それは当局の範囲に止まれといふことを断じて意味せぬ。その時の指導に従つて口実報が我国に向つて或は大工場大会社等に向つて行進すべきだといふ内容を持つ決定を宣成した。問題は明白なのである。出来るだけ多くの大衆を吾々のスローガンの下に捲き込むこと、そのかを以てより効果的に示威すること一さと張したのだ。笑つて吾々が[illegible]本的には!!!…合致すべきだとまつたことは全く正しい。反民主々義組合幹部下の大衆の間から吾会協を出せツと日本共産党万才!!と叫ばれてゐたといふ現実は、吾々のこの見解が正規を吾等の示威運動者を獲得させるといふことの正しさを証明してゐる。何等集会的である。一九三一年のメーデーに於て吾々の力と大衆の団たある在来形への導きを正しく評価してのみ、問題を具体的に観察してのみ、吾々の方針は批判され得るのである。然るに或る同志は、この暇会祭らといふ言葉を以て吾々が反民主主義者に可合流せすることを主張してゐるかの如く歪曲して、決定は全体として之を貫く基本的反対的方針の理解によつて解釈されねばならぬ。吾々の決意的実現に於つて更に多くの大衆を吾々のスローガンの下に行動させるといふことの代りに直に可首相官邸へ!!と叫いつた日本化学の諸君は明らかに間違つてゐた。のみならず全協加盟組合の他の何れもが、このスローガンを出さなかつた時に於て明瞭なるかはよくなかつた。然るにこの事については全協の指導部も責任の一端を負ふべきである。そこに統一的指導が欠けてゐた——少くとも不充分であつた——といふべきである。

更にもう一つの例をとる。それは労働新聞に発表された(第二十四号)メーデーの中心スローガン[illegible]青年五十七号紙上に発表された共産青年同盟の「メーデー斗争日メーデースローガン」の中に「口際的斗争日メーデー万才!」とのスローガンがないことだ。日常の要求と結びつけるために日常の要求を出すことは勿論間違ではないがメーデーがメーデーとしての意ぎを充分に知らせる為に必要なスローガンを掲げる事は最も必要である。吾々は常に吾々の行動綱領を負担闘動しなければならぬが、それ〳〵のカンパニアの持つ特別の意ぎを浮き上りせる事が必要である。(メーデーに際して出されたる党の意は、その意味では党員諸君の鉢為になるであらう)

第三、党、同盟及全協の各下部組織の創意性が充分発揮されなかつた。このことは必ずしも今度のことに限られてはゐない。上層機関からの詳細な——一つ一つの行動に対するものを含んだ所の——指令を待つてゐるといふ傾向が未だに残つてゐる。それは大阪とか神戸とかいふ地方にはシロが程度の差異を示してゐると云ふことに対して吾々はもつと慎重に考慮し、労働者大衆の持つてある偉大なる創意性を如何にして最大限に発揮させるかをお互に慎重討議しなければならぬ。ともかくにも、上からの指令の来るを待つて統一手続するといふ悪傾向は急速に克服されねばならぬ。何故ならば中央部の政策は多くの場合全国的のものであり、全般的にするものであり、それを具体化する場合には各地方、各工場、各企業に於ける特殊性が考慮されねばならぬからである。

第四、組織的準備の不足良はメーデー当日どれ丈の人々を動員し得るかを前以て観察することの不充分さいふ。吾々の多くの団志達はメーデー当日になつて懇談会や観測会を催した。勿論、そのこと自体は悪くはない。だが何故メーデー前にかうした懇談会、座談会が催されなかつたか?である。吾々が注意深く活動すれば、かうしたことは動員以前に行はれ得る。かやうにメーデー前のいろ〳〵な催しに参加した人々をガッチリとかためておけばそれらの人々を中心として当日になつて代表者大会を開くことは比較的に容易である。即ち吾々と行動を共にし得る人々を前以て何等かの組織的形態に於て獲得しておくといふ準備が不充分であつた。



(三)

然らば吾々は[illegible]的に利用をも持になかつたか?否、断じて否。吾等が本年二月の恐慌斗争デーを敢行した時、反民主々義組合も一切の社会民主主義政党も沈黙してゐた。ところがメーデーには彼等も準備せざるを得なかつた。(それについては後で少し述べる)かくした場合には二月の時と異り活動方法も異ならさるを得ない。その意

…メーデーは最初の[illegible]少くあつた。

(ホ)この最初の成功に係はらずそして一般的には以上述べた様な多くの不充分を有しながらも吾々は独自の示威運動を組織することを得た。そこに動員された数がよし少ないが反民主々義的デモに動員されたる数に劣つてゐたにせよ(それは東京とか大阪とかいふ都市で)吾々の打つたメーデー準備斗争はそして当日のデモは広く日本全国の労働者大衆に非常に大きな影響を与へた。吾々はそこに大きな政治的意義を見る。そして大衆闘争が益々高まることになつて可全協はメーデーを暴動化するとか叫びながら尖鋭に革命的労働者を逮捕してゐる時に大衆は可なり最の状態か?否!知りつゝあつたのだ。メーデーを斗争日として迎へるといふ本来の意ぎが普党及全協の指導下に——命令ではない——労働者大衆によつて行はれることは特筆されねばならぬ。

(ロ) 更に全国各地方にこの日行はれた労働者と農民の共同斗争も又充分に評価されねばならぬ。長野、山梨、秋田、富山等々の地方では吾党のスローガンは公然と掲げられた。大部分に於て反民主々義的指導者共は、すべつてゐる時、各地方で我党及全協のスローガンが公然と叫ばれてゐるといふ事実は吾々の活動を展開するに充分な好条件が存在することを物語つてゐるのだ。労働者と農民との革命的部分は共々斗争を通じて行はれる[illegible]の獲得で…しく斗争の途に集団と化る大衆と大衆との下からの統一戦線——それは無産政党とはふ反動的な組織に於ける指導者共の申し合せや可合同などとは真正面から対立する——によつて生きるのだ。

(ハ) 組合単位の動員形態から工場単位の動員形態への発展。これは吾々と大衆との緊密なる結合といふ観点からして非常に重要である。組合員以外の未組織大衆は色々の傾向を有してゐる所の組合員大衆を一つの統一されたものとして吾々の要求の下に動員するといふことは大きな政治的意義を持つ。勿論この方面に於ける成功は全国的ではないばかりでなく地方的に見てもまだ部分的ではあるがこの方面への戦術の転換は吾々自身によつてもつと大きく重要視さるべきである。

(ニ) 大衆的武装による戦斗者の奪還。例へば横浜に於けるメーデーで検束されたる人々の奪還の為に朝鮮人労働者約四十名程が警察の前でガン張つたこと。このことは労働者の警察署先頭に立て、大衆的示威を組織することについての多くのシジュンされるものを与へてゐる。共産主義者の大衆的指導が行はれた時に警察署先頭に立て、大衆的襲撃を行つた地方は一二に止まらなかつたが、この意義は少しも普遍化されねばならぬ。

(ホ) 工場内の要求をとり上げて斗争を組織しメーデーを期して貫徹した例は二三にとまらない。これも大きな事実戦斗者を持つ。又この場合吾々が前線として可能なのは日常要求の説明のみ重要がおかれて国際斗争日の説明的活動との結合などの程度まで大衆の間に理解されたかである。ともあれ個何々せよ!といふ単なる呼びかけだけでなく労働者大衆が生活に即した活動方法を採用しそれを——不充分な多くの点を有したとはいへ——政治的問題と結合さすべく意識的に精力的に行はれたことは極左主義的傾向克服途上の大きな収穫といふべきである。

(ヘ) 尚吾々は多くの成功を持つてゐるであらう。だがそれは各地方組織から具体報告に接しなければならぬ。各地方組織自らの自己の活動に対する具体的な批判を下されねばならぬ。その事はより高度な大衆の活動に上げねばならぬ。又ふまでもなく批判は悪気の仕事に対する傲慢や誤謬のなすりつけのためではなく来るべき斗争に如何に闘へるべきかのために行はれねばならぬ。

(四)

改良主義者社会ファシスト共は如何にメーデーを準備したか?特に重[illegible]々で郷土会館を持たないので簡単にまとめる。

(イ)、お座成りの受動

(ロ)、未組織労働者特に女工労働者をメーデー示威に参加させる対等の活動をもしなかつた。

(ハ)、革命的労働組合及その他の大衆団体の参加不許可に対する沈黙——乃至彼等自らが拒否したこと。

(ニ)、革命的労働者に対する迫害に関して一言もふれず、而、それらの人々を極左主義者として敵に売り渡してゐた。

(ホ)、メーデー会場式行列に我らせるためあらゆる努力を行つた事。そのために警視庁へ陳情(では)との成功——東京深川に軍隊が出動したことなどは皆彼等によつてはかなへらないことなのである。



彼等の提出したスローガンについて一言。反ソヴエート同盟の新しい戦争の危険を回顧に述べてゐる今日日本のアナーキスト共は「ロシアに於ける在我アナーキスト、サンヂカリストの即時釈放並にその活動の自由」「ゴ・ゲ・ペー・ウー(ゲーペーウー)の即時廃止」といふ反革命的スローガンを出して吾々を喜ばせた。口際プロレタ

くは帝国主ギ戦争の本質を見抜き得てゐない。両戦争は不景気退治の神様だ！といふ帝国主ギブルジョアジーの宣伝にダマされてゐるものが非常に多い。

一人の兵士も送るな！・一銭の軍事ヒも出すな！

新帝国主ギ戦争反対——帝国主ギ戦争を自国ブルジョアジーに対する内乱に転化せよ！・——自国帝国主ギ政府の敗北!!

ソヴエード同盟の新労者に対する戦争を自国ブルジョアジーに対する戦争に転化せよ！

労働者と農民の祖国ソヴエート同盟を守れ！

支那革命を守れ！

朝鮮台湾等の植民地の完全なる独立！

帝国主ギ戦争の本質を、日清、日露、世界等の大戦の具体的事実に基いて、ごく解り易く労働者農民に宣伝することが絶対に必要だ。緊急の任ムだ！野時宣伝を開始しろ！

業者同盟に於ける指導的地位を獲得すべきである。それと反対のものでは断じてない。否、独立的組織なるが故にこそその細胞結合より尖鋭でなければならぬ。上から下までの全ての機関には夫々の代表者が選出されてゐなければならぬ。勿論この場合同一の人が両方の機関に働いてゐることを妨げるものではない。

吾々は失業者同盟の独立的存在を主張するが、それは形式的に理解されて

はならぬ。あくまでも、それに対する赤色労働組合——それは革命的指導権を確保しなければならぬ——そのために活動しなければならぬ。日協評議会に加入し得ないが失業労働者へも入るといふことを忘れてはならぬ。失業者同盟へドシドシ入れ、そこで全体としての組織化された活動によつて革命的政策を理解させなければならぬ。



失業者同盟組織に関する一つの混乱について

日本労働組合全国協議会とその加盟組合は失業労働者自組織のための強力的活動を持つてゐる。このことは改良主ギ労働組合指導者共が失業者組織に関する空元気な叫びをあげるに留つてゐる今日、吾革命的労働組合の勢力を拡大する意味に於て、又失業者問題の重要性を正しく理解してゐる意味に於て実に重大な事柄である。

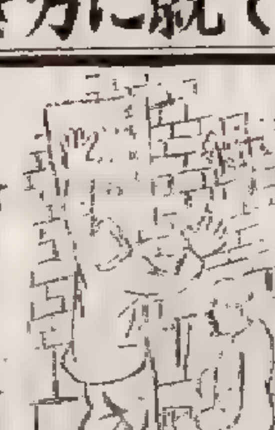
中央委員会を始め所々の所組（又は委員会）に組織することは赤色労働組合の重任ムであることはプロフィンテルンの決議が明確に指摘してゐるところだ。そして吾日本の赤色組合がこの決議の実行にはつたことは絶対に正しい。然し、この決議であつてある甲組織化の意味が明白でなかつたために若干の混乱を来してゐる。それは失業者同盟が組織上では、全協評議会に加盟してあることに表現てゐる。失業者同盟は組織上で赤色組合に加盟すべきものではなく独立的存在であるべきだ。併し、このことは、この両者間の密接な協力、共同斗争、の展開、赤色組合の失

失業者を失業者同盟へ大衆的に組織せよ！

革命的政策の下に失業者同盟の活動を展開せよ！

失業者を組織する事は革命的労働者の政治的任ムだ！

➡ビラ傳單の書き方に就て

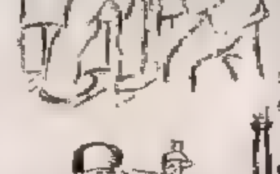


★

消費者、食くう者を職業別の、……の目的（例へば公判カンパニア、デモ）に宣動煽動し、大衆行動を起させるを組織するためにアジ・ビラ伝単を使ふことが必要だ。

ビラ伝単は何等たる労働者農民等にあくまでも実践的具体的方向を明示

する力を持つてゐなければならぬ。教訓的に関することなく……に応じて迅速に……ビラ、伝単が全然……の役にたたずつたり、今頃出されてゐる……されても何時出されても良いものであつたり、単なるバクロに終つて何等の指針をも与へてゐない方針を示してゐないものであつたりする。ビラ伝単を見た大衆は一体どうしたらよいのかわから



らいといふ場合もあり、……伝単にはこうした所の必要がある。

★

ではビラ、伝単はどのやうに書いたら一番効果的であるか。少くとも次の条件が備はらなければ駄目だ。

一、中心目標を一目瞭然たらしめること——例へば何七月何日何時何処へ集れ！とか、何何ストを開始しろ！とか等々の如く、何時・何処で何をするか等の条件を明示すること。何が中心目標か一目見た位ではわからないもの、又はよく読んでもわからないもの。中心目標が二つも三つもあるもの。こんなビラ、伝単が非常に多い。

二、中心目標に向つて大衆を引きつける手引きとなるスローガンを徹底して明示すること。これが非常に重要。大衆にピッタリ来ないスローガンを並べたてダラダラと羅列したもの。こんなビラや伝単はよくない。スローガンの並べ方にも注意すべきだ。

三、主体——党、同盟、全協、青年、会議、P、Y、××斗争委員会等——を明示すること。どこが出したかのハッキリしないビラ伝単がよくある。

四、労働者農民等にスグ分かるやうに書くこと。出来るなら難しい文字やマンガを説明するやうにいつた方がいい。……ことが絶対



に必要だ。

ピラ伝単が目的とする大衆へ働きかけ（街頭の労働者）に呼びかけるといふことはつまり行動をひきおこす最も重要な前提になるのだ。

★

ピラ伝単は簡単に、明瞭にそして迫力を持つことが第一条件だ。

ピラが一般的に長すぎる。それは一つのピラで何もかも入れ込み過ぎようとするからだ。斗争の発展に即して到々にピラを出すようにするなら、一目瞭然な具体的になり、論事明確になる。是非そうしなければならぬ。一枚の紙にビダクダクと沢山の内容や沢山のスローガンを書き込んだものが非常に多い。これは……の大きさ——紙の大きさは場合によつて大小色々あるが一般的には大きくて小さいがよい。小さくて同一の効果をあげ得るならば小さいがよい。

日本電気労働組合東京支部東電分会が一九三一四・一〇に出したビラ伝単は沢山の大衆に行動を起させた最も具体的なスローガンを簡単に三つかゝげた実。鋭じのよいカットを入れた為めで成功してゐる。あの六分の一の大きさで十分同一の効果を挙げ得ること

(3) 色——紙の色と上に書く文字との関係目にハッキリ浮き出させるものを選べ。例へば白紙に黒字、又は赤字。黄紙に黒字又は赤字。緑に伝単の場合白紙に黒と赤を用ふのが一番ハッキリ目立つ。赤紙に黒字は割合に目立たなくて駄目だ。ビラの場合色紙は割字よりも効果的だ。

(4) 字の大小、組み合せ方——字には必ず大小、細い太いをつけなければならぬ。更にそれを巧みに組合せることによつて、非常にコクのある内容を一目瞭然たらしめることが出来る。この点を実際に示したものは一つもない。

(5) ワク、線、数字の用ひ方、カットの入れ方——いろいろの点、線、ワク、カット等を巧みに取り入れることによつて同じ内容を盛り込んだものでも非常に美しく見える効果のあるように工夫すること



批判の仕方についての注意

▲……各地方関係に対する批判文が追々来て居る。其の諸子の意見を紹介する。

▲……最近の二つの批判を除いた他のの多くは批判といふよりは漠然、注文の羅列である。事例に反する意見が多くある。しかし、よく見ると批判の仕方が……

★

一枚のビラ一枚の紙…は実に大きい！次に……をマタ…も取る方……はた文字通り……

同志諸君！

ビラ、伝単の書き方をもつとくく研究しようではないか!!

ビラ、伝単のマキ方、ハリ方についても個々の経験を大衆化しようではないか!!

★公判カンパニアを期してビラ伝単を断然よくせよ！

★ Пролетарии всех стран, соединяйтесь!
万国の労働者団結せよ！

P.11　赤旗　1931.6.15

ば、同志アコーケーフの暗殺未遂に関するアッピール外の批判者は、このための具体的斗争形態・方針すら……示さねばならぬと思ふ白といつてゐるが、何故この同志は自らそれをやらないのか？ 若し、このアッピールを見て、各会の組織で、具体的な形態をやつたのであつたら、何故、それを他の新聞組織の人々の同K教へ様としなかつたのか？

▲……色々の質問や注文を送る事は、此機関の編輯上、論文又は研究の書き方をよくする意味で非常によい事だ。ただ、意見者は出来るだけ、党細胞の会議で一号々々の完成したものについて討論し、それ〳〵の完足Kへ現在無者そで書かれてゐる論文は全て四代表の集合的労作であり、そこでの党一的意見をあるき）対する細胞の意見をまとめねばならぬ。個人的意見を述べることも党機関紙が、我為統な読み流しにするのではなく、実践的斗争の指針たらしめねばならぬ。而して実践は党員全体の集合的統一的活動によらねばならず、統一的活動は統一的見解に基礎付けられねばならぬ。こういふ風に読まれる時、我機関紙は本当に政治的に党組織を統一し、且つ、労働者自重を組織するものと事ることが出来る。

▲……更に論文の批判は全体を良く読み、その言はんとするものは何であるかをよく理解し、その上に立つて行はねばならぬ。例へば、この可能の文章にある最後の二つの批判は其の意味ですぐれてゐる。可也分はこの論文をかういふ風に理解した。段にこういふ意見であるのと明白に述べてゐるこの二人の同志の態度はいい。でも最後の同志の意見は、現在吾々の組織事業をよく理解してゐない点から出発してゐるので、論文の前提に問題を投つてゐる。決論文の此のきこみの点があるので、その誤りは敢て言つてはゐるが。どうしてそうか？といふ点Kに対しては、次の一劃さ示すと云く思分であらう。

▲……多くの工場――連帯なかく、と云はざるを得ない――我は戦場で、だすする。と。この同じ五人の闘争K可[illegible]……

れて居ないので特に可成力して活動せよと云ふ特別の論文を我機関紙にのせねばならなかつたのだ。この同志は、自分の居る細胞では、如何する具体的条件の下で、この同志のいふことが実現されるか、又はされてゐるかを具体的に書いて示すべきであろう。又、この同志は、吾々が現在の条件下では凸とまつたことに対し、一切如何なる条件下か明らかにせられてゐないと述べてゐるが、しかし、この同志が注意深く我機関紙を通して、よく理解してゐため、明らかにせられて凸るあ要なのだ「一つ〳〵の論文に其常に同一の事が制々に書かれねばならないとでも主張するのか？ そうでは非いであらう。それからオ五回プロフィンテルンの決議でも引用しておるが、この引用も機械的である。吾々が深遠し〳〵のべきであるK、新聞は同一の人々が同一の紙面で吾々其つK新聞を書くことしない、のではなく、如何に労働者――

及び争議大衆を斗争へ動員し、組織的にカクトクすべきかを実践的に教へて行くことが重要なのだ。はたしてこ此政治的意見が（プレーニン青年団）ト様はされてゐないか？ そして、それうを統一的に、工場内で出すことが、労働者で党によつて要求されてゐないか？ そして、大衆の二の要求に沿なゆうとすることが追随主義だとでもいふのか？ 之うでは非るまい。同志は具体的に、そして政治的に見られねばならぬ。

▲……党我関紙上に示されたる意見とされないとに拘らず、党員諸君は各細胞の、又は各自の意見をドシ〳〵編輯部へ送られば可なる。我々の批判は決して、我編輯部のみでやるべきではない。多くの同志諸君が編載に行はねばならぬ。党の政治的方針を基礎にし、それに関する各細胞の意見を統一することは党をボルシエビキ化する最重要な一歩である。

党員諸君！積極的に自己の意見を述べよ！

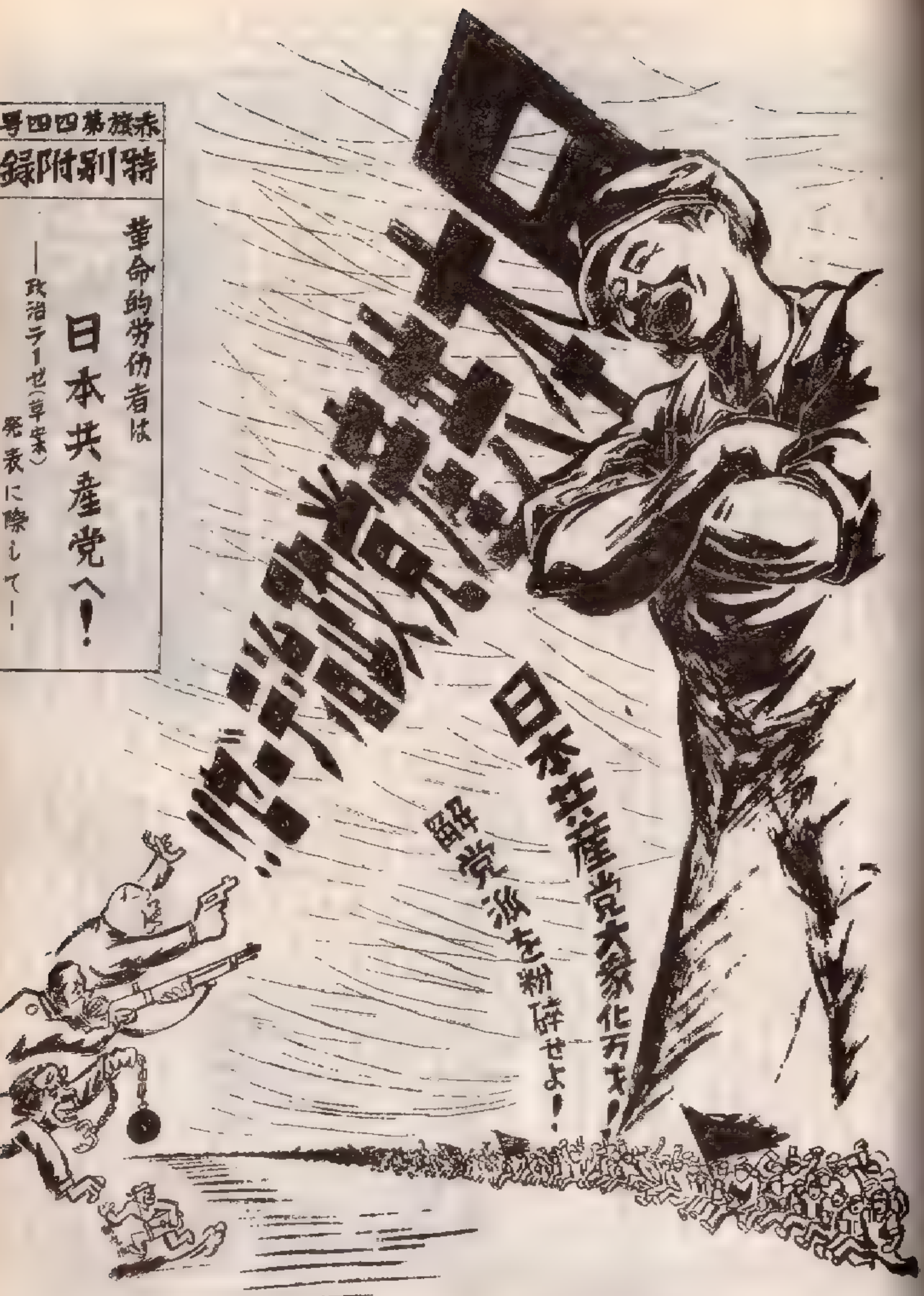
自分の働いてゐる場所では党の政策が如何に行はれてゐるかを書き送れ！

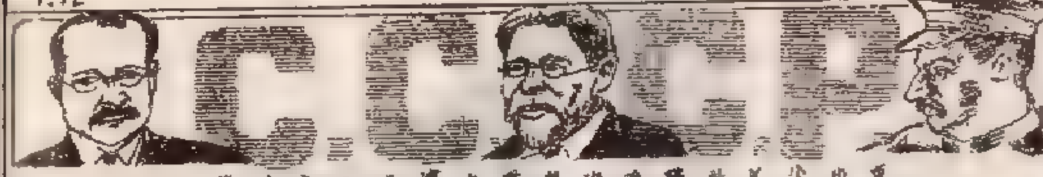
ボリシエビキ的に批判せよ！

赤旗第四四号
特別附録

革命的労働者は日本共産党へ！

――政治テーゼ(草案)発表に際して――







東京地方の共産党出獄被告会議

一労働者

去る五月廿七日、日本共産党東京地方の出獄被告会議が開かれた。出席者三十何名、満場一致で獄内公判委員の構成と決定を承認し、その指揮下にあくまで組織的に公判斗争を戦ひ抜くこと、公判斗争を階級斗争の一部として斗ひ、解党派に対しては決定的に斗ふことを決議した。これは遠百に吾々の前衛党の輝ける日本共産党々員の階級的革命的立場と階級的斗争力を示してくれたものだ。だが僕達はこの被告会議に二つの不満がある。第一に五十四名とは東京在獄の獄被告の三分の一に過ぎず全獄被告の四分の一にも足りないではあるまいか。公判が後三週間に迫つた時として今頃こんなことではいけない。永い期間獄内で非常に健康を害されたことに対して統一は感謝し激励する。だが獄外にある党員は、チットソットの意見で押しきつて事はみとしくあることを考へて見てくれ。第二に被告会議に労働者は傍聴をつけなかつたが、代りにそれよりもつと奴等に重要な解党派八名を出席させた。その被告会議の結果は何れもこの大衆を通じて見させないで置くのだ。解決方法は、奴等に労苦と執権を与へないで、キッパリ決議しなかつたのだ。解党派との斗争は単に決議しただけではダメだ。実践的に組織的にやることだ。

公判廷に於ける斗争は工場農場裏付に於ける大衆的抗議、大衆的示威斗争に依つて成しとげられるのだ。斗争の主流は工場にある。工場で従業員大会や全会同ストライキや中質の鎮圧流れる組織的斗争を巻き起すことが一番大事だ。

公判廷への押しかけ、こう云ふ大衆斗争を背景にもつて時代の中に於ての示威抗議とある。二十八日の前衛部の公判準備会議に出席、一人につき二人組の傍聴公判だ。

迫を占領してゐた。裁判所の廊下には三余ヶ所おきに一人づつ警官がすみよく、途中には配置され外部に通ずる廊下は鵜ばりで交通が遮断され、判事、検事は警察報告を持載して全裁判所中を嗅ぎ廻りてゐた。奴等は明確に公判斗争を恐怖し警戒し武装して八ツ当りした戦略の下に威嚇しやうとしてゐる。

同志諸君！

労働者よいか！今度の公判には自覚公然のテロが行はれるに決つてゐる。自衛団を組織しろ！敵が今度の公判を守護にやるやうに見せかけ公判の統一公開の要求を獄に潰される様に見せかけてゐるが、実は激しい戦闘があるれるだ。我等は千何を準備してゐる。

同志諸君!!

この千ロを強衝し得るのは工場職場に於ける広汎にして組織的な強い大衆斗争のみだ！同志しつかり準備をやらうぜ!!



公判斗争の前哨戦はつひに始つたぞ

日本共産党東京地方公判斗争全工場職場に用意しろ!!

全口の労働者農民諸君！

商選が偉大な獄敵と闘争を以て待ちに待つた日本共産党東京地方の公判斗争の火蓋はつひに切つて落されたぞ！去る五月廿八日田中被告ら二十五名の旧予審は四月に出る獄所や獄内に風せぬ孔気一杯の課や東京地方裁判所第一号法廷に鉄の如く闘かされ傍聴者と弁護士とを集めて議判に臨んだ。

午後一時いよいよ公判準備公議に移る七十名の弁護人は判事一人を慎重のために殺し、被告の如く争つて退散した。こうして奴等は公判斗争の最初の前哨戦に於て既に階級斗争に対する覚悟を示したのだ。同志佐野は一言一句激しく既に見る階級で、被告達を瞬時し、今回の会合は獄内中央部が昨年七月以来獄に対し組織的に奪へり獄く公判の統一公判



民と共にその大衆斗争への呼び掛けを作り出さねばならない。工場の場合には我々はアセレイ者会議や、その他工場内の大衆的な組織を足場にして、大衆リ工場労働者の兵士獲得運動を大衆的に組織すべきだ。そして工場の反戦の大衆斗争、労働者農民、およそ労働者のデイキの報告者、あらゆる日常斗争をコタイムに組織すべきだ。兵営の兄弟に工場の斗争精神を忘れさせてはならない。その為には、職場と兵営とのキズナをかたくすることが大切だ。工場内の兵士獲得運動は、兵隊と労働者の意識の内に斗争への参加の意識を作り出さねばならない。

同時に我々は兵営内の兵士斗争への労働者の積極的支援を組織する。工場からのヒン乃至ニュースと積極的に活動しなければならない。我々は如何なる妨害があらうとも、如何に困難であるとも、兵士の斗争を積極的に援助し、巨大なる武器を持つ大衆その味方としなければならない。

兵隊乃至であるエ場や、質の悪い兵営にはキットやつと沢山の意見があると思ふ。どんどく兵営へ持つて行け、兵隊して貰はなければならない課題だ。

> 「共産主義思想を普及化すべき仕事は、軍隊内に於ける組織的活動の中に含むであらう。これ等を反軍国主義的活動の中に含むで、この機関紙の活動の結果によつて、あらゆる兵士大衆と結びつけなければならぬ。この活動は軍隊運動に関する主要な任務である。共産主義インタナショナルへの加盟の条件第四条(日本共産党第二回大会に於て採択された日本共産党綱領加入条件に関するテーゼ)
>
> 満洲口出兵戦争 ソヴエート同盟に対する武力干渉の危険が迫りつつある現下の情勢に於ては軍隊内に於ける組織的活動は益々重要性を帯びて来た。
>
> 編輯部

労農少年の組織化に就いて

×××工場細胞 ×子

工場農村の労働者、労働婦人及失業者、失業婦人の大衆組織を階級斗争へ動員し戦闘へ組織する事が重要な任務として日程に上つて来る今日、これと共に軽視されてゐる労農少年の組織

前口主義戦争及ソヴエート同盟の防衛の為である。

反戦斗争を準備しつつある日本の支配階級は、口農兵の意識ファッショ化と並んで、産業合理化によつて意識に低い産業に引入れられつつある青年少年に特外的奴隷制を課し、鄭口主義的なソヴエート同盟の意識を吹き込むことに熱中してゐる。我々のこの事へ少年層への影響は実に不充分にしか向けられてゐない。我々の少年労働者は封建的な様相制度の下に酷い外の搾取を受けてゐる。何れえたる失業者の子弟は、何故に学校に於いても、貧弱な教育の下にしか置かれてはならない。彼等は農村の少年者、工場の少年達は、ストライキに於いて実に勇敢に戦つてゐる。最近ブル新聞は、東京府下の一工場で少年少女ばかりが資金値下と労働強化に反対してストライキをやつたことを報道してゐる。

我々が少年の組織化に就いて、不注意であつたり、青年の仕事よりも遅れたりする様な責任は全く正しくない。下からの統一戦線、失業者と就業者との結合、全協の組織的強化、政治的強化拡大、と云ふ事が重要なればこそ、農村労農少年の組織化が極めて重要な問題になつて来るのだ。少年が言つたりしたりする事が、その前面の成人者に如何に強い力をもつてゐるかは知れない。それはブルジョアのボーイスカウト等が、少年の問題にしてはならない。吾々もブロレタリアの少年の組織を重要視して全面的に実施すべきだ。少年の組織は団体的プロレタリアの少年にも、被等の学校、御練での生活をよく知つてゐる。我々はよく知つてゐるにあたつて、少年のこの団体を組織すべきだ。

先づ我々は労農少年団(ピオニエル)を組織するには、小作争議、ストライキ等の場合が最もよいのだ。そして組織の時にでも組織を続けなければならない。我々はそれがつきすることが出来ないからである。

それから一番考へられるのは、農村の場合には一村、一部落を単位として組織すればよいのだ。都市の場合はどうするかと云ふ事であるが、自分が思ふには、無協の下の様な工場があつたら、その工場の少年労働者及その他の労働者の小供を中心として、少年団を作り、団員の数が相当してゐる位の労働者の子弟の積

第四十二號を讀んで

×××生

[illegible]

第四十二號を讀んで

技術部 ××子

[illegible]



赤旗
第45號
國際共產黨日本支部
日本共產黨
中央機關紙

➡8月1日—國際的反戰デー

大衆的政治的ストライキへ！
街頭示威へ！

八月一日！全世界のプロレタリアート勞働者農民は、[illegible]ソヴエート同盟に反對する反革命的戰爭に反對して、この日街頭デモンストレーションを敢行する。

一九一四年八月一日、[illegible]

[illegible]

▼八月一日—國際的反戰デー……一頁
▼[illegible]……二頁
▼[illegible]……三頁
▼[illegible]……四頁
▼[illegible]……五頁
▼日本帝國主義の戰爭準備と鬪へ！……六頁
▼鐵の火花……七頁
▼[illegible]

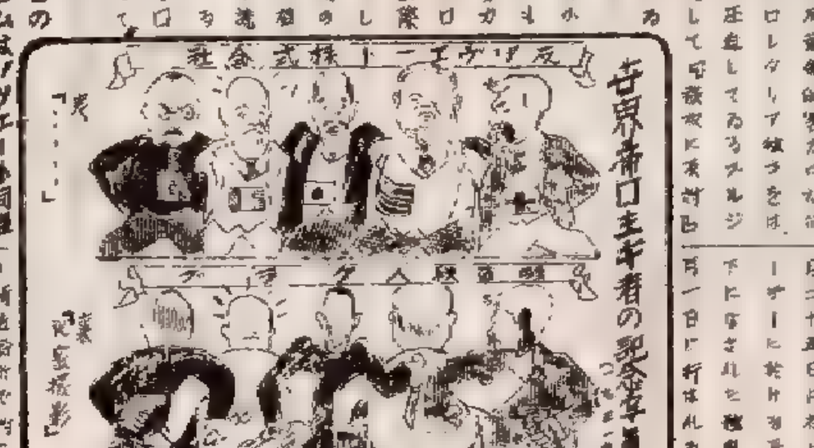
スソヴエート戦争、植民地掠奪戦争準備の先鋒に立つてゐる。日本帝〇主義を倒せ！われ〳〵同志は殺されてゐる。ロシアの民衆をボリシエヴイキの手から救へ！。〇資本家の害悪なき〇を倒せ！ら等々——是等の破廉恥な言辞者どもの合言葉だ。カウツキーはソヴエート同盟に於けるプロレタリア独才政権の目的を以て遂遣さしたメンシエヴイキの弁護を公然と表明した。〇モスコーは〇を殺してゐると宣伝した。ドイツ社会民主党の首領ツエルギーベルは一九二九年五月一日にベルリンの労働者労働者を殺戮した。そして日本の社会民主党はこのツエルギーベル一派に賛同の辞を送つた。〇〇の事件的労働者農民を屠殺してゐるマクドナルド政府は日本の社会民主々義者の〇模範〇とする処である。中〇プロレタリアートを野蛮に殺してゐる蒋介石は日本の社会民主々義者にとつては〇模範すべき同志〇〇のだ。〇東支鉄道を支那——軍閥帝〇主義者の——に返せ！〇の略武化したのは、それから何志アニケーブ羽監覧に対して暗にファシストを支持したのも、更に又、日本地主に対する労働者の要求をソヴエート同盟に転嫁さすために利用したのも、日本の社会民主々義者だ。〇帝〇主義戦争を前へ、ソヴエート同盟挟撃〇のスローガンを掲げつゝ、来るべき戦争の性質を、それに反対する斗争を、そしてソヴエート同盟に於ける社会主義建設の成功を、労農階級大衆に知らせない

のか〇〇資〇社会民主々義者だ。又、日本のアナーキストも、帝〇の仲間と同様にソヴエート同盟に反対する。大きな成功——ぜか大きな困難と斗ひつゝ、——を静めつゝ、ある社会主義建設を破壊せんとした反革命農民の解放を要求したり、一切の反革命的勢力に援助する為に必要なプロレタリア独才をは労働者農民を搾取圧迫してゐるブルジヨア独才と同一視して〇攻撃的に反対〇等ど根拠を失つてゐるのがこの業だ。

更に日本共産党から脱出した解党派もボスソヴエート勢力の一翼をなす。プロレタリアートの〇際総団結をチヂコワしたり、〇日本民衆の利益（？）の為に植民地の必要（掠奪と遠むへし）〇を要へる彼等は本明白に帝〇主義戦争を支持してゐるのだ。

かくて八月一日の反戦デーの中心任務はソヴエート同盟の擁護である。そのことは必然的に一切の社会民主々義者、反革命派プチブルギストに対する斗争を、このカムパーニアに於ける重要任務たらしめる。

〇ソヴエート同盟に対する戦争準備の資本主義〇〇に於けるプロレタリアートに対する資本家階級の攻撃と〇



擁に〇なつけられてゐる如く、ソヴエート同盟の〇〇等資本家の〇〇攻撃に対するプロレタリアートの道筋とは〇一斗争の二側にしかすぎない〇〇現〇デーカムパニアは日本のプロレタリアートの全〇級的斗争と切り離し得ない。二月二十五日に於ける失業反対デー、メーデーに於ける吾〇〇全〇組織全〇指導下に〇された〇〇〇〇デモ、それから八〇一日に行はれる大〇的ストライキ、デモは同一の目的の下に統制されあるのだ。日本のブルジヨアジー、地主は一、ある〇労働者覚〇〇を攻撃してゐる。ストライキの波は〇〇〇〇〇〇〇様へ〇〇されてゐる。つい最近には神戸〇新造船所で約三千名が〇〇〇の下で解雇された。それ以前に、〇崎〇〇七大〇〇〇〇〇があつた。中小工場のそれは数へるに暇がない。かくて産業合理化、〇〇大衆は、〇〇その数を増大してゐる。ストライキの〇〇は〇すく〇〇し、〇んとあらゆるところから、〇〇と〇〇してゐる〇〇賃料を

はブルジヨア新聞でさへ〇賃〇〇〇理不可能〇と認めざるを得ない程まである。そこでの小作争議は今や一端暴力によつて土地の〇〇〇〇、土地を〇民へ！の方向に進んでゐる。ブルジヨア地主の攻撃は〇中日本共産党及その指導下にある革命的大衆組織に対して集中されてゐる。それは〇〇〇〇〇の革命的諸団体が日本のプロレタリアート及貧農大衆の要求を掲げて斗争してゐるからである。〇〇〇〇は、〇革命的組織に対する決定的斗争によつての日本の労働者農民の上に搾取と弾圧とをつゞけ得る事を知つてゐるのだ。それ故に日本共産党に対する弾圧は日本の労働者農民大衆全体に加へられる弾圧に外ならぬ。

の、〇〇〇の下に迎へられる八月一日に際して、吾々は〇〇〇〇に。〇下からの統一戦線〇の戦術を適用しなければならぬ。ソヴエート同盟擁護、七時間労働制、資本主義的合理化反対、大規模失業反対、革命的組織及その〇動の自由——吾々の要求の下に〇〇〇る大衆を政治的大衆ストライキ、大衆的街頭示威へ組織することは最重要の任務である。そしてそれは今日の条件の下に於ては全く可能である。二月二十五日、五月一日の教訓は八月一日に於て生かされねばならぬ。

〇〇〇主義に対する斗争、ブルジヨア平和主義に対する斗争、社会民主々義に対する斗争の何れも、ソヴエート同盟に於ける社会主義建設の成功——

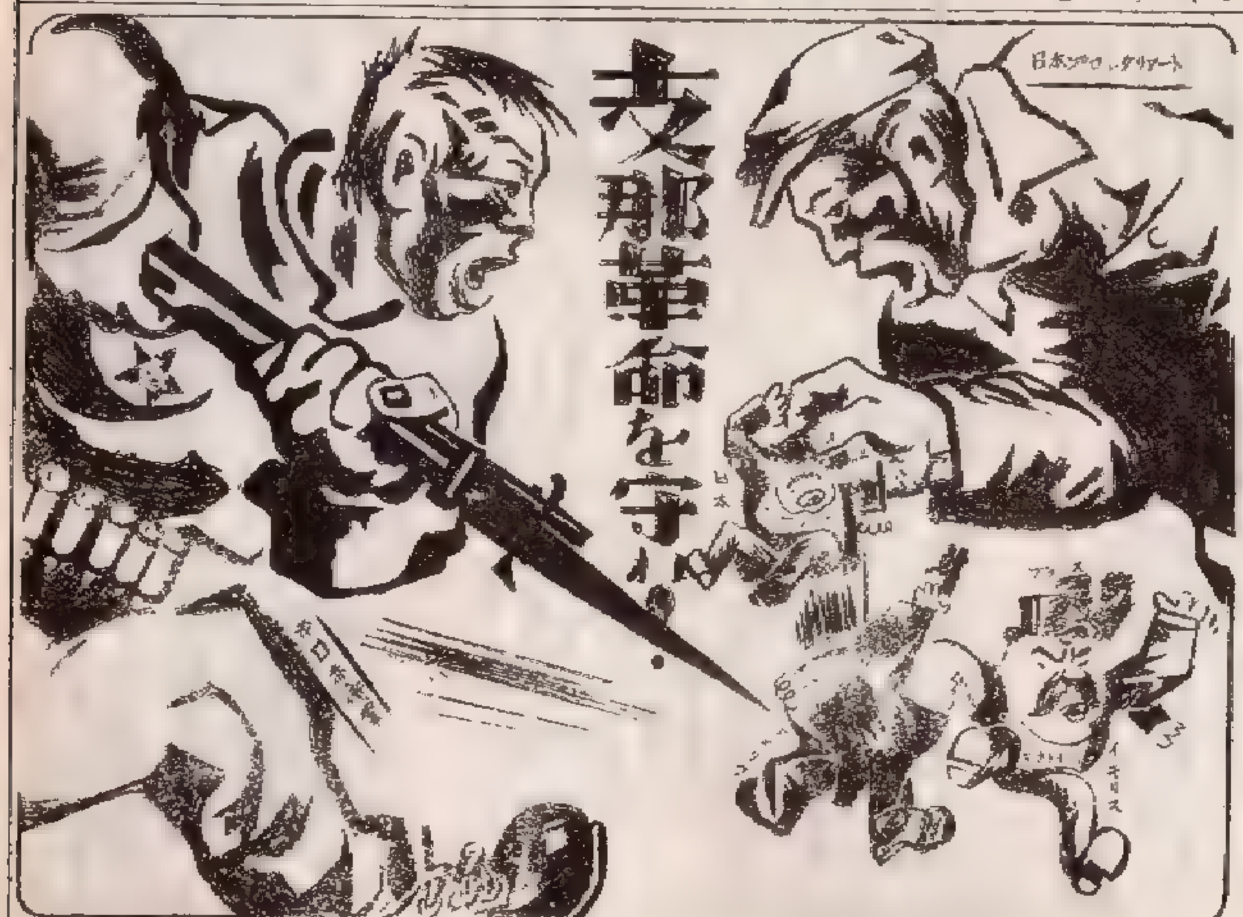
わがソヴエート同盟の労働者農民の戦士達の〇工——について〇〇と〇〇に結びつけられねばならぬ。〇〇〇にある〇〇〇労働者大衆はソヴエート同盟に於ける〇〇された労働者階級の〇実を知ることによつてブルジヨア独才〇〇、プロレタリア独才樹立の為の斗争に〇〇され、〇び立つであらう。

吾〇での八月一日は七月七日の〇〇公判斗争〇の継続として迎へられる。このことは吾々の活動をより効果的ならしめる。〇〇なる労働者農民大衆を政治的大衆ストライキ、デモンストレーションへ組織せよ！

大衆の〇〇〇〇〇に〇によつて帝〇主義〇〇〇戦争〇〇〇に〇〇せよ！〇〇〇級の白色テロルも、社会民主々義者のあらゆる大衆の組織された力の前には何事をも〇し得ないであらう。下からの統一戦線によつて工場から、鉱山から、〇〇から、〇〇から、兵営から、〇〇〇〇を組んで街頭へ出よ！

街頭を占領して〇〇〇〇〇〇大衆の革命的威力を示威せよ！全力〇〇してソヴエート日本〇〇の〇〇〇にの〇失業と〇〇、〇〇と〇〇との〇から解放される途があるのだ。

一、八月一日を政治的大衆ストライキ・デモンストレーションで斗へ！
二、階級同盟〇〇の帝〇主ギ戦争絶対反対！
三、寄生者と殺戮者の祖〇擁護反対！
四、武力干渉の〇団からソヴエート同盟を守れ！
五、支那ソヴエート、赤軍を守れ！
六、満洲、朝鮮、台湾、中〇から即時干渉軍を撤退せよ！
七、朝鮮、台湾等の植民地の完全なる独立！
八、ブルジヨア地主による戦争準備の共力者社会ファシストと決死的に斗へ！
九、祖〇擁護の天皇主ギ者〇〇派を撲滅せよ！
一〇、白色テロルにはプロレタリア自衛団を以て替へよ！
一一、共産党員及び一切の階級的政治犯人を釈放せよ！
一二、革命的宣伝、煽動、組織並にその活動の自由のために斗へ！
一三、資本主ギ的産業合理化反対、失業反対！
一四、賃銀値下げを伴はざる七時間労働制万才！
一五、〇家全額負担による失業保険の即時実施！
一六、天皇、大地主、寺社領土地の無償没収、土地を農民へ！
一七、寄生者と殺戮者に対する労働者、農民、兵士の階級的革命的同盟万才！
一八、労働者農民のソヴエート政府樹立のために決死的斗争へ！
一九、プロレタリア独才のために斗争する唯一の党、日本共産党の旗の下に集れ！
二〇、世界プロレタリアートの指導者—コミンテルン、プロフインテルン万才！





喝！吸血鬼、ロ・支・満鮮に狂ふ！打て！



もまあエ、眺めちゃのう！

合同政党を粉砕せよ！

★

労農党、大衆党　社民党合同実現同盟の合同大会が来る七月五日開催される事に決定した。然しそれは今既承認政党並員は党首問題でゴテツし、合同大会は延期の憂あるまいと最近のブル新聞が報道してゐる。彼等にとつてはこれ又ブル政党と同様に綱領政策はどうでもよいのだ。だからこの方面は討論の余地をとめないで既に早く決定されてゐる。吾々は「合同政党政策（草案）」の中から八・一デーに関係あるものを取出して、この方面から合同政党の本質をバクロする。

『軍備の徹底的縮少
軍事費の徹底的削減
一切の帝国主義軍備撤廃！』

[illegible]

★

[illegible]

"ブルドッグ!!"



★

[illegible]

★

[illegible]

附記

[illegible]



世界帝国主義の手先き
蔣介石を仆せ！
中国赤軍を援助せよ！

[illegible]

拡張した。

日本の革命的労働者貧農諸君！

ソヴエート支那の勝利を擁護せよ！

最近中国共産党の組織が次々に破壊され、指導者が続々と敵の手に奪はれて銃殺されてゐるが、その多くは、実に日本のスパイの活躍の結果だ！中国革命の敵は直接蒋介石の軍隊ばかりでなく、日本帝国主義の一方の足（一方の腕）を切り捨ふものであり、日本の革命を妨害するものだ！日本帝国主義はこの関係をよくハッキリと理解してゐる。されば こそ又に数百人の陸海軍の将校や有能なスパイや支那浪人共を莫大な費用を出して中国各地に送り込み、蒋介石軍閥の指導と革命的組織破壊のためのスパイをやらせてゐるのだ。最近では、米・英・仏の帝国主義がこれに共謀し始めた。中国共産党並に中国の革命的労働者貧民は、支那を護り、全世界の帝国主義の包囲攻撃の中にある。而も今日、組織的の中で勇敢に前進しソヴエートは拡大強化しつゝあるのだ！

天皇がそれに賭ぎとして発表する国民党・帝国主義の手先き蒋介石と手を握つてゐる大資本・支那軍閥・台湾の完全なる独立に反対する帝国主義者の社会民主党を粉砕せよ！中国から軍隊・スパイの即時撤退を要求せよ！中国の革命的労働者農民に支持援助をさしのべろ！プロレタリアートの国際的連帯を発揮して立て！日本帝国主義を打倒せよ！

ソヴエート同盟並に革命支那への
武力干渉・新帝国主義戦争
準備のための
人事異動について

若槻金融資本政府は帝国主義的外交の一巨頭、先帝の臨時総理大臣、内田を満鉄の総裁に、金融資本の直々の御用人、江口を副総裁に任命した。更に奴等はそれでも満足せず、日本帝国主義陸軍の総本山、将来の総理大臣（??）元の陸相、宇垣を朝鮮総督に任命した。

内田・江口、宇垣は何れも役不足だ！と云はれてゐる大物だ。にも拘らず、奴等は帝国主義の興亡のために、決然として登用した。若槻は四丁目でなる人事的政策として新聞から一齊に賞讃されてゐる。

だが、これは表面に現はれた現象的結果だ。本質は、一切の者の手腕ではなくて、金融資本の一致せる要求なのだ！だから何ア不ずすれに成功したのであり、賞讃するのだ！

では、帝国主義ブルジョアジーは、何故に、かくもソワくと大物を、満洲朝鮮に送るのか！

ソヴエート同盟並に革命支那に対する武力干渉と新帝国主義戦争の準備に、奴等が文字通り必死になつてゐるからだ。

世界帝国主義（その最も弱き一環たる日本帝国主義）は今や未曾有の危機に当面してゐるのだ。奴等が死物狂ひになるのは当然だ。

奴等は今は戦争と革命の時期に当対と準備しつゝあるぞ！！実に周到な、統一的な準備を。水ももらさない準備だ。

日本共産党・中国共産党・朝鮮共産党を先頭とする全日本の革命的労働者貧農を日本帝国主義が徹底的に弾圧しつゝあるのもその一つの表れだ。

日本帝国主義ブルジョアジーは、なお、一切の奴等の機関を動員して、ソヴエート同盟、ソヴエート支那、中国共産党に対するデマを流しつゝ、敵に対する動員をアフつてゐるばかりでなく、最新鋭武器と軍隊とを続々送り出しつゝある。

ソヴエート同盟と革命支那に対する軍事的侵略と新帝国主義戦争の危険は刻々に迫りつゝある。

労働者・貧農・兵士・植民地半植民地の民衆諸君！

ヂマされてゐてはならぬ。ウッカリしてゐる時ではない！！

立て！準備せよ！

ソヴエート同盟、革命支那の勤労者に対する戦争を日本の帝国主義ブルジョアジーに対する内乱に転化するために。

新帝国主義戦争反対——帝国主義戦争（階級同胞のサツリク戦争）が勃発した時は、之を日本帝国主義ブルジョアジーに対する内乱に転化するために——日本帝国主義政府の敗北のために。

『階級的労働組合』の戦争にプロレタリアートと貧農の同盟軍が勝利するために。

戦時準備活動に入れ。工場、農村でそのための活動宣伝をモウレツに展開せよ！特に軍需工業・交通運輸産業の労働者並に兵営・水兵・学生青年等の間での活動宣伝組織が重要だ！！

帝国主義ブルジョアジーの準備は実に周到だぞ。

階級敵に負けるな！

吾々、断じて勝たなければならぬ。

★ ★ ★

★★★

日本帝国主義の
戦争準備と斗へ！

(一)

若槻民政党政府は、最近満蒙問題、朝鮮施策の重要を断行し、而これを一転機として、わが対満蒙政策を更新すべしと伝へられてゐるに対し、同じく帝国主義ブルジョアジーの政党、政友会は『対満蒙強硬外交』を飛檄して、四国中の政策を制定し、を着せてかつぎ出した。

一部のブル新聞は『我国の生命線へ満蒙の特殊権の再認識』を（???）帝国主義政府は忠良なる国民へ（??）と煽動宣伝してゐる。『我国の生命線』なる表現は日本帝国主義が如何に満蒙を重要視してゐるか、如何に満蒙を中国の一部と考へないで日本の一部と考へてゐるかを如実に示してゐる。

『満蒙政策を以て対支外交の一部となすことは、たゞに、認識に於て不十分であるのみならず、また実に重大なる外交といはなければならない』と一般国民も余りに満蒙問題に対して冷淡になつたと思ふのである。満蒙政策の真意あるものが、わが国策の根本をなすものであるからだ。

『満蒙重要問題とされてゐる陸軍の制限縮少の叫さも、総て満蒙政策を中心にして計画されるべきものであらう』と三者の新聞は外交の拡張が三要の新聞雑誌と共に書き立てゐる。これが三者共通の満蒙に対する認識であり、要求である。

(二)

それだこそ、南陸相、金谷参謀総長、武藤教育総監の陸軍三長官会議が、以上のやうな帝国主義ブルジョアジーの政策を実現するために三つの重要な決定をした。

(一)『満蒙は帝国の国家に鑑みて、一朝有事の場合最も迅速なる兵力を動かし得る態勢をとるためには、この際、朝鮮軍備に永久的に駐屯配置せしめ、即ち所謂内地師団或ひは相当部隊を移駐する』といふのだ。

宇垣総督の談話を聞くと、これは結局において内外の見地に基く意見であるが、『朝鮮従来満洲方面に兵を動かす場合は常に内地から出兵して来たが、かゝる方法は時期を失する恐れがあるのみならず、世界に大々的に知れ渡る一つの不利がある』からだといふのだ。なんの事はない、ソヴエート同盟・革命支那に対する武力干渉と新帝国主義戦争を最も敏速にかつ而もコツソリとやらうといふ魂胆だといふのだ。

(二)、『中国問題の二箇師団は予ての戦争に備へたる陸海軍を有する兵力といふ見地で、『航空部隊、戦車隊、高射砲隊、科学化部隊その他の各兵種の基本的な装備を強化し』、『特殊兵団の機械化部隊、化学戦部隊の重砲部隊、装甲自動車隊その他の新設』、『内地の師団に於ける一個大隊を騎兵部隊に更新すること』。帝国の国防上の具体的改正を要求した。即ち機械戦争と毒瓦斯戦争のために戦争の機械化、化学化を実現しつゝあるのだ。

然も帝国の強力な国軍兵力の充実刷新の必要を、それより世大な国軍兵力の……あとは、軍縮どころのさわぎじやない。もつとく軍備を増して欲しいと云ふ。

一銭の軍費も出すな！

一人の兵士も送るな！

三井三菱・住友等の大金融資本の利益ヨウゴのための帝国主義的強盗戦争のためには労働者農民は一切の給養と血税（兵役）に反対せよ！

帝国主義者共のためには何一つするな！

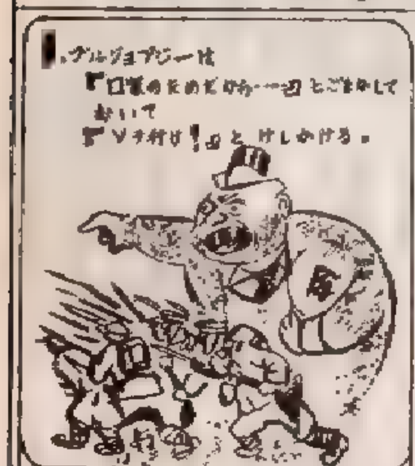
資本の桎梏からの解放のためには力をつくせ！

(三)

日本帝国主義者はどこと戦争を始めるにしても、真先きに満蒙を占領する計画だ。だから、陸軍大学の教官には常に如何にして一週間の間に、北満を征服するかといふ問題が出される。日本帝国主義者は、ソヴエート同盟と革命支那が仮想敵国だと公言してはばからない。

否、公言してはゞからないばかりではない。今日、現実に、この前言を着々として武力干渉を実現化しつゝあるのだ。

奴等は今現下秘密裏に、重大な組織して『帝都の決意を要す』とロコツに戦争を煽動してゐるのだ！







軍隊内の活動について

東京××鉄工所 石部生

(一)

軍隊内の活動が重要なのは民軍に戦時或は革命的危機の場合に軍隊を味方にすると云ふ意味に於てのみではない。階級斗争が増々尖鋭な形態を帯びて来てゐる今日の段階にあつては、大きな労働争議、小作争議、労働者大衆のデモンストレーション組織等の場合に軍隊が出動するのである。一九〇七年二月の足尾銅山坑夫三千名蜂起の時に高崎中隊、全年六月別子銅山争議の時に徴々中隊が動員され、米騒動の時には全国に亘つて軍隊が動員された。一九二一年七月の神戸三菱、川崎の大争議の時には陸軍一ヶ大隊と海軍陸戦隊が労働者に対立し昨年以来大工場の大規模的馘首の場合には常に憲兵軍隊が動員されてゐる。今、川崎造船所の争議に際しても、歩兵一ヶ中隊程が憲兵と巡査と協力して警戒してゐる。又宇部の(年代は記憶にないが)労働争議の時には戦闘艦が乱射されてゐる。かくの如き事実こそ軍隊の階級的性質をよくバクロしてゐる。それ故に軍隊内の活動、兵卒、水兵と斗争してゐる労働者農民大衆との共同の問題、協力して敵の鉄に当るといふ問題は今日既に切実な問題として日程に上されてゐる。我々が階級斗争の本能化を正当に評価して日本では偉大なる階級戦にとつての前提條件が急速に成熟してゐる(プロフィンテルン決議)ことを認めるならば——我々はそれを認めてゐる——軍隊内の活動、既に内部に限らず軍隊に対する我々側からの働きかけ、党細胞の建設、拡大の問題はより現実的なものとして實撥は無細少なり。口先丈で決議を認めても、かうした実践的活動を行はないならばそれは社会民主々義者と同じものに堕落してゐることを意味するであらう。

國際反戦デー8月18日がやつて来た!!…
軍隊の兄弟達と(手)は(固く結ばれ)て居るか?……

(二)

此の見地からすると、先づ我々は当面してゐるストライキ、又は小作争議等の鎮圧の為に動員されてゐる軍隊に対してどう働きかけるかの問題を取扱はねばならぬ。(勿論私はこれから奏ま、あれかうこれといふ工合に経験を段階的に図解式に扱ふといふのではなく、只便宜上この問題を先にしたのである。)斗争しつゝある労働者大衆に側つて、「軍隊の階級的性質のバクロ丈けでは何もならぬ」。「軍隊が出動する時に、労働者はより一層かたく斗争心をかためる」と云ふ同志もあるが、それは一面的な見方である。我々は軍隊の階級的性質をバクロすると同時に、軍隊成員の絶対的多数が「軍服を着た労働者農民」であることを大衆に理解させ、大衆と大衆との下からの共同戦線を成功的に樹立すべく努力しなければならぬ。我々は「組織された正規軍に対して棒切れを以て向ふ」の愚を犯してはならぬ。軍隊と斗争するといふことは——特に今日の場合労働者農民大衆が何等の武器、大衆動員といふこと以外の)を持たない時に——オ一に軍隊の斗争力を破壊することだ。シベリアへ出兵した日本軍隊の敗北は赤衛軍の武装力が、日本軍に勝つてゐたわけではない。日本陸軍当局が正当に認めてゐる如く「赤化宣伝」即ち労働者農民大衆が戦争の争議を理解させる為の活動が精力的に行はれたことに依存した。又赤衛軍が反革命軍との斗争に於て破竹の勢で勝利を獲たのは赤衛軍が労働者農民大衆の利益を擁護する唯一の軍隊だからに外ならぬ。去る東支事件の時ソヴエート同盟軍の為に捕虜となつた支那軍の兵卒は余りにも赤衛軍の兵卒の生活状態がいゝのと捕虜に対する待遇が好いのとで、殆ど大部分は事件解決後も支那に帰ることを背じなかつたと云ふことである。このボルシェビキー的戦術こそ我々が学ばねばならぬものである。

では、ストライキ、小作争議等の場合、如何にして軍隊の斗争力を破壊するか?もつと正確に云へば、斗争農正に向けられた軍隊をして彼等が本来の目的を遂し得ない様に瓦解さすにはどうするか?オ一に考へねばならぬことは軍隊の行動は武器を持つてゐるといふ丈けでは不可能だといふことだ。一致せる行動の為には規律的にもその行動を是認してゐなければならぬといふことだ。オ二に軍隊は絶対多数が「軍服を着た労働者農民」であること、従つてオ三に兵卒の大多数は無様出身地の階級斗争に関係を有すること。以上のことがらをよく理解してゐなければならぬ。かく見来る時に我々は「何を示すべきか?」に答へる糸口を見出す。兵卒・水兵の間に階級斗争の事実を知らせてやること。出来るだけ出身地に於ける階級斗争の事実を挙げ、それと軍隊内の生活と結びつけて説明すること——かくすることに依つて労働者農民の下からの共同的斗争の必要を理解させること。而してこのことはブルジョア軍隊の斗争力を瓦解させることに重要。

此の方面に於ける党及共産青年同盟の活動は最も精力的に行はれねばならぬが、例へば(イ)争議団側から大衆的に軍隊を訪問し直接兵卒と語し合ふこと。(ロ)出身地農民組合から出来るだけ多くの代表を軍隊に派遣すること。(ハ)労働組合と農民組合と協力すること。(ニ)争議の起つてゐる地方の軍隊を大衆的に訪問すること。(ホ)兵卒の休み時間を利用して労働者との共同的懇談、演芸会等を催すこと。(ヘ)若干の場合は宣伝煽動を言葉を通り越すのではなく、彼等大衆地主貴族の暴暴ありのまゝに話しすることが必要である。今迄の如く只単に動員されてゐる軍隊に向つてビラ・檄文の撒布だけでは全然不十分である。我々はもつと前進しなければならぬ。

通常労働争議、小作争議鎮圧の場合動員される軍隊はその斗争が起つてゐる土地の軍隊ではなしに遠方から呼び寄せられる。例へば岐阜の農民の暴動の時には敦賀、京都等から今回の川崎造船所の場合は高知から又は姫路から等の如くである。何の為にさうするかは明瞭である。兵卒の多数は農民であるから一地方に於ける軍隊を出動させることは鎮圧の目的を達し得ないからである。所謂「士気が振はない」からである。だから我々は以上の如き活動をしなければならぬ。斗争が起つてゐる地方の軍隊に働きかけ、(大衆的訪問)で兵卒と親しく語り合ふことの必要は勿論云ふまでもない。我々は出来る限りかうした機会を巧妙にとらへて軍隊内で兵卒が自らの集会を持ち得る自由を獲得——力に依つて——しなければならぬ。平服の労働者農民と「軍服をつけた労働者農民」との交歓こそが我々のとるべき最も有効な戦術であり、正しい戦術である。このことなしには我々は「武器を手にせる労働者農民」をしてブルジョア地主打倒の為に向けさせることは恐らく不可能であろう。

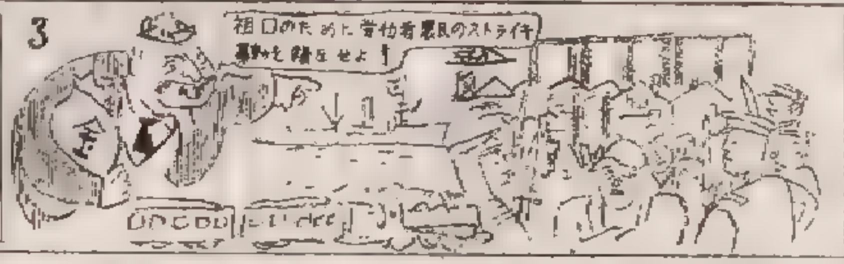


(三)

新しい武器者が大等々の登明、階級斗争の激化は戦争の戦術、ブルジョア軍隊の構成等に大きな変革を要求してゐる。日本の支配階級は「国民総動員」を幾度か試みた。そして軍隊の強力なる予備隊として青年団処女会ファシスト団体少年団等を組織しつゝあるべき戦いを行はんとしてゐる。ブルジョアジーにとつて最後まで信頼し得るものでなくなつてゐる。日本の支配階級はヨーロッパに於ける革命の経験をとり入れて最後まで信頼し得る軍事専門家、将校、下士官の養成に全力をあげてゐる。ブルジョア大学、高等、中等学校に於ける軍事教練はこのことの露骨な表はれである。又、忠君愛国主義、排外主義、日本主義の労力的宣伝、ファシスト団体の組織、社会民主々義者に依る労資協調主義の唱導、ブルジョア自由主義者に依る平和主義な非価なセンチメンタリズムの唱導、全て是等は来るべき戦争への準備である。故に吾々が軍隊への働きかけを最に重要視する以上是等の若者に対する徹底的斗争が行はれねばならぬ。

工場内、農漁村に於ける階級斗争の現実はブルジョア地主制から為された是等の毒素をバクロしそれに対して斗争を組織する最大の好條件を具有してゐる。軍隊内への働きかけは、かくて軍隊外に於ける活動と密接に結びつけられねばならぬ。先、青年同盟の組織は云ふまでもなく、革命的労働組合農民組合が一定の人々を軍隊内に送られた人々との定期的連絡者としての任務を負はせて活動させねばならぬ。一人でも知つてゐる兵卒があつたらそれを通じて他の多くの兵卒とも知り合ひになり、出来る丈け兵卒出身地の事実を——出来る丈け階級斗争の事実を——結びつけて話してやらねばならぬ。兵卒の生活とはかけ離れた革命的言辞を弄するのではなく生活に即した事実を指摘してやり、兵卒の最もよき相談相手たるべく努めねばならぬ。かく様に活動するならば、我々は軍隊内に階級斗争を大衆的に持ち込むことが容易に可能になるであらう。支配階級は軍隊内に「世間の風」が吹き込むことを非常に怖れてそれを防ぐ為に懸心してゐる。故に我々は以上の如き活動を出来得る限り公然と大衆的に、組織的に、計画的に敢行しなければならぬ。今日までに我々は模範兵の歓迎会・入営兵送別会等を開催した経験を持つてゐるが、是等の経験の上に立つて我々は更にこの事の意義をしての「兵卒との定期的連絡」に

[illegible]





[illegible]

……軍の間の積極的活動と入営後に於けるかくの如き活動は、今日まで非常に困難――殆ど不可能とすら――と考へられてゐた軍隊内の活動を比較的容易になし得る。

（四）

最後に共青同盟内の活動について一言する。何処に於ける活動に於てもさうであるが軍隊内に於ては特に我々の同志は一般に兵卒水兵の信頼を得、彼等の間に於ける権威を確保しなければならぬ。……あくまでも兵卒大衆と共にあり其の先頭に立つてゐなければならぬ。……

[illegible]

一九三一・六・二〇・





戦争の危険性の切迫に就て

東京××鉄工所　石部生

（一）

[illegible]



河栄蔵三といふ全口大衆党の代戦士だ。帝口主ギ戦争反対、ソヴエート同盟を守れといふスローガンを口だ幟の上だけで丞の下の何故にさうすべきかといふ根本的問題を説明してゐるのが大山幹部党であり、彼等は本家実際共に決定的に才覚し得ないものであるが故に帝口主ギとソヴエート同盟との根本的矛盾を説明し得ないのだ。左翼は云ふまでもなく「党業自殺会民主」々弁家も共反ソヴエートキャンペーンのチャンピオンである。

政治テーゼが帝口主ギ戦争の危機が今日日程に上されてゐることを指摘し、それが就中反ソヴエート戦争であることを強調してゐる点に我々は全然賛成である。

(二)

然らば来るべき戦争に対して我々共産主ギ者は如何なる態度をとるべきか?我々は戦争一般に反対するか?平和主ギ者は答へる、「然り!」と。我々共産主ギ者は答へる「否!」と。何故にか。

社会民主々ギ者はマルクスの書に於て口際口義的を正当化する。戦争は科学的社会主ギ理論の立場の建設者カール・マルクスが戦争に対しそれを不動的なものと観てゐるかの如く云ふ。一八七〇年の普仏戦争の初めと終に於けるマルクスの態度の変化を戦争に対する…

る。戦争は日本の異った政治であるが以上それはやはり階級的見地から観察されねばならぬ。(私の思に就いては拙試レーニン全集「戦争と社会主ギ」を見よ)。彼等はマルクスの名によつてマルクス主ギの正面を行つてゐるのだ。

繁雑を避ける為に、私は戦後帝口主ギの第三期に於ける問題としてこの事を論じやう。(私はこの問題に関するコミンテルンのテーゼを読みたい。決して引用したいと思ふが直接的な許しはないのでそれが出来ない。従って私は一歩読んだことのあるテーゼを思ひ出すまゝに取入れて行く)この時代の戦争は二つに分けることができる。(一)帝口主ギ口相互間の戦争、(二)ソヴエート同盟に対する帝口主ギ諸口の戦争(三)帝口主ギに反対する植民地民族の革命的解放戦争——これである。

第一の場合に於て吾々は吾自口の敗北・帝口主ギ戦争をプロレタリア独裁に転化する内乱へ!—を掲げねばならぬ。何故ならそれはプロレタリアートが独裁を作し、プロレタリア独裁を樹立してのみ正しい道を歩み得るからである。プロレタリア政府が他口に対して戦争する時、それは正に同時に被抑圧の勢力の獲得であり、労働者農民に対する裏切と革命と解放を意味する。こゝで事は一九一四—一八年以後…



帝口主ギ戦争に於て実証された。英傑日本々の訓練帰口の労働階級の戦争を見よ!…何故に他口の労働階級は協力しなければならぬか。プロレタリアートは自らを解放し得ないといふマルクスの言葉はここでも一層鬼かに出されねばならない。帝口主ギ口際ブルジョアジーに依つて大衆を欺く為に宣伝されてゐる。(新聞「日本」を先頭とする帝口主ギの欺瞞を見よ!)「民主主ギ的」フランスは「ファシスト・イタリー」に対しアメリカは「帝口主ギ」に対し、又、「自由」の中にも自由なレプメキはイギリス大帝口主ギに対し、しくイギリス人は独支那人の生命と自由を奪やかすゞ支那人土匪の襲撃に対しく自衛せねばならぬ等々。そして最後に「世界中の民衆々々の敵!—イギリス、アメリカ、フランス、ポーランド、ルーマニア(そして万世一系の口日本も)等々は「家族の自由の妨害者」等々に対し、—即ちソヴエート同盟に対して自己を防がねばならぬ(「インタナショナル」五月号等々へ)といふ具合に我々はかうしたスローガンの基礎を決定的に粉砕せねばならぬ。

オ二の場合、我々は「自口政府の敗北。ソヴエート同盟の擁護」を我々として叫ばねばならぬ。我々は我々の側に獲得せる軍隊を以て赤衛軍に合体しなければならぬ。我々が手にせる銃剣は日本の支配階級たるブルジョア地主に向けねばならぬ。ソヴエート同盟擁護のスローガンはかくの如き行動を実行する為の行動のスローガンでなければならぬ。

オ三の場合、我々は「植民地民族の帝口主ギ戦争の積極的支持」といふ態度をとる。この戦争が両者にとつて有利に終ることは同時に帝口主ギ口家内の労働者農民の解放の前提となる。何故なら植民地は帝口主ギ者の力を弱めることを意味するのである。

我々は戦争といふものが、階級斗争と全く何等関係のない神秘なものであると考へて居るのは資本主ギ制度が続く限りそれは不可避的であることを労働者及勤労者大衆の広汎なる大衆の間に説明しなければならぬ。軍事部として偽名なる言葉であり、戦争は政治の継続である。(クラウゼヴィッツ(或はクラウゼヴィッツ?)の言葉であり、同志レーニンがこれに依つて常に繰り返された言葉である)この政治の延長(継続?)であるといふ言葉によつてよく理解されると共に広く大衆の間に普遍化されねばならぬ。

我々は戦争の種類を便宜上三つ…

に分けた。戦争に就ては先づこの事の別問題をば以て提出する必要がある。しかし乍ら我々の態度は日本帝口主ギ戦争を内乱へ!ソヴエート同盟擁護を云ふ其に就て何等変るものではない。我々は今日既にこのスローガンの意義をプロレタリア大衆の間に広く宣伝しなければならぬ。何帝口主ギ戦争反対の如き言葉を以上の如き解釈をとり入れて言ひ直すべきである。それなしには恐らくこのスローガンの真の意義が失はれ、従つてつまり全く社会民主々ギ者と同一なものに陥つてしまふであらう。

(三)

政治テーゼの中では過去の戦争と不充分と乍らが言葉にしかも可成よく組織されてゐるにも拘らず、帝口主ギ戦争の切迫してゐることを主義に強調してゐると云ふ態度が欠けてゐるといふことが指摘されてゐない。戦争が切実の問題となつてゐることはあらゆる場合と言はれもし、又書かれてもゐた。だがそれだけでは決して充分ではない。少く共我はさう考へる。我々は来るべき戦争に対して如何に備へるか?の問題に対して我々は決して充分な闘争を与へてゐなかつた。是は実に大きな手落であつた。然らばそれはどんな風に表されてゐたか。

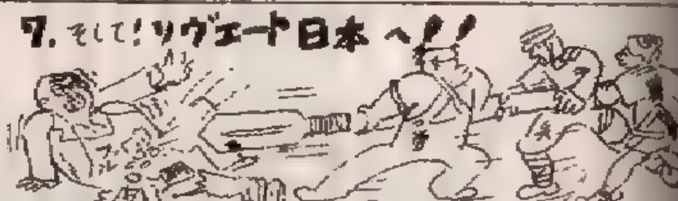
(イ)戦争の問題と云ふことが余りに抽象的にしか取扱はれて居なかつた。

(ロ)ブルジョア地主政府が行ふてゐる日々の帝口主ギ、排外主ギの宣伝に対するバクロが工場・職場の中で一々具体的に行つてゐなかつた。

(ハ)戦争の本質が余り深く大衆に説明されて居なかつた。

(ニ)軍隊内の活動が殆んど全くされておない——一事にして之へば、戦争に反対する為の系統的組織的活動が不充分であつたと云ふことに言ふ。戦争に対する我々の基本的態度が明白になつてゐる以上実に反対する斗争を如何に遂行するかに関する基本的方針も自ら明らかであるが——あらゆる場面を利用して(特に労働者農民大衆の現実的要求を揚げて斗争を組織することに依つて)労働者階級の多数を我々の側に獲得すること——特殊的問題としても我々は尚もう一度戦争問題を採り上げねばならぬ。

例へば陸海軍大演習とか、陸海軍記念日とか云ふ時、或は総動員計画、工場の軍事的管理等々細かい大きな方面へ(敵の手に対して我々は常にバクロして来た。そればその表では正しい。併しそれだけではなく、反軍口主ギの活動方面をもつと/\系統的に組織的に行はねばならぬ。そして、特に軍隊内(兵営・軍艦)の活動の必要



言ふと、重大なることを、そしてその情況に於ける今日までの活動が非常に不完全なることを大いに呼ばねばならぬ。私は以上の点からして、政治テーゼの中にも私があげた意味に於ける不充分を指摘すべきことを提案する。如何にして軍隊内で働くか?その組織形態等についてはこの問題として之を扱ふことにする。

のいふ細胞までの全国を…は先づ事件が…全国的に…の意見を発表…こそは同志…私は…不十分な…政府の政策…党員…私達は…如何なる…党員各自…そこに我々の政治的生活…その…私達はこの大事を要求する…同志諸君!

【附記】我々の同志達は日常の所謂何かの所謂会合にくい。而も同同何々の説明が不充分なと

この度編輯部は早く赤旗編輯部へ送られて来り赤旗第十四号に発表すべきであつたが紙数は非れた問題の性質から本号に廻した。筆者も許せよ!同志諸君!同志石部のこの二つの投書を熱読せよ。同志石部の「火花」への同志達の投稿模範として同志諸君の前に送る。もふ一敵の火花へ!

赤旗編輯部

編輯後記

全口委員から八・一反戦デー特輯号の急速な発行を要求して来たので一号繰り出して本四十五号を以て之に当てることにした。極めて簡易のうちに編輯されたこの特輯号が読者と支持を寄せた同志諸君の期待に充分応じ得たかを怖れる。だが我々は今年の大衆的な八月一日を全口的な大衆斗争を以て斗ひ抜かうとする諸君の決意と用意に対して固き固き握手を送る。

同志諸君!我々は諸君の赤旗に対するより一層の協力を望んで止まぬ。我々は今度の斗争に於ける大衆の斗争に限りなく見られる戦線の拡大とテムポの増大が之を要求するのだ。之を指導せねばならぬ。今度の「火花」は東工場の一同志の素描を以て輝いてゐる。(猶、論文、感想、通信に見つて多くの勝れた書稿があつたが貴紙と時期の関係から全部後まわしにせざるを得なかつたのは残念であつた。諒承をもふ)工場通信、農村通信、軍隊通信、植民地通信等々、同志諸君は果すべき多くの責務を持つてゐる。紙が百度喚起されるよりも一度実行されることが肝心だ。ソヴエート同盟の同志やプラウダを持ちドイツの同志はローテ・ファーネを持つてゐる。我々はこれに見倣はうではないか!八月一日を前にし全口の党員並に赤旗読者で敵者に迫り付かうではないか!全員の諸君の健斗を祈る。

一九三一年七月六日

赤旗編輯部

赤旗
第46号
国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

目次

▼川崎造船所の争議に就て ―― 一頁
▼「土地を農民へ！」のスローガンに就て ―― 三頁
▼アルメニア農民の為に工場労働者を模範としてソヴエート同盟に送る ―― 六頁
▼斗士養成の問題について ―― 七頁
▼工場内細胞の意義について ―― 八頁
▼大阪市委員会の活動は素バラしいぞ！ ―― 九頁
▼鉄の文章
▼特別附録
▼附録――解党派を排撃せよ！ ―― 一〇頁
（附冊）

川崎造船所の争議に就て（一）

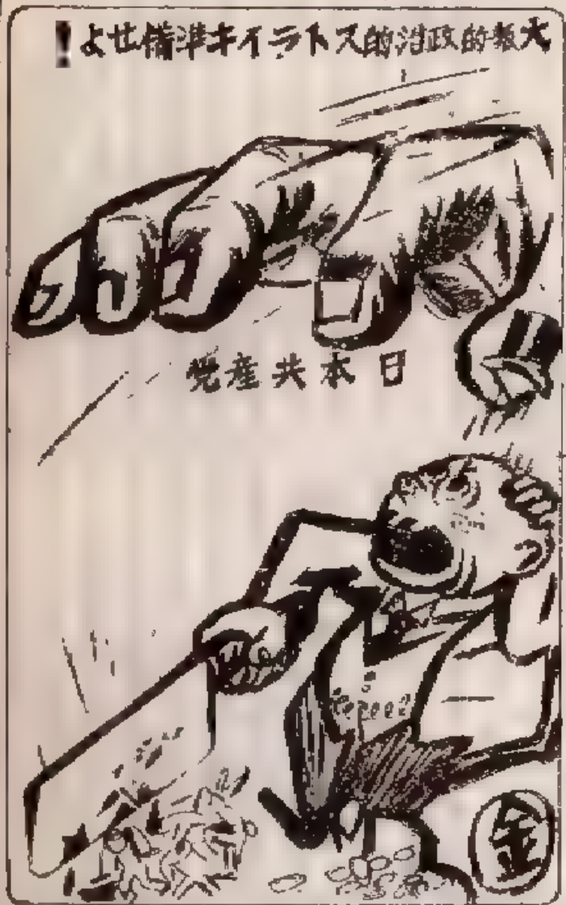
経済恐慌は、直接消費者と多くの場合、直接関係を有する鉄工業界の不振となつて現はれた。就中この恐慌は、それが深刻化すると共に、生産手段を生産する産業方面に必然的に波及する。今回の経済恐慌は正にかくの如き道程を歩んだ。ドイツ、イギリス、等々に於て、そうであつた如く、我日本に於てもかうした途を辿つたのである。

改良主義的組合の反動的指導者共は、口を揃へて叫んだ「経済恐慌の際にストライキをやると失敗に終るから、労働者に不利である。恐慌の時には労資協力して不況打開策を講じなければならぬ」と。しかし、労働者――それから資本家――にとつて不幸なことには、この呪文（へりくつ）なる叫びにも拘らず、労働者大衆は斗争へと起ち上つた。一九二九年に全鉱山産業を捲き込んだストライキの波は、一九三〇年に至つても、その凄じさを減じはしなかつた。それはやりで減なく金属産業の一部、交通産業――特に大都市電車、乗合自動車――を捲き、一九三一年に至り、益々その勢を大にして来てゐる。最近の事実は、一方に於て、改良主義的幹部並に社会民主主義者のいふ「不況時代に於けるストライキの不可能」論を根底から覆すと共に、他方では、労働者大衆の間にある偉大なる革命的エネルギーの発露を示すものである。

事実に於て――欧洲でもアメリカでも、そして日本に於ても――ストライキ、争議は、益々激しく戦つてゐる産業部門に於て著しく、且つ、今日尚、そうである。更は何人も否し得ない厳然たる事実である。吾々は、この事実の中から、（一）更に不景気の時にストライキを組織することは可能なばかりでなく、必要である事を知らねばならず、（二）資本家階級の行ふ産業合理化策、労働者階級の断乎とした抗争によつての外打破され得ないので、労働者大衆が、それに反抗して斗争に立ち上がるを困難くさせられてゐることを知らねばならぬ。

経済恐慌と資本主義的産業合理化に依つて失業へ投げ出された失業者群は、今や、我国では二百五十万と称されてゐる。更等の失業者は、殊に、現日の会に於て救済対策も真面に受けてゐるも永久的産業予備軍である。我日本では、失業者に対する何等の救護法も――如何に制限されてゐるとはいへ、そして、それは更に限られてゐるとは云へ、欧洲諸国にはこうした制度があるが――なく、更に、以前ならば、都市の失業者は帰農して「農業の立ち直る」のを待つこともできたが、今では農村もまた崩壊まで削減であつたのだ。今では、農村に於て小農は、相対的人口過剰になやんでゐるので、そうした「救済策」も望むべきもないのである。「経済恐慌」は、労働問題を更有の都市の[illegible]等に経済恐慌の重荷さを実証するのに外ならぬ。

かくの如き弾圧下に於ける経済斗争は、吾々の態度を[illegible]らうと[illegible]と、更に労働者大衆の利害に当る様賃斗争に対しては直接口段暴力の発動によつて弾圧されてゐる。農村に於ける小作争議で警官との斗争に血を流したといふ例は数へるにいとまなき程の多数に上つてゐる。革命的に行動せる数千の農民は、或は牢獄に、或は警察に拘禁され、最も野蛮な暴力の下にある。都市に於ける労働争議、ストライキで警察との衝突無しに終つたものは殆んど無いと云つて差支へない。争議、ストライキを如何なる組合――総同盟であらうと――を問はず、全口労働組合、全口協議会殊こそあれ、一様に官憲の暴圧に遭つてゐる。総同盟や中間派組合の指導者共が官憲と妥協して労働者の斗争を裏切つてゐることは事実だが、その事は更等の指導下にある組合に対する官憲の弾圧のない事を意味しない。全然の労働者の中の労働者は全口協議会の下に組織されてゐる。全口協議会の組合員又は共産党員への弾圧が加へられてあるといふ事に考へを廻らせ、更に吾々の二者に対する官憲の弾圧が激しいのであり、そこに我の攻撃が集中



されてゐるのではあるまいか。

以上の事柄は、経済的要求を掲げた労働者大衆の斗争が決して単なる経済斗争でなく、非常に多くの政治的性質を帯びてゐることを意味する。支配階級は、労働階級が今や、「恐怖からずんば斗争か」、血みどろの斗ひか然らずば飢かといふ状態に押しつけられてゐることをよく理解してゐる。併し、彼等もまた、一瞬一層の「譲歩」をなし得ない状態にあるのだ。にかかわらして、一方では、決定的に労働階級に斗争することにし、それと同時に、労働者大衆の間に高まり上つて来てゐる反抗心を排外主義の方面へ――第一に反ソヴエート問題、植民地戦争――と導いてゐるのだ。労働者階級中の遅れた者は未だ多くこのブルジョアジーの政策に欺瞞されて、明日の為を目々として受け入れさせられてゐるのだ。

経済恐慌の深刻化、階級斗争の激化、新しい帝国主義戦争の危険性の切迫――こうした時に日本有数の造船所たる神戸川崎造船所で争議が起つてゐるのである。

（二）

川崎造船所が軍需工場であることは周知の事実である。従つて工場側から、労働者に対する全ての攻撃の場合には、他工場よりもつと厳格に口実技能と結びついてそれを行ふのである。先頃三千人の労働者を馘首する場合には三十日間の予告を実施して「軍需工場」とした。今回も亦既に五月末の如き予告ち予告期を伴び寄せて「不穏の行動に出ない様にし、「警察の指令の漏れる」事を防ぐせしめんに警戒をきく張りなかつた。

最初会社側は五月三十日を期して職首を断行せんとした。準備の確定はなかつたと云えて遂に六月十日に定期し、九日には三千名の労働者に向つてそれぞれ解雇通知を出した。

吾々は先にストライキに結びつけるといふ通牒を受けとつてゐないので、斗争状態つてゐるといふ見地からこの問題を論ふ事が出来ない。そこでこの三千名の馘首に対する吾党兵庫地方委員会の活動に関して若干の批判を下すことにする。

兵庫地方委員会は、この問題の重要性を可成り正しく把握した。併し乍らそこに若干の誤謬がある。

第一に、この斗争の意義を、全口的な立場から考慮する場合に、客観的情勢に対する間違つた考へ――それは吾党の政治テーゼと違つてゐる――、及び、主観的条件に対する過大評価である。川崎造船所の大量的馘首に続いて、大小金属工場に於て次々と馘首の嵐が暴露ふであらう事、並に、それと結びついて労働者大衆の反抗斗争が全口的に拡大するであらう事は考へられるが、その事が直ちに革命的危機であるとの考へは間違ひである。革命的危機は、プロレタリアートの大衆的政治的ストライキに依つて喚起されるものであるとしてゐ、それは他の諸条件――支配階級内部の矛盾、農村の階級斗争、即ち小ブルジョアの動揺、口際的情勢及び共産党の大衆的影響――と結合に結び付く時に現はれるものであつて、大衆的政治的ストライキ即ち革命的危機を意味するのではない。川崎造船所に十数年も働いてゐる労働者の可成りの人々が「今度ストライキを始めたら革命が来る」と語り合つてゐる事は、それ等の人々が才木口籠に依つて現在の無消斗争が有つ政治的意義を知つてゐる事を証明させすれ、それとその儘吾党の政治的見解として正しいといふ事にはならぬ。かうした労働者大衆の間にある空想（？）は、意識的に我々に悪用されてゐるのではないか。それに迎合してはならぬ。

第二、兵庫地方委員会は、当局からした事を一つの意とまつた革命の議とした。正しい事は、労働者大衆の顔の中に、かうした考へ方が出ることは悪くないが、かうした考へ方が一つの傾向があつたのである。然るに、同志達は、ストライキの展望に際しては明白な表現を用えてゐるのである。地方委員会が五月末に発表した声明の中には次の如く述べてゐる。「吾々はこうした初歩的な仕事をキツカケとして全市の工場に吾々と同じ様な組織とした工場労働者委員会を作らせ、それを基礎にストライキ委員会を作らせなければならない。何故なら工場の若手の活動を意識する。吾々の代表者会議の目標は吾々の目標ではなしに、大衆動員の形態である。吾々の斗争の目標は大衆的政治的ストライキであり組織である。吾々が闘成しなければ、日本に於て、今日――同盟や

ばない――大衆的政治的ストライキの客観的条件は備つてゐる事を端緒に働つてゐる。川崎造船所の如く一万を越へる大工場、しかも軍需産業部門の大工場を統一的にストライキせしめ、且つ正しく、吾々によつて指導されるならば、この事は全く可能である。それは、若葉の上ではなしに、川崎でせまつた斗争を如何に急速に他工場に波及させ、拡大するかといふ具体的行動によつて可能なのである。そうした場合には、しかしに工場代表者会議といふ大衆動員機関は一方法である。併し乍ら、工場代表者会議の問題は、それによつて統一的斗争指導者の組織を見る様に努力されねばならぬ。労働者の武器――それはストライキ、デモンストレーションである。工代会議を目標とする事は急速に成められばならぬ。

(三)

兵庫県地方委員会はこの斗争をせめあげ当つて党的な準備を行はんとした。プロフインテルン第五回大会の決議を如何に忠実に実行すべきかが活潑に討論された。同志達が事件のあとを追ふのではなくて、前以て準備しておくといふ態度は、吾党の他の地方に於ても兵庫が大きな教訓として取り入れねばならぬ。斗争を如何に具体的に準備するかに就て書かれたもの多くの同志達に読まるものである。

(四)

大正十年夏川崎三菱に「争議」すべき神戸三万の金属労働者がウヲらむのんで蹶起した。今では、全ての情勢が異つてゐる。労働者大衆は自らその指導部を選んで資本家と警察と斗争せんと意気込んでゐる。川崎造船所の労働者諸君によつて組織されてゐる工場新聞「ガンジリ」・「グレン」及び革命的労働者の「イロシアサーブ」によつて作られた職場反対有志会が、代表員大会で斗争指導部を選出しろ、「社会民主々義者の幹部排撃」・「労働・第三者(所謂による争議調停)を叩へてゐることとは全く正しい。

斗争は如何に発展するか?・吾々はまだ予測し得ない。併し、吾党の組織は、この三千名組合反対斗争の先頭に――大衆追り先頭に立つ事、この斗争を通じて、急速に党組織を拡大強化する事、この斗争を成として全口的に斗争を捲き起す事。経済的斗争の政治的意義を完全に理解し、担もつて斗争をより高い政治へ発展さすこと、この斗争を中心として反戦的に貧農小作人層及との堅き結合を謀る事、軍隊内に喰ひ入つて、その革命的性質をバクロする事。吾々であらねばならぬ。ソヴエト同盟事会支持に対する武力干渉と新帝国主義戦争の危険がさし迫つてゐる今日特に軍需工業と戦争との関係について宣伝煽動する事が必要だ。

吾々は、兵庫県下事員会のストライキ対策の全般的に正しいことを承認し、それに若干の意見を加へた。神戸地方の同志達は最近戦線の戦闘化と支配の組織的に準備し斗争を組織してゐる。全口の労働者――特に京浜地方にある――吾々の斗争に対して多くの力を集中しなければならぬ。その為に、神戸地方への多数の派遣、献金の義務者が必要である。併し尚何れの大衆的闘争を持つ様にせねばならぬ。全口統一会の重要会議は工場細胞の名でそれらの仕事を行ふことが絶対に必要であるが、それによりして言葉なことは、この闘争に、労働者階級全体の注意を向けさせ、工場又は全産業的全労働者の者を以つて支援するといふ方針がとられねばならぬ。

七月七日には党中央の同志達に於ける公判が開始される。八月一日は口際反戦デーである。川崎争議を中心とする斗争は、又、この二つの大カンパーニヤ運動と結合されねばならぬ。

同志諸君!起て!起つて斗争を組織せよ!

大衆的政治的ストライキを準備せよ!

『土地を農民へ!』のスローガンに就て

X Y 生

(一)

『土地を農民へ!』

のスローガンは、今日では革命的農民の間では全く所謂の余地がない程正しいものとして受け入れられてゐるやうである。併し乍らその事はこのスローガンの持つ正しい意味を理解してゐる事を必ずしも意味しない。故に吾々はこのスローガンの正しい意味を正しく理解せねばならぬ。

日本共産党

の政治テーゼ草案に示されてゐるこの同題に関する部分に曰く「天皇、大地主、官公有地、寺社領の土地没収、勤労農民への土地分配」と。何故こゝで『没収』と『分配』が並べられてあるのか?・而して重要性はこゝにある。開へば解党派のスローガンに『国地主の土地没収』とあるだけで分配が全口的な問題ではない。又今度合同せんとして居る全口大衆党、労農党の政策には、『土地を農民へ!』とあるだけで没収がない。この二者は何れも片面の水準を抑しかくしてゐるのである。

日本の農業経済

に於ける特徴的なものゝ一つは半封建的生産関係が、高度に発達せる資本主義的工場を有する口に存在してゐる

ことである。農民の過半数は、土地を持たない小作人である。そして小作人の絶対多数は貧農である。此の他、所謂五反百姓の如きものも貧農に属する。日本の農業は土地を全然持たないか、又は少しか持たないことに依つて苦しんでゐる。彼等の殆んど全ては生産器具――たとへそれがどんなに原始的なものであらうとも――を持つてゐる。その点で都市のプロレタリアートとは異る。然し乍ら、彼等は明かに土地から逃げ出す――自分の欲する時には――自由を有する事に於て土地に縛りつけられてゐる農奴とも異る。彼等は農奴よりもより多くの自立性を有する。これは資本主義的工業の発展資本主義の農村への侵入と密接な関係を有する。併し乍ら日本に於ける小作人(問題を簡単にする為に、我々は以下小作人といふ場合、貧農小作人を指すことにする)と地主との関係を、資本家と労働者、又は地主と資本主義的企業家との契約関係――日本の民法を持ち出して、さう云ふ人もあるのだ――だと見ることは全く誤りである。前者は農村に於ける資本主義の発達を外面的にのみ見て居り、土地の私有に関して目をつぶつてゐるものであり、後者はブルジョア民法論者の謬論であり、農村に於ける階級関係を全く見誤るとして見過ない種類であり、そして此の両者は各々相通ずるものを持つてゐる。

解党派の理論

に従へば、我口農村の地代は資本主義的地代、即ち資本家的借地農業者が、平均利潤以上に受取る剰余価値の一超過部分であつて土地の所有に対して地主に支払はれるものである(マルクス主義経済学、ラピドカス著、邦訳三二二頁)とのことである。彼等に於ける借地契約がツラを出してゐるのではないか?ところが現実はさうではない。日本の小作人は平均利潤以上を受け取るどころか、食ふや食はずにぶつてゐる中から小作料の形で地主に搾取されてゐるのだ。彼等は耕作に銀行やずらし地主にとられてゐるのだ。その家族の生存の為に必要な労働賃金すらもなく、これは農業に於ける労働搾取から生ずる所得の一部ではなく、この所得の全部を代表するものとしてそれは地主に依る農民の隷制的労働の占有の一状態にすぎないと所の前資本主義的地代だといふべきである。(前掲同上)日本の農村が資本に於ける如き搾取関係が支配的地位を占めてゐる時に、それでも尚地主はブルジョアだと農民はプロレタリアだと云へるのか?

我々が日本の小作村

然しながら地代として見る時、それが物納であることに注意しなければならぬ。マルクスは、前資本主義的地代の発展の中に三つの段階を区別して、労働地代、物納地代、金納地代をあげた(同上三二三頁)(イ)労働地代といふのは農民が或る時間の一部分は自分に要へられた土地の為に他の一部は地主の為に働く状態である。日本の農業には今日でもかうした状態が存在してゐる所がある。(ロ)物納地代は労働地代の一変形にすぎない。農民は地主に自己の剰余労働を以て直接、生産物で支払ふの貸物を状態に於てするのである。…物納地代は農民により多くの独立性を与へるものである(同上)農民はより以上の生産物を得んとして、地主は物納物を増加する。地主は生産物が多ければ多い程地代を値上げする(それに伴つて地価も上つて行く)(ハ)金納地代は物納地代の新なる状態に外ならないが、口金納地代は、それが交換に結びついてゐる程度に於て前資本主義的地代の解体の状態を示すのである。(同上)日本の農村では何の借地料が金納となつてゐる所が可成りある様だが、併しそれも決して農業経済に於ける支配的地位を占めてゐるとは云へぬ。

無論我々は独立象、麦、繭等蔬菜関係のことを忘れてゐるのではないが断面を機械化しない為に主として米作を中心に問題を論じて行くのである。

我々が他の論文

で明らかにした如く、我口の農村への資本主義の侵入と発達に影響しつゝ尚半封建的関係を主要なものとする理由の一半は実に此処にあると云へる。封建時代から継承した関係と云ふ習慣等については此処で述べる必要はない。

我が口農業

に於ける中心問題が土地問題であることは以上のことからしても知り得るであらう。(ロシア、ドイツと同じ様な土地所有に於てあると云ふのではない。解党派の人々に断つて置く)が故に多数の食ふや食はずで働いてゐるものゝ殆ど全部取上げられてゐるのだ。それらは土地を農民へ!と云ふことは、地主の手から勤労農民へ渡せ!と云ふことを意味する。而して此のスローガンこそ革命的農民を斗争へ導び起たせるのだ。

(二)

所が問題は

「土地を農民へ!」のスローガンを出した丈けでは解決されない。如何にして?と云ふ手段が今度は問題の重要なものとなつて来る。

日本の支配階級

は、日本の農業問題の中心が土地問題であることをよく知つてゐるが故に先年「自作農創定案」を実施した。けれどもそれが「浅瀬に水を」式のものであり、農民救済策であることは、(ブルジョア新聞が公然と認めた様に)今や貧民に対するより以上の負債を与へてゐる上に小作争議によつてバクロされた

又、貴族院の一部

（ドイツと妥協する）では「土地国有論」を唱へたものがある。それに依ると地主の土地を資本家国家が買ひ上げ、その代り、地主に対して一定の利子を支払ふといふのであつた。即ち農民と地主との直接の衝突を、農民と国家との衝突（否、農民の斗争を国家権力で押しつぶす為に）にしやうとした。然し是も物にならなかつた。何故、是等の政策が失敗に終つたか？。斯様な中途半端では農業問題の解決が望まれないからである。地主にも土地を持たない農民にもどちらにも都合のよいと云ふ解決方法はない。況んや貴族家地主が政権を握つてゐる日本で、小作人に都合のい、土地問題の解決を望むことは木によつて魚を求めるの愚に等しい。

我党は前述の如く

天皇、大地主、官公有地、寺社領の土地没収を掲げてゐる。これは現在土地を持たない（又は少ししか持たない）農民が独力で天皇、大地主、官公有地、寺社領を取り上げる事を意味する。地主もブルジョアジーもすゝんで土地を農民へやるとは断じて云はぬ。のみならず、働いてゐる農民に土地の耕作権すら保証し得ないのだ。農民が土地を自由にすることはブルジョアジーにとつても大きな貢献である。日本での土地問題解決の一歩は少数地主の手にある土地を無償没収して、勤労農民に分配することに始まる。而して此の事は農民の革命的斗争なしには行はれない。農業革命の方法以外に土地問題解決の方法はないのである。我党のスローガンはこれに対応するものである。而して「土地を農民へ！」のスローガンは同志水田幸三郎が「マルクス主義」（一九〇九・）で明白に述べた様に以上の意味を端的に表現してゐるのである。我々のいふ「土地を農民へ！」はかう云ふ意味に於てである。

全国大衆党

と労農党との合同党綱領も、解党派の綱領も是等の要求をぼかしてゐる。そこに一寸のゴマカシの大タがある。表面だけでも我党に似せやうと努力しなければ勤労農民大衆の党部分を自己の影響下へ置き得ないからだ。

「土地の没収」(三)

と「土地の国有」との相互関係は如何に解釈さるべきか？。此の問題に対するレーニンの解答は一九〇〇年代の初め、同志レーニンに依つて既に与へられてゐる。共産主義者は「土地国有」を主張する。土地の国有化は生産力の発展の有力な条件である。土地の国有はそれ自体としては未だ社会主義ではない。それはブルジョア的である。しかし、資本主義制度下に於てそれが理論的に可能であることは、少しも実践的に可能であることを意味しない。何故なら、ブルジョアジーは土地の国有、即ち土地私有の廃止することに依つて所有制度全般の基礎を危くする。この二つの事情が土地私有の廃止に対立する。大部分ではないにしても多数の資本家は既に土地を持つてゐるのであつて、彼等は個人的には土地国有に利益を感じないのである。更に又資本主義社会の基本的原則たる生産手段の個人的私有を否定することが恐ろしいのである。年々労働者農民を益々圧迫する大資本は革命勝利の日まで土地私有の維持を地主に保証するのだ。

日本の現状

（前掲書三一八頁）

では、社会主義革命勝利の場合でも急速に全般的に土地国有を布告することは出来ないであらう。我々は農民に対して「土地国有」の必要と効果とを強力的に宣伝しなければならぬ。我々が広汎なる貧農小農及び中農の一部分をも含む農民大衆を我党の側に獲得し、農業革命の成功的発展——それは都市に於ける社会主義革命勝利の必須的条件である——を望む限り、我々は現状に於ては「土地の没収、土地を勤労農民へ！」のスローガンを掲げねばならぬ。

農民は一般的には

ブルジョア的観念の保持者である。我々は此のことを明白に知らねばならぬ。彼等に対しては特に親切な説明と実例とを以て説かねばならぬ。我々にとつて大きな事はソヴエート同盟の農村に於ける社会主義化の成功のあることだ。日本の農民に革命的行動の必要を説明し、社会主義が勤労農民にもたらす幸福を語るとき、我々はソヴエート同盟に於ける成功を最大限に取り入れねばならぬ。

執拗な、だが親切な

誠実な我々の活動が、農村プロレタリアートと勤労農民大衆の間で行はれる時、農民の革命的な斗争の先頭に我々が立ち、都市プロレタリアートとの緊密な戦闘的同盟が結ばれてゐる時、我国の広汎な農民大衆は自己を地主・資本家側からの搾取と圧制から解放されずにゐないであらう。そしてこのことは土地のプロレタリア国有化を比較的急速に——勤労農民の深い理解と支持の下に——行ひ得るであらう

（附記、筆者は農業農民問題に関する先輩同志の貴重な文献を一つも参考にする自由を持たなかつたので充分に精確な表現をなし得なかつたことを非常に遺憾に思ふ。農業農民問題を専攻してゐる同志諸君の批判を請ふ）

アルメニア震災のために 工場労働者を使節として ソヴエート同盟に送る

工場労働者は代表を大衆的に選挙せよ！

全国の工場労働者諸君！

ソヴエート同盟の南部、アルメニアを中心とする諸地方はメーデーを前にする四月二十七日突如として未曾有の大震災に襲はれた。これが為十数万の同志達は或は死傷し、或は家屋を失ひ、一様に寒気と飢餓の悲惨に陥れられた。

諸君はこれを逸早く我党及び第二無産者新聞の指導に依つて知り率先して救援募金労農のカンパニアに応じた。諸君は又自ら進んで全ソヴエート同盟の同志に慰問と激励の手紙を送つた。それだけではない。更に進んで諸君はソヴエート同盟への代表の派遣を要求した。ソヴエート同盟への使節の派遣！ソヴエート同盟を知れ！ソヴエート同盟の同志達とガツチリ腕を組め！この声は既に諸君全工場労働者の叫びとなつて来た！同志諸君！我々は感激を以てこれを迎へる。諸君は我党と完全に一致してゐる。

全国の工場労働者諸君！

我党は茲に我党並に諸君の意志を継続させる為めに今最大の喜びを以て工場労働者を代表としてソヴエート同盟に派遣することを提議する。そして我々は諸君の代表が一日も早く輝かしきソヴエートの国に乗り親愛なるアルメニア及び全ソヴエート同盟の同志に全日本の工場労働者の衷心よりの慰問を伝へる事を望む。同時に又諸君の代表が社会主義建設の偉大な事業を見学し世界中で最も恵まれた労働者の生活に接触してその報告を手に取る如く生々と全日本の労働者にもたらす事を希望する。

全国の工場労働者諸君！

かつて専制君主が支配し少数の搾取者と貴族が虐殺されたアルメニアで、今は大衆的な全ソヴエートの組織に参加する事を喜ぶ一人の搾取者も居ない。五ケ年計画は巨大な社会主義の建築物を打建てた。草原には多数のトラクターが運転し、広大な共営農場は搾取者たる富農の存在を許さない。最高の技術を誇る工業都市は労働と喜びに充満し、最早一人の失業者も見つける事が出来なくなつた。一億六千万の同志は今健康と喜びと確信に包まれて世界プロレタリアートの唯一の祖国を建設してゐる。

同志諸君！我々は諸君と共に祖国に対する限りない感謝を以て代表を送り、又祖国の指導を仰ぐものである。

全国の工場労働者諸君！

代表派遣の好機に際会して我党は今一つ、最も重大な使命が課せられてあらう事を確信する。諸君の代表は必ずや対ソヴエート武力干渉の重圧たる日本帝国主義に対する斗争に於て、日本プロレタリアートの中の解放戦に於てソヴエートの全勤労者民衆の強力な援助を与へるであらう

同志諸君！日本帝国主義による武力的干渉の準備は日本プロレタリアートを挑発して押進められてゐる。一日も早くからソヴエート同盟の国境へ向つて鉄道を延長し軍隊と武器を輸送してゐる。最近の我党首脳部の人事移動は満蒙の軍事的支配を強化して斗争の準備を強化するものであり、朝鮮への師団移駐もその露骨な現れの一つである。今春同志アーケーブの独断によつて全国された帝国主義日本のガムシヤラな軍備拡張として一貫をなすソヴエート同盟の平和政策と日本並に全世界プロレタリアートによる厳重な監視と抗議によつて遂く阻止されたが、而も我々は近き将来に於てか、る攻撃が再び開始されない事を保証し得ない。我々は只全力を挙げてか、る危険の阻止に努め得るのみだ。そしてか、る危険を完全に打止し、日本の帝国主義ブルジョアジーに対する斗争に勝利する為にはソヴエート同盟の同志達と固く結合しなければならぬのだ。同志諸君！諸君の代表は日本プロレタリアートの最も輝かしき使命を帯びてソヴエート同盟に渡る！

全国の工場労働者諸君！

八月一日が目前に迫つて来た！諸君はこの日の斗争を全力を以て用意してゐる。そして全国の諸君の工場では今、帝国主義戦争、反ソヴエート干渉戦争絶対反対！ソヴエート同盟擁護！が叫ばれてゐる。

全国の工場労働者諸君！

諸君は今こそ立つて直ちに派遣代表の選挙を開始しなければならぬ！工場労働者は一人も残らず選挙斗争を斗へ！そして最も信頼し得る同志を各工場に於て選挙せよ！各工場に於て代表選挙の社会主義競争を起せ！更に地区、地方並に全国的選挙委員会を結成して全国的な統合と統一による斗争を遂行せよ！

国際赤色デーの前の全ての斗争を選挙斗争によつて斗へ！

ソヴエート同盟派遣代表選挙の全国的斗争万才！

代表派遣によつてソヴエート同盟の同志達とガツチリ腕をくめ！

ソヴエート同盟に於ける社会主義建設万才！赤軍、拡大強化万才！

全日本の工場労働者革命的斗争万才！

全国協議会万才！

日本共産党万才！

一九三一年七月廿日　日本共産党

斗士養成の問題に就て

斗士養成の問題は、前衛党に於ても、全口協議会に於ても実に最急の急務である。ドイツ、フランス、イギリス、アメリカ等々の諸共産党に於ても斗士養成問題は重要であるが、我口共産党に於けるこの問題は他の諸口のそれに比して比べものにならぬ程重要である。何故ならば我々は僅に一千有余名の同志を単級に書は引て居り、党員でなくとも、ビラ一枚を撒いたとなふだけで投獄される状態にあるので、少し積極的に斗争するものは、一寸した戦術上の不味さを持つてゐるといふ丈けで敵手にさらはれるといふ有様だからである。我々に斗士の養成問題が重要であるのは、党の拡大強化が重要であると同じ程度である。

第一に、此の問題の解決に当つて注目すべきは、労働者斗士の養成である。労働者の中には偉大なる創造性が潜められてゐる。支配階級が警戒かつ恐怖を叫んだにも拘らず、我党が最高として存在してゐることの事実は、何党派の労働者共が如何なる逆宣伝を飛ばそうとも、正に、この労働者大衆の胸にある偉大なる革命的創造性に依るものである。我々が若し正しい方針を採るならば　斗士養成問題は　少く共　今日より数倍の速さで解決の途上をハク進し得るのである。

斗士養成は　言ふまでもなく、[illegible]を作ることではない。[illegible]読みを貢献することでもない。労働者大衆の要求をまとめて、その下に大衆を組織し、動員すること。そして、その要求を日本プロレタリアートの、革命では全プロレタリアートの終局的目標と巧に結合させ得る階級斗争の実践的指導者を作ることを意味する。我々は本質パンフレットで工場細胞とは何か[illegible]、工場内にある党員の政治的統一、党組織全体の政治的生活の重要性を強調し[illegible]から出発したからである。組織全体が政治的に生きること、党組織のすべての決定が真く、党員大衆に依つて認識され、理解され、実行されて行つてこそ、そこに党の政治生活がある。この政治生活の中で鍛錬することが斗士を養成することである。理論と実践の統一は、かくの如き政治生活に於てのみ可能である。

我々同志達は言ふ「忙しくて本もロク／＼読めない」と。是は或程度に於て正しい。併し我々共産主義者は出来る丈けの時間を作つてマルクス主義、レーニン主義の理論的研究を為つてはならぬ。是等の同志達の多くは――全てではない――自分独りで、何もかもやつて仕舞はふとしてゐるのではなからうか？人が足りない、仕方が無いから自分で七人前十人前をやつてのけるといふ調子で。この意気、この活動振りは全くいゝ。だが是等の同志達は、そのいゝ所を他の同志達に分け与へ様としないのであらうか？「あれはまだ新米だ」といふので何時までも全つても仕事を与へないといふことは余りに大事を取り過ぎて、下から新しい闘士を引き上げることを自ら拒んでゐるのではあるまいか？

我々は階級斗争の実践で如何に最も労ぶ斗士を作つて[illegible]を過去の了史上にのみ見るべきではない。現在も亦、そうであることを党員は理解しなければならぬ。一つの実例をあげ様。一千五百名級の職ある大企業――少く共その地方に於ては――で我々の同志達は僅に三名位であつた。しかも、それらの人々は所謂「外からの人」の指導下に於いてゐた。仕事は遅々として進まない。この三人の同志ですらどうやつていゝのか分らないといふ様な状態にあつた。我等は自分の創意性を発揮する代りに「外からの」指導者の一つ一つの指揮を待つてゐたのだつた。この「外からの」同志は[illegible]の仕事があるので、この会議のことばかり考へて帰らねばならなかつたので、中の人々からの大きな信頼と尊敬を受けてゐたけれども、仕事は中々ウマク行かなかつた。そこでこのオルガナイザーは、中に居る三人に、我等が独立的に企業内の政策を立て、思ひ切つて仕事が出来る様にやつて見ようと決心してこのことを三人に申渡した。所が三人の同志達は、最初尻込みした。だが一度、自分等に全責任が党の名に於て負はされてゐることを理解すると共に、積極的に[illegible]し、あらん限りの精力をかたむけて仕事に没頭した。言ふまでもなく、オルグはその後も親切な補助者であつた。「少し無理かも知れない」が――と云ふ最初の懸念は何時の間にか、何処かへ飛んでしまつた。仕事はウマク行つた。かくて、三、四ケ月の後、その企業には党の細胞が確立された。労働者であり、仕事の中から職場代表には、彼等の能力が十二分に発揮出来る様にし向けなければならぬ。口先だけで、イニシアチーヴを出しても、実践的にそうした条件を作つてやらないでは、これは日和見主義だ。

斗士養成と労働者党員大衆の中にある創意性の発揮とは、かくて密接に結ばれてゐる。組織的にある同志達に一定の仕事を与へ各自に責任を持たせて活動させることをして、各自の面で、又は各細胞の面で社会主義競争を行ふことを等ば斗士養成問題解決に大きな力となるであらうし、又ならなければならぬ。

指導、同志を提供する丈けに止めてをくが、同志諸君はこの問題の重要性を理解し、此の問題解決のよき方法を、相互的に教へ合はれんことを希望する。



★工場内出版物の交換に就て★

党員並に革命的労働者諸君！

工場新聞その他工場内の出版物を交換することが如何に必要であるかに就ては諸君は熟知してゐる筈だ。よその工場ではどんな問題を捕へてどんな活動を細胞がやつてゐるかを知ることは自分の属する細胞を拡大し強化して行くために絶対に必要なのだ。

そのためには事情の許す限り細胞代表者会議などを開いて、経験を批判し合ひ、その基礎の上に新しい方針の樹てらるべきだ。だがそれだけでは満足出来ない。何故なら全メムバーがそれに参加することは困難だからである。

そこで全メムバーに経験を知らせ、他工場を犯した誤謬、教訓を再び繰り返すことなく、又他工場での成功を自分の工場に移すこと、即ち他工場の同志達の実践から学ぶことが絶対に必要だ。

さうすることの一つの方法として、工場内出版物を交換することは非常に有益なことだ。絶対にやらねばならぬことだ。その出版物は、どういふ経路の下に出されても、どんな官憲又は反動的あつたものを知ることは我が細胞のメムバーの武器ともなるのだ。

可能な限り変化にふさわしい機会の運動を正しく発展させ、党を大衆化せしめるに大いに役立つのだ。併かし書き取[illegible]の上に注意すべきことは、かかる細胞で他の工場の出版物を買ふことを怠んではならない[illegible]、自分の工場の出版物を他工場の同志達に届けることをいつでも忘つてゐる場合が多い。

工場新聞に例を採れば同じことだが他工場の新聞を見ればしがつてゐるくせに、自分達で出してゐる新聞を他工場の同志達に見せることには余り注意して居らない。工場や企業部隊に届けるだけで足りないのだ。[illegible]一部宛を届けるにしても五十部位は必要なのだ。現在ばその中で十以上の工場から新聞が発行されてゐるし、近く更に[illegible]の細胞機関が必要な[illegible]工場新聞が発行されればんだからうかく[illegible]とも五十部位は交換用と上部機関への提出用として余分に出版する様に心がけ、実行せねばならぬ。どんなに少くとも五十部は届けて来るやうに注意し実践しろ！

他工場の出版物を買つた細胞、全部諸君や、筆写を貰ふつぱなしにしないで、それ等の出版物を討議して細胞としての意見を、その文書を出版せる細胞へ工場内部に提出すると（？）、積極的にする様にして実践しなければならない。それは党員に革命的労働者の重要な武器なのだ。

是れは此争、吾々の属する工場細胞を拡大強化することだ。有効に役立つのだ。全党員共に革命的労働者諸君を以て回答しろ！

経験の大衆化を通じて細胞を確立し拡大強化せよ！

細胞を基礎に党を大衆化しろ！

大阪市委員会の活動はスバラしいぞ！

吾々は大阪市委員会のこの決定を、各市、地区、委員会が、各々の市・地区に於て直ちに実行する様にするのを感じたので、これを赤旗に掲載して全国の同志に送る。然しこれのみが唯一の方法でないことを注意しておく。我々の技術その他の理由から省略した部分がある。だからこの決定を全国的範囲にまで拡めることは出来ない。又各市、各地区としても、その各地区内にもっともっと細胞が増加した場合には、その時にはこの決定の実行、即ち各工場の細胞が工場新聞の出版を実施することは、困難となり、不可能となるかも知れない。から各市、各地区の委員会が代表的なものを選んで実施する。それには必ず参加者批判をまとめるといふ方法が採用さるべきだ。党中央部を始め細胞に至る党の政治的並びに組織的生活について常に全体的見地から批判して来た。それ故に止むを得ないのではない。党中央委員会は細胞をまとめる場合に

は工場新聞の代表的なものを赤旗に掲載として再録し、全国の同志の研究と批判と社会主義的競争のための資料にする方針が決定されてゐる。その際、

中央部のボルセヴィキ的批判が付加されることは勿論だ。党中央部がくりかへしくりかへし要求したところの、工場の政治的並びに組織的生活の反映を、赤旗の紙面に、鉄の火花の観察、意見並びに参加者が集まって、有力な報告が掲載される事を党が求めるのだ。

これは一大前進である。党、並に赤旗は中央部だけの党、赤旗では無く、党員全体の、革命的プロレタリアート全体の党であり、赤旗である。現にさうなりつゝある！！又、さうしなければならぬ！

一九三一・六・一四
日本共産党大阪市委員会組織部

赤旗編輯部

国際赤色デーを前にして
闘争基金の募集を提議す！

全国の労働者農民兵士諸君！

国際赤色デーが目前に迫った。

今年の八月一日程日本プロレタリアートに対して果敢な英雄的闘争が要求されてゐる時はない。我々は此の日諸君の先頭に立って進み、街頭を占領して日本プロレタリアートの意志を、階級同胞を救援し、ソヴエート同盟を擁護する戦争には絶対反対だと云ふ断乎たる意志を、支那及植民地の民衆や日本に向って示威する。我々は今から重大な任務の前に一切の斗争を準備してゐる。

全国の労働者農民、兵士諸君！

吾党は今こゝに国際赤色デーのための斗争基金の募集を提議する。吾党は重大な斗争を前にして断乎的関係の中にある事を認め、遂行とする、と同時に全国の同志諸君の助力によって一日も早くこれを完遂すべく、諸君から熱い援助を望み、之を吾党に対する諸君の信頼の印として待ってゐる。我々は諸君のなけなしの一銭二銭を歓迎し、之を吾党に対する諸君の信頼の印として尊重する。それ吾党は基金募集の一つのカムパーニアとして、工場の労働者、兵営内の兵士と集会及び会議に於て諸君の斗争の根に交叉する事を要求するものである。

全国の労働者、農民、兵士諸君！

吾党は恒に諸君と共にある。諸君が搾取に苦しむ時、諸君の斗争し赤旗する時、そこには諸君と共に常に我々が立った。そして資本家と地主、権力に対する諸君の戦闘を代表し、彼等に対する諸君の憤激と斗争の先頭に立った。同志諸君！諸君が吾党と共にある時諸君は既に勝利への道に立ってゐる。

全国の労働者農民兵士諸君！日本共産党を支持せよ！日本共産党の指導の下に諸君の英雄的斗争によって国際赤色デーを記念せよ！

日本共産党の拡大強化万歳！





鉄の火花

反革命家になったトロッキーの提灯持ち

——青野季吉の忠実ぶり——

O.P.Q生

ドセリと、酒呑みと、オレてもう一ツ——最も重要なものは何か——裏切りとで一時有名になってゐた青野季吉なる文戦の親玉、種蒔時で皺がどうかしたのか、イライラした気持で読売新聞紙上に四人見者映射しなどと書いた。

彼が裏切者トロッキーの自叙伝をヒロめたのは、同志レーニンや同志スターリンを攻撃する為であったことは明白だ。『マルクス科学』四月号に同志ノヴィコフの論文を見よ）、彼は反トロッキーを呼ぶ。トロッキーも勿論来る子口で青野の如き枝ガキ者を得てさぞ心強い事だらう。

彼、青野は読売紙上で同志スターリンの悪口——といってもトロッキー派の受売りにすぎないが——を書いて曰く「スターリンはマルクスの『資本論』とレーニンの本より外に読んだ事がないのだ」と。然しで青野は何故もっと深めの本を読んでゐるんだ。スターリンは明なる見識を博識とさへよめばよいと考へる程馬鹿である。そんな悪口なら青野からもう一つ教へてやらう。彼の本棚にあるトロッキー派は知ってゐた。同スターリンはブルジョアの言葉とロシア語以外は知らないんだ。だが、エンゲルスが偉大なのは十六ケ国語を話し得たからだと考へる程馬鹿だ。同志レーニンが、同志スターリンに関する批評をした程の道者を尊しておる。同スターリンは彼野や不徹底で見当違の批判から出した様な活用しかない。見もトロッキーの真似だ。だが彼はソヴエート同盟共産党第十五回大会で党の問題が審議され、大会では満場一致を以て同志スターリン派同盟共産党の中央委員タレタリーに指示された事を忘れてゐる。そして此の大会でトロッキー一派が共産主義的な説として除名された事、トロッキー派はロシア外へ追放された事を知らない。トロッキー一派は

彼の意図は明らかだ。同志スターリンに対する日本労働者の信頼を失くしようといふのだ。何故か？彼の為に？言ふまでもなく日本のブルジョア地主の為だ。同志レーニンが死んでゐる時、世界のブルジョアジーはその手先を使って、同志レーニンの名に於てソヴエートロシアを攻撃した。同志レーニンはブルジョア新聞の工作は何も度も死んである。同志レーニンの後継、敵等がソヴエート同盟を攻撃する時には同スターリンの独裁に反対するといってゐる。一切の敵が、同志スターリンに向って、私会主義ソヴエート同盟を攻撃してゐるのだ。彼等の言ひ分はかうだ。「プロレタリア独裁は共産党独裁だ。共産党独裁はスターリン独裁だ」と。

政治的方針の下に共産党の大会が一致したスターリンと勤労農民大衆に従って進へされた行動が行はれてゐるのだ！共産党から追放した青野に対し、共産党を理解し得ないのだ。やイグイグ反革命家トロッキーの提灯持ちをしてゐるがいゝだらう。だが日本のプロレタリアートはふみにじってプロレタリア革命へと進むのだ。

★

★

『工場新聞について』に対する意見

××新消工場細胞 X子

工場新聞について、四十二号の赤旗の火花欄で問題にされて居る所の現在の我々の当面の条件はどうかと云ふと、我々の工場に於ける党は非常に弱い。多くの工場は数名足らずの細胞員だ。工場内の上から下までの全部の仕事をやつてゐる様な具合だ。党の工場新聞、全ての工場新聞（全会ニユース）及、モップル等のニユースを出しておる所でもそれ等の仕事は全部二三名数名の細胞員がやつておるのだ。[illegible]

[illegible]

◇——第四〇号を読む——

××××

A 解党派の新たなる進出を粉砕せよ！

[illegible]

[illegible]

B 革命的自己批判万才！

[illegible]

C 僕は派から党へ[illegible]

[illegible]

赤旗を大衆的に配布せよ！

第二無新社員 ××

[illegible]





だがこの正しき方針がとられ我々具体的に進められておるだらうか？かう考へるとき・この正しい方針はまだまだ実現されておない、と大眼にみとめなければならないことを残念に思ふのだ。

先づ・その理由を述べよう。

俺は去る五月二十六日才〇号赤旗と四〇号を或る同志からもらつた。そして家へ帰つてもさばえやうにこれを読んだのだ。獄中から獄中にだされて〜年余連絡がつかず、どうにかして連絡を付け、俺達の党の拡大強化のために努力しようと懐かではあつたが努力して来た。その要求あつて今の仕事を与へられた。それ以来、失敗もし、誤りも犯して来た。また或るときは非常に於て日和見的なこともやつて来た。それにも拘らず、俺は戦略一貫、日本共産党の拡大強化のために身を以て斗つて来たし、今も斗つてゐる。そのために俺は全見通を献げてさへゐる。

第八、三九号を同志と共に読み、四〇号を手にした俺は元気百万倍し、党の大衆化の具体的な現れを喜ばずにはゐられなかつた。だがその后・共同紙は入手出来ない。聞く所によれば もう四三号が発行されてゐるさうだ。実に久バチしいと喜び又面に 共同紙が入手出来ないことを淋しく思つてゐる。

或る同志に何故共同紙をくれないのか？と聞いた。その同志は部数が少いからやられぬと平気で答へてゐる。

白色テロと殺人法せ通行されてある現在の情勢下にあつて党は我々の革命途を危険なくされて居り、共同紙の印刷・獲得の自由は也全にない。従つて共同紙は原始的な方法（手刷——謄写版）で印刷され、発行されておるやうに知へて財政的困難と斗つてをる。かく考へると共同紙発行部数の少いのは止むを得ないことである。と一応はうなづけることだ。だが我々が政治的影響と組織的確保との主要な態度にある現在 殊に階級の峠中にある日本の革命的労働者はこの危機を政治的危機に急速にもち込まねばならぬ。そのためには共の条件は党の政治的影響と組織上の成果をうめると共に革命共産党を真に労働者の大衆党としなければならないのだ。それは直接党に加入しておない俺達労働者にとつても重要な任務である。

殊に俺達最新に働いておる同志すわ、各重要な任務を八ッキリおみこんでかへられた部署をすつて行かなければならない。この考へのもとに俺は今働いておる。

この任務をハッキリさせて行く——与へられた部署を——党こそ共産主義者であり、党員としての重要さがまだ欠けてゐると思ふ。党員として、共産党の員の持補者として組織され、獄の規律と訓練を与へられることによつて其の責務を斗ひとり得られるのだ。或る党員がいる党籍さへ捕へておる！者さへ多く書いておることを思ば大衆に働かぬのだ。

けれども・今共産主義分子は・我々組して党へ組織されてゐるか、と云へば共同紙を活発に賣つてゐるかと云へば決してさうではない。その反対でさへある。これはどうした訳か？これは党組織部の方針として一致するか！否だ！

党組織部は一〇パーセント主義を捨て一九二七年以来の党が大衆化への道をとることによつて、躍進的になることを執へ、現在までも獄中に於ける大衆の主要に党が一時的にせよ拡大したのに、まだ発の余りに小さすぎたのだと叫へてゐる。そして党を守るた組織選挙に重しく——セクト主義の長い伝統に煩はされて不さく縮こまることなく反対に革命的労働者大衆に広汎に組織することだ。党を拡大することだ。これこそ党の正しき方針である。

党は速かに正しき政治的賃籌に関する——方針を発表した。そして方針に基いて四隊大衆反対斗争デーメーデーカムパニアに、遅くは満州事変反対斗争に正しき方針を全労働者、農民の前に示した。

この政治的方針が組織的方針——党組織上の——とピッタリ結びつくとき党は急速に大衆党としての光輝ある道へ進むことが出来るのだ。





だが、この政治的方針を示す時なく党はまだ〜に遅れて現状未加入の革命的労働者を党へ加入させることで〜主義党へ加入出来ない者に共同紙を頒布し、共同紙を通して党へ組織し——無論斗争はその組織は遺憾外だ——これを更にヨリ積極的に活動させることである。かくした時に党の政治的影響と組織的確保の主要は現の下にすることが出来る。この革命的分子のすには直接工場に労働組合内に働いて居らず、目に見えぬ所与へ〜か？これらの同志達はさな仕事をやつてゐる者が四ヶ月にで斗ひ抜く事を望んでゐる。早ずれも既製派を惑れず、党員として直接指くことを望んでゐる。今党に直接加入出来ないればせめて共同紙獲得を望んでゐる。けれどもこれらの同志達の〜党組織部の方針が粉砕されてゐた、同巨つ党へ近づかうとして近づけずにおるのである。この不参加を党は意識に意識しなければならない。これらの同志等を一時も早く獲得の上共同紙を配布し、党に組織し直接教養しなければならない。あくすることに依つてのみ党がそれらの同志等のエネルギーは可能も有効に発揮することが出来るのだ。俺はこれらの闘ひたい者等散に労れに足踏みをさせてゐる。と共に口で何ダを宣伝してある右えつて実際に組織し・セクト主義に落ち込んでゐる。

党の大衆化（ボルセヴィキ化）は党外にあるセクト主義を清算の一片までもオナクリ捨てる事だ。俺達は牢獄も死刑をも恐れぬ。唯プロレタリアの勝利を望み、そのために先輩ある日本共産党の党員となることを望んでゐる。俺達は今党に身を献しのべておる。然し、工場に働いてゐないが故に彼らに党員となることが出来ず・エネルギーの一部分を貴消してゐる。

俺は大阪に実咏する。日本共産党のボルセヴィキ化、党員一万人獲得は共同紙赤旗の大衆的配布からと。そして同時組織に行いてゐる革命的同志等を即時党員にせよ、と。若し俺達にその資格が欠けてゐたら厳格に鍛へて呉れ。俺達は共産主義者だ。だから その誤りも、又実は即時克服するであらう。

共同紙「赤旗」を大衆的に配布せよ！

最新並に労働組合内の革命的労働者を即時党員に採用せよ！

党員一万人獲得カムパニアを具体的に示せ！

最后の一片までもセクト主義を克服せよ！

日本共産党のボルセヴィキ化万才！

これこそ俺達の痛切な要求であり・叫びである。

赤旗第四一号に関する 質問と感想

—××× X—

（一）○○○○○○○○○○○○。大衆は右へ〜いておる！

千条兵器製造所の事件については以前ある同志から聞かされたことがあるがその時はあの事件を大衆的法廷への抗議の一時として聞いた。即ち会社のブルジョア〜が千条兵器製造所の労働者を大衆的につかんだ一例として「しめつけ」た一例として。

然し乍ら赤旗四一号に掲げられたこの論文から見ると趣が異ふ。既存の改良主義的労働組合が労働者大衆の要求を裏切て斗争し得ないと云ふことを具体的に知つた革命的労働者が自ら戦斗的労働組合を組織しようとした、而も〜最著の諸要求は全〜会の方針に消ふて活動をやることが最も正しいと考へたのであるが、だからこの論文は〜全協の指導がなくても労働者大衆が改良主義的労働組合の方針に反対して自ら戦斗的労働組合を組織し職とする場合にも全協の方針に添ふてやることが正しいことを立証すると云ふこと、即ち、全協のみが唯一の赤色労働組合であることを首ら千様んと徹ずる労働者大衆は如何に多いかを示ふことを主張してゐるものだと考へた。而して千条兵器製造所に於ける全協組織までは白色テロルの正当化のためのものである。

かうした事件はすべて党・全協の方針の大衆化を物語つてゐるものだと思ふ。

（二）、○○○○○○○○○○○○○

ソヴエート・ロシアに対するあらゆる毛でカギーは一の嘘い文章を続んだぐも・くつがへされてしまふたらう。如と云ふべきすばらしい集団生活だらう。

資本主義世界の恐慌の激化は、相異る二つの体系への（資本主義体系と社会主義体系）全世界経済体系の分展である。

事々は一層争を大にしてソヴエート・ロシアに於ける社会主義的建設の発展を大衆に説明せねばならぬ。と同時にどんな大きな犠牲がそのために——プロレタリア独裁のために——払はれたか、又革命の当時払ひし生命の時代がどんな時代であるか、どうすれもが最も大切なことなのか、唯一人一人の大衆に会うせねばならぬ。

（三）○○○○○○○○○○○○！

プロ隊プロレタリアートの建設はを実質的に示し〜





の斗争に異常な熱意を見えた。全くアメリカ共産党はめくらも政治的に優れてゐる。かくも国際主義に徹底してゐる！もつとこの記事が詳細に報導されてあつたらよいのにと思つた。

アメリカ共産党万才！

（四）党を以て組織を守れ！

件のことは吾々にとつて実に模範的なことであると思ふ。吾々は不幸にして敵の手に捕へられた場合に吾々の態度をコミンテルン日本支部日本共産党の態度として持せねばならぬ。日常の行動に於ては勿論だ。

僕は未だやられた経験が少い。ぜからイザとなつたらどうなろうかと云ふかすかな不安が常にある。然し、かうした不安は日常の行動をより一層規律あるものたらしめることによつて一層決意を強く[illegible]以外で党を防衛する方法はない。

[illegible]へやられたにせよ決して党の名を漏すやうなことはしまいと誓ふ。党の規律は日常斗争の中に日々の仕事の中に鍛へられるものだと云ふことを切に感じてゐる。

二、報告

印刷局P班

六十四日、集会を持ち、赤旗才四四号の討論をやつた。

一、技術上の自己批判。

二、所属に関する討議。

所要時間、五時間半。その結果を茲に報告する。（但し、技術上の批判は[illegible]に渉るから省略する。

（印刷部一般に関して）

（政治テーゼや決議に対しては我々一般的にしてやることにした。）

★メーデーの教訓‖三一年度のメーデーは未曾有の盛況にある日本共産[illegible]の実現の日として、特に日本の[illegible]の[illegible]。ロアイタンオ五回決議の[illegible]実行されたかを示す日として[illegible]を持つてゐる。此の批判は政治的見地から為した批判として全く正しいものと思ふ。特にデナーキストのバクロしたのは実によかつた。唯、付け加へて欲しかつたのは、メーデー参加者の数——検挙の数も参加者、失業者、反戦デー上の広戦——である。又メーデー当日の示モに対する技術的な批判もやつて欲しかつた。

★新番口主義戦争の危険と斗へ！‖不景気にも拘らず軍需工業（金属・化学の）だけは大繁盛だ。植民地は軍人と外交家を固めし戦争は疑ひもなく目前に迫つてゐる。結連は一般的に戦争の準備をすすめ口にするだけではなく、兵士に対する働きかけを強化し、軍隊内の[illegible]

★失業者問題‖組織に関する一つの誤謬に付いて‖これに対して累論はなかつたが、最新号十九号で同志外村が日共業会と同一の如き失業者問題に至つてはいいよう理解出来ない。凡とえつてゐるが之等一切の混乱は何等本質的に意見が対立するものではなくて単に名称の感違ひである。同志外村の失業者同盟と同じことを云つてゐるのだ。同志外村は一九三〇年秋の急使から我に失業者組織の古野書を思ないのではなからうか？

★四十五号の書き方に付いて‖論文に「意味に系字がよい」とあるが、意は紙面の風をよく吟味しないと往々にしてハッキリ分らないことがあるからよく注意しなければならない。この論文はよく当面党（？）な技術的な問題を取り扱つてゐるが更に紙面・紙幣の主張、行動隊の組織技術等の立場の交換をも

★批判の仕方について‖注意‖断然要求なし。直すに実行する。組し、実行する迄が自分に判らない時は批判をやつてはいけないものであるか？

★「鉄の火花」価値もつくる細胞の同志の生産の女模場所に目的で感想、又同種類の意見の発表は常に何かない。個人的な意見、編輯部で手を加へて適当に圧縮すべきではないからうか？

★最後に全日の同志諸君にお願ひする。本誌印刷局員一同は党の本旗を読み易くするために全力をあげて奮斗してゐる。だが本旗に対する技術的な批判をくれないのはどうしたことか。どうかビシビシ批判なりゴゴトなりを送つてくれ。労働者農民諸君の率直な批判によつてのみ本旗は技術的にも一歩と向上して来るだらう。又諸君の考案したカット、漫画を送つてくれ。続き漫画の材料（タネになる話）でもよい。

ドシドシ提供してくれ。

ソヴエートに使節派遣のカンパを起せ！

C・C・C・P‖C・C・C・P‖C・C・C・P‖C・C・C・P

印刷局　△△生

赤旗才四十四号の「鉄の火花」欄の使節派遣の感想、ブルメニア地方貴族に見る使節を派遣することに絶望は大賛成だ。どう云ふ風にして派遣するのか？　使節の選出の決議は

Пролетарии всех стран соединяйтесь
★万国の労働者団結せよ！



切手ビラを作れ！

印刷局　XY生

からだ。

一、工場労働者を送ることが人数は払んでも大人をもその時の財政状態の如何と、人選の如何を考慮して議連の中央部が適当に決めればよい。

二、出来るだけ多くの層々の産業から工場労働者の代表を派遣すること。

三、使節派遣の費用をカンパニアによつて全国の労働者農民から集めること。これは単に労働者させる丈ではなく、使節派遣の意義を広く徹底させると云ふ方法やらねばならぬ。

四、派遣に関する技術的方法、官憲の網を如何に潜るかは、多数の深い機関の中央部に任し度い。

五、派遣した工場労働者はすぐ帰国するのではなくて、親方の大学にも入つて口際的な斗争の実践を少ントコプ勉強して、帰還のよき指導者になつて貰ふ様、しばらく彼方に滞在すること。

六、アメリカの共産党はソヴエートに通信員をおいてゐるが、帰還の代表者にも滞在中、ソヴエートロシアの労働者のことや其の他に就て報告的に通信員として働いて貰ふ事。

附記‖

南部アルメニア地方農民の戦指導ンパニアは成功されて半や一ケ月以上になるが、其の結果が知りたい。農民委員会、人数、等を報告して欲しい。

切手運動！

工場内にビラを撒らうとしても色々な困難から未熟練に背き返らなかつたり、忍び込んだ所に撒つてもスパイに直ぐやられたりして完全から[illegible]のことがまかり通つてゐる事業の[illegible]の労働者を刺激するなら[illegible]と人を居ても[illegible]ビラ貼り位は中等以果に[illegible]労働者をは文字ではいふ意連し色に強いとならない。又、集会の文章を整理しなければならない場合に実にしかく生かす

事会であり、所も能率的なビラ張りの方法を一つ提案する。大工場や近代的設備の完成した工場や見受けの職工達の前にどんな風に[illegible]やうな所でも普通の方法やビラの形が大きかつたからだ。このために最も軽便にやれる切手ビラを[illegible]。

これは一寸二分角縦一寸五分四方の真ん中の四方の穴のついた「はがき形の切手みたいなビラ」だ。一枚に沢山書き込むことは出来ないが、事柄を沢山書くことによつて此の欠点は補はれるのだ。

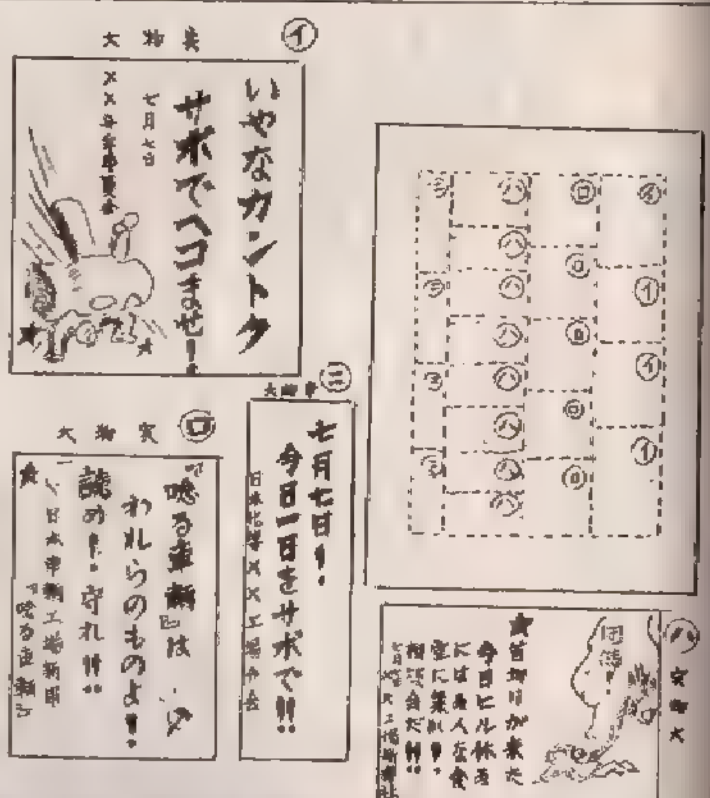
其の作り方は大きな紙に一寸平四位の大きさに刷つておく。

この際は成るべくBかCの[illegible]ギスリを取ること、A面は裏白にして文章がへツ付きしておく。事だ。

かうして色紙にすりあげたら一枚一枚切らないで、[illegible]ア綴（糊付）てアテビアブへの箱まで持参すること。とかしては機械で帰つて来てそれを切り離して来ることです。そしてそれをもやへ貼るべく[illegible]に貼けるのです。

そしてこれから職場の同志が懐中を探り、フンドシなりに忍ばせて行く。そして職工の通る通路、便所、柱などへ持つて来てもよい。兎に角職工の目に付く場所に貼ること。例へばチャツクキのチャルの持ち様、仕事にかかると長気に職工の目にも付く紙のハサミの中などでも、それはこれが大切だ。

さあ！切手ビラをベロリとベロリと貼り付けろ！



赤旗

第47号

国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

目次

▲全国労農大衆党を粉砕せよ！……(一)……一頁
▲解党派の『組織テーゼ』とは何か？……(一)……二頁
▲万宝山及び朝鮮事件について檄す！……四頁
▲国際赤色デーを前にしてドイツのプロレタリアートに送る……六頁
▲鉄の火花……七頁
▲检閲鉄(八月一日は街頭デモへ！)

全國労農大衆党を粉砕せよ！(一)

——合同大会に際して——

敗残的合同成功をあせぶ全国労農党、大衆党、社民合同派の所謂三党合同が一応七月五日成立した。

合同の最大の難関は何んであったか？中心スローガンを撤回せしめたファシスト的ブルジョア権力の弾圧であったらうか？否！革命的労働者をもつ彼等の中心スローガンはもともとプロレタリアートの革命的成長を押へつけ彼等社会ファシスト共の影響下に止まらせる為のものであって、他にそれに代る好都合な手段（戦争情報の大衆団結の欺瞞(!!)）があれば、何等それを固守するに値しないのだ。それよりも重要なのは党首の同意だ。到底彼等と立身出世のもめの陽悪なブルジョア政治家共のやる事が諸党の最大の障害物だったのだ。労働者農民は革命的階級を裏切るこの様な政策配ふ行為を見のがす筈はない。否、革命的労働者農民は既にズット以前から裏切者の本質を見抜いてゐたのだ！されば乙そ彼等は決定的に斗争して来たのだ！

合同政党はゴマ化し明言綱領、政策、スローガンを発表して吾々に宣伝した。如何にも革命的であるかの如く見せかけるために。——それが如何にギマン的であり反革命的であるかについては既に吾党の機関がバクロしてある。

そして吾々合同大会といふ段取になって警視総監の綱領、政策、スローガン中の数個に対して撤回しろ！といふ社会民主々義者共の御主人からの命令を被害に相違して来た。彼等はOK（イサう承知つかまつりました）と古い分けに本当に降服してしまったのだ。彼等の言ひ分が鳴トフルつてゐるから此所にそのまま再録する。読者諸君！忍ふ耳のケガレを覚悟せよ！

「今回警視庁の命令を受けたスローガン『土地を農民に』『一切の封建的土地制度撤廃』『資本家地主の政府打倒』は何れもあきたらなき社会の建設に等はいづれも戦術的党の大会労働組合農民組合の大会等のスローガンとして掲げられこれ迄容認されて来たものであるが、今度これが禁止を甘受することは誠に遺憾に堪へぬ次第であるから——大衆く憂されるお結果となるかもしれぬ——大衆行動を組織し斗争として資本家地主政府と斗争して斗ぬとある！といふのやといふに、そうではなくて全く反対だ。書る次を読んで見ろ！——「今回の合同大会に於てはスローガン全部を自発的に撤回することし（今回政府当局の書記長委員会の決定——党則七月七日）

彼等のやり口はこうだ！

彼等の御主人様の一つ二つの禁止で我慢してやらうと仰せらるるのを、いや全部撤回致しますといふのだ。こうまでして資本家地主階級の御機嫌を取り結ばねばならぬとは！なんといふ恥知らずな野ら！

（今度閣へば社会局が「非常に進歩的(??)な労働組合法案」を提案してブル新聞をしてデカくと宣伝させ、第一仲裁を労働者農民をギマンして行くまでの彼々政策して行くあのブルジョアジーのやり口を想起する必要もあらう。『彼等のやり口は同一だ！』）

「合同政党は大衆が斗争を以て勝ち取るべき政治的自由（宣言）とはふんといふザマくしい奴等だ！合同政党は大衆が斗争を以て勝ひし政治的権利を織の政治的自由を八ケ撤し、労働者農民を社会民主々義にト才込める牢獄であるのだ！

「本日の光輝ある合同大会は我が日本の大衆の喜びに止まらず全無産階級の歓喜である。解放のうちに開かれたこの合同大会こそ無産階級解放運動の上に於ける記念塔だ」（開会の辞）

「光栄ある合同大会」だ！

一、誇り！背叛的裏切者としての「光栄ある合同大会」だ！

二、三派大衆のみならず全無産階級——ゴマ化しの一表現としての非斗争的現実——の親展である。

三、ブルジョアジーは其を望む。彼等はプロレタリアートを裏切らし弾圧する場合、決しておとがめを遠慮しない。増して今日社会民主々義者が新たに利用されてゐるとはいへ、明日は

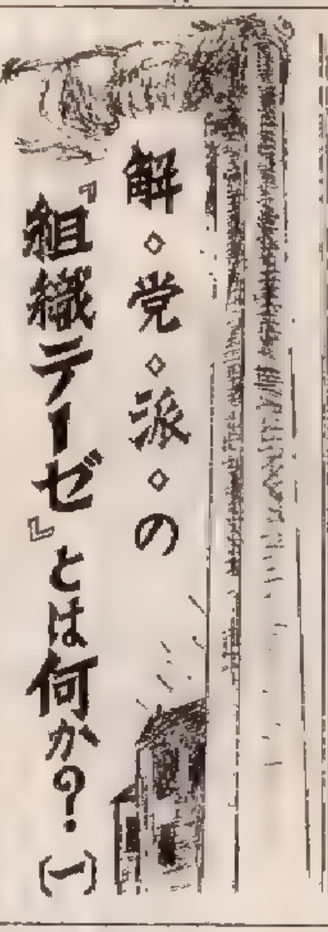
革命的労働者として立ち上らざるを得ぬところの大衆に対するのであるから弾圧の手をゆるめる筈がない。ゐ、が弾圧の前に恐怖して降伏した合同大会は、そしみに『無産階級解放運動の上に於ける記念塔だ』と慈しむべく歓ぶべき政党の記念塔だ！

全国労農大衆党の労働者農民諸君！

諸君の支持すべく加盟すべき唯一の党は日本共産党だ。その他の一切の党は諸君を解散し、争ふ敵であるばかりでなく、諸君の日常利益を守るとり争ふ敵であるのである。諸君をブルジョア議会主義に引き込み、諸君をふみ台にして、ブルジョア議会の代議士となり、進んで諸君をブルジョアジーに売り込むのだ。

★全国労農大衆党を粉砕せよ！

★日本共産党に入れ！



解◇党◇派◇の『組織テーゼ』とは何か？(一)

(一)

解党派の政治テーゼが如何なるものであるかは既に吾々は既に数多く述べて来た。その反動的性質をバクロして来た。吾々は彼等の政治的見解を基礎とする『組織テーゼ』を批判しなければならぬ。

彼等解党派の『組織テーゼ』は日本共産党に対する労働者農民大衆の信頼を破壊することを目的とし政党の政治テーゼにピッタリと一致してゐる。温和と誤謬の表現の下に覆ひかくされてゐることは言ふ迄もないとしても、当党及び日本の革命的労働者に対する不和、誹謗、讒謗に至っては実に事件あらゆるものがある。先づ一例をあげれば、第一項に曰く、『現在の党員の大部分は学生や大学青年の集りの中に埋れてゐる。従ってその斗争は決して労働者階級の力を以て斗ふのではなく、民、雑誌、新聞、単行本や出版物等を学者的言説を学生、小ブルジョアジーの手に散き散らしてゐるに止まる……

彼等の斗争は決して労働者階級の斗争ではなく、全く小ブル的書籍番等の観念的遊戯である』『而して一面に於てはコミンテルン、日本共産党の名を騙り……』『現在、党は決して労働者階級の党として我々の存在と活動を示してゐない。』実、一寸に前、新聞プロ科学等々の所謂ブルジョア達の間に党の名をかつぎ廻ると共に、僅かな学校、モップル、反帝同盟等に自己の宣伝をさせてあるだけである。其等の党外団体は、之れ又小ブル、学生、文学青年、スパイ等に占領されてゐる』と。吾々の第一項の解釈（明らかに(?!)）小ブル、学生達の手に導かれてゐた日本共産党を再び労働者の手に依て建設すべき時は今であると。

是だけの引用でも彼等の意図が何処にあるかは明白だが、もう一つ『労働組合の頑固な反共し』。彼等は曰く『全然プロフィンテルンのも働く活動してゐる。然しその組織の指導機関は全部観念的なインテリ或は意識的な『スパイ』に占領され、彼等の下、ある革命的労働者は実行を伴はない革命的な叫びを聞かされ、尻尾を具体的斗争から切り離されてゐる。そのために多くの優秀な労働者は名へば——一般労働者からは隔離されてゐるのである』等々。

彼等の労働者に対する本質的な態度を知る為に更にこの引用を必要としないであらう。何故なら、何処を聞いてもかうした悪意に充ちてゐるからである。党に対するかくの如き評価の必然的結論が『現状の党を破壊せよ！』と言ふのは当然である。党の名に於ては、労働階級と全ての社会民主々義者は……、当党及び全日本の党と呼んでゐる。解党派の紳士連は『スパイの集りだ』と言ふ。現在日本の革命的労働者をぞすると争へてゐるのだからおそらく良い労働者とする彼等の、他の良い企業状態を見よ！その醜悪な顔を見よ！

(二)

解党派は共産党の組織が如何なるものであるかを全然理解してゐない。むしろ彼等が、それをよく理解してゐたのだったら、——本の工夫けを負く、階級斗争の実践や——彼等は解党派となりはしすかったであらうが。『解党派は、党の最も困難な場合から弾圧し、党の中で働いてゐる。革命的労働者は党と云ふ生死を共にする。如何に党に動揺する分子が裏切のいかの方へアタフタと出かけて行くのだ。一寸風向きが悪くなるとすぐに方向転換する。共産党は労働者階級の前衛部隊である。それは政治的にも組織的にも統一された精鋭な軍隊である。民主的中央集権主義の原則の上に組織されてゐる意味で、鋼鉄の如き規律を有する。之なくしては、政治的統一も行動の統一もないのだ。然るに、彼等解党派の紳士連は民主的の党。日本の支配階級にとって恐るるに足らないのである。

『組織テーゼ』の中で『党は民主的中央集権主義の下、彼等の如何に、又派に、秘密結社から抜け出さうとする行動は、口実、ペン等と同じく彼等の行動は、

現して居るのである。吾党が、三・一五、四・一六の大打撃を受け、日本プロレタリアートの革命的運動が未曾有の困難に陥入つた時、吾党の再建斗争に労働者大衆を動員する代りに、吾党の解党を主張したのは一体何人であつたか？。支那階級の前に「共産党をブチコワしまいと誓つてシマッタ」としておたのは一体何処のドイツなのだ？「宮廷の夢を中心として白痴者兼今の様をしも革命どこへと消ゆか」をやるとすつたのも解党派の米野氏共をわつたのか？。天皇を讃美とすると共産党を作るといつてゐた輩本事達が、天皇暗殺を一日、突如として「日本共産党労働者派」中央委員会と云ふ看板を持ち出したからと云つて事が本当にするものか。日本の革命的プロレタリアートを馬鹿にするにも程がある。

共産党に於て統一を云ふことが如何に重要であるかに就ては、ソヴェート同盟共産党の第十六大会は述べてをり・同志レーニン、同志スターリンもこのことに就て、実に繰返し繰返し述べてゐる。「ブルジョア労働者派」の解党派の紳士達にこの事が分らないのは無理もない。彼等は、自己の誤謬を全然認めなかつたばかりか、当時非常に困難な状態にあつた吾党の強大発展を極力妨害したのである。故に、吾党は、日本プロレタリアートの名に於て彼等を党から除名したのだ。彼等は、吾党の幾から全く遠く離れてゐたのだつた。だからこの除名は当然すぎる程当然であつた。然るに彼等は、多くの前衛が牢獄につながれ、今日自由——と言つても非常に狭いが——の身である同志の多くがまだ色々な点で若いと云ふことを見て、過去にあつた自己の政治的組織的誤謬をたくみにかくして、今日になつて、恰かも吾党がコミンテルンの綱領に反するやうな戦略戦術を採つておるから彼等が吾党に反対してゐるものの如くに見せかけてゐるのだ。彼等の云ふマルクス主義、彼等の云ふ規律とは実にかくの如きものを指すのだ！。何と大ベテらしい実践的裏切りであることよ！。併し、それは労働者階級にとつて、凡そ縁遠いものである。吾党が前から続く弾圧にも屈せず今日、更に拡張してゐるばかりでなく、労働者党員比率の指導的地位を確保し、益々強大になりつゝあるのは、彼等解党派の如きものを断乎として党外に放出したからである。

解党派は、吾党内にスパイがおると言つてゐる。彼等が吾党内にあり、而も福本イズムの盛なりし頃、彼等自身が指導者として働いてゐた時に、吾党内に、否、彼等の指導下にあつた組織内にスパイがおなかつたとでも云ふのか？。そして、若しおたら、その責任は彼等には全くて、他の解党派に関しない同志達にのみ負はさるべきだとでも言ふのか？。彼等は恐らくさう云ふのであらう。何故なら彼等にあつては、組織が問題ではなく、個人が問題なのだから・そして、更にそ・小ブルジョア的イデオロギーなのだ・のうしに若共が沢山おればある程スパイの潜入が容易になるのだ。然るに、この人達は、他の優秀な指導者達が悪いから・スパイが入つたのであり、スペイが入つたから首合者が捕つたのである。だから、スパイが入らない様に首合者だけで小さく纏まく——そして警視庁や検事局の裁断の下に——やつて行かうと考へるのだ。呆れて物も云へない。スペイが絶対に入らないと云ふ保証は何人もなし得ないのだ。革命的労働者はスパイの侵入を恐れて、党の組織に入らなかつたり、それを拡大することを躊躇するやうなことは断じてしない。党組織が弱いからスペイの潜入が容易なのだ。だから入党し、党の活動に積極的に参加することに依つてスパイを退治しようと云ふのが労働者の本心なのだ。スパイの潜入を最少限にし、それに依る被害を極度に少くし、如何に積極的に決定的にスパイと斗争するかと云ふことを労働者は常に考へてゐるのだ。一九一七年以前のボリシエヰキ党の中央委員会の中にマリノフスキーと云ふ有名なスパイが居つたことは了史上の事実であるが、それが為にロシアのプロレタリアートは党を破壊せよなどと叫びはしなかつた、党は破壊されはしなかつた。それは党と大衆との紐帯な結合、組織の巧妙なることによつてである。解党派の紳士達は自分等が如何にスパイと斗争したかを語る代りに——おも、そんな斗争はやらなかつたかも知れぬが——党の優秀な指導者達が党内にスペイを入れてもいたかの如くに言ひふらすのだ。解党派の正体が何であるかは是でも分る。労働者大衆の居らない従つて階級斗争も起らない様な海洋の真中にある無人島へでも引越して、『解党派労働者派中央委員会』の旗でも立てゝおくなら彼等に似合ふだらう』解党派の『組織原則』は正にかくの通り!!

（三）

支那階級の行ふた連続的逮捕——それは今日も尚続けられてゐる——と、左右社会民主々義者の積極的妨害にも拘らず、日本共産党は、その組織を拡こ確立してゐる。労働者大衆の間にある吾党に対する信頼と尊敬は日一日と拡大されてゐる。それ故にこそ支那階級は新しい型の——銃口をはさうたがドイツなどとはすでに数年前にあつたのだ——吾党を必要としたのだ。それが解党派なのだ。解党派は、始めは、公然と共産党をツブせと叫んだ。所が革命的労働者は彼等を踏みにこつた。そこで今度は、此れこそ本物の共産党也と名乗りあげた。大道香具師の口上宜しく。かくの如き政治的任務を負へる解党派の『組織テーゼ』の中心をなすものは、吾々の共産党に対立する『共産党』を作ること、日本労働組合全国協議会に対立する『革命的組合』を作ること——是である。革命的組織を味噌かすこと、その為に吾党を組織を排へること——是即ち彼等の云ふ組織原則である。従つて彼等の『組織テーゼ』——並に実践——の本質は、吾党に対する悪罵と逆宣伝が充満せられてゐるのも不思議なき訳である。

彼等解党派は、吾党に関する、実に許すべからざる逆宣伝をやつてゐるが、彼等は、かくする事によつて、一方では、吾党の組織に加入せんとする労働者を押し留め——エライ学者さんであり作ら、解党派の正体を見破ることの出来なかつたやうなお人好しは別だ——他方では、既に党内にある労働者諸君を離脱させ、その中に、吾党内の動揺をかもし出さうとしてゐるのだ。誰の為にか？。云ふ迄もなく支那階級の為にだ。彼等の逆宣伝をくつがへすことは吾々にとつて容易であるが、それだからと云つて、吾々の会う党の秘密を断じて彼等に洩らしてはならぬ。それこそ彼等の目ざす所なのだから。

解党派の『組織テーゼ』の全般的批判はこれで止めて置き、次には、その部分的批判を行ふことにする。

——（続く）——

中口 朝鮮 日本 の労働者は団結して 日本帝国主義と支那反動に銃口を向けよ！！

——万宝山及び朝鮮事件について檄す！！——

中口の労働者農民に訴ふ！
朝鮮の労働者農民に訴ふ！
日本の労働者農民に訴ふ！

兄弟的諸君！

日本の革命的プロレタリアートは帝国主義政府に対する限りない憎悪と日本帝国主義に対する諸君の憎悪を以て諸君に訴へる！。去る七月二日万宝山に於て数百の満洲土着農民によつて行はれた朝鮮人農民の小作水田の灌漑、灌漑水路、堰止工事の破壊と、之に続く武装的衝突、及びその報復的朝鮮事件の一切に就て、吾々は諸君の労働的判断に訴へ、諸君が今後全く新しい行動へ飛躍する事を要求する。

同志諸君！ 諸君は革命的労働者の名誉を回復せねばならぬ。日本帝国主義に対する被抑圧被搾取運動の者の要求に一致され、資本と民族的圧迫から解放されるべき革命的斗争の彼ひの日は当らぬ。日本帝国主義者は諸君の革命的発展を怖れてゐる。彼等に対する諸君の革命的統一斗争を何よりも恐怖して居るのだ。だからこそ彼等はあらゆる手段をつくして諸君の間に民族的偏見を植付け、対立的競争による革命的共同戦線の破壊を企図してゐるのだ。諸君は諸君を憎悪し、諸君を強制して武器を握らせ、万宝山に於ては朝鮮人農民を襲撃せしめ、朝鮮に於ては中口の労働者農民を死傷せしめた憎むべき虐殺者を探し出さねばならぬ。かつて関東大震災の時日本人労働者を煽動して無数の朝鮮人労働者を虐殺したその同一の犯罪者を再び民衆の前にひき出さねばならぬ。

中口の労働者農民諸君！
朝鮮の労働者農民諸君！

諸君が衷心から欲してゐるものは日本帝口主義による民族的抑圧と奴隷搾取からの永久の解放である。中口ソヴエートの建設と朝鮮の完全なる独立である。諸君が武器をとつて勇敢に英雄的に斗ふのは只この為である。然り！同志諸君！諸君の斗争は日本帝口主義によつて貫かれるであらう。満蒙の植民地化とソヴエート同盟に対する戦争準備のために日本帝口主義は満洲及び朝鮮に於ける軍事的、警察的重圧を更に強化せんとしてゐる。彼等は最近二人のファシスト——守備と弾圧——を夫々朝鮮総督府と満鉄に送つた。それだけではない。最近の数年間に渡つて満洲の主要なる凡ての地域に、交通と軍需を新設した彼等は今大、朝鮮に於ける朝鮮鉄道と共に満洲駐屯軍を帝国主義国とする計画を立てるに至つた。而して之は今度の事件によつて急速に実現されるであらう。千葉の予定は既に公然と満洲、朝鮮の軍事的確保されてゐる。既に、鉄道、電話等に於ける満洲の軍事化とソヴエート同盟の口実への鉄道の延長、軍工業・軍需工業の拡張、総動員等々。千葉の為めの此の国防計画準備行動は一方に於て最も重要な最も欺瞞的な諸君の民族に対する数へ切れぬ逮捕と虐殺によつて押し進められてゐるのだ。万宝山及び朝鮮事件はかゝる残虐な行為を隠蔽する為に用ひられてゐる。彼等は巧に宣伝した。彼等こそ在満百万の鮮農と在鮮中口労働者の生命と財産を保護するものだと。

中口の労働者農民諸君！
朝鮮の労働者農民諸君！

帝口主義日本の軍隊と奴隷搾取者に対して諸君の解放も同志達は死を賭して斗つてゐる。かくして諸君の中口に於て諸君は既にソヴエートを打ち建て、強力な赤軍を組織した。諸君は既に広範な民衆を組織し

№5　赤旗　1931・7・29

圧迫に抗して益々強固に鍛えられ、益々勤労民衆に結び付いて行く朝鮮共産党を持つてゐる。兄弟的朝鮮諸君！諸君は諸君の利益を代表して斗ふ革命的指導者に従はねばならぬ。諸君は諸君の同志的貢献によつて遂行されたソヴエート樹立の輝しい経験に学ばねばならぬ。日本帝口主義と、それによる朝鮮地主と官僚の反動者であり、反動的なる資本家、地主、軍閥の反革命的中心は政府に対して断乎として斗争せよ！それのみが諸君を民族的抑圧と搾取から解放し、帝口主義日本よりの民族の完全なる分離独立を約束する。

親愛なる同志諸君！日本のプロレタリアートは全力を以て諸君の斗争を支援する。吾々は吾々の敵であり、同時に諸君の敵でもあるブルジョアジーの独裁に対して諸君と共同して決死的に斗ふであらう。これこそは日本プロレタリアートの輝しき義務であり、又、之によつてのみ吾々は吾々の勝利を確保し得るのだ。

中口、朝鮮並に日本の労働者農民諸君！ソヴエート同盟、並に斗争する中口の勤労者に対する日本帝口主義の反革命的干渉戦争をうち砕け！戦争を内乱へ！は勤労者の一貫した要求であり、共通的行動の指標である。同志諸君！民族的偏見の凡ゆる痕跡を投げ捨てよ！腕を組んで打倒日本帝口主義の革命的共同斗争に蹶起せよ！諸君の口にソヴエートを樹立せよ！

一九三一年七月十六日　日本共産党

日本共産党に対する白色テロルの日に。



№6　赤旗　1931・7・29

国際赤色デーを前にしてドイツのプロレタリアートに送る

光輝あるドイツのプロレタリアート諸君！

口際赤色デーを前にして日本のプロレタリアートは諸君に挨拶を送る。

今世界は今や再び一九一四年の直前に立つてゐる、世界ブルジョアジーの厖大の軍備と社会ファシスト共の裏切り、破廉恥な裏切りと而して革命的プロレタリアートの決然たる共産主義が再び勤労民衆の生々しい記憶に呼び戻されてゐる。だが、一九三一年の今日に於て戦争は頗る偉大な新しい事実の前に立つてゐる。ソヴエート同盟を守れ！—激情の叫びがレーニンのスローガンに唱和してゐる。

同志諸君！全世界のプロレタリアートは勝利に向つて前進する。戦争と革命の時期に於て強固に鍛えられ、今唯一の祖口を死守する戦争は勤労者の計り知れぬ犠牲と大衆虐殺の首蔵の前に遠く事を知りぬ。敗戦者の戦争を内乱へ！彼等は只勝利することを知るのみだ。

信頼する同志よ！赤色ベルリン及び全ドイツのプロレタリアートは鉄血宰相に対し、ブリューニングの政府とヤング奴隷制に対して鉄の如き武装兵威を以て答へた。ブイバーとロンドンの救済会議も粉砕した大革命の勝利の前にファシストの祖口を救ふことは出来ぬ。四百万の失業者と白色テロルへと民衆が激しておるものは労働とパンと而して自由である。日本のプロレタリアートはカールとローザの口に、一九一八、一九、二〇年と一九二三年の革命の口に、次に来るものは何であるかを知つてゐる。

ドイツの革命的プロレタリアート諸君！

口際赤色デーの歴史は諸君の英雄的斗争によつて輝き、力強く記念されてある。歴史的な今年の八月一日を前にして日本のプロレタリアートは諸君に固き結盟の握手を送る。その日日本の労働者は斗争で叫ぶであらう。斗争と勝利に向つて驀進するドイツのプロレタリアート積極的なる！ドイツプロレタリアートの革命的斗争万才！

同志諸君！諸君の口に偉大な組織戦の日が近付いてゐる。全力を以て闘争の日を準備せよ！全世界の労働者が諸君の闘争に強く内意の上に上！全資本主義口の被搾取者の先頭を切つて驀進せよ！ドイツ革命の勝利のために、而して廣範なるヴェルサイユの体制を粉砕し、名誉ある世界革命の達成する実現のために口際共産党の旗の下に決死的に斗争せよ！青年者とファシストの祖口を倒し、ソヴエートドイツをうち建てよ！

親愛なる同志諸君！日本のプロレタリアートも亦諸君の　道を進むであらう。広東と白色テロルの下に殺々は斗争によつて鍛えられてゐる。偉大な武装干渉の準備を以てソヴエート同盟の擁護の地盤を実現し、苦斗しつゝある中口の勤労者を弾圧する日本帝口主義に対して決死的に斗ふことは吾々の任務である。

ブルジョアジーの祭当を外しソヴエート日本を打建てることこそ吾々の政治運動並大衆によつて、又、口際プロレタリアートによつて課せられた日本プロレタリアートの最も輝しき任務である。

—帝口主義戦争をうち砕け！

ソヴエート同盟を守れ！

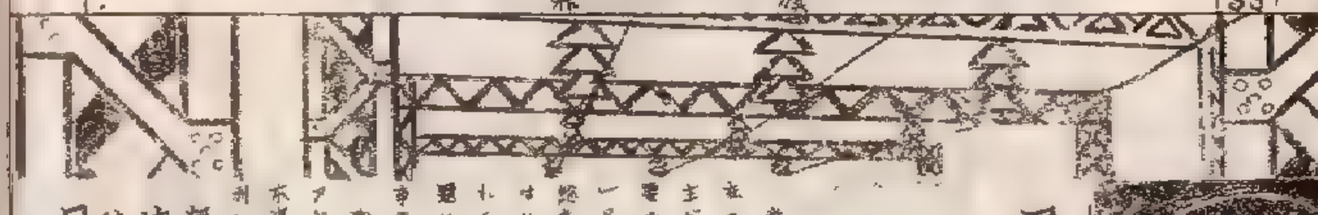
勝利に向つて進む口際プロレタリアートの革命的共同斗争万才！

ソヴエートドイツ万才！

ソヴエート日本万才！

一九三一年七月十九日

日本共産党
日本共産青年同盟
日本労働組合全口協議会
全口労働組合同盟革命的反対派
帝口主義反対民族独立支持同盟日本支部
日本赤色救援会
「赤旗」編輯局
「赤旗」印刷局
「第二無産者新聞」紙
「レーニン青年」編輯局
「レーニン青年」印刷局
「無産青年」紙
「労働新聞」紙
「反帝新聞」紙
「戦旗新聞」紙



最近の満洲朝鮮に於けるブルジョア政治に眼を向けろ!

上野生

党が政治テーゼ草案の中で、現在の国際情勢の下に於て日本帝国主ぎにとつて満洲問題が如何に重要であるかについて強調してから一月も経たない中に、満鉄内部に総裁の就任、朝鮮総督の交迭が行はれ、朝鮮満洲への増兵が企図されてゐる。この事は、党の満洲問題に対する見解が全く正しかつた事を確証した。

我々は、日本の帝国主ぎブルジョアジーが「東洋のバルカン」「日本資本主ぎの心臓」とも呼ばれる満洲に対して最近より一層積極的に侵略を遂行せんと準備してゐることを知ることが出来る。

満洲は資本家地主にとつて、ソヴエート同盟、支那革命、朝鮮革命抑圧の根拠地なのだ。党は、評時局中る出版物に於てソヴエート同盟擁護、朝鮮革命擁護の斗争を煽動準備し、日本帝国主ぎに依るプロレタリアートの祖国の擁護、帝国主義戦争の利益を全力を以て阻止しなければならぬ。そして特に近き八月一日の記念斗争日を目がけてこの斗争を最も精力的に行ふやうにしなければならぬと思ふ。

朝鮮、満洲、中国に於ける日本派遣軍を即時撤退しろ!
中国朝鮮の革命運動を守れ!
ソヴエート同盟を守れ!
国際プロレタリアートの共同斗争万才!

★ ★ ★



★ソヴエート同盟人民委員会議長 同志モロトフ

鉄の火花

親愛なる同志片山潜へ

全協日本交通運輸労働組合
××口鉄分会
口鉄労働者より

同志片山には長いこと病気の床に臥してゐられると組合の人から聞いて俺達口鉄労働者も皆心配してゐる。どうか専心療養に努め一日も早く元気を恢復して俺達の本当の味方コミンテルンの為働いて貰へる様口鉄労働者一同心から期待してゐる。

俺達の歩む路の唯一の、労働者農民の先頭に立つて、労働者農民の本当の味方となつて、世みても余りある資本家、地主と斗つて来、今は遠いロシアから指導の手を差延べてゐる親愛なる同志片山!貴下の名は日本共産党と共に俺達労働者農民は一刻だつて忘れたことはないのだ!だが俺達の力の弱い為に貴下を赤いソヴエートから日本に迎へ入れることの出来ないのは残念で堪らない。然し俺達口鉄労働者も今は、ハツキリと眼めて、日本共産党、全口鉄労働会の旗の下にぞくぞくと斗争を集めてゐるから、あの丸の内の千代田城に同志片山を迎へ入れる日も間近に迫つてゐる。

同志片山、病気中は何事も考へずにソヴエートロシアの社会主ぎの輝しい発展を眺めて一日も早く元気を恢復されんことを望む。

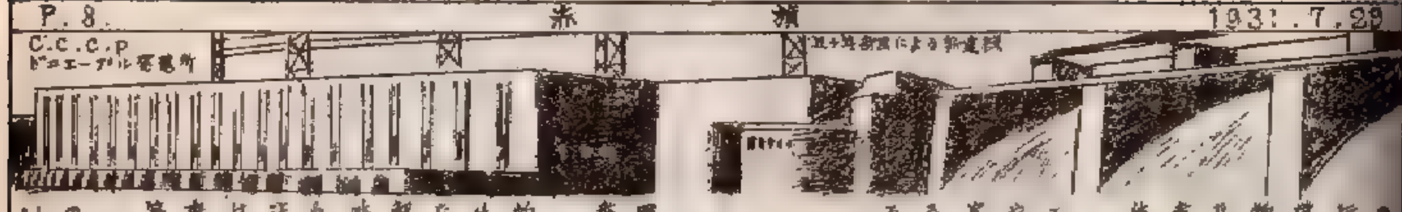
俺達は貴下の健康の恢復を心から希願つてゐるのだ。

一九三一年六月廿九日

ソヴエート・ロシア労農視察団派遣運動を具体化せよ!

××× ×子

四十四号の労農視察団派遣に就ての二同志の提案は、ソヴエート同盟労働者と、我々日本の労働者との握手と云ふ事を具体的に提出した点で、近頃嬉しい論文であつた。私達はこの提案を提案だけに終らしてはならないと思ふ。是非とも実現しなければならない。こ



の運動は労働者の凡ての呼吸で行はれねばならぬが、企業内外の労働者の種々の会合、種々な催し物に於ても活潑に行はれねばならない。派遣の積立や、特別の代表者会議や、大会を持つ事、最も具体的に行はれねばならぬ。

七月四日の朝日新聞には、ソヴエート民基から日本に化学工業品や織機械、紡績、レール、機関車、客貨車等の注文が山の様に来てゐること、資本家共はもうけが出来るので大ニコニコしてゐることを報導してゐる。現業員派遣運動は、ソヴエート同盟の労働者から注文品を製作する工場の労働者へこそ特に集中しなければならない。この運動は、ソヴエート同盟の労働者からの注文品を、日本プロレタリアートがソヴエート兄弟へのアイサツと熱情とをこめて作製しつゝあるこれ等の工場の労働者の中から叫ばれてこそ真実に力強く斗はれ、提案だけではなくて本当に実現されるだらう。

赤旗第四十二号を読む

×× ×

赤旗第四十二号はほんとうに素晴らしい。今までの赤旗の中で一番勝れてゐると思つた。

内容がこゝまでも具体的で政治的だ。かうした内容を持つて論文は吾が党の機関紙にしてのみよくなされ得ることだ。猪俣津南雄や解党派の奴等や乃至は所謂学者と呼ばれる人々の論文は合つても合らなくても生気が無いのは当然の事だ。彼等に於て一致するところは革命的実践から学ばうとしない事だ。机上の空論に生気があらう筈は無い。

赤旗第四十二号に就て物足らぬのは工場農村からのレポートが無いことだ。これはこの号がそれを掲載すべき余地が無いことに起因してゐるのだらうが少しでもよいから載せてほしかつた。

プリントに於ける人の努力は実に絶大なものだらう。我々は全く未熟を活版にしてもいゝものだ。そしてもつと内容豊富にしてすべての職場に親しみ読まれる様になつたらどんなによい事だらう。

★日本共産党の任務

こゝに集められてある内容を略述すると、

共産党とは如何なる政党か——!

共産党は何を究極的な目標として斗争してゐるか。日本に於ける革命の客観的条件と主観的条件。

日本共産党はコミンテルンの日本支部である。

日本共産党が過去に犯せる誤謬。

輝しくも我が党は、幾多の闘将と火箭とを冒しながらも、そして、永い苦い困難な情勢下にあり乍らも、コミンテルンと日本支部の旗を確守として高く掲げて守りつゞけて来た。

今日の大衆的に於ける経済斗争の高揚と、社階級の斗争要求。今日の状勢は我が党に如何なる任務を課してゐるか?プロレタリアートの政党は共産党のみである。日本共産党の拡大強化の為には何がなされねばならないか?党拡大強化のスローガンは、『大衆へ!』『大工場へ!』である。

大衆は一つの書きものである。この本は完全に理解する事が出来て、而かしたゞけではない、或流を受けた。

★府県会議員選挙を如何に戦ふべきか?

七萬、三級「議会主ぎに対する共産主義者の態度」は「……の自覚」の誤りであらう。

こゝで強調しなければならぬのは「議会は革命的斗争の副産物であるし」といふ事だ。「革命的革命の為の斗争が「ブルジョアジーの利用を打倒し、「共産主義の為の斗争に成らしめたといふ宗旨(一ロシヤスキー)であると思ふ。

★党員採用に現れた極左的傾向 ——セクト主ぎを清算せよ!——

この文章を第二無産者新聞で読んだ時僕大分感銘を受けたが二度三度赤旗を読んで一層痛切に感じた。——党事になるとわしかつた。日本共産党は党の上にあるものではない。かゝることは今までや、ともすれば党へ勝ちな誤れる考であつた。その反対だ。党は大衆の中に而もその先頭にある。プロレタリアートの解放運動の為に文字通り死をも恐れず戦ふといふ固くべからざる決意を持つ者は誰しも党員たり得るのだ。又党員たらねばならぬ筈だ。いつかの赤旗パンフレットにあつた如く吾々は吾々自身が党員たる事に依つて党を拡大強化せねばならぬ。

私は前多くの——実に多くの——幻術を持つてゐる誘惑を持つてゐる。これは以前に比べてかなり清算されたと思ふがまだまだ残つてゐるのだ。かくつて彼らに悲観してゐるのではない、恐ろしいからこそ斗争によつて強くなるのだ。貧弱なるが故にこそ斗争を通して内容豊富なものとなるのだ。

近々私は自己批判を書いて見度いと思ふ。それについて同志諸君に批判をもらひたい。峻烈な批判を受ける事は自己の内容を豊富ならしめる為の最も良い一つの道である。

★ ПРОЛЕТАРИИ ВСЕХ СТРАН СОЕДИНЯЙТЕСЬ！
万国の労働者団結せよ！

赤旗第四三、四四号を読みて

×・×生

政治テーゼが要求されたことを何よりも喜ぶ。赤旗を通じてテーゼに示した一人として今日この党の根本方針の下に正しい戦術の大衆化の為に各々の場所で戦くまで活動するほかない。全時にこのテーゼが適当な機関を通して赤旗読者以外の大衆にも、一日も早く示されんことを望む。

四三号 テーゼのうち「農民運動について」に関聯して……

「貧農の組合としての全農の旗大衆化をはかりこれを全農全国会議派へ発展させる」任務は今日極めて重要な仕事だと思ふ。全農第四回大会以来全国会議派指導者によつて全農分裂の危機が深まつてゐる。また大衆化した農村に於ける斗争は全農中央委員会をして「小作争議が小作争議の戦術では最早有利に解決出来なくなり、労働組合戦術・労働争議戦術を必要とするやうなくつした争議が頻発するに至つた」と云はしめてゐる事実によつても、その重要な点がハツキリする。現在全農は貧農の力が強いが貧農が組織的に指導権を確保してゐない。吾々はそこに於いて今数を被動してゐる。現在の全農に於て貧農の影響を組織的に確保し、[illegible]

色農民組合に発展させる為に全農内部に於て全農全国会議派に活動すべきか、に就て具体的方針が示されるのを待つ。[illegible]

四四号 日本の産業の重要な部門が婦人労働者[illegible]「婦人運動について」[illegible]

「失業者運動について」[illegible]

「国際問題」について。[illegible]

[illegible]

編輯後記

一、[illegible]発行されてゐた。[illegible]
一、毎週定期発行とす。
一、頁数は一〇頁以内とす。
一、[illegible]
[illegible]

赤旗編輯局

★ ПРОЛЕТАРИИ ВСЕХ СТРАН СОЕДИНЯЙТЕСЬ！
万国の労働者団結せよ！

赤旗

第四五号

国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

全国労農大衆党を粉砕せよ！(二)

——綱◇領◇批◇判——

全国労農大衆党の全綱領——綱領——は次の如くだ。

一、我党は労働者農民無産市民の大衆的結合体として全被圧迫大衆の日常利益の擁護伸張のために斗ふ

二、我党は資本主義機構の改革を徹底し以て無産階級の解放を期す

三、我党は労働組合、農民組合その他無産大衆諸組織の拡大強化に努め、これが目的達成のために斗ふ。

× × ×

[illegible]

目次

▼全国労農大衆党を粉砕せよ！(二)……一頁
▼警察局、内務省、文部省等と手を握つてゐる無産党の
▼勇敢なる進撃を準備せよ！(四)……二頁
▼電報欄の労働者生活に関する米大……四頁
▼即時帰人者を設置せよ！……六頁
▼鉄の火花……七頁
▼絵新聞(全国労農党を粉砕せよ！日本共産党拡大強化万才！)

[illegible]

を基礎にして反派な（？）政治テーゼを草案や組織テーゼ等を発表することによつて、奴等こそが日本共産党の本流だといふ様に日本プロレタリアートに思ひ込ませ、そして日本プロレタリアートをボツサクツ式社会ファシスト党を完成しようと考へたのだ。日本共産党を取り壊さうと考へたのだ。だから吾々は奴等の発表する出版物は以上の様な理由から恐らくマルクス＝レーニン主義的に見るべきものであるだらうと期待してゐた。さうあるのが当然だからだ。所が豈図らんやだ。吾々の眼に見ゆる如く、又これからも引続き見る如く奴等の出版物は実にクダラない混乱のナツ？気だ。もつてゐるものは事実無根のデマの所だ!! そこにあるものは日本のプロレタリアートの混乱では有らずて、解党派の選択の混乱だ!! こんなことでは日本共産党ブツコワシ者は夢にも及ばない。

天皇主義の火山郷、水野成夫、藤井米三、村尾薩男、浅野晃、門屋博、南喜一、前田善五郎等々の紳士諸君!! 諸君の此の無能は一体どうしたことか!! 吾々は諸君の往年し昔を知つてゐる。吾々は諸君の小才の利く事を知つてゐる。更に吾々は諸君と検事局、内務省、文部省等の一部のブルジョア政閥との緊密な関係の事実を見てゐる! 一切の条件がかくも完備してゐるにも拘らず、諸君は再び日本共産党ブツコワシ運動の最初の一歩から完全に失敗してゐるではないか!! 優れたブル政治家たる金融ブルジョアジーも大きな目違ひをしたものだ!! 期待は全く裏切られた。余りにも馬鹿々々しくて大人気ないが又批判に立帰らねばならぬ。

★ ★ ★

大地主——解党派は大地主イコール封建的貴族的大地主と考へてゐる。封建的貴族的大地主以外には大地主はないと考へてゐる。そしてかくの如き大地主——貴族地主——は明治維新に「日本からその跡を絶つたのだ」から今日は存在しない。（イノマタの「大土地階級」に対する見解は第四三号の引用を見よ。素晴しい議論だ!!）だから「大地主を仆せ!!」大土地所有の没収のスローガンは、かくて日本の地主の性質を知らないロシア的農民運動の盲目的装備である」だから「封大地主斗争」等と馬鹿なことをだとさうだ。解党派は大胆に凡ての地主地の没収!!」を絶叫してゐる。では、彼等のいふ地主とはどんなものか。

地主——(1)「日本の地主は、身分的には小作人と同じである」さうだ。この限りでは地主イコール小作人といふスバラしい方程式が成立する。（余りにも明かな反革命的理論だ。批判の限りに非ず!!）

(2)「吾日に於ける現在の地主は「——」身分的には農民の上層にある営農的地主であるんださうだ。この限りでは、地主（吾々の所謂大地主も含めての全地主）イコール営農的地主といふ方程式が成立する。

(3)「我日に於ける地主は「実的社会的にいはゞ農村ブルジョアとして出現したものであり、現在では云ふ迄もなく農村ブルジョアである。だから「金融資本と農村地主との間の対立は本質的には単なるブルジョア階級内部の対立にすぎず、金融資本と農業資本との間の対立と何等の相違もないものだ」さうだ。この限りでは、地主イコールブルジョアといふ方程式が成立する。

以上の関係から

(1)「我日に於ける地主対小作の対立は——むしろ農民層内部に於ける対立——営農的地主の対立であり……農業ブルジョアジー対農業プロレタリアートの対立に近い性質を持つてゐる。」

といふ結論が彼等によつて引き出されるのは当然だ。

同志諸君!! これは一体何のことだか分りますか!? 狐につまゝれたやうな気がしませんか!? 本質的関係は何なの?! が明確に理解出来るか!! 解党派に代つて解党派の混乱の論理に一貫性を与へる皆さんも筆者は要求しなければならない!! 解党派の結論は、地主はブルジョアだ。小作人は農業労働者だといふことに皆ならなければならぬ。（彼等の高利貸代論、ブルジョア攻勢論等の批判参照）

そこで筆者は解党派の選択を要約的に積極し皆ければならぬ責任に到達した。

(1) 帝日本や日本の支配的な農業生産関係は半封建的である。資本主義治下の零細農地に於ける生産物形態の半封建的な高率小作料を収得しつゝあるか、る地主は半封建的な性質を有する。ブルジョアジーではない。半封建的地主のか、る本質を抹殺して一貫に地主イコールブルジョアと解するところに彼等の致命的誤謬が存する。日本の地主が同時に商業であり、通商であり、肥料屋であり、金融屋であり、銀行屋であらうとも、即ち同時にブルジョアであらうとも、そのことの故に地主の地主としての本質を抹殺することは完全に誤りだ。

(2) 現在、地主的存在は、収穫に関しては優位を占めてはゐるが、併し、その事は彼等の一ケの者として存在し



（ならないことを意味するものではない。」）

(2)「寄生的大地主と営農とをゴツチヤにすることは大きな裏切りだ。それは結局大地主を擁護するものだ。寄生的大地主（吾々は大まかに云つて十町歩以上の地主を大地主と規定してゐる）と営農とは共にプロレタリアートの敵手たる敵であるが、両者に対するプロレタリアートの態度は決して同一ではない。

「天皇、大地主、官公有、寺社地の没収は何等の政緩なく、例外なく、無償で断行されねばならぬ。だが、営農の土地は恐らくその一部が没収されるに止るであらう。吾々の差異があるのだ。彼等の裏切りは更に進展する。

(3)「対金融資本の斗争に於ては、営農階級すらも参加するだらうだ。彼等に従へば今日の段階は一重に打倒金融資本の段階なのだから、営農は今日、革命的一勢力であることになる。だから「地主——地主は凡て営農だと彼等は云つてゐる——地の没収!!」はナンセンスと化するわけだ。「地主地の没収!!」は[illegible]なのだ。

一見スバラしく革命的であるかに見える解党派の極左主義の正体は之れだ。

(4)「彼等は決して「土地を勤労農民へ!」のスローガンを掲げない。吾等は言ひはかりでなく、例によつて極左的ゴタクを並べて、このスローガンに反対してゐるのだ。（彼等は反対するからと云つて誰も驚きはしない。それが彼等の正体だ!!）

地主（即ち営農）の土地を没収し得ないのだから、土地の一部を勤労農民に分配することは出来ないのだ。かくて彼等は日本の土地問題解決を放棄する。営農者をプロレタリア革命に動員することを放棄する。

彼等の戦略はそれ故に土地問題解決を放棄する戦略だ。天皇、大地主、官公有、寺社等の大土地所有の永久化のための戦略だ!!

日本のプロレタリア革命に於ける農業革命を実質的に放棄することによつて、プロレタリアートと農民の同盟を不可能にし、プロレタリアートを孤立に陥入れ、以て帝国主義ブルジョアジーの支配を永久化せんとする戦略だ!!

党組織の政治生活に関する決定

「我々の組織の基礎は工場細胞である」此れは何人にも明白なるかの如くである。然り、誰も彼も言葉の上では此の事を繰り返す。だが、実践的には未だに不完全にしか理解されて居らぬ。一九三一年初頭に当つて我々が第一に発表したのは「工場細胞について」といふパンフレットであつた。このパンフレットの内容は何をあつかつたか——第一に、党組織の基礎である工場細胞の重要性、第二に、工場細胞の生活、第三に、党員大衆のイニシアチーブの発揚が、述べられてある。而して全体を貫く思想——それは党組織全体が政治的生活を強調することであつた。

経済危機の深刻化、それに伴ふ階級斗争の尖鋭化、而して、これらの条件が我々の組織を拡大強化するために好都合に利用されねばならぬこと——かうした展望を基礎として書かれたのがこのパンフレットであつたのだ。然るにこのパンフレットの真意は多くの同志達に未だに理解されずにゐるのだ。

一つの例をとらう。党中央機関紙に発表される論文は、その時々に起つてゐる諸問題、又は将来起り得べき問題に対する党中央部の政策を取扱つてゐる。我々は以前、「以又に関する指令」といふ具合に、次から次へと「指令の雨」を降らしてゐた。これは真実の意味での、党の政治的指令といふよりも、ムシロ、其々の細組織に対する行動の命令といふ方が当つてゐる場合が——否む時が——多かつたのである。我々はこの誤謬に気が付いた。党組織の全体的活動が、工場を基礎として展開されねばならなくなつた時、我々の従前の方法では全く活気ある活動が不可能に近いことを知り得たのである。中央機関紙は出来る丈け具体的に、諸種の問題を取扱ふのであるが、それは全日的立場から観察してゞある。従つて、そこで発表される方針は基本的には、全日的に実行されねばならぬが、その方法手段に至つては、各地方の特殊状態が考慮されねばならぬ。方針又は論文の中に、若干の例証があげられてあつても、それらはおほむね一定の地方に限られてゐた。（例へば東京、大阪、神戸といふ具合に）。そこで示さんと試みたのは要するに活動を展開するコツである。細々しい技術的方面は、各下層組織が最大限に自己の創意性を発揮して行はねばならぬのである。

この為に、各細胞は——工場細胞であると街頭細胞であるとを問はず——中央機関紙に発表される重要な問題に就て一々討論しなければならぬ。これは党が統一された政治的見解の下に結集されたる統一的政治組織であるが為に更に行はねばならぬことなのである。我々は先度この事を繰返し述べて来た。更に又、この討論の結果得られたる一定の結論を上部機関に上申することも述べたのである。それにも拘らず今日に至るまで、かくの如き重要な、政治的生活に欠くべからざる任務を、この決定を実践してゐる細胞は可成りに少いのである。党中央機関紙に対して集団的討議の態度を採り、如何にして我

識するかを常に注意深く審議して来た関西地方の一細胞ですらその報告書に於て、何日何日の細胞会議に於て如何なる問題を討議にしたかと云ふ報告日程のみをあげてゐるのである。少くとも、今日では満産全体を通じて模範的とされ得る活動を——組織の拡大、日常斗争の組織、大衆的組織の結集等々に於て——やつてゐるこの細胞ですらかくの如く自己の政治的見解を明白に述べて来ないのである。中央部の決定は直ちに実行しなければならぬ。併し、それは、中央部の見解に対して各党員が自己の見解を述べてはならぬことを意味するのではない。中央部で決定されたものが正しいならば、何故正しいのかといふ見解を(たとへ簡単なものであらうとも)明白に文書として送らねばならぬ。多くの指導者が奪はれた今日、我々は全体として、政治的にも、組織的にも統一されてゐなければならぬ。中央部の決定は各組織からの協力によつてのみ、より完全に近いものが出来上るのである。即ち、全体の集団的統一的労作のみが党の正しい決定を作り出すのである。従つて中央部の決定は各党員全体が責任を負はねばならぬものである。我々は一つ一つの決定に対して実に敏感であらねばならぬ。それは、各党員がそれぞれの決定に対して自ら責任を負はねばならぬからである。党の諸決定に対する無関心的態度に対しては徹底的に斗争されねばならぬ。メーデーに関する指令に於て、東京地方にある或る組合が我党の方針に反するが如きことを述べたのは、我党員の此の組合に対する指導が行き渡つてゐなかつたといふよりも、我党員の或人々が党の方針を正しく理解しなかつた点にある。党の方針を正しく理解することが如何に重要を流すものであるかはこれを以て見ても分るのである。

中央機関紙に発表されるもので、執筆者名且つ編輯局からの背批の記入がないものは、党中央部の集合的意見であることについて特にサト以前に述べた答である。たゞ個人の意見であつても中央部が編輯者はそれが党組織全体にとつて必要なりと考へる場合にはドシドシ発表する。そして、それらの中に間違つてゐる見解がある時には、特別の事情がない限り、その論文と共に、反駁文を掲げるのである。何故なら、我々の機関紙は単なる個人雑誌風のものではなく、日本プロレタリアートの前衛の政治的機関紙だからだ。かくすることによつて、我々は全体としての政治的統一を保ち得るのである。

然らば、中央機関紙に対する批判、意見の発表は如何にすべきか?更に之については本機関紙第四号で発表されてゐる批判の仕方についての論文を参照されたい。我々はこの論文を全体として正しいものと認める。

最後に、本機関紙に向つてレポを送ることは各細胞の義務であることを特に強調する。

党中央部は以上の如き欠陥を指摘して、次の如きことの必要を指摘する。

1、各細胞は中央機関紙に発表される重要決定に関して、それを検討し、細胞全体としての統一的見解を保持すること。

2、中央部の決定は直ちにその実践に移すべくあらゆる方法がとられねばならぬ。この場合、各組織は最大限に自己のイニシアチーブを発揮すること。若し中央部の決定に不賛成の場合には、一方に於て、その決定を実行しつゝ、他方に於て、党内の問題としてこれを上の機関に上申することが出来る。上申書を受取つた党の上部機関では、それに対して充分な注意を払ひ、間違つてゐる点に対しては、飽くまでシエか有効批判を与へねばならぬ。それは飽くまでも親切であらねばならぬ。かゝる場合、分派的行動は断じて許されない。

3、各地方、地区、細胞等、党の各級機関の組織は定期的に自己組織の政治的並に組織的活動を文書によつて上部機関に報告しなければならぬ。此の場合特に注意すべきはこの文書による報告の授受に於ける技術的方面である。非合法の条件は此れを要求する。

4、各細胞のオルガナイザーは党文書が党員並に非党員大衆に与へたる影響を注意深く観察し、それを一つのまとまつたものとして上部機関に定期的に報告しなければならぬ。各地方組織は是等細胞よりの報告をまとめて中央部に定期的に報告すること。

5、吾々は本機関紙を党の政治的統一のために最重要なものの一つたらしめんが為に、党員は党の活動展開に益する自己の見解を積極的に述べねばならぬ。政治的保留を持たざるもの、並に消極的な態度で自己の見解を述べんとするが如きことは今後改められねばならぬ。

6、党員、党機関紙代は必ず納入されねばならぬ。三ヶ月以上党費を納入せざるものは党員としての資格を自ら失ふものである。

7、以上の事柄は本決定の発表の日より直ちに実行されねばならぬ。各細胞は、本決定を受取つた日より一週間、各地区は二週間、各地方は三週間以内に全般的報告をそれぞれ上部機関に報告することを中央部は各組織に義務づける。

日本共産党
中央委員会

即時婦人部を設置せよ!

世界大戦以前、日本資本主義が発達した諸条件は、広汎な勤労婦人大衆を家庭労働の地位から工場労働へと急速に引き出した。現在婦人労働は日本資本主義経済の最も重要なる原動力である。

婦人労働の加重化は、失業問題に、戦争の切迫に、凡ゆる労働問題の領域に於て勤労婦人の問題を前面に押し出した。我々は最早勤労婦人問題の解決を、プロレタリア階級の一般的政治的経済的利害から切り離しては断じて考へられない。

ファシスト御用婦人組織及、左右の社会民主主義者、改良主義組合の幹部共は、婦人労働者の問題をば、ブルジョア階級の有閑婦人を先頭とする一般婦人との共同の議会運動によつて婦人の状態を改善するとなし、労働、街頭的婦人運動の思想に解消させようとしてゐる。それは、特殊階級の婦人の利害の階級性を隠蔽し、プロレタリア婦人と、ブルジョア婦人との間の階級性を曖昧にするのみならず、現在婦人労働者の革命的意識と斗争に[illegible]らせ、一般革命的労働運動から引き離しているのだ。一種の家族的婦人組織も亦、その本来のあきらめ主義、保守道徳主義と、口実主義によつて、旧い[illegible]制を合性してゐるのだ。我々は、勤労婦人の利害の階級性をはつきり示し、[illegible]階級対有産階級の政策による。工場、農村を基礎としての強力なる革命的婦人運動を対立させる事によつて、此等の反動的婦人組織と決定的に斗争し、勤労婦人大衆をブルジョアジーの手先共の影響から引き離し、最速に我々の陣営に獲得せねばならない。

我々の当面のキンキュウ任務は勤労婦人を革命的労働運動へ引き入れる為に独特に近づく独自の形態と方法の創設である。我党すべて、共青の上から下までの凡ゆる指導機関は即時婦人部を設置せねばならぬ。全協及革命的反対派の上から下までの指導機関も亦即時、婦人部 責任者を設置すべきである事を言ふまでもない。我々は、繊維、食料、化学、交通、金属、其の他の産業その他の仕事場及農村に於いてゐる婦人労働者並びに貧農並に農村婦人、種々の形式の搾取による極度の貧困に悩めつけられてゐる都市婦人へ中農貧農婦人の間の活動を条件に適応化し、具体的に展開せねばならない。

専門的な婦人部によるその活動が絶対的に必要であるといふことは、勤労婦人を革命的労働運動へ引入れる為には、我々は その搾取率に於て方法に於て、奴隷状態に於て世界的に有名なる、日本婦人労働者の特別な条件に適応し、その特殊条件に適応した方策の下に組織を遂行しなければならないからだ。だから、勤労婦人側の活動者(特に婦人部活動に関て)一般の労働者の日常階級斗争と合流して考へたり、並行しようとする如きどんな小さな現れも絶対に許されない。

党、共青の地方、都市、地区、細胞の指導部は即時婦人部、責任者を設置せよ。党中央部婦人部とのキン密なる連絡と指導の下に強力なる活動を展開しなければならない。

全協の地方、都市、地区、工場の各産業別指導部及び改良主義組合の中の的反対派 特に全協の革命的組合員、同志諸君は右翼改良主義の指導者による、革命化せる農村の勤労婦人の斗争と農民の土地への斗争から切離し、プロレタリアートの一般的階級斗争から孤立させようとする婦人部撤廃の意図に対して徹底的に斗争しなければならない。此等の組織は即時革命的婦人部責任者を設置して、党、共青の婦人部の直接指導機関の下に強力な、生きくとした本格的活動を遂行しなければならぬ。我々の方向は常に工場の中へ!大衆の中へ!でなければならない。

コミンテルン支部日本共産党婦人部万才!

国際共産青年同盟支部日本共産青年同盟婦人部万才!

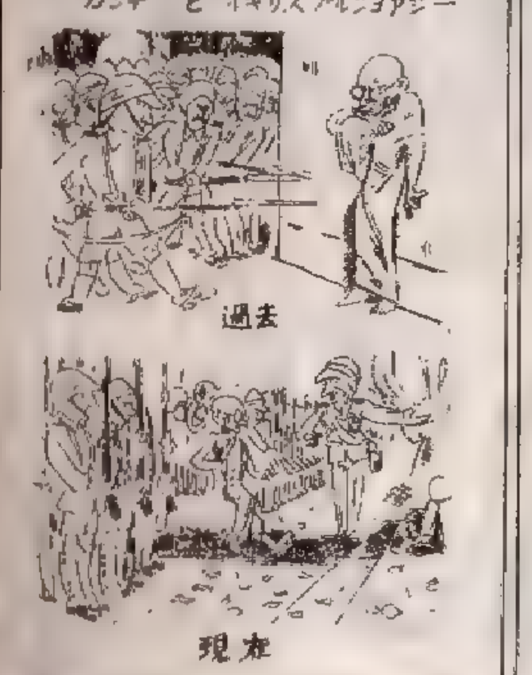
プロフィンテルン日本支部全日本協議会婦人部並に改良主義組合の革命的反対派婦人部万才!

全協婦人部独立の確保を獲得せよ!

革命的婦人運動万才!

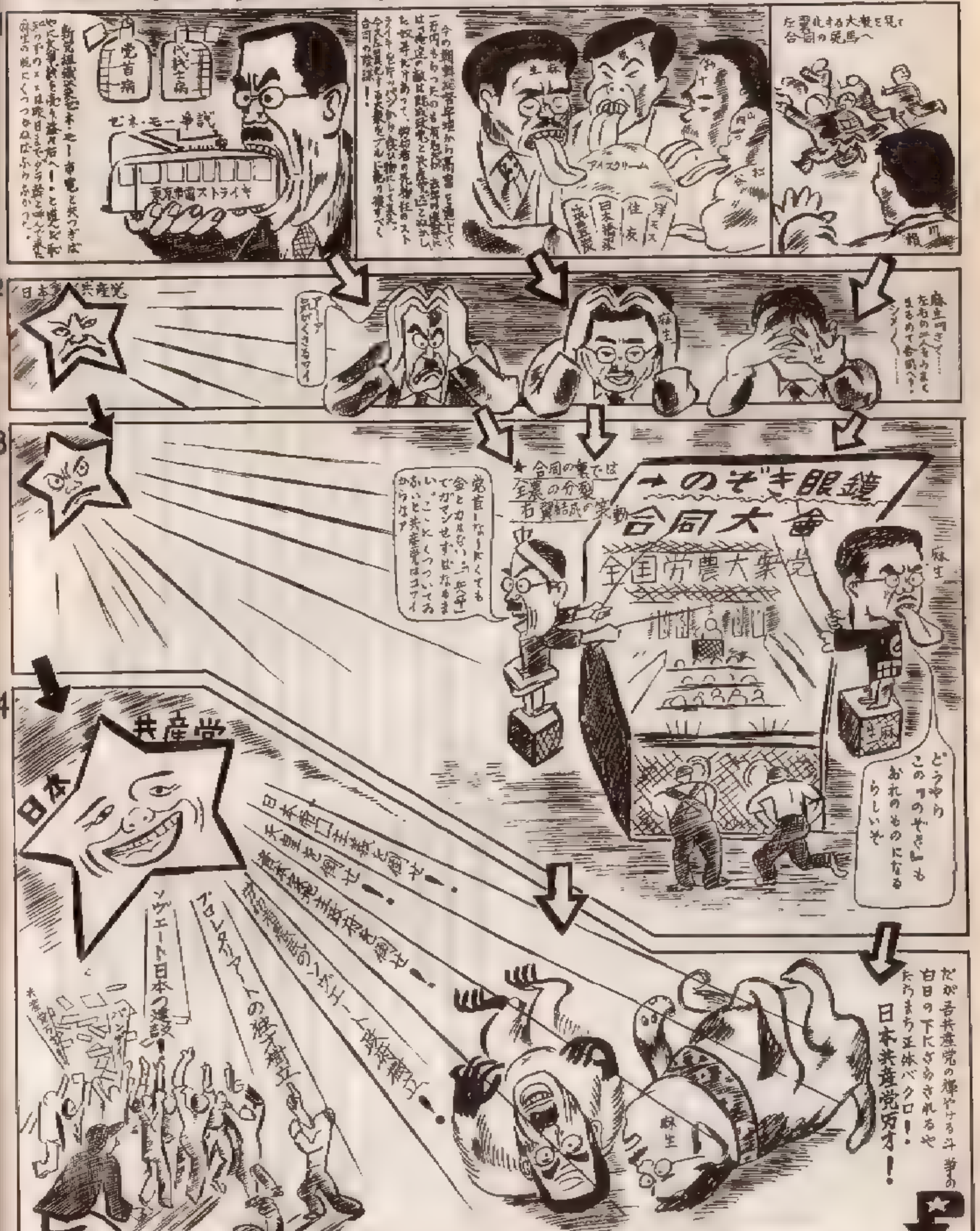
ガンヂのロンドン談判が最近に行はれる事故ブルジョアに一層と従属させれる。しかも彼の背後は全く破壊であることまで。インドのプロレタリアを英帝国主義に売つた彼はあへなことまでしてインド民族資本家のおくれたプロレタリアートを[illegible]むかうとして[illegible]闘争激化せよ!インドの[illegible]闘争を[illegible]せよ!ガンヂ主義を[illegible]!

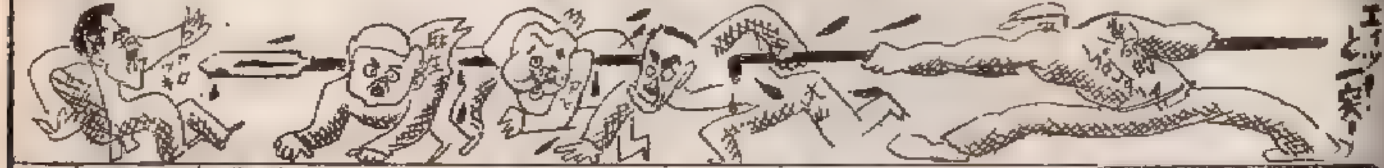
ガンヂ と イギリスブルジョアジー



過去 / 現在

赤旗絵附録　全国労農大衆党粉砕！日本共産党万才！







鉄の火花

↑日本プロレタリアートの父　片山潜

全協分会は

宗派的孤立主ギを克服して　大衆的な分会にならねばならぬ

月阪生

プロフイチルンの全協分会に関する決議が発表されてから、半年以上の期間が過ぎてゐる。全協はこの決議を系統的に企業内に於て実践しようと努力してゐることは充分承認する（狭反斗争、メーデー斗争等で）が未だ〜不充分にしか実行されてゐない。筆者は最近極く短期間二つの工場で経験した全協分会及び革命的反対派の活動を可能なる限り具体的に述べ筆者個人の一般的結論を下して同志諸君の参考に供しよう。

前述の二つの工場の一つは千名程の金属工場であり、一つは数千人の口家企業であるから、何れも日本帝口主義にとつては重要な部分である。

例一、金属工場から述べやう。

この工場は社会ファシストの指導する組合のオール（シメツケ）工場である。メーデー直前に数十名の首切りがあつた。これにブンがイもた従業員は一挙ストライキに移らうと青年部の戦斗的分子が中心になり従業員大会を開いたが、ダラ幹は「この不景気では、ストライキをやつて負けるにきまつてゐる」とか「労働者にとつてストライキより大切なメーデーを控へてゐるから」やれないとか「組合はストライキをやるのが目的でなくて、資本家と交渉してまとめるためにあるんだ」などと幽霊団体的なことを云つてストライキ前に之を圧殺してしまつた。この職長の前で見た青年部の戦斗的分子は「こんなダラ幹に握つてゐては駄目だ。吾々は刷新会を作つて反ダラ幹斗争をやらねばならぬ」とメーデー直後自然発生的に十数名が中心に刷新会が結成され機関紙を自分達のイニシアチーヴで出したのである。（これらの同志は殆んど党、全協支持である。だからこそ筆者は問題にするのだが）所でここに問題となるのは次の事実だ。大分後になつて判明したのだがこの工場には全協加盟の反対派が五、六人ゐたのだ。而も彼等はこの大衆的な刷新会運動に少しも参加してゐない。又一般従業員から一段高い所に止つてゐるのだ。だから、この同志達が反対派をこつそり作つても大衆はちつとも支持しないが、全協と何等組織的連絡なく全く自然発生的であるにも拘らず前者の刷新会の方がより大衆の信頼がある。といふこの事実である。

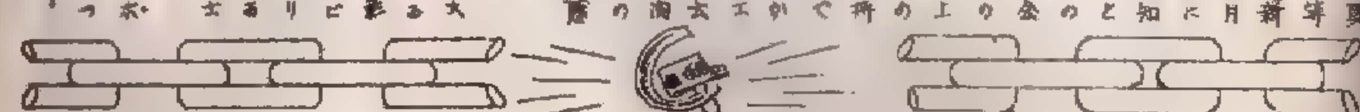
註、この工場には左翼刷新会のドサイケトが会員が二百数十名ある。

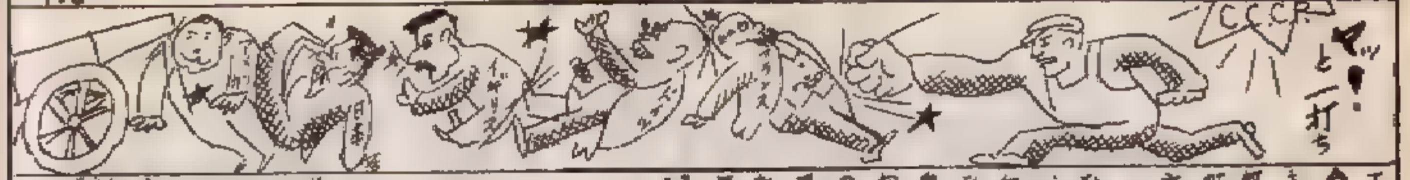
例二、次の数千人の口家企業内の職場に於ける例は、やはり自然発生的に読書会グループを九名ばかりで組織して全協と連絡をつけようと色々苦心してゐる時に職場外部の同志と個人的接触をする様になり、早速この同志のイニシアチーブで読書会を職場別に整理して二三の職場に分会の準備委員会を結成し、分会のスローガン等を決定したばかりでなく、工場新聞の編輯部を非合法的に作つて月三回新聞を出した。（こゝに刷新に全協の分会があると云ふことを知りあいでこれらのことをしたことは勿論だ）一ヶ月後には、工新の読者は、数倍になると同時に分会員の一人が読者に獲得され、その分会員はこのことを上部の人に上申した所が、上部の同志は、この工場新聞の内容（党、全協を支持してゐることは一目瞭然だ）で現定せずに「署名が全協でないから丘員の新聞ではない」と云ひ工場新聞の読者を直ぐ刷局分子だと云つて排撃した。それで少しの期間中自分達の創意を示したこれらの人達が、分会の人達に不審な感じを持つた。

結論

この二つの例で、現在労働者大衆の左翼化が如何に前進してゐるか、にも拘らず、全協の組織的影響は全く之に比較にならぬ程ビ々たるものであることがハツキリ解る。（この大衆の革命化を認めることの出来ない奴に宗派主義の紳士諸君がゐる。）

この二つの工場では、何んもポンモノの分会は大衆から浮き上つた宗派的グループであることだ。分会は特に例一に於て然りだ。





工場内に於ける気運をあらゆる場合にとらへて指導せねばならぬにも拘らず、例一の工場では全協は何もしてゐない。これでは、左翼が企業内で権威を獲得するなどと云ふことは夢の様なものだ。

例二の場合の如き、例田氏にくむ余り、神楽連盟に於いて闘ふよい意志を持つくせつてゐる同志に向つて充分論争もせずに私闘のレツテルをはるなどゝは結局全協自身が分派行動をやつてゐることだ。（筆者はこれを聞いた時、例田の余金のある多くの工場でこんな風に——労働者の要求を基礎とした斗争による統一戦線でなしに——口先だけで例同々々と繰り返す様な手等しかやつてゐはしないかと反省に寄へた）

これ等は要するに組合活動に関する党の政治的方針が宣伝、普及ど実行されてゐない事を証明してゐる。我々は大切なしに直ちに党の決定に従ひ大衆的活動方法へ転換する事によつてこの様な宗派主義——これは政治的には党と組合との関係の混乱から生れ、この混乱を益々大きくしてゐるものだ——を徹底的に克服しなければならぬ。党が最近発表した政治テーゼ草案中の組合運動に関する政策は我々の最も輝ける指針となるであらう。

一九三一・六・二八

外國語に就いて

××× ××子

私が今言はふとする事は極んの一寸した小さな事である。それは四十四号で政府テーゼ草案発表に当り革命的労働者諸君に檄す！の中にカリカチユア、プロヴオケートターと云ふ二つの新しい（少くとも私自身には）外国語が知識なしで使用されてゐる。以前にも、たしか三十五、六号に一つのドイツ語があつた。それがドイツ語であり意味があつたので知る事が出来たが、現在では、そうした便利が得られぬので理解出来ないまゝになつてゐる。タッタ二つの外国語のワケをわざく質ぬ赤旗の記事をきいてまで、しかも次の号まで待つて理解すると云ふ事を果して政治的にも、組織的にも、吾々、プロレタリアートがやつてゐても良いのだらうかと云ふ事だ。

我々はプロレタリアだ。我々は如何にムヅカシイ事でも、如何に困難な事でも勉強して覚えねばならぬし、やり通して行かねばならないのだ。我々は決して、俺は労働者だからこんな文章は理解出来ない。それはインテリ的だ、労働者の様にはわからない、と云ふ事を云つてゐるのではない。如何に労働者にわかり易く！と云ふ事が強調されたと云つて、我々労働者（革命的）自身がそれにせまる事は許されない。革命的プロレタリアートは自身の言葉に広告するあらゆるものを獲得し、それに精通せねばならないのだ。だから、赤旗初め凡べての革命的出版物は、労働者が斗争の途上において知らねばならぬ種々なる政治的、経済的学術語や外国語を使用する時には、それが未だ労働者間にあまり普及されてゐない様な言葉であつた時には必らず（　）の中に適当な和訳をそへるべきである。こんなつまらぬことで、二度と貴重な紙面をさかないですむやうにして欲しい。

一九三一年七月一日

ソヴエート
五ヶ年計画の
寫眞
を
大衆的に
工場に入れろ！

大阪市委員会
第一地区
第一街頭細胞

なれ等は小工場に働いてゐるものでシカクなしに街頭細胞を作つて大工場にもうく働きかけてゐる。ところが今までおい等が働いてゐた工場はミンナ封建的な意識の強い労働者が沢山おつた。それでソヴエートの写真のすばらしい五ヶ年計画のことを話し新聞や雑誌を見せてソヴエート問題を持ち込んでのスローガンをアジプロしても次のようにいつて仲々効果があがらない。「新聞や雑誌はお前等社会主義者が出してゐるんだからロシアのことをほめるのはあたりまへやないか」と。

それでおい等が思ふには事実を以てソヴエートの発展を知らす以外にない。ドイツやアメリカ辺では労働者が工場から選出されてソヴエートを実際に見に行くそうだが、このように出来れば一番よい。だが、言い等は仲々出来そうでない。しかし大衆はソヴエートの事実を情報しないのだから、どうしても事実をしらさなければならない。そのためには今までのやり方ではあかん。ところがこゝに甚だ良い方法がある。それは改造の四月号にのつた五ヶ年計画の写真だ。実にすばらしい写真がウンとのつてある。あんなものをブルジョアの雑誌にのせて労働者に見せずにおくことはおしい。否、あんまりだと思ふ。それでおい等がおれ達を出したらよいと思ふ。雑誌からでもよい。始めにこの写真は、ブルジョアの雑誌改造にのつたものだとヘッキリ書いておく、そして中の写真の説明もキット階級的立場からアジるやうに書き直して工場農村にばらまく。革命的労働者がこの写真を見せながらソヴエートのことを話したらサスガの大衆も資本家地主が一臨しなくとも労働者が権力をとればこんなに立派にやつてゆけるんだと云ふことをハッキリ教へられる。こうしてのみスローガン、ソヴエート同盟を守れ！・失業と飢餓の天皇制資本家地主の政府を倒せ！・労働者農民のソヴエート政府を作れ！・プロレタリア独裁万才！が具体的に生き〳〵と理解されると思ふ。

ブルジョアがやつたことをおい等が利用するとはふんとユカイではないか。現在ソヴエート同盟に対する反革命戦争の危機は益々高まつて行つてゐる。おれ達は何よりも、ソヴエート同盟ヨーゴのために戦はねばならないのだから、このことは絶対にやらなければいかんと思ふ。ロシア革命記念日にでも出してくれゝばうんと効果があるだらう。

一九三一・六・一六



『赤旗』を讀みて

大阪×××× ××生

号を追ふて毎号スバラシク良くなつて行くので嬉しく又心強い。現在の全協のメンバーは一人残らず読ませねばならない気がする。次に若干の注文を述べて見たい。

機関紙労働者や大衆各々がブル教育としては中等教育さへも受ける機会を奪はれてゐる者ばかりだ。尋常小学を卒へる機会を奪はれてゐる者だつて決して少くはないのだ。そればかりではない、彼等は一日長時間を工場農村の職場で働かされて帰宅し出勤具を休ませる暇もなく、読書することを許さなくされてゐるのだ。編輯局の同志諸君は此の点に充分の注意を払つて欲しいものだ。

一、労働者新聞に振りカナをつけて呉れ、との工場職場からの要求は決して伊達ではないのだ。振りカナのついてゐる新聞を配布してゐた時今でも見出しに振りカナをつけて呉れと先鋭労働者の大衆から要求されたことを言書者は極秘記憶する。然かし、ある一時期には毎号「赤旗」を読むで聞かせてゐるのだ。振りカナのついてゐない、然し言葉な文章は読んで聞かせるの振りカナを付けてやつて読ませてゐるのだ。此方一刷も文字こそ読めはしないが、斗争の経験を有ち、戦々、文献を通じて共産主義者たらうと努力しつゝある、而も、現に工場で日常活動しつゝある尊敬すべき同志なのだ。現在二十前後の青年の間では、こんな例は珍らしいだらうが、三十才を越えた、而して子供の時から工場でタゝき上げて来た労働者の間ではこんなことは決して珍しいことではないのだ。現在の青年でも振りカナがない為に新聞も本が読めなくて困つてゐる者の中に職場婦人労働者が非常にある。

吾々は是れ等の労働者をも組織に獲得しなければならないのだ。編輯者にそうしたことを意識に置くならば、六ケしい政治のものでも出来るだけ砕いて、易しく、判り易く、書く様に努めねばならぬと思ふ。態々ワザ六ケしい言葉を使つたり、一般的に日本語化してもゐない又は一般労働者に知られてもゐない外国語を説明もなしに他国語其他に載せてはよくないこと、それは党又は党に近い団体の指導者に対する不親切だといふことも判るだらう。

日本共産党の『赤旗』が工場職場の奥深く持ち込んで真実に大衆化しやうと思へばモツト〳〵編輯に努力せねばならない。

それは編輯局や中央指導部だけの責任ではない、彼之全党員の具体的協力に待つものではあるが。

全党員は『赤旗』の編輯に積極的に参加せよ！
工場職場からの全党員の参加によつて『赤旗』を大衆化せよ！

一九三一・六・二八

Пролетарии всех стран соединяйтесь
★万国の労働者団結せよ！

週刊
赤旗
第49号
國際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

目★次

▼ソヴエート同盟へ労働者代表団を派遣せよ！……一頁
▼ドイツに於ける階級斗争の激化……二頁
▼婦人欄について……六頁
▼鉄の火花……七頁
▼絵附録

ソヴエート同盟へ 労働者代表団を派遣せよ！
―アルメニア震災慰問金募集カムパニアの継続として―

「吾々が無視するものは喰ふべからず」と云ふ原則はブルジョア制度と根本的に対立する。そこでは（即ちブルジョア制度の下では――筆者）反対に、支配階級の中の働かないものが世界中のあらゆる富を享受しており、実際に働いてゐる人々は喰ふや喰はずに生きてゐる。彼は最後の一切れのパンすらも奪はれてゐる。失業者が増大に増加してゐる今日、資本家共の所では前の原則「働くものは喰ふべからず」が進行してゐる。我が国（ソヴエート同盟――筆者）では、以前に支配者であり、金持であつたものにも労働することを義務付けてあるプロレタリア的原則が実行されてゐる。」この両原則の中、どちらが労働者の気に入るか？労働者自身に聞かうではないか。何処の国の労働者にでもいゝから之れに就て質問しようではないか。何処の国からのものでもかまはないが労働者自身に依つて選出された労働者代表団が我が国に来、そして我が国の労働条件を親しく知ることが必要といふ事だ。我々は平等の権利の上に立つてそのことに賛成である。我が国の労働条件か、それとも他国の条件か、何れがよいかに一番多く興味を持つのは誰よりも先づ労働者である。我国へ外国の労働者を来させるか、来させないかを自由に決し得るものをして、我国の労働者に右の事を可能ならしめて見よ。我々は平等の立場に立つて、外国の国家が我国の労働者に対しても右様の可能性を与へられんことを要求する次けである。（拍手）、我々は断乎として声明するが、我国及び資本主義諸国で行はれるかくの如き観察（即ち労働者代表団の）の結果として、我国及び外国の労働者の労が得たところの凡ての材料を除外例なしに公表する為に万全を期して協力するものである（拍手）。

現在、ソヴエート同盟には中傷誹謗行があるが、ソヴエート同盟にはこの中傷者の果してこの提案に賛同するであらうか、我々は疑ふものである。彼等の目的は正しい事実をつきとめることではない。彼等の任務は、ソヴエート同盟に対する敵対的関係を作り、ソヴエート同盟に対する攻撃を準備することにある。（同志モロトフの報告演説より）。

ソヴエート同盟政府は、如何なる国からのものであらうとも、労働者自身に依つて選出された労働者代表団である限りは、喜んで入国を許可し、一々現場で、事実で、如何なる条件の下でソヴエート同盟の労働者（そして勤労農民）が働いてゐるかを紹介すると云ふ態度をとつてゐる。資本主義国家では、ソヴエート同盟の労働者代表が我国に来ることを全く禁止してゐると云つてよい。特に日本の支配階級はこのことを絶対に許しまい。彼等は赤化防止の為だと。労働者は事実に依つて知る。支配階級はこのことを恐れてゐるのだ。ソヴエート同盟の労働者農民が真実どんな生活をしてゐるか？この問題は日本の広汎な労働農民大衆にとつて実に興味あるものである。

ブルジョアジーと社会民主々義者は口を揃へて言ふ「ソヴエート（彼等は常にロシアと云ふ。ソヴエート同盟と云ふことは殆んど少い）の労働者農民は飢餓の状態にある。ボリシエビキの圧制下にあつて苦しんでゐる。五ケ年計画はコケオドシに過ぎない。ロシアの魔の手が忠良な日本国民の上へも延びんとしてゐる」と。

我々革命的労働者は言ふ「ブルジョアジーや社会民主々義者の云ふことは全く事実に反する逆宣伝である。五ケ年計画のスバラシイ発展は労働者農民の経済的政治的社会的福祉の増進である。ボリシエビキ党は一億余の労働者農民大衆より絶対の信頼を得て戦争の先頭に立つて戦ふ戦斗的部隊であり、指導部である」と。

今日まで、日本の労働者代表が農民代

Пролетарии всех стран соединяйтесь
★万国の労働者団結せよ！

表者は全く労働条件についてソヴエート同盟に対する出任せな言ひ方をしなかつた。そして、それらの代表者達もソヴエート同盟の労働者農民の生活を全く狭い範囲の人々にしか告げ得なかつたのである。限りある出版物――それすらも妨害を蒙る。当局は禁止やら何やらして居るのだ――に依つて、ソヴエート同盟の現状を知る事は全く困難である。けれども、このことはやはり我々の義務である。何故なら日本の労働者農民大衆はソヴエート同盟の現状を知ることを要求してゐるからである。

ブルジョア新聞や、ブルジョア雑誌ですら、最近は、ソヴエート同盟の成功を否定し得なくなつた（『五ケ年計画』中央公論の最近号参照せよ！）。だがそれも全く限られた範囲でである。我々労働者は自らの代表者を直接にソヴエート同盟に送り、彼地に於ける労働者農民の生活を親しく探し得させねばならぬ。そして日本の労働者農民の生活と資本家地主を打倒し、プロレタリアートが政権を握つてゐる国の労働者農民の生活とを比較しなければならぬ。その時に、何故、日本の労働者農民大衆は飢死寸前に置かれてゐるのか、如何したら今の状態から抜け出し得られるかをハツキリと理解し得るであらう。

ソヴエート同盟政府は日本の労働者代表団（貧農の代表者をも含めて）の入国を喜んで許可すると声明してゐるのだ。若し妨害するものがあるとすれば日本の政府である。我々は断乎として叫ばうではないか「ソヴエート同盟へ労働者代表団を送れ！！」と。

此のカムパニアは出来る丈け公然と行はれねばならぬ。改良主義的組合員大衆の間でも、未組織労働者の間でもこのことが公然と叫ばれねばならぬ。赤色労働組合、又は其の他の左翼団体員のみにこの運動を制限することは誤りである。工場、職場を基礎として大衆的会合を開催し、此の問題を審議しなければならぬ。社会ファシスト、改良主義的幹部は、日本共産党及び全協の策動だと云つて妨害するであらう。支配階級は、不穏な行動として弾圧するであらう。だが我々は断々乎として労働者大衆の間で仕事を進めねばならぬ。そして、官憲、幹部がこの運動を妨害するかを大衆に暴露しなければならぬ。

「ソヴエート同盟の労働者農民の生活に親しく接することは我々日本の労働者農民大衆の要望である。だから、我々の代表者団を送らうといふのに何が悪いか。工場から農村からソヴエート同盟視察の為の代表者を選べ！！」

このカムパニアを成功的に行ふために、日本労働組合全国協議会、モツプル、全国農民組合全国会議、反帝同盟、日本共産青年同盟が協力することは最も重要である。又、最近組織された「ソヴエート友の会」も本部の団体と歩調を合して活動すべきである。

ソヴエート同盟へ送る労働者代表を職場の中から選び出せ！
労働者代表を送る基金を集めろ！
一切の妨害を粉砕して労働者の祖国ソヴエート同盟へ我々の代表者を送れ！
アルメニアの震災慰問金をこの労働者代表団に委託せよ！

独乙に於ける階級斗争の激化（一）


（演説中のドイツ共産党中央委員長 同志テールマン）

米国大統領フーヴァの先に於て提唱された賠償金、戦債の一ケ年間支払延期は、今や世界帝国主義者間の注意の焦点となつてゐる。フーヴァの提案はドイツの財政的危機を救済する為であると云はれてゐる。けれども、これは全くウソである。世界帝国主義者達が恐れてゐるのは、実は（ドイツ）を搾取するのは、ドイツのブルジョアジーと地主達の飼ふ……（ドイツ）を救済するのは……つて自国で救はんが（正確に云へば、それぞれの国のブルジョアジーと地主達）為に外ならぬ。故に今回のモラトリアム提案を、『アメリカの人道主義』の女神の救世主の世迷言を以て説明せんと試みるが如きは事物の本質（資本主義的支配の危機を打つてゐる）をおしかくさんとするものである。

一九一四――一八年の世界大戦でドイツは英米帝国主義の為に敗北し、戦後の賠償はすべて労働者階級と勤労農民の双肩に負はされた。戦後ドイツのプロレタリアートはまだ強固なボリシエビキ的党を有つてゐなかつた。僅かに、社会民主党（第二インタナショナル内の指導的党であつた）内にカール・リープクネヒト、ローザ・ルクセンブルク、フランツ・メーリングの組織せるスパルタクス団があつたに過ぎない。そして一九一九年一月十五日には、リープクネヒトとルクセンブルクは反動家の為に虐殺されたのである。当時尚ソヴエートロシアは国際帝国主義の武力干渉の下に苦難の途を歩んでゐた。この苦難の斗争が明るい光明を目標にして進んでゐたのではあつたけれども、ドイツ（のみではない）のプロレタリア革命の為に駆けつけることは出来なかつた。（我々は前やロシア革命が

与へた重様の影響に就つて述つたドイツ、フィンランドの革命を一般的に論じてゐるのではなく、プロレタリアートの勝利と云ふ見地から述べてゐるのである）。ドイツ社会民主党の首領シャイデマン、ノスケ等々は資本主義ドイツの快復の為に革命的労働者を裏切つた。

一九二三年十月ハンブルグに革命的暴動が起つたがこれも亦プロレタリアートの力が弱く、社会民主党の裏切りに依つて敗北に終つたのである。労働者大衆の生活は極度に低下されてゐた。このドイツの階級的危機を救ふ為事は、ドイツ共産党の危機の前後の政策から救ひ出すことであり、それは同時にこのドイツの革命的危機が養すであらうところのフランス、イギリス等の口々に於ける危機を救ふこと、即ち口際帝口主義を救ふことを意味するのであつた。ドーズ案が実施される事になつたのはかうした事情の下に於てゞあつた。ドーズ案の実施はドイツの経済状態を表面上恢復した。賠償金は労働階級の犠牲に於て支払はれた。

然し、ドーズ案は（一九二四——二八年）はドイツ資本主義の持つ矛盾を解決し得なかつたばかりではなく、より一層拡大再生産したのであつた。そして、この矛盾を緩和でも和らげるう（少くとも和らげられるかの如く戦はせる為に）としたのがヤング案である（一九二九年——）。此の案による償ドイツは[illegible]

九億三千六百万ライヒスマルクに賠償金を削口へ支払ふ義務を課せられてゐるのである（四代表四八月号）。それがドイツの被搾取大衆に対する徹底な収奪であり、収奪と貧窮のドン底へ埋めて置かんとするものであることは疑ひない。ヤング案の本質をベクロし、ドイツの被圧迫大衆を永久にかゝる搾取と屈辱とから解放する方法はプロレタリア独裁のみであると主張し、その為に活動したのはドイツ共産党であつた。ヤング案を支持し、ドイツ及び口際帝口主義者の利益の前に屈伏する労働者大衆を犠牲にすべきことを弁論したのはドイツの社会民主党であつた。ヒンデンブルグ大統領を支持し、ベルリンの革命的労働者に機関銃の弾丸を浴せかけたものこそドイツ社会民主党のツエルギーベルであつた（日本の社会民衆党の指導者達が口を揃へて賞揚してゐるのがこの社会党であり、今度出来た全口労農大衆党書記長麻生久がアゴダシの的にしてゐる警視総監はこのツエルギーベルである）。

同志テールマンが議会に於て、四十月革命の途のみがドイツのプロレタリアートを解放すると宣言したことは衆知の事実であり、ドイツ共産党は正にこの為に斗争して来た。ヤング案の実施は、その後幾何もなくして弾圧へた世界的経済危機に依つて益々ドイツの経済状態を悪化した。それは政治的危機をハランでゐるのであつた。資本主義口ドイツは世界帝口主義体制の最も弱い一環を形成する。帝口主義体制はその一環を締付けられることによつて全体に被害を受ける。故に、ドイツの経済恐慌は[illegible]はヨーロッパ、アメリカの資本[illegible]として又、日本資本主義）にとつて決して対岸の火災ではないのである。フーヴァーの提案はドイツ資本主義を救はんが為のみでなく、自らを救ふものであると云ふ所以は此に存る。

(二)

何れの口でもさうだが、殊に資本家地主に依つて支配されてゐる限り、経済の復旧、独特の発達は人口の大多数を占めてゐる労働者、貧農[illegible]の広汎な大衆の犠牲によつてゐる。ヤング案の実施は労働者階級に対する更なる経済的攻撃であつたのみならず、この経済的攻撃を保証する為の政治的攻撃であつた。而して、その中心点はドイツ共産党に向けられたのである。コミンテルンが、現在、合法的に存在してゐる諸口の共産党も常に非合法の下にも存在を続け得られる様に努力すべきことを注意したのは全く正しかつた。ブルジョアジーは、[illegible]議会に依らでも勝手に法律を改悪したり、又新しく作つたりするのである。時には彼等自身が作つた法律をすら無視して弾圧するのである。ドイツ共産党はドイツ社会民主党に支持されてゐるブルジョア政府との斗争に於て、プロレタリア独裁の旗印を高く揚げてゐた。「労働階級の要求を擁護する五カ年計画は、我々の要求を擁れてゐる大衆の水準にまで引き下げることではなくて、プロレタリアートの終局的目的と現実の要求とを巧妙に結び付けて斗ひ、この斗争を通じて群衆を党の側にオルグナイズすることである。」

ヤング案を実施するあとに、ヒンデンブルグは所謂第四十八条（革命運動弾圧令）を濫用した。一九三〇年十二月には緊急勅令を以て、増税、官吏の減俸を断行した。そして一九三一年六月には再び増税、失業保険支出金の減少、官吏の減俸を緊急勅令を以て公布した。ブリューニング政府は危急に瀕し口際的に大混乱に陥らんとした。（同上）。

ブルジョアジーの攻撃は賃銀値下げ、労働大衆的解雇、失業保険金の減額、労働者の解雇等々に現はれた。之に対する労働階級の逆襲はドイツ共産党の指導の下に勇敢に組織された。社会民主々義者の裏切り的行為は、ドイツ共産党及び革命的反対派が経済斗争を独自的に指導する事に伴つて、大衆の前に益々バクロされて行つた。かくてドイツ共産党は、工場委員会選挙戦、失業反対口際デー、メーデー反戦デー等に於てその偉大な組織力を示した。

資本主義ドイツがどんな情勢に置かれてあつたかは四代表八月号の四世界情勢を見ても判明する。一九三一年三月二八日に政治的騒擾を禁圧する勅令がヒンデンブルグ大統領

の如くにして暴動せられたが、それの影響したものは一層の階級斗争の尖鋭化であつた。その後ドイツの各地方には毎日の如く小暴動が起つた。警官とファシスト団対労働者の衝突は至る所で起り、その度毎に双方からは死傷者を出した。「政治的諸集団の事実を並べ（ブルジョア的報道を基礎としたものであるが）次の如く、述べてゐる。

「政治的騒擾禁圧令に基く政治的弾圧の犠牲は十五名の死者と少くとも二百名に上る重傷者と、数千名を遥かに越える軽傷者とであつた。一九二八年には政治的騒擾によつて生じた死者は八名、一九二九年には四二名、一九三〇年は五〇名であつた。一九三一年はこの割合で進めば此の数を越えるであらうと。

此の記者が「政治的騒擾禁圧令」の悪質そのものを政治的危機の現はれとして指摘してゐる点は正しいが、強に引継ぎされた暴徒の行為は明らかに鎮つてゐる。階級斗争の状態はかくの如き事数的に知り得るものではないからである。

我々は資本主義ドイツが如何なる情勢に置かれてゐるかを極く簡単に見た。我々はこの問題に関して、同志マヌイルスキーが第十一回プレナムでの演説を聞くことにしよう。それは本年初めに（四月）行はれたものであるが、各口に於ける情勢の評価をなすに、そして又、ドイツの情勢を具体的に説明するためにも必要である。

(三)

同志マヌイルスキーは次の如く述べてゐる。

「ドイツ——此処ではヨーロッパの資本主義口中帝口主義の最大の鎖環が判建した。革命的危機の諸前提は次の点に現はれてゐる。(イ) 資本の攻撃、食糧と失業に対する広汎な大衆の憤激、(ロ) プロレタリアートの革命的労働者の成長、共産党及び革命的労働組合運動の大衆的成長、共産党がプロレタリアートの階級斗争を独立的に指導するといふ任務に於ける顕著な発展（ルール）、(ハ) 階級的闘争の激発する合流。曾てレーニンが云つた如く、一切の政党及びその首領の自己バクロを伴つてきた。社会民主党の全面的、根本的、徹底的特徴付けてゐる。(ニ) 階級斗争の決勝化した結果ブルジョア独裁がより一層尖鋭な形態をとるファシズムへの転化（エホツユーション）。それはドイツのブルジョアジーが、社会ファシズムだけを大衆を甘かめる武器として利用してゐたのでは今迄通りに支配し得なくなつたことを説明してゐる。(ホ) ウエルサイユ制度とヤング案の緊張。

ドイツ共産党の貢献は、この党がドイツ勤労大衆の民族的解放戦の闘争を、被搾取の社会的解放、プロレタリア独裁の為の斗争と結合し得たといふ所にある。全勤労大衆の指導者として党のプ



プロレタリアートのこのプログラムは、大衆の日常利益の為の斗争とを結び付けるべく全ての革命的階級斗争の中心軸たらねばならぬ。

ドイツ共産党の中心任務は労働階級の多数獲得と社会民主党の大衆的基礎破壊を最大限に強めることにある。それに依ってのみ、より一層勇敢にプロレタリアートの階級斗争の独自的指導を——社会民主党や及び如何なる党にも属してない労働者を、下から作られる統一戦線の全ての機関に引き入れつゝ——展開しなければならぬ。ドイツ共産党は、労働階級が、その労働賃銀及び労働大衆の生活水準に対する資本の攻撃を喰ひ止め得ることを実践的に証明し得る程度ほど、更に、又革命的反対派及び階級的労働組合を最も大衆的組織へ、プロレタリアートの経済斗争の真実の指導者に転化せしめることに真剣な注意を向けねばならぬ。ドイツ共産党は、革命的反対派及び革命的労働組合がこれらの斗争を組織し、遂行し闘ふと云ふことを実践的に労働者に向って証明し得る程に強固である。最後に、それは、ドイツ共産党がドイツのプロレタリア革命に於ける同盟者の獲得と、都市及農村の小ブルジョア大衆に対する影響のヘゲモニーの為の斗争を今迄よりももっと大きな精力と速度とを以て継続すると云ふ事を前提する。ドイツ共産党は、ファシズムに反対する斗争を労働階級の全般的斗争と結び付け、又ファシストが侵入してゐる生産部門(化学、鉱山、鉄道運輸)に特に注意しつゝ、ファシストの大衆的組織を押し出める陣営を設けなければならぬ。

同志マヌイルスキーは、"革命的昂揚"政治的危機に就て如何なる国でもドイツ同題にふれてゐる。そこでは、革命的危機と政治的危機とを対立させて考へる事は誤謬であると指摘し、我々の報告では政治的危機と革命的危機との差別を付けなかったと述べてゐる。若し、ドイツでは、既に政治的危機は過去の段階に属し、直接革命の情勢に入ったといふ見地に立ったとしたならば、それは大きな戦術的誤謬である。何故なら、ざう考へることに依って、我々は通らねばならぬ複雑な段階を飛び越えることになるからである。けれども、又反対に政治的危機と(真実の)革命的危機との間に特別な段階があるかの如く考へるなら、それも誤りである。何故ならこれは段階論であり、ステラチル一派の右翼日和見主義に帰することを意味するからである。

革命的情勢とは何であるかを我々はよく理解しなければならぬ。主観的に如何ようありたいかと云ふことを客観的事実を無視しては言らぬ。又、改良主義者、社会民主々義者の様に、自己の職務からして、客観的事実や革命的昂揚を示してゐるのにその事を否定するといふやうな日和見主義に陥ってはならぬ。一口に於ける革命的情勢は、今日では、国際情勢の一部分として、従者との関係に於て冷静に考察されねばならぬ。更に重要なことは、客観的にプロレタリアートにとって好都合であると云ふことが必ずしもそれが直接に必然的にプロレタリアートの勝利に導くものではない。プロレタリアートが勝利を得る為にはプロレタリアートの政治的統一、即ち強固な共産党の存在が必要である。そして又このプロレタリアートが強力な同盟軍を有することが必要である。革命的情勢にとって必要なことは、只に被支配大衆が今までの様に生活出来ない、生きて行かれないと云ふ丈けでなしに、支配階級がすでに今迄通りでは支配し、君臨し得なくなると云ふ事である。我々は、同志マヌイルスキーの演説の中に、(我々がその前に据付ける段階から)の引用と結び付けて考へる時に)多くの教訓を得るものである。我々の同志の間に可撓光的な右翼的傾向がないやうにと特に一言するものである。

(四)

然らば今日のドイツは如何か?ブルジョア新聞はドイツに起ってゐるプロレタリアートの進出に対して騒んで警報してゐる。その意図は明白である。けれども我々はこの意識的な欺瞞と逆宣伝的報導の中からドイツプロレタリアートの英雄的活動をうかゞふことが出来る。

一九一八——一九、二三年の革命の経験(遠くは一八四八年)、一九三〇年のメーデーにはバリケード戦を行ったドイツのプロレタリアートは、その指導者として、ソヴエート同盟共産党に次ぐ強大な——政治的にも、組織的にも——ドイツ共産党を持ってゐる。ヒンデンブルグ、ブリユーニング、ファシズム、社会ファシズムのドイツ、そンな実のドイツ、資本家階級独裁のドイツは今や革命の直前にあると云ひ得るであらう。

プロレタリアートの解放か、ブルジョアジーの独裁か、共産主義か、ファシズムへ!社会民主々義か——問題は判然と立てられてゐる。独むプロレタリアートは、党あるドイツ共産党とコミンテルンの指導の下に立派な戦術家者大衆を率ゐつゝ、プロレタリア独裁へ向って驀進してゐる。

フーヴァのモラトリアム提案と帝国主義列強の代表者会議(ロンドン七ヶ国会議)はドイツ独裁の救済ではなしに、ドイツプロレタリアートの革命的進出に対する統一的攻撃とソヴエート同盟攻撃の為の帝国主義者共の会合なのである。こゝにモラトリアム事件の本質がある。

日本のプロレタリアートは、帝国主義世界に反対して蜂起せるドイツプロレタリアートの英雄的行動を全力的に支持すると同時に、我々自身が世界的社会主義革命の為に負はされてゐる今時での任務を遂行すべく努力せねばならぬ。

★ ★ ★

「婦人欄」に就て

婦人勤労大衆を組織化し、我々の組織に獲得すると云ふ事が、革命的プロレタリア陣営の当面の重要任務の一つであると云ふ事と、この為の有力なる武器として、我々の側にある凡ての新聞が、強力なる"婦人欄"を有たねばならぬ、と云ふ事に対して恐らく今日、疑ひを持つものは一人もないだらう。それ程に労働婦人大衆の重要性及び"婦人欄"の持つ意義と役割を理解しながら、実際に於ける"労働婦人"への冷淡さは"婦人欄"への態度にもよく現れてゐる。

我々の側にある凡ての新聞は、特に婦人労働者が多数ゐる工場の全民の各代表組織、及び工場新聞の凡てには"婦人欄"が是非とも活躍してゐなければならぬのに、事実は反対である。工場新聞、全協ニユース、全協各産業別の支部、本部の新聞、及び革命的反対派の新聞では"婦人欄"を有つてゐるのは非常に少ない。たまにあつてもものといへば断ひもそへつて居、機械的なほんのお座なり的なものばかりで、"婦人欄"らしいものは一つもないと云つても過言ではない。無青にも"婦人欄"がある。然し、最近のやうなので体裁をにも置めらねない。日本の婦人労働者の手くらい若い婦人である。無青に於て特に重要であるかを考へたいと思ふ。無青、同志達はどう思ふか。

"婦人欄"に職場からの色々な不平の投書をのせる事も勿論必要であるが、だからと云って欄そのものがまるで不平のこぼし場所の様になってしまってゐては困りものだ。これからは"ほうとするこそ体全体の革命的新聞に言へることなのだが、我々は"婦人欄"をもっと面白い、ためになる、充実したものにしなければならない。

就中、直接職場の婦人や農村婦人の手になって書かれた日常斗争の記事、批判、世界労働婦人の斗争の記事、ロシア的斗争経験の記事、ソヴエート同盟全労働婦人の生活の記事等で飾られ、そして日本の勤労婦人の行くべき道がハッキリと示されなければならない。

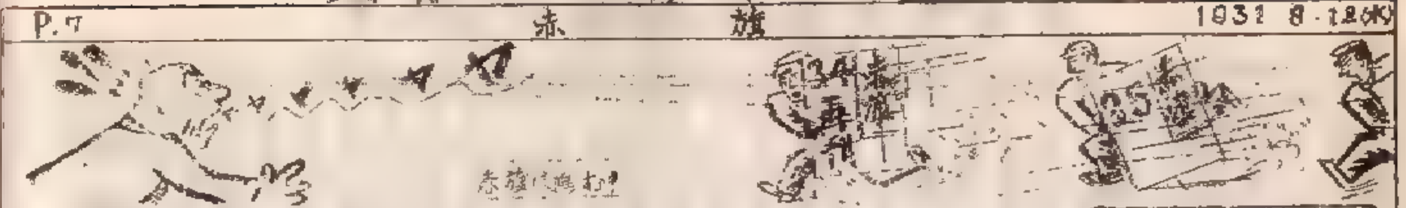
全国の各産業別本部、支部、分会の新聞、工場細胞新聞の"婦人欄"は現在の不平をこぼし場所の如き状態を速やかに改めねばならない。もっと革新、新、無青、赤旗等にのせられてある色々な記事、特に婦人労働者に関する凡ての記事を、自由に取入れて、自分々々の工場の場合にあてはめて理解し、"婦人欄"に生かして貰ふこと。一方、婦人オルガナイザーは、職場の婦人労働者達が自分達のために、更なる不平丈けでなしに、もっと良い記事が書ける様に指導し教育しなければならない。この仕事はそんなにむつかしくない。自分が考へて居る事、気の付いた事をどうまとめ、どう書くかと云ふ事を二三度、手をとって教へたら、すぐ書けるやうになり、忽ち上達するものだ。我々は"婦人欄"のすぐれた記事を婦人労働者の中から得る様にならなければいけない。

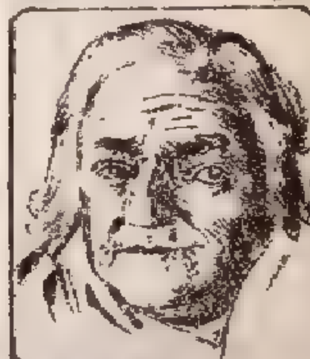
それから我々が、常に不思議に思つてゐるのは、婦人労働者がその大半を占めてゐるセンイ産業関係の我々の側の諸新聞に"婦人欄"のあるのが一つもないことだ。これはどういふ理由からだらうか?婦人労働者が大多数を占めてゐるセンイ産業の新聞こそ絶対的に"婦人欄"が必要である筈だ。もしもセンイは婦人労働者でその大多数を占めてゐるから特に"婦人欄"の必要がないと云ふのであったら、それは大きな誤りである。何故なら、センイ産業にも男子労働者が、婦人労働者の多数が、婦人労働者と同じ様な、或所ではそれよりもっと悪い労働条件で働いてゐる。婦人労働者がより多数だからの理由で、婦人の立場からのみセンイの新聞を貫く事は誤りである。又婦人労働者を最も重要としてゐるセンイ産業の労働者の血みどろな生命をかけた斗争は常に改良主義者の手によってプロレタリアートの最も弱い部分である婦人労働者の利益を犠牲とし ふみにじることによって妥協が結ばれてゐる。センイ産業の諸新聞こそ最も立派な"婦人欄"が要求されてゐるのである。

尚、婦人労働者が非常に少ない工場、或は全然ゐない工場の新聞にも"婦人欄"を創るべきかと云ふことだ。我々は然り!と答へる。そこにも工場より帰[illegible]る新聞の"婦人欄"は労働者の妻・家族への呼びかけと彼等の利益が常に考慮されてゐなければならない。

婦人オルガナイザーの諸君、我々は全協の党、共青、全協、革命的反対派の上から下までの凡ての機関紙に"婦人欄"を創設しよう。そして、それを婦人勤労大衆の要求にかなった、真に充実した力ある立派なものにしなければならない。







鉄の火花

同志 クララ・ツエトキン

闘士養成の問題

××生

闘士養成の問題が「赤旗」四十六号に提出されてゐる。誠にこれは、当面緊急な問題である。然しそこに示されてゐるのは、先づ労働者の中から選ぶといふことゝ、仕事を分担して各自に責任を持たして働かすといふことの二項のみであつて、その他の事項は後に残されてゐる。で僕はこれを受けて、この問題に就いて多少詳細に論じて見たいと思ふ。とちつても、貴重な紙面を無闇に取る訳にはゆかぬので、今度は先づ闘士に備へられなければならぬ根本原則を三箇条に述べることにし、当面に於ける具体的方法に就いては、次に述べることゝしてゆくことにする。

1、斗士への資格は、先づ何よりも工場労働者であること——その理由は、おほよそ次の如し。

(一) 工場こそは、資本主義の地盤であることゝ、同じ労働者でも、工場で鍛へられてゐないブルジョア意識を多く受けいれる自由労働者や職人達に、ルンペンやアナキストの多いのは、その証であつて、生産手段が前世紀的であること、従つて、労働が集中的でなく、時間的でないことにも、よるにちがひない。

(二) 工場に於てこそ、資本家の搾取が、むしろ直接的な形で現れ、そこに於ける階級の斗争に対する…従つて、手段的であり、果敢的であつて、一歩に進んで一層尖鋭的であること。政治的な面も底広が、選挙などに於いて、工場を離れて、工場に於ける苦しみを忘れ、勤労生活が…ルンペン的に落ち入つていくからである。

(三) 「工場と戦場」にならしむる仕事の中に、闘士として学ぶべき基本的なものが含まれてゐる。

前の一項、二項は、今日迄誰もが言つてゐることで、既に諸君もよく知つてゐることゝ思ふが、この三項が、…階級全体の上に立つて、ものを見、ものを考へて行かねばならぬ。戦略戦術の問題は勿論、組織の問題にしても、大衆動員の問題にしてもさうである。だから、一工場のそれに多くの政治的価値を見出さうとするあまりに、あやまりを犯すことがある。然し先づ工場を階級的にならしめる仕事の困難さが、その集合的な結果である。一般的な働きを理解し、指導して行くことが出来る者がない。この意味に於て、工場を戦略上にまとめてやうにもたらしめないにも、全々、その中に居ない諸君、従つて、自覚を持つことの出来ない諸君、即ち、工場労働者以外の諸君は不幸にして、何とも仕やうがないといふことになる。

2、斗士は戦の中に養成される。——こんなことを言つたことを改めて、こゝに並べることは、何だか、せわしい気もするが、然し、…言つてもかまはぬ限りだし、それだけに、…一番にこれをあげやう。諸君等も、長年の戦の中に…ついてゐることだらうが、例へば監房に入れにしてまさうだ、先天的にいくら度胸のある者でも、最初は失敗り経験の積みに行つたやうではない。闘ひ慣れれば慣れる程、何度もそれを繰返してゐる中に、多少…ないものでも終ひには、スツかり度胸がすわつて来る。又監獄に入つた者が、僅かに二三年位の牢獄生活で、如何にも落ちつき、進んで行くの如何に、大衆の階級的犠牲の如く思はれてゐた奴が、敵の中に自分の誤りの闘志が、敵から鍛へられ、五年十年と永い刑を科せられ、或るいは鉄窓の獄に三年や四年の…白紙、老獪の城に近づいて行く。一ツの行動を起すにしても、道相は真情がないが、例へば「おゝ」と答へるやうに、もも早く、而も正しい言葉がとれるやうになる。階級に対する信頼、運動に対する信念は、又一塁に、永い戦ひの中に、一朝にして、おいそれと得られるものでない。

3、斗士は、組織を通じて養成される。

まことにその通りで、一口に、戦ひの中に斗士が養成されると言つても、漠然とした戦ひからは漠然として斗士しか生れて来ない。



そこには時代への必然性を持つた、いゝ分子も出て来るし、うかうかするとアナキストや…の卵が生れて来ないとも限らぬ。従つてこゝに問題にする斗士が、現在右翼偕制の労働組合に巣喰つて、ダラ幹の思ひに将つとめて食を貪つてゐる所謂斗士を指すのでなく、真の階級的戦士を指すのである以上、それは当然に、一定の方向を持つた、一定の型の中にしか生れて来ない。一定の型の一定の組織があつて始めて行はれるのであるから、従つてその意味で、組織を通してのみ、真の斗士は養成されると云ふことになる。又、事をこゝろみにむずかしく考へる迄もなく、組織は直にその人に仕事を与へる。理論を与へるし、斯いふことには、鍛れた教師も与へて呉れる。僕は学頭の悪いと思はれる理屈の人間が、記憶の力で一定の仕事を着実に果しつゝあるのを、委員会の前に見て、今更ら考へさせられてゐる。

4、闘士は「本」によつて養成される。

「本を読め」といふことも、先輩の言ひ古した言葉で、この点説明はいらぬと思ふが、二、三言ひたいのは、闘士たらんとする者は「本」を離してはならぬといふことだ。この意味は、研究室に於ける…む学生のやうに、一々本を読むといふのでは、又手に「本」を持つてやれといふのではない。つまり理論を常に身に学ばせろといふことだ。吾々の理論は、ブルジョアの理論の如く、死物ではない。それは斗争の発展と共に、絶えず深くと、豊富し、発展して行く。従つて一日つ本を読まぬことは、それだけ一日おくれることを意味する。

右翼中間の幹部の堕落の一つの原因は、彼等が中途で「本」を読むことを止めたことにもある。——いそがしくて本を読むひまのないと云ふ人の為に言つておこう。僕の西尾末広が本を読まなくなつたのは、彼が本を読むことの重要さを知らなかつたからではない。(彼等をそんなに早く見て居ると大違ひだ) 西尾は本を読むことの重要さをよく知つてゐたのである。新聞としてのいそがしい体が、彼をして読書に、本を読ませなかつたのだ。それが、やがて、彼の頭を理論にすゐることもなくしたのだ。結果は、御存知の通り。——

以上斗士養成の原則ともいふべきものを、自然的に述べたが、如何に斗士を養成するかの場合も、こゝの原則から出発する。組織に入れて、斗争に参加せしめ、絶へず読書会、研究会を開かして「本」を読む習慣をつける。

——これを文字通りに読んで、感情的に理解して貰つては困る——大ざつぱに言へばこれでいゝ。だが我々は、ただ漠然と一般的な常識的なことのみを知つて、満足してゐられない。今日の場合、この…具体的に考へる必要がある。即ち、吾々は今、斗士の養成に苦しんでゐる。だが誰にどのやうな斗士を養成しておるか？と云つたところが、その他に於て…考へる必要がある。

全国の同志！

一九三〇年二月総選挙に俺達が犯したような失敗を再び繰返すな！

——大阪地方選挙斗争同盟の敗北主義的方針——

○△生

(一) 「赤旗」編輯局の要求に応じて……

俺は一九三〇年二月の総選挙に俺達が犯した失敗、選挙斗争同盟の敗北主義的活動を全国の同志諸君に知らさう。これは苦々しい失敗の経験なんだ。「赤旗」編輯局が言つてゐるように、失敗は成功に…斗争の失敗を…個人的に…

俺達が犯した様な失敗は二度と全国の同志が絶対に犯さないだらうとは限らない性質のものであれば尚更報告する必要がある…我々が犯した失敗は、更に悪い可能性を持つてゐる…

口会選挙であつても、府県会選挙であつても……

選挙斗争に対する根本的な…



賃金、選挙斗争の組織政策、同等斗争との結合等々は絶対に離いはない。だから党の任務は、この新県会選挙戦に対しても[illegible]つ。

(二) その当時の党の方針に従つて……

大阪にも、技術、教育、セツアル、全協、水郁等々からの代表者によつて選挙斗争同盟が全く上から組織せられた。この斗争同盟が主体となつて選挙斗争を戦つたのだ。今度は、こんな選挙斗争同盟と云ふ組織形態そのものに対して、大いに批判しなければならぬと思つてゐる。この事は後にふれる事にしよう。問題は選挙斗争同盟が何をしたかだ!

まがりなりにも選挙斗争同盟が……

結成せられたのは、確か一月二十日前後だつたと思ふ。一月二十日から投票日の二月二十日までの約一ヶ月、どんな方針で、どう云ふ風に活動したか? 書きたいんだ! 先づ第一に問題だ。余りにもカンタンだ。候補者の推薦と、選挙斗争の基金募集宣伝以外にはなにもしてゐないのだ! 斗争同盟の集会が何度も持たれた。区別集会でも一度も問題にならず、討論されたのは候補者の問題だ。大阪市(こい[illegible]

つる党員の[illegible]者だ」と決めたり、止めたり企業の石原と云つて居たり、しまいには全協の同志[illegible]川を落選させたり、候補者を[illegible]候補者の決定に、毎日日を送つてアクセクし、先づ候補者が誰かとへやり決定しなければ斗争は出来ないと思つてゐる様であつた。我が一言選挙斗争同盟全口発表会では、前川正一、田中[illegible]を大阪の第一区、第二区候補者として推せん、前後二月号に発表してゐる。全く、全口的統一の非常力を発揮しておた。で結局候補者の決定がつかなかつた。その内党が[illegible]でビラを全市の工場地帯にまき始めたので、斗争同盟の方はカスンでしまつてカヤの外においてかれてしまつた。斗争同盟からは一回、抽象的なアヂ・ビラが出たのと、斗争同盟の星宮[illegible]、大橋治房を落せ!の基金募集の[illegible]であつた。其以外何うのアヂ・プロ活動すらなかつた——学生を動員して、社会民主主義者の演説会場にビラを播いたりしたが、全く散光を[illegible]に終始したのだ。

この事実を徹底的に[illegible]しなければならないか!

(三)

(1) 選挙斗争の意義を……

[illegible]してない。党選挙[illegible]運動は

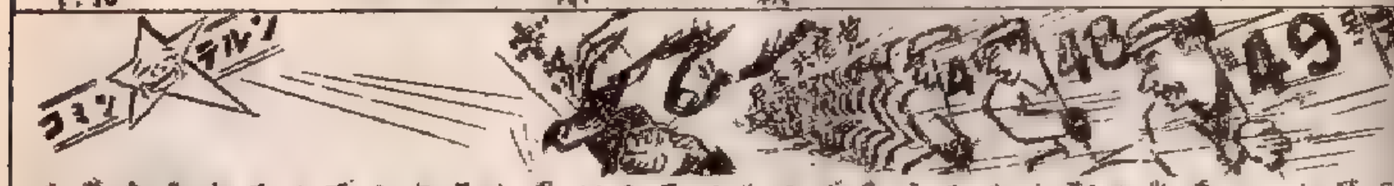
[illegible]のでなく、選挙斗争を斗ふのだ。大衆のたかまつた政治的関心を利用して、党の政策をアヂ・プロし、斗争に動員することだ。[illegible]

社会民主々義者の様に選挙運動であれば……

[illegible]

(2) 次に選挙斗争の組織形態に就いて……

[illegible]



つとろくして、[illegible]斗争は有力に戦へないとは輝ける従来の指導者レーニンが教へたところだ。

ではどうしたらよいか?……

党は何と云つても工場を基礎とし、出発点としてやらなければならないと思ふ。この事は工場内に選挙斗争委員会を作ることのみを意味してゐるのではない。大衆に選挙委員会を作れ!と押しつけるのでなく、作るやうにしむけることだ。[illegible]

[illegible]

これらの工場代表の大衆的斗争指導部……

[illegible]

執くしてのみ——この工代議は最初の……

[illegible]

(5) 選挙がある度に吾々がすぐ提案する……

[illegible]

鉄の規律の厳守と会合活動の強化……

[illegible]

日本共産党の大衆化によつて「赤旗」を守れ!

ПРОЛЕТАРИИ ВСЕХ СТРАН СОЕДИНЯЙТЕСЬ
★万国の労働者団結せよ！

週刊
赤旗
第50号
国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

目次

▼『赤旗』第五十号発行に際して……一頁
▼八、一デーの決算に就て……四頁
▼プロレタリアートは農業恐慌問題に就て一層の関心を持て！……五頁
▼ソヴエート同盟への労働者代表に貧農代表を参加させよ！
▼九月六日の青年デーを期して共産青年を獲め
▼一切の階級的政治犯人即時無条件釈放を要求せよ！……六頁
▼鉄の火花
▼検閲録（『赤旗』第五十号発行まで！）……七頁

『赤旗』第五十號発行に際して

日本プロレタリアートと貧農大衆の信頼と支持との下に発行されてゐる日本共産党中央機関紙『赤旗』は、茲にその第五〇号を迎へる。

プロレタリアート党中央機関紙『赤旗』は、プロレタリアートと貧農大衆の闘争の宣伝者煽動者としてのみならず、彼等の組織者として一九二七年に生れた。当時の『赤旗』はコミンテルンの『七月テーゼ』の理論的実践的遂行を其の最重要任務とした。『赤旗』は最初からコミンテルンの指導を日本に具体化するといふ国際的意義を有してゐた。

赤旗出版は、日本プロレタリアートと貧農大衆からの熱烈な声援と絶大な支持と、そして、彼等の間に於ける教職を享受した。気享受してゐる。それは資本に対する斗争、地主に対する反逆、そしてプロレタリアートと勤労農民の広汎なる大衆の勝利――労働者農民のソヴエート政府樹立の為に斗ふ革命的要素にとっての力であった。

併しながら、革命の途はネフスキーの大通りではない。支配階級の弾圧に依って、『赤旗』は、再度、三度、その発行を中絶せざるを得なかった。党の政治的組織的活動を統一する中央機関紙の欠除が我党の活動を鈍らせたことは疑もない。一九二八・三・一五事件以後、階級敵たるブルジョアジーと地主の弾圧を履行する度毎に、『赤旗』の役割は益々重要になった。従って、党組織の最も積極的に斗ふ第一の問題は常に『赤旗』の発行であった。宣伝者、煽動者、組織者としての『赤旗』の存在は党の全体的活動のバロメーターである。

一九三〇・七・一五事件以後猛烈な弾圧によって『赤旗』はその発行を中絶せしめられてゐたが、工場内、職場内の労働者並に街頭に投げ出された失業労働者貧農群に於ける貧農の積極的協力の下に、一九三一年初頭に再刊さるるに至った。資本主義世界の経済危機の一環としての日本に於ける経済危機が愈々深刻となり、都市に於けるプロレタリアート、農村に於ける貧労農民の進出が活潑となり、経済斗争の政治的性質が益々深厚となりつゝあるその最中に『赤旗』が再刊された！！　それだけでも『赤旗』の持つ任務は重大であった。破壊された党組織の再建並に拡大強化、プロレタリアート大衆の斗争の組織――その為に再刊された『赤旗』は今日に至るまで十八号を発行し来たのである。

× × ×

我々は茲に第五十号を迎へるに当って若干の決算を行はねばならぬ。

第一に、我々は如何なる達成を有するか。我々はコミンテルンの指導下に、新しい政治テーゼ草案を発表した。これは我々の実践と結び付いて大きな政治的意義を有する。我々は七月テーゼの持った歴史的意義、政治的組織的活動に於ける功績を充分正当に評価し、その上に立って新しい草案を発表した。福本イズム解党派を先頭とする党外の似而非マルクス主義者の行った如き反コミンテルンの立場からではなく、又ブルレハノフ主義からでもなく正しくコミンテルンの指導の下に我々自身の討論に評価したのである。新テーゼ草案の発表は日本プロレタリアートに新しい力を与へた。而して我党の輝ける指導者同志佐野は獄中にある同志の意見を代表して新テーゼ草案と根本的に一致することを声明し、我々の方針を確認した。これは我党が為し得た大きな政治的運動としてあげられねばならぬ。

第二、我々は「一口標準賃金運動の一部としての我々の立場を明確にした。失業反対日」、メーデー、八・一デーに於けるデモンストレーションの組織は、その規模に於て全く不充分であったと雖もそれらの持つ政治的意義は大きい。ソヴエート同盟五ヶ年計画の成功の普遍化に於ても、我々は感嘆の一歩を踏みだした。特に我党が提唱したアルメニアの[illegible]

広汎な大衆の支持を得たばかりでなく、工場の労働者側から労働者議員団を選れと云ふ要求を受けるまでに至った。我党はその具体化の為に斗争してゐる。これは国際主義的教育の見地からして大きな意義を持つ。

第三、我々は組織上にも成長した。三・一五事件以後の党検挙関係を除き、七・一五事件以後党員は約八倍以上に増加し、その中でも、工場労働者は七五％以上である。更に我々は農村にも細胞を有してゐる。全日地方にも我党の組織網が張り廻されてゐる。

是等の達成に於ける『赤旗』の役割は実に重大であった。党内に於ける極左宗派主義的並びに右翼日和見主義的偏向に対しても我々は断乎と斗争した。宣伝ではなく、成長の為に必要なボリシエヴィキ的自己批判は積極的に行はれた。一切の社会ファシズムに対し、ブルジョアジー地主に対して我々は大衆を斗争へと導いた。

× × ×

けれども我々は尚多くの不充分を持つてゐる。第一に挙げねばならぬことは党の政治的影響と組織的確立との間の開きが大きいこと、我々全体が大衆の革命化の速度よりも遅れてゐること、換言すれば我々は労働階級の全ての斗争の先頭に立って組織的に指導してゐるのではないといふこと是である。経済恐慌の深刻化に伴ふて支配階級の凶暴に対する支配階級の政治的反動化にも拘らず、大衆は斗争へと起ち上つて居り、我党の影響力は増大しておるにも拘らず、我々はそれらの分子を党へ獲得し組織に蒐集し得ないでゐる。即ち、日本帝国主義は挙国一致で――即ち、ブルジョアジーもプロレタリアも一緒に満蒙の生命線を守れ―と叫び、不景気時代には相互の協力を説き、又は非常時の下に産業平和の精神（労資協調精神）で善処すべきだといふ。ブルジョア支配社会ファシストの暴力的宣伝にも拘らず、大衆は斗争へと進出しつつあるのだ。この事実こそは社会ファシストの理論を根本的にくつがへすものである。我々は有利な条件を充分に利用し得なかった。

第二、我々は極左宗派主義的傾向もまだ完全には克服し切つてゐない。それと同時にその発生根源を極左宗派主義と同一にしてゐる右翼日和見主義的傾向が存在する。我々は忘れることなくこれを発表し、警告しなければならぬ。

大衆へ！工場へ！のスローガンは全体として未だ生き生きと実践されてゐない。工場で職場を、失業者の間で、農村での革命的活動方法に大衆的活動方法への急転換が全く不充分である。部分的には今日依然として細胞が寄せられるからといふ口実の下に大衆から隠遁し得る斗争も組織し得なかった。又は、自分の職場のものは保守的だからといふ全く安っぽいプロレタリア的見解をかくして全日的カムパーニアに参加させようともしなかったし、且つ現在でもし様な傾向があった。コミンテルンの決定は非合法の党細胞でも問題の重要性如何によっては一部の人々に共産党員たることを知らせねばならぬといふ。かくて右翼日和見主義は我党内の主要な危険性である。

第三、朝鮮、台湾、支那の革命運動に対する援助の不充分。特に支那に於ける日本帝国主義軍隊の横暴な殺戮に対して最近我々は殆んど何事も具体的にはなし得なかった。斗争の度毎に、植民地の独立と云ふスローガンを掲げるだけでは全く不充分である。

第四、社会ファシスト共に対する斗争の不充分。右翼可也な幹部（就中解党派）、社会ファシストの裏切的政策並にバクロ、それに対する組織的斗争の実践はなかった。彼等との斗争を充分に指導の下にある大衆を大衆的斗争に獲得することである。然り、我々は革命的反対派を改良主義的組合の内部に形成し、その領域に於て相当の成功を得てはゐるが、我々の任務――やらねばならぬ程度に比すれば全く不充分である。下からの統一戦線戦術は文書による宣伝煽動以外、具体的な裏切りの事実の上に立って、社会ファシストのバクロ、又はこの統一戦線の為の組織的計画的活動が一部の成功を除いて殆んど全く不充分である。

以上四つの不充分の克服は不可能のことではない。階級斗争の激化、コミンテルンの正しい指導、各党員の献身的精力的活動は要求される将来に於て、よく之を克服し得るであらう。

× × ×

我々の任務は何か？我々の当面主要任務はブルジョアジーに対する勝利の為、プロレタリア独裁の樹立の為の決定的斗争に労働階級を準備するための基本的条件として労働階級の多数を獲得することである。『大衆へ！工場へ！』のスローガン、この主要任務の成功的遂行は独自的な革命的労働組合運動の革命化と密接に関連してゐる。（プロフィンテルン決議）

特に重要産業の大工場・大企業内に我党の組織を創ること、而してそれを中心として恒常的大衆団体（就中革命的労働組合）を組織することが生まれねばならぬ。今日程階級対階級の衝突の強化が必要とした時はない。この失業は第十一回プレナムで強調した経済斗争の先頭に立つこと、それを政治的斗争に発展さすことに具体化されねばならぬ。我々は大衆的活動方法への転換といふ領域に於て重要なる一歩を踏み出した。然しながらまだ充分とは云へない。労働者貧農大衆を如何に組織するかの問題は今日にして斗争へ組織されてゐない。そして合法機関も利用して闘争的経験を基礎として急速に解決されなければならぬ。変化し行く情勢に伴ふて我々の具体的活動方法は変化されねばならぬ



…ぎらぬ。赤旗はこの為の重要な役割を果さねばならぬ。[illegible]

[illegible]

[illegible]

赤旗第五十号発行万歳!
日本共産党拡大強化のために!
ボリシエビキ的自己批判の旗を高く掲げて斗争の先頭に立て!

八・一デーの決算に就て

(イ) 八・一デーの意義を大衆に知らせる為に我々は準備行動中、東京、大阪、神戸等の重要工業都市の党細胞と、産業別労働組合と協力の下に [illegible]

[illegible]

(ロ) [illegible]

(ハ) [illegible]

あるもの具体的条件と巧妙に結び付けられてゐなかつたのではないか？「ウラ蒋の出版物だけで大衆に命令せんとする小ブル的観念論主義的思想と自分は党を現はさずに『何々しろ！』と呼びかけるだけにとめてゐる冷笑的和見主義的実践とが、あつたからである。大衆の信頼を得、大衆の闘に依拠を獲得するためには常に大衆の闘にあり、大衆の先頭に立つて斗争するといふ態度が、しかも精力的な活動、大衆と組織的にピツタリと結合してゐるといふことが必要なのである。カムパーニアの行はれる当日だけの活動では決して成功しない。このことは少数ながらも八、一デーに動員され得た工場の例によつて証明されてゐる。大衆の間での根気よい日常の活動に依つて大衆の信頼者たることは党員の任務である。同志渡辺政之輔、同志鍋山貞親、同志山本懸蔵等の指導者同志が偉大な組織者であるのは実に長年の同志が大衆の先頭に立つてゐたからであり、大衆の間の信頼者であつたからである。直接職場で、工場で、鉱山で、船舶内で如何に大衆を組織するかの問題は党の組織全体の最重要任務である。「党の全活動を工場へ！職場へ！」のスローガンは今日特に強調されねばならぬ。

(二)　我々は、八、一デーの決算を全日本全体的に行ふことを不可能ならしめられてゐる。従つて我々が述べ得ることは、右の如く非常に一般的でしかあり得ない。

そこで次のことを各地方組織に指令する。

——イ　八、一デーに関する詳細な報告を直ちに中央部に送ること。その内容は、

——ロ、斗争の準備——文書並びに工場内に於ける組織的活動

——ハ、当日の動員有様

——ニ、このカムパーニアに於ける成功と失敗——理論的並びに実践的

——ホ、斗争のシメクヽリを如何にしたか？

——へ、報告はこの指令到着より五日以内に送ること、而してそれと同時に報告の遅れた理由を明記すること。

——ト、各地方からの報告は、中央部は纏め上にて特別のパンフレツトとして発表する。

プロレタリアートは農業農民問題に就て一層の関心を持て！

農業革命を伴ふプロレタリア革命は我党の戦略的目標だ。貧農を我党の旗の下に獲得することは我党の重要任務の一つである。各国共産党の農業農民問題に対する不関心についてはコミンテルンが常に戒めてゐる。日本の党にとつては特にさうだ。解党派がコミンテルンは農業農民問題を無視してゐると書いてゐるのは完全にデマだ。それはコミンテルンの諸決議を見てもすぐ分ることではないか。

従つて我党が農業農民問題に関する基本的問題を決して見のがすことなく取扱つて来た。然るに党中央部の農民部が確立し、党の農村細胞も農村細胞組織が急速に遂げし、組合及組合青年部内のフラクシヨンが確立し、貧農業農民問題に関するアジプロ機関が漸く整備しかけたとき、そして又、農民の斗争に対する党の指導が今や統一的組織的に進められかけた時、即ち貧村に於ける階級斗争の指導と貧農に対する影響とが疑ひもなく急激的に拡大強化し初めた時、丁度その時に農業農民問題に関する記事が赤旗紙上に現はれなくなつた。だがそれは我々が農業農民問題を無視したが為ではない。否、却つてその反対だ。何故ならばそれは農民部の仕事を明瞭にし同志達が貧村廻りの政治的並に組織的活動を精力的に強行し明らかにその成果をあげてゐるからだ。とは云へ、如何なる事情にもせよ赤旗にそれを書かないと云ふ事は確かに一つの政治的誤謬である。

ソヴエート同盟革命支部に関する武力干渉が現実に逆行してきた、資本主義戦争の危険が緊急の問題となつてゐる今日では——三菱汽船が定海から武器をシコタマ積みこんで支那へ向け出帆した。揚子江沿岸では軍艦並びに陸戦隊が中国プロレタリアートに向つて暴力砲火を浴せかけてゐる。満洲新聞並に北海に於ける日本の陸海軍の軍事行動については既に書いた。事々——戦略的にも戦術的にも我党の影響下に勤労農民を獲得することは実に喫緊の問題なのだ。

赤旗はそれ故に重任指導並に組織者として貧農の間に深く入り込まなければならぬ。その未だに農民関係の基本的問題が取扱はれてゐない。これで果して貧農に近付き貧農を獲得することに成功し得る訳であらうか!!

日本共産党はあくまでもプロレタリアートの党であつて貧農の党ではない。貧農を貧農として党員に採用するのではない。貧農を共産主義者として採用するのでプロレタリアート党の党員として採用するのだ。（こゝまでは全く正しい。だが——）その故に赤旗が貧農の問題を取扱はなくとも大した問題じやないと考へる同志があるなら根本的に間違つてゐる。

我々は勤労農民大衆の利益を最も忠実に代表しその為に斗はなければならぬ。かくてこそ我々は彼等を我党に引き寄せることが可能になるのだ。而して我々は今日までこの方面に多大の努力を払ひ、且つそれは着々成果を収め



つゝある。とは云へ我々は貧農大衆を動員し組織し得て居ない。これは我党の最大の不充分の一つである。それ故に我々の主要努力の方向の一つは貧農大衆のカクトクにある。赤旗のこの方面の仕事も従つて重且つ大である。

一方、又赤旗は貧農大衆のためにのみ農業農民問題を取扱ふのでプロレタリアートにはそれ程関係がないと考へる同志があるとすればこれも亦大きな誤りだ。プロレタリアートと貧農（半プロレタリアート）の同盟は云ふ迄もなくプロレタリアートのヘゲモニー（指導）の下に確立され強化されねばならぬ。だからプロレタリアートは貧農の問題を自分の問題として取上げる位に関心を持つことが必要だ。そして貧農を援助し指導し同時に貧農から支持されなければならぬのだ。だから赤旗は勿論のこと工場新聞も労働者大衆にも農民大衆に働きかける様に仕向けることを忘れてはならぬ。工場新聞や労働新聞がこの点について殆んど全く取扱つてゐないことや、会社が農村プロレタリアートの組織に力こぶを入れてゐないことは是非改めなければならぬ。特に党の指導的地位にあつてプロレタリアートの組織に従事してゐる同志達の多くが農業農民問題の重要性をほんの僅かしか理解してゐない。勿論これらの同志達はプロレタリアートの労働者と貧農の同盟との必要を戦略戦術の理論としては一応理解してゐる（?）が、それは全く抽象的理解に終つてゐる。現実には彼等の大部分が何んにもしてゐないのだ。また実践的客観的には農業農民問題の重要性を理解してゐないのと同じだ。これは甚だよろしくない。

貧農、特に日本の貧農は、厂史的環境的関係からしてもプロレタリアートの指導と援助とを熱望してゐる。党員並に革命的労働者が細心に貧農の問題に留意し、彼等を激励し、援助し、指導するならば、そしてそれが正調と合つてゐるならば彼等の支持を得ることは決して困難ではないのだ。このことは我々の主張から確信を以て断言出来る。赤旗は党の前進の号記念号を期して

★然し最近のポイ令を前エして進む。と同時に党員並に革命的労働者諸君、特に農村細胞並に農民運動に参加してゐる同志諸君の生き／＼した報告や意見を要求する。

ソヴエート同盟への労働者使節に婦人労働者代表を必らず参加させよ！

赤旗第四大号に労働者使節派遣の意義すべき提議が党の名に於て発表された。

全日の工場労働者及婦人労働者諸君！我々は、代表使節に婦人をも必らず参加させよといふ題目の下に再度こゝの問題を取上げた。何故ならば、現在日本の労働階級の最大の弱点の一つは労働階級の巨大な部分を占める所の未組織労働婦人層にある。これらの労働婦人は、敵階級の政策の為に、常に凡ゆる場合、一般的男子労働者との関係から引離され、労働階級から永く離れ、地的に排斥する為の敵階級の最も都合よき道具とされてゐる。日本プロレタリアートが来るべき革命に於ける決定的勝利はこれらの労働婦人大衆を革命陣営の主要部隊となし得た時保証されるのだ。男子労働者と婦人労働者の凡べての利害は一心一体である。プロレタリアートの勝利はプロレタリア婦人の全力的斗争参加なくしては何ら得ない、又プロレタリア婦人及一般的婦人の解放はプロレタリアートの革命勝利なくしては有り得ない。併しかれ、常に忘れてゐる日本の勤労婦人の全注意と希望をソヴエート同盟に集中させよ。そこには日本の労働階級婦人解放の見ての鍵があるのだ。日本の労働婦人にソヴエート同盟勤労婦人の生活を知らしめよ。ソヴエート同盟への使節に必らず婦人労働者を代表として選べ。

ソヴエート同盟派遣代表選挙の全日的斗争万才！

代表派遣によつてソヴエート同盟の労働者及び婦人労働者諸君とガツチリ腕を組め。

◇九月六日の青年デーを期して◇
共産党員を始め一切の階級的政治犯人
即時無罪釈放を決議せよ!

1、九月六日青年デーを期して共産党員を始め一切の階級的政治犯人を即時無罪釈放せよとの決議を全工場、鉱山、船舶、事務、仕事場、兵営、農村で決議せよ。これこそ共産党員並に一切の階級的政治犯人に対する唯一の正しき判決である。

2、全工場又は全職場労働者の名でこの決議がなされることは自ら支配階級と其口家機関にとって最大の脅威である。党員並に革命的労働者農民はこの方向に精一杯の努力をなすべきである。勿論この際全従業員が一人残らず此決議に参加することや一人の反対者も出ない事と云ふ事は望み得ないであらう。然し少くも過半数が参加し賛成した場合にはそれはその工場又は職場の名でこの決議を発表することが出来る。

3、工場又は各職場の各従業員で此決議をやり得ない所でも決してこの決議を放棄してはならぬ。二人以上の党員又は革命的労働者農民が集り得るならばこの問題を中心に会合を開いて必ず半数以上の決議をしなければならぬ。此集会には此決議を工場の名で発表する事は出来ないであらう。例へば○○×工場革命的労働者一同等の名で発表すべきだ。

4、党、同盟、全協を始め労働者農民の一切の組織並に機関は一斉に同様の決議をせよ。

5、一つの工場又は職場では一つの決議文を作り全従業員(又は革命的労働者一同)及び一切の組織並に機関の署名を連署する形式をとることを奨める。

6、以上の決議にあらゆる機会を捕へあらゆる方法を工夫して全口の各企業の労働者農民大衆の前に公表されなければ駄目だ。吾党の影響下にある機関紙例へば第二無新を始め革命的反対派の機関紙誌に至る一切の機関紙は勿論の事反資本主義的社会民主々義的労働組合の指導下にされてある組織や機関にも大衆の威力で以てこの決議のケイサイを要求を迫り、そしてそれを斗ひとらなければならぬ。我々は進んで労働者農民大衆の此決議を組織の間に伝達する義務を引受ける。

7、日本大衆党がブルジョア化し、白色テロルが横行して居る今日の段階では一度でも資本家地主と妥協したことのある労働者農民の代表者所又は組織から何等かの名目で被選者が出て居るに違ひない。それ故に以上の決議に於て労働者農民大衆を引入れることは決して不可能な事ではない。若し以上の決議をなし得ない者があれば党員並に革命的労働者農民がかつたとすれば彼等自身がどんなに公衆に反対して居ようとも実践的客観的には彼等は正に右翼日和見主義者であつて断じて党員並に革命家ではない。

8、以上の決議を積極的に採決することは党員並に革命的労働者農民に課せられた任務の最少限度である。同志達は断じて決議文に止まつておいてよいのではない。

同志達の今日までの革命的斗争とこの決議に至る迄の直接闘争並に組織の成功と拡大をして単なる決議文に止らせないであらう。一日のストと一日のデモとは此決議の実際的闘争たるであらう。要求をここまで発展させるべきである。政治的大衆要求と政治的大衆示威を進歩評価する傾向は斯けて戦ひぬかねばならぬ。

9、我々は党に以前の決定——党組織の改善生活に関する決定、八・一デーに際しての注意事項を想起せよ——我党内の敗北主義と機会主義的に斗争しこれを清算することを要求した。我々は党に於てもそれを実践して居る。にも拘らず我党内の右翼日和見主義的傾向は未だに少くも根強い。我々は益々積極的にこれと斗争し、断然として之を克服しつゝ進まなければならぬ。これは同志達に課せられた当面の重要任務の一つである。

10、獄内の同志は九月五日に共産党員を初め一切の階級的政治犯人を即時無罪釈放せよとの要求を高くかゝげて大斗争を始める筈だ。全口の労働者農民大衆が彼等の斗争に呼応し、これを支持するやうにしむけることは党員並に革命的労働者農民の怠らざる任務である。

一九三一年八月十三日

日本共産党中央委員会



赤旗 50号 万才



鉄の火花

日本共産党の輝ける指導者 亡き同志渡辺政之輔

ストライキ終結後の一方針について

××生

以下述べる事は凡ての職場から帰来したものでも無く、又吾々に発言するこれはまだストライキの勝利より導かれて出たものでもない。此ストライキ戦略戦術の教程(資料)ずロゾフスキーの論文を読んで之を日本で次の様に採用しうるかと考へたのである。此様に全工場で行つてゐるかも知れぬが、今までの所一般化されてない様だから。

★

ストライキが一旦或る条件で勝利した時——よし妥協的であれ——その条件が果して工場主に依つて遂行されるかどうかを監視するといふ事が屡々放棄された様に思へる。われわれ高く云へば、ストライキに依つて獲ちとつて、ストライキ終了後の斗争のしめくゝり、万全会後の斗争への前進といふ事が無念的にしか問題にされて居なかつた様だ。前の鉄道争件の際、鉄道首はその言明を裏切つて彼に多数首切りの問題を始めて成ないか。それにも不拘、鉄道者もふるへ上りせて、「整理しない」と誓はせた従業員大衆が、今日、業して首切りに面して、直ちに立ち上り得る準備万全実力を有してゐるであらうか。之は大きな疑問だ。ではどうしたらよかつたか?

吾々は鉄道省や工場主の『言明』あてにならぬものはないなんて事は百も承知だ。だが一般大衆はどうだらう。たしかに今までの例によれば信じおちなんだ。その例に、鉄道従業員 今やせネズミにうつらんとしたほどの斗争力を示した例の——が、またも、鉄道当局の紳士達の『言明』"整理せず"「解雇せず」に一もニもなくだまされて——さうだ全くだまされて——おとなしくなつたではないか。斗争はそれでおしまひだ。只従業員会中央委員会の創設——それも天下り的なものに、当局官憲によつてすりかへられたのだが——位が問題になつたぜで済まなかつたか。

これでは全く駄目だ。

是非とも、あの場合(言質があつて、ほこをおさめた場合——これば、勿論、吾々の力が足りなかつたから、それ以上に頑張らすことが出来なかつたのだ(まゝ)警官・監視委員会を大衆の中から民主的に選ばなければならなかつたのだ。特に自主的工場委員会のない鉄道に於ては。

監視委員会が

自主的工場委員会建設の才一歩又はキツカケ、或は準備が前者に進展する可能性を与へるといふ点でも重要だ。

ロゾフスキーは次のやうに言つてある(これに私の意見が後述のやうに附加される)。

「……その際ストライキ指導部はストライキの後工場内に恒久の協約を監視する機関が作られるやうに努力しなければならぬ——それが争議委員会でもあらうと、或は特別な監督委員会、よく呼ばれてある様にコンシ委員会でもあらうと、若しくは同様の委員会であらうと名称は問題でない。重要な事は、斗争指導部が其の産業部門にこの代表者を引きうけ得る革命的労働組合がない限り、ストライキの後労働者によつて選挙機関が作られる——そしてこれが斗争指導部の主なる職責だ——やうにする事だけである。」

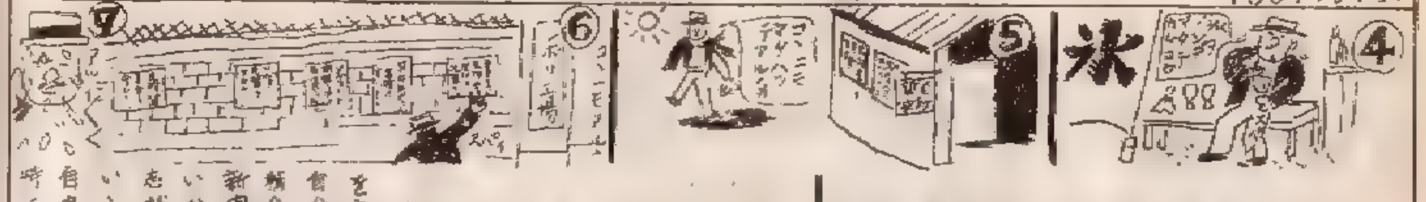
「……ドイツこの当該国、革命的工場委員会のある国々にとつては問題は、この仕組が其の工場委員会によつて引きうけられることによつて解決する。革命的労働組合のある国では この仕組は其の革命組合に属する。だが 革命的労働組合も革命的工場委員会もないところでは、工場の中に協議会の監督カンシする特別な機関が作られねばならぬ。」

この戦術を日本で如何に活用すべきか。

1、ストライキ後、あらゆる工場でカンシ委員会或は分会委員が確保する事、(さしあたり解団式の時だ——)

2、自主的民主的に可能な多くの





委員をえらぶ事。

3、「規定された條件」は大衆自身が今後カンシして行かねばならぬ事、特に委員会がその責に任じてゐる事、若し規定が工場主により要求されない場合「委員会」の機構の下に立たねばならぬことを大衆に徹底的にたゝき込むことこそ重要なのだ。

4、革命的工場委員会がある工場、又は分会か工場の会従業員を把握してゐるか、多数を把握してゐる場合、それらによつて代用される事があらう。然し、「3」は絶対に忘れてはならぬ。

5 革命的工場委員会のない工場 ― 天下り的工場委員会のあるところでも全然ないところでも ― では前述の如く当該委員会を実質的の革命的工場委員会へ発展さす様努力する事。

6、なぜこんな委員会を作るか ― 一番重要だ …… 曰く、「次の斗争の準備、立上るキッカケ」。

四十二号投書「工場新聞に就ての質問に答へる」に就ての誤謬を指摘す！

大阪 ×△生

一、この同志は工場新聞の役割を充分に理解してゐないと思ふ。自分で労働者から原稿を集め、編輯会議を持つて、走り廻つて工場新聞を出した経験がない人ではないか、とも思はれる位だ。この同志が工場新聞の役割を理解してないことを表明してゐる個所を、彼自身の投書の中から引き出さう。特に読者諸君は傍点のところに注意して呉れ。

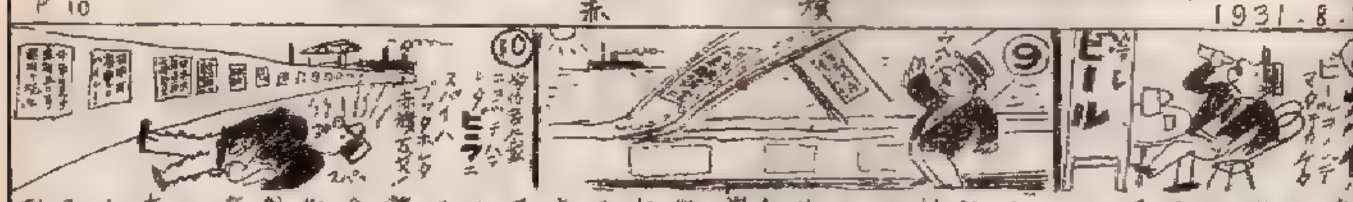
「この意見に依るとまるで組合や反帝、モップルなどは党に直属した機関のやうな感じを与へる。工新を出すから他の組織はニュースを出すのを控へろ！と云つてゐるやうに聞える。細胞が工新を出すから、この工新こそ指導的新聞だから、組合ニュース、赤色スポーツニュース、モップルニュース等々党外諸組織の機関紙は全部止めろ、と云ふのなら話は分るが、党外の諸組織が自主的に出してゐるニュースを停止命令を出すなどとは以ての外の事である。若し、ニュースがレーニン主ギ的でなかつたり、不備であつたりするなら、之をレーニン主ギ的にし完備せしめるやうに指導し、之を革命的なものに発展せしめることこそプロレタリア革命家の義務であり、工新の任ムではないだらうか……」

以上から分るやうに、彼は工場新聞を、細胞の機関紙だから指導的な新聞だ、といふ風に考へてゐるのだ。これが決定的な間違ひだ。工場新聞は一体何のために出し、どういふ風にして出すのかと云ふ事を少し考へればこの事が分るだらうと思ふ。

大衆を斗争に動員し、組織し、政治的関心をもつともつと高める為だとは前の同志が書いた事だ。この為に、一切の事件が取扱はれるのだ。工場内の指導新聞とは一体どんな事だ？。分会ニュースやモップルニュースを指導するのが工新の任ムだなんて間違も甚しい。工場から出される一切の出版物は総て大衆を斗争に動員し、組織する為なのだ！。指導的机関と云ふ意味は、赤旗の達しや、ムツカシイ理論をうんと並べる事か？。それ以外にはない。それ所か全く反対だ。工場新聞は大衆自身のものとならねばならぬのだ！。これは俺達の新聞だ、俺達自身で守らないけんと云ふ気持を大衆に起させるやうにしなければならない。彼が指導的新聞と云ふのなら、我我は逆に、大衆的新聞だと云はう。

二、従つて、工場新聞は党細胞から出すものであるが、決して細胞員のみによつて新聞を出してはならない。その為にこそ、分会成員、細胞外同情者の署名を平して、タレンジ班員は××社と云ふ形式を取つてゐるのではないのか！。吾々は大衆的な工場新聞社を工場内に組織し、広汎な大衆をその影響下におき、活動的分子をドシドシ吾々の仕事に引き寄せるのだ。

そして工場新聞社に細胞フラクションをがつちりとおき、細胞のヘゲモニーの下におくのだ。かくすることによつて実質上、細胞は工場新聞を出すのだ。このやうな大衆的な活動方法を採用せよ！工場新聞発行の時には必ず編輯会議を持たせて討論し、決定するのだ！。分会もモップルも反帝も一切の工場内の活動分子がこの編輯会議に参加するのだ（又参加させねばならない）。そうすれば彼が考へてゐるやうな事は考へられないことだと云ふ事が分るのに



の同志は「宗派主ギを清算して大衆的な活動方法に習熟せよ！」と云ふ事を実践的に理解してゐない。大衆的活動方法を採用する事なしに、労働者大衆のイニシアチーブの発揮を期待する事は出来ないし、又党の大衆化も不可能である。

三、そして又この方法こそ、プロフィンタン才五回大会の中同志モソムフツソー或はエーヂーノルヒネルの報告に基くテーゼ ― 革命的労働組合運動の組織問題の中の決議を実践にしてゐるものである。即ち「同時に非合法的組合は合法新聞発行の最小の機会をも利用して、そうした機関創設のためのカンパーニアを労働者階級の一般的斗争の任ムと結びつけねばならぬ。」工場新聞を統制した非合法新聞として、分会ニュースを最小の機会をも捉へて発行してゐるものと云ふ風に理解してゐるのかは知らぬが、只、××社発行工場新聞××の形式によつてのみ党細胞はそれこそ僅かの紙一枚の合法性を利用してゐるのだ。勿論細胞無き時も、分会は工場新聞社創設のイニシアチーブを取らねばならぬ事が分るではないか！

四、此両紙といふ事を誤解する事が多くある。それは組織メンバーのみを対象にするかの如く考へることである。それは絶対に間違だ。特に基本的な組織からその機関紙を出すことは必要でないと思ふ。俺は「工場新聞」は細胞の機関紙でなく、細胞のアヂ・プロの一機関だと考へる。そして細胞の機関紙は発行する必要がないと思つてゐる。この点同志諸君の見解を聞きたい。

五、最後に一つ。「右の意見によれば現在の條件下 ― 如何なる條件下か明かにせられてゐないが、細胞の工新に全力を注げば組合ニュース等がウマク出来まいやうな情勢だとでもいふのか」（十四頁一段）といふ文句だ。現在の條件下といふことは明らかにされてゐる。赤旗パンフレット第十輯及び赤旗三十六号の中にもふれられてある。たとへ明示されなくとも「細胞の工新に全力を注げば組合ニュース等がウマク出来まいやうな情勢」だとでも云ふのかしと云ふ風な考へ方は、工場内の活動方法を知らない証拠だ。

工場内の現在の條件、情勢を見ろ！。すぐ分るではないか！。敵の力は、味方の力は、そして一般大衆は等々。が頭に浮ぶ筈だ。大衆の窮乏、その危機化のみピッコを引いてついて行つてるのが吾吾の状態だ。どんな工場でも分会員・細胞員が四十人五十人とまとまつた所がない。殆んど大部分が十人前後のグループだと云ふ事だ。十人のグループが細胞分会、モップル班、反帝、無新、無青等が引つぱり合ひで原稿を奪ひ合ひ、各各種類のニュースを出して行く術く筈がない。又事実、行かなかつた。既張りメンバーに取合ひ事が起つた。この力の分散を防ぐ事が是非必要なのだ。（こういふ現在の條件下を指して居るのだ。）

六、全口の同志諸君！。工場新聞の活動に就ての経験をお互に知らし合はふ。実際の工場内の活動に就てだ。原稿の事、編輯の事、影響の組織化に就て、新聞拡大のアヂ・プロ活動に就て等々……。

> 工場新聞は細胞の機関紙だ。同志は一の点に関して大阪市委員会出版にかゝる「工場新聞について」といふパンフレットと同一の誤謬を冒してゐる。この点については赤旗パンフレット第十五輯「工場新聞についての批判」が明白に答へてゐる。 編輯部

★

「赤旗」第五十号発行に際し同志諸君に依頼す！

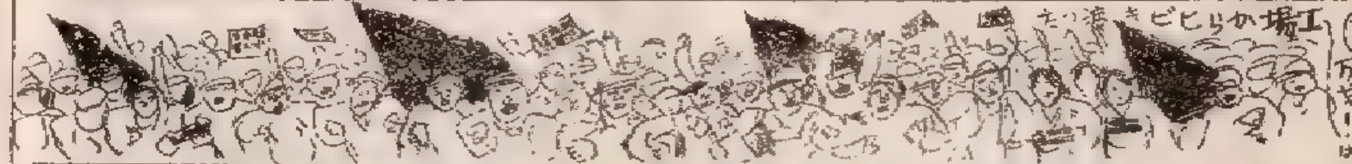
――「赤旗」印刷局――

★ ★

全口の同志諸君！。

吾党中央機関紙「赤旗」は革命的労働者貧農大衆の信頼を益々高めつゝ、こゝに第五十号発行を迎へた事を、吾々は最大の歓喜を以て同志諸君と共に祝福するものである。

「赤旗」は文字通り異常な発展を遂げた。最残酷の弾圧の嵐を突破して、昨年一月再刊された当時は、その部数に於て決して多くはなかつた。だが一度「赤旗」が再刊せらるゝや、革命的労働者貧農諸君の間に、熱狂の声を以て迎へられ、革命的階級斗争の戦略、戦術の一大指針として熱烈な支持を受け、「日本共産党を守れ！」「赤旗を死守せよ！」と声を以て斗はれて来た。そして全党員、全読者諸君は吾党中央委員会の正しい方針と指導の下に、勇敢に斗はれた結果、再刊より四ケ月目のメーデーには部数に於て二倍を突破し、七ケ月目の赤色デーには実にその三倍半に増加した。それは単に部数に於てのみではない。その内容と技術とに於て躍進に躍進を重ねたのである。「赤旗」の発展は吾党の発展であり、そして日本プロレタリアートの革命運動の発展で



赤旗オ五十号万才！万才！！はめる。吾々はこゝで吾党及び「赤旗」の発展のために同志諸君と共に万才を絶叫するものだ！！。

吾々は今日程、日常的にも、口内的にも、ボルシエビキー的斗争を要求されてゐることは未だ嘗てない。この斗争を成功的に遂行するために、吾党の真の宣伝者であり、煽動者であり、そして組織者である「赤旗」を少しのエルミも持たない緊張さを以てその任へ党員に果さしめ、支配階級の迫害と弾圧と追求との中から断乎として守ることが、吾々の最重要の責務の一つである。

同志諸君！。

吾々印刷部の同志達は、過去に於て主として印刷技術の研究に努力して来た。オ三十四号と最近号とを比較する時、「赤旗」はその印刷技術に於て可成りの進歩を遂げてゐる。だが吾々の研究はまだまだ充分では言い。時には政治的に大きな誤謬を犯したり、「もう少し」といふところであっさり片附けたり、時間がないからといふて粗雑に印刷したりしたことも一度や二度に止まらない。吾々はかゝる誤謬と過失と不充分さとを今後再び繰返さないやうに努力する。

吾々はさきに同志諸君に印刷技術についての批判や意見を送って呉れるように依頼した。にも拘らず今日に至るまで一度もそれが実行されてゐないことを甚だ遺憾とする。「印刷技術の一切の事は印刷部にまかせておけばいゝ。印刷技術なんてそう大した問題ぢゃないし」と考へてゐたとしたら、それは非常な誤りであらう。吾々はどれ位の大いさの文字が最も読み易いか、タイトル（表題）をどんなに書いたらピンとくるか等々について色々苦心して来た。又サシヱ、マンガ、カット、装飾線等を挿入して読者諸君に読み易く、分り易く、興味深いものたらしめようと試みたし、今尚努力してゐる。だが同志達はそれに対して何の批判も何の注文も送って呉れなかった。直接工場職場農村の労働者、貧農大衆の中で活動してゐない吾々にとって、諸君の批判と希望と援助なしには、内容と技術とが統一され、諸君の斗争に役立ち得るやうなスバラシイものを印刷することは不可能であるといふても過言ではない。

印刷技術は吾々の斗争上如何に重要であるかは、今こゝで事新しく述べるまでもなく、諸君が「工新」、「ニュース」、ビラ、伝単等で日常体験するところであらう。「赤旗」を吾党の輝かしい中央機関紙とし、真に革命的労働者貧農諸君を吾党に獲得するため、又吾党の政策の下に動員するために内容と技術との有機的統一を図ることを絶対に必要とする。そのために赤旗に挿入されるマンガ、挿絵、カット等は吾党の正しい政治的組織的方針の表現であり、党中央部の指導の下に活動しつゝある諸君の日常斗争の生き生きとした反写であり、そのための指導を含むものでなければならぬ。

同志諸君！

「赤旗」オ五十号発行に際し吾々印刷部の全同志は「赤旗」をより一層すばらしくし、労働者貧農諸君の間に信頼と权威とを高めるために、そして一日も早く読者諸君の手に渡るように、最大の努力と技術とを発揮せんことを誓ふ。諸君に誓ふ。だが、このことを全読者諸君の印刷部への参加を絶対に必要とするものである。「赤旗」の印刷技術の発展は諸君の絶大なる協力と援助なしには不可能であることを重ね重ね強調して要求しなければならない。従って吾々は以上の任務を果さんがために、諸君が次の事を即時実行されんことを依頼する。

一、毎号の「赤旗」印刷技術上に対する積極的批判意見、漫画挿絵、カット挿入に就ての希望（「赤旗」の研究会等に於ても印刷技術に就て討論し総見全体の批判意見及び個人の意見希望等を送られんことを希望する。）

二、日常斗争（特に工場内・小作争議）等の漫画、挿絵、絵物語等。

三、ソヴェート同盟の児童漫画、海外の同志達や労働者農民の写真。

四、日本以外の新聞雑誌等の写真漫画挿絵（特にソヴェート同盟その他革命運動の盛んな国々に就て）

五、諸君の工場職場兵営農村等の写真スケッチ（変装等）

六、ポスター（日本内外の）の写真及び模様。

以上をドシドシ送られんことを切望する。特に「一」の批判意見希望は毎号送られんことを希望する。吾々は諸君の「工新」の技術に就て批判と意見とを送る考へだから可能な限り毎号一部宛印刷部に送られんことを希む。

同志諸君！！

「赤旗」印刷部は諸君の協力と援助とを渇望してゐるのだ。「赤旗」を断然スバラシイものにしようではないか！！

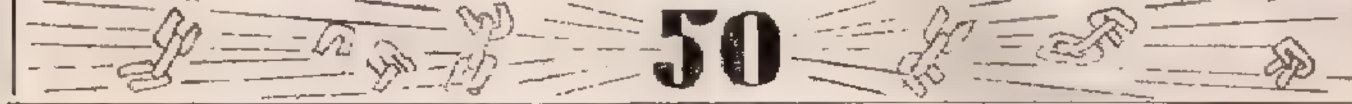
「赤旗」の印刷部に積極的に参加せよ！！

「赤旗」を支配階級の追求の手から守れ！！

「赤旗」オ五十号発行万才！！

日本共産党大衆化万才！！

附記 諸君の手元に次のものがあつたら至急送って呉れ。ロッブスキー著ロップスヲー号、ダラツ山内敏吉大矢省三の略歴。アイツ発行の労働者カレンダー。



週刊
赤旗
第51号
国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

八月廿九日！
日本帝国主義が朝鮮を掠奪した日

一九一〇年八月廿九日——此の日、日本のプロレタリアートは未だ若かった。

一九〇四——五（明治三七——三八年）年の日露戦争で日本帝国主義は北支那に於ける優越权を確保した。ツアールのロシアに対する日本帝国主義の勝利は、アジア大陸への侵略政策に於ける戦略地点としての朝鮮の掠奪を断行せしめた。一八八六年の「東学党の乱」以来着々と併合の準備を為しておた反動日本は遂に、日露戦役に名実共に朝鮮を日本帝国主義の植民地とした。

日露戦争に於ける日本ブルジョアジーの勝利は、又彼等の日本プロレタリアートに対する勝利であった。一九〇四——五年にあげられた「戦争反対」の叫びは戦役に於ける反動の嵐によって打ち消された。当時の革命家幸徳伝次郎（秋水）等が此の反動の犠牲となって絞首台の露と消えた。日本の革命的労働運動はこれを転機として可成り長い間停頓するに至った。

日本ブルジョアジーは、かくて、戦勝に依って、日本プロレタリアート及び勤労農民大衆の間に愛国主義、天皇主義を深く刻みつける事に成功し、十二名の革命家を反動の嵐によって虐殺し、他の十二名を無期懲役に処した。それと時を同じくして彼等は朝鮮を掠奪したのであった。

× × ×

目次
▼八月廿九日！・日本帝国主義が朝鮮を掠奪した日……一頁
▼五十号発刊を大衆獲得で記念せよ！……三頁
▼「赤旗」と共産青年同盟……四頁
▼中国の労働者農民を救へ！……六頁
▼鉄の火花……七頁

朝鮮民族は其の後日本帝国主義の鉄拳と迫害との下に置かれた。朝鮮の農業は日本帝国主義の発展の為にのみ存在せられた。（雑誌「マルクス主義」一九二九年三月号 同志水田幸之助の論文及び最近の「産業労働者時報」参照）

一九一九年万才運動の意義に就て我々は茲で繰り返す必要はないであらう。何故ならそれは数度我々によって繰り返されてゐるから。

一九二五年朝鮮共産党は創立され、その後に於ける朝鮮の民族解放運動にはプロレタリアートの地位が益々重要性を帯びて来たことは疑なき事実である。特に一九二八年の元山のゼネラルストライキはプロレタリアートの成長を示すものとして朝鮮の革命運動史に特筆さるべき事件であった。都市に、農村に、プロレタリアートと勤労農民、都市小ブルジョアジーの反日本帝国主義運動の炎は益々拡大してゐる。

資本主義破局と世界的経済恐慌は、そしてその一環である日本資本主義の恐慌は、その重荷を帝国主義と植民地の労働者、勤労農民の上に負はせた。斗争か？死の何れかを選ばせられた朝鮮大衆は反日本帝国主義の斗争へと進出してゐる。労働争議、ストライキ、小作争議、学校争議（？）の数は月毎にその数を増し、その斗争は益々尖鋭化してゐる。日本帝国主義を打倒する強大な力が此処に存在する。ソヴェート同盟での社会主義建設の成功、戦争、ツアールのロシア時代にその植民地であり、弱小民族として知られてゐた諸共和国に於ける社会主義の勝利、ボルシエビキの正しき民族政策の勝利並びに中国に於けるソヴェート領域の拡大、更に革命印度の進出は朝鮮（並びに台湾）の被圧迫大衆を力付けてゐる。日本帝国主義の支配を打倒する一勢力たる民族解放運動の一環として朝鮮の革命運動は進んでゐる。

× ×

一九二八年コミンテルンは朝鮮共産党に関する重要な決定を採用した。コミンテルンは、朝鮮に於ける革命運動の弱点の重要なもの一つとして無規則的分散斗争を指摘し、朝鮮共産主義者の最重要任務の一つは、正に被搾取者大衆を組織することに依って、この

要しき運動の発展を妨害する分派斗争を克服するにあると指示した。故ある永田革工場ある同マルクス主義白書上でこの点に詳細にふれてゐる。

朝鮮内地ではコミンテルンの正しき指導に基いて運動が進められたが一九二九年春、及び一九三〇年、三一年と打続く弾圧に依つて優秀な闘志達が逮捕、投獄された為工場で農村で斗争を組織せよ！の三の指令は絶対に正しかつた。長い間分派斗争に依つて苦しまされ——そして日本帝国主義者側からの弾圧を、客観的に容易ならしめた——た朝鮮の革命運動は、正しい方針に対する忠実な実践に依つて、この病根の克服に確固たる一歩を踏みしめたにも拘らず、今や彼ら自身の苦難の故に面してゐる。だが正しい方針に従つた闘志達の勇敢な、献身的活動は或る情況を被搾取者大衆の間に共産主義者の組織を獲得するに大きな力となつて残されてゐる。被搾取者大衆は共産主義者のみが彼等の真実の利益を代表して斗争するものであることを益々よく知りつゝある。コミンテルンの指導下に今や朝鮮共産主義者の政治的組織的活動を統一する代表的機関が準備されて居り、それの組織は何ものを以つてしても妨げ得ざる力を以つて大衆の間に拡大されてゐる。

× ×

日本内地にゐる朝鮮人労働者を組織することは日本プロレタリアートの重大な任務である。同一労働に同一賃銀をの為の斗争は日本プロレタリアートが行はねばならぬ責任である。我々は、工場で、職場で、朝鮮人、日本人労働者の共同斗争を組織し、且つ組織してゐる。だが未だ決して完全とは云へない。朝鮮人労働者の上に加へられる非人間的な虐待に対して、組織的運動に対して朝鮮人労働者及び革命的インテリゲンチヤに加へられる野蛮極まる迫害、特高等に対して、強力な反対斗争を（全国的に亘ることは言ふまでもなく、一地方的にすら）組織し得ないでゐる。このことは日本プロレタリアートの恥辱である。

日本に居る朝鮮人労働者の間には実に勝れた同志が沢山居る。我々はこれ等の同志達を教育し獲得しなければならぬ。朝鮮人労働者大衆を共産主義の側に獲得すること、反日本帝国主義の強い力として組織すること——それこそ日本プロレタリアート及び朝鮮共産主義者の任務である。

「工場で、職場で斗争を組織せよ！」「斗争を通じて組織へ！」と。このスローガンこそ未だに残つてゐる派閥的分派斗争を完全に克服する基本的なものである。労働者大衆を革命的に組織する代りに少数分子間の分派斗争を行ふ一部分の人々は広汎な大衆的斗争の場に依つて蹴散らされねばならぬ。プロレタリアートは分派斗争を断乎として排撃する。革命的プロレタリアートと分派斗争とは氷炭相容れざるものである。如何なる意見に於けるものにもせよ。分派斗争は断然止めねばならぬ。日本帝国主義者の残虐な弾圧政策、民族差別に乗ぜられる様なことがあつてはならぬ。工場で、職場で、労働者大衆を組織せよ！と。我々は飽くまでこれを繰り返す。共産主義者は労働者大衆を共産主義の旗の下に結集させるといふ実践に於てのみ自己の主張の正しいことを大衆に知らしめ得る。

× ×

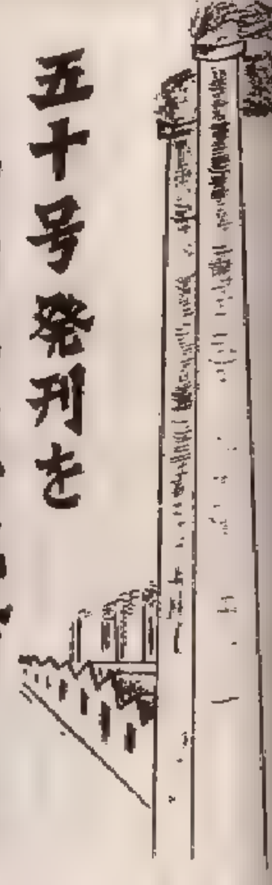
日本帝国主義は新しき帝国主義戦争の為に、朝鮮、満洲に新しく軍備を拡大してゐる。その為には朝鮮人支那人の虐殺をも計画実行した。（万宝山事件）ソヴエート同盟に対する武力干渉はすでに北海道で始められてゐる。日本共産党を潰さんとする日本軍の戦争準備に二つ戦争が続けられてゐる。日本のプロレタリアートはこの帝国主義的侵略政策に反対して断乎たる斗争を組織しなければならぬ。

一九二三年九月の関東大震災時に、数千の朝鮮人を虐殺させた恐るべき事実は何度も繰り返されてはならぬ。我々は共産主義者のみが植民地の独立の為にのみ斗争してゐるし、且つ、斗争し得ることを実践的に示さねばならぬ。

八月廿九日は日本プロレタリアートが、植民地独立の為に斗争しなければならぬといふ決心を深める日として記念されねばならぬ。社会ファシスト共の欺瞞的民族解放論と実践との裏切り的本質をバクロし、それと斗争しつゝ、我々は植民地独立の為めの斗争の旗印を高く〳〵掲げねばならぬ。

九月一日は革命的デモ、ストで記念せよ！
赤色自衛団を作れ！
革命的大衆斗争によつて白テロを粉砕せよ！

五十号発刊を大衆獲得で記念せよ!!



・赤旗五十号の発刊は
　党員にとつて……
実に祝賀すべき偉大な事業である。且つプロフインテルン大会から丁度一年を経た今日発刊されるといふことは特別の意義がある。
　何故なら
　　大会の決定は……
実現するための斗争は我党の重なる中心任務の一つであり、この任務遂行は党を組織的に強化してゐる五十号の本質は党の発展にとつて正に一時期を劃するものだからである。
・
　斯かる意味に於て
　　この五十号は……
党の過去一ヶ年間の発展の集約であり、赤旗に更に飛躍をもたらすであらう。
　そこで我々は
　　党の労働組合運動……
に於ける方針とその実践的方面を明確にせねばならぬ。
　何よりも先づ党は……
大衆との結合の弱い我々の仕事の集団的方針から、大衆斗争の集中的組織体として独自な党を急速に大衆化することを主要任務とした。これは党が労働者大衆の経済的政治的斗争を積極的に組織し指導することによつて初めて可能なのである。このことは又党が労働組合を自らと大衆を繋ぐベルトとして正しく指導する体制を正確に理解する。
　故にこれまで党は
　　労働組合の指導に……
特殊の任務を持ち且つ有力にしかし現在強力的に斗争し続けてゐる。労働組合運動に対する党の一貫せる態度は全口協議会の拡大強化を中心任務とする労働組合運動の革命的統一へ指導斗争を基礎とする大衆の下からの統一戦線との結合であり、この運動の発展にとつて最も有害な妨害を撃へてゐる社会民主主義的組合幹部の右翼日和見主義的傾向に対する断乎たる斗争である。
　経済恐慌が深刻化するにつれ労働者大衆の……
要求らしい革命化が現れた。吾党がこれらの大衆を獲得するには革命的労働組合を集成することなしには殆んど不可能である。故に党は全口協議会を通じて大衆的な赤色組合として発展せしめるために斗ひつゝある。一つの横断に対する斗争は実に赤色労働組合の発展にとつて不可欠の条件である。党がこの仕事を成功的に果すための指導は、具体的にはプロフインテルン第五回大会の決議に、特にわが日本の革命的労働組合の仕事の実行の完璧に宝つことを意味する。それ故に党はプロフインテルン大会の決議を最も忠実に遂行しつゝあるのである。
　先づ我々は党が
　　全口協議会によつて……
指導された大衆を如何に獲得すべきかの重大な具体的問題を立案し、我々の正しい理解のために斗つたことを誇げねばならぬ。これは吾党が武力的意識を以てゐる。我党は今の党の方針を提示して党と全口協議会の組織を強化する目的をもつて種々の重要な要求と結合して組織さを以つて行はれた。党は之に対しても級組に於て斗争した。闘争に対する斗争を通じて党と共産青年同盟は一致と協力した。
　党は国際共産党反対デー
　　及びメーデーには……
全口協議会を指導し数個の赤色組合デモを組織した。これは吾等多くの不充分さを持つてはゐたが従来の合法主義の殻を打ち破つて独自の方針に基き大衆的要求の旗印を掲げて果敢に闘争的意義がある。党は更に全口協議会を指導するだけでなくすべての組合に反対派運動を組織しそれを大きくまとまつたグループとして全口協議会に繰入れる方針を採り協議会はこの方針に基き、斗争を組織しつゝある。これ等の組合、総同盟、全口同盟、総連合の革命的反対派を結成しつゝある。
　我々は既に……
　　大衆的な党の……
全口協議会の方針は、革命的労働組合の組織を進め、大衆の組織に対する大衆の宣伝を強めた。党はこの点を著しく強めてゐる。全口協議会は全体の方針を大衆に普及した。最近の全口協議会は総ての方針に基いて今やその活動を強化しつゝある。
　党は今や全体として
　　日本労働組合運動の……
主要なる労働者を結集し赤色労働組合組織に集中するための基本的方針を確立し実践の一歩を踏み出した。然りそれは未だ遠く距つてゐるに過ぎぬ。我々は党全体の方針に於て労働組合を指導するのではないと云つた実践的に指導せねばならぬ責任を持つてゐる。

のである。

我々は労働組合運動の実践的基準に於て……

青年層に多くの不完全さがある。一口に云ふならば党と青年的労働組合の大衆化にとつて最悪不可缺の条件である経済斗争の指導的指導に就て青年層労働組合を全然準備させてゐないことである。具体的には次の如き欠陥として現はれてゐる。

一、労働組合運動の一つ一つに対して……

注意が足りない。一例を引くならば、評議会プレに対して我々は赤色組合と反対派を工場内で斗争させる様に活動しなかつた。

二、経済斗争の独自的指導は最も重要な……

闘争を持つ工場内の日常活動を忘れ指導してゐない。

三、企業を基礎に全全的労働組合を……

再組織することに対する、伝来不断

四、活動能力ある積極分子を作ること……

によつて組合活動の沈滞と不活発を打破することが殆んど行はれて居ない。

五、組合のそれ〳〵の

職場内のフラクションの沈滞的与論

動によつて指導するわれ〳〵に全斗によつて行はうとする傾向が強く残つてゐること。

以て我れ等は事実は何を示すの……

青年部が方針の実行に当つて非常に指導的であり、又はボンヤリしてゐることを証明してゐる。これまで党は機会ある毎にあらゆる機関でこの事を強調して来た。我々は斗争としてこれを実行せねばならぬ。

我々が正しい指導者であり……

指導者である場合にのみ赤色労働組合を真に大衆主義の学校とかし得るであらう。

プロフィンテルン第五回大会の決定を忠実に遂行せよ！
未組織及改良主義組合大衆を党と赤色労働組合に獲得せよ！
赤旗五十號発刊万才！
党のボルシエビーキ化万才！

『赤旗』と共産青年同盟



日本共産青年同盟は、共産党の大衆的な準備機関として、党と最も密接な関係を持つて前進しつゝある。そして党中央機関紙『赤旗』は同盟の政治生活の基礎として、同盟を指導して来た。創刊以来、赤旗は、同盟の前進に対して、主要な方向を与へて援助して来た。

党中央機関紙『赤旗』と同盟との本質的な関係は、党と同盟の本質的相互関係を示す。日本共産青年同盟は、同盟に古いアマをもつにも拘らず、労働青年の間に大衆的な組織として発展しえなかつた原因の一つとして次のことを挙げることが出来る。即ち同盟と党との正しい関係、プロレタリアートの階級斗争全体のうちで占める同盟の地位と役割に就いて正しい理解が、党、同盟の多くの人々の間になかつたことである。

党と同盟の関係、同盟の独自的な役割については、第一に、同盟が党の大衆的準備機関であることが忘れられ、同盟は、プロレタリア青年が共産主義を学ぶ共産主義的政治組織である。しかし、学校として大衆的な組織であること、プロレタリア青年が広く獲得されるべき組織であると同時に、全共産青年の大衆を獲得し、訓練する組織であることが必要である。

然らば、この様な大衆的組織が、共産主義的政治組織であるためには、何が必要であるか？

それは何よりも共産党が指導するプロレタリアートの全階級斗争に積極的に参加すること、青年生活に積極的に参加することである。だから、同盟は党が組織する全階級斗争、反戦斗争、失業反対の斗争等々に積極的に参加すると共に、党の為のあらゆる政治闘争、解党派に対する斗争、党内の主要な危険である右翼日和見主義との斗争、党の要求を生産点に関する討論の場合に積極的に参加せねばならぬ。この意味の下でのみ、労働青年を大衆的に獲得する大衆的組織が、共産党の指導を支持し得る。この方向に於ける同盟の今迄の態度は決して充分ではない。

さて、正にこの根本的な党と同盟との関係を実現するために重要なものが『赤旗』である。赤旗は、同盟に党のプロレタリアートの斗争をセンドウし、党の政策を浸透する武器である。同盟は『赤旗』を、その斗争と政治生活の基礎としなければならぬ。『レーニン青年』は『赤旗』の厳密な指導の下



ためることが必要であり高橋しに事かれた主要問題について、全国盟員が活発に討論しなければならない。

創刊以来『赤旗』は、共産青年同盟に対して、どんな方針を与へて来たか？ 『赤旗』は、共産青年同盟が成立した当時に比べて、その前提条件が成熟しつゝある客観的状勢に比較して、許されない程の立ち後れの状態にあることを指摘し、グループ的存在から工場細胞を基礎とした大衆的共産青年同盟に成長しなければならぬことを強調した。そして青年労働者、貧農青年の多数者獲得が同盟の中心的スローガンであり、この大衆獲得の速度を早めるために、大衆活動に向つての方向転換と、工場活動を成育し強めることが必要であると指示した。

現在、同盟が、工場細胞を基礎とした全国的な政治的組織へ第一歩を踏み出したことは確認される。だが工場細胞の活動、工場活動は未だ〳〵不完全であつて、それが不断の組織活動へ大衆カンパニヤの組織的活動と充分に結合されてゐないと云はう。そして、これらの不完全の要素こそは、大衆の党質化と活動性を阻害してゐる右翼日和見主義の現はれである。同盟は右翼日和見主義のりない現はれとも、ムジヒに斗ふ工場に対する指導をより具体化する必要がある。地方指導部と工場との関係をもつとキン密にして生々した指導体系を作ることが必要だ。又『レーニン青年』は大衆活動の実例を豊富にのせて、工場活動を強めることが必要である。『赤旗』は、大衆カンパニヤの要素的技術として大衆的な基礎斗争等へ青年を積極的に加入し、その斗争を組織化することと、及び青年ストライキを包括的に準備し、指導することを強調した。だが、この方面での成果は極めて少い。ストライキの準備、青年ストライキの準備について、具体的な活動をやる必要がある。この方面に於て、決定的な転換を行ふために、労働組合活動に於ける沈滞を克服せねばならぬ。同盟が、此の方向に向つて前進し始めたことは正しい。だが、全協青年部を実際に大衆的日常斗争を組織する能力と、それに成功する斗争を巧みに結合する能力を持つ革命的な組合を作るために、青年部に対して、それと同時に全協同盟員を労働組合活動に動員せねばならぬ。大衆党機の職場に於て工場活動を、労働組合活動へ同盟の主要な進路を向ける事は絶対に必要であつて正しい方針である。

『赤旗』は、同盟が反帝国主義、反ファシズムの斗争を現に組織的に展開せねばならぬことを強調する。此の斗争は、同盟の主要な斗争任務である。日本帝国主義が満洲問題に関する武装干渉を増加しようとしてゐることは明らかにサヴエート同盟に対する武力干渉の積極的な準備である。帝国主義の五・年計画は、日本を恐威する。だから満州、満蒙に帝国主義が増加する必要があると公然と唱へて最大のキゲンである右翼日和見主義と斗争して——

大衆活動へ！
大工場・大企業へ！！

ある。サヴエート同盟に対する武力干渉は、日本帝国主義によつてロコツに叫ばれてゐる。サヴエト同盟擁護のための真に大衆的な運動を重要として、反帝国主義、反ファシズムの斗争が真に継続的に遂行されねばならぬ。この方面での消極的態度と、一般的な言葉の繰り返しは、階級的裏切であり、同盟の根本任務に反し許し難い誤謬となる。同盟は軍隊、青年団、青年訓練所等の活動を強めねばならぬ。本誌は、日本共産党の政治テーゼを発表した。これによつて革命の展望と戦略戦術が明らかにされた。同盟はこのテーゼの根本的な意思と綱領を討論するために、全同盟員をそれに動員せねばならぬ。そして、党の綱領を完全に承認し、これを基礎として、日本共産青年同盟の政治テーゼを作らねばならぬ。

かくして同盟は、プロレタリアートの階級斗争に於て占める自己の独自的行動範囲を明らかにし、そのままの大衆的な活動状態から速かに脱け出で、労農青年の大衆的共産青年同盟建設に向つて前進せよ！

以上の二篇は本誌第五十号に寄せられたものであるが頁数の都合上第五十一号に載らざるを得なかつた。筆者並に読者の諒承を乞ふ！

赤旗編輯局

中國の労仂者農民を救へ！

水害慰問使節の派遣と救援金募集カンパーニアをまき起せ！

全口の労仂者農民兵士諸君！

中口の労仂者農民は未曾有の水害のため破滅に瀕してゐる。七月中旬頃から氾濫は長江に始り、流域地方から集つた避難農民の数は武漢のみで数十万を数へてゐる。しかも武漢三鎮は既に大湖と化し一日を逐うて溺死者の数は増してゐる。被害地域は中部長江一帯の湖北、湖南、江西、安徽、江蘇の五省を中心とし、更に両接する地域は多少共増水氾濫の災害に蔓延してゐる。かくて被害地罹災民の数は実に数千万を数へるに至つた。水害は貧困な農民の手から農産物の収穫を全部奪ひ去つたばかりではなく、低所にあつて防水設備を有たぬ都市労仂者街を完全に破壊し流失せしめた。彼らは今や家屋と共に身を失ひ、悪疫と飢餓の中に喘ぎ待つてゐる。しかるに蒋介石と各口帝口主義の手先共はこのどさくさにまぎれて、丁度東京地方の大震災の時に日本の資本家地主政府がやつたやうに、数多の革命的労仂者と農民を逮捕し虐殺してゐるのだ。

全口の労仂者農民兵士！

湖北、江西及湖南省の南部、福建、広東省の一部、安徽、江蘇省中の幾乎江南岸一帯に於ては帝口主義者の支配を駆逐して労仂民衆のソヴエートが樹立され、赤軍とパルチザン隊は蒋介石の軍隊を撃退してゐる。然るに植民地革命の輝かしき先駆となり、日英米帝口主義による爆撃の互競を画策し、世界革命における重要な戦線を演じた土地革命の光輝の半ば以上が惨憺たる被害地となつたからである。この為めに、封建的経済の基礎を確立すべき偉大なる事業は少からず妨害されてゐる。だが、ソヴエート地域の労仂者と農民は帝口主義者と蒋介石の反革命に対する勇敢な斗争を放棄しなかつた。湖北、江西、の赤軍は武漢の災害者を救くために、そして労仂者と農民を救ふために進撃し始めてゐる。

全口の労仂者農民兵士諸君！

飢餓と悪疫に曝され反革命的テロルによつて虐殺されてゐる中口の幾千万の罹災勤労民衆の生命を救へ！中口革命を鎮撫せんとする口民政府と帝口主義者共の一切の攻撃に対して断乎する中口の革命的勤労民衆を守れ！中口のソヴエートを守り、赤軍の斗争を支持せよ！中口の労仂者と同様に日本の帝口主義ブルジョアジーの搾取と圧迫の下にある諸君労仂者農民兵士の解放にかかせよ！諸君はこれによつて、帝口主義戦争の計画を実証し、ブルジョアジーによる救済の欺瞞と力を暴露しなければならぬ。労仂者農民勤労被搾取被圧迫民衆を救ふものはソヴエート同盟を先頭とする世界の労仂者農民以外にはない。

全口の労仂者農民兵士諸君！

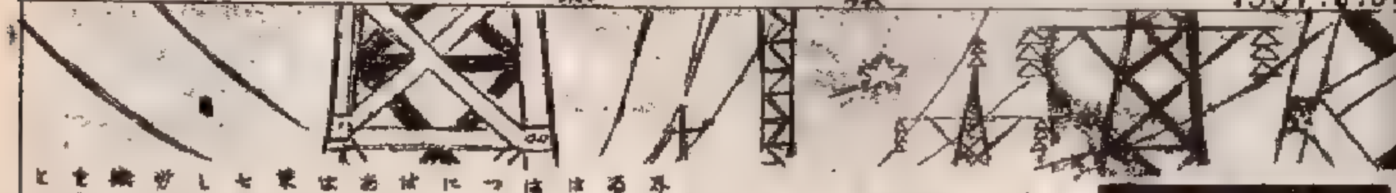
工場農村兵営を中心に即時救援募金募集カンパーニアをまき起せ！・労働使節派遣のために労仂者農民兵士の代表を選挙せよ！

諸君は諸君のこのカムパーニアを通じて口際労仂者救援会日本支部の創建を斗ひとらねばならぬ！又労仂者と農民のソヴエート友の会を作らねばならぬ！これこそは中口のソヴエートと罹災勤労民に対する、諸君の最も価値多き贈り物である。

中口罹災地の労仂者と農民を救へ！
中口のソヴエートを守れ！
反革命テロルに対する中口共産党並に赤軍の斗争を支持せよ！
中口、日本の労仂者農民兵士の革命的提携万才！

一九三一年八月二十七日

日本共産党中央委員会



鉄之火花

白テロ反対

第八週年記念斗争日を迎ふ

××生

一

大戦後（大正七年）日本は、世界的な革命の大波の中に包まれてゐた。朝鮮では万才事件、内地では米騒動が起り、日本の労仂者階級は非常な革命的昂奮を示してゐた。つゞいて全口の大工場、大坚鉱山にストライキが頻発し、労仂者階級は政治的に非常な発展を遂げつゝあつた。大正九年には労仂者階級は「普選獲得」を叫んで政治運動へ乗出して来た。農村に於ては大正七年以来小作争議が頻発し、尖鋭化した闘争をとるに至つた。是等の労仂者農民の政治斗争を指導し、組織する為に、労仂者階級の為に政权を奪取し、プロレタリア独裁を目標として斗争する為に、絶対の前衛日本共産党が初めて、大正十一年（一九二二年）十一月日本にその偉大なる姿を現した。然るに之に驚愕した政府は、党の未だ弱いのに乗じて、大正十二年六月五日、絶対の前衛に対して最初の大検挙と白色テロルを加へた。共産党の検挙弾圧と同時に、狂暴化した支配階級は、革命的労仂者と革命的労仂組合に対して弾圧を加へた。資本家地主にとつて最もおそろしいプロレタリアートの唯一の党日本共産党は生れると直ぐに支配階級の残虐な白色テロルを受けねばならなかつた。党は白色テロルを受けると直に再建運動を起した。更と共に朝鮮の青年労仂者は日本の共産青年運動の為に、九月二日の口際無産青年デーの準備に活発に活動を始めた。党だつ二日、八月三十日のアル新聞は此の先輩ある口際青年デーの準備を「青年インタナシヨナルの陰謀」と称して、あらん限りの誹謗を以て攻撃した。日本共産党の出現に、労仂者階級の革命化に驚愕の念を抱いた支配階級が、青年デーの「陰謀」に如何に血迷つて共産主義者を撲滅しようとしたか！それは次の関東大震災が時の兇暴なる白色テロルが最もよく実証し物語つてゐる。

二

大正十二年九月一日――関東地方一帯は未曾有の大混乱に陥つた。通信は杜絶し交通運輸の機関は破壊された。政府と軍部は此の混乱を政府の統制に苦悩した。が同時に此の混乱状態を利用してその野望を暴力的に遂行する事に一決した。「全市民の安寧秩序の為に」治安維持の緊急勅令を発布し、戒厳令を布いた。彼等の有力な組織力を利用して、小ブルジョア民衆の盲目的愛国心を誘発する為に「不逞鮮人の暴動」等々の無根の悪宣伝を試みつゝ、彼等の野望を遂げる事を合理化しつゝ、共産主義者を虐殺し、千人に近い朝鮮人をたゝき殺した。何れも市民の安寧秩序を乱すがためにと称して！

亀戸の共産主義労仂者平沢計七、河合義虎、北島吉蔵、近藤広造、佐藤欣治、吉村光治、山岸實司、鈴木直一の九人の輝ける俊逞の兄弟達は官憲と軍隊に捕へられて残虐され死体は何から何へと葬られ焼き捨てられたのだ！

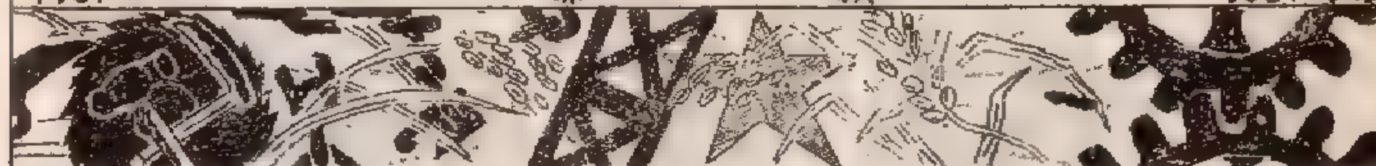
一方、外に於いて朝鮮の兄弟は、自警団青年団軍隊に追い廻されて道路に於て虐殺された。何んと云ふべき無い朝鮮の兄弟達、すべき帝口主義の手先が放つた犠牲の悪煽動の為に驚くべき者の犠。

大震災による莫大な損害は関東地方一帯の全経済を混乱と困窮の裏に置いた。農民中に置いた。高価者の数は数万人大衆は餓に苦つた。

俄逸の祖口労仂者農民のロソヴエート同盟から救援の為にレーニン号が芝浦にやつて来た。反動政府はアメリカ帝口主義の援護が乏しきを急んでゐた。けれども民衆を救ふ為にはやぐやつて来たレーニン号は追ひ返した。

三

大震災の混乱が鎮まつた頃も政府は長い間共産主義運動を鎮圧すべく治安維持の緊急勅令を強化したかつた。共産党事件関係者の審理を初めとして資本家地主の反動政府の労仂者階級に下せる白色テロルは益々猛烈となつた。それと同時に震災の混乱の中に成立した山本内閣は普選運動の口約を宣し労仂者農民を欺瞞し支配階級の政



労的支配の基礎を固めんとした。
かくて労働運動のすでに非合法な農組織会及すべてのものが公然と現はれた。幹部の最大の労働組合・政同盟の中に鈴木・松岡・西尾・赤松等出の一連の者が現れた。それが始め政党が、資本家的政策を勧めして革命的労働者をまで支配階級と協力して抜圧し始めた。白色テロルの強化と監督機構の買収によつてブラくした小ブルジヨア的指導者共は公然とプロレタリアートの敵として支配階級の機関の下に敗走したのである。

四

支配階級の両手に握られた白色テロルの鬼界は第一次共産党事件を手切りとして大震災当時の亀戸事件によつて益々とすすめられた。革命的労働者農民に下されるその鬼界は絶え間なく三・一五、四・一六、三・二六、七・一六となつて現はれ、一切のストライキ、小作争議に荒れ狂つた。そして今や益々死にもの狂ひの弾圧が、ソヴェート同盟の攻撃と新帝口主義戦争の準備の為に、革命的プロレタリアート農民の上に荒れ狂つてゐる。これ自身の階級支配を労働者農民の搾取で維持せんが為に、資本家地主の政府は益々弾圧を強化してゐる。

——社会ファシスト共は、革命的プロレタリアート農民に下される白色テロルの鬼界に対して断然と戦はうとはしない。否、彼等は裏切の第一日より白色テロルと協力して革命的プロレタリアートを弾圧し抜圧して来たのだ。

彼等は強者なる白色テロルに対して、彼等の兄弟日本共産党を売りし、彼等の革命的組織を拡大強化し、又、大衆に対する社会ファシストの影響力を益々強化して大衆を獲得し、その兇悪な資本家地主の手よりもぎとり、奴等資本家地主の政府を倒し、ソヴェート政府を樹立しなければならぬ。

今年は亀戸事件の八週年を迎へる。殺された、輝ける犠牲者の血汐の中に、犠牲者の為め、農民は、悩んでも余りある白色テロルに対して、敢然起つて戦はうではないか!

日韓併合の革命的記念の為に

X・X・X

封建制度を打破した明治維新の革命は新興日本ブルは、新生産様式新経済組織を採用し、その結果明治二十年代には産業革命を見るに到つた。此の頃より若き日本資本主義はその発展過程に於て人口の捌け口市場原料の供給地を求め初めたのである。そこで目をつけたのが衰退した封建制度と腐敗した将政階級で極度に国家維持不能の朝鮮である。従来、日本は朝鮮に対して不完全ながら進歩的役割を果して来た。即ち一八八二年の朝鮮事変に於ける日本の役割は正に衰弊に対する革命を朝鮮開港促進に援助したものである、が日本資本主ぎは未だ労力弱く十分にその任務を果し得なかつた。かゝる間に日本の資本主義制度は次第に整つて行き朝鮮に対して特殊市場を獲出するやうになり、日本は朝鮮へ侵略の第一歩を押しはじめたのである。

一八九四年に東学党の乱が起つた。これは本質に於て農民の革命的蜂起であつたのである。朝鮮を蚕食する帝口だうしめんとしてゐた日帝国口主ぎはこの事件を中心として戦端を開いたのである。戦争の結果朝鮮は名目上清国から独立したのではあるが、日本に隷属する者一歩を踏み出したのである。之が即ち以来日本は朝鮮に対して永久に進歩的役割を捨て、反動化したのである。

二十世紀に入るや世界は帝口主義へと発達に推移した。其の間以来日本はその勢力を着々朝鮮を中心として拡張し海外市場と原料供給地とを必然と要求し初めたのである。即ち新興帝国は同じく東洋へ侵略の手を伸ばした帝政ロシアとは朝鮮半島と満蒙を競争せんとして遂に、前期的な帝口戦を演じた。

戦勝した日本は戦後益々帝口主ぎ口としての地位を確立した。即ち公然と朝鮮に於て保護的上に優越権を認めさせ朝鮮は保護口となり、制々と政治的にも経済的にも侵略され、韓口の制度組織は日本帝口主ぎの強盗的侵略により蹂躙されるまゝになつてゐた。然も之に対する反抗運動はその当初より日本帝口主ぎの軍隊の為弾圧され逆殺された。即ち統監府は事実上中央行政機関として大衆的弾口を間断なく下し、或は韓口の外交権を暴力的に奪取した。かくして朝鮮は事実上日本帝口主ぎの植民地と化して行つた。遂に朝鮮併合案の不平不満はヘーグ平和会議の時に使者を送つて日本の暴戻を訴へ口際的援助を求めた。だが、平和会議に集つた諸口はどんな性質のものであつたらう。集まつた諸口は日本帝口主ぎと一つ穴のムジナであつたのだ。この後者問題の為に口王は退位の止むなきに至り(一々までも名義上のものではあつたが)その後次々と幾多の事件が起き次いで遂に伊藤博文暗殺事件が発生した。この事件は韓併合の事



める口実となり、一九一〇年八・二九朝鮮は名実共に日本帝口主ぎの植民の為に併呑された。この時に全口の民衆は乱を起し韓口軍隊も亦暴を起つたが、日本帝口主ぎの軍隊によつて粉砕された。

日本、斯くして無残な朝鮮を併呑せんとしたが他の諸帝口主ぎの環視の下にあつてその野望は不可能であつたが日本のブルジヨアジーはどうしても朝鮮を独占しなければ口を維持してゆけないのだ。原料供給地として市場として又の強化であるが故に。かくして併合された朝鮮は日本帝口主ぎの完全なるスパイ網軍隊配備によつて動くことなき搾取の手と鉄足の下全朝鮮にふるまつたのだ。

併合後二十一年間の日本帝口主ぎブルジヨアジーの主要政策は第一に朝鮮を日本の原料供給地と商品の市場たらしめようとするのであつた。その外には朝鮮米による日本米の不足の補充及び投資の拡張たらしむることであつた。第二には膨張する日本の人口の捌け口として移民を送り朝鮮民族の耕土貴土地来地に於て農業し帝口主や的先駆の基礎を作る。第三としては蒙古満州両はシベリアへ侵入の日本帝口主ぎブルジヨアジーの軍事的進軍路とすることであつた。然して日本帝口主やブルジヨアジーは上述の政策を以て植民政治を確立し、土地調査局を総督府の所属に於て一九一二年不動産登記令、不動産証明令、土地調査令等を発布して土地の大々的収奪を行ふ。一方東拓其他の日本資本は之を機として侵入して高利貸を以て土地を集中した。日本はかくした強盗的侵略を行ふに軍国政治を行ひ憲兵制度、文官制、刑制度、集会結社言論出版の禁止等を強ひた。以上の如く又背後に兵力を有する総督府は公然たる弾圧政策の下に全経済生活は日本帝口主ぎ者に握られてゐる。即ち鉄道の大部分は日本により所有され、煙草塩等は専売されてゐる。銀行では朝鮮銀行と殖産銀行とが独占的地位にある。工業は植民地に隷属して植民地として投資がある。

武断政治に対する朝鮮民族の反抗は高まり一九一九年三月一日の革命運動はこの反抗の流れにのつて斗はれた。新興民族ブルジヨアジーの自由主ぎ的旗印の下に朝鮮民族を率ひて全口的デモが斗はれた。日本はこゝに於て政策の一変を来したのである。即ち如何にす部分が階級等の味方にするか又如何なる階級が自分等の基盤を堀るかを求ぶことに焦点がつき此處に於て朝鮮各地の上層小ブルジヨアジー名望家等を集めて各人の意見をきゝ制度改正が計画された。

制度改正は動揺せんとする朝鮮の工業をあくまで日本ブルジヨアジーの利益のために利用せんとするものであつた。会社令・朝鮮令等が発布された。工業勃興は必然的にプロレタリアートの成長を意味する。朝鮮独立運動へ プロレタリアートの登場 民族ブルジヨアジーの裏切り、二十年間に二十倍にもなつた耕地生産高の大部分をとられて土地を失へる農民の窮乏化、民族的差別をうける若き学生——かうして斗争は尖鋭化した。

一九二五年四月治安維持法が朝鮮に施かれた。朝鮮共産党が正式にコミンテルンに認められた。一九二九年元山ゼネスト以来全鮮は革命的高揚の時代となつた。相ついで起るプロレタリアートの英雄的斗争は全鮮を震撼させた。釜山のゼネスト、平壌のゴム工場のゼネスト、咸興炭坑の斗争等、迎湖農場の小作人達の斗争、木浦の斗争等、列挙するにいとまない程だ。

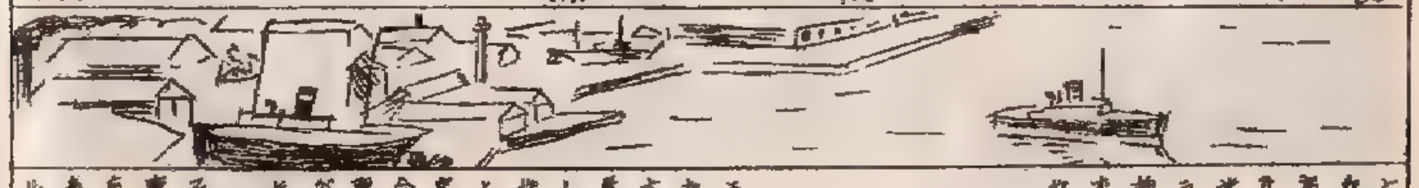
帝口主義諸口の満蒙の式地を獲つてゐる時日本帝口主義者はその軍事的勢力を朝鮮に集中しはじめた。そして先着者蒋介石をひつこめ学良内田の新運日本帝口主ぎチブルジヨアジーの手先を満鮮に配置して来るべき戦争に準備した。そして満洲政策の一先は吉会線へてゐる。この政策こそ実に満洲を自己の植民地とする政策に外ならぬのである。かゝる時に於て日本最大の植民地そして満朝鮮に於ける革命運動の進展は日本帝口主ぎブルジヨアジーにとつての最も大きな脅威である。朝鮮に於ける革命運動は大衆の下に日本の帝口主ぎやブルジヨアジーの攻撃を助し緊密にする大衆の運動を精力的に支持し援ち仆す為に全力を盡すこと我々日本のプロレタリアートにとつて把むべき最重要な戦略的一環はこゝにある。

鐵の規律を守れ!

——同志XX君へ——

△生

俺は鉄の規律の為に命一つの非常に重要な事を言はねばならない。それは、我々の同志可成指導的地位にある同志XX君が総ての同志の個人的事情その同志の仕事上の様々な関係を無視に如何の関係もない同志達にべらくしやべつてゐる事だ。俺はこの事は断然許すべからざる事だと思んだ。同志XX君の悪乱がなとへ無意識であつたにしろ又そのしやべつた事がXX公然の秘密の事柄で有つたにしろそれが党員同志の間であつたにしろ、かゝる行動は正に憎むべき行為だ。



★一挙一動一言一句に心せよ。同志を白日にさらすな！
★同志××君並びに全国の党員諸君、鉄の規律を守れ！。

どん事に我々の党が大きく公然の力を持つ様になつても党自身の生活には法的場以外に絶対に触られてはならない秘密があるはずだ。況んや現在の状態に於てはそれをべらべらしやべるに於ては事前の如何に拘らず斯しい如き行動者と断ずる。例へ彼が同志の身柄や居所や行動が或一寸分にバレやうつて

ある様な時には同志の力その他当局のかろがろない様に智労するのが我々の同志意識ではないか。

同志××君は直ちに自己批判すべきだ。吾が党々の信頼すべき誠意を同志である以上直ちにその責任を何は（く）むべき行動に出るためよ。

斗士養成問題に就て
―四六号七頁を読みて―

斗士養成は実に緊急な仕事である。未だ曾てない猛烈な経済的危機に直面してゐる現在、労働者農民大衆は自然的に尖鋭化し、革命に総蹶起する事の出来る条件を十分に有してゐる。然し乍ら、斯る有利な條件の下に於てさへも我々は堅実な党とその正しき指導なしには革命を完成する事は不可能である。我々は今日程堅実な党の必要に迫られた事はない。（それは常に必要なのだが今日の如き有利な條件に於てはそれは益々要求される）

党が堅実である事は、その構成分子たる個々の党員がよき斗士である事である。よき指導者である事である。よき共産主義者である事である。「若しプロレタリアートがブルジョアジーを打倒せんと欲するならば、プロレタリアートは其の体位の中よりブルジョア政治家に比して遜色なきそれ自身のプロレタリヤ「職業的政治家」を養成しなければならぬ」（レーニン「一九二〇年、党員への手紙」）即ちよき斗士、よき指導者、よき共産主義者とは如何なる人の事か。

「労働者農民大衆の要求をまとめてその下に大衆を組織し動員する事、そしてその要求を日本プロレタリアートの、延いては世界プロレタリアートの終局的目的と巧に結合させ得る階級斗争の実践的指導者のことだ」（四六号七頁二段四行目）と赤旗は正しく書いてゐる。

よき指導者の前には大衆は手足の如く動くのを我々は知つてゐる。それは彼がその大衆の信頼と尊敬を受けてゐるからだ。然らば彼は如何にして大衆の信頼と尊敬とを勝ち得るか。

先づ我々は大衆を正しく指導せねばならぬ。その為には大衆の第一の要求を敏感に察知する事が必要だ。そして其の要求の先頭に立つて勇敢に斗争するのだ。若し正しき指導を我々がなすならば大衆は我々について来るであらう。大衆は常に正しき方向にのみ動く。だから我々は常に自分固有の斗争経験や色々な書物、パンフレット、優れたる指導者の経験及び指導により研究せねばならぬ。文字を読み得るやうで低階級的政治家になれないのだ。

次に我々は大衆の為に文字通り献身的で無くてはならぬ。それが如何に小さい行為にせよ一見つまらない（階級的意義のない）行為にせよ大衆の為なら進んで行くべきだ。我々は凡ゆる点で献身的であれ。

その次によき共産主義者となる為には自己の性格を徹底的に批判して自己の欠点（癖等）を克服する事が必要だ。若し我々が性格的にルーズな点があつたならばそれはだらしない所が現れて来るだらう。我々が作つた組織にはルーズな点、だらしない所が現れてゐるだらう。天性ルーズな人であるならその仕事に於て凡ゆる欠点が仕事の欠点として現れる。執拗性忍耐力の堅実な人でなければ小さな斗争さへも勝利に導くことは出来ないだらう。然り我党に要求される人間には大衆の第一の要求を見出すことは不可能のことだ。

即ち我々の性格の欠点は我々の仕事に現れるのだ。故に斗士の欠点は彼の組織に正しく反映してゐる。我々のする仕事は吾々の性格の鏡だ。

だから完全なプロレタリヤ人格者にして始めて完全な仕事をなし得ると断言する事が出来る。我々は即座に自己の性格を反省しよう。

薄情か粗雑か、気が弱いか忍耐力はあるか執拗性を持つてゐるか自信を持つて働いてゐるか、献身的であると云へるか、等々。

「政治的機会が既に充分に発達しそして実践的に訓練され且つ永い実習の経験を経過したところの、そして相互に結ばれたる専門的活動家なしに、……十人の有能な経験ある指導者なくしては、近代社会に於ける如何れの階級も一つの決定的な斗争を行ふことは不可能である。
――レーニン

我々は斗争の中に於て自己の欠点、挑戦を清算、克服してよき指導的政治家、よき共産主義者とならねばならぬ。

ボリシェビキー的自己批判の旗を高く掲げて斗争の先頭に立て！

週○刊
赤旗
第52号
国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

國際青年デーに際して

国際労働婦人の組織を強化することはブルジョアに奉仕することを意味すると云ふ第五回プロフィンテルン大会の日本問題に関する決議の中の言葉は、我共産青年同盟の場合にも正しく適用される。

我々は今特に婦人に関してのみ言ふ。

産業合理化の強行と、生産の系統化は、以前には男子労働のみの産業、鉱山へ、冶金、化学、交通運輸、出版、食料品等に多数の労働婦人を引き入れた。今や機械を初めとする主要産業に於ける婦人労働者の比重は益々増大しつつある。これと同時に見逃してならぬことは、資本主義的産業合理化の必然としての、婦人労働者の年令の低下である。停年制による既婚婦人の放逐、主要大企業に於ける成人婦人の就業の拒否等々。最も強度な深夜業に最も従順な労働者を得ようとするブルジョア搾取者のあくなき要求の現れである。この為に成人婦人の就業は益々圧迫され困難になつて行く。

セメント産業に於ける婦人労働者の雇入れは、二十才未満どころか未だ小学校を終へぬ少女を、工場寄宿舎の学校をかせぎ作ら卒業せしむると云ふ好ましげな工作によつて疲弊にひんせる農村から大量的に狩入れてゐるのである。

交通産業に於ける婦人雇入れの年令は市バスが十六才より二十才以下、停年制が市バスが三十五才、横浜バスは結婚まで京都バスは未婚者である事を雇傭條件としてゐる。其他の産業部門に大企業に於ては、最近に於ける雇傭は凡つぱらその年の小中学校卒業生をといふ方針で直接学校当局、職業紹介所との聯絡の下に行つてゐる。三越、松坂屋等の大デパートに於ても、この方法に依つてゐる。

かくの如き現実は、吾々の労働婦人間の活動組織の為の凡ゆる新らしき方法の研究と、大衆の中に於ける日常活動に対する党と共青との凡ゆる援助に於ける共同の問題を前面に押し出してゐる。そして我共産青年同盟組織の拡大強化大衆化の為の具体的方向を明示してゐる。

日本の共産青年同盟が世界の支部の中でも決して誇り得るものでないこと、（こ）、でも年少婦人労働者の間に於ける活動が殆んどなされてゐないと云ふ事は否定出来ない。

問題は、年少婦人労働者の間の活動に対して同盟の各部が、若い婦人労働者の為めの特別の活動を責任を持つて研究し、活き活きした青年らしい（少女らしい）方法によつて、若い婦人労働者にもつと／＼積極的に近づいて行かねばならない。その為には、工場、農村、仕事場に於て、凡ゆる大衆組織、凡ゆる機会を利用し、又創設して行かねばならない。青年活動に於て理論的な（同時に右翼的な）なんだか現実味の無い苦しいゴチ／＼した態度が一番よくない。青年活動に勤激頭化は絶対に禁物だ。

日本の婦人労働者、若い婦人労働者は、政治的に成長するに必要な凡ゆる条件を加備されてゐる。

封建的家長制度により、小学校に於ける反動的奴隷教育に依り、又ブルジョア新聞、教会、寝言の、少女雑誌等によつて幼少からの系統的な反動宣伝、ブルジョア組織の影響を受けてゐない若い婦人は一人もないだらう。特に近年に於ける婦人労働者の年令の著しい低下の傾向は、小学校に於ける所謂「職業教育」と称する資本家的教育を婦人に占めしめてゐる。この方面に於ける共青及党の任務に就ては、コミンテルン第十一回プレナム（執行委員会総会）に於ける「国際共産青年同盟に関する決議」の中で……（イ）共産主義少年運動の指導をして、この活動に当らせる事。（ロ）……党が少年運動を積極的に支持すること……日本共青は直ちに若い婦人労働者の闘争の雇を組織の若い婦人労働者を斗争へ獲得する為の、同盟に加入せしむる為の特別の活動を充分に評価して精力的に組織化せねばならない。又かくする事によつての全国の婦人労働者の組織化を発展せしめ得るし共産青年同盟

目次

▼国際青年デーに際して …… 一頁
▼反動的婦人運動への斗争 …… 二頁
▼帝国主義の戦争テーゼとは何か？（二） …… 五頁
▼吾ら獄窓にある同志竹山君を見殺すな！全国の党員並に革命的労働者農民に訴ふ！ …… 六頁
▼鉄の火花 …… 七頁

を現在の如き貧弱な状態から真に革命的な大衆的青年組織へ発展させる力量を有現とし得るであらう事を吾々は確信をもって言ふ事が出来る。

国際青年デーに面して以上の現実は如実に、吾共産青年同盟の全国的途に向って最も重要な任務として何……闘争を見よりも数的に強大な組織に発せしめるが為に……政治的、宣伝的斗争を準備し遂行する事により、種々異った方法で青年の間の活動に歩り、その際青年婦人に特別の顧慮を払ふ事……（コミンテルン十一回プレナム共青テーゼ）を要求してゐる。

これは、党と特に共産青年同盟全体との共同責任にかゝることの方面に於ける吾々の当面の重要任務である。

反動的婦人運動への斗争

未曾有の「危機」に際めるる日本ブルジョアジーの労農階級への攻撃は労農階級の最も弱き部分プロレタリア勤労婦人の上に特に惨酷に現はれてゐる。彼等の「危機克服」のプログラムはそのあくなき搾取を、凡ゆる美しき欺瞞に包んで押し進められてゐる。

日本ブルジョアジーはその左右の手先き、社会民主々義者共に付加して種々なる婦人の組織を造り、更にその中で勤農、勤労婦人大衆に由るブルジョアの影響を与へんとしてゐる。キリスト教女子青年団、全日女子青年団、婦選獲得同盟、無産婦人同盟、社会民衆婦人同盟、又最近には女子消[illegible]なるスポーツ組織さへも生れた。是等の宗教的、改良主義的、済会主義的一群の反動婦人組織は凡てプロレタリア勤労婦人の革命的進出、行動を喰ひ止め、相変らずの奴隷的状態の下に、プロレタリア婦人を犠牲にする事を、資本家の利益への奉仕のスローガンの下に扶捌し、企業してゐるのである。

全日女子青年団の（農村にはびこってゐる処女会等もこの中に組織されてゐる）如き全日の都市、農村に十二五するよう五十万位までの百七十二万五千とよぶ大きな勤労婦人を組織してをり、彼等の役割は、都市、農村の勤労婦人の革命的行動への参加を妨害し、階級的、政治的問題に対する無関心を植え付ける事、特に目前に切迫せる帝国主義戦争への準備、忠君愛国と軍国主義の鼓吹に力を集中してゐるのである。彼等の影響力は農村に於て極めて大である。

アムステルダムオニーインタナショナルの指導精神の下にある社会民衆党、全日労農大衆党等と農民な大婦団盟にある社会民衆婦人同盟や婦選獲得同盟無産婦人同盟等の「婦人」の組織が如何なる目的の下に、如何なる役割を果しつゝあるかは、是等の組織の幹部の顔ぶれ、綱領、政策及彼等が為しつゝある運動に就て見れば直ちに明白である。是等の組織は何れも一九二七年に第年の最初の普選を前にして出来たものでその政策には皆一通りの自由主義的又は社会主義的要求スローガンを掲げてさすがら資本主義制度の下に於て、而も、議会運動で是等のプロレタリア勤労婦人の極く僅んの初歩的な要求の一端でもが実現出来得るかの如き幻影をまき散らしてゐる。彼等は揃って、その綱領に於て公然と或は陰然と日本に於ける資本主義制度を認めすーとしてゐるのである。是等の組織の主要活動は代議士として婦人参政権獲得運動で、議会中や選挙中に演説会を開いたり、街頭署名運動をやったり、ブルジョア政党や大臣を訪問したりする事で終始してゐる。彼等はそれ以外では目的遂行に消極不充分である事を認め、最近では総同盟、組合同盟等の左右の改良主義組合婦人部との提ケイの下に、所謂日常活動に進出して来た。彼等は婦人の参政参加せるストライキに対して小ブル的煽切動揺を応援に送ったり、街頭でチンドン屋の真似をしてまで小ブル、インテリの同情に訴へたりして、ストライキそのものの革命化を防止してゐる。彼等の日常活動が如何に害悪なるものであるかを端的に知るもう一つの例为次を見よ。

総同盟婦人部の最近の活動

（一九二九、一〇。——一九三〇、九の間に於ける）

（研究会（英語の初歩教育を含む）八〇回。茶話会、一四。体育会、六。編物手芸、三三。生花会、一〇、料理、九。講演会その他（その他の中には慰安会、着付、裁縫等））

或る五月初旬、社会民衆婦人同盟と労働婦人聯盟との合同によって結成された社会民衆婦人同盟の最近の活動として「移動民衆婦人学校」の活動がある。この学校の学科目を見よう。彼等の目的は明々白々である。即ち一、文章の作り方、和歌の作り方。二、婦人問題（母子扶助法）三、社会主義の解、四、社会運動に関する外国語の解説、五プロレタリア精神学、等々である。これは、明らかにプロレタリア勤労婦人を階級斗争に動員し、組織する事ではなくて、反対に、勤労婦人のプロレタリアとしての階級心を眠り込ませ、支配階級の奴人的搾取の前に無力化させることである。

プロレタリア勤労婦人の間に於ける彼等の役割は最初から、自由主義的な議会主義のおしゃべりに依って婦人勤労大衆の注意を引き付け、彼女等を改良主義のタク流の中に引き込み、工場を基礎とせぬ街頭的な小ブル的な、婦人のみの特別な組織へ組織することによって労農階級の婦人をプロレタリア

トの全組織的な階級斗争から我々を引離さんとするものである。

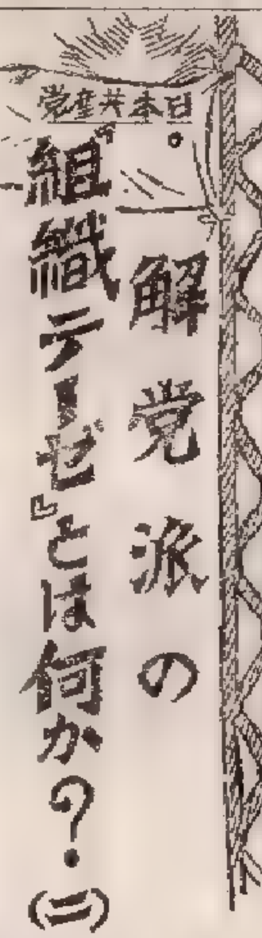
帝国主義戦争、反ソヴエート同盟干渉戦争の切迫せる今日、急速に勤労婦人大衆を戦争に準備せんとする支配階級の努力は是等の凡ゆる無色の社会ファシスト的婦人組織の活動を事せしいものにしてゐる。彼等は案外的愛国主義に引きからう言い婦人には素朴的人道主義平和主義を　それでも無関な婦人には凡ゆる戦争に絶対反対の意識的平和主義を、それでも引きかゝらずい婦人労働者は宗教へ渡すと云ふ具合に、ブルジョアジーの戦争への政治的準備に分業的に積極的に参与してゐるのである。

我々は当面階級が遂行するあらゆる一切の反動婦人運動に対して斗争として斗争するものである。工場に、農村に、鉱山に、仕事場に、党、共青、全協婦人部の指導の下に革命的婦人委員会、婦人在郷役団　赤色スポーツ団等を組重して、下から日常斗争を組織し、プロレタリア勤労婦人を斗争へ動員し、党の中へ組織する事によって反動婦人運動を無力化せねばならぬ。又、我々は支配階級の手先き幹部と其の影響下の労農婦人とを同一視するが如き誤謬を有つものではない。我々はかゝる未だ無自覚の婦人をもプロレタリアの党の側に獲得すべく、反動組織内に於ても精力的に活動せねばならぬ。だが一方に彼等の反動的役割を暴露すると云ふ方、総ゆる暴露活動は彼等の影響下の婦人を自分自身の日常生活の問題に引き入れ、斗争に組織し　その斗争の中で行はれねば暴露活動は全く無力である事を我々は忘れてはならない。

プロレタリア勤労婦人を、政治的経済的日常斗争へ準備し、動員する事に依って反動的婦人運動を粉砕せよ！

革命的婦人委員会、婦人世話役の活動で反動的婦人活動を粉砕せよ！

革命的婦人運動万歳！



日本共産党　解党派の『組織テーゼ』とは何か？（二）

(一) 組織上に現れた排外主義

前号に於て　解党派の発表した「組織テーゼ」の一般的方面を批判した我々は、若干部分的方面をも考察批判せねばならぬ。だがその前に彼等が共産党の組織とは何やかと云ふ事を理解しておきい事をもう一度繰り返すことにする。

解党派の　政治的主張を批判した場合、我々は「排外主義者　君主々義者」として彼等を性質付けた。同志佐野学は公判廷で彼等の正体を本質的にバクロした中で此の事を充分に述べてゐる。（特に其ての……論ずるならぬ事は、雑誌「中央公論」八月号に、「所謂解党派の主張」と題して門屋博が、革命の一般論と二段論——と彼等は云ふのだ——との見解の相違によって我党が分裂したかの如く述べてゐるが、それは全く偽りだと言ふ事だ。彼等が革命家が党に背叛したので我党から除名されたのである。そして我々は今日に至っても、この除名の決定が全然正しかった事を信ずる。一切の事実はその事を証明して余りある）。

彼等の此の　排外主義は組織上にも現はれてゐる。一例をとればかうだ。「日本には現在コミンテルン日本支部の名を僭ぎ運る（?!）者はあっても、実質的には支部たるの資格を失墜しつゝある」。「二言目にはコミンテルン日本共産党の名を乱用して自己の本質的小ブル性を塗り隠し……」等々と述べてゐる。是丈けを読むと彼等は如何にもコミンテルンの日本支部としての実質を作らんとしてゐるかの如く見える。又曰く「コミンテルンの原則決議の責任によって結ばれたる正しき組織的連絡こそ真のコミンテルンの組織であり、かくて承認せられた支部のみが光輝ある国際革命党の一環である」と。立派な言ひ方ではないか!!しかして言ってゐる限りに於て正しい。我党は、コミンテルンの「原則決議」に従って反革命分子君主々義者——一群の解党主義者を断乎として除名した。君主々義排外主義はコミンテルンの「原則決議」の実行者にとって最も有害なものである。我々はその有害なものを取り除いた事こそ全く正しいのである。我々は政治上にも組織上にも極右日和見主義的傾向を有してゐた。だが君主々義者日本共産党をコミンテルンから分離せよ、と主張したものを除名し、裏切者として処罰を押したことは決して極右日和見主義ではないのだ。解党派の紳士達には極右日和見主義の本質が分らないのだ。ブルジョア新聞が逆宣伝的に使用する範囲にしか彼等は理解してゐないのだ。

だから、彼等は

我党がコミンテルンの実質的（?!）支部でないと批難はするが、日本共産党とコミンテルンとの組織的関係に就ては一言もふれてゐない。彼等はウツかりして忘れたのだ!!この重大な問題を!!否、彼等はこの事を書き得ないのだ。我党が常にコミンテルンと我党との関係を広汎なる労働者大衆の前に宣伝し（決して成功的であったとは言へないが）て来た事は全く正しい。コミンテルンの決議の普及化、大衆の中への持ち込み（それが時には機械的に行はれたり、説明が不充分であったりした事があるにしても）の活動こそ日本共産党の機能なのだ。それを解党派に言はせると

二言目にはコミンテルンの名を振り廻しておる事になるのだ!!何れが正しいか?ピオネールですら解党派が間違っておると云ふに決っておる。一九二八年に発表された我党の『組織問題に就てのテーゼ』第二条には次の如く規定されてある。

『二、コミンテルン(国際共産党)の一支部としての日本共産党。

日本共産党はコミンテルンの一支部である。日本共産党の新たなる組織建設はコミンテルンの日本支部としての組織建設であって、日本だけの共産党の建設では絶対にあり得ない。従って日本共産党はコミンテルンの綱領の上に、コミンテルン・スピリット(ゴミンテルン精神——引用者)の上にコミンテルンの一支部として築きあげられるものでなければならぬ。コミンテルンの一支部である日本共産党は、その当然の義務として、コミンテルン執行委員会のすべての命令に従ひ、世界無産階級革命の一支隊としての役をあげねばならぬ。』

四・二六事件後

に於ける党再建の原則もかうであった。現在に於ても、此決定は全体的に正しい。解党派の態度と我党の態度が如何に異るかを敢て説明する必要は皆いであらう。解党派の紳士達はコミンテルンを云々したり、我党の輝けるア文を云々する権利はないのだ。何故なら彼等はコミンテルンとも、我党とも何等の関係がないのだから。

彼等が口際的

指導部の命令に対して如何に『忠実』であるかの例として旧刷新同盟の一部関東自由の指導者の態度をあげよう。関東自由は　組同統一問題を中心にして『大会』を開催し結局は全口協議会派から分子だ。そして旧刷同に属してゐたものでも全口協議会加盟の産業別組合に合同したものも残ってゐる。だから我々はプロフインテルンへ上告するのだと云ふ事を決定したさうである。(『社会運動通信』八月五日号)。『プロレタリア大衆を工場の中で、職場の中で組織する』と云ふ仕事を放って置いて『全協が悪い』事を宣伝すべく精力的に斗って来たこの少数の指導者の実体、又『プロフインテルンへ上告するのだ。』

プロフインテルン

は第五回大会で権威ある決議を日本の革命的労働組合運動発展の指針として与へてゐる。その実行こそは革命的労働者の全体的責任であり義務である。各加盟組合が次々の成功を見せてゐる(それは変化して行く大衆のテンポと比較する時、全く不十分であるとは云へ)時に解党派(の為め『全協反対』を叫んでゐるのは一体どうした事か)は如何に正しくプロフインテルンの決議を実行したか(大衆を広汎に組織すると云ふ見地から又は自由労働者のみならず他産業の労働者をも大衆的に組織すると云ふ見地から見て)を我々は知りたいのだ。然るに彼等は、この事をせずして『全協反対』『プロフインテルンへ上告』を以て終始してゐるのだ。決議を実行したかしないかは各組織の全体的実践的成果に依って観察されねばならぬのである。旧刷同に属した多くの労働者諸君が全口協議会を、職場を産業別組合を基礎とする大衆的革命的全口的組織にする為に献身的に働いてゐる時関東自由の一部指導者のみが相変らず『指導部との対立問題』を中心にして、大衆を協議会から切離さしてゐるのである!!之が口際的指導部の『原則決議』の実行に対する解党派の態度である。

我々は

統一労働者協議会を彼等が作った事には恐れない。これも亦彼等の露骨ぶり(但し革命的指導部に対するそれではなしに、天皇、ブルジョアジーに対する忠実さね)を証するもの、一つである。(之は余りにも明白である。

(二)大衆団体内の共産主義者フラクションについて

政治上の排外主義、君主々ぎは組織上ではかくの如く孤立主ぎ、口際的革命運動よりの組織的分離となってゐる。

共産党は

凡ゆる大衆団体内にコムミニスト・フラクションを作るべく努力する。(この点の委しい事に就ては組織パンフレット第十二輯を見よ)フラクションは党組織に対して従属的である。大衆団体の組織範囲に於いてフラクションは構成される。大衆団体内にある凡ての共産主義者—党員—は各々党の細胞に属してゐると同時に又、この大衆団体内のフラクションを構成する。従って重要な問題は凡てこのフラクション会議で先づ審議されねばならぬ。然し構成員が余りに多すぎると云ふのでフラクション・ビューローを持つ事がある。誤解を避ける為に、もう一度繰返すが、フラクションは大衆団体の組織範囲に沿ふて作られるのである。だから全口協議会加盟の一組合を例にとれば、工場分会、地区、支部、本部と云ふ範囲に従ってフラクションは構成される。組合大会の場合には、その大会に出席せる共産主義者の代議員全部を以て大会のコムミュニスト・フラクションを構成する。そして指導関係では分会のフラクションは地区のフラクションの指導を受けるのではなしに工場細胞の指導を受けるのである。大衆団体の組織に沿ふて作られたコムミュニスト・フラクションは党から独立した組織ではない。だから組合の上部機関内にあるフラクションが下部機関内にあるフラクションを指導することは組織上の誤謬である。何故ならそれは、独自的な党組織とは別に、大衆団体の組織に沿ふ共産主ぎ者の組織を作ることになるからである。

解党派の

『組織テーゼ』は次の如く述べてゐる。『フラクションの指導関係は大衆団体の上部機関のフラクションが下部機関のフラクションを指導統制する様になるが、そ

の他に(其の他に、に——引用者)労働機関の活動範囲に従って党の中央委員会、地区指導部、細胞指導部が指導の任に当るの』と。如何に彼等がコミンテルンの組織方針に不忠実であるか誰でも明白である。二つの党を作れ!とか『労働者派中央委員会』と云はれる解党派が与へた組織スローガンである。

(三)その他のことに就て

彼等の『組織テーゼ』は『工場細胞は工場を中心として一切の党の活動を為すものであるが、細胞員の少い時には特にそれを労働組合活動従業員組合活動に注ぐ事が大切である。』何の事か分りますか?抽象的な表現である事はよいとしても、この表現の如何にもタドタドしい、自信のなさ、ゴマかし方を見よ!

『労働組合』の章に曰く『社会民主々義者の下にある組合員を獲得する為に、党員は出来る限り組合に此等の組合に加入する事が有利である。』コミンテルンの諸決定、そしてレーニンに従へば、共産主義者は如何なる反動的組合であらうともその中に入って活動しなければならぬのである。彼等解党派は階級斗争の実践から浮き上った机上の空論家である。だから問題の本質を捉へる事が出来ないのだ。さうでなければ意識的に歪めてゐるのだ。何れにしてもプロレタリアートの味方でないことは確かだ。

『この労働組合』

の章の終りが実に素晴らしい。曰く、かうだ。『労働組合運動の中心スローガンは資本の没収、生産機関の労働者管理、打倒金融ブルジョアジーである。労働者の部分的斗争を此等の中心スローガンに正しく結合することは労働組合の任みであり党員は更に(更に?!——引用者)此の斗争(部分的斗争の事だらう——引用者)を社会主義革命のスローガンに結合させねばならぬ。』[illegible]何の真に秘められた日和見主義を見よ!理論的混乱と実践的敗北にみちた彼等のこの表現に注意せよ!而も之が『組織テーゼ』中の『労働組合』の章の結論と言っておるに於ては彼等の政治的本質をバクロする以外の何物でもない。労働組合とは何ぞや?と云ふ問題に対して彼等が考へてゐるのは『労働組合は党の下の預果であると』云ふ事だけである。この章の半分は全口協議会に対する逆宣伝に埋められてある。革命的組合を如何にして大衆化するかと云ふ今日の段階に於ける中心問題にも、そしてプロフインテルン第五回大会の決議にも一言半句も及んでゐないのである。是が『労働者派中央委員会』と自称する君主々ぎ者のテーゼである。

革命的労働組合運動

が革命的労働組合運動の中で演じなければならぬ役割を全然理解してゐない。組合運動が目指す終局的目標——それも不正確な表現——と今日の中心問題とをゴッチャにしてゐる。革命的労働組合の組織問題は只単に『下からの統一戦線』を抽象的に繰り返す事ではない。同志ニーテルネルとネルマン、ムツソウの報告に基づいて作製され、プロフインテルン第五回大会で採用されたテーゼの本質と彼等の『テーゼ』とは似ても似付かないものである。

更に進んで

『工場委員会』の章を見よ。彼等はこゝでは工場委員会を従業員組合と呼んでゐる。統一労働組合協議会の中心スローガンの一つは『従業員組合を作れ!』であるが、それはこの『組織テーゼ』に従ったものである。そして彼等の言に従へば『現在総同盟、組合同盟、その他右翼組合は実質的に於てこの従業員組合の結合体(即ち職業別的組合だ——引用者)にあるの本質(本質だ——引用者)を多分に持ってゐるのだと云ふのだ。だから彼等はそれと同じ形態で作って行くと云ふのだが、右翼と彼等が異るのは、この従業員組合の『革命化』革命的統一は避非共必要であると主張する所にあると云ふのだ!!組織形態はよしのだが外側が悪いと云ふ、我々が注意しなければならぬ事は彼等が工場委員会を従業員組合としてゐる事である。産業別組合の原則が彼等にあっては忘れられてゐる。勿論彼等と雖も従業員組合の斗争で訓練せられ教育せられる革命的労働者は産業的労働組合に組織しなければならないと一応は述べてゐるが、それは又単なるツケタリにすぎぬ。革命的労働組合活動の、従って又党活動の重要な場面としての工場委員会の問題が、彼等にあっては全く死んだものとして、お座なりに扱ってゐるにすぎない。

農民組合

の章は他の同志に譲って『労農政党』の章に移らう。流石でも彼等は一応は『非斗争的、反動的労農政党を打破せよ』とのべてゐるがそれの持つ具体的な反動性に関しては一言もふれず、特に、労農政党が日本共産党に反対してゐる事実、ソヴエート同盟攻撃、支那革命攻撃に積極的に参加してゐる事実に就ては一言半句もない。日本、日本と彼等は凡ての問題を民族的範囲で止めてゐる。(之も排外主義の一つの現れでなくて何だ!!)『労農政党の党員(恐らく共産党員と云ふ意味であらう——引用者)は・・・』、共産党の組織原則を知らない奴のヨタ事である。共産党員は同時に他の政党に属する事が出来ない。之は党組織原則のイロハである。こんな事がお判りにならぬとはの?若し知ってゐて云ふのだとすればそれは次の事を意味する。即ち『労農政党へ入れ入って中からかきこわせ!』と。併し之は原則的に間違ひである。共産党員は社会民主々ぎ党の指導下にある大衆主ぎ的労働組合等の大衆団体の中に入らなければならぬが、社会民主々ぎ党とは決定的な斗争あるのみである。革命的言辞の陰に隠れた典型的日和見主ぎ!

解党派の

組織テーゼはまだ全く『青年運動』『婦人運動』『失業者運動』『消費組合』『救援運動』『反帝同盟』『斗争指導部』と云ふ章があるが、其等に対しては夫々専門の同志が批判するであらうから今回はこの程度に止める。

(四)解党派との斗争に現はれた右翼的偏向に就て

我々は解党派の発生当初から彼等に対する決定的斗争の方針を採って来た。我党は全体として——獄中にある同志達をも含めて——この方針を実行して来たし、且実行してゐる。而して、コミンテルンも亦我々の方針を正しきものとして確認したのである。だが我々は完全に、徹底的に彼等との斗争を行ったであらうか。遺憾乍ら我々は否と答へざるを得ない。解党派に属するものを労働者大衆から完全に切り離す事は未だ十分なる成功を得てゐないのである。東京地方を除く他地方では解党派の勢力は絶無と云ってよい程ではあるが、東京地方にはまだ全く解党派がのさばってゐる。

殊るに最近 第二無産者新聞社では、解党派に属する一人を或地区のオルガナイザーとして採用すると云ふ全く許し難き誤謬を犯したのである。加之、第二無産者新聞の責任者はこの事を可成り遅くまで知らなかったのである！我々は理論的に彼等と斗争するのみでなく、組織上に於ても断乎として斗争しなければならぬ。党員又は党員であったものがスパイに立つたと云ふ事実が明白である場合、其等に対して共産党は如何なる処置をとるべきかの問題が未だ十分に理解されてゐない。ブルジョア合法主ギがこゝでも害を出してゐる。我党は非合法の下におかれてゐる。そして其の秘密の部分は死を以て守らねばならぬのである。然るに、その秘密の部分を意識的に階級的挑戦に諜するものに対する我々の態度は断乎たらねばならぬ。而して其等の分子の下にある一群の裏切者に対しても斗争しなければならぬのである。最も重要な事は此等裏切者共を広汎な労働大衆の 前にバクロし、排撃をして大衆の前に出られない様にする事である。第二無産者新聞の責任者が犯した誤は全く未曾有の日和見主ギであり我党の指導方針に対する実践的反対である。

之は急速に克服されねばならぬ。『労働者派中央委員会』の理論と実践とに対して決定的に、徹底的に斗争する事は、日本プロレタリアートが資本に対する勝利の飛躍をあげる為に必要な重要斗争の一つである。日本共産党はこの斗争に於ても日本プロレタリアートの先頭に立って進まねばならぬし、又、進んで行く。

重き病床にある同志片山潜を見舞ふ為に。
全国の党員並に革命的労働者貧農に檄す！

モスクワの病床に直ちに代表を送れ！

全口の党員諸君！革命的労働者貧農諸君！

同志片山潜重態の報は病床を気遣ふ日本の全党員並に幾百万被搾取勤労者に齎された。斗争しつゝある凡ての労働者と農民は今日まで、日本の革命運動の開拓者であり、世界革命の指導者たる同志片山潜を思ふ新たなる憂慮のうちにある。「同志片山潜を見舞へ！」の声は今全口に起りつゝある要求である。

同志諸君！我党は諸君のこの熱烈なる要求を代表する。而して諸君の代表を直ちにモスクワの病床に急派する事を諸君に提議する。

日本に於ける労働者貧農大衆の新たなる革命的飛躍は口際共産党の更に強固なる指導を要求してゐる。同志片山潜が口際共産党の中央委員として日本の革命運動の指導に尽力した事は諸君の最もよく知る処である。我々は日本に於けるプロレタリアートの斗争と勝利のためにも病篤き同志の最も速かなる全快を祈るものである。

全口の党員諸君！革命的労働者貧農諸君！

諸君の代表を直ちにモスクワの病床に送れ！日本のプロレタリアートとその党を代表して衷心よりの見舞の挨拶を述べ、篤く篤く看護せよ！而して曾て同志を追放し、今狂暴なるテロルを以て労働者と農民を弾圧するブルジョアジーに対する日本プロレタリアートの斗争に就く語れ！日本に於ける偉大なる階級戦と共にプロレタリアートの勝利が近づいてゐる事を語れ！これこそ日本にプロレタリアートの革命斗争を植付けた偉大なる同志に対してなす我々の感謝と戦意にみちた報告である。

全口の同志諸君！一刻も猶予せず諸君の代表を送れ！

諸君の篤い看護によって同志の健康を取戻せ！

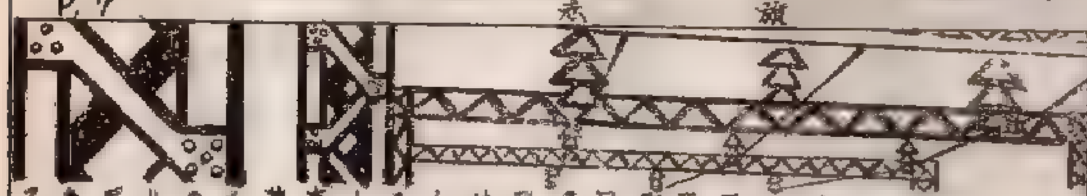
同志片山潜の再起万才！

日本共産党万才！

コミンテルン万才！

一九三一年九月三日

日本共産党



鉄の火花

同志剣持を即時無罪釈放せよ！

『赤旗』印刷局 X班

アメリカ帝国主義はアメリカでプロレタリアート解放の為に斗つてゐた同志剣持貞一をサラジヨー事の名の下に捕へた。奴等の「神聖な」キリストの名による裁判所は、奴等の祖界たる日本帝国主義者に同歩の弁明を致して「神聖」なる天皇の名によって死刑にせんと企くらんだ。同志剣持は近日横浜に追放されて来るであらう。同志剣持は「同じく追放するなら労働者農民の祖国ソヴエート同盟へ追放せよ。何となれば日本の帝国主義者は死刑を以て手を待つてゐるから」と要求した。にも拘らずアメリカ帝国主義は同志の日本への追放を決定した。アメリカ帝国主義の使命は実に共産主義者同志剣持を死刑にしたいのである。労働者農民の代表として死を以て斗つてゐる者を片つぱしから死刑に処したいのである。

時を同じくして日本では同志佐野学始め多数の共産党員の公判が開かれてゐる。日本の帝国主義者は同志等を労働者農民の為に斗争したといふ理由でこれを死刑にせんと待ちかまへてゐる。しかもっ仁慈然として「神聖」なる天皇の名に於てだ。

吾々プロレタリアートは何もブルジョアや地主の裁判を受ける必要はない。彼等に情況を裁判する権利がどこにあるか。天皇や判事が何で情況を裁判する権利があるのか。奴は大ブルジョア地主だ。情況はプロレタリアだ。情況はプロレタリアートの裁判ならば甘じて受ける。だが敵の裁判を誰が甘受するものか。

アメリカ帝国主義は同志剣持を追放した。

日本帝国主義は同志佐野はじめ多数の共産主義者を死刑にせんとしてゐる。何れもプロレタリアの指導者達だ。

情況はプロレタリアートの名に於て同志達に判決を下さう。

「共産党員はじめ一切の階級的政治犯人即時無罪釈放！」これがプロレタリアートの同志達に対する階級的判決だ！そして吾々はこの無罪釈放の斗争を日常斗争と結びつけて革命的大衆的デモ、ストで要求に斗ふではないか！

革命的婦人運動の発展に就て

『赤旗』印刷局 丸子

革命的婦人運動の発展が今日程要望されてる時はない。丁度、今日程、日本共産党の無条件活動と組織の拡大とが要望されてゐる時はないのと全く同様である。何故なら労働婦人間の革命的組織の拡大とその為の積極的活動とはプロレタリアートの勝利の絶対的条件だからだ。そして今、世界資本主義の存在は瀕末に近付き、第二次帝国主義戦争の切迫と共に或る口々では革命的危機が日程に上されようとしてゐる。

ぜい簡口に於ける組織の状態は、「婦人労働者が斗争に参加する割合と、我が組織がそれに伴ふ速度との間の不均衡」が特に大である。特に日本では、運動は未だ若く、かゝる状態の「口要的な地位」にまで発展してゐない。而かも日本には最大多数の婦人がその搾取率に於て、方法に於て、奴隷状態に於て世界的に有名な坪底の下に呻吟してゐるのだ。彼女らは自然発生的に、男と共に斗争へ進出して来てゐる。プロレタリア革命の客観的条件が進展してゐるにも拘らず、主観的条件が立ち遅れてゐるといふことは戦術の誤謬、欠陥或は不備を意味する以外の何物でもない。

この時に当って発表された党の政治テーゼ草案の「日本共産党当面の重要戦術」中「婦人運動について」の項は、明らかに一般的方針の確立に止まってゐた憾みがある。我々は今こそ最早や具体的に実践的方法で、如何にして——共産主義婦人運動の（未完）



—中央の活動を組織すべきか。如何にして地方の活動を組織すべきかの問題に近付くべきである（ロゾフスキー）のだ。その為にこそプロレタリア革命による社会主義的並共産主義社会への変革に於ての唯、婦人も亦その二重の桎梏から解放されうるといふ原則の上に立つて婦人労働者を組織する為に全ての鉄と徹底的に斗争する」（テーゼ）といふ根本的立場はのべねばならなかつた。過去の批判に基づき、明瞭にてらして、今後の正しい活動方針を具体的に樹てるべきであつた。此の事は、工場内労働婦人個の活動に於けるつ最大限に創意性を発揮して行はねばならぬ細々しき技術的方面への指示を意味しない。所謂「一般的全日的な場に於けるもそれである。

だが、同時に徹底に精神上に現はれた工場単位で活動する問題諸部の「労働婦人代表者会議に関さ「婦人労働者団の活動に就て」或は又四八号の「即時婦人部を撤廃せよ」等は上から下までの諸戦略に於ける革命的婦人運動発展のための重要性、業態を要する問題である。

つまり問題の第一歩、婦人部撤廃の提唱中に正しく云ふ様にこの「或々の当面の緊急任務は婦労婦人を革命的労働運動に引入れる為に彼女等に近付く独自の形態と方法の創設しかある。是なくしては、党が、組合の単位にも獲得することは絶対に不可能だ。それは国際的組織を取入れ、「日本婦人労働者の特別な生活——封建的家長的家族制度、文字通り完全な家族的自由の剥奪等であらう。故にそこから生ずる工場生活と家庭生活との結び付き様式等と思ふ（筆者）——に精通し、その特殊条件に適応した形態でなければならない。

そこでこそ諸口の革命的婦人運動のある一段階に於ける婦人代表者会議、革命的労働組合婦人委員会、労働婦人大会等の組織を要求し活躍しなければならないのだ。

是等の労働婦人の諸組織は赤色四五号前線に詳述されてゐる立場を持つてゐるが、先づ第一に、最も注意し、誤つて理解して置かなければならない事は、党及び組合の補助組織としては共通な、同等な労働婦人の大衆的組織自ら教育団体しであると云ふ事だ。例へば組合に解消したり、対立も作りしてはならない。それは特に最近誤謬を指摘された「党と組合との関係」であり、更に適切には「党と党外大衆団体との関係」である。過去の誤謬をあらゆる点で繰り返さないと云ふ努力は、我々の義務であるのだ。

「是等の（党にあらざる）諸組織に属する党員の意化力——先づ村動に於ける（筆者）——に依り、又党将に以て是等の党にありさる諸組織を党に接近させ、彼等が自発的に党の政治上の指導に従ふ様に指導することである。「我々は合法的組織をもつと同時に、合法的活動舞台を作らねばならぬ。我々自身が、斗争の先頭に立つことなしにどうして大衆を指導することが出来様か。断じて出来得ないのである。」（「党の独自的活動の重要性について」パンフレット十二頁）

即ち、これらの諸組織は党の政治的立場にたゝねばならないが、その実践的活動はあくまでも大衆的団体の立場からなされねばならないのだ。そこにこそ補助組織を置じて、党が労働婦人大衆に近付き、労働婦人大衆が党に近付くつ独自の形態と方法」の重要性があるのだ。（テーゼ、次の如く云つてゐる。「吾党は労働婦人を男子労働者と同一の労働組合へ、同等の権利を以て加入させ、吾々の側に獲得するために斗争するが、それと同時に、婦人の持つ特殊的地位を正当に評価して彼等を特別の委員会（工場内の大衆的婦人委員会、婦人代表者会議等）に組織する為に斗争する」と。こゝで組合とこれとの関係、及びその役割が明確にさるべきである。）

だからこそ、婦人委員会に於ける名称の問題等々組合会や、或対象の名称のイザコザを再び繰り返す事なく、「何でも皆の気に入つたのを付けたらいゝのだ」。要は、「革命的労働組合運動の補助組織として本来の任務を果すには、全婦人労働者を包擁して或るだけ沢山の委員を持ち、大衆的に合法的にやる事だ」これは百万遍も強調されていゝ。

殊に婦人委員会が「当該工場の婦人労働者の生活上の何でもの積極的な代弁相手となり、親切に有利に解決してやる」ことは、最も大きに実践すべきだ。

かうして大衆団体は、真に大衆的なものとして発展し、団体内で働く活動分子　同志達は、真に大衆の信頼ある、親切な、有能な仲間となることが出来、又、ならねばならぬ。そして又、この事は、私の考へでは所謂「婦人協議会」得し運動に対して吾党はこの小ブルジョア的運動の反動的性質を把えずパッとし「サービス事業」「婦人労働者の問題をば、ブルジョア的規の有閑婦人を先頭とする一般婦人との共同の議会運動によつて婦人の状態を改善すると云ふ欺瞞的欺瞞的婦人運動の思想に解消させようとしてゐる」ファシストの社用婦人組織及び、右翼の社会民主々義者、改良主義組合の幹部共らの反動的陰謀に対立させること



に依つてこれと徹底的に斗争し、労働婦人大衆をブルジョアジーの手先き共の影響から引き離し、我々の影響に獲得するのための方法の中の——是等の諸組織も勿論吾さうだが——強力な　有効な一方法である。我々はこれによつてそのまゝ文字通り事実に於て、街頭で華々しく名乗るために、まづ労働者を結合にし、之をブルジョアジーに売り渡す彼等と、更に被搾取勤労大衆を解放する為に彼等の利益を代表して斗争する我々とを事実に対照せしめ得るのだ。何れが真に労働者婦人の味方かを理解せしめる事が出来る。

併し乍ら、可成り広汎な一連の反動的婦人運動に対する斗争と云ふ事は、是等独自の工場を基礎とする諸組織の活発なる活動と発展によつて十分であらうか！組織原則として十分であるならば——少くとも私は今そう考へてゐる——それは恒に然りとす。彼等の活動に独意きれぬ、彼らの攻撃の時代に応じて、特別に彼等に対する斗争を大衆の間に展開さすことが絶対に欠くべからざる条件となるだらう。

故に、吾国状態は一農村の場合ならず一村、一部落に一つ位はあるのだが、婦人大衆との接触がうまく行はれる様に各グループに分けて、全体の連絡をよくすべきだ」婦人委員会は「農村や失業婦人間にも動らねばならない」と付録はかいてあるでこれ等は最近、農場された農村プロレタリアートは独自の組織との緊密なる連絡の下に活動すべきである。年々　党派に於て農村問題が深刻に提起されて来る。

かくて党の独自的立場で大衆間に浸透させ、大衆を組織する為めの組合の形態と方法による予想を具体的に発展させようとすれば「常に党、同盟、全協と密接な関係を持ち、それらの連携、関係の指導し——「斗争合婦に於けるプロレタリアートの戦術」「正しい戦略の下に」根本的方針によつて規定しする党の指導が現実に於いて全く必要不可欠と云つてゐるのだある。それは単に、上から下までの傾向の関連性の指導と党の先と活動と丈では不足である。特殊に独立された婦人の大衆的補助組織の活動は、組合内特に　党内の組織上の指導部——中央部の確立によつて、発展するのだ。「党の良き、同様の指導」、「緊密な結び付きし」は事実上組織において確立されなければならぬ。それは前進の、党員の第一歩である。——（特に之らでは、党、婦人部の意義を中心として強調される。組織上、組合婦人部の党員が、党婦人部を（労働組合婦人部の党員以外の党員から成るだらうが）構成し、試河上には党の、機構には党婦人部の決定を組合婦人部のものとさし、更に補助組織のものとすることが問題であり、目的は（目的のだから）——当に於て「婦人部設置」——高潮至、であるなら確かに——は現在緊急任務であり、この戦場は、むしろ「テーゼ」の具体的補足だとさへ云へる私は考へる所以である。

党婦人部は「党全体に課せられた任務の範囲に於ける労働婦人大衆を組織すべき組織者」であり「プロレタリア婦人大衆の動員への、婦人のための共産党の機関で」なければならない」からだ。

それは一応独立した婦人部が夫に組織的に従属さき機関系に於て、補助組織の婦人大衆団体と結び付いてこそ実現され得る。これは前進の第二歩である。

何故なら婦人部は政治的に全委員に帰せられた当面の種々な任務を婦人特有の要求の中に表現し、又は之と結合させるためには組織的に補助婦人諸組織と結び付いてその生きた活動と密接しく或への準備をなさねばならないからだ。又、補助組織が、その斗争、活動に於て党の正しい政治的立場に立つ為には、組織的に婦人部と結び付いて、彼ら当面の諸任務を理解し、具体化し、更に党全体の結果を読み諸状況を知つた上で、反映せしめなければならないからだ。

だから、婦人部は、殊に組合婦人部は、出来れば、斗争の基礎の経営な同志達によつて構成されるべきである。又、凡そ革命的組合のある所では、婦人組合員の有無に拘らず、その工場には婦人労働者がゐるならば即時婦人部を設置して、婦人大衆の補助組織をもつ様に、働きかけ、意識に婦人労働者の中から活動分子を作り出し之を獲得し、彼等らによつて活動がなされる様に、しなければならぬ。（この事は、婦人労働者がゐなくても労働者の妻、娘等を目標としても正しいと思ふ。）

これ等が正しく行はれてこそ初めて「勤労婦人間の活動を（特に婦人部活動に就て）一般労働者の日常闘争斗争と合してさへたら、遂行しようとする如きどんな小さな党は絶対に許されない」事が実現され得るのだ。又「党の独立組織と活動と、大衆団体から分離することを意味するものではなく、又党活動が党員団体、活動と分離して存在するものではない」（スターリン）ことが実現され得るのだ。

かくて婦人部と補助婦人大衆団体とは革命的婦人運動の組織的両翼である。その何れを欠いても我々は現在の活動を前進させ得ないであらう。吾等の意識について、そ



の何れを過少評価することは絶対に誤りであり、「我々ボルシェビキにとっては組織問題も政治問題の中に含まれる。正しい政治方針と組織方針とは両々相俟ってのみ有効であるのだ」とある我党の言葉はこゝでも全く正しい方針である。最後に、茲に本欄の同志諸君がテーゼ」「婦人部設置」「諸組織の創設」の意味を解釈し、直ちに実践に移し、その活動状況の発表方法を一つ一つ一般の次号「欄」を一〇〇パーセント利用されることを私は切に希望する。

八・一五

『婦人欄』問題

「赤旗」印刷局　忠孝

『我々の各組織の機関紙に内婦人欄を設けて、それに労働婦人を我々の側に獲得する為のアジ、プロ、リシャの一欄を設け、十二分に活用させよ！』と我が党[illegible]身心の提唱に我々は大賛成だ。

我々は機関紙上に婦人問題に対する論文が、日本婦人アーの[illegible]に載らないでゐた事に驚いて私は疑問を抱いてゐた。如何に赤旗は、その性質上、全日的一般的な立場からのみ問題を取扱はざるを得ないとしても、一方には、明らかに例へば、一地方の斗争の経験をその経過中に於てさへ報道し、それを全日的なものたらしめねばならず、又、農業農民問題にすれば、それを基本的、特殊的たるとを問はず、「赤旗」の記事としてプロレタリアート全体のものたらしめ、又地方の問題から教訓を得るべき任務があるならば、又、婦人の問題も正に同様であるべきは明白だ。殊に工場、農場等で労働婦人の組織にたずさわつてゐる同志達が直ちに『婦人欄』を、強力なものたらしめるべく実行に移すと共に同時に、「赤旗」に自ら、これを実行すべきものであり。（『婦人欄』に係るものか、未組織婦人労働者大衆のための機関紙であるとしたら猶に、かゝる欄を設けなくても、常に婦人に対する問題を取扱ふやうにすべきである。）

何故ならば『婦人欄』は、例へば婦人部の機関紙ともなるべきだからだ。（と云つても、婦人部が婦人共産党や婦人労働組合を意味しない事は、「赤旗」なり、「工新」なり、「赤旗」「戦旗」「労新」と等々から独立し、対立するものでない事は言論だ。云ふ意味は、その意義、役割に於て「である。」それは党、又は組合の婦人部の工場活動の要求と歩調を合せて、その政策方針によつて積極され、『婦人委員会』その他合同体、又日常斗争の活動報告や、批判が寄せ判——これはどこに於ても「晴上」「工新」では、顧著しくゐるべきではない——）す。国際婦人運動、ソヴェートの勤労婦人の生活状態等、時代に応じて報導されるべき事は、オ四右等によはれてゐる通りである。

又この際、各新聞紙によつて、特に「赤旗」は党中央機関紙と「工新」工細胞新聞紙との記事の関係及方の差、——後者はもの事情に即して記事を編集するため、より具体的、大衆的でなければならぬ点——は『婦人欄』でも同様適用し、考慮すべきことは論を俟たない。

此の事の正しき実践上の理解は現在特に重要であるやうである。従来の、『婦人欄』が不平のコボシ場所でのみあつたといふ第四点等に依拠されて来た事実は一つにはこゝにも起因するだらうからだ。我々にとつて労働婦人大衆の不平の声をきのせるといふことは『婦人欄』の任務であり、之を大衆的なものたらしめる可き積極性であるとは云へ、それ丈に止まつてゐるならば、我々の立場を大衆の水準と引き下げた事になる。単に『婦人欄』を設け、単に労働婦人大衆の不平の記事をのせる、そのことでは婦人部の仕事でもなければ、婦人欄の巷間でも、『婦人欄』の役割でも何でも有い。

『婦人欄』は婦人部の活動と関係『大衆的にセクトとせねばならない。そして党、組合の方針を大衆のものとし、労働婦人をその影響下に結び付けなければならないのだ。労働多くの記事、労働婦人大衆自身によつて、書かれねばならぬべきである。それ故、彼女等が、党、組合の政策の下に、その立場からものを観察し、且つ斗争しつゝ行く者の質問である限りでだ。そこで実践に於つては、単なる不平の投書を意ず得たら、そのまゝ記載すると同時に、『婦人欄』の担当同志は、一歩出て、その本的結論を——公式や理論でなしに、現実に即して分り易く（この事が重要だ）——記載して示されねばならない。又、一方、彼女等がその職場で取り上げない要求さへ『婦人欄』は、その意義を正しく独自に積極的に『婦人欄』記事として彼女等のものとなし、又他方日常的斗争の組織やソヴェートの我等々の報道とがなされるなら、彼女等の不平の記事は、次第に、まとまり、斗争のためのものとなるだらう。それは、又実践上で、彼女等が、我々の政策方針の下に動員され、組織され、又斗争して行く——本来の目的達成——ことの証明でもあるのだ。

第四なるものは此点の要求みすが少し不足してゐるやうであつた。貧す寺がよい——大衆に基調の我々の根本的立場にたつところの——記事を書ける機に事あると云ふ事か。婦人的に教へられるにしても、それは、技術的な方法であるとしても、本質的な方法と云ふ事は出来ない。我々は、単に考へてゐることをまとめることを問題とするばかりでなく、又まとまつた彼女等の記事によつて『婦人欄』を発展させるばかりが可能ではなく、「彼女等の革命的斗争と活動とを示す記事が多くなることこそが『婦人欄』のアジプロ一戦術的目的であらうからだ。かゝる「婦人欄」こそが、如何に、労働婦人が我々の側に動員され、組織され、且つ斗争しつゝあるかを示すものだからだ。

『婦人欄』の意義は、各新聞の意義、役割と共に実践に従つて正しく理解される要がある。例へば五十号の紙の丸石して「工新」に付いて書いてある大阪の同志は、『工場から出される一切の出版物は、すべて大衆を動員し、組織するためのだ。指導的幹部と並ぶ意味は本質のなを違ひや、むツカシイ理論をうんと並べることか？これは外には守い！』と。この同志は云つてゐる。驚くべきだ『筆者』——それ所か、全く反対だ。工場新聞は大衆自身のものたらねばならぬのだ。これは優秀の新聞だ。性迹自身で守らないけんといふ気持ちを大衆的に起させる様にしなければならない。貧が、指導的新聞といふのなら我々は逆に大衆的新聞だと云はう。云々』——僕はヲ工場新聞とは細胞の機関紙ではなく細胞のアジプロの一戦術だと答へると云つてゐる様に、此の同志の、我々紙であり指導的な立場にある新聞は、啓蒙的に、大衆的なものとし得ず。大衆のアジプロも出来ないやうに考へてゐる誤謬は、此の『婦人欄』を不平の投書で埋めて大衆的なものであり、婦人労働者間の活動の一戦術だと無意識的にしろ、賛成してゐる誤謬と同一である。それは大衆化し、大衆に支持される為に、本来の、立場をおき去りにして行く最も危険な右翼的偏向の一である。従来の指導的新聞、機関紙は非大衆的なるのであつたとしたら我々は政治上でのその指導的立場をば大衆的ものたらしめるべき筈のだ。若し大衆自身のものにする為に正しき党の立場を示さず、又成、正甲の正しい解決を納得させないら、恐らく大衆は、自分らの新聞だ、又『婦人欄』だ、何らなきや不可んといふ気持ちを失ふだらう。筆は公式的に、機械的に、立場を持ち出さず、現在それく[illegible]工場の条件の中に暴露し、不平の中に暴露して行く事その道なのだ。大阪の同志も『婦人欄』の同志も根本的な立場を忘れようとしたわけではないだらう。併し、この同志達の理解と方法は、そのまゝたしてまげれば無意識的にしろ、事実上右へ傾いて行く事ふことになるのだ。

『赤旗』の『婦人欄』はこの誤謬を犯さぬためにも、先づ積極的に、活動を初めるべきである。

同志潜・片山へ

捕りし我等の同志潜　片山

親く斯くに散れば同志は数ヶ月前より敵に使され獄中との事実に遭遇に堪へず。

階級斗争は益々大衆化し様安帝国々もの社会ファシスト戦がブルジョアジーの準備に駆せ去りし現在盛り回しに、我々日本の生めの最も古き若き闘士として士で勤者の今日に至る近帯に正しく全世界プロレタリアートの斗争を指導し時に当々日本のプロレタリアや農民解放のためにその全生命を犠牲せられつゝある同志潜・片山に対し我がラ・スパルコ同盟は将階の局諸を捧げ全世界のプロレタリアートの為に同志の最後の一日も速かに快復せらるゝ事を望むものである

同志潜片山の健康回復万才！
日本共産党大衆化万才！
コミンテルン万才！

一九三一年八月　ラ・スパルコ同盟

潜先山、あゝ同人と分離く我等の耳に響くでせう？

全む日本プロレタリアートの尊敬する親愛なる我等の指導者同志。我等に悲しく今尚獄下の病気の報に接したのです。そして我先年の斗争を強くするものです。一日も早く全快されて日本解放の為一層の指導を御願ひするものです。日本プロレタリアートの結末の為に、貴下を迎へして忘令日の養生すら許し得ない環境です。然し、日本の同志は弾圧に白色テロの嵐の如き弾圧下にあつて斗争して居ります。ソヴェート日本の生れる日も遠くないでせう。我等は牢獄にその日を待つものです。そしてその日こそ嵐の如き嵐の中に貴下をして戦線に一歩を押しさせる事が出来るのです。願くば我等の潜先山健在に在られよ！

——全協労働者——



Пролетарии всех стран соединяйтесь
★万国の労仂者団結せよ！

週刊
赤旗
第53号
国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

目次

▼検事局・内務省・文部省等と手を握つてゐる解党派の新たなる進出を粉砕せよ！(五)……一頁
▼党婦人部の独自的組織活動の傾向に就て……三頁
▼同志片山潜への見舞状……四頁
▼各地方・地区委員会婦人部御中……五頁
▼鉄の火花……六頁

検事局 内務省 文部省 等と手を握つてゐる 解党派の新たなる進出を粉砕せよ！(五)

六、「君主制は……プロレタリアートの主要打撃目標」である。

解党派御用日本共産党労仂者派中央委員会は政治テーゼ草案の(四)の中に、「君主制は今日最早プロレタリアートの主要打撃目標ではない」と書いてゐる。

吾々はこれまで彼等の政治テーゼ草案そのものをありのまゝに受取つて之を批判して来た。だが、こゝで吾々はこの政治テーゼを誰が書いたかを問題にしなければならなくなつた。解党派の天皇主義者共が書いたか、偉大な革命家が書いたかに関係なく、この政治テーゼそのものゝ作家が何を求してゐるかを冷静に厳密に批判して来たのだ。そしてこのテーゼが此処でもなほ彼等の本質を暴露してゐるのを発見せざるを得なかつた。

王制——君主制——は封建社会の典型的支配形態であつた事は世界歴史の示す所だ。そして又、ブルジョア民主々義的共和制がブルジョア国家の典型的なものだと云ふ事も勿論だ。

日本に於ける天皇制——君主制——が多分に封建的性質を持ち越して来てゐる事。そしてそれが農業に於ける半封建的諸関係並にその他の諸関係に於ける封建的半封建的性質の残存と決して無関係に存在してゐない事を我々は一日も忘れてはならない。だから、「打仆天皇制」は「ブルジョア民主々義的性質の広汎な任務を持つプロレタリア革命」と云ふ戦略的規定の「ブルジョア民主々義的任務の解決、即ち農業革命の遂行並に封建的半封建的残存物の打仆と決して無関係ではない。だが、日本共産党労仂者派中央委員会のこの政治テーゼ草案やイノマタ一派が云つてゐる様に君主制は決して半世紀も前にその物質的基礎を失つたものではない。天皇制は今日猶ほ帝国主義日本の国家形態であるのだ。巨大な官僚と巨大な軍隊警察を持つて日本、朝鮮、台湾、中国等の労仂農民、植民地被抑圧民族を搾取し、暴圧しつゝあるものなのだ。天皇制は帝国主義的反動と共に封建的支配をも外にして日本帝国主義の政治は今日存在しないのだ。それ故に「打仆天皇制」は「打仆日本帝国主義」と共に明らかにプロレタリア革命の段階に於ける「主要打撃目標」なんだ。この意味に於て今日「打仆天皇制」は「打仆日本帝国主義」と同じなんだ。

日本共産党労仂者派中央委員会並にイノマタ派は、今日天皇制を隠蔽して、打倒日本帝国主義の支配があるかの様に考へてゐるのか、然らずんば彼等が帝国主義やブルジョアジーの支配を云ふ事を口にする時、金融資本の独裁を叫ぶ時、意識的に或は無意識的に、彼等は事実上封建的残滓に於ける支配関係を見ようともしないで政治関係を全然見得てゐないのだ。その何れの場合にも彼等はマルクス、レーニン主義の口実理論、或ひはマルクス、レーニン主義の「い」ろはも知つてゐないことを証明するものだ。

経済的に支配する階級は又一般に政治的に支配する階級である。かくて彼等は国家機関の機能を……日本を支配してゐる。彼等は如何なる政治的にも支配してゐるか。それは自立的天皇制と云ふ政治形態で支配してゐるのだ。こんな事はマルクス、レーニン主義の口実理論を仰らずとも現実の事実を見た丈で分かる事だ。

然るに日本に於ける真正マルクス主義者であると広言する解党派やイノマタ派が天皇制を単なる遺物であると云ひ君主制は今日最早プロレ……

Пролетарии всех стран соединяйтесь
★万国の労仂者団結せよ！

タリアートの主要打撃目標ではない」と主張するのは、何等かの目的があるからだと云はざるを得ない。そう解釈しないならそれは余りにマルクス主義者を以て任ずる彼等紳士諸君を侮辱することになる。

では彼等は如何なる目的を持つてゐるのか。

「凡ての階級斗争は政治斗争である」。この斗争の目的は政治権力の獲得である。(レーニン)暴力と権力、武力と武力との斗争を不可避とする。帝国主義日本のブルジョアジーは、七十万の常備軍を持つて足の先から頭の天辺まで武装してゐる国家機関——ブルジョア独裁の機関、軍隊、警察、裁判の機関——即ち「政治権力機関」の斗争に於ける最大の敵たる国家機関を「主要打撃目標」でないと主張する彼等は国家機関に対するプロレタリアートの階級的認識と階級的斗争とを阻止するものであつて、ブルジョア独裁を永久化せんとするものである。かくてブルジョアジーの手先たる役割!! 之がイノマタ派や日本共産党労仂者派中央委員会の本質を暴露する日本共産党の神髄として彼等の目的を……

吾々は先の問題——「打仆天皇制」と「打仆日本帝国主義」との関係の問題——に余りに深く立入りすぎると非難されるだらうか? 否、否、否、否だ! この問題は戦略的目標に関する問題である。実に決定的に重要な問題であるのだ。プロレタリアートの日常当面の諸問題に直接関係がないかの如く考へて——或は事々に関係しておるにも拘らず——この決定的に重要な問題に対して、ハッキリした見解を徹底させておかないならば、かの悪名高き日和見主義——それ故に一層……こそ吾々はエンゲルスから学ばなければならない。日和見主義——として徹底的に排除されるであらう。特に天皇に対する拝神教的イデオロギーが民衆の間に強力に存在する日本に於て決定的にこの問題は重要であるのだ。そして解党派はこの問題の故にこそ発生したのだと彼等自身公言してゐる。そしてこの問題の故に決定的にマルクス・レーニン主義から離脱し、社会民主主義へ、更にファッシズムへ！である。

君主制廃止のスローガンを下す事を主張した時から彼等は天皇を崇拝する天皇主義者たる彼等はこゝで必然天皇に「君主制廃止」の「スローガンを下せ！」と主張すべきであつた。何を廻りくどく「君主制は今日最早プロレタリアートの主要打撃目標ではない」等と云つて……だが、所が彼等には十二分に必要があるのだ。天皇主義者が日本共産党の本流だと称して登場しても、それから、所謂日本共産党労仂者派中央委員会と云ふのは解党派の又の名前だと云ふ事、プロレタリアートを偽瞞し階層する為の仮面だと云ふ事は理論的にも実践的にも今日最早ハッキリバクロされてゐるのだ。日本のプロレタリアートは、一切の分派行動を絶対に禁止するインタナショナルの鉄の規律をしつかりと握りしめて一歩も後退しないで断々と進むであらう。これまで吾々が詳細に見て来た様な天皇主義者であり社会ファシストである解党派をのさばらせておく程政治的に後れては居ない筈だ。

所が現実に彼等がノサノサと跋歩しておるのは何故だらうか。これは吾々は厳正に自己批判しなければならない。吾々はそれを吾々の主要な日和見主義的傾向と断じなければならぬ。何と言はれよう。

(1)当面の問題に対する階級的認識への不徹底。

(2)最高の階級敵との決定的な斗争……

(3)最後に最も重要なこと……大衆的斗争に於ける我等との決定的斗争の不充分。

これこそ吾等下部党員が実践的斗争の不充分……

ボルシェビーキは世紀の初頭に於ける党の階級が全体として未だ政治斗争を理解する程に成熟していないと云ふ理由でツアーリズムに対する公然の政治斗争を常に拒否した(レーニン)メンシェヴィキと決定的に手を切り通した。彼等とのこの峻厳にして断乎たる斗争がなかつたならばボルシェヴィキの勝利はあり得なかつたとレーニンは言明してゐる。解党派はメンシェヴィキと同様の理由から日本のツアーリズムたる天皇との斗争を拒否した所で全く「それより更に一歩を進めて天皇を崇拝」した。この社会ファシスト解党派と決定的に斗ふことは絶対に忘れてはならないのだ。

吾々はロシアで当時既に中央派に対する斗争に於て充分の政治的経験を有した。十五年前に既に吾々は吾々の日和見主義者及び中央派に対する斗争を……吾々は決然と……

吾々はさうしておかなかつたならば……吾々は恐らく……のである。

解党派を初めとする一切の社会民主々義者、社会ファシスト……を打破することなくしては日本のプロレタリアートはプロレタリア独裁を確立することは絶対に不可能である。(レーニン)

日本共産党労仂者派中央委員会を実践的に粉砕せよ！
右翼日和見主義的偏向を実践的に克服せよ！

★党婦人部の独自的組織活動の領域に就て★

我々は「赤旗」四八号に於ていよいよ加重する殺人的搾取の前に、遂に凡ゆる伝統の鉄鎖を踏み破つて断乎として斗争に起ち上つて来つゝある広汎なる勤労婦人（工場労働婦人、農村貧困婦人、都市一般勤労婦人、小市民婦人）大衆を斗争に動員し、党、共青、全協、全農及び革命的反対派に組織して、来るべき世界的決定的斗争に於ける日本プロレタリア婦人の担ける重要なる任務に党を立派に準備せんが為に我が党及び革命的大衆組織（先づ共青、全協全農等）の凡ゆる指導機関は国際共産党、国際赤色労働組合の権威ある決定に従つて直ちに婦人部を設置すべきことを強調し、且つ、それの闘争なき実行を要求した。

それから以后、今日までの数週間に我て組織部と婦人部の同志の間に党婦人部の独自的組織活動の領域に就て若干の討論が行はれた。討論の根本問題に就ては国際共産党第五回大会テーゼ自体、『特殊的機関（党委員会、婦人部）の創設が有する普通的な、婦人間の党の仕事を出来るだけ統一的に計画的に、そして力強く導く事へ、絶えず組織をしてこの方面に興味を持たせ、その責務に注意させる事にある』と強調してゐる。同じく国際共産党中央組織局による一九二五年の婦人活動に関する決議に於ては勤労大衆の間に於ける共産主義活動が（党婦人部が）党全体の任務である事、同時に党内の婦人部或は婦人オルガナイザーは党全体の委任を受け、勤労婦人間の活動に関しては党全体の前に責任を持つ。と規定してある。

故、婦人部の組織活動の領域に就て同志モイローみの中で大衆的婦人活動の問題との中で正しくも明白に述べてゐる。今少し長いが引用する。「……婦人部は組織問題を婦人部以外に党が解決して呉れるのを待つてをり、その解決を得て初めて自己の活動を展開しようと考へてゐる。この為に第一に苦しむのは、婦人労働者が多数存在してゐる工場に於ける一般的党活動及び一般的労働組合活動である。それ故この大きな欠点は除去されなければならない。事は全く替つた事である。婦人部は最も広汎に一般的な党活動及び労働組合活動に入り込まねばならない。又大衆の中に於ける共産党の一般的活動にとつての有力な党機関とならねばならぬ。婦人大衆と結び付いた独自の機能を有する婦人部は婦人労働を主要なものとする工場に於ける一般的党細胞の組織に向つて道を開くべきである。又其の工場に於て最初の婦人労働者の活動を集め得べき婦人部は、労働組合反対派、或は赤色労働組合細胞の組織原則をとらねばならぬ。これは可能である限りでなく、工場に於ける党及び赤色労働組合の組織の強化の為に必要欠くべからざるものである。……」と。

だから、婦人部は集団に勤労婦人大衆のオルガナイザーとしての組織活動をその政治的解釈による活動ではなくてはなく、農村に於ける連絡会議に於ける具体的手段に依つて、遂行せねばならないのだ。国際共産党の婦人活動に関する諸決議に従へば、婦人部の成活的組織的活動は、次の如くにあらねばならない。

(1) 勤労婦人間の共産主義活動に就て、党全体の委任を受けて、中央部に婦人部責任者が設置される。この責任者の活動を援助する為に数名から成る特別の委員会が設置され、これは婦人部の凡べての具体的活動に先づさはる。各地方、各地区委員会の婦人部も本の如くに構成される。

(2)、中央、地方、地区細胞に於ける婦人部の全活動は常に党指導機関の指令の下に行はれる。特に婦人部が行ふ組織的活動に就ては常に党組織部との完全・密接な協定の下に遂行される。

(3) 婦人間の全活動に就ての成果を婦人部は党中央指導部へ定期的に報告し、又、中央及び地方、地区委員会の指導目標に婦人問題が常に定期的に上されねばならぬ。

婦人部の組織活動の成果は凡て党組織部へ渡されねばならぬ。

(4) 党の中央部及び各地方委員会の婦人部は或る一定の活動（例へば婦人デーのカンパの時、婦人労働代表者会議の招集に就てとか）に対して、その直接下層指導機関の婦人部を指導し、援助せねばならぬと同時に、末端地方委員会の確立を急ぎ、地方へは中央部或は近接地方委員会の婦人部がその末端支部の労働婦人間の活動（或は組織、その地方に於ける一般的党の職力ある活動の為めの為）に就て党別の婦人オルガナイザーを派遣せねばならぬ。中央部婦人部は常にある工場へ党会議しつゝ未組織・未活動地方面に於ける近接地方委員会婦人部を指導せねばならぬ。婦人オルグは凡て婦人部員であると同時に党組織部員或はその指導下に働いてゐる組織員でなければならぬ。

(5) 細胞、中央及び地方委員会婦人部は、一定の工場に於ける（婦人労働を主要なものとする企業・特に未組織工場の）労働婦人の組織に対して党のその地方、その地区の組織部との協定の下に婦人部は独自的に直属の婦人オルグを配置して労働婦人の組織に対して、中央及び地方婦人部自ら責任を以て当り、模範的活動を為す様に。進んで党全体の活動の強化の為に積極的に活動せねばならぬ。之れ等の活動の成果は当該党の組織部へ集中されねばならない。かゝる婦人部による積極的活動は当面の緊急な事である所の婦人斗士の養成及び問題を急速に好転させるであらう。

(6) 中央及び地方、地区の委員会はその各々の婦人オルグが経験を交換し、又この活動を党によつて統制し指導する為に党の中央及び地方、地区の各委員会は婦人オルグを招集して全国、地方、地区、小地区の規模に於て小委員会（組織会議、婦人オルグ会議）を定期的に招集する。又中央、地方、地区の婦人部は地区工場の婦人オルグを招集して全国、地方、地区、小地区の規模に於て小委員会（婦人オルグ会議）を招集する。

(7) 以上の如き勤労婦人間に於ける婦人部の活動の方針問題は全ての党の指導機関で決定される。そして婦人間の仕事に就ては下級機関から上級機関までの凡ゆる関係に於て（アジプロ、組織、農民部、共青係、労働組合部、失業者の）論ぜられねばならない。

★　★　★

討論の際に、組織部の同志によつて提起された一つの心配（婦人部が自ら組織活動を遂行するとは結果従来までの所謂婦人同盟への偏向の現れではないか？）と云ふことだ。これは正に斯様現はれねばならぬ正しい心配である。然し乍ら、如何に云つて、婦人部が何ら実際的な組織活動を持たない、党の一の調査統計機関であると云ふ事は絶対にあり得ない。国際共産党の決議はさうは云つてゐない。

党の婦人部が一般的党の活動範囲外にあり、党の指導機関からの婦人部の活動に対する絶大なる指導及び統制があるならば、婦人部のこの活動は婦人同盟への偏向を伴ひ易いのみか、婦人部は党に対して大きな脅力を有し進むる事が出来るのである。

たゞ我々は婦人活動に就ての凡ての権威ある文書によつて指摘されてあるこの偏向は婦人部の組織活動よ婦人同盟への偏向に就て明かな誤謬も、婦人への如く鮮明な現はれも看過してはならない。我々はも今一度国際共産党第五回大会婦人テーゼの一節を引用する。「……婦人間に於ける共産主義活動が決して共産党の全事業でなく、むしろ革命的プロレタリアートの斗争及び勝利を組織し確保する為の一の重要任務であることを、決定的な部分であることを極力強調する。第五回世界大会は、各国の共産党が次のレーニンの言葉を忘れぬ事を必ものである——『プロレタリア革命は、数百万の勤労婦人が斗争へ参加する場合にのみ勝利し得る。』と云ふことを。」

同志佐山猛への見舞状

敬愛する同志！

最近の報導によつて日本のプロレタリアートは貴下が病床にある事を知つた。長い革命家の生活によつて病を獲た貴下に対し我々全党員は感謝の意を以て哀心からの見舞を送る。我々は又日本の労働者と農民が貴下に寄せた数多くの見舞状を貴下の手許に送り届ける義務を持つてゐる。我々党員を初め日本の凡ての戦斗的勤労者は貴下の病床を見舞ひ出来る限りの看護を為し度いと希つてゐる。我々日本、深い感激に包まれてゐる。

敬愛する同志！

貴下によつて初めて其の血脈の中に斗争の意志を注込まれた日本のプロレタリアートは偉大なるボルシエヴイキの名、セン・カタヤマの精神によつて成長し勇敢なる斗争の中に自らを鍛へて来た。彼等は今勤労者の敵である破産せる資本主義日本帝国主義に打ち勝つ為に祖国に結合し、武装しつゝある。資本主義か社会主義か？歴史に依つて投ぜられたこの問の前に立つた我党は被搾取勤労者が動揺してゐる。日本に於ても偉大なる階級戦の日は近付いてゐる。かくて我々の党にとつて日本国際共産党の指導が要望される時期はないであらう。我々が求むべき革命に勝利するか否かは又この事に懸つてゐる。

敬愛する同志！

国際共産党に我党を代表するセン・カタヤマの名は日本のプロレタリアートによつて限りなく愛されて誇りとされてゐる。それは日本共産党と国際共産党に結び付ける力強い紐帯の名前であり、同時に又偉大なる革命的国際主義の名前である。

帝国主義戦争並にソヴエート同盟、中国ソヴエートに対する干渉戦争の危機が異常に切迫した今日、我々は嘗て日露戦争当時同志セン・カタヤマに依つて代表された日本プロレタリアートの輝ける革命的伝統を想ひ起してゐる。当時に於て其がツアーリと両国ブルジヨアジーに対する両国プロレタリアートの勝利に進撃ら貴方かつたとしても今日何人がよく国際プロレタリアートの革命的反戦斗争の指導とその勝利を疑ひ得ようか。

敬愛する同志！

我々日本のプロレタリアートは貴下の一日も速かなる快癒を祈り且つ又を確信してゐる。病床を訪れた一同志に向し病気の身には一言も触れず、同志諸君又我の為の参考書を話文された事を聞いて我々は我々の確信を深める事が出来た。世界革命の指導者として凡ゆる困難と斗つて来た不屈不撓の偉大なる力は最悪の病魔に対しても不覚をとらしめるであらう。

全世界のプロレタリアートと共に我々は今日本の全被搾取勤労者を代表して見舞の挨拶を送る。日本に於ける階級斗争の発展と革命の勝利の為に、而して又世界プロレタリアートの勝利の為に我々は貴下

一九三一年九月六日 国際青年デーの日に　日本共産党

[illegible]の一日も速かなる回復を希ひ願ふものである。

各地方・地区委員会婦人部御中

親愛なる各地方、各地区の婦人部並に同志諸君！

[illegible]

日本共産党中央婦人部

◇手紙◇

どうか出来るだけ速く次の質問事項に関する報告を汎太平洋労働組合書記局婦人部宛に送つて貰ひたい。その為に二三の調査と当面運動に直接携はつて居る多数の同志から報告を集めることが必要となるだらう。[illegible]諸々の希望として出来る限りの短時日に仕事をやつて貰ひたい。[illegible]報告を我々は欲してゐない。我々の欲するものは凡りのまゝの事実であり、報告である。

★婦人勤労者の間に於ける状態

(1)、多数の婦人を使用する諸産業の名。各産業に雇用されてゐる婦人の人数。(2)、婦人勤労者の数。それらは如何なる仕事をしてゐるか。(3)、[illegible]

[illegible]

★階級斗争に於ける婦人

(13)、[illegible]

[illegible]

追記

十分注意して貰ひたい。

五月八日の国際婦人デー[illegible]

[illegible]

一九三一年四月

汎太平洋労働組合書記局　婦人部



鉄の火花

大衆的活動方法に進め！　宣傳・煽動に組織的活動を結合せしめよ！

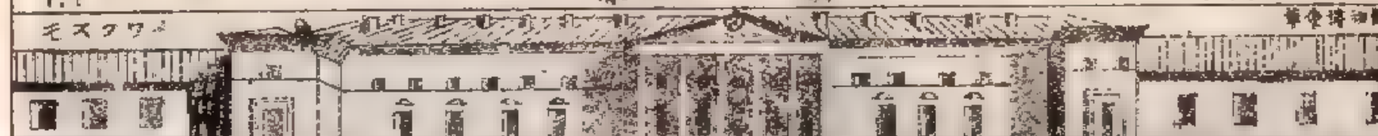
吾々は[illegible]の為に[illegible]動に組織的活動を結合せしめよと[illegible]

[illegible]

説明することを加へる。

第一に声を大きくして[illegible]

[illegible]



当局は大衆の反抗情勢を漸次高めることに成功し、そうした民衆二(?)をプロレタリア、農業の青年者を獲得し得る我団の組織要件とあるのであつて、かくすることによつてのみ青年の革命的団体を大衆化することが出来るのである。

斯くの如く宣伝、扇動――組織とは印刷物や革命的言語ではなくて吾々がいかに搾取され何王(?)されてゐる者の味方であるか、又たそれに対する斗争の上の証明であり、労働者農民に対する組織の準備を一歩々々するのである。

従つて今は「組合へ引入りなさい」「共産党へ出入りなさい」と一人々々の者を説き廻るといふやうな旧い組織方法を止揚せねばならない。勿論、ある場合にはそのやうな方法による獲得も余所せねばならぬ。けれども、そうすることのみが組織的な仕事だなどと考へてゐる者は労働、大衆的活動方法への転換を拒否する日和見主義者として排除される結果になるのである。

吾々は同志小林の「宣伝・扇動について」の一文を繰り返し熟読する必要がある。それを参照して一例を挙げれば

「××地方の○○工場の従業員が賃銀値下に反対してストライキをやつた。それを全国協議会の日本××労働組合が指導し、××××の方法で指導した結果労働者の要求に対立した白とか口ゲラ等の裏切り、官憲の弾圧のために敗北に終つたが、労働者はこのストライキを通じて、闘争を通じて、全く利敵であり全口協議会(日本××労働組合)のみが唯一の労働者の味方である事を知り、組合へ加入する者が増加し、組合に対する支持信頼が高まつてゐる。又々といふ具合に事実をありのまゝに報導する事が最も正確な宣伝であり扇動であり日本××労働組合へその敗北の呑み込まれた工場の労働者を組織するための第一歩となるのである。

吾々のあらゆる斗争を準備せよ！にはかゝる方法による宣伝・扇動を獲得するので「ストライキをやれ！資本家地主政府を倒せ！」と百万遍くり返し叫げんでもそれだけでは一人の労働者もストライキに準備せしめる事は出来ないであらう。

ザア!!斗争を討論的に準備しよう。大衆的活動に前進しよう。

一九三一・八・一六・

教育活動を活発にしろ！(一)

教育活動を活発にしろといふのは、小数のエライ理論家として養成しろといふことでは無い。我々各自がマルクス・レーニン主義でしつかり武装しなければならないといふことだ。

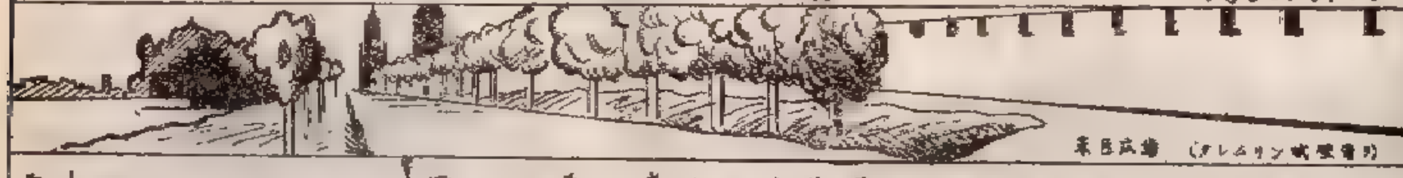
もちろん我々の教育は重要の斗争からかけ離れて歪み出されたものでは無い。我々は斗争の中に於てのみ、実際の社会に於いてのみ最もよく学ぶことが出来る。「教育活動を活発にしろ」といふのは、この日常活動の理論的な装備を、マルクス・レーニン主義で理解することによつて、一層強力な実践の武器として正しく生かさんがためだ。

これを強調する理由はどこにあるか。情勢斗争の実際の要求がそこまで来てゐるのだ。

一、支配階級の危機が進みつゝあり、政治的反動が激化するとつれ、我々の斗争はどんな一つ一つのささいな事でも、政治的性質を深刻におびるやうになつてゐる。しかも、我々の活動はどんな問題にしろ、はつきりした政治的見解の上に立つて遂行する必要が益々大きくなつてゐる。今迄でもそうだが、殊に今日では、我々の活動は最早単なる斗争に対する熱意と献身――精根的にレーニンを更新する――だけでは、いくら活動的に働いたところで決して正しくやつて行けないところまで来てゐる。

二、党の指導者の大衆のうちに組織と活動の基礎ががつちり打ち建てられてゐる。我々は集中的統一の上に立つた党のあらゆる活動は、厳格な党のインテリゲンチャを要するところまで来てゐる。この場合、党の組織に属して活動するすべてのメンバーが、情勢を正しく把握し適切に指導する能力を養成することは、各メンバーの活動の創意性が重要視されると共に益々重要になる。

三、組織が進むにつれ、隊長的青年の封建的古い意識をとつてゐる。組合アナーキスト、ファシスト、トロツキスト、ブルジョアジーの影響は益々深刻化してゐる。しかも、党員は組織の辺雲にのみ止まらず、独自の旗を大衆の前に明らかにし、大衆の良い部分を獲得しつゝある。これらの大衆を政治的に指導し、党の側に獲得するために、労働者の完全な獲得体制、党の組織独自の活動を展開することを重要な任務としてゐる。我々はそのために党独自の政策が大衆の隅々にまで行き亘るように活動せ



ねばならぬ。だが、この活動を余に遂行するためには、我々自身がマルクス・レーニン主義で武装されてゐなければならぬ。

我々は、理論水準の高さでは、党の指導者に任せておくといふ傾向を清算する必要がある。理論水準を高めることは、実際の活動を有効に正しく導く手段として、我々全体がなしとげねばならぬことだ。

(二)

一、同志が半合法の状態にあり、常に敵に奪はれる危険の前にあるのだから、実際我々はゆつくり本を読むであろう時など無いと云ふ状態にあります。だが、我々に合理的の余裕がないではない。本紙四十六号が指摘してあるように、仕事の分担によつて、我々は年中でも研究の時間をもつことが必ず出来る。

二、全国に、現在の状態では、研究の機関が作られるのを持つと共に集会を持たねばならぬ。各書が提案の(仕事の条件によるタ)グループを作つて討論研究の所会を積極的に作るようにせねばならぬ。

三、我々が教育活動に参加しようとするのは、全身マルクス・レーニン主義で武装し尽くされた力きさと信らんがためである。『斗士養成の問題』は決して教育活動によつてのみ解決し得ない。吾ぞれの一部分にすぎぬ。だが、『斗士養成の問題』を解決するための根本的な実践は、すべて『価値』はない。

四、最後、本紙パンフレットばかりでなく、オ二級新によつても、指導的論文の出版が計画されてゐるのを見た。これは、従来こうするための努力が払はれなかつた証拠だ。我々はこれらの新聞を討論会を組織して、研究せねばならぬ。

『婦人欄』確立の革命的競争を組織せよ

小田生

日本には大体のところ百五十万――二百万人の工場婦人労働者がある。そして百人以上の大工場についてみると、その半数以上を婦人が、しかも若い婦人が、占めてゐる。婦人労働者の最も多いのは、言ふまでも無く、繊維産業だ。それから化学産業、食料品産業といつたところだ。繊維産業は日本資本主義の大黒柱であるが、その労働者の大部分は実に婦人労働者、しかも若い婦人労働者なのだ。その職業百人以上の大工場についてみると、半数以上を婦人が占めることになるのだ。それだから赤色労働組合(プロフィンテルン)第五回大会の決議が「日本の工業に於ける婦人の割合は何処に於けるよりも高く、日本の条件に於て婦人の組織を放棄することはブルジョアジーに奉仕することを意味する」と言つたのは全く正しいのだ。ところでこれらの婦人はそれでどの位組織されてゐるだらうか？全協全口協評会の婦人部の活動を活発にし得ないのだ。これに答へる――ことが出来ない。しかしそれが全くゼロに近いといふことは言ふまでも無い。改良主義組合は婦人問題に対して常に冷淡であるのが普通だ。彼らの組織してゐる婦人労働者の数は少ない数に対して一パーセントである。これでは本当にブルジョアジーに奉仕してゐるのではないか！我々はこの巨大な層を我らの陣営に獲得せねばならぬ。我々はこういふ巨大な革命的エネルギーを必ずとらねばならぬ。

★　★

この重要な任務を如何にして果すか？それにはいろいろとある。我々はここで、その中の極めて重要なものを取りあげて論ずる。本紙第四十九号は呼へて曰く「婦人労働大衆を組織せよ！我々の組織に獲得するといふことが革命的プロレタリア運動の当面重要任務の一つであるといふことを。こうした任務の遂行の有力な武器として婦人欄を [illegible] らう。」(婦人欄は小田のつけたもの)

然し、今日日本で、強力なる革命的新聞に婦人欄をもつことは、婦人の間に於ける我々の活動の不活発を反映して、ゐるための最も有力な手段であらう。婦人欄は選挙に当つた様に、婦人欄は時にまれにしか見ず。しかも殆んどその大部分は悲しい否不平のこぼし合ひであるならば、その様な婦人欄は断じて若しめられてある労働者を斗争に鼓舞し、革命的行動へ呼びかけることは出来ない。我々は婦人欄のこの如き不振状態を打破して、ガッチリした生きた婦人欄の建設に向はねばならぬ。この仕事は決して婦人のみの仕事ではない。それには男女老人も青年も、すべての労働者――



そして農民――が積極的に参加し努力しなければならぬ。（私は問題をワカリヨク提出するために、こゝでは、労働者の妻、農村婦人等について述べ、諸にふれないことにする。それは、私が其の重要を軽視してゐるからではない。それらは私ののべたところに準じて考へらるべきものだ。）

★　★

日本では深刻な経済恐慌のおかげで、資本家の労働者に対する攻撃が猛を極めてゐ、日本紡績といふブルジョアの番頭共が調べたところでは、東京諸方の紡績女工さんの平均賃銀は一九二九年の一〇三・五銭から一九三〇年には九〇・六銭に下げられてゐる。同じ地方の製糸女工さんの平均賃銀は同じ期間に九一・二銭から七九・八銭に下げられてゐる。この外にウント職首があつた。そして失業がもつとよドイの打明けだ。これが去年四月に日本紡績の全成績紡四万の女工さんたちをストライキに導いたものだ。ところで、ストライキは我々の指導が拙劣だつたのと、改良主義者の幹部の裏切りや裏切りによつて、惨敗し、彼女たちはお話にならぬほど不利な条件で残された。婦人労働者は階級の中でも弱い部分なのだ。ブルジョア共の攻撃は特に其等に集中されてある。このことは独逸ドイツへ行つても、イギリスへ行つても、フランスへ行つても同じである。（ヨーロッパ諸国は日本と女工哀史的な搾んで言ふ点はデタラメな甚しい。ブルジョア共は押しつけることを以外は考へてやしないのだ。労働者は我国のイギリスで婦人代議士がゐるからなどと考へてはいけない。イギリスでは婦人労働者の賃銀はまことに低いのだから。）しかし世界中どこでも婦人はとくにひどい目に合はされてゐるかといふに、さうではない。サヴエート同盟だけは本当の意味で婦人を男子と同等の地位に引きあげた。そして男も女も、すべての労働者を資本の束縛から解放して、自分自身のために労働し生活するものとした。（我々はサヴエート同盟に於ける婦人の地位などについて彼の所望の詳細な調査を別に報告するであらう。）同一労働には同一賃銀が支給されてゐる。サヴエート同盟の婦人は益々生産に参加し、次々と新しい職場に争取してゐる。ところで資本主義国の女は、決してボンヤリと仕事してゐるのではない。ハッキリと自分の使命を自覚して彼女たちは男の同志たちと手をとり合つて五ケ年計画を少しも早く完成しようと、突撃隊をつくつてゐる。そして其に社会主義建設を組織してゐる。資本主義社会といふのは、全く解放したプロレタリアートの革命的建設が着々と素晴らしい活動要素だ。それは一工場と他工場で、また同じ工場内の男子労働者と婦人労働者で、また一産業部門と他産業部門とで、そしてまた各々一事業と他事業とで、相互に一定の条件を交換して、どちらが、よい成績を出すかを競争するのだ。成績は生産物増加を条件とし、其他は生産物の品質を条件としてゐる。又、各々数多くの条件の下で競争を行つてゐる。これは実際、労働者大衆の中に溶されてゐた革命的エネルギーを最良の一つまで発揮させるもので、素晴らしい成果を収めてゐる。（我々の他の文章々サヴエート同盟の婦人の地位は細かく示されてゐる。）

敵とこゝで、社会主義競争のことをみて来たのが我々の目的である。我々は今、ガツチリした生気ある『婦人欄』の建設といふ仕事に直面してゐるのだ。苦しい搾取され抑圧された生活にプロレタリアの婦人が、プロレタリア革命――によつて解放され、サヴエート同盟の婦人と同じやうに、男子と同等の地位を獲得しなければならぬのだ。それには我々はサヴエート同盟の見地の発明した素晴らしい活動体系、――社会主義競争――を大いに学ばねばならぬ。我々のところではまだ社会主義建設とまでは行かない。だから社会主義競争といふわけには行かぬ。しかしこれを発明した精神せるプロレタリアートの革命的意気に当るものは我々も學ぶべきもつてゐる。我々はこれによつて、革命的競争を組織することが出来る。私は、ガツチリした情熱ある『婦人欄』の建設のための革命的競争を同志達に提議したいのだ。

★　★

私は先づ、第三期、無責、治新の同志たちに云ひたい。

我々はあと丁度一ケ月で社会主義建設の生みの親である十月革命の第十四周年日を迎へるのだ。この日は、世界最初のプロレタリア独裁の誕生日として、また資本主義に対する死の宣告の第一声が発せられた日として、全世界の労働者、農民によつて祝はれるであらう。しかしこの日を本当に勝利せるサヴエート同盟の見地である。そして我々未だ勝利を獲得してゐない国のものは寧ろ我々も十月の途を進むであらう日と決意を一般と深めることによつてこの日を記念するのである。私は十月革命の第十四周年日を特に、ガツチリした生気ある婦人欄の建設のための革命的競争で祝ふことは、まことに意義深いことだと思ふ。私は特に、この革命的競争を第二無新、少年、労新へ宣言し組織したいと思ふ。全すべての革命的労働者農民は、この



カムパーニアに引き入れられる。読者諸君の綱目については、三つの新聞の代表者が適当に確定すればよい。そして競争の審判者としては、党中央部をわずらはせばよい。私は党中央部が喜んで審判者の役を引き受けてくれると思ふ。それでも都合が悪いときは適当な審判者を定めればよい。

それから我が競争者を三つに限つたのは絶対的ではない。其の外のものから志願者が参加して一向差つかへない。しかし私は、一つの競争に余り多くのものが一度に参加するのはよくないと思つてゐる。

★　★

ところで、我々は以上の革命的競争の組織だけで満足するわけにはいかぬ。同志諸君は既に古く、（「婦人戦旗」マルクス主義の一九二九年三月号で）次の如くのべてゐる。

「上述した諸任務遂行の仕事に取りかゝるためにプロレタリアートはどうしても婦人のための定期刊行物をもたねばならぬ。婦人欄が婦人版では満足出来ない。それは婦人の独特の・・・・のための新聞でなければならぬ。」

我々、我々がガツチリした生気ある婦人欄の建設のための革命的競争を、それだけで終らしてはならぬ。同志高橋は既に二年前にまだだけでは間に合はぬと言へてゐる。我々はこのカンパーニアを通じて、来る歳末を以て、十月革命第十四周年日には『婦人』の開始のための新聞の発行さへ争ひ取るべきである。ドイツ共産党は既に古くからアルバイテリンナ（婦人労働者の意）といふ婦人のための新聞雑誌をもち、婦人労働者の中に深くくい込んでゐる。ドイツ共産党は口頭共産党中央委員会の婦人問題クララ・ツエトキンを出してゐる。

あるゾウケン・アフエリンク誌は去年、我々の知らない様な職場ストライキの大闘争を取扱ひ、日本の同志を応援したよ！と挨してゐた。最近の開放は日本のプロレタリア作家氏の「太陽のない街」を連載してゐる。我々は今年十月革命第十四周年日に創刊した我々の婦人新聞をもつて、十月革命第十五周年目はドイツの同志達に革命的競争を申し込まうではないか！！

『同志よ！●革命的競争のために起て！●
『婦人欄』確立のための革命的競争を組織せよ！●
革命的婦人新聞の発刊を斗ひ取れ！●
プロレタリアートの国際的連帯を守れ（[illegible]）●

絵附録はすばらしい

××製作所　×子

絵附録は全くすばらしいと思ひます。五月一日のも、七月七日のも、農民の代表も、技術的にも政治的にも立派な絵画は、新聞そのものを実に効果的にしますね。漫画の絵附録は技術の優秀が云ふても立派な作品だと思ひます。然し私が女性であるために、こんな事を思ふのかも知れないが（本誌のみならず一般に）何故に、斗争する、そして又、斗争しつつあるねばならない婦人労働者の姿がかつとも熱く画かれてゐないのかと云ふ事です。私達は、自分達の工場の斗争を書く程度が少の様に事を知つてゐます。その同志達には、男の画がむづかしく、男の闘志は女の画が下手くそだとなふ事です。然し、こんな事は、婦人労働者の画が下手であつたり、少なくても良いとふ理由になりません。問題は日本婦人労働者に対する理解が不充分だと云ふ事が言へますね。例へば、農民の代表の中に、一人の労働婦人代表を書き加へたら、どうなるでせうか？。決して、政治的に間違つては来ません。それのみか全口の婦人の読者がこの画から受取るものがあると適切有力なものとなる事は、事実だと思ひます。

二人な美でも、ソヴエート同盟は、我々のよき教師ですね。今書の公園盟ポスター展も色覚で通じた事ですが、そこでは、技術的問題、宗教問題、植民地問題、婦々、五ケ年計画のすべての問題に、勤労婦人の動員、組織と云ふ事が、言今に、そして実に効果的に取扱はれてゐました。レーニンの意志がはつきりと画中に現象してゐました。これは、我々漫画家にあてはめても、決して間違ひないと思ひます。効果的なポスターを、そしてこゝでも労働婦人に面を向けよと私は言ひたいのです。この次にポスター展の工れが出来上げます。

（一九三一・九・七）

正誤表

「民族プロレタリアートの革命的———（前号）」付「工場新聞」に見ての報告中

一頁三行目「晩鐘」を「暁の鐘」。
同頁の第三、
全六行目「木村を」を「木村さん」。
二頁七行目「職場」を「職場へ」。
全終りから二行目「抜い」を「抜は」。
八頁十五行目「嘆数」を「嘆かしい」。
十四頁八行目「組織」を「組織者」。
十六頁四行目「命」を「命を」。
二十頁一五行目「勝利」を「勝利に」。
「あらう」を「あらう」。
二十一頁最終行「暫定」を「暫定時」。

週◇刊
赤旗
第 号
国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

目次

▼ロシア革命記念日に備へよ！ …… 一頁
▼新帝国主義戦争、反ソヴエート同盟戦争の危険と斗へ！ …… 三頁
▼検事局、内務省、文部省等と手を握つてゐる秋ヶ派の新たなる進出を粉砕せよ！ …… 五頁
▼鉄の火花 …… 七頁

ロシア革命記念日に備へよ！

（一）

十四週年ロシア革命記念日はあと一ヶ月半に迫つた。資本主義諸国が底知らずの経済恐慌に見舞はれてゐるときに、ソヴエート同盟では五ヶ年プランの第三年度が成功を以て終らんとしてゐる。工業方面の成功は言ふまでもなく、農民経済の集団化（或は共営化）は決然として行はれ、一九三一年初めに、すでに可耕民経済の四五%が集団経営化されてゐた。かくて一九三一年度には社会主義経済の基礎工事が完了するのである。

資本主義諸国では三千五百万――操短労働者や統計に上げられてゐない探し労働者を加算せずに――の失業者が街頭に呻吟してゐる時、ソヴエート同盟では失業問題は基本的に解決され、寧ろ労力（就中、熟練労働者）の不足を告げてゐる。十五に亘る農業恐慌は資本主義を苦しめてゐる時に、ソヴエート同盟では農業経営の社会主義的改造が目覚ましく行はれてゐる。広汎な大衆の食糧化、飢餓化、「天朝口」「キリスト教の口」「神の口」「天皇の口」に増々激しくなつてゐる時に、ソヴエート同盟では労働者農民の生活の向上が全ての方面に見られる。労働賃銀は戦前に比較して、即ちツァール支配の時と比較して約七割上つた。労働者の六五・三%が七時間労働に移つた。（一九三一・三・一現在）しかし、これは日本の資本家が行ふ「時間短縮」とは全然ちがふ。といふのはソヴエート同盟では七時間労働によつて却て賃銀の上つたことだ。（或るディーゼル工場では七時間労働日に移つて後半ヶ年の中に八時間労働日の当時に比し時間給は（二〇・三%増加し、又或る紡織工場では一七・二%増加してゐる――ソヴエート前掲九月号より）更に、一週間五日制となつたが、これは日本のアイドル（？）システム、土曜半休制とは根本的に異る。労働者農民の為の文化施設は益々増加し充実されつゝある。

かくの如く（非常に簡単ではあるが）二つの世界の対立――資本主義と社会主義――が明白となつてゐる時に、そして又、帝国主義者側からソヴエート同盟に対する反革命戦争の危険の切迫してゐる時に、ロシア革命十四週年の記念日は迎へられる。

日本のブルジョアジーはこの反ソヴエート戦争の為に躍起となつてゐる。満洲事件、満洲への増兵、軍部政変事件等々の具体的表はれである。又吾党を始め、少しでも進歩的な活動を行ふ一切の組織に向つて野獣の如き弾圧、迫害、暴圧を加へてゐるのもこの反革命戦争への準備である。「ルンペン狩り」「自由労働者狩」等々の名目の下に行はれる共産主義者、革命的労働者に対する迫害は最近特に激しくなつて来た。市内電車、乗合自動車、円タクの中まで調べるといふ、全く戒厳令下と同一の状態が、「聖代」と誇る一九三一年、しかも天皇がゐる、東京で現出してゐるのだ。

戦争の準備と革命的組織に向つての攻撃とは切り離し得ない。ソヴエート同盟の擁護と革命的組織の拡大強化とは決して別個の仕事ではない。ロシア革命第十四週年記念日を迎へ、その日の為に準備するに当つて吾々は少くとも以上のことを知つて置かなくてはならぬ。

（二）

吾等の前衛たる十四週年記念日に対する日本プロレタリアートの態度を決する。プロレタリアートはこの日を単なるデモの第一歩を以つて自らに課せられるものとし、且つ既得の勝利を擁護することは明日の進撃を保証するといふことを自覚してゐるが故に、国際プロレタリアートの祖国ソヴエート同盟擁護の斗争を強める日とするのである。

（1）吾々はこの一ヶ月半の期間を特にソヴエート同盟の社会主義建設を大衆の間に普遍化する為に活動しなければならぬ。職場の中から「ソヴエート同盟の状態を話してくれ」といふ要求に対して「中央公論、改造、エコノミスト、ソヴエート新聞を読み給へ」と答へるが如き態度――それは全く誤りだ。――は改められねばならぬ。責任あるオルガナイザーは親切に教へてやらなければならぬ。五ヶ年計画の成功の事実、就中、働いてゐる労働者の非常な生活と同一産業に於ける成功の事実を労働者大衆に知らせることは充実化しつゝある大衆に正しい方向を与へ且つその速度を早めるものである。このことの無理解に断乎として斗争されねばならぬ。抽象的にソヴエート同盟の成功を云々するだけですら労働者はそれを信じてゐるではないか。事実の説明が如何に労働者大衆を奮ひ立たせるかは想像に余りあるではないか。



（2）説明に際してはソヴエート同盟に於ける工業生産高・農業の集団国営化（トラクター、コンバイン等の使用）技術の進歩、資本主義諸国のそれと対比するだけでなく、労働者農民の日常の生活をも十分にとり入れなければならぬ。キネマ・スポーツ・演劇・労働者劇団・青年座・或は又養老所・休養所に送られた労働者の話、或は又赤衛軍の話等々が最も分り易く普遍化されねばならぬ。

（3）帝国主義者、社会ファシスト共の行ふてゐるすべての反ソヴエート戦争準備の事実をバクロしなければならぬ。

（4）ソヴエート同盟に於ける社会主義建設の勝利はレーニン的共産党（ボルシエヴィキ）の正しき指導があるからこそ確保されてゐるのだと云ふことを忘れてはならぬ。ソヴエート同盟の勝利――それは日本プロレタリアートをも含む国際プロレタリアートの勝利である。今やドイツのプロレタリアートは、ソヴエート・ドイツの為の斗争を日程に上してゐる。支那、印度に於ても反帝国主義の革命が燃えひろがつてゐる。革命的国際戦線はいやが上にも拡大されて行く。

（5）準備期間にあってはパンフレット、リーフレット、工場新聞、壁新聞、特別の檄ビラ、マンガ、色刷り紙幣等々の発行。ソヴエート同盟に関するキネマの集団的観覧、座談会、コンサート、演劇等を工場を基礎にして開催すること。更に此の活動が広く合法的に行はれる様に出来得る限り特別の講演会（ソヴエート同盟の話）を開催する様に努めること。此れを機会にしてソヴエートの事情をお互に深く知り合ふ為の労働者農民の大衆組織――ソヴエート友の会を創るべく努力すること。凡て以上の方法によつて行はれる準備は必然的に記念日の当日の斗争と結び付けられねばならぬ。そしてそのことから大衆的斗争を捲き起すといふ見透しの下に行はれねばならぬ。単に「我々に有利な条件を如何に利用するか？」だけではなく「我々に有利な条件（広い意味での）を如何にして作るか？」である。かくして準備され組織された斗争を最後まで指導し、斗争の勝敗如何に拘らず大衆との結合をシッカリとしてをかねばならぬ。

我々は国際プロレタリアートと共に十一月七日、ロシア十月革命十四週年記念日に街頭デモンストレーションを組織しなければならぬ。

革命記念日の為のスローガン

ロシア革命十四週年記念日万才！
世界プロレタリアートの祖国――ソヴエート同盟に対する武力干渉に反対せよ！
偉大なる五ヶ年計画の四ヶ年遂行万才！
社会主義建設の指導者、ソヴエート同盟共産党のレーニン的中央委員会万才！
レーニンの最も忠実な弟子、国際プロレタリアートの友、同志スターリン万才！
国際革命戦線の栄ある擁護者――赤衛軍万才！
ソヴエート同盟の労働者農民と同一の労働生活条件を斗ひとれ！
賃銀値下げなしの七時間労働、一週五日制の実施！
大衆的馘首絶対反対！

軍事化、警察化労働者農民運動の弾圧に反対!失業者の生活保証K向けよ!

口家全額負担による失業保険の即時実施!

失業者と就業労働者の統一戦線万才!

労働階級の利益を裏切り、反ソヴェート戦争を準備し資本家の御用を努めるの一切の社会ファシストを倒せ!

一切の階級的政治犯人の即時無条件釈放!

日本帝口主ギ者の企らむ新しき戦争準備に反対して斗へ!

天皇、大地主、寺社領の土地没収!土地を農民へ!

大企業、銀行、大産業のプロレタリア口有化!

支那、朝鮮、台湾K於ける日本帝口主ギ軍隊の即時撤退の為に斗へ!

ソヴェート支那を守れ!朝鮮・台湾の独立!

革命印度万才!

ドイツプロレタリアートの決定的攻撃を擁護せよ!

プロレタリア独才万才!日本労働者農民のソヴェート政府樹立万才!

日本共産党万才!

口際革命運動の指導部コミンテルン万才!

新帝国主義戦争 「反ソヴエート同盟戦争」の危険と斗へ!

①

資本主義世界を包む経済危機――それは資本主義の一般的危機の上に立つてをり、且つ十年来の農業危機に依つて更に深められてゐる――の進行に伴ふて、第二の世界大戦の危険は愈々切迫してゐる。『一九三〇年夏には既に戦争が始まるであろうとされてゐたが、戦争は今日では何等の秘密ではない』(口口ゾフスキー)それが延されたのは(危険が去つたのではない)ずーKプロレタリア独才口の平和政策と、口際プロレタリアートの、口際共産党の旗の下K結束する反対とK依るのである。

帝口主ギ者は危機の解決を労働者及一般勤労大衆の犠牲に於て見出さんとして、全線的K攻撃してゐる。第二インタナショナル及アムステルダムインタナショナルはこの場合帝口主ギ者の側K断然立つてゐる。(日本の社会ファシスト共も勿論のことである)

コミンテルン執行委員会第十一回総会は戦争の危険K関する問題を特K日程K上せて各口支部の精力的活動を促してゐる。(第十一回総会テーゼ・決議集――希望閣発行参照)殊K米仏等々の帝口主ギ諸口はポーランド・ルーマニア、フィンランド、チエツコスロヴアキア、ユーゴースラヴイア、ラトヴイア等々の弱少口K直接武器を輸送して反ソヴエート戦争を準備してゐる。戦要的鉄道の敷設、軍港の設備、飛行機、飛行船の新造等その具体的事実は数へるK暇なき程である。

②

日本帝口主ギ者も他の帝口主ギ者K、劣らず戦争準備を行つてゐる。ブルジヨア新聞で騒々しく書き立てゝゐる軍制改革は機械化された軍隊をまふ、進歩せる武器を有せる今日のである。では、既K昔日の如き編制を必要としないのだ。重軽機関銃の増加、装甲自動車の増加は、航空隊、タンク隊等々の増加は近年特K日覚ましい程である。それと共K兵事K対するブルジヨア的政治教育が意識的K行はれてゐる。軍口主ギ、愛口主ギ、天皇主ギの鼓吹は直接労働者農民の階級斗争弾圧を目的として、ある。日本帝口主ギ者が最近特K機輸してゐるのは満蒙及びカムチヤツカに於ける日本の特権擁護の問題である。満鉄総裁、朝鮮総督の更迭を行ふや、直ちに万宝山事件を捏造して出兵の口実を作り、参謀本部の軍事探偵中村大尉が殺害されたのを以て満洲への大量出兵の口実たらしめんとしてゐる。参謀本部では『中村大尉が殺された地方を直ちに占領すべきであつた』と公然と述べてあるではないか。ブルジヨア新聞も筆を揃へて『支那の横暴』を叫んでゐる。日本口内K充満してゐる失業者とその家族の苦悩と呪咀の声を撒ひかくさんが為K声を大Kして『外敵K備へよ!』と言ふのだ。かくて危機の原因は日本資本主ギ自体の必然的結果ではないと云ふ風K装はされるのである。

日本帝口主ギ者は北支那(天津、南満洲鉄道を中心として)を占領するや既K久しい。山東省K、揚子江沿岸K日本の軍隊が常に出張つてゐる。上海の〳〵口Kは飛行機をのせた英米等の軍艦と共K日本の軍艦が『威風堂々』と頑張つてゐる。支那労働者のストライキ、デモンストレーションの弾圧Kは何時でも日本の帝口主ギ軍隊が『陸戦隊』を立て、英米仏及反革命的口民党側から要請されてゐる。それ丈けK支那の労働者大衆Kとつては憎んでもあきたらぬ存在となつてゐるのだ。更に中口共産党K率ゐられる中口赤

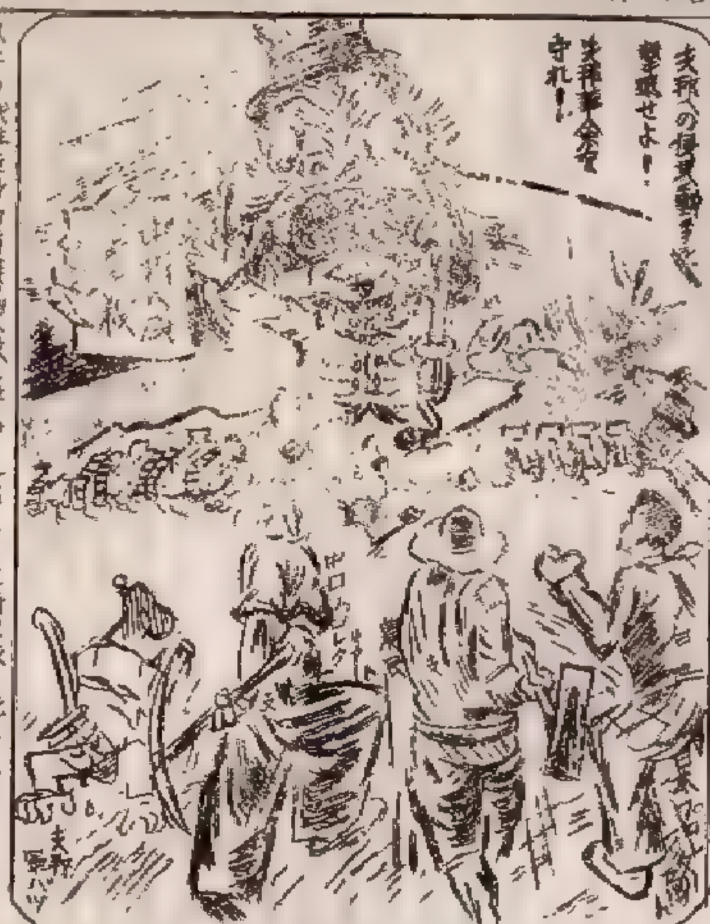
衛軍K対して最も帯恐を行動をやつてゐるのも日本の帝口主ギ軍隊である。支那の反動軍閥の軍事顧問の中K於日本の将校が沢山ゐる。彼等は直接日本参謀本部から派遣されてゐるものであり、参謀本部の命令の下K活動してゐる。日本帝口主ギ者の活動はそれ丈けではない。満洲Kバツコすると云ふ馬賊の仲間Kは日本の反動主ギ者が沢山ゐる。彼等も又参謀本部と呼応して色々な事件を引き起してゐる。内田満鉄総裁の家つてねた軍隊を襲撃した馬賊も、実はそれを口実として満洲Kゐる日本人の生命財産を保護する為K必要な兵力を派遣する為の八百長である。ロシア人を虐殺した江東の一部に云ふ海賊上りの反動派が満洲視察に出かけるのも来るべき戦争行動の下準備K外ならぬ。

北洋漁業問題では日本の帝口主ギ者は公然と反ソヴエート武力干渉を主張してゐる。毎年のことではあるが、日本の漁業資本家は軍艦の援助の下K公然とソヴエート領海内で魚を盗んでゐるのだ。それを取締つてゐるソヴエート監視船乗組員が日本の軍艦に連込まれてあらゆる侮辱を蒙め(?)られたのは決して昨年丈けのことではない。

帝口主ギ者とその使用人共は云ふ『満洲北洋漁業権は数万の生霊を犠牲にして得た日本の権利だ』と。併し誰の為の?この戦争K仆れ、負傷した幾万の兵卒、水兵は、そしてその家族は何を与へられたか。よりヒドイ解雇と

より強い、更い弾圧の鉄鎖丈けではないか。資本家地主の利益の為K肉弾となつて戦つた尊き生霊は、その労働によりアジーの宣伝のみ『名誉』を得たKすぎない。彼等を待つてゐるものは失業と餓死、益々高くなる租税と食糧以外の何ものでもなかつたではないか。

そして、帝口主ギ者は、現在の経済危機を切り抜けんが為K、更K、より



以上の犠牲を労働者農民大衆K要求してゐる。我等は新しい領地占領、市場獲得の為の戦争を始めつゝあるのだ。

③

来るべき戦争K於て、支配階級の最も恐れてゐるもの――それは前衛であるプロレタリアートと農民の反戦運動であり、日本の労働者農民大衆は戦争の経験を持たない。併し、ブルジヨアジーの行ふてゐる愛口主ギの宣伝が生活の現実と如何に矛盾してゐるかを大衆が知つた時、それは嵐の如く散つて行く。支配階級は、この時の為K一切の準備をしてゐる。ブルジヨア階級出身の子弟のみを集めての軍隊教練、ファシスト団体の

拡大、近接諸口を略奪する既に表明された兵事の中から進んで集めたもののみKよつて構成すること(軍縮改革案)等々はその具体的表れの一部である。

我々は口家総動員計画、産業の軍事化、口家資源局の設置、及び一九二三年の震災時K作られた東京警備司令部が今日準備つてあるのみでなく、

より積極的K諸種の催しK出動しである事、航空熱の宣伝と等々を知つてゐる。

かくてブルジヨアジーが来るべき戦争K際して特Kプロレタリア農民の革命運動を弾圧するであらうことは全く明白である。大阪、京都、横浜、東京その他の都市では直接明瞭K確定しての軍隊の出動計画が行はれた。

戦争の危険K反対して斗争することーーそれはプロレタリアート及び一般勤労大衆の日常利益を擁護することと密接に結び付いてゐる。我々共産主ギ者はこの斗争の先頭K立たねばならぬ。一切の社会ファシスト(社民党、大衆党、労農派、解党派等)はこの斗争K於て完全に、ブルジヨア地主の側にゐる。

④

帝口主ギ戦争K如何にして反対斗争を為すか?この問題K対しては我党のパンフレット第十五号K詳しく書かれてゐる。我々は同志諸君がこのパンフレットを熟読されんことを要請付ける。

又、労働組合、農民組合等の大衆団体内にゐる同志諸君の具体的活動について本紙第四十五号、同志石部の論文を参考とされたい。

ハンブルグの港湾労働者が反ソヴエート攻撃の為武器輸送を拒絶した英雄的行動は日本の労働者Kとつての模範でなければならぬ。フランスの黒海艦隊



のマストにひるがへつた赤旗は日本の水兵達の手本たらねばならぬ。我々は支那・朝鮮・台湾・北洋漁場への軍隊軍器等々の輸送に対して殆んど何等の具体的抗議をなし得なかつた。かくの如きことは急速に改められねばならぬ。反逆運動労働者の間の活動は特に強調されねばならぬ。

戦争の危険を単に口先きだけで云々して具体的にそれと斗争することをせぬものは日和見主義者である。

軍隊内の活動は断乎として今日直ちに着手されねばならぬ。軍隊内に於て共産主義思想の組織的系統的宣伝を行ふことはコミンテルンへの加盟条件の一つである。それが困難であるとまふ理由でこれを怠るが如きは許すべからざる誤りである。我々は最少抵抗線の戦術を採用するのではなく、必要なことから行はねばならぬ。

最後に、日本共産青年同盟、反帝同盟、独立労働組合の支部のこの方面における活動をより大衆的に、強化しなければならぬ。（3）

検事局 内務省 文部省 等と手を握つてゐる 解党派の新たなる進出を粉砕せよ！（六）

七、彼等の社会民主々義に対する弁護を駁す。

今日は日本共産党労働者派中央委員会の政治テーゼ（三）社会民主々義に対する斗争の項の批判に進入る。この項は徹頭徹尾社会民主々義に対する弁護（スラくとよくが明白に）の為に書かれて居り、例によつて日本共産党に対するデマと日本共産党への斗争が主張されてある。先づ一例を見よう。

「イギリス共産党の戦略に於ては労働党は保守党、自由党と共に三大資本家党の一つとして打倒の対象なのだ。併し今日、日本の無産政党は尚、未だ打倒の対象でなくて、孤立化、無力化の対象だ。何故ならば、[illegible]すでに社会ファシズムへの明白な傾向を示してゐるにせよ、尚、未だ純然たる社会ファシストとしてプロレタリアートに対抗してはゐないからだ。」と。

社会民衆党の赤松は社会民主々義の大旗を振りて日本主義を鼓吹しつゝ、ブルジョアジー並にその国家権力と協力して共産主義に公然武装に宣戦してゐる。

労働大衆党の麻生久は解党派の書記長者であり、選挙の演説は何時も明治天皇の歌から始めるといふ代物だ。彼等が一致して日本共産党並に全被抑圧大衆の革命的労働者農民を弾圧してゐること。官憲に哀訴してゐること、その他凡ての事実を表明してゐること。（この場合公然共産主義者として弾圧するか、ウルトラ、スパイ等とデマつて弾圧するかは本質的な問題ではない。）彼等が一致してストライキを売渡してゐること。官憲と取引きすること。彼等が資本家地主政府の手先き[illegible]、彼等が共産労働党を擁護として[illegible]のギマン的スローガンを支持してゐること。彼等が帝国主義の手先きとして中国の労働者農民を虐殺しつゝある蒋介石と握手してゐること。彼等が世界帝国主義の番犬、第二インタナショナル・アムステルダムインタナショナルを支持してゐること。（日本労働クラブを見よ）彼等がプロレタリアートとその祖国に対する世界帝国主義の斗争の機関たる国際聯盟を支持してゐること。

我々はあまりにも明白な最後たる事実だ。

然るに解党派がこれ以上の厚顔を発揮するのも可笑しく苦しい仕事だといふ点で吾々は解党派に同情する。

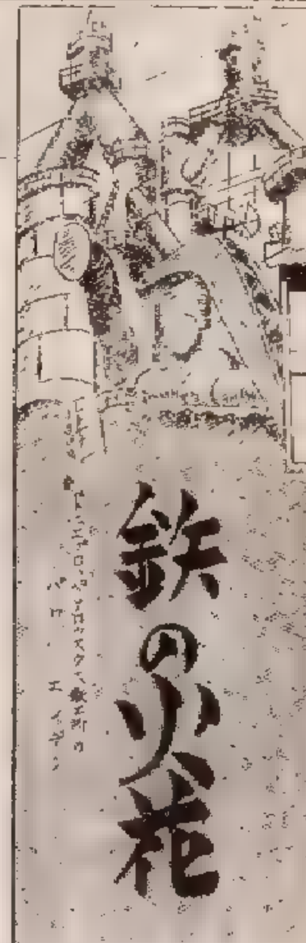
次に彼等が如何に社会民主々義を弁護してゐるかその苦心の跡を見よう。彼等の手並はかうだ。

(1) 日本の一切の労働政党はイギリスの労働党とは異なる。労働党と同じならば左方がない「それとは異るのだから」といふのだ。こゝで彼等は労働党を積極的としてゐることを言ひ合はしてゐる。赤松や山川を労働党とは異なると弁解して弁護してゐる。かく解党派が何故弁護をしてまで赤松や山川を弁護するのか？それが根本問題だ。それは後で一括してのべる。

(2) 今日すでに社会ファシズムへの明白な傾向を示してゐるにせよ、尚ほ未だ純然たる社会ファシストではないからといふのだ。

労働者諸君、労働大衆党は日本ブルジョアジーの最高の教育者、御用学者大森義太郎[illegible]を御本尊にされてゐる奴々である労働者にましますから実に文書が御上手であらせられる。その実は[illegible]同志諸君こゝの文章をよく注意して読んでくれ。『今日すでに……明白な傾向を示してゐる。』と言へば吾々労働者は社会ファシストだと読む。我々は言葉の上のアヤを読むのではなくてその内容を読むのだ。然るに苦しい弁護者解党派は「尚ほ未だ純然たる社会





鉄の火花

『左翼』社会ファシストは主人の為に吠える！

×××生

曾ては我党の陣営に居たといふ[illegible]、今では『労農派の御大』として知つてゐる。その[illegible]が『中央公論』九月号で、盛に我党に関する毒舌を吐いてゐる。そして結局の所、[illegible]、おかしいことは沢山ある[illegible]。今日その時期でないから[illegible]。

全然困難のものだと考へてゐる。（見よ、『青野季吉マルクシスト理論』以下）[illegible]

[illegible]

つてゐる事実を御存じ無いと見える。あゝいふものでも社会民主々義者としてブルジョアの御用を勤める実に於ては同じだからまあ／＼……といふ訳らしい。実にスバラシイ「共同戦線」ではある！

ブルジョアジーよりは社民党でも何んでも「無産政党」と名の付く方がましだといふ奴では大山郁夫も同意見だ。彼大山が九月号で自己を語るのを聞けば、「労農党がなりし壊れ」[illegible]

[illegible]

らばこの四すみ方策の全部でないまでも大部分が、ブルジョア政党に投ぜられたことは疑ひない。大衆をブルジョア政党の影響に任せておくことは問題とならないで――（誰がか？共産党がか？）[illegible]

ファシストではない。レと読むのだ。こゝで『純然たるレ』という言葉に千金の重みがある。

或る経済社等は「純粋にもレ社会ファシストたる研究派の紳士諸君の目から見たら「猶は未だ純然たるレ社会ファシストとは云い得ないかも知れない」いやこれはどうもとんだところへ飛火してすまなかった。

「純然たるレ」なんて抽象的な一般の言葉で鈴木、松岡、赤松、麻生、山川、大山等の非階級的反革命的な多くの裏切を覆いかくそうとは少し人を喰ひすぎてゐる。

社会民主々義と社会ファシズムの間に区割を設けその間に言葉の表現を集き社会ファシズムはいけないが社会民主々義ならまだそんなに悪の臓まずくさつてはゐまい。若干見分悪くすれば改悛の見込みがあると云った風の言ひ方をすることに依って社会民主々義がプロレタリアートの決定的な敵であることを大衆の前に覆いかくさんとするのは実に恐ろしき悪質な反革命的行為だ。

(ろ)「プロレタリアートに対抗してはないから」と言ふのだ!!

今迄の所に同情的態度であって(ご)の党の身内事のだ。吾々こゝへ来て彼等は積極的に云ふ。今日日本の労農戦線はプロレタリアートに対抗もてはないのだと。社会民主々ギ社会ファシズムとの決定的斗争なくしてはプロレタリアートの勝利は断じて不可能だ。この事は世界史の示す所であり、マルクスレーニン主義の『イロハ』だ。コミンテルンの原則だ。然るにこゝに社会民主々義、社会ファシストを弁護し反対に日本共産党を非難する共産党がある。何とこれ又お粉々な吾々共産党であることか。

彼等はこゝで『打作』と云ふ言葉と『反対』と云ふ言葉とを使ひ分けてゐる。廿年間も遊ばせて貰ってフンダンに学費を費して使命事遊ばされた労働者派の紳士諸君の博学ぶりには全く閉口する。『打作』と云ふ言葉と『反対』と云ふ言葉の使ひ分けを承々と講究することに依って社会民主々義者を弁護しようとなさるのだから。労働者派幹部口は『反党だ』『反対』でも『打破』でも『決定的斗争』でも、何でも『言葉』ではなくて内容のみが問題なのだ。

日本共産党労働者派中央委員会は断固社会民主々ギを弁護する。吾々は断乎として之と斗争する。敵か味方か、協力か斗争かだ。労働者は違せイだ。

社会民主々ギ者を弁護する日本共産党労働者派中央委員会は社会民主々ギの同類だ。(こんな事は云ふ迄もない日本共産党労働者派中央委員会は解党派であり、解党派は天皇主義者であり、典型的な社会ファシストなんだから!!)プロレタリアートの最悪の敵だ。民族者とは断乎たる斗争あるのみなのだ。此處で吾々は今日赤松、麻生、山川、大山、並に労働者派なる者達一連の社会ファシストと、更にブルジョアジーの御用人達にだまされてその指導下に立ってゐる労働者諸君とをゴッチャにして同一視しそれこそ大きな間違ひだ。今日彼等にダマサレてゐるとは云へ労働者大衆は明らかに吾々の味方であり兄弟であるのだ。吾々は一方社会ファシスト幹部の裏切りを大衆の日常利益に関係して具体的に徹底的にバクロし彼等と決定的に斗争し、他方下からの統一戦線戦術で彼等の影響下にある労働者大衆を吾々の側に引き寄せなければならぬ。

今日吾々の最も重要な戦略的中心任務は、労働者階級の多数者獲得へ(コミンテルン第十一回プレナムの決議)であり、その為の斗争であるのだ。その事を一日も忘れてはならぬのだ。

日本の共産主義者並に革命的労働者貴族は大衆の利益の為に彼等の先頭に立って決死的に斗争する。なお特に大衆の日常利益の為に献身的に斗争すると云ふ点で吾々は今日尚決して十分にそれを為し得てゐない。多数者の獲得や組織の拡大強化に於て大衆の間に於ける共産主義者並に革命的労働者貴族のこの戦略的斗争が絶対に必要なのだ。口先き丈の宣伝や煽動に陥って斗争に現れ込み少なり、常に大衆の背後に隠れる事にキューくとしてゐる者は断じて共産主義者としての資格なき者だ。同志諸君!字敷を確立せよ。字敷は常に吾々共産主義者にとっては決して辛い所では無い。(たしかに、共産主義者にとって死ぬよりも辛い事がある。斗争を休止しなければならぬと云ふ事だ。敵に断じて敵の手には捕るな)

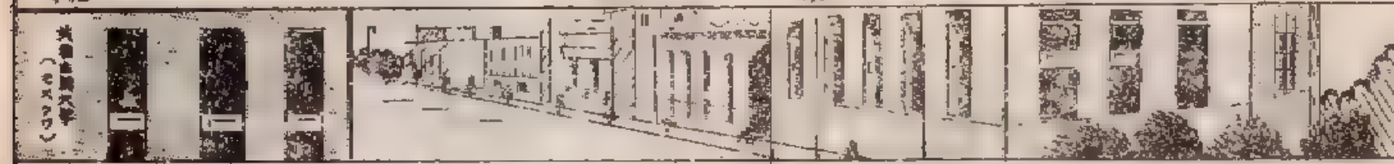
党関係文書の紛失の不注意や組織的活動の制限に於ける不十分や敵の破壊を被った為にみかくく敵の手に陥る事は絶対に避けなければならぬ。細心にして大胆なる組織的活動!!特に今日この事は強調されなければならぬ。

鈴木、松岡、赤松、麻生、山川、大山から解党派の水野(成夫)村尾、河合、浅野、菊田等々に至る一切の社会ファシストを日常斗争を通じてプロレタリアートの陣営からたゝき出せ!!

下からの統一戦線の戦術に依って日常斗争を通じて改良主義的社会民主々義者の影響下にある大衆と手を握れ!!



日本共産党ボルシエビキ化万歳!!



「科学的」日本主義者 赤松克麿を葬る!

雑誌「改造」九月号に科学的日本主義者で知られる社会民衆党の書記長赤松は、最近社会民主主義に就いて「我等は如何に斗ふか」を云ってゐる。その最後が頗る面白い。少し長いが引用する。

「われらはブルジョア的大政党のイデオロギーに向って徹底的闘争(おゝ何と恐ろしきことよ!)を加へると共に(共にだ)更に共産党、擬似共産主義政党(全国労農大衆党)のイデオロギーに対しても果敢なる思想的闘争をしなければならぬ。われらは日本資本主義の打倒と社会主義日本(だが畏口だぞ!)の建設に於て断じて第三インターナショナルの指令を仰ぐ(誰が貴下如きに指令なんかやるか)屈辱を忍ぶものではなければ、また第二インターナショナルの拘束を受けるものではない(然り、第二インターナショナルは、そんな有象力を持ってはない。何故なら各口社会民主党は各資本主義帝国の支配階級の利益をリードするものだから)日本の大衆(何?大衆)が独自の立場に於て、日本資本主義の自主的(エヘッ!)改革を断行し様とするのだ。今や口際的に又口際的に行詰まれる現下日本の国家的非常時(何人の国家だ?)に直面し、打開への道は二つしかない。コミンテルンの指導下に立って世界共産革命の一環として日本社会革命を断行するか、日本大衆の口民的生存権の立場に立って日本の自主的改革を断行するか、これである。われらは後者の道を取る……」

赤松克麿の所謂「科学的日本主義」がこれだそうだ。

マクドナルド政府やドイツの社会民主党がやった様に、ブルジョアの政府で労働者農民大衆の革命的反抗を抑へられない時は、吾々が出てやりませうと云ふのだ。

赤松が何と言おうが——実はくだらない——言葉は如何う、彼等の行動は明白に労働階級の利益を裏切ってゐるのだ。彼等は金融ブルジョアジーの利益を擁護してゐるのだ。吾々はファシストと社会ファシストとを全く同一のものと考へる人々に対しても、更に又、この両者が本質的に異なると考へる人々に対しても反対する。だが赤松一派の言と大日本生産党の宣言とが如何に似通ってゐるかを看よ出せ!

戦 る、彼等赤松の言ふ如く「口際的に又口際的に行詰まれる現下日本の国家的非常時——」資本制化、労働者農民大衆の悲惨な窮乏化、階級斗争の激化と支配階級の動揺、戦争の危険に於ける利害の衝突、斗争——に直面し、打開への道は二つしかない。二つではないのだ。一つしかない。日本の労働者階級の前に残されてゐる如く問題が提出されてゐる——『資本の搾取から解放されるプロレタリア独裁——共産主義か、太陽の飢餓搾取と失業奈落と戦死より外にないブルジョア独裁か?』

二つの中の一つだ。中間はない。共産党のみがプロレタリア独裁の為に斗ってゐるのだ。吾ら科学的日本主義は其の途上にかける邪魔石である。我々はこれを粉砕して進まねばならぬ。

文化活動により一層の関心を

自分会は此処で文化活動の重要性に就てそのコミンテルンやプロフィンテルンの決議を引用しない。それは既に分ってゐることだ。工場、農村、事務所に於ける我々の文化教育組織は、そこから組合や同盟や党の新しいメンバーを獲得するための貯水池であり又それを通じて党や同盟や組合がその大衆的な政策を実行するための構築体ともなり得べきものである。殊に日本のやうに革命運動が非合法の口ではそれは合法舞台の利用として特別な意義を持ってゐる。

然るにこれまでの活動に於てこれらの組織の側からの過少評価は忘れてゐた。党や組合の組織は企業内に於ける労働者の文化的組織を積極的に発展させて、その中に包括的な影響を広めるかはりに、或はそれに対して全然無関心な態度を取り、或は(今では殆んど無くなってゐるが)それと対立しそれを破壊するやうな方針を取ってゐた。それは大きな誤謬である。この誤謬は急速に改められなければならない。

例へば、今日本のプロレタリア文化団体は、その全口的中央部(日本プロレタリア文化連盟中央協議会)の建設を準備し、且つその基礎を工場農村に置かうとして、それに自己のサークル(小団体)を作りつゝある。しかるに



それに対して党や組合や同盟の組織は十分に関心と積極性とを示してゐない。さまざまな文化の仕事は何か課のやるべきことと思ひ上でも等へてゐるかのやうだ。だがこれは間違ひだ。むしろ反対せなければならない。文化の仕事は外部の文化的インテリゲンツヤだけに委しておいてはいけないのである。

我々は文化団体のこの活動を援助すべきである。更、周囲の組織や、全協の分会が、その責任者を設けて、手先して工場、農村、官庁、学校等に文化的諸サークル(文学、演劇、美術、音楽、映画、反宗教、教育、エスペラント、経済学、哲学、自然科学、技術、スポーツ等のサークル)を作るべきである。この職場で同盟や組合は自己の組織としてそれを作るのではないが、さういふものが出来上つたらそれを夫々のプロレタリア文化団体に結びつける。しかし出来る指導は常に確保すべきものである。従つてかういふやうなそれのが既に出来上つてゐるところでは、そこに人を入れる必要がある。また工場や農村に反動的文化団体(国粋や青年団や社会民主主義者の組織する文化団体)がある場合には、その中に革命的反対派を結成させるやうに努力しなければならない。同様に官許の青年団、処女会、在郷軍人会等にも我々の文化的組織を作る。

これらサークルは極めて大衆的なものであり、広汎な未組織の労働者農民、多数の人を組織し得るものでなければならない。それは労働者農民の日常的文化的要求を中心にして結ばれる組織である。それはブルジョア的反動文化に対して労働者や農民が自己の文化を作り科学を獲得する為の組織である。

と同時にそれは党や組合や同盟の補助組織として、労働者やその他の勤労大衆を、日常的経済的及び政治的斗争に動員し、そこから我々の基本的組織、殊に全協へ新しい組合員を獲得する為の組織でなければならない。そしてこの意味に於て文化団体の意義は大きい。

最近に全協はプロフィンテルン第五回大会によつて決定された労働者クラブの建設に直ちに取りかかるべきである。これは資本家反動社会ファシストに対抗して出来る、中間派の労働者を下から結びつける為の合法的な統一戦線クラブであつて、組合のイニシアチーブを取つて作るべきものであるが、そこにはプロレタリア文化団体からの積極的積極分子等とされる。クラブは一定の会費を徴収して家を借り、そこに様々な書籍や、新聞雑誌や、新聞や、碁盤やラヂオや、蓄音器等が備へつけられ、またそこで様々な合法的な演会や、講習や、演芸の夕べが開かれ、ストライキの場合等には炊出しや、共同金募集や、集会等に用ゐられる。クラブはこの場によつて作られることもあれば、例へば紡織労働者クラブといふやうな形で持たれることもあり得る。いづれにしてもクラブは労働者文化の中心を目ざすと同時に、我々の統一戦線戦術の為の重要な舞台とならなければならない。

最後に、党、同盟、組合等の組織は、プロレタリア文化諸団体の出版物の普及と販布の為に便宜をはかるべきである。またそこで発行されてゐる雑誌新聞に労働者通信員を参加させる為にそれらの新聞雑誌への通信員を組織することを援助しなければならない。と同時に我々のもつすべての新聞なり雑誌なり、そして特に労働組合の機関紙が、もつと多く文化の方面に関心をもつて、それにその頁を割くやうにしなければならない。

このことに就てプロフィンテルン第五回大会で採用されたアヂ・プロ部のテーゼは次のやうに云つてゐる。

「革命的労働者新聞は今日まで文化教育活動の問題を僅かしか取扱はなかつた。革命的文化教育組織の活動は十分には照明されなかつた。それはまた改良主義的文化組織の社会ファシスト的指導の暴露のためにも僅かの事しかしなかつた。すべての新聞、すべての労働組合機関の中で文化活動の問題の為に特別の頁或ひは欄を割く事を促さねばならぬ。労働者新聞は労働者大衆の文化的教育的要求を確保するため、これらの問題を文化教育組織の目標に上すために、特別の注意を向けねばならない。この目的のために各々な、労働者通信員運動を利用し、個々の労働者通信員を、文化教育組織の活動を闡明し、並びにその活動に対する労働者の意見を確認するために獲得せねばならぬ」

プロフィンテルン第五回大会のこの決定は日本に於ては未だ殆んど全く実践に移されてゐないと云はなければならない。一般に労働者の文化的活動に対する無関心乃至は低劣な傾向が未だに根強く我々の同志達の間に残されてゐる。と云ふことを指摘する必要がある。

しかし今や我々はそれを清算して、労働者情報の要求者と共に我々の中心的任務を遂行する為に、この方面においても決定的な数歩を行はるべき時期ではないだらうか?



中村事件に就きて

今、凡てのブルジョア新聞は、支那の奥地に起つた中村大尉事件に就き書きたててゐる。何の為にそんな奥地に行つたと云ふ事には一言もふれないで、委員が参百円集つたとか、陸軍葬にするとか、帝国在郷軍人会が口論を演説するとか、そつちの意見なことを、サモ撤を正すべきて口惜しいの重大事であるかの如くかきたてゝゐる。それのみならず、共産党公判に際して、裁判長を忌避したと云ふ一つの方法を用ひて、中村大尉とその具体をみせ立てゝゐる。ブルジョア新聞は大尉から具体に見てられた感傷的な手紙をその為上にかゝげて、人情の中にかなる「情熱的な」、特に見る軍人であるとなし、更に又、夫人及び家族への同情を喚起し、広く輿論を喚起しつゝある。彼等のラヂオ、新聞、在郷軍人会、青年団、青年訓練所、凡ゆる機関によつて所謂ブルジョアジーをして殆んど完全に戦争せしめやうとしてゐる。又何相は事態に際して、当事件につき奏上し、種々御下問に奉答するところあつて退下した。彼等はこの事件につき、天皇を始め、参加せしめる事によつて第一番の宣伝効果をアゲようとし、そしてあげてゐるのである。

× × ×

彼等の目的は、単に支那側の際涯により、日本の名誉ある軍人が惨殺された事に対しする賠償を請求さんとするのではない。それは口実を喚起せしむることによつて支那側を威嚇し、恐怖せしめ、対ソヴエート戦争のすべての根拠(へスパイ)行動、軍事的準備等を支那の奥地(支那、ソヴエート国境)に於て、公然と行へるやうに、支那政府の後援及び承認を得んとするにあるのである。

これは先きに、フランスを盟主とするところの対ソヴエート干渉事件があつたやうに、世界ブルジョアジーの一環としての日本ブルジョアジー、対ソヴエート干渉運動の一つの表現である。日本ブルジョアジーは本年に入つてから種々「アヂケーッ事件」「カムサツカ漁業事件」万宝山事件と直接間接の系統的、計画的なソヴエート干渉運動を組織してゐる。そしてこれ等事件等と満蒙及び朝鮮に成功し、事件毎に、戦争を煽合する大逆襲をもたらしめてゐる。彼等は今度の事件をもサイトマな支那側の日本に対する挑戦の一つでありと云ひ、「支那側の日本を踏み付けにしやうとした累積に加へられた最後の生々しき一例であるといふ」と云つてゐる。口実の反動的な事件をもとより、数限りないほき小競合い及び社会民主々義者の時節柄の疲れた労働者農民の煽動をせしめんとしてゐる。現在、万宝山事件、中村事件の直接の目的は、満洲の利権の独占化、東北支那領土の植民地化にあるのであつて、当今問題は支那政府との折衝及び交渉と云つて現れるのであるが、然りと云つて、日本ブルジョアジーの目標は□、ソヴエート同盟に対する系統的なものなることを忘れることは出来ぬ。吾々は今、支那、日本、ソヴエート、ロシヤの兄弟と手を握らうと叫んでゐる。日本プロレタリアートは今、よりも一層、支那プロレタリアートに対する日本帝国主義の攻撃、ソヴエート同盟に対する野獣的干渉戦争に対運動を組織し組織せねばならぬ。

僕が今より十年前軍隊に居つたとき一教官から次のやうな事を教へた事を覚えてある。シベリア出兵に於ては日本ロシアの過激派は断腸で情けなかつた。ロシヤは決してあのまゝ進んでしまふのではない。(僕はこの時不思議でたまらなかつた)キツト将来に於て復讐してくるのだ。これは秘密の事であつて参謀本部の意見である。であるが故に、満洲の要塞を強め、各地を精密に調査して来てあるのだ」と。

五十年戦争を四十年に!我がソヴエート同盟の様なやうな宣伝職は、日本帝国主義反その軍人へ拝敬)進まして、今大のやうにさならしめてゐる。

我々労働者農民は第十一回プレナムに於て示された如く、大衆党の急進化に立ちおくれぬやうに更に心掛けよう!吾が日本共産党がこの中村事件につき速やかに様々な検討をて大衆を出させしめよ。

レーニンも左翼小児病の中に云つてゐる「吾々が斗争のあらゆる方法を所有して居ないならば、若し吾々の技術の或る部面に、吾々の意思とは独立的変化が起つて、その結果吾々が最も不得意とする斗争形態を取らなければならぬ状勢に立ち到つた場合には、吾々は重大なる敗北、否時として決定的な敗北を蒙ることもあり得るのである」と。

Пролетарии ВСЕХ СТРАН СОЕДИНЯЙТЕСЬ

★万口の労働者団結せよ!

週刊 赤旗 第 号
国際共産党日本支部 日本共産党 中央機関紙

目次

▼同志渡邉政之輔の三週年記念日に際して……一頁
▼中口略奪戦争 ソヴエート同盟への武力干渉開始さる!……二頁
▼街頭示威運動の意義と方法に就いて……三頁
▼獄中の同志を救へ!—支配階級は我等の同志を殺害せんとしてゐる!……五頁
▼[illegible]の火花!……七頁

同志渡邉政之輔の三週年記念日に際して

我党のボルシエビキ化の為に戦へ!

★★二八年十月七日同志渡政——我々は彼を親しく渡政と呼ぶ——は台湾基隆港頭で日本帝国主義の官憲の中に虐殺された。彼は日本共産党中央委員会書記長の栄誉ある地位に於て殺された。日本のプロレタリアート・貧農大衆は同志渡政の死に依つて階級の最も親しい闘士、彼等の最も信頼すべき指導者の一人を失つた。

同志渡政の生涯は斗争を以つて終られてゐる。彼は年少にして既に革命的労働運動の先頭に立つてゐた。労働者大衆の親しい同志として、指導すべき斗士としての彼は日本に於ける革命運動の暗黒の為に献身的に活動した。マルクス・レーニン主義からの逸脱に対する斗争に於て彼は常に先頭に立つた。山川主義の日和見主義に対し、又、極左冒険主義としてコミンテルンより批判された福本主義に対する斗争に於て彼は常に一線に立つてゐた。

彼、同志渡政の偉大さは只に日本の革命運動の中に留まつてゐない。太平洋労働組合書記局の活動に於ける彼の功績には目覚ましいものがある。更に彼はコミンテルン執行委員の一人としての重任を負ふてゐたのである。

併し、就中我々が継承すべき彼の功績は、七月テーゼの実行である。口際的指導部に対する不信任、敵の弾圧に対する一切の敗北主義に向つて彼は我党は非常悪闘に斗争し、日本共産党のボリシエビキ化、大衆化の為に活動した。

従来のセクト主義的組織より大衆的組織への転換ボリシエビキ化への急旋進の途上、我党が受けた支部指導部からの打撃は彼を先頭とするレーニン的中央委員会の決意を強めこそすれ少しも弱めることはなかつた。

『口際同盟の手から』は口際主義者としての彼の口際的革命運動への参加を怠らせはしなかつた。太平洋労働組合会議書記局の会合に参加すべく上海に来り、そこでの重要な仕事に参加しその帰途基隆に彼は惜むべき日本帝口主義者の手に依つて殺されたのである。

我等の輝ける指導者同志渡政をかくの如く失つてより、すでに三ケ年を経過するのである。同志渡政は死んだ。だが彼の事業は永久に生きてゐる。

共産党組織の強固に道運し、大衆斗争を受けつゝ日本共産党の発展は大戦の渦に益々拡大されつゝある今、彼の付つた道——そこには数百、数千の新しい同志達が限なく続いて進んでゐる。我々は彼の死を思ふことに依つて、彼の事業を遂行し、新しい斗争への刺激と(同志依存)しなければならぬ。

経済危機の深刻化と革命的危機への客観的前提条件が急速に成熟してゐる今日、我党のボリシエビキ化の問題は緊急不可欠な条件である。客観的条件は我党のボリシエビキ化に有利である。

同志諸君! 同志渡政の三週年記念日を期して、党のボリシエビキ化の為の活動をより一層積極的たれ! プロレタリア独裁の旗印を益々鮮明にして労働者大衆を組織せよ! 党のボリシエビキ化は大衆斗争を準備し、組織し、指導することに依つてのみ行はれるのだ!

コミンテルンの指導の下に日本労働者農民ソヴエート政府樹立に向つて突進せよ!

我党の輝ける指導者同志渡邉政之輔の死を意義あらしめよ!

Пролетарии ВСЕХ СТРАН СОЕДИНЯЕС

★万口の労働者団結せよ!

★中国略奪戦争 ソヴエート同盟への武力干渉開始さる!★

九月十八日夜から南満洲鉄道沿線事件の日本軍隊は『兵力』として軍事行動に移り、翌日には既に奉天城を占領した。その他『有能な』日本軍隊は南満所数なく(支那兵は殆んど抵抗せず)長春以南を全部無抵抗占領して了つた。日本政府は『事件を局部的に解決する』と『今回の出来事は戦争ではなく、当然である』と強弁する』『日本軍は出兵したのではないから撤兵の必要がない』等々と声明してゐる。果してそうか?

ブルジョア新聞雑誌は口を揃へて、本度の戦争の『原因』を支那兵の『暴挙』『日本を馬鹿にした支那軍』等々と見出してゐる。そして満鉄の一部の破壊を以て『事変の原因』と決めてゐる。然しながらそれは全然虚偽である。真の原因は日本帝口主義者が企図してゐる満蒙を押付ける為に新しい領土略奪の為の戦争を準備してゐたところにある。

『ブルジョアジーが戦争に依つて得んとしてゐるものは只に新しい販売市場投資市場原料の獲得の為で日本!・満洲全土(それは全支那の約三分の一にも相当する)を占領する事に依つて直接ソヴエート同盟への武力干渉の戦略的地盤とする事を目論としてゐる。見よ、一、このブルジョア新聞紙は既に『ソヴエートロシアの赤軍動くか』とか、『ハルビンの支那軍にソヴエート政府五千の赤軍を送らんとして拒絶さる』等々と伝へてゐる。然るにソヴエート同盟と支那との共同声明にまつてゐる東支鉄道沿線内に日本軍が侵入しソヴエートの労働者を虐殺し、東支鉄道の一部をまで占領してゐるその行為に対しては一言どころか絶対支持してゐる。更に、ブルジョアジーと地主は新しい戦争を始める事に依つて増々熱心してゐる労働者及び勤労農民大衆の階級斗争を『一掃』として勝ちほこり、愛口主義の名に依て労働者農民大衆の注意を口内の階級斗争より外らさんとしてゐるのである。

日本の帝口が金融ブルジョアジーの指導に依つて行つた帝口行動は決して偶然でもなければ『意外』としてのものでもない。それは実に計画的に準備され実行されたものである。吾々は今その事を全部に亘つて書く暇を持たないが一寸思いついた事だけを次に上げて支那叛乱。(イ)口際聯盟日本代表として支那側の要求を拒絶した事。(ロ)事件の直前に於ける満鉄総裁と関東軍司令官の重要会見にその事と同時に提唱されたる満鉄一元締し(ハ)南次郎陸軍大臣の満洲『視察』(実は戦争の攻究)。(ニ)中村大尉事件板垣大佐の『真相報告』に東上せる満蒙問題積極論者本庄が参謀本部より鮮満国境行動プランを持ち帰つた事。(ホ)万宝山事件、中村大尉事件、更に内田満鉄総裁の『満蒙問題』に対する『積極論』の提唱事件及びヒンピンとして起る『馬賊の襲撃』等々に依つて口内的、口外的に満洲占領の口実を作つてゐた事。(ヘ)満洲に於ける日本人の間には『近く何か戦争がある』といふ事が常識となつてゐた事。(ト)九月十八日(即ち事件の起つた日)満洲軍司令部から満鉄本社へ向つて『関東軍団司令部の準備を早く定期少し都合が悪くなつたから時間を変更する』と通告した事。(チ)日本内地の軍隊も兵員を命じられてゐた。(リ)事件が勃つても口実合理化が横須賀横浜を路して征伐へ出動した様である。(ヌ)更に軍部は口際聯盟である。英口のマクドナルド内閣の更迭、危機の激化、労働党の本質ベクロ。ドイツに於ける革命的危機奥義への道程及危機底に迫展して居り、米債金支払延期問題がアメリカを援軍者として欧州全体の注目の中心となつてゐた事。南京政府が最後の一ヶ月以内に共産軍を全滅さすと声明したにも拘らず結局その事が不可能に陥つてゐる事。その他吾々が知り得ない様なデリケートな関係が沢山存在してゐるのである。吾々か様に列挙したのはホンの一部分にすぎぬ。それも只戦争の準備として誰の目にも全あるような物の大事である。

かくして準備された戦争は今や始められた。戦争は誰の為に続けられてあるか? 言ふ迄もなく金融ブルジョアジーを先頭とするブルジョアジーと地主共である。新しい領土の略奪、ソヴエート同盟攻撃が口内の革命運動弾圧の強化と別々のものではなしに同一のものである事を吾々は屡ゝ強調して来た。而して事実に於てそれが証明された。見よ! 八月十三日より今日迄継続してゐる赤色的労働者に対する逮捕と補捉を!・神戸、東京、大阪と行はれそして今や東京地方に於ては小さなストライキまで『戦争』に反対する不届者として全部検挙され(二、三十名だ)た。かくの如く戦争が起つたと云ふ事は労働者農民の全ての斗争を弾圧する最も力強い口実となつてゐる。生活的要求を掲げての斗争であるとしても、それは敗北的立場から見て直に圧しつぶされてしまふのだ。『戦敗者は集中化されたる主席である』と云ふレーニンの言葉は現実に証明されてゐるではないか。戦争に依て労働者農民の生活がより一層困難になる事は明白である。戦争費用として、さなきだに苦しい中から戦争の為の税金がとりあげられるであらう。兵隊者等は肉弾として同胞殺戮の為に駆られるであらう。どこか一寸の帝口主義者が戦争で勝つ事はその口に於けるプロレタリアートと農民に対するブルジョアジーの勝利である事は一九一四—一八年の世界大戦が実証した。

戦争をなくすためには労働者農民のソヴエート政府を樹立する以外にない事も実証されてゐる。

社会民衆党全国労農大衆党幹部一派第一派の社会ファシスト共は露骨にも始められた帝国主義戦争に対して反対してゐない。彼等は今殊御に公然と此の方の支持を与すと共に具体的に階級敵と斗争し様とはしないのである。彼等の理論と実践とに依れば、戦争に反対することは極左派主義なのであらう。だがそれは彼等の裏切的性質をバクロするのみである。

我々は今やこの戦争を帝国主義戦争、ソヴエート同盟への武力干渉の開始と認定した。我々は益々かずさに実践せる為様パンフレット第十五號『帝国主義戦争反対斗争の方針』を飽くまでも実行すると共に、まだずれはならぬ。我々の中心任務は労働者階級の多数を共産主義の側へ獲得する事である。帝国主義戦争の時期は我々の活動を困難となく困難ならしめるであらうが、そこからして何等か日和見主義的傾向に陥つてはならぬ。吾々共産主義者のみがプロレタリアートの利益を代表して斗争し得るといふ事を実践的に示さねばならぬ。その時にのみ、吾々の組織は拡大強化されるのである。帝国主義戦争に反対する事は今や最も現実的問題である。

何を置いても先づ今度の戦争は帝国主義戦争であり反ソヴエート同盟の武力干渉である事を説明し、又と国内の革命運動の関係を広く大衆の間で説明しなければならぬ。日本の労働者の間にする様く根み込まれてゐるブルジョア帝国主義、排外主義と斗争し、植民地半植民地の独立の為に斗争しなければならぬ。兵器・弾薬並に軍需品の輸送をストライキを以て拒絶する為に、其武装具並上軍隊労働者での活動を強める必要がある。一切の軍需品製造工場並にブルジョア新聞社工場内に組織を樹立し、ブルジョアジーの行動をストライキ、デモンストレーションで打ちひしがねばならぬ。更に重要な事は農業労働者農業及び革命的部隊に依つて投獄されてゐる多くの同志達の即時釈放救援の為の大衆的示威運動を組織することである。

戦争は始つたのだ!共産党員、革命的労働者及農漁民諸君は直ちに部署につけ!

ブルジョア独才を強める為の帝国主義戦争をブルジョア独才の打倒、プロレタリア独才樹立の為の国内戦争に転化せよ!

附記 吾々はこれと前後して戦争のパンフレットを発行した。

街頭示威運動の意義と一方法に就いて

(1)

労働者の街頭示威運動は革命的労働運動の有力な武器である。この街頭デモの持つ革命的意義に関する如何なる小さな誤謬も我々の間にあつてはならぬ。街頭デモは国際的に見ても、丁度的に見ても大きな革命的意義を持つてゐる。我々は歳へて十八世紀の終り頃のフランス革命に於てダントンに率ゐられた都市貧民の街に始めて、ロシアの一九〇五年及び一七年の二月十月革命に於て行はれた労働者大衆の革命的デモ、ドイツ、ベルリンの革命的労働者のデモ、中国上海、廣東に於ける革命的デモに至るまで吾々の耳目に触れきとらなくとも、日本丁度の上に多くの実例を持つてゐる。将に明治維新当時に於ける農民大衆の示威運動と騒擾以後資本主義の発展に伴ふて漸次組織的に又思想的にも成長して来た都市プロレタリアートのデモンストレーションに注意すべきである。就中一九一八年の米騒動は全国的範囲に亘つた。労働階級はストライキ、労働争議等で街頭示威を組織した場合が尠んと例外なく警官を出してゐる。一九一八年の米騒動の前都市プロレタリアートの中組織され、我が歳されたものは闘争の数によつてゐる——吾々だが我々は甚で了度的に解かにする意図とはない。

三・一五事件前後をあ観察することは興味あるばかりでなく、必要なことである。革命的労働組合評議会は三・一五事件前は合法的に街頭示威を組織し得た。それはプロレタリアートの組織的力が弱かつたからであつて、評議会の活動がブルジョア合法性の範囲内に局限されてゐたからではなかつた。所が三・一五、四・一六後に於ける街頭デモは全く合法的以外のものは弾圧されたるに至つた。メーデーのデモですら警察当局の許す範囲内のみ局限される様に至り、個々のストライキ——其が右翼であると左翼であるとを問はず——の場合でも街頭デモは極端に弾圧される様になつた。殊に、此の方面に於ても日本共産党及び評議会に対する弾圧が日本の労働者階級全体に加へられた弾圧であることが実証されたのであつた。社会ファシスト・改良主義者の御用振りが益々露骨になつて来たのもプロレタリアートに対する支配階級の攻撃の現れであつた。今日では公然的に……と云ふ宣伝から、社会ファシストは完全に街頭示威そのものの廃止に努力した。メーデーのデモを廃止することの必要なのは彼等社会ファシストが大衆の圧力を恐れてゐるからである。若し日本帝国主義者が彼等よりもずつと戦争を拡大するならば、或は又拡大しなくとも持続するならば、社会ファシストはメーデーの示威すらも廃止するに至るであらう。蓋し街頭示威に於てプロレタリアートはその組織力を示し得るからである。

一九三一年は我党及び全国協議会に依つて非合法的街頭示威運動を組織したことに依つて一時期とする。二月二十五日の失業反対デー、五月一日八月一日、九月大日暴、都市に農村に亘た不充分とは云へ街頭デモが組織されたことは特に注意すべきである。然し社会民衆党ファシストと社会ファシストの妨害との中で、しかも殆んど総こそぎ組織を破壊された最後に於てこの仕事をや

つたことは日本プロレタリアート及び貧農大衆の中にある革命的エネルギーの偉大さを認めさせる。よき指導者が存在することによつて、或る所多く此エネルギーが有効に、革命的に採用されることになるのである。大衆の革命的示威の前に警察が圧倒された団恋を一時解散させるを得なかつたといふ事実は一度や二度に留らない。(我党東京部のパンフレットを見よ)。この事は、今日の情勢の下に於て街頭示威運動を組織することは些かも不可能ではなく、可能であるを証明する。我々の非合法的存在が増々強敏、敏捷的、細少部分に分たれた企業の統一的活動を要求すればする程街頭示威の組織は重要性を増して来てゐるのである。街頭示威こそ非合法組織の行ふ公然的活動舞台たらしめねばならぬ。

(2)

街頭示威運動は他方に於てプロレタリア権利の団体的訓練といふ意義を有する。合法的に公然と行はれ得た時代にあつても四人或は六人毎に警官がピッタリと組むで歩かせてゐる——と呼ばつト、革命歌を歌ひ作ら行進してゐることとに依つて団結の力強さは少なくないんだぞといふ心理が強まり其に依つて自分の力並しく言ふ一自分達は団体行動の力に頼する意識を強める—のである。この示威参加は参加者の一人一人に斗争心を植付け共同一致的精神を高めるのである。彼等は非合法下にあつてもそうである。大衆的に集合して公然とスローガンを掲げ示威を押し出し得ない——少くとも民衆的に並つては——我態にある現在では特にそうした心理的効さが強いわけである。逃げれて不逞はれても、如何なる時期に手際せずして断行として街頭デモを宣伝ふ——真こそプロレタリアートの持つ偉大さである。

其処で現在問題となるのは(1)如何にして大衆をデモへ動員するか(2)示威を如何にして有効ならしめるかである。

第一の方法は主として準備を如何にするかに掛つてゐる。誰で明らかにして置く事は、先づ第一にデモの目的——即ち何の為にデモをやるか、やらねばならぬかを大衆に理解させることである。従つてデモの前日に於つてから急にデモへ参加しろ!などと云つたり、又は職場にあつた如く面白い所へ連れて行くから来いよ!と云ふ様に騙したりする事は労働者によく解い。デモの日に来る前に当時の目的の下に是々の日にデモをやるんだから皆が参加しなければならないと云ふ空気を工場内に瀰らせねばならぬ。その為に有効な——情勢その他に依つて全協組合員分が各々会合を持たねばならぬ——集つて相談する。そして出来る丈け職や近所の工場では知人が働いてゐる工場の労働者等々へ働きかける事(積り主つけ方)。かうして出来る丈け広汎に大衆を動員する準備をしなければならぬ。出場合、デモの目的と工場の要求(へ結付けて)ばその地方債務の要求と言ふ付けて掲揚しなければならぬことは云ふまでもないそうしたヤツケは我らでも作れる。少し我々が注意深く工場内の生活を観てゐるならば、例へば仕事中にケガをしたとか、普通であるのに数理な仕事をしたとか、余計悪くなり、賃が為に仕付け給ふ様な事に賃を切られたとか、或は監督に口のきき方が悪いつてとか云ふので罰を喰つたとか等々の問題をキツカケにして工場内の要求を煽動する様にしなければならぬ。何あに物だとか印刷工で勧誘にかかるのは極ら一本格的すくすのは欲しいのだつたら当り前しい事じやないかと云ふ様な空気を——そうした空気が工場内にあるのだ——一掃し、其等を煽動の材料にして活かさねばならぬ。

説明してあるお湯の問題をとりあげることの重要性を指適してゐる。我々がやつと／＼被害に労働者自身の生活を考へあならそうした問題は山程あるのだ。嘗に山本鉄工所、山下都華工場のストライキ団員諸君は八・一デーと云ふ政治的示威運動に見事に動員されたではないか。此他の労働者諸君全部が全部共産主義者であるから政治的示威運動に参加したのではなく経済的要求を掲げたストライキがどんどん政治的意義を持つかを斗争に依つて知らしめられたからなのである。即ち工場内の生活と政治斗争の全般的問題とが巧みに結び付けられたからなのである。更に又失業労働者諸君(東京失業者)の示威行進もよく証明した。失業者の要求と云ふ問題は単なる経済的問題では無く、国家的政治的問題なのである。労働者がそのことを意識するとしないとに拘らず現実にそうなのである。失業者の生活保証、電灯代、家賃、交通費の免除等の要求は直接国家権力と対立せざる得ないのであるから、全く各々が減でき張するものは経済的要求と密接に結び付いてゐる場合の方がより容易く政治的デモを組織し得るといふのであつて、この両者が一つ一緒になければデモは組織し得ないといふのではない事と場合に依つては政治的要求のみに依つてもデモは組織し得られるのである。

政治的要求と経済的要求と結び付けると云ふことはそれぞれの要求スローガンをビラ、旗の上などで只並列すればそれでよいと云ふのではなく具体的問題に於いて大衆が充分に納得が行く様に説明してやらねばならぬ。大衆が自ら進んで参加するものを組み大衆が持つてゐるものを掲げ、大衆が喜んでゐるものを喜び、その中から全般的階級斗争の意識をさせるのである。機械的並列に依つて完全な示威とはなすなど如きはいましむべきであり、排撃すべきである。

かくて準備の仕事中に大体どれ位の人数を動員し得るかの見通しをつけもすが必要である。そして出来る限り細いても工場が工場なりが動員して……

に於ては党の一九三一年のメーデー直前に発表されてある。

そこで第三の問題に入る。即ちデモを如何にして有効ならしめるか？デモは出来る丈長く続ける事（人数が多い程よい事は前に述べた）、数ある丈け警官に吾々の同志を渡さない事が何よりも必要である。最近のデモ組織に当つては屡闘争等を濫用せよ！などといふ事が盛に宣伝されてゐるが是は全く正しい。では如何にして？

吾々のデモは必ずしも一ヶ所に長い間停止つてゐて警官と揉み合ふ様な事くする事は必要ではない。警察署の方でも集まる処へ吾々が屡集するので何処でも起きたしても数本の旗を有効にデモをやる必要がある。例へば吾々と同様に仲合は非常下にあるベルカン諸国及中国の同志達のデモのやり方は実に巧妙である。先づ吾の口々では必ずしもデモを一ヶ所の中心地点に集中しない。工場を中心としてデモをやる。又が都市の方々から行はれるのだ。そのデモが色々違つた方向から一つの目的地に向ふ様にする。だから必ずしも示威場所が前へ一地点に集つてそれから行列を作るといふのではなく、初めから場所を中心として集つてデモを宣伝すると共に方法である。警官は全部では言い。其外色々な方法があらう。中国の同志達は試一ヶ所に集まる事を決定し、そこへは五十人百人位が一隊となって突如現れる。そして『失業者万才』『打倒帝国主義！』など吾々のスローガンを叫んでデモする。そして警察隊がやって来るのを見るやおや直に解散し次の場所で集合に集つてスローガンを叫ぶ。かくの如く所謂神出鬼没の方法でデモをやる。かうすれば警官も到底少くしかも効果的に行はれるのである。吾々の方針は最少数の犠牲でではない。併しデモの場合には敵の裏をつく事が必要である。例へば九月七日に検挙者中心として以前デモを行つた場合でも一部隊を警察署附近に集中しそこに戦闘を及びき寄せつゝ、更に吾々主隊を率つて本所方面へ堂々と前進す。そのスキを狙つて田原町方面で大衆がデモを行ふといふ風にやれば可成りの効果をあげるであらう。デモの成功は参加者諸君の組織準備如何にかゝってゐて充分綿密に計画立てなければならぬ。そして一人々々の労働者が全部自ら指導者になる様な様に訓練しなければならぬ。

吾々は前頭デモの大衆の一方法を論じたにすぎぬ。共産党的警戒に関し、又デモを労働者農民団に関して略少ながら将来の多くの事柄を残して置いた。吾々は以上の如き事柄を最小限によつて闘争経験がもつと／＼街頭示威運動の革命的意義を深く理解しデモ組織に於ける闘争等の応用の問題を具体的に研究されん事を促すものである。

獄中の同志を救へ！

支配階級は吾等の同志を「殺害せんとしてる！」

吾党の闘争を検挙者に対するブルジョア裁判は全日本の注意を集めてゐる。過去ヶ年半の同獄中との連絡を断んじ続けた。全く獄中の状態に置かれ、その上に、肉体的刑罰、をくへられて居る同志達は今や全てのブルジョア等、ブルジョア裁判官を向ふへ廻して斗争してゐる。ブルジョア新聞によつて吾々名裁判長も、百種審判に乗り上げられてゐる程裁判所長の悪する司獄的裁判官もブルジョア学者の入れ智慧、カウツキーの本の丸暗記をそのまゝ吐き出してゐるにすぎぬ。同志の供述のある前には何もその人から、何もその事を云つて来てあるのを一々ノートして準備してゐるのだ。病間で裁判があるれ、不衛生極まる監房の部屋と拷問で肉体的に弱らせられ、更に外部との連絡を絶つことによつて精神的にも不具者にしようと全力を挙げてゐる支配階級の鉄の如き手かせにプロレタリアートの勝利の確信に燃えつゝ斗争してゐる吾等の指導者の行動を見よ！

ブルジョア共産党員に対する指導と可憐な斗争をやつて和田・山のある（ブル新聞の表現）べく努力してゐる。多くの参考書と、又山の如き資料と、全の自由とをふんだんに持つてゐる支配階級の攻撃に対し、吾等の指導者達にも一冊の参考書も、獄舎の時間の補給もないのだ。そこで斗争はブルジョア学者の何等恐怖的論争ではなしに、獄の独善に対する吾々の実践的斗争なのだ。而してブルジョア判官の支配者のこの試みは成功したであらうか？否！千度も否である。階級斗争によつて鍛錬され、闘争の渦中で生活せる吾等の指導者達の理論は我等の参考書の攻撃によってたゝかれるべからざるものであり、反対に、ブルジョア的裁判、社会民主主義の理論が一々反駁されてゐる。しかもそれは決党の壁を越えて日本全国の労働者農民大衆の耳にまで達してゐるのである。ブルジョア新聞は意識的に行つたデマゴーグ的宣伝や加へられる事が出来ずに何等の効果をあげ得なくなつた。

ここに於いて支配階級は吾等指導者人の公開を禁止した。かくて公開裁判し公判直前だけのものとなつた。國府高橋はドンバス事件の公判が数千人の労働者人の下で、しかもその労働者人の、成はそこに出席してゐなかつたソヴェート同盟全体の労働者農民の積極的支持と監視の下で行はれたことを述べてゐる。

プロレタリア独裁の下に於てのみ可能なことが出来るのである。ブルジョアジーは共産党の政策が益々大衆に知れ渡る事がブルジョア、地主、天皇政府の滅亡を早めるのだといふ事を知り過ぎる程知つてゐるのだ。彼等は恐怖に満ちた眼で一刻ばかりの公開裁判を行つてゐるに過ぎぬ。彼等は公開の名の下に暗黒裁判を行つてゐるのだ。公判開始より今日に至るまで全ての傍聴人は一々住所姓名を書き止められ、要視察人として、警察のブラックリストにのせられてゐる事実は一体何を物語るのか？支配階級は是程にまでしてもあせ心が出来ない程大きな不安の前に立つてゐるのだ。国民全体はあつたりブルジョアジーには裁判以外の何ものもないのや我々の今日行つてゐる同志はプロレタリアートが勝利する為に要求されある様なあるのと。如何なる迫害、逮捕、弾圧と雖もプロレタリアートの勝利的階級斗争を喰み止めることは不可能である。たとへ我々の陣営の一部に、又は大部分に大きな打撃が与へられる様なことがあらうとも、そのことは更に、新しい力、新しい熟新しい準備とを以つて新しい斗士、新しい指導者を生み出すのだ。そしてプロレタリアートの勝利に導くのだ。この信念、この警告こそ我々の指導者達が斗争してゐる基礎なのだ。

ブルジョア地主政府は今や斗争中に於ける戦術がもどかしくなつて来た。彼等のはかない望みは裏切られた。日本のブルジョア学者も、カウツキーも、ヒルファディングも、ベルンシユタインも正しいマルクス主義─レーニン主義の前には何等の効果も収めなかつた。そこで新しい方法が採用された。肉体的に、精神的に共産主義者を殺すこと──これだ。一すじに打開されたもの、獄運部で残虐極まる、南宮への投り込み、職責をやり、更に又、鳥寺数十名に依る共産主義者の撲叩きを中つたのだ。八月二十六日此党の東京朝日新聞夕刊を見よ！そこには同志鍋山、武大学の肩書共に殴叩きされ負傷して居ることが出てゐる。そして、刑務所の職員である看守長長以らく、しく次の如く述べてゐるのを見よ！『看守が殴るなんてことは想像されません。皆命指示が自分であばれて負傷して見せたのでせう…』と。

全口の同志諸君！革命的労農民諸君！この何れが一体どちらが本当だと考へるのか？同志鍋山が自分で暴傷をこしらへたなどと云ふことをどうして信じられるか？ブルジョアジーは手を叩いて喜んでゐるのだ。十月事件、地主、そして社会ファシスト共産党リアールの悪ヒロレアを電王の如ーラントやイタリーでは革命に入れられた革命家を殺害して置いて自殺として仕舞つたことが度々あつた。日本ではかの所謂村井事件がそうだと云はれてゐる。支配階級は今や、獄中にゐる共産主義者に対して直接抹殺の魔手をのばして来たのだ。我等は次に依る公判目前に、獄中で同志を虐殺させんが為にあらゆる手段をこと以前より企らみつとヒドクやり出したのである。我々は同志鍋山その他の同志に対するかゝる虐待事件村井に対して居てよいのか？若し我々が黙して居るとすれば それは日本プロレタリアートの恥辱であり日本プロレタリアート解放運動史上に一汚点を残すことを意味するであらう。

支配階級の弾圧に反対する斗争──それは我々の組織を拡大強化することゝだ。我々の組織の拡大強化あらゆる斗争を通して行はれる。今回の事件に際して我々はブルジョア地主天皇政府が如何に共産党員を文字通り殺害し様としてゐるかを労働者大衆初め労農民の前に広く説明し、工場、職場、農村を基礎として大衆的な抗議運動を捲き起さねばならぬ。社会ファシストや共産主義の裏切者達はブルジョア地主天皇政府と手に手を取つて我々に反対するであらう。又、現在反対してゐる。ただ労働者農民大衆は、労働者農民の利益を実実に代表して斗争せる人々の虐遇の為に大衆的抗議運動を組してゐる。自殺未遂事件寒村は日本共産党指導下に行はれた暴圧反対デモはかつて行はれなかつたのとブルジョア新聞中央公論の或る日号で言いてゐる（そして罪を犯罪の如く扱ったそれの取消しをしてゐない）から殆ど全部が寛畑と同一意見と思われる）が、事実は正に我等が最初の事件がウソツキである事と否証明してゐる。一九二八年三・一五以後新潟県村松に於て、千葉市に於て、最近では富山、山梨等々に於てかゝる暴圧反対のデモが組織されてゐるのだ。特に農村では警察署への襲撃が諸所に見られてゐる。（例へば警察署に押し寄せされたにもせよ）のだ。是が社会ファシストの指導下に行はれ得るとでも云ふのか？ブルジョアの手先がブルジョア権力の有力な武器たる刑務所、裁判所、警察署へ抗議のデモを呼へるといふ様に考へさせる所に当然自らとする『労農』一派の反動性が明白になつてゐる。

日本の革命的労働者農民大衆はブルジョア独裁を転覆し、プロレタリア独裁樹立に依つてのみ自分等の解放があることを知つてゐる。そしてその為に犠牲になつてゐる同志達を大衆的示威に依つて救ふといふ経験を（それは小さいとは云へども）持つてゐるのだ。我々共産主義者は共産党員及び労働組政治犯人の即時無罪釈放の為の大衆的示威運動を組織しなければならぬ。我々は共産党員に加へられる野蛮な暴圧と新帝国主義戦争との内戦を広く説明して、迫りくる戦争に対する同志達を大衆的示威に依つて取り戻すべく精力的に活動を始めねばならぬ。支配階級が既成しないならば我々は自らの組織的力に依つて我々の同志を取り返さねばならぬ。工場から農村から、獄中の同志獄非常時を決議せよ！共産党員を政治的政治犯人の即時無条件釈放の為大衆的示威運動を捲き起せ！



満洲に於ける帝国主義戦争と斗へ！

A・Z・生

所謂「中村大尉虐殺事件」「満鉄線爆破事件」をキツカケとして惹き起された今度の満洲事変に於いて、政府・陸軍当局及び一切のブルジョア新聞等が「満蒙に於ける帝口権益の擁護のため最小限の防禦である」と声明してゐるのは真赤な嘘だ。そして戦争が「支那が積極的に計画的にかゝる事変を起した」といふのもデマである。「満洲事変」は明らかに帝口主ギ戦争だ。それは日本ブルジョアジーが未曾有の経済恐慌を切り抜けるため、彼等自身の必然的没落を切り抜けるために計画的になされた積極戦争だ。それは又祖口擁ゴによつて日本の労働者農民の革命的昂揚を抑止し、同時に新鋭に躍進する中口の革命的プロレタリアートを虐殺し、ソヴエート同盟への武力干渉を直接準備する反革命的企図の下になされてゐる。

世界プロレタリアートを虐殺する帝口主義戦争は決して明日の問題ではない。それは既に満洲の地に開始されてゐる。吾々には最早や帝口主ギ戦争の危険について語ることは許されぬ。一枚のビラや檄で満洲出兵反対や戦争反対を叫んだだけでは最早駄目だ。日本プロレタリアートは何時までも欺瞞されてはゐない。吾々は日本帝口主ギの一切の陰謀を一人一人の労働者農民に暴露し、そして巧みに帝口主ギ戦争反対の革命的大衆行動を組織せねばならぬ。「戦争を内乱へ！」この問題は遠い将来の問題ではない。



鉄の火花

国際プロレタリアートの祖口を打ち立てた十月の勝利は戦争を内乱へ！のスローガンによつて、而して革命的口際主ギの英雄的斗争によつて導かれた。その十四周年記念日を迎へんとする日本のプロレタリアートは今こそこの偉大な輝く事業を学ぶであらう。

反帝口主ギ戦争の口際的大衆斗争に蹶起せよ！

ソヴエート同盟を守れ！

支那革命を守れ！

ソヴエート日本を樹立せよ！

世界プロレタリア革命万才！

天皇と坊主の攻撃を反・撃・せ・よ・！

M・Y・生

満洲占領に成功してソヴエート同盟攻撃の要害の地を獲得した天皇の軍隊はあらゆる買収をし浄の て俺達労働者農民を「愛口主義」「天皇主義」の鉄鎖の下に縛りつけ、俺達の祖口を侵害によつて搾ばせ様としてゐる。坊主は偽瞞宣伝の優れた宣伝家であり、反動の有能な組織者である。奴等のやり口は実に多種多様だ。四十八手の裏表どころではない。

その一手をこゝにバクロする。

それは天皇と坊主によつて組織された反動的愛口主義の示威だ。

十月一日天皇は日蓮宗に対して「立正」といふ下手クソな字を書いてやつた。坊主共はその支配下の寺院、檀信徒四千を動員して日比谷から坂下門、坂下門から新橋駅、それから池上本門寺へとその字をミコシにして一大デモを遂行した。軍閥と警視庁は積極的にこれを支援した。（奴等はこのデモを活動写真にして全口に宣伝するのだ！）

坊主の主脳部は明らかに宣言してゐる。「労働者や小作人が左翼化し、満蒙問題が勃発して口家外患に至る今の秋に当つて吾宗主義の宣伝は絶好の機会であり、口家に対する義務である」と。

天皇と坊主とが一体になつて俺達労働者農民に挑戦し、攻撃して来たことをこれ以上ロコツに言つたものはない。

兄弟姉妹！

天皇の政府は侵略の戦争で中口プロレタリアートに砲火をあびせてゐる。しかもその侵略の受益者は日本の労働者農民だ。俺達の兄弟をダマクラかして中口プロレタリアートを殺戮させてゐるのだ。こ



んな残忍なことがあるか。しかもこれは独り中口のプロレタリアートに対する攻撃だけではない。これは同時に我々の労働者農民に対する攻撃であり、日本のプロレタリアートに対する攻撃だ。（俺達の兄弟は既に数百名戦死したぞ！俺達の兄弟はこれからもドシドシく戦場の的にされるぞ。俺達の賃金は戦時にかこつけてもツト下げられるぞ。ストライキの自由はこれまで以上に抑へつけられるぞ。八月末以来今日まで一ヶ月のうちに東北地方、京浜地方、北海道地方等で三十名近くの革命的労働者農民が検挙された事を知つてゐるだらう！）そしてこれは同時にソヴエート同盟の兄弟に対する直接的攻撃の準備であり、中口プロレタリアートに対する攻撃だ。世界のブルジョア共はそれを知つてゐるから平素の偽瞞的平和論の手前にもかゝはらず黙つてゐるのだ。

これらの事実のバレる事は労働者農民の蹶起を意味する。だから奴等は凡ゆる手段、凡ゆる材料をつかんで俺達を「愛口主義」「天皇主義」の泥田につき込み、俺達から批判の目をふさがんである。（ブル新聞、在郷軍人及び学校配属将校等の軍事教官の活動を見よ！）この企らみに天皇と坊主とが公然と乗り出して来たのだ。俺達[illegible]べき天皇と坊主は労働者農民に「愛口主義」「天皇主義」を注入する事に努力し、より積極的に攻撃して来たのだ。

兄弟姉妹！

反帝口主義戦争の大衆斗争により、ソヴエート同盟擁護、中口革命擁護の斗争によつて天皇や坊主の帝口主ギの煽動を粉砕せよ！

工場職場に反帝口主義戦争の斗争を巻き起せ！

総理大臣の演説

X・Y・Z 生

総理大臣、民政党首領若槻礼次郎は九月十五日大阪中央公会堂で政府の施政方針に関して演説を試みた。東京日日新聞の伝へる所の演説要旨に依る以外の材料を私は持たない事を非常に残念に思ふ。（併しながら、ブルジョア新聞記者がブルジョア政府の総理大臣の演説を書いてゐるのを思へば、要点に於ては間違はなからう。）

若槻は第一に企業組織に関して言ふ。「私共の所見によれば、今日の恐慌は独り生産の増加に因る事ではなくして企業組織の整備改善を求め（即ち産業の合理化を行ひ——筆者）一面に於て海外貿易の振作を図ることにあるのであります。依て以て我が口産業の円満順調なる発達と口際的経済の機能に求めんとするにある現内閣は！……」と。一言にして言へば現在の経済危機を切り抜けるには産業の合理化をより以上強行する事——それは又一に労働者の労働強化賃銀値下、失業的解雇、時間延長等を意味する。第二に企業の集中を統制する。その為に政府は重要産業統制法を制定した。——外口市場を獲得する事——それは直ちに帝口主義戦争を意味する。何故なら地球はその六分の一をソヴエート同盟以外の六分の五は各帝口主義列強の間に分配されてしまつて居り、且つ、各口共に経済恐慌の深刻化に伴ふて、外口商品の闖入を警戒してゐるからである。軍隊の力、大砲、飛行機、毒ガス、タンクの力なしでは各帝口主義口は口民の血を流して獲得した植民地を放棄することは出来ぬからである。

総理大臣の演説として本当に全く言つてゐない。勿論言へる筈はない。頭といふ事は公開の席上で発言をすべきではなく、閣会の奥で、大臣官邸の奥まつた室でブルジョア大銀行家の広い間でこそ評論に決定するものだといふことを見て又、吾々は深く知らしめべきからぬといふことを示して失はれたのだ。だが、それにも拘らず、吾々は此の先鉄背に徹する為の綱張を以て植の示唆をつかまねばならぬ。若槻のあつたその通り一ぺんの演説でも実に、その中である。彼が二百五十万に達する失業労働者に関しては一言もふれなかつた。鉄先に遂られてゐる彼その家族に就いては少しもふさなかつた。そして職業紹介所ブルジョアジーを救ふには労働者農民を犠牲にする以外の途なしといふ一貫した思想を述べたのである。

若槻は現在日本を蔽ふてゐる経済危機の武器に関しては意味深長な事も言はなかつた。少くとも新聞紙の伝へるところでは。とは言へ、毎日の新聞は如何に日本帝口主ギの前に立つてゐる口難局が大きいかを報へてゐる。若槻礼次郎は日本の景気は口際経済状態に求めると述べたが、北洋漁場に軍艦を派遣しての暴挙、満洲への軍隊増加、武器輸送こそ実にその具体的行動なのである。だから日本口主義の円満順調な発展と口際的経済的機構に求めんとする現内閣の方針といふのは新しい帝口主ギ戦争、強盗的戦争を呼ぶことなのである。

[illegible]は粉飾の下にかくされた恐ろしい陰謀——それが若槻の演説の実体だ。



斗士養成について

○○生

赤旗（四十六号）で「斗士養成」の問題が正当に出されて以来この問題について基本的活動に従事してゐると思はれる同志から色々の意見が「赤旗の大衆化」によせられた。論ぜられたところはすべて実際の活動に根拠しており、正しいことではあるが「斗士養成」の全部にわたつて充分に述べられてゐないやうだ。吾々は中央部員がその他の同志の意見に前進して「斗士養成」の問題を補足しようと思ふ。

一、旧幹部の再教育

ロゾフスキーは云つてゐる「我々の活動的革命労働者の多数が改良主義的傳統を抱いたまゝで革命的労働組合の運動に身を投じて来たといふことから従つて斗争の前進する度に、斗争の激化毎に革命的戦術の系統的な戦術に或一部の幹部と他の一部の脱落とを惹き起す。その故に斗争の新しい様相が要求するところに応じて新しい幹部団を養成しなければならぬ」と。旧幹部の再教育といふことが斗争の発展に応じて充分強力に遂行されない限り我々は正しい生き生きした指導とその成功を確保し難いであらう。種々なる改良主義的イデオロギーの残滓、組合主ギ、合法主ギ、敗北主ギ、官僚主ギの残滓等々は斗争を通じて系統的教育活動によつて次第に、だが、必ず清算することが出来る。現在吾々の組織に於て旧幹部が新しい革命的戦術を活かす程どに全部が全部再教育されてゐるだらうか。（労働に口数労会からそのオルグの新しい戦術に於ける指導の職能を指摘して我等があつた。又、次のことは警者が労会員から聞いた話ではあるが、日電本部の或オルグはプロフインタンの決議と全く反対のことをして赤色組合の組織の拡大どころか独立化を誇張し、各職場に居る組合員によつてプロフインタンの戦術を意識する以外に組合を大衆化する方法がないことが傾せられもやうになつたといふことである。日電本部の或オルグの如きは赤色組合の革命的戦術を活かすについて全く無能力者と思はれる。無能力のまゝで指導的地位におくのは指導部の責任の両端にまでまると思ふ。）

吾々が最大の注意を以て旧幹部の再教育をも系統的にしなくてはならぬと思ふ。旧幹部の改良主ギ的イデオロギー、合法主ギ、敗北主ギ官僚主ギ、解消論（革命的戦術について）、組合主ギの些細な現れに対しても無慈悲にバクロし克服すると、斗争を通じ、同時に系統的教育活動によつてそれを果さねばならぬ。この活動なくしては斗争の不活潑と沈滞と組合主ギ的傾向とを免れ得ないであらう。

同志達が述べて来た中にはこの旧幹部の再教育といふことがあまり強調されてゐないやうであつたが、この問題は新斗士養成と同様に問題としなければならぬと思ふ。

二、新斗士の養成

この問題については同志によつてよく論ぜられてゐる。

斗争の激化し、尖化する毎に吾々は新しい斗争の形態と方法とを必要とする。斗争が高まり、大きくなるにつれて新しい弾力性ある戦術と旧戦術の意識的排撃とが要求される。その際ロゾフスキーのいつてゐるやうに幹部団の中で一部の脱落と他の一部の落伍とを惹き起すといふことが起つて来る。そして必要な幹部が取り残されないのが斗争の沈滞と指導のみでなく、大衆の後に取り残される。大衆から遊離することになる。だから、旧幹部の再教育と同時に新幹部を養成し新鮮な力を指導部に引き入れ新幹部団を再編成することが必要となり重大となる。新鮮な若々しい（新しい質的容易に出かすことの出来る）力は(1)工場の中から(2)斗争の中から、(3)組織の中から、(4)系統的教育の中から生み出すことが出来る。

ロゾフスキーは云つてゐる。「工場の中から新鮮な力を引き出すことの出来ない組織はやがて自己の化石化と組合主ギ的傾向の運命がおかれてゐる」と。

三、大衆的幹部の獲得

大衆自身をして政治的組織的経験を深め、強め、且つ高めしめ以て大衆的に斗士を獲得するやうにすることが必要だ。

そのためには吾々の新しい戦術である「大衆的活動への前進」と斗争の中からの大衆獲得と組織の民主々義的基礎とが必要である。

この方法の上に青年、婦人の斗士を養成しなくてはならぬ。これは重要で必要な問題である。或同志はオルガナイザーの性格といふことを問題としたが、オルガナイザーの性格といふことは一応問題となり正当に評価されなくてはならぬが、しかし性格は組織によつて発展し矯正される。又そうしなくてはならぬ。

四、赤旗の大衆化

赤旗は以上の活動の組織として大衆化しなくてはならぬ。又それなくして赤旗の大衆化はあり得ない。赤旗は以上の活動の助力者とならぬ時である。つまり赤旗の大衆化は以上の活動のバロメーターである。

五、教育コースの作成

革命的労働者教育コースを中央部アジプロ部から作成し、出されることが必要だと思ふ。各メンバーは個人として又班或る又集団的に組織的に教育されねばならぬと様な論だが、党の方からはそれへの模範のため特別の教育コースを作るとが必要だと思ふ。これは重要に實行して欲しいと思ふ。

六、出版活動の強化

外国に比べて見るまでもなく党及び革命的組織の出版活動は充分強力で満足すべきものだとは云へまい。

(1)反戦反軍の活動
(2)ソヴエート同盟擁護
(3)国際的革命事件
(4)国際的経験の交換
(5)国内的運動の統一化と大衆化
(6)国際的テーゼ決議決定重要報告等の大衆化

等々に関して吾々は未だに立ち遅れてゐるやうである。

出版活動によつて斗争の先鋒をつくり、初歩的なだが甚だ基礎的な斗争を起すことが出来るのだ。出版活動の意義を正当に評価、強調しなければならぬ。

中央部アジプロ部は出版活動の党的な展開と指導者等へのことが必要だ。

更に現在、工場内の一切の活動について闘争経験を大衆化することが必要だ。即ち

(1)工細の活動経験
(2)工場委員会運動
(3)ストライキ斗争
(4)工場内出版物の交換

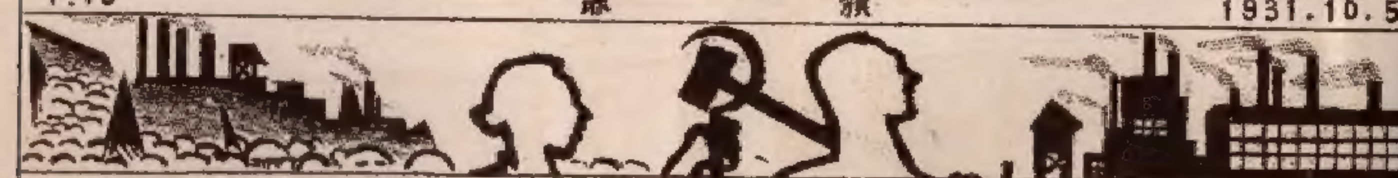
等々。

その際婦人、農村に於ける青年、青年、少年にも余り易い出版物を大衆的に出すことも必要である。

七、革命的点検

最後に斗士養成についての以上の活動は組織全体の問題であると同時に中央指導部の重大な問題である。中央指導部は常に指導の先頭に立つて問題を解決することが必要であるは勿論だと思ふ。そのために中央部自身が時宜に応じて上層から下層に至るまでの我等の革命的点検をなすことは有効だとと思ふ。

★旧幹部を再教育せよ！
★新斗士を大衆的に作れ！
★出版活動を強化せよ！
★赤旗の大衆化万才！
★指導部自身による下層機関の革命的点検万才！



同志片山の『病中感』を読む

●○生

同志片山の病中感し——従来この点者は我々の胸を強打したものはない。我等の持つ最大の先輩として、日本の、否全世界のプロレタリアートの持つ偉大なる指導者として、同志片山潜の名は常に我々の頭上に輝いてゐる。我等の尊敬、我等の信頼、そして我等の誇りの的としての同志片山潜——それは唯一つ。彼の全生涯を貫く革命的行動の賜である。

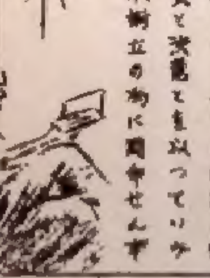
彼のなす一挙手一投足、彼の言ふ一片言一隻句に対しても、全世界のプロレタリアートは注目し、傾聴してゐるのだ。同志片山潜病篤し、我等の驚愕、悲痛さにすぐるものはない。

顧すに、我等十月号誌上を通じて、我等は彼自ら執筆した「病中の感想」に接することが出来た。病と云ふ赤旗を「人同志片山」の逆、何と云ふ職責な「先輩片山」の心境！　常に我が祖国で働く長い間の言しえか、祖国は遠く離れて自情しの戦場に立つにちがひないの——同志片山はから書いてゐる。

彼を病床に制したもの、それは嘘た白傳の執筆のみであらうか。否、我々は其処に祖国を見出すべく、あまりに大きな真情を見ぶてゐるのだ。七十余年を貫く彼の斗争の生涯、これこそが我等の偉大なる先輩を病床に倒れしめた唯一の原因なのだ。苦闘の歴、迫害の歴、七十余年、革命の生涯に彼の風貌は為に傷いたであらう。彼の双肩は為に痩せたであらう。しかも尚彼は勇躍として全世界に漲るプロレタリア革命運動の先頭に立ちながらその教訓に躍進せんとする我等日本のプロレタリアートを指導し激励しつゝあるのだ。

此時、同志片山潜の偉大なる党員に答へ、彼をしてその病床に歓喜の眼を輝かしめるもの、それは唯一つ、日本共産党の旗の下に結集する革命的労働者農民の支配階級に対する強力なる攻撃以外の何物でもない。

同志片山潜の平癒一日も早からんことを祈りつゝ我々は此處に断たる覚悟と決意とを以つてソヴエート日本樹立の為に闘争せん事を誓ふ。



1954年7月31日 第1版発行 『赤 旗』第一巻 定価 1000円
1961年10月10日 第2刷発行

編 者 アカハタ本局

発行者 田畑 弘

発行所 株式会社 三一書房
東京都千代田区神田駿河台2の9
電話東京 (201) 9581～5番
振替東京 84160番